

# 学生便覧・講義概要

Annual Bulletin  
**2022**

芸術科／専攻科

音楽専攻

演劇専攻

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

桐朋学園芸術短期大学

便 覧	
2022(令和4)年度行事予定	1
桐朋学園芸術短期大学の沿革	4
学校法人桐朋学園の機構	4
建学の精神・教育目標	5
1. 建学の精神・教育目的	5
2. 音楽専攻の教育	5
3. 演劇専攻の教育	7
4. アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）	10
I. 教育課程	11
1. 教育課程	11
2. 単位	11
3. 学修の評価	11
4. 卒業の要件	12
5. 履修登録から単位認定まで	12
6. 教育職員免許状「音楽」の取得について	19
7. 長期履修制度（芸術科音楽専攻）について	21
8. 科目等履修生について	21
9. 研究生について	21
10. 海外研修旅行について	22
11. 学生による授業評価について	23
II. 学生生活全般	24
1. 学生生活	24
2. 課外活動	27
3. 証明書・諸届	28
4. 学費	30
5. 福利厚生	30
6. 学内諸施設、機関の案内	36
7. 学園生活の安全と環境の向上のために	39
III. 卒業後の進路について	40
1. 進路相談室について	40
2. 進学・編入学について	40
3. 音楽専攻 卒業後の進路について	41
4. 演劇専攻 卒業後の進路について	41
IV. 学則・諸規則	42
桐朋学園芸術短期大学学則	42
学位規程	48
桐朋学園芸術短期大学学生懲戒規程	49
図書館利用規程（抄）	50
科目等履修生規程	51
科目等履修生（高大連携）規程	52
単位互換履修生規程	53
音楽専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）	54
演劇専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）	55
学外発表・出演, および学内演奏会関連規則	55
学費の滞納・延納の処理に関する手続について	56

桐朋演劇奨学会規程	57
桐朋音楽奨学会規程	58
桐朋学園芸術短期大学専攻科特待生規程	59
桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程	59
校舎施設の使用について	60
学校法人桐朋学園 個人情報保護方針	63
桐朋学園芸術短期大学 学生個人情報保護規程	64
桐朋学園芸術短期大学 キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程	67
演劇専攻自治会 自治会規約	68
音楽専攻学生会 学生会会則	71
音楽専攻同窓会「桐の音」 同窓会会則	73
演劇専攻同窓会 同窓会会則	75

## 概 要

2022(令和4)年度入学生	
芸術科：教育課程・卒業の要件	77
本学における中学校教諭2種免許状取得の要件	85
専攻科：教育課程・修了の要件	87
2021(令和3)年度入学生	
芸術科：教育課程・卒業の要件	113
専攻科：教育課程・修了の要件	121

短大事務分掌表	275
2022(令和4)年度 図書館スケジュール	276
仙川キャンパス校舎配置図	277
短大校舎教室配置図	278
非常時の行動要領	281
台風・大雪等の悪天候による 交通機関の乱れ, また大地震における対応	281
学園歌	282

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

## 学生便覧

芸術科／専攻科

音楽専攻  
演劇専攻

4 月					5 月				
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	金				1	日			
2	土				2	月			
3	日				3	火	憲法記念日		演劇セミナー
4	月	入学式			4	水	みどりの日		↓
5	火	ガイダンス			5	木	こどもの日		
6	水	健康診断・マナー講座			6	金			
7	木	↑前期授業開講			7	土			
8	金	履修登録期間			8	日			
9	土				9	月			
10	日				10	火			
11	月				11	水			
12	火				12	木			
13	水				13	金			
14	木				14	土			
15	金				15	日		オープンキャンパス	
16	土			新入生歓迎行事	16	月			
17	日				17	火			
18	月				18	水			
19	火				19	木			
20	水				20	金			
21	木				21	土			
22	金				22	日			
23	土			稽古場ガイダンス	23	月			
24	日				24	火			
25	月				25	水			
26	火				26	木			
27	水				27	金			
28	木				28	土			
29	金	昭和の日			29	日			
30	土		新入生歓迎行事 特別講座		30	月			
					31	火			

6 月					7 月				
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	水				1	金			
2	木				2	土		実技試験(Pf・日)	【演2】実技公開試験
3	金				3	日		実技試験(V・管・弦・Gu)	↓
4	土			オープンクラス	4	月			
5	日				5	火			
6	月			【専演】試演会A	6	水			
7	火				7	木			
8	水				8	金			
9	木				9	土		夏期講習	【専演】自主上演実習
10	金				10	日		↓	↓
11	土	オープンキャンパス			11	月			
12	日			↓	12	火			
13	月				13	水			
14	火				14	木			
15	水				15	金			
16	木				16	土			
17	金				17	日			入学志望者のためのWS
18	土				18	月	海の日		↓
19	日				19	火			
20	月				20	水		【専音】学習成果発表会	
21	火				21	木			
22	水				22	金			
23	木				23	土			個人歌唱試験
24	金				24	日			
25	土			【演1】演技発表会	25	月			
26	日				26	火			
27	月				27	水	前期授業終講		
28	火				28	木	大掃除		
29	水				29	金			
30	木				30	土			
					31	日	↑集中講義補講 試験期間 (~8/4)	定演オーディション	

8 月				9 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	月				1	木			
2	火	↑ 集中講義・補講 試験期間			2	金			
3	水				3	土			
4	木	↓			4	日	↑ 集中講義・補講 試験期間		
5	金				5	月			演劇合宿
6	土				6	火			↓
7	日				7	水			
8	月				8	木			
9	火				9	金			【演2】面接
10	水				10	土			
11	木	山の日			11	日			
12	金	↑ 学校閉鎖			12	月			【演1】面接
13	土				13	火	↓		↓
14	日				14	水			
15	月				15	木			
16	火	↓			16	金			桐朋祭(準備・前夜祭)
17	水				17	土			桐朋祭
18	木				18	日			桐朋祭
19	金				19	月	敬老の日		桐朋祭(片付け)
20	土				20	火	↑ 後期授業開講		
21	日				21	水	↑ 履修登録期間		
22	月				22	木			
23	火				23	金	通常授業日(秋分の日)		
24	水				24	土			総合型A I 入試
25	木				25	日		日本音楽演奏会	↓
26	金				26	月	↓		
27	土		オープンキャンパス		27	火			
28	日			オープンキャンパス	28	水			
29	月				29	木			
30	火				30	金			
31	水								

10 月				11 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	土	通常授業日(都民の日)			1	火			
2	日				2	水			
3	月				3	木	通常授業日(文化の日)		
4	火				4	金			
5	水				5	土	オープンキャンパス		
6	木				6	日			↓
7	金				7	月		オープンクラス	【演2】試演会S
8	土	オープンキャンパス	学内演奏会		8	火			↓
9	日				9	水			
10	月	通常授業日(スポーツの日)			10	木			
11	火				11	金			
12	水				12	土			
13	木				13	日			↓
14	金		研究生演奏会		14	月			【演2】試演会M
15	土			オープンキャンパス	15	火			↓
16	日				16	水			
17	月				17	木		定期演奏会	↓
18	火				18	金			
19	水				19	土			
20	木				20	日	創立記念日		↓
21	金		専攻科・研究生説明会		21	月			【専演】試演会B②
22	土				22	火			↓
23	日				23	水	通常授業日(勤労感謝の日)		
24	月				24	木			
25	火				25	金			
26	水				26	土			
27	木				27	日		推薦型・総合型B I 入試	↓
28	金				28	月			
29	土		総合型A I 入試	総合型A II 入試	29	火			
30	日				30	水			
31	月								【専演】試演会B①(～11/6) ↓

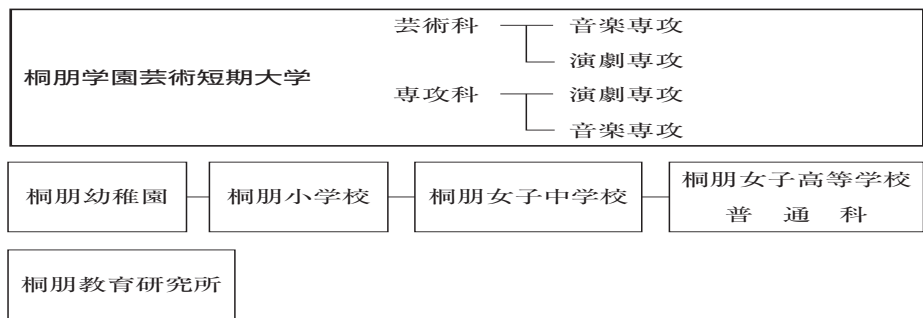
12 月				1 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	木				1	日	学校閉鎖		
2	金				2	月			
3	土			推薦型・総合型B入試	3	火			
4	日			↓	4	水			
5	月		学内演奏会		5	木	授業再開 月曜授業		
6	火				6	金			
7	水				7	土			
8	木				8	日			
9	金				9	月	成人の日		
10	土		冬期講習	【演1】演技発表会	10	火			
11	日		↓		11	水			
12	月				12	木			
13	火				13	金			
14	水				14	土			
15	木				15	日			
16	金				16	月			
17	土		総合型AⅡ入試	【専演】Ⅰ期入試	17	火			
18	日				18	水			
19	月	年内授業終了			19	木	後期授業終講		
20	火		大掃除		20	金			【専演】後期試験期間
21	水	↑補講期間			21	土		実技試験(Pf・日) 【専音】Ⅰ期入試	
22	木				22	日		実技試験(V・弦・Gu) 【専音】Ⅰ期入試	
23	金	↓			23	月			
24	土				24	火		実技試験(管) 【専音】Ⅰ期入試	
25	日				25	水			
26	月				26	木		副科実技試験(副科V)	↓
27	火				27	金		副科実技試験(副科Pf)	
28	水				28	土			個人歌唱試験
29	木	↑学校閉鎖			29	日			
30	金				30	月			【専演】修了公演
31	土	学校閉鎖 (~1/3)			31	火	(~2/2)		↓ (~2/5)

2 月				3 月					
日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻	日	曜	共 通	音楽専攻	演劇専攻
1	水	↓			1	水			
2	木				2	木			
3	金		研究生修了演奏会		3	金		桐朋祭	
4	土				4	土			
5	日		総合型AⅢ・一般A・ 総合型BⅡ入試	↓	5	日		オープンキャンパス	
6	月	↑集中講義期間	【専音】学内演奏会		6	月			
7	火		↓		7	火			
8	水		作曲発表会		8	水			↓
9	木				9	木			
10	金				10	金			
11	土	建国記念の日			11	土			
12	日				12	日			
13	月		【専音】オペラ実習	卒業公演	13	月			
14	火		↓		14	火			
15	水				15	水			
16	木				16	木	卒業・修了式		
17	金				17	金			【専演】Ⅱ期入試
18	土				18	土		総合型AⅣ・BⅢ・一般B入試 【専音】Ⅱ期入試	
19	日				19	日	オープンキャンパス		
20	月				20	月			
21	火		卒業演奏会		21	火	春分の日		
22	水				22	水			
23	木	天皇誕生日			23	木			
24	金				24	金			
25	土			一般型入試	25	土			
26	日		日本音楽・ギター演奏会	↓	26	日			
27	月			演劇研修(予定) (~3/8)	27	月			
28	火			↓	28	火			
					29	水			
					30	木			
					31	金			

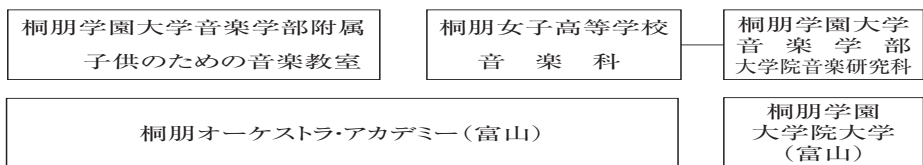
1940年	山下亀三郎氏の献金により財団法人山水育英会が設置され、本学設立の基礎がつけられた。
1941年 3月	山水育英会を母体として、本学所在地に山水高等女学校を設立する。(他に府下北多摩郡国立町168に山水中学校)
1947年 4月	終戦によって山水育英会は東京教育大学(当時は文理大・高師)に経営を移管、同大学に深い関係をもつ財団法人桐朋学園に改編される。
1948年 4月	新学制による桐朋女子高等学校(普通科)・同中学校が併置。
1951年 3月	私立学校法の施行に従って、財団は学校法人となる。
1952年 4月	高校に音楽科が付設される。
1955年 4月	短期大学音楽科ができ、一方普通科には小学校・幼稚園が設置される。
1961年 4月	音楽科に4年制大学(桐朋学園大学音楽学部)が設立される。
1964年 4月	桐朋学園大学短期大学部(文科・音楽科)が設立される。
1966年 4月	短期大学部の音楽科が廃止され、芸術科(音楽専攻・演劇専攻)として再編成される。
1968年 4月	専攻科演劇専攻が設置される。
1988年 4月	文科に日本文化・欧米文化の専攻課程を設置する。
1994年 4月	専攻科に音楽専攻、地域文化研究専攻を設置する。
2004年 4月	名称を桐朋学園芸術短期大学に変更し、芸術科に新たにステージ・クリエイト専攻を設置する。
2005年 9月	文科を廃止する。
2006年 3月	専攻科地域文化研究専攻を廃止する。
2006年 4月	専攻科にステージ・クリエイト専攻を設置する。
2014年 3月	芸術科ステージ・クリエイト専攻、専攻科ステージ・クリエイト専攻を廃止する。
2018年 4月	専攻科が独立行政法人大学評価・学位授与機構の認定を受ける。

学校法人 桐朋学園の機構

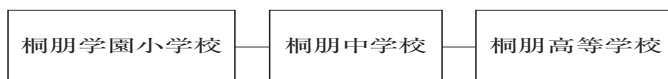
1 女子部門  
(調布市)



2 音楽部門  
(調布市・富山市)



3 男子部門  
(国立市)





## 1 建学の精神・ 教育目的

桐朋学園の教育は、高名な哲学者であり、戦後日本の教育改革の担い手であった、東京文理科大学の務台理作学長（桐朋学園女子中・高等学校長）による教育理念「一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い個性を伸長する」に基づいており、本学はこれを建学の精神と定めている。また、教育目的を「教育基本法及び学校教育法の精神に従い、芸術文化の専門的な研究と教育とに取り組み、現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成」とし、桐朋学園の特色である専門的な高等教育としての芸術教育を展開している。

## 2 音楽専攻の 教育

### 【芸術科音楽専攻】

芸術科音楽専攻は、音楽に関わる専門教育その他を通して、豊かな感性を培い、職業および人間形成に必要な能力の育成をめざしている。徹底した実技指導と、少人数クラス制のきめ細かな講義により、幅広い分野で活躍する人材を送り出すことを目標としている。

### 専門的学習成果

- (1) 専門実技、音楽理論、ソルフェージュなどの演奏表現に必要な基礎を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、演奏表現の向上に向けて多面的に考察し、判断していくことができる。(思考・判断)
- (3) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。(関心・意欲)
- (4) 自らの音楽的な知識、経験をもって社会におけるニーズに応えることができる。(態度)
- (5) 演奏家、指導者としての基礎的な演奏技術と表現能力をもち、自分の想像した表現を実現することができる。(技能・表現)

### 汎用的学習成果

- (1) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連づけて理解することができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。(関心・意欲)
- (4) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。(態度)
- (5) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。(技能・表現)

### ディプロマ・ポリシー

豊かな感性と知識を備えた音楽家になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

### カリキュラム・ポリシー

芸術科音楽専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた演奏家、指導者

の育成と研究を目的とし、音楽芸術における演奏技術、表現の基本を体得することを目的としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

(1) 楽譜を読み取る力

音楽理論、ソルフェージュ、音楽史などの基本を習得し楽譜に書かれていることを正確に読み取る力を養う。

(2) 演奏表現

個人レッスンを中心に、基礎的な演奏技術、表現力を身に付けるための実践的な力を養う。

(3) アンサンブル

古典から近代までクラシックを中心とした楽曲を学び、基礎的なアンサンブル能力を獲得する。

### アドミッション・ポリシー

(1) 専門実技、音楽理論における知識と基礎的な理解力を有する者。(知識・理解)

(2) 楽典、ソルフェージュ、和声理論などを体系的に学習し、積極的に学ぶ意欲をもっている者。(思考・判断)

(3) 音楽のみならず芸術一般に幅広い関心を持ち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)

(4) 他者と集団での創造活動をするための協調性があり、専門実技、アンサンブルなどに積極的に参加できる者。(態度)

(5) プロフェッショナルな音楽家を目指し、その技能習得に要する基礎的な演奏技術と表現能力がある者。(技能・表現)

### 【専攻科音楽専攻】

専攻科音楽専攻は、学科の教育課程の上にならって、専門領域を体系的・系統的に学び、現在の高度化した音楽界の実情に対応できる知識と技術を獲得することを目的とする。

演奏家、指導者を育成するとともに、音楽療法、アウトリーチの実践を通し、社会において教育、福祉等様々な分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。

### 学習成果

(1) 音楽を中心とした芸術全般の知識、音楽理論、歴史などを体系的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための音楽的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。(知識・理解)

(2) 時代に即した演奏表現を獲得するとともに、同時代から求められている最先端の演奏表現などを取り入れることができる。(思考・判断)

(3) 同時代における最先端の演奏表現、創造行為の動向に関心を払い、自らもそれに参入することができる。(関心・意欲)

(4) 他者との協働に積極的に関わり、自らの音楽経験、知識を持って教育、福祉、文化活動など、社会的なニーズに応えると同時に、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。(態度)

(5) 演奏家、指導者としての確かな演奏技術と表現力をもち、音楽による表現、創造活動の意義を社会に伝えることができる。(技能・表現)

### 3 演劇専攻の教育

#### ディプロマ・ポリシー

実践力・応用力を備え、広く音楽分野で活躍できる人材になるため、専攻科の教育課程の学修を通して科目の単位を修得し、専攻の定める修了の要件を満たした者に修了証書を授与する。

#### カリキュラム・ポリシー

専攻科は、芸術科音楽専攻の2年間の教育課程の上にならって、演奏家、指導者を育成するとともに、音楽療法、アウトリーチの実践を通し、社会において教育、福祉等様々な分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。そのため以下の三項目を軸として2年間の専攻課程を組んで具体化していく。

##### (1) 音楽の理論と歴史

音楽を中心とした芸術の理論と歴史を発展的に学び、楽曲に込められた意味を体系的に分析する能力、また作曲された時代の歴史的背景を読み取り演奏に活かす力を養う。

##### (2) 演奏表現

個人レッスンを中心に、時代に即した演奏表現、技術力を身につける。

##### (3) アンサンブル

ジャンルにとらわれない多種多様なコラボレーションに柔軟に応じることができる能力を獲得する。

#### アドミッション・ポリシー

- (1) 専門実技、音楽理論における基礎的な知識と理解力があり、さらにそれを発展させようという意欲をもつ者。(知識・理解)
- (2) 演奏表現、音楽史などを多面的に考察し、積極的に学ぶ意欲をもつ者。(思考・判断)
- (3) 芸術のみならず社会の諸事情に関心を有し、音楽を通して社会に参加し、貢献する意欲をもつ者。(関心・意欲)
- (4) 専門実技、アンサンブルなどを通し他者と積極的に関わり、その中でも主体性をもって意欲的に学ぶ態度を有する者。(態度)
- (5) プロフェッショナルな演奏家、指導者を目指し、その技能習得に要する理解力と表現力を有する者。(技能・表現)

#### 【芸術科演劇専攻】

芸術科演劇専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、演劇芸術における表現の基本を体得することを目標としている。

#### 専門的学習成果

- (1) 演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。(知識・理解)
- (2) 演劇、歌唱、舞踊等の表現手段を用いて、他者とともに課題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。(関心・意欲)

- (4) 集団の中で協働の役割をはたすことができ、演劇的な技術、知識をもって地域社会および国際社会のニーズに応えることができる。(態度)
- (5) 俳優、表現者としての基礎的な技能をもち、自分の想像した表現を実現することができる。(技能・表現)

#### 汎用的学習成果

- (1) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連づけて理解することができる。(知識・理解)
- (2) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。(思考・判断)
- (3) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。(関心・意欲)
- (4) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。(態度)
- (5) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。(技能・表現)

#### ディプロマ・ポリシー

幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優になるため、学科の教育課程（教養科目および専攻科目）の学修を通して専門的学習成果および汎用的学習成果を獲得し、専攻の定める卒業の要件を満たした者に学位を授与する。

#### カリキュラム・ポリシー

芸術科演劇専攻は、幅広い教養と高度な専門性を兼ね備えた専門俳優の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現の基本を体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の教育課程を組み、具体化していく。

- (1) 戯曲を読み解く力  
戯曲の読解力を養い、言葉を演劇作品にしていくための想像力を培う。
- (2) 身体訓練  
声も含めた身体訓練を通して、自分の想像した表現を実現する力を身につける。
- (3) アンサンブル  
アンサンブルに必要な優れたコミュニケーション能力と協働の精神を養う。

#### アドミッション・ポリシー

- (1) 専門俳優または表現者に必要な日本語の読解力がある者。(知識・理解)
- (2) 習得した知識・技能を活用し、課題に取り組むことができる者。(思考・判断)
- (3) 演劇のみならず芸術一般に幅広い関心をもち、入学後の勉学について明確な志向と熱意を有する者。(関心・意欲)
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力と協調性があり、集団での創造活動に積極的に参加できる者。(態度)
- (5) 専門俳優または表現者（ミュージカル俳優、声優、ダンサー、パフォーマー等）を目指し、その技能習得に要する基礎的な身体能力と表現力を有する者。(技能・表現)

### 【専攻科演劇専攻】

専攻科演劇専攻は、学科の教育課程の上にならって、専門領域を体系的・系統的に学び、現在の多様化した演劇界の実情に対応できる知識と技術を獲得することを目的とする。

俳優、表現者を育成するとともに、国際交流や地域連携の活動を通し、広く演劇分野で活躍し得る有為な人材を育成することを目標としている。

#### 学習成果

- (1) 演劇を中心とした舞台芸術の理論、歴史などを発展的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための演劇的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。  
(知識・理解)
- (2) 自ら設定した課題を、理論や歴史を元に、演技、歌唱、舞踊、パフォーマンスなどの表現手段を用いて、他者との関わりを深めながら解決していくことができる。(思考・判断)
- (3) 社会における演劇、ひいては芸術の存在意義を考え、自らの表現活動を積極的に実践することができる。(関心・意欲)
- (4) 集団のなかで協働性を持ち、進んでリーダーシップをとり、地域社会および国際社会のニーズに応じて、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。(態度)
- (5) 専門俳優、表現者としての確かな技能と表現力を持ち、演劇を中心とした舞台芸術の意義を社会に伝えることができる。(技能・表現)

#### ディプロマ・ポリシー

実践力・応用力を備え、広く演劇分野で活躍できる人材になるため、専攻科の教育課程の学修を通して科目の単位を修得し、専攻の定める修了の要件を満たした者に修了証書を授与する。

#### カリキュラム・ポリシー

専攻科演劇専攻は、芸術科演劇専攻の2年間の教育課程の上にならって、幅広い教養とより高度な専門性を兼ね備えた専門俳優および表現者の育成と研究を目的とし、舞台芸術における表現を発展的に体得することを目標としている。そのため、以下の三項目を軸として2年間の専攻課程を組んで具体化していく。

##### (1) 舞台芸術の理論と歴史

演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を発展的に学び、広い視野にならって表現活動を行う力をつける。

##### (2) 劇作・演出・演劇教育

劇作、演出、演劇教育の理論を実践的に学び、舞台を構成する力を養う。

##### (3) 演技・実技

さまざまな演技メソッドと実技を体得し、それを舞台上の表現に発展させる力を養う。

#### アドミッション・ポリシー

- (1) 専門俳優または表現者としての基礎的な知識と経験を有しており、さらにそれを発展させる意欲をもつ者。(知識・理解)
- (2) 身体能力と知的好奇心を有し、自らの課題に取り組み、表現の創造に熱意をもつ者。(思考・判断)



- (3) 芸術のみならず社会の諸事情に関心を有し、演劇を通して社会に参加し、貢献する意欲をもつ者。(関心・意欲)
- (4) 集団における創作能力があり、協調性と同時に独創性を有する者。(態度)
- (5) 専門俳優または舞台芸術の表現者(劇作家、演出家、ミュージカル俳優、指導者等)を目指し、その技能習得に必要な理解力と表現力を有する者。(技能・表現)

#### 4 アセスメント・ポリシー (学習成果の評価の方針)

桐朋学園芸術短期大学では、学習成果のアセスメント(査定)を「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」「カリキュラム・ポリシー(教育課程編成の方針)」「アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)」に基づき、機関レベル(全学レベル)、教育課程レベル(専攻レベル)、科目レベルの三段階で実施する。

##### 【検証の方法】

	APに基づく検証	CPに基づく検証	DPIに基づく検証
機関レベル (全学)	各種入学試験 調査書の記載内容 入学前学習(課題) 取組状況 短期大学生調査	GPA 休学率・退学率 自己評価アンケート 学生生活満足度調査 学生会・自治会活動状況 桐朋祭参加率 地域貢献活動状況 国際交流活動状況 短期大学生調査	学位授与率 GPA 取得単位数 進路決定率 卒業生アンケート 進路先アンケート 短期大学生調査
教育課程レベル (専攻)	各種入学試験 調査書の記載内容 入学前学習(課題) 取組状況 高校教員アンケート	GPA 取得単位数 授業評価アンケート 【音楽専攻】 演奏会アンケート 【演劇専攻】 劇上演実習アンケート	学位授与率 GPA 取得単位数 進路決定率 卒業生アンケート 進路先アンケート
科目レベル		成績評価 授業評価アンケート 【音楽専攻】 特別演習アンケート 実技試験フィードバック 【演劇専攻】 実技公開試験アンケート 演技発表会アンケート 試演会アンケート	【音楽専攻】 第一実技卒業試験 卒業演奏会アンケート 【演劇専攻】 卒業公演アンケート

## 1 教育課程

教育課程とは、本学の教育目標を達成するために、その教育内容を、必要単位数の設定および学修時期の適切な配置もふくめ、系統的にまとめたものである。

本学の教育課程は、教養科目と専攻科目によって構成されている。

教養科目は、各専攻の枠を越え、共通して必要となる基礎的知識や語学の習得を目的とした科目であり、3つの区分（キャリア教育、一般教養、語学）から成る。専攻科目は音楽、演劇各専攻の理念目的達成のために開講する専攻独自の科目である。それぞれの現場に直結した実践的な教育内容になっており、専門的内容をより深く学ぶことができる。

## 2 単位

- (1) 授業科目を通年または前・後期履修し、その試験等に合格した者には所定の単位を与える。
- (2) 1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、そのうち大学における授業時間数は、学則第33条に、講義・演習・実習・実技等について各々定められている。
- (3) 各授業科目の単位数は、『講義概要 別表』に記されている。
- (4) 各学期の履修登録単位数は半期20単位を上限とする（CAP制と呼ぶ、長期履修者は半期13単位を上限とする）。

## 3 学修の評価

- (1) 受験資格  
出席が授業時数の3分の2に満たない場合および授業料を期限までに納入しない場合は、原則として受験資格を失う。
- (2) 成績の認定基準  
成績は100点を最高とし、50点以上を認定、50点未満を不認定とする。また、試験を無断で欠席した場合は不認定とする。

## (3) 評価の基準

学科成績	評 価
100 — 90	S
89 — 80	A
79 — 60	B
59 — 50	C
50未満	D

## (4) GPA (Grade Point Average) について

本学では、GPA制度を学修指導等に活用する。学生が自らの学業成績の状況を的確に把握し、それに基づいて適切に履修計画を立て、主体的に学修を進めていくことを目的としている。

GPAはそれぞれの評価にGP(Grade Point)を与え、学生個々の履修科目のGPにその科目の単位数を乗じ、その合計を履修登録科目の総単位数で除することによって算出する。ただし、既修得単位・単位互換履修科目等の認定科目、教職に関する専門科目は算出の対象とならない。

GPA=(履修科目のGP×当該科目の単位数)の合計÷履修科目単位数の合計

評価	GP
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0

(5) 履修登録単位数の上限の緩和

GPAに基づき、優れた成績を修めた者については、履修登録単位の上限を一定数引き上げる。

(6) 2019年度入学生より卒業判定の基準にGPAを用いる。

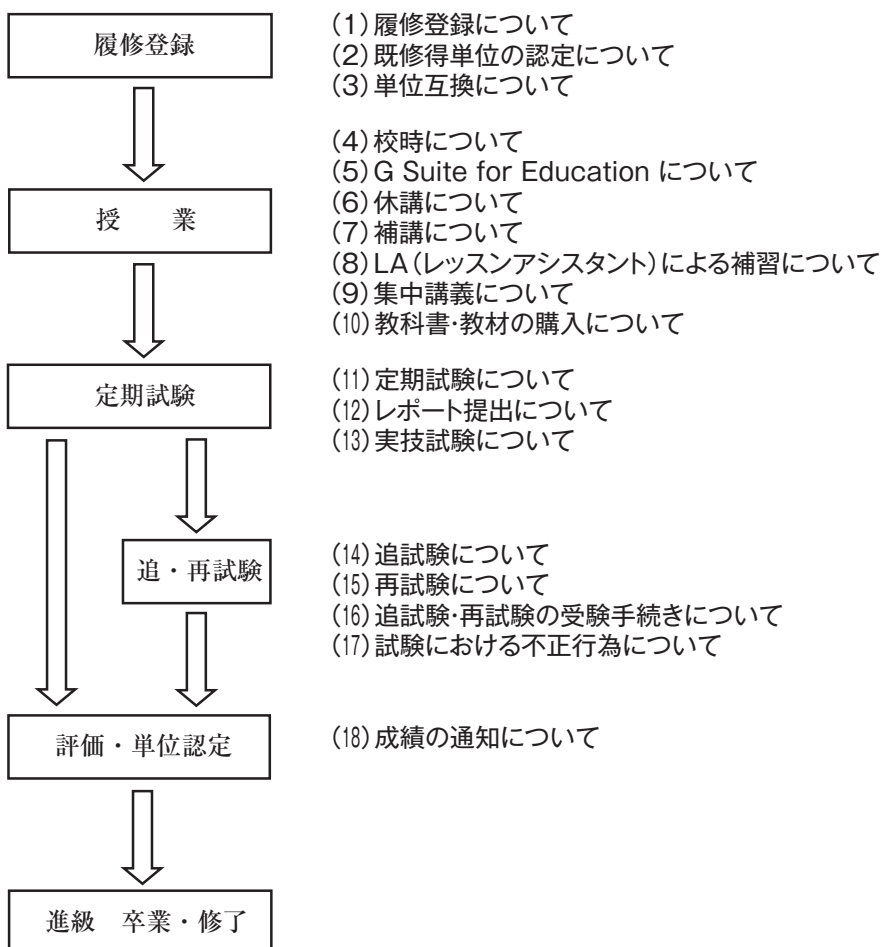
基準はGPA1.0以上とする。

## 4 卒業の要件

(1) 本学を卒業するためには、2年以上在学し、学則第36条に定めるように62単位以上を修得しなければならない。

(2) 本学を卒業するための最低修得単位数は、音楽専攻62単位、演劇専攻62単位であるが、履修条件は専攻によって異なる。(['講義概要']別表4「卒業の要件」参照)。

## 5 履修登録から単位認定まで





### (1) 履修登録について

- ①履修登録はWebフォームにて行う。アクセス用URLは各学期始めに配布・掲示をする。

学籍番号 (半角数字7桁) ※出席番号ではありません！\*

回答を入力

氏名\*

回答を入力

専攻・学年を選択してください\*

選択

次へ

- ②URLにアクセスし、最初の画面で学籍番号、氏名を入力し専攻学年を選択すること。選択した専攻学年によって選択できる科目が異なるため、専攻学年の選択間違いに注意すること。
- ③Webフォームにて登録後、科目の追加、取消および変更は、別に設ける訂正期間内に手続きをすること。期間外の訂正は原則として認めない。また指定期日までに登録しなかった学生は受講資格が取り消される場合がある。登録までの期間が短いので、ガイダンスには必ず出席し、『講義概要』を参考に早めに履修計画を立てること。
- ④履修の上限は各学期20単位を基準として登録すること。(ただし集中講義および教職科目はのぞく)

⑤音楽専攻実技レッスン時間登録票について

音楽専攻の実技レッスンは、担当教員と個別に時間を設定するので前述の履修登録方法とは異なり、レッスン時間決定後、所定の用紙に記入をし、担当教員の確認印をもらい、4月の開講後2週間以内に教学課へ提出すること。

音楽専攻実技レッスン時間登録票

音楽1年 1番 桐 朋子	
第一実技	<b>主科実技名</b> 曜日 時 分～ 時 分 ( 時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>
第二実技	※履修する実技を○で囲むこと ピアノ 管楽器 (フルート クラリネット オーボエ ファゴット サクソフォン ホルン 声楽 トランペット トロンボーン ) ギター 弦楽器 (ヴァイオリン ヲイオラ チェロ コントラバス ) 日本音楽 ( 箏 三味線 琵琶 尺八 笛 囃子 ) <b>作曲</b> 曜日 時 分～ 時 分 ( 時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>
副科実技	※履修する実技を○で囲むこと ピアノ 管楽器 (フルート クラリネット オーボエ ファゴット サクソフォン ホルン 声楽 トランペット トロンボーン ) ギター 弦楽器 (ヴァイオリン ヲイオラ チェロ コントラバス ) 日本音楽 ( 箏 三味線 琵琶 尺八 笛 囃子 ) 曜日 時 分～ 時 分 ( 時限) 担当教員名 _____ 確認印 <input type="checkbox"/>

上記票中の第二実技、副科実技で履修する実技を○で囲むこと、( 時限)の欄にはレッスン時間が含まれる時限(「(4)校時について」参照)を記入すること。

なお第二実技の履修を希望する場合は上記時間登録票のほかに第二実技履修申込書を提出し、履修料を別途納入すること。

⑥演劇専攻の歌唱(個人レッスン)は、担当教員と個別に時間を設定するので前述の履修登録方法とは異なる。

所定の受講希望票に記入し、前期・後期の開講後1週間以内に演劇研究室へ提出すること。また、上記受講希望票のほかに教学課に履修申込書を提出し、履修料を別途納入すること。

(2) 既修得単位の認定について

既修得単位とは、本学に入学する前に他の短大又は大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)をいう。これら入学前の既修得単位について、本学における授業科目の履修により修得したものとしてみなすことを既修得単位の認定という。(短期大学設置基準第16条)

本学では、学科、各専攻ごとに既修得単位の限度を決めている。

芸術科の内訳は以下のとおりとする。

【音楽専攻】14単位 【演劇専攻】12単位

(いずれも専攻科目を除く)

専攻科の内訳は以下のとおりとする。

【音楽専攻】科目区分：作曲・理論・音楽史，音楽教育の中から10単位まで

【演劇専攻】劇上演実習を除く10単位まで

既修得単位の認定を希望する学生は，教学課にある所定の用紙に記入し，在籍した大学等の単位修得証明書あるいは成績証明書を添えて4月の開講後1週間以内に提出すること。なお，この認定は1年次のみである。

※注 音楽専攻・専攻教養科目の，「音楽基礎演習－バロックダンス」「音楽理論基礎」は認定の対象とならない。

### (3) 単位互換について

本学は，桐朋学園大学音楽学部と単位互換の制度を有している。音楽学部が開放している授業科目の履修に便宜を図り，一定の条件の下で，その授業科目の履修による取得単位を，本学における修得単位と同等に取り扱うことを行っている。科目や履修については別途連絡する。

なお，当単位もCAP制の対象となる。

### (4) 校時について

本学の校時は年間を通して次のとおりである。

第Ⅰ時限 8:40～10:10

第Ⅱ時限 10:20～11:50

第Ⅲ時限 12:40～14:10

第Ⅳ時限 14:20～15:50

第Ⅴ時限 16:00～17:30

### (5) G Suite for Education について

本学では授業運営に活用できるツールのひとつとして，Google社のG Suite for Educationを導入している。Google Classroomを始め，Gmail，Google Meet，GoogleドキュメントなどのGoogleサービスや教育機関向けツールを利用することができる。また，授業のレポート提出，履修登録やアンケート等でも使用するため，漏れのないようこまめに確認をすること。なお，アカウント・パスワードを第三者に教えることは固く禁ず。

### (6) 休講について

学校行事や授業担当者のやむを得ない事情により授業が行えない場合は掲示および本学ホームページで連絡する。

### (7) 補講について

休講などによる，授業の未消化や授業時間数の不足を補うために前期，後期のそれぞれ決められた期間内に授業を行う場合がある。

補講を行う科目，期間内の日程などについてはそれぞれの期間の2週間前までに掲示で連絡する。

### (8) LA（レッスンアシスタント）による補習について

授業内容のさらなる充実・質の向上のため，LAによる補習を実施する。

今年度のLA補習対象科目は下記のとおり。

- ジャズダンスA
- ジャズダンスB
- ジャズダンスC
- ミュージカルトレーニング

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。LA補習はLAが指導、監督するのでその指示に従うこと。なお、LA補習への参加状況・受講態度も成績評価の材料となる。

#### (9) 集中講義について

授業科目によっては通常の週1回という形をとらずに前期、後期の決められた期間内に集中して授業を行うものがある。（『講義概要』参照）

期間内の日程などはそれぞれの期間の2週間前までに掲示で連絡する。

#### (10) 教科書・教材の購入について

##### ①教科書の購入

『講義概要』に使用する教科書名が記載されている。購入については、研究室で購入できる場合と、指定書店において、学生が各自購入する場合とがある。購入についての指示は掲示をするので注意すること。

##### ②演劇専攻で使用する袴、扇等の購入

演劇専攻の学生は授業料と一緒に教材費を納入しているため、袴、狂言扇、日舞扇、メイク道具一式、舞台製作の道具類等は本学で一斉に購入をしている。袴は「狂言」の授業時間に採寸し仕立てもらう。

#### (11) 定期試験について

定期試験は、原則として、前期・後期とも行事予定表に示された試験期間中に、通常授業と同じ時間帯（コマ）で実施する。

試験の有無、方法等については、試験期間の2週間前までに掲示発表するので、必ず確認すること。

なお、追試験・再試験については後述（14）、（15）を参照のこと。

不正行為が認められた場合は、厳正に対処し、懲戒を行うことがある。

#### (12) レポート提出について

筆記試験に替えて、レポート提出を課す科目については次のとおりとする。

##### ①授業期間中に担当教員へ提出する場合

教員の指示した様式に従い、決められた期日に提出すること。

##### ②指定期日に教学課へ提出する場合

教員に指示された用紙を使用する。必要事項を記入した「レポート提出票」を上につけ、ホチキスで綴じて提出する。（「レポート提出票」は教学課に用意してある。ホチキスは縦書きの場合、原則として右側を2ヶ所、横書きは上部を2ヶ所で留めること。）

提出の際、レポートと引換えに、教学課受領印を押した「レポート提出票（本人控）」が手渡されるので各自保管すること。

剽窃（他人の文章を盗用すること）が認められた場合は、厳正に対処し、懲戒を行うことがある。

郵送や宅配便での提出は、教員あて教学課あてを問わず一切認めない。また、提出期限に遅れた学生については、担当教員の了解を得られた場合のみ、追試験手続きの上、提出を認める場合がある。

提出されたレポートは原則として返還しないので必要があればコピーをしておくこと。

#### (13) 実技試験について

音楽専攻の実技試験については、試験期間とは別の日程（『行事予定表』参照）で実施する。詳細については適宜掲示で指示する。なお試験に先立って「レッスン受講票」の提出を求めるが、指定期間内に提出しなかった学生は追試験扱いとする。また、同受講票を紛失し、再発行する場合は2,000円を徴収する。

演劇専攻の実技試験は、特に指定のない限り試験期間中の通常のコマで行う。

歌唱の個人レッスンの試験は、試験期間とは別の日程で実施することがある。詳細については適宜掲示で指示する。

なお、歌唱の個人レッスンについては、試験に先立って「レッスン受講票」の提出を求めるが、指定期間内に提出しなかった学生は追試験扱いとする。

また、「レッスン受講票」に改ざんが認められた場合は、懲戒等厳正な対処を行う。

#### (14) 追試験について

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けられなかったり、レポートを提出できなかった場合は担当教員が許可した場合について追試験を受けることができる。その日時は教員が指定する。学生からの日時変更希望は一切受け付けない。

#### (15) 再試験について

定期試験の結果不認定となった科目について、担当教員の許可した場合のみ、再度試験を行う。

再試験での認定の評価は「C」とする。

#### (16) 追試験・再試験の受験手続きについて

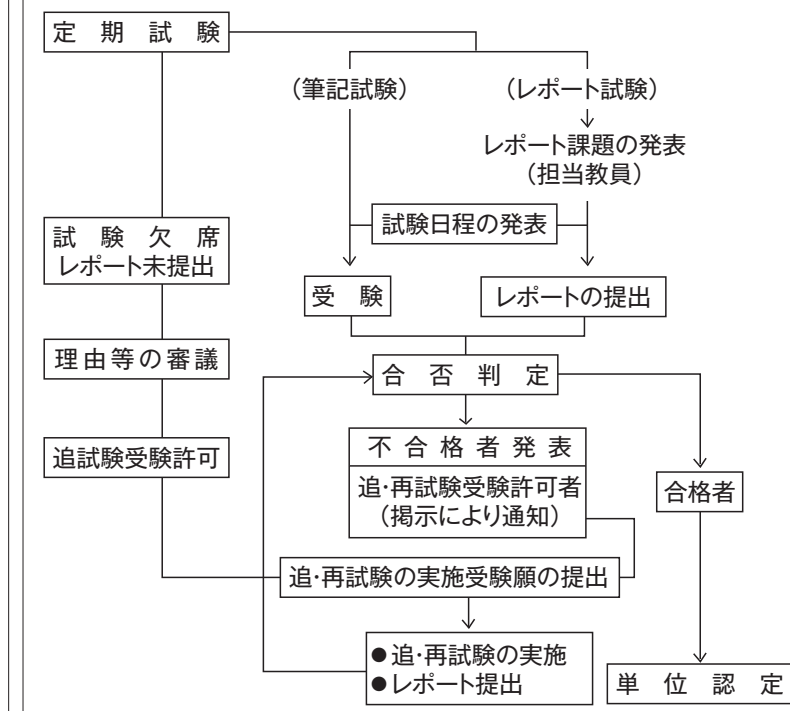
教学課で「追・再試験願」と「受験手数料の納入用紙」を受け取り、必要事項を記入し、追試験・再試験手数料（1科目2,000円）を納入する。

#### (17) 試験における不正行為について

試験で不正行為が認められた場合、当該学期の当該科目の単位は不認定とする。また、学生の本分に反する行為として懲戒等厳正な対処を行うものとする。

### (18) 成績の通知について

前期成績表は後期開講時に教学課で配付する（ただし9月に行われる集中講義の成績は除く）。1年終了時の成績表は2年次前期開講時に、卒業・修了時の成績表は卒業・修了式に配付する。



## 6 教育職員免許状 「音楽」の取得 について

- (1) 音楽専攻では、一定の条件のもとに教科に関する科目および教職に関する科目等を履修して必要単位を修得することにより中学校教諭二種免許状（音楽）を取得することができる。
- (2) 免許状の取得を希望する者は、卒業要件を充たした上で、教職に関する科目28単位以上、教科に関する科目24単位以上、および専攻教養科目を修得しなければならない。これは、「教育職員免許法施行規則」に定める基礎資格および授業科目・単位数に基づいて本学が定めたものである。（『講義概要』別表5参照）

〈参考〉「教育職員免許法施行規則」に定める基礎資格および教科に関する科目と最低修得単位数、教職に関する科目と最低修得単位数は次の通りである。

### A. 基礎資格

大学に2年以上在学し、62単位以上を修得すること（本学所定の課程を修了していること）。

### B. 教科に関する科目（音楽）及び最低修得単位数

• ソルフエージュ	1 単位
• 声 楽（合唱及び日本の伝統的歌唱を含む）	1 単位
• 器 楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む）	1 単位
• 指揮法	1 単位
• 音楽理論・作曲法（編曲法を含む）及び音楽史 （日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	1 単位
	計10単位以上

### C. 教職に関する科目及び最低修得単位数

• 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）	2 単位
• 教育の基礎的理解に関する科目	9 単位
• 道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 単位
• 情報通信技術を活用した教育の理念及び方法	2 単位
• 教職実践演習	2 単位
• 教育実習（事前および事後の指導）	5 単位
• 教育実習	5 単位
	計28単位

- (3) 免許状を取得するには、1年次より2年次にかけて履修する「教育実習」をはじめ、集中講義による履修等の学習の負担が大きく、また、費用もかかるので、安易な気持ちでの教職課程の履修はすすめられない。下記の(6)「教育実習Ⅱ履修の条件について」(7)「教育実習Ⅱにかかわる出欠の取扱いについて」および(9)「受講料について」の項をよく読むこと。
- (4) 免許状は、本学在学中に、必要な資格・要件を充たした者について、所轄官庁に申請して取得することとなる。申請にかかわる事務は大学が一括して行うので連絡や指示をきちんと守ること。
- (5) 本学における中学校教諭2種免許状取得の要件は『講義概要別表7』のとおりである。



(6) 「教育実習Ⅱ」履修の条件について

「教育実習Ⅱ」を履修することのできる者は、次のとおりである。

- ①将来、教職に就くことに、確固とした意志がある者。
- ②第1年次に開設されている教職に関する科目・教科に関する科目の単位を修得した者。
- ③「音楽科教育法」の評価がB以上の者。なお、「第二実技（ピアノ）」「副科実技（ピアノ）」の評価がC以下の者は、教職委員会において不適格とする場合がある。
- ④当該年度中に、当該免許取得の要件の全てを充足し得る見込みのある者。
- ⑤教育実習に関するガイダンス・「教育実習Ⅰ」（事前指導）の全てに怠りなく出席した者。
- ⑥本学の指示する諸規則及び実習校・当該教育委員会の定める諸規定に違反した者、学業成績および修学態度等が著しく悪い者、介護等体験において教職履修の適格性欠如と判断される者については、教職委員会において不適格とする場合がある。
- ⑦教育実習に関する諸連絡、諸手続き等を定められた期間内に行わず、再度にわたり注意を受けた場合も、教職委員会において不適格とする場合がある。

(7) 「教育実習Ⅱ」にかかわる出欠の取扱いについて

「教育実習Ⅱ」にかかわる出欠の取扱いは、次の場合に限り公認欠課とする。

- ①指定された教育実習期間。
- ②実習校及び当該教育委員会より事前に招集を受けた日。
- ③健康診断について、日時、場所などが指定された場合。
- ④実習校が遠隔の場合は、教育実習期間の前後1日に限り、期間に加えることができる。

〔公認欠課の手続き〕

教学課において、所定の願書に必要事項を記入して受付印を受けた後、当該授業科目担当教員に提出する。

(8) 介護等体験について

小学校及び中学校教諭の普通免許状の取得要件として「介護等体験」が義務づけられている。

介護等体験とは、18歳に達した後、7日間を下らない範囲内において盲学校、聾学校もしくは特別支援学校または社会福祉施設その他の施設において行う介護等の体験実習を指す。

なお、介護等体験期間にかかわる出欠の取扱いは公認欠課とする。手続きは前項の「教育実習Ⅱ」に準ずる。

(9) 受講料について

教職に関する科目を受講しようとする者は、受講願を教学課に提出し、受講料を納入すること。

また、介護等体験のうち、社会福祉施設での体験については実費を徴収する。(2021年度、東京都の施設の場合1日あたり2,090円、神奈川県の場合1日あたり2,057円、埼玉県の場合1日あたり1,600円、千葉県の場合1日あたり1,500円)



教科	音楽
教職に関する科目受講料	80,000円
介護等体験	10,450円 (東京都)
	10,285円 (神奈川県)
	8,000円 (埼玉県)
	7,500円 (千葉県)
教育実習を除いた科目受講料	45,000円

2022年度の介護体験費用については改定される場合がある。

- (10) 教職課程受講者は、副科実技2科目を100,000円で受講できる。

## 7 長期履修制度 (芸術科音楽専攻)について

- (1) 長期履修制度とは芸術科音楽専攻の修業期間を3年間に延長して、2年間分の学費(一部別途徴収)で、計画的に学ぶことができる制度のことをいう。

専攻	標準 修業年限	長期履修制度	
		修業年限	在学年限
芸術科音楽専攻	2年	3年	4年

- (2) 対象者 入学時満22歳以上の者。
- (3) 申込手順
- ①入学後、「長期履修ガイダンス」に出席し、指定する期日までに「長期履修申込書」を提出すること。
  - ②担当教員のアドバイスを受けながら長期履修計画を作成し、履修登録を行う。
- (4) その他
- ①第一実技(主科実技)は、3年間レッスンを行うこととする。卒業試験は3年目修了時とする。なお、3年目の第一実技履修料は別途徴収する。また、副科実技・第二実技についても、3年間での選択のしかたによって、追加履修料がかかることがある。
  - ②原則として、在学中の修業年数の短縮・延長は認めない。
  - ③中学校教諭二種免許状(音楽)を取得することが可能である。
- ※教職課程には3～4週間の教育実習や、7日間の介護等体験が必要であるが、これらについては通常の修業期間で学ぶ他の学生と同様の扱いとなる。
- ※教育実習ⅠⅡについては、後半の2年間で行うことを条件とする。

## 8 科目等履修生 について

- (1) 科目等履修生とは、本学の学生以外の者で1つまたは複数の授業科目を履修する者のことをいう。(短期大学設置基準第17条)
- (2) 科目等履修生として本学の授業科目の履修を希望する者がある時は、学則第51条に基づき認められることがある。
- (3) 履修できる授業科目については、募集要項と一緒に配付する。
- (4) 詳しくは、P.52「科目等履修生規程」を参照すること。

## 9 研究生に ついて

- (1) 研究生とは、本学専攻科音楽専攻及び専攻科演劇専攻を修了した者で、さらに専修実技等の授業科目を履修する者のことをいう。本学では科目等履修生に準ずる。
- (2) 詳しくは、P.54以降の「音楽専攻研究生規程」及び「演劇専攻研究生規程」を参照すること。

## 10 海外研修旅行 について

### (1) 音楽専攻

1999年度より始まった音楽専攻の海外研修旅行は、今年で24年目を迎える。この研修旅行は欧米の音楽大学等での実技レッスン研修を中心に据えたプログラムから成っている。

これまでに実施した研修機関は、米国ボストン大学芸術学部音楽科、英国トリニティ音楽大学（ロンドン）、ドイツ国立フライブルク音楽大学、リューベック音楽大学、デトモルト音楽大学、ベルギー王立メッヘレン・カリヨン専門学校、ポーランド国立ショパン音楽アカデミー、そしてハンガリー国立リスト音楽院、ケチケメート・コダーイ音楽教育研究所、オーブダ民俗音楽学校である。以下は年度別の訪問国および研修機関等の一覧である。

実績年度	訪問国	研修機関	研修分野
1999年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/声楽
2000年度	ドイツ/フランス	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/声楽
2001年度	ハンガリー/ オーストリア	国立リスト音楽アカデミー	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽
		国立コダーイ音楽教育研究所	コダーイ音楽教育システム入門
2002年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽
	アメリカ	ボストン大学芸術学部音楽科	フルート
2003年度	英国/ ベルギー/ フランス	トリニティー音楽大学 (ロンドン)	声楽/ピアノ/室内楽/ヴァイオリン ヴァイオリン/フルート/クラリネット
		王立カリヨン専門学校 (メッヘレン, ベルギー)	カリヨン体験ワークショップ
2004年度	ハンガリー/ スロヴァキア/ オーストリア/チェコ	国立リスト音楽アカデミー	声楽/ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/チェロ
		国立オーブダ民俗音楽学校	マジヤール伝統音楽ワークショップ
2005年度	ドイツ/イタリア	国立フライブルク音楽大学	ピアノ/室内楽/ヴァイオリン/声楽/その他 参加学生の専修ジャンルに配慮
2006年度	ポーランド/ チェコ/ドイツ	国立ショパン音楽アカデミー	ピアノ/フルート/その他
			参加学生の専修ジャンルに配慮
2007年度	ハンガリー/ ルーマニア	国立リスト音楽アカデミー 同アカデミー民俗音楽科	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他 マジヤール伝統音楽ワークショップ
2008年度	ドイツ/フランス	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2009年度	ポーランド/エストニア/ ロシア/フィンランド	国立ショパン音楽アカデミー	ピアノ/フルート/その他
			参加学生の専修ジャンルに配慮
2010年度	ドイツ/オーストリア	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2011年度	チェコ/オーストリア/ ハンガリー	ブラハ芸術アカデミー	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/ チェロ/その他
2012年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2013年度	ドイツ	リューベック音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2014年度	ハンガリー	リスト音楽院	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2015年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2016年度	チェコ	ブラハ芸術アカデミー	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/チェロ/その他
2017年度	ドイツ	国立フライブルク音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2018年度	ハンガリー/ オーストリア/ ポーランド	リスト音楽院	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他
2019年度	ドイツ/チェコ	国立デトモルト音楽大学	声楽/ピアノ/ヴァイオリン/フルート/その他

本場の風土に身を置き現地で経験豊かな教授陣のレッスンに接すること、加えてそこに学ぶ各国の学生との積極的な交流は、単に音楽研鑽という視点

に留まらず、国際感覚を磨く上でも貴重な体験となっている。

ただし、新型コロナウイルス感染状況により、昨年度は開催不可能と判断し、中止することとなった。今年度以降については、状況を見て実施の可否を判断する。

## (2) 演劇専攻

演劇専攻の創設者の一人である故千田是也教授の日中演劇交流への貢献により、1982年に中国演劇研修旅行が実現して以来、演劇専攻では毎年10日間程度の日程で海外研修旅行を実施している。

研修では、演劇大学など相手国の演劇高等教育機関を訪問し、現地の学生とともに授業やワークショップに参加するなどして、体験を通じてその国の演劇の特色を理解している。近年、交流を行った機関としては、イギリスの王立演劇院(RADA)、ドイツのエルンスト・ブッシュ演劇学校、オーストラリアのNIDA(国立演劇大学)、北京の中央戯劇学院、ブルガリアのNATFA(国立演劇映画学院)ミラノのテアトロ・アルスナーレ、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのルースムース・シアター、アイルランドの国立演劇学校などがあげられる。例年、海外研修は3月に実施している。

また、近年、ITI-UNESCO(国際演劇協会)、WTEA(世界演劇教育連盟)、ATEC(アジア演劇学校教育センター)、APB(アジア太平洋支局)等が開催する演劇フェスティバルにも積極的に参加してきた。

本年度の海外研修については、新型コロナウイルスの感染状況を見て、実施の可否を判断する。

## 11 学生による 授業評価 について

本学では前期末・後期末に「学生による授業評価」を実施している。これは本学で開設されている授業に対して、学生がどのように評価しているかを、アンケートを行って把握していこうというものである。集中講義・LA科目・レッスンを除く開講科目を対象として行われる。

この「学生による授業評価」の目的は、学生から寄せられる、授業に関する率直な意見に耳を傾け、今後のより良い教育内容・教育方法・教育環境を、授業担当教員はもとより全学を挙げて作り出していこうというところにある。

学生からの回答に対しては、本学が委託した学外の専門業者が集計し、統計処理等を施す。そして授業担当教員と本学とが、それぞれに関わる情報を受領する。本学が受領した統計処理結果等については公表し、学生の閲覧にも供している。

## 1 学生生活

## (1) 掲示について

必要な連絡・通知事項は掲示で行うので必ず確認すること。よって、何かの提出物について、掲示を見ていなかったと言う理由で、提出を免除されたり、延期を認められたりすることはない。

なお、掲示内容は、原則として掲示してから1週間で全員に周知されたとみなす。

## (2) オフィスアワー

授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯（何曜日の何時から何時までなど）のことをオフィスアワーという。本学では、専任教員について各学期当初に掲示にてその時間帯を伝える。その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができる。

## (3) 学内駐輪について

通学する際に徒歩以外は、電車・バス等の公共交通機関によることを原則としているが、やむを得ず自転車やオートバイで通学する場合は、次の条件で短大駐輪場（短大新館南側）の使用を認めている。

- ①「駐輪場使用許可願」を教学課に提出し、許可を受ける。
- ②「駐輪許可証」（ラベル）を発行するので、自転車やオートバイの見えやすい部分に貼る。
- ③「駐輪許可証」の効力は、申請年度の年度末までとする。（1年ごとに更新を必要とする）
- ④許可なく駐輪している場合は撤去、処分する。

## (4) 個人ロッカーについて

本学は、学生に対して個人ロッカーを貸与している。各自の責任で清潔に使用すること。

- ①各専攻とも1人1ロッカーを貸与するので、鍵は各自で用意する。
- ②貴重品は楽屋等に置いたままにせず、ロッカーに鍵をかけ保管すること。各自で責任を持って管理すること。ロッカーに鍵をかけなかった場合の事故等には学校は一切の責任を負わない。
- ③ロッカーの上に物を置かない。
- ④卒業時は指定する期限（掲示にて連絡する）までに各自私物を整理し持ち帰ること。それ以後残っているものは廃棄処分する。

## (5) 会議室の使用について

学生の休憩や談話のための場所として会議室がある。使用に当たっては次のことに注意すること。なお、現在は新型コロナウイルス感染防止の観点から使用を制限しているが、状況が改善すれば制限を緩和する。

- ①使用時間 8:15～21:30（休日・祝日および長期休暇中は閉鎖）
- ②飲食はできるが、片付けは各自が責任をもって行うこと。
- ③マナーを守って、皆が気持ち良く使用できるようにする。
- ④本学の会議・行事等で使用できない場合がある。

#### (6) 学内での飲食の場所について

学内での、飲食できる場所は次のとおりである。片付けは必ず行うこと。

- ①学生食堂（混雑時の11:00～13:00は持ち込み利用不可）
- ②2102教室（昼休時11:50～12:40のみ）
- ③会議室（利用方法は(5)参照）
- ④ロビーおよび各階フロアーのテーブルが置いてある場所

#### (7) 環境の保持（施設・備品・ごみ等）について

- ①学園の施設・備品は大切に扱うこと。もし破損等した場合は、直ちに教学課に届け出ること。事情によっては弁償を請求することがある。
- ②教室の備品を移動して使用する場合は、教学課に「備品借用願」を提出して、許可を受けること。
- ③ごみは「可燃物」と「不燃物」（ビニール・プラスチック・発砲スチロール等）と「ビン・カン・ペットボトル」に分けて所定のごみ箱に捨て、学内の美化に努めること。

また、スプレー缶を捨てる場合は必ず、穴を開けてから捨てる。器具は旧館1階通路と新館地下1階にある。

#### (8) 喫煙・飲酒について

校舎内・外ともに指定の喫煙場所を除いて全面禁煙である。なお、学内での飲酒は禁止である。

#### (9) アルバイトについて

本学ではアルバイトの斡旋は行っていない。ただし、企業等からの求人案内は進路相談室にある。

アルバイトは学業等に支障のない範囲で行い、求人企業、仕事の内容、給与等の勤務条件をよく確認し、トラブルのないよう十分注意すること。またアルバイトで何かおかしいと感じることがあったら、学生・安全対策委員会に報告すること。

#### (10) 落し物・忘れ物の取扱い

キャンパス内で落し物を拾得したときは、教学課窓口へ届け出ること。  
また、落し物・忘れ物をしたときは、教学課窓口まで問い合わせること。  
※持ち主が明らかな場合：呼び出し掲示・電話等で連絡する  
持ち主不明の場合：届けられた日から6ヶ月間保管する  
(教学課前の展示ケースに展示)

#### (11) キャンパス・ハラスメント等の防止について

本学は、大学におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントおよびその他のハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント等」という。）を、学生・教職員一人ひとりの人権を侵害し、適切な教育環境の場を阻害するものとして捉え、これに対して厳しい姿勢で臨んでいる。

本学では、常勤・非常勤を問わず、本学に在職する教職員と学生との間、および本学の学生同士の間には、つねに教育環境上の関係があるものとみなす。よって大学におけるキャンパス・ハラスメント等は、正課の授業時間中



の大学構内における場合にとどまらず、課外活動や学外を含むあらゆる場合のそれを意味する。

## 1. キャンパス・ハラスメント等とは

### (1) セクシュアル・ハラスメント

ア. 学生、教職員または関係者が、意図するか否かにかかわらず、性的差別的または性的な言動によって、相手を不快にさせる行為

例 性的な噂を流したり、人を傷つける性的な内容の冗談を言ったりすること。

性的な文書や画像等の掲示や提示をすること。

相手が望まない飲食等にしつこく誘うこと。

不必要に身体に触れること。

イ. 学生、教職員または関係者が、利益もしくは不利益を与えることを利用して、または利益を与えることを代償として、相手に性的な誘いまたは要求をする行為

例 成績評価等と引き換えに、性的要求を迫ること。

### (2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の勉学・研究意欲や研究環境を害する言動または行為

### (3) パワー・ハラスメント

職場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の就労意欲や就労環境を害する言動または行為

### (4) その他のハラスメント

学生、教職員または関係者が、他の学生、教職員または関係者に飲酒の強要、喫煙にまつわる不法行為、誹謗、中傷、風評の流布などにより人権を侵害したり不快にさせたりする行為

## 2. キャンパス・ハラスメント等を起こさないために

キャンパス・ハラスメント等は、大学の構成員である教職員および学生の相互の人格の尊重と良識ある生活態度によって防止されるものである。

だれもがキャンパス・ハラスメント等を受ける可能性があると同時に、だれもがキャンパス・ハラスメント等を起こしうる可能性もあることを自覚し、日頃から、次のような姿勢を心がけることが重要である。

(a) 日常生活において男女間の対等な関係を形成すること

(b) いやなことははっきりと意思表示すること

(c) お互いに誤解を招かないように、よりよいコミュニケーションを心がけること

## 3. 被害にあったときの対処方法

実際に被害にあったときには、決してひとりで悩んだり、泣き寝入りしたりせず、以下の対処を心がけること。

- (a) 相手に、自分が「望んでいない、不快である」ことをはっきりと伝える
- (b) いつ、どこで、誰からどのようなことをされたかについての詳しい記録をとる
- (c) その場を目撃した人がいる場合は、その人にそのとき自分が何をされていたかについての確認をとっておく
- (d) 身近な信頼できる人に相談する
- (e) 学内の相談窓口等に申し出る

#### 4. 被害を訴えた人への本学の対応

本学は、「キャンパス・ハラスメント等の防止等に関する規程」に基づき、キャンパス・ハラスメント等防止委員会および相談窓口を設置し、被害を訴えた人にとって不利益になることがないことを保証し、被害を訴えた人のプライバシーを最大限に尊重しつつ、可能なかぎり当該者が望むことへの手助けを行う。

防止委員会は、相談窓口に寄せられる事例について、キャンパス・ハラスメント等であるか否かの判断を行い（必要に応じて、別に調査委員会を組織することもある）、キャンパス・ハラスメント等と判断した場合は、速やかに学長に報告し、その指示に基づき、関係部署と協議し、適切な措置を講ずる。

#### ■2022年度 キャンパス・ハラスメント等相談窓口

相談員は学生・安全対策委員が兼任する。

相談申込方法については、オフィスアワーに準拠する。

#### (12) 新型コロナウイルス等・忌引について

新型コロナウイルス・インフルエンザ・麻疹・風疹・感染性胃腸炎等の感染症であると診断された場合は、出席停止になる。新型コロナウイルスに感染した場合はすみやかに学校へ報告をし、医師や保健所の指示に従うこと。インフルエンザ等その他の感染症の場合、完治後医師の指示に従い治癒証明書または医療機関等発行の証明書や診断書を取って研究室に提出すること。治癒証明書は本学のホームページ（保健室のページ）よりダウンロードすることができる。

授業、レッスンについては各担当者に個別に申し出ること。定期試験についても通常の追再試験手続きではなく別対応になる。

また、忌引はない。扱いについては各授業、レッスン担当者に個別に申し出ること。

## 2 課外活動

#### (1) 課外活動

- ① 学生が学内でクラブ、サークル等の団体を結成しようとする場合は、1ヵ月前までに「部活動設立申請書」（所定用紙）により、学長の許可を得なければならない。
- ② 学生関係の団体もしくはその他の学外団体の行事に参加する場合には、1週間前までに学生・安全対策委員会に『行事参加許可願』（様式任意）を提出し、許可を受ける。
- ③ クラブ活動等による上演は、桐朋祭等の学内発表に限る。
- ④ 学生が団体で行動する場合は事前に学生・安全対策委員会に願い出て許可

を受ける。

- ⑤学内にて掲示または印刷物の配布をするときは事前に学生・安全対策委員会に願い出て許可を受ける。
- ⑥クラブ活動等は授業のさまたげにならぬように注意する。

## (2) 学外出演について

音楽専攻・演劇専攻の学生が、学外の演奏会や演劇等に出演する場合は、P.56以降の『学外演奏発表規則』『学外出演規則』に従って所定の手続きを行う。出演許可願の用紙は各研究室にある。

## (3) 「桐朋祭」について

「桐朋祭」は各専攻学生会、自治会が中心となり、学生の日頃の授業成果の発表の場として、あるいは、研究発表の場として催されている。本年度は9月17日(土)・9月18日(日)の予定である。

参加を希望する学生及び団体は各学生会・自治会に企画書を提出する。以後、企画が進む中で企画代表者会議が開かれ必要事項が確認される。なお、以下について十分留意すること。

「桐朋祭」には、本学学生以外の一般の来訪者が多いので、安全対策には特に気を配る。

また、本学はあらゆる宗教的・政治的諸団体の学内における諸活動（情宣や勧誘など）は一切認めていない。

本学の備品を使用する場合には、「備品借用願」、火気を使用する場合には、「火気使用願」、模擬店を出す場合には、多摩府中保健所に「行事開催届」を提出する必要がある。学園は、調布消防署に「催物の開催届出書」を提出する。

企画で外部者を要請する場合は、「外部出演者等の届」を提出し、保険加入を行う。

備品借用願・火気使用願等の提出書類は教学課にある。

## 3 証明書・諸届

### (1) 学生証（IDカード）について

学生証は在学期間中有効のものが入学時に交付されるので、現住所・通学区間の欄を記入し、写真を貼付してすみやかに教学課で契印を受ける。学生証は通学時等、常に携行し、卒業、退学等で学籍がなくなった場合は直ちに返納する。もし、紛失した時は、直ちに教学課に届け出て再交付を受けること。

次のような場合、提示を求められることがある。

- 教室使用の申込みをする時
- 定期試験を受ける時
- 通学定期券を購入する時
- 学生旅客割引証（学割証）を使用する時
- 成績表を受け取る時
- その他

また、学生証はIDカードとしても使用している。本学園は保安対策の一環として、身分を判別できるように学生および教職員にはIDカードの着用が義務付けられている。登校した時は必ず着用すること。



## (2) 諸届・諸願、証明書の発行について

長期欠席や休学または退学をする場合は事前に専攻主任と相談の上、書類等を提出する。

### ①諸届

#### (a) 住所変更届

住所を変更した場合、学生証を添えて教学課へ提出する。

#### (b) 改姓届

改姓した場合、住民票の抄本と学生証を添えて教学課へ提出する。

#### (c) 保証人（住所）変更届

保証人に変更があった場合、または保証人の住所に変更があった場合、教学課へ提出する。

#### (d) 公認欠課届

教育実習・介護等体験の時、教学課へ提出する。

#### (e) 欠席届（様式任意）

長期にわたる欠席が予想される場合には、必要に応じて欠席届を教学課へ提出する。病気による欠席の場合には診断書を添える。

### ②諸願

#### (a) 退学願

事前に専攻主任に相談の上、教学課へ提出する。

#### (b) 休学願

病気による場合は、診断書を添えて教学課へ提出する。

#### (c) 復学願

病気による休学から復学する場合には、診断書を添えて教学課へ提出する。

なお、上記の願書は学長の許可を受けた後、その旨、本人及び保証人あてに通知する。

### ③証明書の発行

各証明書等の発行を必要とする場合は、教学課に交付願を提出し、手数料を納入、原則2営業日後（英文は6営業日後）に交付願控を提示して受け取る。健康診断書については、受診した年度内のみの発行となるため、注意すること。

長期休業中は受渡し日時を掲示で別に連絡する。

なお、手数料は上記のとおりである。

### ④通学定期券・学生割引について

#### (a) 通学定期券について

通学定期券を購入する時は、電車・バスなどの駅等に備えつけの定期券購入申込書に学生証を添えて購入する。

なお、新生は学生証に写真の貼付・契印がなくても4月中は購入できる。

#### (b) 学生割引について

鉄道などを利用して101km以上を移動する場合、学割証を使用すると運賃の一部が割引される。

学割証を必要とする時は教学課に学生証提示の上、交付願を提出し、2営業日に交付願控と引き換えに受け取る。なお、学割証の交付枚数は、

	証明書種類	金額
1	成績証明書	400円
2	成績証明書（英文）	1,000円
3	卒業証明書	200円
4	卒業証明書（英文）	600円
5	卒業見込証明書	200円
6	在学証明書（在籍証明書）	200円
7	在学証明書（在籍証明書）（英文）	600円
8	推薦書	400円
9	人物考査書・人物証明書・身上調査書	400円
10	人物考査書・人物証明書・身上調査書（英文）	1,000円
11	学生証（身分証明書）再発行	2,000円
12	単位修得証明書	400円
13	単位修得見込証明書	400円
14	学力に関する証明書	400円
15	教員免許状取得見込証明書	200円
16	健康診断書	400円

原則として一人年間10枚である。

長期休業中は受渡し日時を掲示で別に連絡する。

※証明書等を申し込み後3カ月以上、受け取りに来ない場合は、無効とし廃棄する。

## 4 学費

### (1) 学費について

①授業料等は、学則第45条に定められた期間に納入すること。

- 前期は4月16日より4月30日まで（新入学生は入学手続日）
- 後期は9月16日より9月30日まで

②施設維持費、学生諸料、各専攻の演習費・実習費は授業料に準じて、年2期に分けて納入する。

③納入方法は、前もって保証人に郵送される本学園指定の振込用紙による銀行振込とする。

④事情により、納入期限を延ばしたい場合（延納）は期日までに所定の願書を教学課へ提出すること。

詳細はP.56『学費の滞納・延納の処理に関する手続きについて』による。

## 5 福利厚生

### (1) 奨学金・教育ローン

#### ①奨学金

学生生活を経済的に援助するものとして、各種の奨学金制度がある。

個々の奨学金制度には趣旨、選考基準、金額、返還の有無などに違いがあるので、希望者はそれぞれの特徴をよく理解したうえで申し込むこと。

なお、奨学金のうち「貸与」は卒業後返還が必要な奨学金、「給付」は返還の必要がない奨学金である。

#### (a) 日本学生支援機構の奨学金

日本学生支援機構 第一種奨学金(無利子貸与)・第二種奨学金(有利子貸与)・給付奨学金

日本学生支援機構(略称JASSO)は、教育の機会均等に寄与するために修学の援助を行い、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成を目的に設立された独立行政法人である。

奨学金は、経済的理由により修学に困難がある、優れた学生を対象としており、無利子で貸与される「第一種奨学金」と、有利子で貸与される「第二種奨学金」の2種類および返還不要の給付奨学金がある。

なお、貸与奨学金・給付奨学金ともに2022年度入学生で予約採用候補者となっている者は「採用候補者決定通知(進学先提出用)」を入学後、すみやかに短大事務室(教学課)に提出すること。

#### 〈貸与奨学金〉

貸与額：第一種 自宅通学／月額

20,000円 30,000円 40,000円 53,000円

自宅外通学／月額

20,000円 30,000円 40,000円 50,000円 60,000円

第二種 20,000円 30,000円 40,000円 50,000円 60,000円

70,000円 80,000円 90,000円 100,000円 110,000円

120,000円から希望月額を選択

募集時期：第一種，第二種とも学内での説明会時に申込書類を配付し，その書類に基づき学内審査の後，機構に推薦する。  
第一種，第二種とも年収・所得および学業成績に一定の基準がある。

申込書類配布：4月上旬（日時・場所は別途通知）

※注1 貸与額は，2022年度以降変更される可能性がある。

※注2 上記の定期採用以外に「緊急採用（無利子貸与）」、「応急採用（有利子貸与）」があり，家計支持者が失職・破産・倒産・病気・死亡，または火災・風水害等により家計急変が生じ，緊急に奨学金が必要になった場合に申込みが可能。（但し，事由が発生したときから1年以内）

#### 〈給付奨学金〉

大学や専門学校などの高等教育を一部無償化する制度が2020年4月から開始され，本学はその対象校として認定されている。世帯収入の基準の他，諸条件を満たしていれば，世帯収入によって定められた3つの区分および通学形態（自宅通学・自宅外通学）に応じた金額の給付を受けることができる。また，給付奨学金の対象となれば，授業料・入学金も減免される。※制度の概要については以下URL参照。

→ [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/hutankeigen/](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/)

※収入の基準の確認については以下URL参照。

→ <https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>

#### (b) 本学独自の奨学金

##### 桐朋演劇奨学会奨学金（給付）

演劇専攻には，有志の寄附金を財源に，成績優秀にして，本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とした奨学金制度が設けられている。（P.57『桐朋演劇奨学会規程』参照のこと）

対 象：芸術科演劇専攻2年次生および専攻科演劇専攻生

給 付 額：授業料の半額または半期授業料の半額

募集人数：若干名

募集時期：年2回（前期，後期各1回）

※本年度の募集期間，提出書類等の詳細は決定次第学内に掲示する。

##### 桐朋音楽奨学会奨学金（給付）

音楽専攻には，有志の寄附金を財源に，成績優秀にして，本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とした奨学金制度が設けられている。（P.58『桐朋音楽奨学会規程』参照のこと）

対 象：芸術科音楽専攻2年次生および専攻科音楽専攻生

給 付 額：半期授業料の半額

募集人数：若干名

募集時期：年2回（前期，後期各1回）

※本年度の募集期間，提出書類等の詳細は決定次第学内に掲示する。

##### 被災学生支援奨学金（給付）

東日本大震災が原因で被災した学生に対して経済支援として奨学金を支給する。（P.59『桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程』参照のこと）

(c) 地方公共団体の奨学金

都道府県や市町村により、地元出身者・地元高等学校卒業者等を対象とした奨学金制度を設けているところがある。詳しくは、都道府県・市町村の教育委員会まで問い合わせること。

(d) 民間育英団体等の奨学金

本学学生の採用実績があるのは次の奨学金である。

**福島育英会奨学金（給付）**

財団法人福島育英会は、音楽関係大学生のうち、学業、人物ともに優秀かつ健康であって、経済的理由によって修学の困難の学生に奨学金を支給し、我が国音楽界の発展のために寄与する人材を育成するために設立された公益法人である。

対 象：東京都に居住する芸術科音楽専攻1年生  
(収入・所得および学業成績について基準がある)

給 付 額：月額40,000円

募集人数：2名（学内審査の後、育英会に推薦する）

募集時期：9月頃

※2022年度新規募集については未定（給付額、募集人数は2021年度実績）

**ホリプロ文化芸能財団奨学金（給付）**

2022年度 月額30,000円（6ヵ月分ずつ年2回給付）

一般財団法人ホリプロ文化芸能財団は、株式会社ホリプロ ファウンダー最高顧問である堀 威夫により平成26年4月に設立された。文化芸能の振興を担う人材を育成するため、映画・音楽・演劇・テレビ番組などのエンターテインメントの製作に携わるプロデューサーや、タレントを発掘・育成しマネージャーを志す学生を支援することを目的とした奨学金である。

対 象：芸術科2年生

募集締切：2022年4月19日(火)

選考・採用方法：一次選考は課題作文（指定）、活動計画申請書（指定）等書類審査。二次選考は面接。

**守谷育英会（給付）**

2022年度 月額80,000円

一般財団法人守谷育英会は株式会社守谷商会により1972年11月に設立された。東京都内の高校・大学等に在学している有為の学生のうち、学術優秀・品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し奨学援助を行い、以って社会有用の人材を育成することを目的とした奨学金である。

対 象：芸術科および専攻科1・2年生

募集締切：2022年4月下旬

選考・採用方法：一次選考は願書、成績証明書、推薦書等書類審査。二次選考は面接。

なお、以下の奨学制度については各個人が直接申込みを行う（募集開始期間含む）。詳細、応募方法は各団体のホームページ等で確認すること。

**財団法人ヤマハ音楽振興会 音楽奨学支援（給付）**

2022年度 月額200,000円

※2022年度の募集は終了している。2023年度の募集、詳細については、以

下URL参照。

→ <http://www.yamaha-mf.or.jp/shien/shogaku/>

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 奨学生(給付)  
2022年度 月額最大300,000円

※2022年度の募集は終了している。2023年度の募集、詳細については、以下URL参照。

→ <http://www.rohm.co.jp/rmf/index.html>

公益財団法人 富山文化財団 奨学生(給付)

公益財団法人富山文化財団の奨学金は「楽しく豊かな遊び文化」「子供の遊育と健やかな成長」「日本のものづくり」の創造を目指し、夢の実現に向けて学び励む学生の支援を目的としている。

対 象：芸術科および専攻科1・2年生

給 付 額：年間300,000円

募集締切：7月頃

※2022年度新規募集については未定(給付額、募集時期は2021年度実績)

## ②教育ローン

### (a) 提携学費教育ローン

本学では、主な学費負担者となる保護者(保証人)の一時的な経済的負担軽減のため、簡単な手続きで利用できる学費の分納制度を、株式会社オリエントコーポレーション(以下、オリコ)、株式会社セディナ、楽天銀行会社の3社と提携し案内している。

これは、入学金・授業料・実習費・教材費などの納付金を提携会社が立て替え、申込者より毎月分割で口座振替により納付する制度である。

返済の利率は年3.7%(固定2022年3月現在)。他、制度の概要、詳細については以下の各社ホームページ等で確認すること。

○株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク

☎ 0120-517-325 営業時間 9:30～17:30(土日祝日を除く)

<http://orico.jp/gakusapo/>

○株式会社セディナ カスタマーセンター

050-3827-0375 営業時間 9:30～17:00(土日祝日を除く)

[http://www.cedyna.co.jp/moneylife/loan/gakushi\\_loan](http://www.cedyna.co.jp/moneylife/loan/gakushi_loan)

○楽天銀行 カードセンター 教育ローン専用ダイヤル

☎ 0120-61-6910

受付時間 平日9:00～19:30 土日祝日9:00～17:30

<https://www.rakuten-bank.co.jp/loan/cardloan/education/>

### (b) 国の教育ローン

入学・在学時にかかる諸費用を対象に、学生の保護者(保証人)が低利で融資を受けられる「国の教育ローン」制度がある。応募条件・手続詳細については、下記問い合わせ先にて確認すること。

取扱機関名：日本政策金融公庫

融資限度額：350万円以内

返済期間：15年以内(交通遺児家庭、母子家庭、父子家庭または世帯年収200万円(所得132万円)以内の方または子ども3人以上の世帯かつ世帯年収500万円(所得356万円)以内の方は18年以内)



金 利：年1.65%（固定金利），母子家庭，父子家庭または世帯年収200万円（所得132万円）以内の方または子ども3人以上の世帯かつ世帯年収500万円（所得356万円）以内の方は1.28%（2021年11月1日現在）

**問い合わせ先**

教育ローンコールセンター TEL 0570-008656  
 日本政策金融公庫「国の教育ローン」HP  
 → <http://www.jfc.go.jp/n/finance/search/ippan.html>

(c) その他の教育ローン

銀行，信用金庫，信用組合，労働金庫，JAなどが取り扱う教育ローンについては，それぞれで融資限度額・利率・返済期間など融資条件が異なる。詳細については各金融機関に直接問い合わせること。

**(2) 学生教育研究災害傷害保険制度について**

本学は，教育研究活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」に芸術科・専攻科学生および研究生が加入している。

**①保険金が支払われる事故の範囲**

被保険者が在籍する大学の教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の事故による身体の傷害を被った場合に保険金が支払われる。事故発生時及び不明な点は保健室に申し出ること。

**教育研究活動中とは次の場合**

- (a) 正課中（講義，実験・実習，演習または実技による授業など）  
（教職免許取得にかかる，教育実習，介護等体験など）
- (b) 学校行事中（入学式，オリエンテーション，卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事）
- (c) (a) (b) 以外で学校施設内にいる間。
- (d) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間。

**②保険金の種類など（2022年度）**

担保範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金
「正課中」 「学校行事中」	2,000万円	120万円～3,000万円	治療日数 1日以上が対象 3,000円～300,000円	1日につき 4,000円
「課外活動（クラブ活動）を行っている間以外で学校施設にいる間・通学特約加入者の通学中・学校施設等相互間の移動中」	1,000万円	60万円～1,500万円	治療日数 4日以上が対象 6,000円～300,000円	
・学校施設内外を問わず，課外活動（クラブ活動）を行っている間			治療日数 14日以上が対象 30,000～300,000円	

※保険金が支払われない場合（例：故意，疫病など）もある。

※保険料は本学が負担する。

### ③学研災付帯賠償責任保険について

本学では、国内外において、学生が、正課・学校行事・教育実習等での課外活動及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償するための「学研災付帯賠償責任保険」に芸術科・専攻科学生および研究生が加入している。この保険で対象となる事故が発生した場合には、直ちに保険会社に連絡し、保健室へも事故についての報告をすること。

詳細については、「学研災付帯賠償責任保険加入者のしおり」を参照すること。

### ④学研災付帯学生生活総合保険について

本学では、学生教育災害傷害保険に全員加入しているが、さらに任意で補償を拡大した保険に加入することができる。

4月に配布されるパンフレットを参照の上、申し込み希望者は、直接パンフレットに記載されている取り扱い代理店に問い合わせること。

## (3) 学生食堂・購買部等の利用案内

### ①学生食堂

○営業時間 平日 11:00～14:00

なお、学生食堂(ホール)は8:00～21:00の間(日曜を除く)開いているので、営業時間以外も談話等で利用ができる。ただし、厨房への立ち入りや食堂備品の使用、また、楽器演奏、演劇・ダンス等の稽古、携帯電話等の充電は厳禁である。利用後はごみの片付けや整理・整頓に心がけること。

○場 所 短大旧館地下(170席)

○電子レンジの利用について

各自責任をもって大事に取り扱うこと。

電子レンジに関する質問や意見は、食堂ではなく教学課に申し出ること。

### ②購買部

○営業時間 平日 8:05～15:40 (13:00～14:00昼休み)

○場 所 短大正面向かい校舎(本館)1階

○販売品目 文房具を中心に、おにぎりも扱っている。なお、おにぎりは10:00までに予約が必要。

※購買部の隣で、パン、飲み物を平日、土曜日とも11:00～14:00まで販売。

### ③コピー・サービス

○コピー機設置場所 短大旧館2階

○利用方法 コインキットによる現金払い

○利用料金 1枚10円 カラー50円

○コピー可能用紙サイズ B5・B4・A4・A3

○パソコンデータの印刷 USBメモリーを差し込み印刷することが可能である。

○その他 (a) 著作権に注意して複写のこと。

(b) 図書館の図書は、図書館で複写すること。

(c) 現金の両替は原則、教学課では行わない。

(d) 用紙の補給やトラブル等は教学課に申し出ること。

## 6 学内諸施設、 機関の案内

### ④パソコン利用

○パソコン設置場所・台数 短大旧館2階・4台

○印刷 パソコンからコピー機に出力するか、コピー機にUSBメモリーを差し込み印刷することが可能。ただし、USBメモリーから印刷する場合は、対応ソフトで作成したデータに限る。

※上記①学生食堂、②購買部は仙川キャンパス内各学校の共有・共用施設である。そのため学校行事等に関連して一部利用が制限される場合もあるので注意すること。

### (1) 図書館

本学図書館は北館にあり、図書、雑誌、視聴覚資料（DVD・CDなど）を所蔵している。資料は必要に応じ、規程に準じて借りることができる。辞書・事典類、雑誌の最新号、映像資料などは館内のみでの利用となる。

学外者の利用はできないので、入館の際は、本学学生であることを示す図書館利用カード（学生証でも可）の提示を求めている。利用カードは入学時のガイダンスで、冊子「図書館利用案内」と共に配付する。利用カードがないと館外貸出が受けられないので、卒業時まで各自で保管すること。

なお卒業後も、館内利用（閲覧）は可能である。その際は、氏名の確認ができる物を持参のうえ来館すること。

その他、利用についての詳細は、P.50『図書館利用規程』や、配布される「図書館利用案内」を参照のこと。学習の場として、在学中に大いに活用してほしい。

なお本学学生は、桐朋学園大学附属図書館（短大旧館4階、調布キャンパス共）の利用が可能である。利用の際には、学生証を持参して利用登録を行うこと。

### (2) 桐朋教育研究所について

桐朋教育研究所は、桐朋学園女子部門の教育活動がより一層円滑に、そして活性化するように、様々な方向から研究し、考察し、そして実践に向けて提言している機関である。教育がより幅と深みのあるものとなるためにも、教職員がより充実した研究・研修が出来るような環境を用意することにも知恵を絞っている。更に、社会の動向と切り離すことの出来ない教育の性格を考慮して、学園と社会との接点として、情報の集約及び発信にも心を砕いている。

以下、短大生に関係する教育研究所の活動を紹介する。

#### ①学園機関誌「桐朋教育」の編集・発行

日々の学園の教育活動がどのように行われているのかを、本来の学園の教育理念とどのように結びつけたものなのか、という視点で検証しつつ、広く社会に紹介し、批判を求める。そのような場が、年一回刊行される「桐朋教育」である。特集記事、入学試験の実際、普段の活動の様子、卒業後の進路の状況、等の記事で構成されている。グラビアページは、学園生活の様子がビジュアルに紹介され、生き生きとした光景が毎年見られる。

#### ②「桐朋講座」の企画・運営

保護者や卒業生、卒業生の保護者、そして在校生など、主に学園関係者を対象に、各種の講座を開設し、運営に当たっている。外国語会話教室、趣味や教養など、30を超える講座が、セミナーハウスを拠点に、活発に活動している。学術的な色彩の強い内容の講座には、教員が受講しているケー



スも見られ、時間が許せば、短大生も受講することが可能である。  
尚、受講に際しては所定の受講料金が必要である。

### ③ 学術資料の収集・管理

全国各地の大学や研究機関との間で、研究紀要の交換を行っている。従ってリアルタイムで各種の学術論文に触れることが出来る。学習や研究活動に有用なものも数多くあり、希望者には、閲覧や貸し出しも行っている。

### ④ 本学園関係の様々な資料の保存・管理

創立以来80年を超える本学園の歴史の証人とも言える各種資料（文書に限らず、写真やスライドなどの画像、映画やビデオなどの映像も含めて）が教育研究所に集約され、管理されている。調布市の歴史の編纂など、学園外からも貴重な資料として利用されている。

### ⑤ 教育研究所・セミナーハウスの開設時間は、

月曜日～金曜日 9:00～16:30

土曜日 9:00～16:00である。

（日曜日、祝祭日及び中高部の長期休業期間は閉鎖される。）

※ 桐朋教育研究所への問い合わせは、03(3300)2119へ

## (3) 総合保健体育センター（含む保健室）について

### ① 短大校舎の南側に、総合保健体育センターがあり、演技発表会の稽古等をここで行うことがある。

このセンターは、短大を始め、高校・中学・小学校及び音楽大学の学生・生徒等の共用施設なので利用の仕方をよく知っておくこと。

### ② 保健室について

保健室は体育センター1階に位置し、中学・高校（女子）と場所を共有している。通常養護教諭が対応に当たり、保健衛生管理等を目的とし次の業務を行っている。

#### (a) 定期健康診断

本学では、4月のガイダンス時に健康診断を実施している。全員必ず受診すること。検査項目は、1年生が胸部レントゲン、尿検査（蛋白・糖・潜血）、血液検査（貧血・脂質）、内科検診、身体測定（身長・体重・視力）を実施し、2年生及び専攻科は、尿検査（蛋白・糖・潜血）、内科検診、身体測定（身長・体重・視力）を実施している（教職課程履修者の希望者のみ、実費にて胸部レントゲン検査可能）。

#### (b) 健康相談

健康相談を希望する場合は、保健室まで申し出ること。本人の希望により相談場所や日程などを決定する。

#### (c) アクセシビリティ支援相談窓口について

アクセシビリティ支援の相談をしたい時は、事前に「アクセシビリティ支援相談受付票」に記入の上、各専攻主任または保健室まで申し出ること。「アクセシビリティ支援相談受付票」は、4月当初の保健室配布資料に同封している。短大旧館1階ロビーの学生部掲示板前ロッカー上にも置いてあるので、各自で取って利用すること。

#### (d) 短大保健室通信

「短大保健室通信」を4月はガイダンス時に全員に配布し、他の月については掲示をしている。（学生・安全対策委員会の掲示板に掲示）

#### (e) 救急処置

保健室では、傷病についての救急処置を行っている。基本的に内服薬の使用はしていない。近年、薬に対するアレルギーの学生が増えたこと、症状を抑えることによる症状の悪化などがその理由である。

外科的なことに関しては、アイシング（氷で冷やす）や、症状により2次的処置を行っている。

(f) 学生教育研究災害傷害保険に関する手続きについて

学内・学外及び通学中事故に遭った場合は、保険会社に事故発生日から30日以内に届出をしなければならない（30日以内に届出をしない場合、保険の適用を受けられない場合がある）事故が発生した場合は、直ちに保健室へその旨を申し出ること。

通院または入院した治療日数により、保険申請ができない場合がある。授業中や休憩中など、状況により申請に必要な治療日数が異なる。入学時に配布される「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」とP.34「(2) 学生教育研究災害傷害保険制度について」を参照すること。

また、学研災付帯賠償責任保険及び学研災付帯学生生活総合保険については、P.34を参照すること。

③ スクールカウンセラーについて

学園内にて、スクールカウンセラー（臨床心理士）との面談日が設けられている。プライバシーは完全に守られるので、安心して面談を受けることができる。面談の申し込みは保健室を通しての完全予約制となる（スクールカウンセラーに急用が生じた場合など、緊急を要する際にその旨を連絡するため名前を申し出てもらっている）。

詳細は以下の通りである。

(a) 面談申し込み方法⇒完全予約制の為、保健室を通しての申し込みとなる。面談をキャンセルする場合は、必ず保健室に連絡すること。

なお、面談の申し込み及びキャンセルについては保健室の直通電話でも受け付けているので、来訪が無理な場合は下記に連絡すること。

◎保健室直通電話 ☎03 (3300) 4295 平日（月～金）8:15～16:30  
（土）8:15～12:40

(b) 面談日・面談時間⇒毎週火～土曜日

10:40～17:00（12:20～13:20は除く）

※但し、長期休業中は原則的に休室。また、臨時に休室となる場合がある。

※同じ時間帯に中高生も相談日が開設されており、面談希望者が多い場合は予約が取りにくい場合もある。一人当たりの面談時間は約40分。

(c) 面談場所⇒セミナーハウス 2階の203教室。場所はP.277で確認すること。

④ 短大カウンセラー・コミュニケーションサポートの相談窓口について

学校生活を送る中で、学生同士、また授業等での主にコミュニケーションにおいてメンタル面や身体面で悩みを抱え困っている学生に対して、カウンセラーとは別にサポートする窓口を設けている。豊富な経験を積んだベテランの担当者が相談に乗る。ケースによって必要であれば精神科の専門の先生につないだり、また授業担当者や保健室などと連携を取りながら適切な対応する。

(a) 申し込み：教学課窓口での予約制（原則）

- (b) 相 談 日：不定期（カウンセラーと相談）
- (c) 場 所：短大会議室等およびオンライン

#### (4) 八ヶ岳高原寮について

「いまだこの地には 語られざる詩がある 見えざる絵がある 聞こえざる歌がある（後略）」

今から約60年前、故生江義男元本学学長が、八ヶ岳高原寮の開設にあたって詠まれた詩の一節である。当時に比べて、建物は木造から鉄筋コンクリートに変わり、周囲の環境も道路が整備され、観光に避暑に訪れる人も多くなってきたが、それでも高原寮を取巻く自然環境は未だ豊かであり、人々の心を惹きつけている。

八ヶ岳高原寮では、年間を通じ、短大の演劇専攻の合宿授業を始め、高等学校・中学校・小学校の合宿活動、クラブ合宿や補講等が実施されている。

また、短大を含めた在学生・卒業生、その家族の方も利用ができる。ただし、前述の通り、桐朋学園女子部門の学生・生徒・児童の教育活動のための施設なので、教育活動の期間以外の利用となる。その他詳細については、毎年4月にお知らせする「八ヶ岳高原寮の利用案内」をご覧ください。その趣旨を理解の上、利用していただきたい。なお、問い合わせ等は本館事務室で取り扱っている。

所在地 〒409-1501  
山梨県北杜（ほくと）市大泉町西井出8240-2  
電 話 (0551) 38-2106 （管理人 玉川裕之）  
F A X (0551) 38-2164  
交 通 JR中央線小淵沢駅にて小海線に乗換え、2駅目の『甲斐大泉駅』下車、徒歩40分またはタクシー 10分

## 7 学園生活の 安全と環境の 向上のために

(1) 桐朋学園女子部門仙川キャンパス内の各学校には、安全対策委員会とそれぞれの代表委員で構成される保安委員会が設置されている。

これらの委員会では次のような諸業務を行うことにより、園児・児童・生徒・学生・教職員の安全で快適な学校生活の確保に努めている。

- ①校舎及び諸施設の使用の許可・規制などの管理
- ②火気使用（暖房器具も含む）の許可・規制などの管理
- ③学内駐輪場使用の許可・規制などの管理
- ④火災、地震、風水害に対する防災対策全般
- ⑤学内生活環境の施設設備に関すること全般
- ⑥その他、安全対策上必要な対応並びに諸規則の作成と指導

(2) 保安委員会より「安全で快適な学校生活のために」（抜粋）

- ①校舎内外を問わずキャンパス内は全面禁煙である。
- ②自動車の校内乗り入れは禁止されている。
- ③駐輪は短大駐輪場以外は禁止されている。希望者は許可手続き（P.24参照）が必要である。
- ④休業中も含めて教室等の使用は、必ず事前に定められた手続きを行って使用すること。（P.60～参照）
- ⑤教室等の使用にあたっては、照明・空調等使用施設の後始末を確実に行うこと。

- ⑥貴重品は各自が責任を持って管理すること。ロッカーに鍵をかけなかった場合の事故等には学校は一切の責任を負わない。
- ⑦不審者を見たり異常を感じたら些細なことでも速やかに近くの教職員に知らせること。(P.281参照)
- ⑧キャンパスには幼稚園の園児や小学校の児童が生活している。よって弱者の安全確保には十分留意すること。
- ⑨その他、お互いに安全で快適な生活ができるよう自覚を持って行動するように心がけること。

#### 学園各校門の開閉時間

	通常	土曜日	日祝・閉鎖期間中	長期休暇中(月～土)
	開門時間	開門時間	開門時間	開門時間
正門	7:25～18:00	7:25～17:00	閉鎖	8:30～16:00
「自動車通用門」脇の 夜間等通用門	6:30～7:25	6:30～7:25	6:30～22:00	6:30～8:30
	18:00～22:00	17:00～22:00		16:00～22:00

※東門，初等部通用門は終日閉門

### Ⅲ. 卒業後の進路について

Toho Gakuen College of Drama and Music

#### 1 進路相談室について

本学では、進路相談室が設けられており、学生の卒業後の進路（就職，進学，フリーランスの活動等）に関する相談を行っている。

- (1) 就職を希望する学生に対して、就職に対する一般的心得全般，自己分析，面接練習，履歴書作成等について、個別に相談に応じている。新卒応援ハローワーク，ミュージキャリを活用しながら，幅広く求人情報を提供し，就職活動の支援を行っている。
- (2) 就職を希望せず，進学やフリーランスの活動を希望する学生に対しても相談に応じているので，学生は事前予約の上，相談を受けることが出来る。

#### 2 進学・編入学について

卒業後の進路として進学，編入学を希望する学生が増えている。進路相談室ではその方面に関する情報を収集しているので，興味・関心に応じてこれを活用することが望ましい。

##### (1) 本学専攻科への進学

本学芸術科には，専攻科演劇専攻，専攻科音楽専攻が設置されている。本科での学習を深め，より高度な専門的内容を学ぶことのできる2年間の課程である。

わが国では法令により，四年制大学と独立行政法人大学改革支援・学位授与機構のみが，学士の学位を授与することができる。本学専攻科は，同機構により大学の学士課程に相当する教育を行っているとして認定され，平成30年度より認定専攻科になった。所定の単位を修得し，「学修成果」を作成すれば，学位授与の申請ができる。審査に合格すれば，「学士（芸術学）」を取得できる。詳しくは，同機構が発行する資料『新しい学士への途』（2022年度版）を参照すること。

##### (2) 4年制大学への編入学

多くの大学から送付された大学案内を演劇専攻研究室前に置いているので，閲覧することができる。編入学試験には二種類あり，一般編入学試験と



指定校推薦編入学試験がある。一般編入学試験は各自で入学要項などを取り寄せ、受験するものである。指定校推薦編入学試験では、該当大学から本学宛に推薦依頼が届くものである。なお、指定校推薦編入学試験に合格した場合、入学辞退はできない。芸術関係の学部学科から編入学試験の案内が届くこともある。編入学に関して質問がある場合には、所属専攻の教員および進路相談室に相談すること。

### (3) 専門学校への進学

資格取得や技術修得を目指して、専門学校や各種学校へ進学する学生もいる。各学校から送付された資料は演劇専攻研究室前に置いている。

どのような進路を考えるにしても、本学2年間の学習を充実させることが基本となる。進学を希望する学生は、所属専攻の教員、あるいは進路相談室に相談し、進学先の内容についてよく知ることが大切である。

## 3 音楽専攻 卒業後の進路 について

音楽専攻の凝縮した2年間を終えた後、ここで身につけた能力や関心を強力なバネにして、それぞれが、実に多彩で発展的な進路をとっている。その中で、さらなる勉学の継続としては、本学専攻科への進学が3分の1、その他桐朋学園大学音楽学部（3年次編入）等他大学への編入が挙げられる。海外留学をする卒業生も増えており、留学先としては、ドイツ、オーストリア、イギリス、フランス、ハンガリー、アメリカ等がある。就職については、教職免許を取得し教員になる者、音楽教室で指導者になる者の他、本学で学んだことを基礎に、音楽療法士、保育士、バレエピアニスト等、幅広い領域で活躍している者が多くいる。また、コンクール入賞者も多く、たくさんの卒業生が演奏家として活躍している。

## 4 演劇専攻 卒業後の進路 について

日本における劇団の数は俳優座、文学座、青年座等の他、ミュージカルの劇団、若い小劇団も含め、東京だけでも1,500以上といわれその実数は把握されていない。

俳優として舞台に立つためには、所属劇団の公演での抜擢、自分達で劇団を結成しての上演活動、フリーもしくはプロダクション（芸能事務所）に所属して各種公演のオーディションを受けて「役につく」という方法等がある。

劇団やプロダクションによってその採用方法、研修期間・制度、待遇も異なる。まずなによりも大事なことは「自分の目標は何か？」という目的意識を明確にすること。劇団を選ぶ場合、まずその劇団の舞台を観劇し、その劇団の表現が自分の目的に合ったところであるか否かの判断が重要である。プロダクションの場合は資料を取り寄せるなどして主な実績を知る必要がある。「研修生制度」と称して多額の入所金を徴収する場合もあるので注意してほしい。1年次は、比較的時間にゆとりがあるので少しでも多くの舞台に接して勉強すること。必要な情報を集め、実際の創造現場の状況を把握した上で進路を決めることが大切である。

ここ数年の主な進路は次のとおりである。

[俳優座、文学座、青年座、円、四季、民藝、青年劇場、さいたまネクスト・シアター、虚構の劇団、劇団仲間、青年団、音楽座、ステップス、アミューズ、SCOT、コンドルズ、イツフォーリーズ、オリエンタルランド等]

また、一般就職を希望する場合は進路相談室に相談すること。演劇で培った能力は幅広い適応性を示している。

卒業後、さらに勉強を続けたい学生にはより専門性を高める専攻科がある。専攻科では年3回の劇上演実習やワークショップ等を通じて実践力を養っていく。

## 桐朋学園芸術短期大学学則

## 第1章 総 則

## (目 的)

- 第1条 本学は、教育基本法および学校教育法の精神にしたがい、芸術文化の専門的な研究と教育とに取り組み、現代社会における芸術文化の創造と発展に寄与する人材の育成を目的とする。
2. 本学の設置する各学科または専攻における人材の育成に関する目的その他教育研究の目的については別に定める。

## (目的達成と評価)

- 第2条 本学は、その目的及び社会的使命を達成するため、教育の水準、研究活動等の状況について、自ら点検および評価を行う。
2. 本学は、教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令第40条で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価をうけるものとする。
3. 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

## (教育内容等の改善)

- 第3条 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。
2. 前項の委員会については、別に定める。

## (名 称)

- 第4条 本学は、桐朋学園芸術短期大学という。

## (位 置)

- 第5条 本学の位置は、東京都調布市若葉町1丁目41番地の1とする。

## 第2章 組 織

## (学科・専攻課程)

- 第6条 本学に、次の学科を置く。
- 芸 術 科
2. 芸術科に、次の専攻課程を置く。
- 音 楽 専 攻
- 演 劇 専 攻

## (専攻科)

- 第7条 本学に、専攻科を置く。
2. 専攻科に、次の専攻課程を置く。
- 演 劇 専 攻
- 音 楽 専 攻

## (図書館)

- 第8条 本学に図書館を置く。

## (保健室)

- 第9条 本学に保健室を設け、学生および教職員の健康管理にあたる。

## (事務室)

- 第10条 本学に事務室を置く。
- 第11条 図書館、保健室および事務室に関して必要な事項は、別に定める。

## (職員組織)

- 第12条 本学に次の職員を置く。
- 学 長
- 教 授
- 准 教 授
- 講 師
- 助 手
- 事 務 職 員
- 技 術 職 員
- 司 書
- その他必要な職員



(教授会)

第13条 本学に重要事項を審議するため教授会を置く。

2. 教授会は学長、教授、准教授および専任講師をもって構成する。
3. 本条に定めるもののほか、教授会に関する事項は、教授会規程の定めるところによる。

(一般条項の学科適用)

第14条 第3章以後の条項は、特に付言する場合を除き、学科について適用するものとする。

### 第3章 学生定員および修業年限

(学生定員)

第15条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

専攻課程	入学定員	収容定員
音楽専攻	50名	100名
演劇専攻	70名	140名

(修業年限および在学年限)

第16条 本学の修業年限は2年とする。

2. 学生は4年を越えて在学することはできない。

### 第4章 学年、学期および休業日

(学年)

第17条 学年は4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第18条 学年を次の2学期に分ける。

前学期	4月1日から	9月30日まで
後学期	10月1日から	翌年3月31日まで

(休業日)

第19条 休業日は次のとおりとする。

日曜日	
国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日	
夏季休業	8月1日から 8月31日まで
冬季休業	12月23日から翌年1月4日まで
春季休業	3月21日から 3月31日まで
創立記念日	11月20日

2. 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
3. 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

### 第5章 入学、退学および休学

(入学の時期)

第20条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第21条 本学に入学することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があるとみとめた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第22条 本学に入学を志願する者は、本学所定の願書および必要書類に、検定料を添えて提出しなければならない。

#### (入学者の選考)

第23条 前条の入学志願者に対しては、入学試験を行い、入学を許可すべき者を定める。

2. 前項の入学試験に関しては、別に定める「入学試験規定」による。

#### (入学手続きおよび入学許可)

第24条 前条の選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本学所定の書類を提出するとともに、入学料等を納付しなければならない。

2. 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

#### (転学)

第25条 本学に転学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当学年次に入学を許可することがある。

2. 前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目および単位数の取扱いならびに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

#### (退学)

第26条 退学をしようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

#### (休学)

第27条 疾病その他やむを得ない事情により3ヵ月以上休学することのできない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2. 疾病のため休学することが適当でない認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

#### (休学の期間)

第28条 休学の期間は1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2. 休学の期間は通算して2年を超えることができない。

3. 休学の期間は、第16条の在学年限に算入しない。

#### (復学)

第29条 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。

#### (除籍)

第30条 次の各号の1に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第16条第2項に定める在学年限を超えた者
- (2) 第28条第2項に定める休学の期間を超えてなお修学できない者
- (3) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

## 第6章 教育課程、履修方法及び卒業等

### (教育課程及び授業科目)

第31条 本学の授業科目は教養科目と専攻科目とする。

2. 授業科目の種類、単位数等は別表第1のとおりとする。

### (教職に関する科目)

第32条 前条に定めるもののほか、教職に関する科目を置く。

2. 教職に関する科目の種類、単位数等は別表第2のとおりとする。

### (単位の計算方法)

第33条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については15時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については30時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については15時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実習・実技については45時間の授業をもって1単位とする。但し、別に定める授業科目については30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 個人指導による芸術科音楽専攻・演劇専攻、専攻科音楽専攻・演劇専攻の実技科目については、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (5) 芸術科演劇専攻、専攻科演劇専攻の劇上演実習については、集中的な研修による成果と準備を評価して、4単位を与える。
- (6) 卒業または修了の論文に対しては、その研究の成果と準備を評価して4単位を与える。

### (単位の授与)

第34条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(学修の評価)

第35条 試験等の評価は、S、A、B、C、Dの評語で表し、C以上を合格とする。

2. 成績と評価基準は、次のとおりとする。

学科・実技成績	評価
100-90	S
89-80	A
79-60	B
59-50	C
50未満	D

3. 前項の成績評価による学修成果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。

(卒業の要件)

第36条 本学を卒業するためには、2年以上在学し、別表第1に定めるところにより、62単位以上を修得しなければならない。

2. 卒業要件は最低修得単位数に加え、GPA (1.0以上) を判定基準とする。

(入学前の既修得単位の認定)

第37条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が入学する前に短期大学又は大学等において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 学生が入学する前に行った第39条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3. 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて15単位を超えないものとする。

(他の短期大学又は大学等における授業科目の履修等)

第38条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が他の短期大学又は大学等において履修した授業科目について修得した単位を、15単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2. 前項の規程は、学生が外国の短期大学又は大学に留学する場合に準用する。この場合修得したものとみなすことのできる単位数は、前項及び第39条第2項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

第39条 本学は、教育上有益と認める時は、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2. 前項により与えることができる単位は、前条第1項により修得したものとみなした単位数と合わせて15単位を超えないものとする。

(卒業)

第40条 本学に2年以上在学し、第36条に定める単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第41条 前条により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学学士の学位を授与する。

(資格の取得)

第42条 本学において取得することができる資格及び免許状の種類は次のとおりとする。

専攻課程	資格および免許状の種類
音楽専攻	中学校教諭2種免許状(音楽)

2. 前項の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和63年法律第106号)に定める単位数を取得しなければならない。

第43条 本章に定めるもののほか、教育課程、履修方法及び卒業等に関して必要な事項は別に定める。

## 第7章 検定料，入学料，授業料その他の費用

(検定料等の種類及び金額)

第44条 本学の検定料，入学料，授業料，その他の費用の種類と金額は次のとおりとする。

学費等種類	専攻課程	金額
検定料	全専攻	35,000円
	(但し，同一年度内に異なる入試種別で再受験する場合の2回目以降および一般入試で複数の専攻を併願する場合の2専攻目の検定料，または桐朋学園大学音楽学部を併願する場合の検定料は20,000円とする)	
入学金	音楽	入学時 420,000円
	演劇	入学時 330,000円
施設拡充費	全専攻	入学時 170,000円
授業料	音楽	年額 1,114,000円
	演劇	年額 989,000円
施設維持費	音楽	年額 80,000円
	演劇	年額 70,000円
学生諸費	全専攻	年額 32,000円
演習実習費	音楽	年額 45,000円
舞台実習費	演劇	年額 120,000円

(授業料等の納入期)

第45条 授業料，清掃冷暖房費等(以下授業料等という)は，学期区分に従い，次の期間に納入しなければならない。

前学期 4月16日より4月30日まで。但し，新入学生は入学手続日

後学期 9月16日より9月30日まで。

但し，納入期の最終日が金融機関休業日に当たる場合，その直前の金融機関営業日を最終期限とする。

2. 特別の事情があると認められる者には，延納または分納を認めることがある。

(退学および除籍の場合の授業料等)

第46条 学期の途中で退学または除籍された者の当該学期分の授業料等は徴収する。

(休学の場合の授業料等)

第47条 休学を許可された者については，その期間，以下に定める休学在籍料を納めなければならない。ただし，学期の中途から休学した者の当該学期分の授業料等は徴収する。

休学在籍料：半期60,000円 通年120,000円

(復学の場合の授業料等)

第48条 学期の中途において復学した者は，当該学期分の授業料等を納入しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料等)

第49条 学年の途中で卒業する者は，卒業する学期分の授業料等を納入しなければならない。

(既納入金の扱い)

第50条 一旦納入した検定料，入学料は原則として返還しない。一旦納入した施設拡充費，授業料等は，4月1日以降は原則として返還しない。

2. 在学生については，第1項の規定にかかわらず，学期末までに退学，休学が認められ，納入済の翌学期の授業料等があるときは，その授業料の全額を返還する。

## 第8章 科目等履修生，単位互換履修生，外国人留学生，委託生および長期履修生

(科目等履修生)

第51条 本学の授業科目の履修を希望する者があるときは，本学の教育に支障のない限りにおいて科目等履修生として履修を許可することがある。

2. 科目等履修生には，本学則第34条および第35条の規定を準用して単位を与えることができる。

(単位互換履修生)

第52条 桐朋学園大学音楽学部の学部生が本学の履修対象科目の履修を希望した場合，単位互換履修生として履修を許可することがある。

2. 単位互換履修生には，本学則第34条および第35条の規定を準用して単位を与えることができる。

(外国人留学生)

第53条 外国人で，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

(委託生)

第54条 公共団体またはその他の機関が、その所属職員の教育の委託を願い出たときは、本学の教育に支障がない限りにおいて、選考のうえ委託生として入学を許可することができる。

(長期履修生)

第55条 入学時に修業年限延長を申し出た者は長期履修生として1年の延長を許可する。修業年限は3年とし、在学年限は4年とする。  
履修方法、授業料等の納入については、別に定める。  
2. 前項の規定にかかわらず、教授会が特に認めた場合には、在学中であっても修業年限の延長を申し出ることができる。

(その他)

第56条 科目等履修生、単位互換履修生、外国人留学生、委託生および長期履修生に関し必要な事項は、別に定める。

## 第9章 専攻科

(本章の適用)

第57条 この章は、専攻科に関し必要な事項を定める。

(専攻課程および学生定員)

第58条 専攻科の専攻課程および学生定員は、次のとおりとする。

専攻課程	入学定員	収容定員
演劇専攻	20名	40名
音楽専攻	20名	40名

(修業年限)

第59条 専攻科の修業年限は各専攻2年とする。  
2. 専攻科の学生は、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。

(入学資格)

第60条 専攻科に入学することのできる者は、本学を卒業した者およびこれと同等以上の学力があると認められる者とする。

(授業科目)

第61条 専攻科の授業科目の種類、単位等は、別表第3のとおりとする。

(修了の要件)

第62条 本学専攻科を修了するための要件は、次のとおりとする。

専攻課程	在学年数	修得単位
演劇専攻	2年以上	50単位以上
音楽専攻	2年以上	50単位以上

2. 専攻科を修了した者に、修了証書を授与する。

(専攻科の検定料、入学料、授業料、その他の費用)

第63条 専攻科の検定料(審査料)、入学料、授業料、その他の費用は下表のとおりとする。

学費等種類	専攻課程	本学卒業生	一般公募生
検定料	全専攻	10,000円	10,000円
入学金	演劇 入学時	10,000円	165,000円
	音楽 入学時	10,000円	210,000円
施設拡充費	全専攻 入学時	0円	85,000円
授業料(年額)	音楽	999,000円	999,000円
	演劇	989,000円	989,000円
施設維持費	全専攻 年額	70,000円	70,000円
学生諸費	全専攻 年額	32,000円	32,000円
舞台実習費	演劇 年額	130,000円	130,000円
演習実習費	音楽 年額	45,000円	45,000円

(注) 一般公募生とは、本学卒業生以外の者をいう。

(授業料の納入期)

第64条 授業料等は学期区分に従い、次の期間に納入しなければならない。

前学期 4月16日より4月30日まで。但し一般公募生は入学手続日

後学期 9月16日より9月30日まで。

但し、納入期の最終日が金融機関休業日に当たる場合、その直前の金融機関営業日を最終期限とする。

(準用規定)

第65条 この章に定めるもののほか、専攻科学生に関し必要な事項は、学科学生に適用する関係条項を準用する。

## 第10章 賞 罰

(表 彰)

第66条 学生として表彰に値する行為のあった者は、教授会の議を経て学長が表彰する。

(懲 戒)

第67条 本学の規則に違反し、または学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2. 前項の懲戒の種類は、退学、停学および訓告とする。

3. 前項の退学は、次の各号の1に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

附 則 略

## 学位規程

(目 的)

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条及び桐朋学園芸術短期大学学則（以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）において授与する学位について必要な事項を定めるものである。

(付記する専攻分野)

第2条 本学において授与する学位は短期大学士とし、付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

音楽 Associate of Music

演劇 Associate of Drama

(学位授与の要件)

第3条 短期大学士の学位は、学則第41条の規定に基づき、本学を卒業した者に授与する。

(学位の授与)

第4条 学長は、教授会の議を経て、卒業を認定した者に対して、学位を授与し、学位記を交付するものとする。

(学位の名称)

第5条 本学の学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「桐朋学園芸術短期大学」と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第6条 学長は、学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚辱する行為があったときは、教授会の議を経て当該学位を取消することができる。

2. 学長は、前項の規定に基づき当該学位を取消したときは、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

附 則

1. この規程は、平成18年1月1日から施行する。

2. この規程の改廃については、教授会において行う。



## 桐朋学園芸術短期大学学生懲戒規程

### (目的)

第1条 この規程は、桐朋学園芸術短期大学学則第66条に基づき学生の懲戒に関する規程を定めることを目的とする。

### (懲戒の対象とする者)

第2条 この規程において懲戒の対象とする者とは、芸術科、専攻科に所属する学生（以下「学生」という。）のことをいう。  
2. 科目等履修生、および研究生の取扱いは各規程の定めによる。

### (懲戒の対象とする行為)

第3条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。  
(1) 犯罪行為等、社会的諸秩序に対する侵犯行為  
(2) 学生の本分に反し本学の秩序を乱す行為  
(3) ハラスメント行為  
(4) 情報倫理に反する行為  
(5) 学問的倫理に反する行為  
(6) 学生の学習、研究および教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為  
(7) 試験等における不正行為  
2. 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

### (懲戒の種類)

第4条 学則第66条第2項に定める懲戒は、次のとおりとする。  
(1) 退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。  
(2) 停学は、一定期間、学生の教育課程の履修および課外活動等を停止するものとする。  
(3) 訓告は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

### (停学の期間)

第5条 停学の期間は、無期もしくは原則1か月以上6か月以下の有期とする。  
2. 期間については、対象とする行為等で勘案するものとする。

### (事実関係の調査)

第6条 懲戒の対象となる行為またはその疑いが生じたときは、当該専攻は、遅滞なく当該学生等に対する事情聴取等の調査を行い、事実関係を確認し、学生・安全対策委員会に報告しなければならない。  
2. 前項の調査にあたり、学生・安全対策委員会は、事前に学生に対して、要旨を口頭または文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。  
3. 前項の定めにかかわらず、行為が重大犯罪であり、明白と認められる等特段の事情がある場合は、この限りではない。

### (懲戒決定までの手続き)

第7条 学生部長は、前条の事実関係の調査により、懲戒が相当と判断した場合、懲戒手続きを開始する。  
2. 学生部長は、学生・安全対策委員会において懲戒の原案を作成し、運営委員会で調整のうえ、教授会を経て学長に上申する。

### (懲戒の発効)

第8条 懲戒は、教授会を経て学長が行う。  
2. 懲戒は、学生に対して懲戒内容を文書で発信した日から発効する。

### (学生への通告および保証人への通知)

第9条 学長は、学生に対し懲戒の内容を文書により通告する。  
2. 学長は、学生の保証人に対し懲戒の内容を文書により通知する。

### (公示)

第10条 懲戒を行った場合、学長は遅滞なく公示を行う。  
2. 公示する事項は、所属、学年、懲戒の種類、懲戒理由とする。  
3. 公示期間は、原則1か月とする。

### (無期停学の解除)

第11条 無期停学は、懲戒の発効日から6か月を経過した後でなければ解除できない。  
2. 無期停学解除の学生への通告、保証人への通知は、文書で行う。

(懲戒に関する記録)

第12条 学生部長は、懲戒の事実を学籍簿に記録する。

(不服申立て)

第13条 懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日から1週間以内にその懲戒に対する不服申立てを行うことができる。

2. 不服申立てをしようとする学生は、不服申立書を学長に提出しなければならない。

(不服申立審査について)

第14条 学長は、前条の不服申立てに基づき不服申立審査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

2. 委員会は、学生・安全対策委員会から学生部長が招集する委員と、不服申立てを行った学生が所属する専攻主任で構成する。

3. 委員会が必要と認める場合は、弁護士等学外有識者の出席を求めることができる。

4. 不服申立てをした学生は、書面で意見を述べ、資料を提供することができる。

5. 委員会は、懲戒の内容が相当であると判断した場合は、不服申立ての却下を求める旨の勧告を学長に行う。

6. 委員会は、懲戒の内容が相当でないと判断した場合は、懲戒の取消しまたは変更を求める旨の勧告を学長に行う。

(不服申立に対する措置)

第15条 学長は、前条第5号の勧告を受けた場合には、不服申立てを却下する旨を申立てた学生に通知する。

2. 学長は、前条第6号の勧告を受けた場合には、学生部長に対し、学生・安全対策委員会の協議を経て、新たな懲戒原案を作成するよう指示する。

3. 学生部長は学生・安全対策委員会においてあらたな懲戒原案を作成し、再度教授会を経て学長に上申する。

(懲戒対象者の退学申し出の取扱い)

第16条 学長は、第9条において事情聴取等調査の対象となった者から、懲戒の決定前に退学の申し出がある場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。

(停学期間中の指導)

第17条 停学期間中は教育的指導を行う。

2. 学長は、教育的指導に必要と判断される場合、学生の施設利用および正課授業への参加を認めることができる。

(補 則)

第18条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたって必要な事項は、別にこれを定める。

(改 廃)

第19条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

1. この規程は平成27年4月1日より施行する。

## 図書館利用規程(抄)

(開館時間) 図書館の開館時間は次のとおりとする。

(1) 月曜日～金曜日 午前10時～午後6時30分

(2) 土曜日 午前10時～午後3時

2. 館長は必要に応じて開館時間を延長または短縮することがある。

(館外利用)

本学は、次の各号により、教職員及び学生に対して資料の貸出を行なう。

(1) 資料(図書・楽譜・雑誌)については次のとおりとする。

イ. 学生 冊数10冊まで、期間は2週間以内とする。

(但し、2年生は2月10日(閉館日の場合はその翌日)を最終返却日とし、それ以降の貸出は行わない)

ウ. 専攻科学生 冊数10冊まで、期間は1か月以内とする。

(但し、2年生は2月10日(閉館日の場合はその翌日)を最終返却日とし、それ以降の貸出は行わない)

(2) その他の資料については別に定める。

(3) 長期休暇前の貸出期間・冊数については別に定める。

2. 学生の卒業、休学及び退学の際は、館外貸出中の図書館資料を直ちに返却するものとする。

(未返却の図書館資料がある場合、卒業、休学及び退学が承認されないこともある)

3. 図書館から借りた資料は、他の利用者に貸してはならない。

4. 図書館は次の資料は原則として貸出を認めない。

(1) 参考図書

- (2) 映像資料
- (3) 貴重資料
- (4) その他特別に指定した資料

#### (視聴覚資料・機器の利用)

利用者は、視聴覚資料ならびに機器を所定の手続きにより、図書館内で利用することができる。

#### (複 写)

利用者は、本学所蔵資料の複写を所定の手続きにより行なうことができる。

ただし次の資料は複写することはできない。

- (1) 著作権法に抵触するもの
- (2) 館長が不相当と認めたもの

#### (相互利用)

本学における他の図書館等の利用については次のとおりとする。

- (1) 館長は必要に応じて当該機関に対して利用依頼等を行なう。
- (2) 経費は利用者負担とする。

#### (館内規律)

利用者は次のことを守らなければならない

- (1) 静粛にすること
- (2) 他の利用者の迷惑になるような行為をしないこと
- (3) 館員の指示にしたがうこと
- (4) 資料の無断持ち出しをしないこと

2. 前各号を守らない場合は退館を求めることがある。

#### (弁 償)

利用者は、利用中の資料、機器を紛失、毀損または汚損した場合は弁償しなければならない。弁償は現物弁償を原則とするが、不可能な時は時価弁償とする。

#### (貸出停止)

館長はこの規程に違反した者に対しては、図書館の利用を制限または停止することがある。

## 科目等履修生規程

### 第1章 総 則

#### (目 的)

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、科目等履修生に関する取扱いについて定める。

#### (趣 旨)

第2条 本学において開講する授業科目の履修を希望する者があるときは、当該専攻等の授業及び研究の妨げのない限り、科目等履修生として履修を許可することができる。

### 第2章 出願手続・履修の許可・履修料・履修期間

#### (出願資格)

第3条 科目等履修生として出願できる者は、芸術科においては本学入学の資格を有する者とする。専攻科においては本学を卒業した者、またはこれと同等以上の学力を有する者。ただし、教職に関する科目については、本学卒業または修了した者とする。

#### (出願期間)

第4条 願書の受付期限は、原則として前年度末日までとする。

#### (出願手続)

第5条 出願する者は、次に定める書類を提出しなければならない。また、単位認定を希望する者は別表に定める選考登録料を納入しなければならない。

単位認定を希望する者

ア. 科目等履修生願書

イ. 最終出身学校の卒業証明書（卒業見込証明書）

単位認定を希望しない者

ア. 科目等履修生願書

(履修の許可)

第6条 履修については、30単位以内とし、当該授業科目担当教員の承諾を得るとともに、当該専攻会議等で審査のうえ、教授会の議を経て学長が許可する。

(履修の始期)

第7条 履修の開始は、学年または後学期の初めとする。

(履修料)

第8条 履修を許可された者は別表に定める履修料を所定の期日までに納入し、科目等履修生証の交付を受けなければならない。

(履修期間)

第9条 履修期間は原則として6か月または1カ年以内とする。

### 第3章 単位の認定

(単位算定基準)

第10条 履修単位の算定基準は、履修した授業科目における本学の学生の算定基準に準ずる。

(単位の認定)

第11条 単位の認定は、履修した授業科目の担当教員の指定する試験または報告、論文、作品等により、当該担当教員の評価に基づき、教授会の承認を経て決定する。

(教員免許状の単位)

第12条 科目等履修生の修得した単位は、教育職員免許法施行規則第20条の規定により、認定された単位とすることができる。

### 第4章 その他

(準用規定)

第13条 この規程に定めるもののほかは、本学学生に関する規程を準用する。

(規程の改廃)

第14条 この規程の改廃については、教授会において行なう。

附 則

1. この規定は、令和3年4月1日から施行する。

【別 表】

選考登録料及び履修料

選考登録料（単位認定希望者のみ必要）	35,000円
履修料（1単位あたり）	12,500円
教育実習関係手数料	35,000円
第一実技履修料（単位認定対象外）	200,000円
第二実技履修料（単位認定対象外）	160,000円
歌唱（個人レッスン）A／B（単位認定対象外）	120,000円

## 科目等履修生（高大連携）規程

### 第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規定は、本学学則第51条2の規定に基づき、科目等履修生（高大連携）に関する取扱いについて定める。

(趣 旨)

第2条 桐朋女子高等学校音楽科に所属する高校生が、桐朋学園芸術短期大学音楽専攻（以下「本学」という）の授業科目の単位の修得を希望するときは、当年度の科目等履修生（高大連携）として受け入れる。

2. 桐朋女子高等学校音楽科より推薦された履修生候補者のうちから、所定の手続きを経て履修生を決定する。

## 第2章 学費・単位の認定

(学費等)

第3条 本規定に基づき受け入れた生徒の学費等（入学科、検定料、授業料、手数料等）は、原則として徴収しない。ただし、実技個人レッスン料は別途徴収する。

(履修単位)

第4条 本学が許可する授業科目および、認定することのできる単位数は、別に定める。

(単位の認定)

第5条 教授会は、受講が認められた科目について、学年末の試験等により単位を認定する。  
2. 前項に定める成績及び単位を学年末に桐朋女子高等学校音楽科あてに通知するものとする。  
3. 本規定により認定された単位は、本学に入学した際、本学の学則に則り単位を認定する。

附 則

1. この規定は、平成30年4月1日から施行する。

### 単位互換履修生規程

## 第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規定は、本学学則第52条の規定および、桐朋学園芸術短期大学と桐朋学園大学音楽学部とにおける単位互換に関する協定書に基づき、桐朋学園芸術短期大学単位互換履修生の受け入れ方法及び履修科目その他について定めることを目的とする。

(趣 旨)

第2条 桐朋学園大学音楽学部の学部生が桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という）の授業科目の単位の修得を希望するときは、当年度の単位互換履修生として受け入れる。  
2. 本学は、桐朋学園大学音楽学部より推薦された履修希望者のうちから、所定の手続きを経て履修生を決定する。

## 第2章 学費・単位の認定

(学費等)

第3条 本規定に基づき受け入れた学生の学費等（入学科、検定料、授業料、手数料等）は、原則として徴収しない。

(履修単位)

第4条 本学が許可する授業科目および、認定することのできる単位数は、別に定める。  
2. 本学が履修を許可する授業科目は、桐朋学園大学音楽学部との協議によって定める。

(単位の認定)

第5条 教授会は、受講が認められた科目について、学年末の試験等により単位を認定する。  
2. 前項に定める成績及び単位を学年末に桐朋学園大学音楽学部あてに通知するものとする。

(遵守義務等)

第6条 単位互換履修生は、本学の学則及びその他の規則を遵守しなくてはならない。

附 則

1. この規定は、平成30年4月1日から施行する。

## 音楽専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）

### 第1章 総 則

#### （目 的）

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、音楽専攻研究生に関して必要な事項を定めることを目的とする。

#### （趣 旨）

第2条 本学専攻科音楽専攻を修了、または桐朋学園大学音楽学部を卒業した者で、なお特定の専修実技等の研究を深めようとする希望者があるときは、実技審査、及び書類審査の上、研究生として履修を許可することができる。

### 第2章 出願・履修期間・履修料等

#### （履修開始）

第3条 履修開始は、原則として学年初めとする。

#### （履修期間）

第4条 履修期間は、原則として一年間とする。ただし、研究のため引続き履修する希望がある場合は、さらに一年に限り延長を認めることがある。

#### （履修資格）

第5条 履修資格は、本学専攻科音楽専攻を修了、または桐朋学園大学音楽学部を卒業した者とする。

#### （履修科目）

第6条 第一実技の他に、本学専攻科音楽専攻の開設科目を所定の手続きを経て履修することができる。ただし、第二実技は履修料を別途徴収する。

#### （履修料）

第7条 音楽専攻研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| (1) 審 査 料 | 5,000円               |
| (2) 授 業 料 | 435,000円             |
| (3) 実 習 費 | 45,000円（合計 485,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

#### （研究生証・修了証）

第8条 研究生には履修手続終了と同時に研究生証を交付する。

第9条 修了コンサートをもって研究生修了とみなす。なお、修了コンサートの出演には第一実技担当者と音楽専攻の承認を必要とする。

第10条 研究生を修了した者に、修了証を発行し、履修の成果を認証する。

#### （特別研究生）

第11条 研究生として二年以上在籍して修了した者で、なお研究を深めようとする者があるときは、特別研究生として履修を許可することができる。

2. 特別研究生は、第一実技の他に、決められた専攻科の科目の中から2科目まで履修することができる。

#### （特別研究生履修料）

第12条 音楽専攻特別研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| (1) 審 査 料 | 5,000円               |
| (2) 授 業 料 | 275,000円             |
| (3) 実 習 費 | 45,000円（合計 325,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

#### （規程の改廃）

第13条 この規程の改廃については、教授会において行う。



## 演劇専攻研究生規程（科目等履修生に準ずる）

### 第1章 総 則

（目 的）

第1条 この規程は、本学学則第51条の規定に基づき、演劇専攻研究生に関して必要な事項を定めることを目的とする。

（趣 旨）

第2条 本学専攻科演劇専攻を修了した者で、なお特定の実技等の研究を深めようとする希望者があるときは、書類審査の上、研究生として履修を許可することができる。

### 第2章 出願・履修期間・履修料等

（履修開始）

第3条 履修開始は、原則として学年初めとする。

（履修期間）

第4条 履修期間は、原則として一年間とする。ただし、研究のため引き続き履修する希望がある場合は、一年ごとに審査の上、最長四年間まで期間の延長を認めることがある。

（履修資格）

第5条 履修資格は、本学専攻科演劇専攻を修了した者とする。

（出願者）

第6条 履修希望者は、あらかじめ専攻主任の承認を得た上で出願しなければならない。専攻主任は面接の上、承認を与えないこともある。

（履修科目）

第7条 本学専攻科生の受講することのできる科目のうち、20単位分に限り、所定の手続きを経て履修することができる。単位の認定をあわせて行う。

（履修料）

第8条 演劇専攻研究生の履修料（年額）は次のとおりとする。

- |         |                       |
|---------|-----------------------|
| (1) 審査料 | 5,000円                |
| (2) 授業料 | 100,000円              |
| (3) 実習費 | 220,000円（合計 325,000円） |

なお、既納の履修料等は、事由のいかんにかかわらず返還しない。

また、特別の事情があると認められる者には、延納または分納を認めることがある。

（研究生証・修了証）

第9条 研究生には履修手続終了と同時に研究生証を交付する。

第10条 研究生を修了した者に、修了証を発行し、履修の成果を認証する。

（規程の改廃）

第11条 この規程の改廃については、教授会において行う。

## 学外発表・出演、および学内演奏会関連規則

(1) 学外演奏発表規則（芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻）

① 学生が学外で演奏または発表を行う際には、次の規定に従わなくてはならない。

- 許可を必要とするもの：入場料、出演料等の有無にかかわらず、あらゆる公開演奏会、門下生発表会、コンクール、放送テレビ等での発表出演に際し、自己の氏名または大学名を明示する場合。
- 届出のみ必要なもの：上記すべての演奏発表のうち自己の氏名または大学名を明示しない場合。
- 許可を必要とするものについては音楽研究室にある所定の許可願用紙に必要事項を記入し、専攻実技担当教員ならびに専攻主任の承認を得たうえ、演奏発表の1週間前までに音楽研究室に提出して許可を得ること。
- 届出のみを必要とするものについては、所定の届出用紙に必要事項を記入の上、事前に音楽研究室へ提出すること。

② 学生としてふさわしくない演奏会、発表会、また演奏の技倆、内容が未熟であると判断された場合、もしくは出欠席その他学業に多大の支障が生ずる場合においては、演奏、出演を許可しないことがある。

③ 上記の規定に従わない学生に対しては、学則の定めるところにより懲戒処分を行うことがある。

## (2) 学外出演規則（芸術科演劇専攻・専攻科演劇専攻）

- ① 学生が学外で演劇・映画・放送・商業写真およびそれに類するものへ出演する際は、履修登録期間内に出演許可願を演劇研究室に提出して許可を得ること。出演許可は、出演内容および出演申請者の状態などを考慮してその決定を行う。ただし、その稽古・リハーサルが履修登録期間以前に開始される場合、出演許可願は稽古・リハーサル開始の1ヵ月前までに提出すること。出演許可は、出演内容および出演申請者の状態などを考慮してその決定を行う。
- ② 舞踊・声楽などの発表会出演は、出演2週間前までに出演許可願を演劇研究室に提出して許可を得ること。
- ③ 単位認定を行う芸術科科目「劇上演実習C」「劇上演実習D」及び専攻科科目「劇上演実習E」「劇上演実習F」を履修する場合は他に手続きがある。
- ④ 上記の規定に従わない学生に対しては、学則の定めるところにより懲戒処分を行うことがある。

## (3) 芸術科音楽専攻学内演奏会規則

- ①（目的）

この演奏会は、学生が互いに音楽を探究しあい、日々の勉強の積み重ねを認識し、かつ、ステージ演奏の経験と聴衆としての経験を深めるために、開かれるものである。

出演者は、演奏曲目に対して全力を尽くし、聴く学生は、積極的に集中して聴くことを通し、音楽体験を豊かにすることを目的とする。
- ②（実施要領）
  - (a) この演奏会は公開とし、授業の一環として、学生は全員出席することを原則とする。
  - (b) この演奏会は前期、後期各1回行われる。
  - (c) 演奏者は2年次生とする。
  - (d) 演奏者は原則として音楽専攻会議において実技の成績上位者から選ばれる。
  - (e) 出演者は、出演決定後、所定の期日までに音楽研究室で必要な手続きをすませること。

## (4) 専攻科音楽専攻学内演奏会規則

- ①（目的）

この演奏会は、本科の勉強の積み重ねをさらに発展させ、より高度なステージ演奏の経験と、集中して音楽を聴く経験を深めるために、開かれるものである。
- ②（実施要領）
  - (a) この演奏会は公開とし、授業の一環として、学生は全員出席することを原則とする。
  - (b) 1年次生、2年次生とも、必修単位として全員出演する。
  - (c) 2年次生で卒業演奏会に出席する者は出演を免除される。  
ただし、卒業演奏会と異った曲目を用意し、積極的に希望する場合に限り重複出演を認める。
  - (d) 出演者は、所定の期日までに、音楽研究室で必要な手続きをすませること。

## 学費の滞納・延納の処理に関する手続について

授業料等の納入に関して、指定納入期限を過ぎても納入していない学生（滞納者）および納入期限の延長を願い出た学生（延納者）に対する具体的な処理は以下の手続きによって行う。

### I. 事前報告と対応

1. 経理課長は、学生の授業料等の納入状況について、定期的に短大教学課長に報告し、短大教学課長は、各専攻に報告する。
2. 各専攻の教員は前項の報告に基づき、授業料等の納入に支障をきたしている学生に対応する。必要のある場合は運営委員会に報告し、助言を得る。

### II. 滞納者

1. 第1回文書催告  
指定納入期限を過ぎても、未納であることが確認され次第、納入期限を示して、経理課長名をもって保証人あて文書による催告を行う。納入期限は、前期分については5月末日、後期分については10月末日とする。
2. 第2回文書催告  
第1回文書催告に示した納入期限を過ぎても納入していない学生に対しては、新たな納入期限を示して、学長名をもって保証人あて文書による催告を行う。  
この場合、その納入期限までに納入しなかったときには、学則第30条の適用を受けることがある旨を併記する。納入期限は、前期分については6月末日、後期分については11月末日とする。
3. 滞納者の処分  
第2回文書催告によっても、その納入期限までに納入しない学生については、学長は教授会に諮って除籍処分とする。ただし、教授会が、特別の事情があると認めるときは、除籍に代えて他の措置を講ずることができる。

### III. 延納者

1. 延納を申し出た学生には前期分については4月末日までに、後期分については9月末日までに所定の「延納許可願」を短大教学課に提出させる。
2. 延納の納入期限は、前期分については6月末日、後期分については11月末日とする。
3. 新規入学生の前期分授業料等の延納は認めない。

4. 納入期限までに納入しない学生については、学長は教授会に諮って除籍処分とする。ただし、延納期間に再び延納を申し出た場合は、学長の判断でこれを考慮する。
5. 専攻科学生には、学則第63条に定める授業料等の納入期間の最終日を指定納入期限として、この手続きを準用する。ただし、一般公募による新規入学生の前期分授業料等については、この手続きを準用しない。
6. 研究生には、4月末日を指定納入期限として、この手続きを準用する。

## 桐朋演劇奨学会規程

(名称)

第1条 本会は桐朋演劇奨学会と称する。

(目的)

第2条 本会は成績優秀にして、本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とする。

(女子部門奨学会への繰り入れ)

第3条 前条の目的のために、本会は、各年度において奨学金給付相当額を桐朋学園女子部門奨学会に繰り入れる。

(財源)

第4条 奨学金の財源は、有志の寄附金をもってこれにあてる。

(運営)

第5条 本会の会長は桐朋学園芸術短期大学（以下、「本学」という）学長がこれにあたり、運営は本学教職員によって行う。

(奨学生の資格)

第6条 芸術科演劇専攻2年次生および専攻科演劇専攻生（特待生は除く）である。

なお、特別な例を除き、当該年度において本奨学金を一度受給している者は、原則として申し込むことができない。

(奨学生の募集及び内容)

第7条 前期、後期の2回にわたり募集し、奨学金は半期授業料相当分または半期授業料の半額相当分とする。

(奨学金の申請)

第8条 次の書類を募集期間に事務局に提出する。

1. 奨学金申請書（所定用紙）
2. 家庭調書（所定用紙）
3. 収入証明書（源泉徴収票等）

(奨学生の選考及び発表)

第9条 奨学生の選考は本会が行い、その決定は、本人に通知するとともに本学掲示板に告示する。

(奨学生の選考基準)

第10条 奨学会の選考は次の基準を以て行う。

1. 家計困窮度が高く、修業の継続が困難な者。
2. 熱意をもって学業に取り組み、申請時において最短の修業年限で卒業・修了できる見込みがある者。

(奨学生の資格喪失)

第11条 奨学生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、専攻会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定し、返金を求めることができる。

1. 退学または除籍となったとき
2. 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき
3. 学業成績が不良のとき
4. その他奨学生として適当でないと認められたとき

(奨学金の返還)

第12条 奨学生は、第10条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

附 則

1. この規程は平成26年4月1日より改正施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

## 附 則

1. この規程は令和2年10月1日より改正施行する。

## 桐朋音楽奨学会規程

### (名 称)

第1条 本会は桐朋音楽奨学会と称する。

### (目 的)

第2条 本会は成績優秀にして、本学在学中に経済的困窮に陥った者を援助することを目的とする。

### (女子部門奨学会への繰り入れ)

第3条 前条の目的のために、本会は、各年度において奨学金給付相当額を桐朋学園女子部門奨学会に繰り入れる。

### (財 源)

第4条 奨学金の財源は、有志の寄附金をもってこれにあてる。

### (運 営)

第5条 本会の会長は桐朋学園芸術短期大学（以下、「本学」という）学長がこれにあたり、運営は本学教職員によって行う。

### (奨学生の資格)

第6条 芸術科音楽専攻2年次生および専攻科音楽専攻生（特待生は除く）である。  
なお、特別な例を除き、当該年度において本奨学金を一度受給している者は、原則として申し込むことができない。

### (奨学生の募集及び内容)

第7条 前期、後期の2回にわたり募集し、奨学金は半期授業料の半額相当分とする。

### (奨学金の申請)

第8条 次の書類を募集期間に事務局に提出する。

1. 奨学金申請書（所定用紙）
2. 家庭調書（所定用紙）
3. 収入証明書（源泉徴収票等）

### (奨学生の選考及び発表)

第9条 奨学生の選考は本会が行い、その決定は、本人に通知するとともに本学掲示板に告示する。

### (奨学生の選考基準)

第10条 奨学会の選考は次の基準を以て行う。  
1. 家計困窮度が高く、修業の継続が困難な者。  
2. 熱意をもって学業に取り組み、申請時において最短の修業年限で卒業・修了できる見込みがある者。

### (奨学生の資格喪失)

第11条 奨学生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、専攻会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定し、返金を求めることができる。  
1. 退学または除籍となったとき  
2. 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき  
3. 学業成績が不良のとき  
4. その他奨学生として適当でないと認められたとき

### (奨学金の返還)

第12条 奨学生は、第10条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

## 附 則

1. この規程は平成26年4月1日より施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

## 附 則

1. この規程は令和2年10月1日より改正施行する。

## 桐朋学園芸術短期大学専攻科特待生規程

### (目的)

第1条 桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）では、本学芸術科から本学専攻科（演劇専攻・音楽専攻）への進学を積極的に奨励するとともに、学生のさらなる勉学意欲の向上を企図して、学業奨励金を給付する。

### (特待生)

第2条 この規程により、学業奨励金の給付を受ける学生を特待生という。

2. 特待生は、以下の期間の成績ならびに勉学への取り組み姿勢等を評価の対象とし、年間10名以内とする。

- (1) 1年次後期待待生は、芸術科および専攻科1年次前期までの成績
- (2) 2年次前期待待生は、芸術科および専攻科1年次の成績

### (特待生の決定)

第3条 各専攻会議は、専攻科入学人数を勘案したうえで、専攻科入学定員（音楽（20）、演劇（20））を基準に候補者を選抜し、学科会議を経た上で、前条第2項（1）については6月教授会、（2）については11月教授会で審議・決定する。

2. 特待生として決定した学生には、本人宛てに通知する。

### (他の奨学金との関係)

第4条 特待生の選抜にあたっては、同時期に桐朋演劇奨学会および桐朋音楽奨学会奨学生として奨学金の給付を受けている者は対象としない。

### (学業奨励金)

第5条 学業奨励金は1名につき100,000円とする。

2. 給付は、各専攻の授業料等納入金から、前項の金額を減ずる形で措置する。授業料等納入金を既に納めている場合は、返金する形で措置する。

### (特待生の資格喪失)

第6条 特待生が次の各号のいずれかに該当したと認められた場合は、学科会議および教授会の議を経て、その資格の喪失を決定することができる。

- (1) 退学または除籍となったとき
- (2) 学則及び学生規程による懲戒処分を受けたとき
- (3) 学業成績が不良のとき
- (4) その他特待生として適当でないと認められたとき

### (学業奨励金の返還)

第7条 特待生は、第6条に定めるいずれかの項に抵触した場合、資格を喪失し、給付された金額を返還しなければならない。

### 附 則

1. この規程は平成26年4月1日より改正施行する。
2. この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

## 桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が原因で被災した桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）の学生に対し、緊急の経済支援として「桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金」（以下「奨学金」という。）を支給することに関し必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 この規程は、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）により被災した正規学生（以下「被災学生」という。）に対し、奨学金を支給することにより、学業の継続を支援することを目的とする。

### (適用対象者)

第3条 この規程は、保証人が東日本大震災の災害救助法適用地域に居住し、被害状況が下記のいずれかにあたる学生を対象とする。

1. 家屋の全半壊、流失
2. 避難所生活を余儀なくされている場合（原発事故によるものも含む）
3. 家計支持者の死亡・行方不明
4. 東日本大震災による直接被害により、家計支持者の年収が激減した場合



(支給額)

第4条 授業料等の免除は、次の各号に掲げる基準により行う。

- (1) 全額免除  
家屋全壊、家計支持者の死亡、学資負担者失職又は計画的避難区域外への避難のいずれかに該当する場合
  - (2) 半額免除  
住家半壊又は学資負担者負傷の場合
- 2 前項第1号及び前項第2号いずれにも該当しない場合は、桐朋学園芸術短期大学被災学生支援奨学金選考委員会（以下「委員会」という。）にて審議する。

(支給期間)

第5条 支給期間は、本規程の適用を受ける者が在学する課程の修業年限又は標準修業年限に相当する期間を上限とする。

(授業料等の返還)

第6条 被災後に納付した授業料等が免除された場合は、所定の様式による申請に基づき、納付済の当該授業料等を返還する。

(申請手続及び審査)

第7条 奨学金の支給を受けようとする者は、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 東日本大震災被災学生に対する入学料・授業料免除申請書
  - (2) 家庭調書、罹災証明書等、被害の程度を認定し得る書類や資料等
- 2 免除の審査は、委員会が行う。

(免除の取消し)

第8条 授業料等の免除を受けている者が、次の各号に該当する場合は、委員会の議を経て免除を取り消す。

- (1) 免除を必要としなくなった場合
  - (2) 免除申請について虚偽の事実が判明した場合
  - (3) 退学・除籍により学籍を失った場合
- 2 前項により授業料等免除を取り消された者は、速やかに授業料等を納付しなければならない。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は教授会の議を経て行う。

附 則

この規程は平成24年4月1日から施行する。

## 校舎施設の使用について

本学諸施設の学生による使用については、本学の学生による自主練習などのための使用にのみ許可される。

(1) 一般教室・実習室の使用規程要旨

●平日・土曜の使用

○使用教室

一般教室	新館	2111 2112 2211 2212
	旧館	2101 2102 2301 2302 2303 2304 2305
実習室	新館	小劇場 第1実習室 第2実習室
	旧館	ライブスタジオ
	別棟	第3実習室 第4実習室 スペース桐朋 N111(※)

- 使用時間 8時30分～21時50分（第4実習室・スペース桐朋 21時30分） ※音楽専攻の学生は1人1回2時間まで  
～22時30分（劇上演実習稽古に限り）  
～23時00分（劇上演実習関係の搬入搬出に限り）  
※7時30分～8時30分の使用は、鍵の開閉が不用な教室に限り「早朝使用表」に記入し、他は通常どおりとする。  
ただし、使用時間にはカウントしない。  
※N111の使用は17時00分～21時30分（行事関係等で使用できない場合がある）



○使用手続

1. 申込時間 平日 8時30分～16時20分 土曜 8時30分～12時30分  
使用当日の一般教室のみ、上記申込時間以降21時まで、警備員の許可にて使用可
2. 申込方法 ①使用の前日及び当日、『教室使用状況一覧表』『教室使用届』に所定事項を記入する  
②研究室で教員、助手の承認印を得る（不在時のみ教学課で対応）  
③承認済の『教室使用届』を『使用予約 教室等使用届』ファイルに綴じる  
④予約した日時に教室を使用する際、上記③で綴ったファイルから『教室使用届』をとりだし、  
ドアの所定場所に表示する  
⑤使用後は『使用済み 教室等使用届』ファイルに綴じる  
⑥朝の申込みについては、7時30分に窓口にて所定の予約順番表を出す。8時30分より記入順に予約する。  
※『教室使用状況一覧表』及び『使用予約 教室等使用届』及び、『使用済み 教室等使用届』の  
保管場所は以下のとおり  
【月～金】 8時30分～16時00分 ⇒ 教学課窓口  
16時00分～21時50分 ⇒ 短大警備室  
【土曜日】 8時30分～12時00分 ⇒ 教学課窓口  
12時00分～21時50分 ⇒ 短大警備室  
【休日】 終日 ⇒ 本館警備室

●休日の使用

- 使用教室 新館の一般教室・実習室および第3実習室
- 使用時間 9時00分～18時00分 ※音楽専攻、演劇専攻学生共に1人1日4時間まで  
～21時00分（劇上演実習稽古に限り）  
8時30分～21時50分（上記の開演日の2週間前から）

○使用手続

1. 申込時間 平日 8時30分～16時20分 土曜 8時30分～12時30分
2. 申込方法 平日と同じ  
ただし、休日は使用当日の申込ができないため、休前日に予約する

●休業期間中（春季・夏季・冬季）の使用

- 使用教室 旧館/新館の一般教室・実習室およびスペース桐朋・ライブスタジオ・第3・4実習室・N111  
期間中の土曜、日曜、休日、及び8/12～16、12/29～1/3の学園閉鎖期間は使用できない。
- 使用時間 9時00分～18時00分  
～21時50分（劇上演実習稽古に限り）
- 使用手続 申込期間・申込方法を休業期間前に掲示にて連絡する。

●その他

1. 複数名で使用する場合は、『教室使用届』に同伴者の氏名を記入すること。ただし、学外の同伴者は認めない。
2. 原則として22時までに学外へ出ること（休日及び休業期間中は18時まで）。
3. 原則として小劇場・第1・2・4実習室は演劇専攻以外の学生は使用できない。
4. 第4実習室及びスペース桐朋はグループ（団体）3名以上の使用とする。
5. 2303、2304、2305教室は18時00分までピアノ使用不可とする。
6. レッスン室・練習室が空いている場合には、ピアノ等の練習のため、少人数での一般教室の使用を控えること。
7. ピアノ使用後は、必ず蓋をして、カバーを掛けること。故意に傷つけた場合は、弁償すること。
8. 教室に置いている備品は原則として使用できない。
9. 使用を取り消す場合は、教学課又は警備員に連絡すること。
10. 16時以降（土曜12時以降）の使用終了後は、警備員詰所のホワイトボードに終了時間を記入すること。
11. 旧館3階のロビーで練習の為の音出しは上の階の図書館に影響が及ぶため、禁止。
12. 第3実習室での楽器使用不可。
13. 音楽専攻以外の学生が2301教室を使用する場合は、1回あたりの時間制限を音楽専攻学生と同様とする。
14. 身の安全に注意し、異変等に気づいたら、教学課又は警備室まで連絡する。
15. 戸締り、消灯、空調（暖房機）の節電を必ず行う。
16. 平日・土曜日使用申込をした学生が、しかるべき理由なしに教室を継続して20分以上空けた場合は、権利を放棄したものとみなし、他の学生が所定の手続きを経て使用することができる。
17. 学外者による制作や主催を目的とした諸施設の使用に関しては、本学専任教員の関与するものは別として、たとえ本学学生が参加するものであっても使用は認めない。

## (2) レッスン室・練習室の使用規程要旨

### ●平日・土曜の使用

#### ○使用教室

レッスン室	新館	2213	2214	2215	2216	2217
	旧館	2001	2002	2003	2004	
練習室	旧館	2005	2006	2007	2008	2009 2010

- 使用時間 8時30分～21時50分 ※1人1回2時間まで、使用後空いている部屋があれば、再度予約可能  
※7時30分～8時30分の使用は、鍵の開閉が不用な教室に限り「早朝使用表」に記入し、他は通常どおりとする。  
ただし、使用時間にはカウントしない。

#### ○使用手続

1. 申込時間 平日8時30分～16時20分 土曜8時30分～12時30分  
使用当日のみ、上記申込時間以降21時まで、警備員の許可にて使用可
2. 申込方法 ①使用の前日及び当日、『レッスン室・練習室使用状況一覧表』『レッスン室・練習室使用届』に所定事項を記入する  
②研究室で承認印を得る（研究室が不在時のみ教学課で対応）  
③承認済の『レッスン室・練習室使用届』を『使用予約 教室等使用届』ファイルに綴じる  
④予約した日時にレッスン室・練習室を使用する際、上記③で綴ったファイルから『レッスン室・練習室使用届』をとりだし、ドアの所定場所に表示する  
⑤使用後は『使用済み 教室等使用届』ファイルに綴じる  
⑥朝の申込みについては、7時30分に窓口在所定の予約順番表を出す。8時15分より記入順に予約する。  
※『レッスン室・練習室使用状況一覧表』及び『使用予約 教室等使用届』及び、『使用済み 教室等使用届』の保管場所は以下のとおり  
【月～金】 8時30分～16時00分 ⇒ 教学課窓口  
16時00分～21時50分 ⇒ 短大警備室  
【土曜日】 8時30分～12時00分 ⇒ 教学課窓口  
12時00分～21時50分 ⇒ 短大警備室  
【休日】 終日 ⇒ 本館警備室

### ●休日の使用

#### ○使用教室

新館レッスン室

#### ○使用時間

9時00分～18時00分 ※1人1日教室と合わせて4時間まで、使用後の再予約は不可

#### ○使用手続

1. 申込時間 平日8時30分～16時20分 土曜8時30分～12時30分
2. 申込方法 平日と同じ  
ただし、休日は使用当日の申込ができないため、休前日に予約する

### ●その他

1. 複数名で使用する場合は、『レッスン室・練習室使用届』に同伴者の氏名を記入すること。ただし、学外の同伴者は認めない。
2. 飲食は認めない。
3. 原則として音楽専攻以外の学生は使用できない。音楽学部生・音高生は、新館レッスン室のみ使用可。
4. 音楽専攻以外で副科・第二実技科目・歌唱（個人レッスン）を履修している学生は、旧館練習室のみ使用することができる（休日は新館レッスン室の使用可）。
5. 原則として22時までに学外へ出ること（休日及び休業期間中は18時まで）。
6. 使用を取り消す場合は、教学課又は警備員に連絡すること。
7. 16時以降（土曜12時以降）の使用終了後は、警備員詰所のホワイトボードに終了時間を記入すること。
8. ピアノ使用後は、必ず蓋をして、カバーを掛けること。故意に傷つけた場合は、弁償すること。
9. 身の安全に注意し、異変等に気づいたら、教学課又は警備室まで連絡する。
10. 戸締り、消灯、空調（暖房機）の節電を必ず行う。
11. 平日・土曜日使用申込をした学生が、しかるべき理由なしにレッスン室を継続して20分以上空けた場合は、権利を放棄したものとみなし、他の学生が所定の手続きを経て使用することができる。

(3) 大学校舎レッスン室使用規程要旨 〈音楽専攻学生のみ〉

●一般レッスン室（個人練習・二重奏練習）

主に地下の部屋を使用できる。

●練習時間帯（一般授業開講期間 — オリエンテーション期間を含む）

平	早朝練習時間帯 5:10am ~ 8:00am	休	休日練習時間帯
日	授業時間帯 8:00am ~ 5:00pm	日	8:00am ~ 9:45pm
	夜間練習時間帯 5:00pm ~ 9:45pm		

〔授業時間帯〕 授業・レッスンに使用されていない時は自由に練習できる。（特別な届の必要はない）

〔練習時間帯〕 その都度使用願を提出し、許可を受ける。

●使用手続

1. 申し込みは直接本人が行う。伴奏者などの代理人の申し込みは受け付けない。
2. 1回の申し込みは1人（1グループ）1日につき1件とし、1件についての時間を次のように制限する。  
早朝練習時間帯→特に定めない 夜間練習時間帯→2時間以内  
休日練習時間帯→4時間以内
3. 申し込みにあたっては、『レッスン室一般使用許可願』に必要事項を記入し、身分証明書を添えて窓口へ提出する。（用紙は大学事務局前にある）
4. 当日、大学の警備員室窓口で、予約申し込み受け付け時に渡された整理券との引き換えにより交付される許可証を受けとってから、使用を開始できる。

受付窓口など			
早朝	警備員室	当日	5:10am ~ 7:00am
夜間	教務課カウンター	当日	8:30am ~ 2:00pm（予約）
	警備員室	当日	5:00pm ~ 9:00pm
休日	教務課カウンター	前日	8:30am ~ 2:00pm（予約）
	警備員室	当日	8:00am ~ 9:00pm

注意 ・ 休日の正午～午後1時、午後6時～午後7時は受け付けない。

注意 ・ 上記教務課カウンターでの受付時間は午後2時までであるが、当日の教室・レッスン室の状況により早める場合もある。

## 学校法人桐朋学園 個人情報保護方針

学校法人桐朋学園では、教育・研究、事務等の諸活動において、多くの個人情報を取り扱っております。学生、生徒、児童、園児をはじめその保護者、そして教職員等、学園にかかわる方々の個人情報を慎重に取り扱い、適切に保護、管理することは、教育機関としての本法人の社会的責務であると認識しております。

この責務を果たすため、本法人は、個人情報保護法及びその他の規範を遵守するとともに、以下に掲げる方針のもと、個人情報の適切な保護、管理を実行いたします。

### 1. 個人情報の取得

個人情報の取得に際しては、利用目的を特定のうえ、これを明示し、適法かつ公正な方法により、原則として本人から取得します。

### 2. 個人情報の利用

個人情報は、取得の際に明示した利用目的の範囲内で利用いたします。本人の同意を得ないで、目的外での利用はいたしません。

### 3. 個人情報の保護、管理

個人情報の正確性及び安全性を確保するために、安全管理対策を講じ、個人情報の漏えい、改ざん、紛失等を防止します。

本法人は、各部門各機関に「個人情報保護管理責任者」を置き、個人情報の保護、管理について、責任の所在を明確にしております。

個人情報の取扱いは、その権限を付与された教職員のみが、業務の遂行上必要な限りにおいて取り扱うものとします。なお、個人情報を取り扱う教職員であるか否かにかかわらず、学園に勤務する全ての者に必要かつ適切な監督を行い、加えて、教育・研修等の機会を通して意識の啓発に努めます。

個人情報に関する業務を外部に委託する場合は、委託先において個人情報の安全管理が図られるよう、契約書を取り交わすなど、必要かつ適切な措置を講じます。

#### 4. 個人情報の第三者への提供

原則として、法令に定める場合等を除き、事前に本人の同意を得ることなく、第三者に個人情報を提供することはいたしません。  
なお、第三者に個人情報を提供する場合には、提供先においてその安全管理が図られるよう、契約書を取り交わすなど、必要かつ適切な措置を講じます。

#### 5. 個人情報の開示、訂正、利用停止、削除等の請求並びに不服の申立

各機関の「個人情報保護管理責任者」は、開示、訂正、利用停止、削除の請求等に関しては、本人であることの確認をしたのち、速やかに対応いたします。

#### 6. 個人情報に対する保護、管理体制の継続的改善

個人情報保護の重要性を、本法人の役員をはじめ学園に勤務する全ての者に周知徹底するとともに、今後も本方針に則り、保護・管理体制を見直し、改善、向上に努めます。

## 桐朋学園芸術短期大学 学生個人情報保護規程

### 第1章 総則

#### (目的)

第1条 桐朋学園芸術短期大学(以下「本学」という。)は個人情報(個人情報データベースを含む。以下「個人情報」という。)の保護が、人格の尊厳に由来する基本的人権の保障に係る問題であることを深く認識し、本学が保有する個人情報の取扱いに関する基本事項を定める。

#### (用語の定義)

第2条 この規程において、「学生」とは次の各号によるものとし、「教職員」とは専任の教職員ならびに本学の業務に直接かかわりがあり、またはかかわりがあった者をいう。

- (1)「本学において教育を受けている者」で在學生、科目等履修生や聴講生など。
- (2)「本学において教育を受けようとする者」で受験生、入学前の合格者、入学ガイダンスへの参加者など。
- (3)「過去において、本学において教育を受けた者」で卒業生、修了生、中退者など。
- (4)「過去において、本学において教育を受けようとした者」で不合格者や入学辞退者など。

2 この規程において、「個人情報」とは次の各号によるものとする。

- (1) 学生について特定の個人が識別されるもの(氏名、住所、生年月日、電話番号)。
- (2) 識別され得るもの(映像、デジタル記録等)。
- (3) 個人を特定できないものであっても学内で対応付けられた個人情報がある場合のもの(学籍番号、IPアドレス等)。
- (4) 教職員が業務上取得または作成した情報(文書、写真、フィルム、磁気テープその他これらに類するものに記録されたものを含む)。

3 この規程において「個人情報データベース」とは、個人情報が含まれる情報の集まりで、検索できる状態のものであって、ユーザーIDとユーザーが記録されているログ情報ファイル、紙ベースの住所録や名刺など整理されて検索できる利用可能な状態のデータベースをいう。

#### (責務)

第3条 学長はこの規程の目的を達成するため個人情報の保護に関し次の各号に対する必要な措置を講じなければならない。

- (1) 利用目的の特定・公表
- (2) 適正管理、利用、第三者への提供
- (3) 本人の権利と関与
- (4) 本人の権利への対応
- (5) 苦情の処理

2 教職員または教職員であった者は、業務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、または不当な目的に使用してはならない。

3 学生、教職員は個人情報保護の重要性を認識し、本規程によって学生個人の権利利益を侵害しないように努めなければならない。

### 第2章 個人情報の収集および利用目的の特定・公表等

#### (個人情報収集の制限)

第4条 教職員が業務上学生の個人情報を収集するときは、利用目的を明確に特定・公表し、その目的達成に必要な最小限度の範囲で収集しなければならない。ただし、思想および信教に関する個人情報は、いかなる理由があろうともこれを収集してはならない。

2 あらかじめ個人情報を「第三者に提供」することを想定している場合には、利用目的で、その旨特定しなければならない。

3 インターネットのCGI等での個人情報の入力には、入力ホームページ内には必ず利用目的をユーザーの目につく位置に記載しなければならない。

4 教職員が業務上、個人情報を収集するときは、適正かつ公正な手段により、次の各号のいずれかに該当するときに除き、直接本人から収集しなければならない。

- (1) 本人の同意があるとき。
- (2) 個人の生命、身体、健康、財産に対する急迫の危険を避けるためにやむを得ないと認められるとき。



- (3) 教員の教育指導上特段の必要性があるとき。
- (4) 法の定めるところにより、行政機関から依頼があったとき。
- (5) 指導または相談援助に関わって、本人から収集したのでは目的を達成することができないか、業務に支障があると認められるとき。
- (6) 学長が正当な理由があると認めたとき。

#### (個人情報の適正管理)

第5条 学長は、個人情報の保護のため、次に各号に掲げる事項について、適正で安全な措置を講じなければならない。

- (1) 紛失、滅失、毀損、破壊その他の事故の防止
- (2) 改ざんおよび漏洩の防止
- (3) 個人情報の正確性および最新性の保持
- (4) 不要となった個人情報のすみやかな廃棄または消去

2 学長は前項の事務をはじめ、本規程に基づく業務を適切に執行するため、業務ごとに個人情報保護管理責任者を選任するとともに次の組織的・人的・物理的・技術的その他の広範囲な安全対策措置を講ずる。

##### 組織的安全管理措置

- ・個人情報保護管理者の設置、組織体制の整備
- ・学内諸規程の整備と運用
- ・個人情報取扱い台帳の整備
- ・安全管理措置の評価、見直し、改善
- ・事故または違反への対処

##### 人的安全管理措置

- ・雇用時や契約時において非開示契約を締結
- ・教職員に対する教育・訓練の実施

##### 物理的安全管理措置

- ・入退室管理
- ・盗難対策
- ・機器、装置等の物理的な保護

##### 技術的安全管理措置

- ・個人情報のアクセス認証・制御・記録・権限管理
- ・不正ソフトウェア対策
- ・移送、通信時の対策
- ・動作確認時の対策
- ・情報システムの監視

##### その他重要事項

- ・個人情報を閲覧できる教職員の限定
- ・個人情報の持ち出し制限
- ・外部からの個人情報への不正アクセス防止策の導入
- ・教職員に対する個人情報保護研修の実施
- ・個人情報漏洩時は当該本人に速やかに通知
- ・事件内容の公表（類似事件の発生回避）

3 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する教職員に対する情報セキュリティ対策として、個人情報に対するアクセス制限、アクセス管理及び監視を行う。

4 個人情報保護管理責任者は、業務マニュアルを定め、持ち出し制限や移動時の取り決め、暗号化等のプロセスを決め、全て申請・承認によって処理することを決めて、守らせる。

5 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する教職員に個人情報を取り扱わせるに当っては、当該個人情報の安全管理が図られるよう、当該教職員に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

6 個人情報保護管理責任者は、業務に関係する個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合は、その取扱いを委託された個人情報の安全管理が図られるよう、委託を受けた者に対する必要かつ適切な監督を行わなければならない。

7 個人情報保護管理責任者は、第6条に掲げる場合を除くほか、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人情報を第三者に提供してはならない。

#### (個人情報の利用制限)

第6条 教職員は、業務上収集した個人情報をその目的以外のために利用または提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときはこの限りでない。

- (1) 本人の同意があるとき。
- (2) 個人の生命、身体、健康に対する急迫の危険を避けるためにやむを得ないと認められるとき。
- (3) 教員および保護者の教育上、特段の必要性があるとき。
- (4) 法の定めがあるとき。
- (5) 学長または個人情報保護管理責任者が必要と認めたとき。

- 2 前号一から五の各号に該当して個人情報を利用または提供する場合、または緊急に対応した場合は、業務責任者はすみやかに個人情報保護管理責任者に届け出なければならない。

#### (個人情報の業務の学外委託)

第7条 個人情報に関する業務を学外に委託するときは、業務責任者は個人情報保護管理責任者の指導のもと委託業者との間で個人情報の保護に関する必要な措置をとらなければならない。

#### (収集の届出)

第8条 教職員は、新たに個人情報を収集するときは、あらかじめ次に事項について個人情報保護管理責任者に届け出なければならない。

- (1) 個人情報の名称
  - (2) 個人情報の利用目的
  - (3) 個人情報の収集の対象者
  - (4) 個人情報の収集方法
  - (5) 個人情報の記録項目
  - (6) 個人情報の記録の形態
- 2 前項により届け出た事項を変更または廃止するときは、業務責任者は、あらかじめこれを個人情報保護管理責任者に報告しなければならない。

### 第3章 個人情報の開示、訂正等

#### (個人情報の開示)

第9条 学生は本学が保有する自己に関する個人情報の開示を請求することができる。

- 2 開示の請求があったときは、個人情報保護管理責任者は遅滞なくこれを開示しなければならない。ただし、その個人情報が、個人の選考、評価、判定、学生健康記録その他に関するものであって、本人に知らせないことが明らかに適当であると認められるときは、その個人情報の全部または一部を開示しないことができる。
- 3 個人情報の全部または一部を開示しないときは、その理由を本人に通知しなければならない。
- 4 第1項に規定する請求は、学長に対し、本人であることを明らかにして、次に掲げる事項を記載した文書を提出することにより行う。
- (1) 所属および氏名
  - (2) 個人情報の名称および記録項目
  - (3) 請求の理由
  - (4) その他学長が必要と認めた事項

#### (個人情報の訂正または削除)

第10条 学生は、自己に関する個人情報の記録に誤りがあると認めたときは、前条第4項に定める手続に準じて、学長に対し、その訂正または削除を請求することができる。

- 2 学長は前項の規定による請求を受けたときは、すみやかに調査のうえ、必要な措置を講じ、結果を本人に通知しなければならない。ただし、訂正または削除に応じないときは、その理由を文書により本人に通知しなければならない。

### 第4章 不服の申立て

#### (不服の申立て)

第11条 自己の個人情報に関し、第10条第2項に規定する請求に基づいてなされた措置に不服がある学生は、本人であることを明らかにして、学長に対し、申立てを行うことができる。

- 2 学長は、前項の不服申立てを受けたときは、すみやかに審査し、その結果を文書により本人に通知しなければならない。
- 3 不服の申立ては、次に掲げる事項を記載した文書を学長に対し提出することにより行う。
- (1) 不服の申立てを行う者の所属および氏名
  - (2) 不服申立て事項
  - (3) 不服申立て理由
  - (4) その他学長が必要と認めた事項

### 第5章 規程管理

#### (所管)

第12条 本規程の管理責任者は学長とし、所管は短期大学教学課とする。

#### (規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は教授会の議を経て学長が行う。

#### 付 則

第1条 この規程は平成17年7月11日から施行する。



## 桐朋学園芸術短期大学 キャンパス・ハラスメントの防止等に関する規程

### (目的)

第1条 この規程は、桐朋学園芸術短期大学（以下「本学」という。）におけるセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント」という。）の防止及び排除のための措置並びにキャンパス・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「キャンパス・ハラスメントの防止等」という。）に関し、必要な事項を定めることにより、本学における良好な学習・教育・研究・労働環境の維持・確立を図ることを目的とする。

### (定義)

第2条 この規程における用語の意義は、次の各号に掲げるものをいう。

#### (1) セクシュアル・ハラスメント

ア. 学生、教職員又は関係者が、意図すると否にかかわらず、性差別的又は性的な行動によって、相手を不快にさせる行為

(例) 性的な噂を流したり、人を傷つける性的な内容の冗談を言ったりすること。

性的な文書や画像等の掲示や提示をすること。

相手が望まない飲食等にしつこく誘うこと。

不必要に身体に触れること。

イ. 学生、教職員又は関係者が、利益もしくは不利益を与えることを利用して、又は利益を与えることを代償として、相手に性的な誘いまたは要求をする行為

(例) 成績評価等と引き換えに、性的要求を迫ること。

#### (2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の勉学・研究意欲や研究環境を害する言動または行為

#### (3) パワー・ハラスメント

職場において、教職員またはこれに準ずる者が、その地位または職務権限を利用し、これに抗し難い地位にある者に対して、相手によって差別したり、人格を否定したり、必要以上に厳しく指導したりまた指導を放棄することにより、相手方の就労意欲や就労環境を害する言動または行為

#### (4) その他のハラスメント

学生、教職員又は関係者が、他の学生、教職員又は関係者に飲酒の強要、喫煙にまつわる不法行為、誹謗、中傷、風評の流布などにより人権を侵害したり不快にさせたりする行為

#### (5) キャンパス・ハラスメントに起因する問題

キャンパス・ハラスメントのため学生等の修学上又は職員の就労上の環境が害されること及びキャンパス・ハラスメントへの対応に起因して学生等が修学上又は職員が就労上の不利益を受けること

#### (6) 学生

本学で修学する一般学生（本科生・専攻科生）、科目等履修生（研究性含む）、単位互換履修生、外国人留学生及び委託生をいう。

#### (7) 教職員

教員、事務職員、非常勤講師、嘱託職員、定時職員、委託職員など本学に勤務する全ての教職員をいう。

#### (8) 関係者

学生の保護者及び関係業者等職務上の関係を有する者をいう。（但し、教職員及び学生を除く。）又、かつて本学に在籍し、現在大学を離れた者であっても、キャンパス・ハラスメントと判断される行為のどちらか一方の当事者が、学生又は教職員である場合はこれに含める。

#### (9) 教育・研究の場

本学では、常勤・非常勤を問わず、本学に在職する教職員と学生との間、及び本学の学生同士の間には、常に教育環境上の関係があるものとみなす。よって大学におけるキャンパス・ハラスメントは、正課の授業時間中の大学構内における場合に留まらず、課外活動や学外を含むあらゆる場合のそれを意味する。

### (学生および教職員の責務)

第3条 学生及び教職員は、相互に個人の人格を尊重するよう努め、キャンパス・ハラスメントを行ってはならない。

2. 学生及び教職員は、前条で規定した用語の意義を深く認識し、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に努めなくてはならない。

3. 学生のキャンパス・ハラスメントに関する苦情や相談については、全ての教職員がこれにあたり、相談を受けた教職員は、必要な指導、助言を行うと共に、事実関係の調査に協力するなど、適切な対応を取らなければならない。

### (学長の責務)

第4条 学長は、キャンパス・ハラスメントを差別、人権侵害として禁止すると共に、その防止及び排除するため、本学の教職員に対し、この規程の周知徹底を図るものとする。

2. 学長は、万一キャンパス・ハラスメントによる問題が本学内に生じた場合は、必要な措置を迅速かつ適切に講じなければならない。

#### (防止委員会)

第5条 キャンパス・ハラスメントに関する具体的事例について、事実関係の調査及び対応策の検討を行うため、また、キャンパス・ハラスメントの防止に関する広報及び啓蒙等に関する業務を行うためにキャンパス・ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を設置する。

2. 防止委員会の運営については、別に定める。

#### (相談窓口)

第6条 防止委員会は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談が学生、教職員又は関係者からなされた場合に対応するため、キャンパス・ハラスメント相談窓口（以下「相談窓口」という。）を設置し相談員を配置する。

2. 相談窓口の運営については、別に定める。

#### (調査委員会)

第7条 防止委員会は、特定の事例について調査が必要と判断した場合、キャンパス・ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置くことができる。

2. 調査委員会の運営については、別に定める。

#### (不利益取扱いの禁止)

第8条 学長及び教職員は、キャンパス・ハラスメントに関する苦情相談、当該苦情相談に関する調査への協力その他キャンパス・ハラスメントに関して正当な対応をした学生又は教職員に対し、そのことをもって不利益な取扱いをしてはならない。

#### (懲戒)

第9条 キャンパス・ハラスメントを行った教職員は、その態様等によっては、桐朋学園女子部門就業規則第54条（3）「教職員としての信用を著しく失う非行あった場合」に該当するものとして、懲戒処分を行うことがある。

2. キャンパス・ハラスメントを行った学生は、桐朋学園芸術短期大学学則第67条に基づき、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

#### 附 則

1. この規程は、平成20年4月1日より施行する。

2. この規定の改廃は、教授会の議を経て行う。

#### 附 則

1. この規程は、令和4年4月1日より改正施行する。

## 演劇専攻自治会 自治会規約

### 第1章 総 則

(名称・本部)

第1条 本会は、桐朋学園芸術短期大学・演劇専攻自治会とし、その本部を桐朋学園芸術短期大学内に置く。

(会 員)

第2条 本会は桐朋学園芸術短期大学芸術科・演劇専攻生並びに専攻科生をもって組織する。

(目 的)

第3条 本会は、会員一人一人の主体性にとり、演劇芸術の創造と、その新なる運動体を形成することを目的とするものである。各会員はその能力を十二分に発揮し、思想性を高めると共に、既存の諸観念を乗り越え自らの主体を確立し遂に現在の広漠たる芸術分野に、ひとつの指標を打ち立てる責務を担う。

### 第2章 構 成

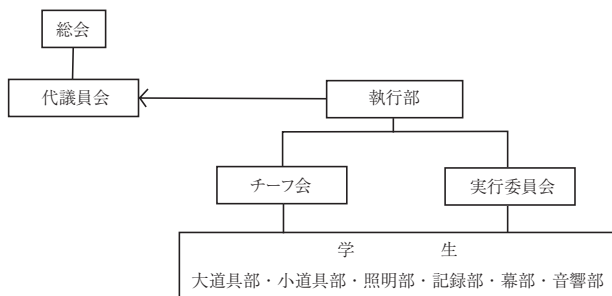
(構 成)

第4条 本会は次の機関を設ける。

1. 総会
2. 代議員会（会計監査、選挙管理委員会）
3. 執行部
4. チーフ会
5. 各種行事実行委員会

(議決機関)

第5条



(総会)

第6条 総会は本会における最高の機関であり、第2条に定められた全会員をもって組織する。

(総会の開催)

第7条 総会は原則として年2回開催し、本会会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合及び全会員の5分の1以上の要請があった場合には会長は臨時に総会を開催しなければならない。

会長は総会開催の3日前迄に、日程、議案、その他必要事項を全会員に明示しなくてはならない。

(総会成立)

第8条 総会は全会員の過半数（休学者をのぞく在籍数）をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(総会決議)

第9条 総会において次のことを決議する。

1. 規約改正に関すること。
2. 予算及び決算に関すること。
3. 運営方法に関すること。

(代議員会)

第10条 本委員会は総会に次ぐ議決機関であり、学年代議員（各学年2名、ただし専攻科は2学年をもって2名とする）をもって組織する。

(代議員会の開催)

第11条 本委員会は原則として本会会長が必要と認めた場合会長が招集する。ただし学年代議員の3分の1以上の要請があった場合、会長は臨時に代議員会を開催しなければならない。

会長は代議員会開催の7日前迄に、日程、議案、その他必要事項を全会員に明示しなくてはならない。

(代議員会の成立)

第12条 本委員会は、学年代議員の過半数をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(代議員会の決議)

第13条 代議員会において次のことを決議する。

1. 学年代議員の提出事項。
2. 各委員会からの提出事項
3. その他本委員会において必要と認められる事項。

(執行部)

第14条 執行部は本会を円滑に運営する機関であり、会長1名、副会長2名、会計2名、書記2名をもって組織する。

第15条 執行部は次の事項を執行する。

1. 総会及び代議員会への議案提出
2. 予算原案及び決算書の作成
3. その他必要事項

(執行部役員の職務)

第16条 会長は本会を代表し、本会の一切の会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長不在のときの職務を代行する。会計は会の会計を、書記は会の記録を担当する。

(各部)

- 第17条 1. 演劇専攻の全学生は、4月中に各部に所属しなければならない。原則として、部署の移動は認められない。  
2. 各部は、1名のチーフと1名のチーフ補佐を執行学年から選出しなければならない。相談役として専攻科から各部に1名付けるものとする。

(チーフ会)

第18条 チーフ会は各部チーフをもって組織する。

(チーフ会の開催)

第19条 チーフ会は原則として会長が必要と認めた場合、チーフ会議長がこれを招集する。ただし、チーフの3分の1以上の要請があった場合には、臨時にチーフ会を開催しなければならない。

(チーフ会の成立)

第20条 チーフ会はチーフの過半数をもって成立し、その議決は3分の2以上の支持によって成立する。

(チーフ会決議)

- 第21条 チーフ会において次のことを決議する。
1. 道具、備品に関すること。
  2. 仕込み、ばらしに関すること。
  3. その他チーフ会において必要と認められた事項。

(各種実行委員会)

第22条 本委員会の役員は、行事ごとに執行部が必要数を公募し、各行事の企画運営及び総括を行う。

## 第3章 選挙

(学年代議員の選出)

第23条 学年代議員は年度始め学年ごとに2名選出し、総会で了承を得る。

(学年代議員の任期)

第24条 学年代議員の任期は毎年4月1日より翌年3月31日までの1年間とする。

(議長)

- 第25条 1. 総会の議長は、総会で選出されたものとする。  
2. 学年代議員の議長は、代議員会で選出されたものとし、総会で承認を得る。  
3. チーフ会の議長は、執行部副会長のうちいずれか1名を議長とする。

(執行部の選出)

第26条 執行部は演劇専攻1学年の中から選出し、総会で承認を得る。

(執行部の任期)

第27条 執行部の任期は毎年10月から翌年9月末日までとし、10月中は連絡期間とし、その期間の続任を認める。

(選挙管理委員会)

第28条 本委員会は各学年代議員のうち1名、計3名をもって組織される。

(リコール)

第29条 リコール請求は会員の3分の2以上の要求によって成立し、選挙管理委員会がこれにあたる。

## 第4章 会計

(会費)

第30条 本会の財務は、自治会費にその基をおく。

(金額)

第31条 本会の会員は本会によって定められた会費(入会金2,500円、年額3,500円)を定期に納入しなければならない。ただし、入会金は入学年度のみとし、芸術科演劇専攻から専攻科演劇専攻への進学者はこれを免除される。

(会計年度)

第32条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月末日までとする。会計年度に剰余金のある場合は翌年に繰り越す。

(会計報告)

第33条 本会に収支決算書は執行部会計が作成し代議員会で審議し、総会において承認されることにより成立する。

(会計監査)

第34条 本会に会計監査6名(学年代議委員)を置き、本会の会計を監査する。

## 第5章 クラブ

(クラブ)

第35条 本会員は第2条の主旨に基づきクラブならびに同好会を結成することができる。

(構成)

第36条 各クラブは年度始めに構成員名簿および活動計画を執行部に提出しなければならない。

(クラブ会計)

第37条 各クラブの会計担当者は年度初めに前年度決算報告ならびに新年度予算申請書を執行部に提出しなければならない。

(成立基準)

第38条 下記の成立基準に満たないものは同好会とする。

1. 活動開始から1年未満のもの
2. 人数が5名に満たないもの

## 第6章 附 則

第39条 本規約の改正は本会会員の3分の1以上をもって成立する。

第40条 本会規約は2002年4月1日より施行する。

# 音楽専攻学生会 学生会会則

## 第1章 総 則

(名 称)

第1条 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻に学生会を置き、桐朋学園芸術短期大学音楽専攻学生会(以下、本会という)と称する。

(会 員)

第2条 本会は桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻の学生全員をもって組織する。

(本 部)

第3条 本会の本部は、東京都調布市若葉町1-41-1桐朋学園芸術短期大学内に置く。

(目 的)

第4条 本会会員は個人の人格を尊重し、学生相互の親睦をはかり、学生会活動を有効かつ円滑に運営し、学生の福祉増進をはかることを目的とする。

## 第2章 機 関

(機 関)

第5条 本会に次の機関を置く。

1. 総 会
2. 執行部

(総 会)

第6条 総会は本会の最高決議機関であって、芸術科音楽専攻・専攻科音楽専攻の学生全員をもって組織する。

(総会の開催)

第7条 総会は毎年4月、年1回の開催を原則とし、本会会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合及び全会員の3分の1以上の要求が合った場合に会長は臨時に総会を招集しなければならない。

(総会成立)

第8条 総会は全会員の3分の2以上の出席をもって成立し、その決議は出席者の過半数の賛成を必要とする。(委任状出席を認める。)ただし、会則改正の場合は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(議長・総会決議)

第9条 総会の議長はそのつど選出され、総会において次のことを決議する。

1. 会則の改正に関する事。
2. 運営方法に関する事。
3. 予算および決算に関する事。

(執行部)

第10条 執行部は本会の運営を円滑に執行する機関であり、次のことについて共同の責任を負うものとする。

1. 各行事の企画および運営
2. 予算の作成および決算報告
3. その他の必要事項

(執行部)

第11条 執行部は次の役員をもって構成する。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 会計 2名
4. 書記 2名
5. 桐朋祭実行委員 必要数

(職務)

第12条 会長は本会の一切の会務を統括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐し、会長不在のときの任務を代行する。書記は会の記録を、会計は会の会計を、桐朋祭実行委員は桐朋祭の企画運営などを担当する。

(会計監査)

第13条 本会に会計監査2名を置き、本会の会計を監査する。

(顧問)

第14条 本会に顧問を置く。顧問は桐朋学園芸術短期大学音楽専攻の教員に委嘱し、本会活動全般に関して指導助言を仰ぐものとする。

## 第3章 選挙

(執行部役員選出)

第15条 執行部役員は学年初め、学年ごとに3名から4名選出する。

(任期)

第16条 執行部の役員の任期は4月1日より翌年の3月31日までの1年間とし、再任を妨げない。ただし、任期途中で欠員が生じた場合は補充を行う。この場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長、副会長選出)

第17条 会長、副会長は就任の前年度の12月までに選出し、総会で承認を得る。

(会計、書記)

第18条 会計、書記は執行委員の互選による。

(桐朋祭委員)

第19条 桐朋祭委員は執行委員に加え、必要数を公募する。

(会計監査)

第20条 会計監査は総会によって選出される。

## 第4章 会計

(会費)

第21条 本会の財務は、会費にその基をおく。

(金額)

第22条 本会の会員は本会によって定められた会費（入会金 2,000円、年額 2,000円）を定期に納入しなければならない。ただし、入会金は入学年度のみとし、芸術科音楽専攻から専攻科音楽専攻への進学者は、これを免除される。

(会計年度)

第23条 本会の会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終わるものとする。



(会計報告)

第24条 本会の収支決算書は執行部会計が作成し、執行部に提出された後に会計監査と総会の承認をえるものとする。

## 第5章 クラブ

(クラブ)

第25条 会員相互の親睦を深め、責任ある自主活動を行うため、本会に教養、趣味、特技などを同じくするクラブならびに同好会を結成することができる。

(構成)

第26条 各クラブは年度初めに構成員名簿、および活動計画を執行部に提出しなければならない。

(クラブ会計)

第27条 各クラブの会計担当者は年度初めに前年度決算報告ならびに新年度予算申請書を執行部に提出しなければならない。

(成立基準)

第28条 下記の成立基準に満たないものは同好会とする。

1. 活動開始から1年未満のもの
2. 人数が10名に満たないもの（同好会は5名から活動できる）

(クラブ顧問)

第29条 各クラブならびに同好会には顧問を置く。顧問は桐朋学園芸術短期大学の常勤の教職員に委嘱する。

## 第6章 会則の改正

(会則の改定)

第30条 会則の改正は本会が必要と認め、かつ総会で全会員の3分の2以上の承認を得た場合に行われる。

(会則改定委員会)

第31条 本会は必要に応じ、会則改正委員会を置き、会則の改正を検討させることができる。

附 則

本会会則は平成8年4月1日より施行する。

## 音楽専攻同窓会「桐の音」同窓会会則

### 第1条 名 称

桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻同窓会「桐の音」（以下本会とする）と称する。

### 第2条 目 的

本会は会員相互の親睦と向上をはかることを目的とする。

### 第3条 事 業

本会は下記の事業を行う。

- (1) 会員名簿及び会報の発行。
- (2) 会員の音楽活動の後援及び奨励。
- (3) 母校の発展に寄与し、後援する。
- (4) その他必要に応じて事業の開催・後援を行う。

### 第4条 組 織

- (1) 本会は正会員と特別会員により組織される。
- (2) 本会の運営は正会員より選任された役員及び委員により遂行される。
- (3) 正会員のうち若干名を理事とする。

### 第5条 本部及び事務局

- (1) 本会の本部は桐朋学園芸術短期大学内に置く。
- (2) 本会の事務局は桐朋学園芸術短期大学音楽研究室に置く。

### 第6条 正会員及び特別会員

- (1) 正会員は母校の卒業生及び母校の一時在籍者のうち入会希望者とする。
- (2) 特別会員は母校の現教職員のうちの専門科目の教職員及び理事会から推薦された者とする。

## 第7条 名誉会長及び名誉顧問、顧問

- (1) 本会は桐朋学園芸術短期大学学長を名誉会長に推挙する。
- (2) 桐朋学園芸術短期大学音楽専攻主任を顧問に推挙する。
- (3) 理事会は必要に応じ顧問を推挙できる。

## 第8条 理事

- (1) 理事は本会会長経験者及び理事会役員会で認められた者とし、任期は定めのないものとする。
- (2) 理事は、理事及び会長、役員会が必要と認めた場合、会の運営活動に参加することができる。

## 第9条 役員及び委員

- (1) 本会の役員は会長、副会長、書記・会計・庶務からなり、委員は代表委員、音楽活動委員、編集委員とし、役員及び委員は全員が評議する権利を持つ。
- (2) 役員及び委員は定められた方法により、正会員の中より選任される。
- (3) 役員及び委員の任期は原則として5年間とし、再選を阻まない。

## 第10条 役員の職務・権限

- (1) 会長は会務を統括し、会の代表者としての活動をする。
- (2) 副会長は4名とし、会長を補佐し、必要ある時は会長の任務を代行することができる。
- (3) 副会長は運営委員長、代表委員長、音楽活動委員長、会報委員長があたり、各々担当の委員会活動を統括する。
- (4) 役員及び委員選任の決定及び任命は、会長及び副会長の合議により行う。
- (5) 運営委員長は書記・会計・庶務を統括し、運営実務を担当する。
- (6) 役員は必要に応じて理事会に参加することができる。

## 第11条 委員の任務

- (1) 代表委員は各期2名以上とし、各期会員の動勢、及び活動を把握し、また名簿作成にあたり、名簿、会報その他印刷物を配布する。
- (2) 音楽活動委員は、会員の演奏会活動の支援、研究会その他音楽活動の中心となる活動をする。
- (3) 編集委員は、同窓会の機関紙としての会報の企画・編集にあたる。

## 第12条 総会

- (1) 総会は、会長またはその代行が必要と認めた場合これを招集する。
- (2) 本会則の改正は総会において承認される。

## 第13条 理事会

- (1) 理事会は、年1回以上開くものとする。
- (2) 理事及び会長、役員会が必要と認めた場合これを招集することができる。
- (3) 必要に応じて役員会に議事を提出することができる。

## 第14条 役員会及び委員会

- (1) 役員会は会長、副会長、書記、会計、庶務からなる。
- (2) 役員会は年1回以上開くものとするが、会長及び役員が必要と認めた場合これを招集することができる。
- (3) 役員会の議事は出席役員の過半数でこれを決し、可否同数の場合は理事、役員合議の上審議し決定するものとする。
- (4) 代表委員会、音楽活動委員会、会報委員会は会則にのっとり個別に活動することができる。
- (5) 会報委員会は会報委員長及び編集委員からなる。

## 第15条 本会の経費

- (1) 本会の経費は、年会費、入会金、臨時会費、寄付金をもって充てる。
- (2) 入会金は、本会の入会と同時に納入する。

## 第16条 会計年度及び決算

- (1) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- (2) 決算は会報により会員へ報告されなければならない。
- (3) 会計監査を置く。

## 第17条 会則の改定

- (1) 本会則の改定は役員会により審議され総会により承認される。
- (2) 同窓会の運営実務については、別にこれを定める。

## 第18条 報告

- (1) 総会及び役員会、委員会で承認された事項は会員に報告されなければならない。

## 演劇専攻同窓会 同窓会会則

### 第1章 総 則

- 第1条 本会は桐朋学園芸術短期大学・芸術科演劇専攻（以下、演劇科と略す）同窓会と称する。
- 第2条 本会は会員の相互の連結・親睦・団結及び演劇文化の向上をめざし、母校の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会は以下の活動を行なう。
1. 総会その他会員間の親睦を計るための集会
  2. 会員名簿・会報等の発行
  3. その他、前条の目的に則した活動への支援
- 第4条 本会の本部及び事務局は桐朋学園芸術短期大学演劇研究室内に置く。

### 第2章 会 員

- 第5条 本会は以下の会員により構成される。
1. 正会員・演劇科に在籍した者、及び専攻科演劇専攻のみに在籍した者。
  2. 賛助会員・演劇科教職員、演劇科担当事務職員及びその職にあった方々。

### 第3章 組 織

- 第6条 本会は以下の役員を置く。
1. 会長1名・会長は本会を代表し会務全般を統括する。
  2. 副会長3名・副会長は会長を補佐し、必要ある場合これを代行する。
  3. 事務局長1名・事務局長は会務全般に関する事務を統括する。
  4. 会計2名・会計は金銭出納に関する事務を行う。
- 第7条 役員は必要に応じ随時役員会を開く。
- 第8条 役員は正会員中から幹事会（第11条及び第4章第15条参照）により選出し、総会（第4章第14条参照）において正会員の承諾を受ける。
- 第9条 役員の任期は次回定例総会までとする。但し再任は妨げない。
- 第10条 役員は正会員の1/3の不信任があった場合、ただちに役員改選をしなければならない。
- 第11条 本会は各期3名の幹事を期ごとの互選によって置く。その任務・任期は以下の通りである。
1. 各期会員の意見を掌握し本会会務に反映させる。
  2. 各期会員の転居地変更を掌握し名簿作製の任に当たる。
  3. 本会会費（第5章第17条参照）の徴収の任にあたる。
  4. 任期は原則として4年とする。但し再任は妨げない。
  5. 改選されたときは、事務局に速やかに届け出ること。
- 第12条 本会は名誉会長を置き、その職は本学の学長職にある者に委嘱する。
- 第13条 本会は監査役2名を置く。任務、選出及び任期は以下の通り。
1. 会計等の会務を監査し総会・幹事会において必要に応じて監査報告をする。
  2. 正会員中から幹事会により選出する。
  3. 任期は次回定例総会までとする。但し再任は妨げない。

### 第4章 総会及び幹事会

- 第14条
1. 総会は原則として4年に1度開かれる。
  2. 総会は正会員の1/3（委任状を含む）の出席者をもって成立する。
  3. 正会員の1/10の要求があったときは速やかに臨時総会を開かねばならない。
  4. 総会においては次の事項を承認決定する。
    - ① 会則の改正
    - ② 役員の人選
    - ③ 会務の一般報告及び活動予定
    - ④ 予算及び決算
    - ⑤ その他の事項
  5. やむを得ず総会の開催が困難と認められた時は、幹事会をもって総会とする事ができる。但しその場合の幹事会は、幹事の2/3の出席（委任状も含む）を必要とする。尚、正会員はこれに出席し意見を述べる事ができる。
- 第15条
1. 幹事会は役員と各期幹事によって構成される。
  2. 幹事会は原則として年1回、その他必要な場合随時開かれる。
  3. 正会員は幹事会に出席し意見を述べる事ができる。
- 第16条 本会の全ての議決は出席者の過半数を必要とする。

## 第5章 会 計

第17条 本会の会費は終身会費1万円とする。尚、1989年3月までに本会に入会した会員は個人の納入した年会費の額に応じて終身会費の1万円との差額を納入することとする。

第18条 本会の経費は会費及び臨時会費、寄附金及びその他の収入をもってあてる。

第19条 本会の資産は演劇科同窓会の名義により保管する。

第20条 本会の会計年度は1989年4月より2年毎を区切りとする。

## 第6章 会則の改正

第21条 本会則の改正は幹事会により審議され総会により承認される。

## 第7章 補 則

第22条 本会則は1997年5月18日より施行するものとする。

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

## 講義概要

芸術科／専攻科

音楽専攻  
演劇専攻

## 【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				キャリア教育 対象外	実務経験のある 教員による 授業科目	概要 ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
キャリア教育	情報リテラシー論	竹内 聖	前期	2					○	127
	情報処理論	姫野 雅子	前期	2						127
	音楽環境論	久保田 慶一	前期	2						128
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2						128
	表現コミュニケーション論	後藤 絢子	後期	2						129
	アーツマネージメント論	後藤 絢子	前期	2						129
	応用演劇論	大谷賢治郎	前期	2					○	130
一般教養	メディア論	森山 直人	後期	2						130
	現代思想論	比嘉 徹徳	前期	2						131
	日本国憲法	西山 智之	後期	2						131
	文化政策論A	後藤 絢子	前期	2						132
	文化政策論B	後藤 絢子	後期	2						132
	青少年教育論	大谷賢治郎	前期	2					○	133
	倫理学	吉川 浩満	後期	2						133
	ジェンダー論	岡 俊一郎	後期	2						134
	ダンス史	宮川麻理子	後期	2						134
	映画史	細谷 修平	前期	2						135
	映画論	行定 勲	後集	2				□	○	135
語学	英語A I	J. ファーナー	前期	1					136	
	英語A II	J. ファーナー	後期		1				136	
	英語B I	田村奈穂子	前期			1			137	
	英語B II	田村奈穂子	後期				1		137	
	演劇英語 ①②	J. サザーランド	前期	1					138	
	ドイツ語 I	D. グロス	前期	1					138	
	ドイツ語 II	D. グロス	後期		1				139	
	ドイツ語 III	D. グロス	前期			1			139	
	ドイツ語 IV	D. グロス	後期				1		140	
	イタリア語 I	M. スバラグリ	前期	1					140	
	イタリア語 II	M. スバラグリ	後期		1				141	
	イタリア語 III	M. スバラグリ	前期			1			141	
	イタリア語 IV	M. スバラグリ	後期				1		142	
	フランス語 I	佐藤ローラ	前期	1					142	
フランス語 II	佐藤ローラ	後期		1				143		

注：語学は、I の修得なしにIIの履修はできない。



2022(令和4)年度入学生用 別表…2

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	除算される科目	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期								
教養科目	情報処理論	姫野 雅子	前期	2				※教職受講者必修						127	
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修						131	
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修						128	
	英語AⅠ・Ⅱ	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊) 1科目選択必修 ※声楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「Ⅰ・Ⅱ」「Ⅲ・Ⅳ」をもって、1科目とみなす						136	
	英語BⅠ・Ⅱ	田村奈穂子	前・後			1	1								137
	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	D. グロス	前・後	1	1										138・139
	ドイツ語Ⅲ・Ⅳ	D. グロス	前・後			1	1								139・140
	イタリア語Ⅰ・Ⅱ	M. スバラグリ	前・後	1	1										140・141
イタリア語Ⅲ・Ⅳ	M. スバラグリ	前・後			1	1								141・142	
フランス語Ⅰ・Ⅱ	佐藤ローラ	前・後	1	1										142・143	
音楽基礎演習—バロック・ダンス	a b	浜中 康子	前期	1					●全専修必修				○		145
音楽理論基礎	a b	塩崎 美幸 長谷川 郁子	前期	1										145 145	
演劇専攻科目	演劇専攻「実技科目(共通)」より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「アフレコ実技A・B」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言Ⅰ」「狂言Ⅱ」必修							
専攻科目・1年次	音楽理論 [和声] Ⅰ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期	2				PVWSG必修					146 146	
	音楽理論 [和声] Ⅱ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期		2			PVWSG必修					146 146	
	音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		池原 舞	前・後	2	2			PVWSG必修		○			147	
	日本音楽理論AⅠ・Ⅱ		森重 行敏	前・後	2	2			J必修		○			147	
	日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ		野川美穂子	前・後	2	2			J必修		○			148	
	日本音楽特講		杵屋 巳織	後期		2			※教職受講者(J除く)必修(教職受講者のみ履修可)		△			148	
	演奏会制作法		伊藤 直樹	後期		1						○		149	
	アウトリーチ概説		永井 由比	前期	2									149	
	アウトリーチ演習		永井 由比	後期		1								150	
	音響学			2022年度開講せず			2				○				
	ディクシオン(イタリア語)		井上 由紀	前期	1				V必修					150	
	S. H. M. Ⅰ・Ⅱ	① ② ③ ④	塩崎 美幸 池田 哲美 加藤 千春 三瀬 俊吾	前・後	1	1			●全専修必修					151	
	合唱Ⅰ・Ⅱ		福永 一博	前・後	1	1			女子のみ(J除く)必修					151	
	オーケストラ・スタディア		野口千代光	前集	1				S必修		□			152	
	合奏A		野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修		□			152	
	管楽器基礎(呼吸法)		三塚 至	前期	1				W必修					153	
	声楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		松井 康司	前・後	1	1			男子のみ(J除く)必修					153	
	管楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ	a b	永井 由比 津川美佐子	前・後	1	1			W(FIのみ)必修					154	
	金管アンサンブルAⅠ・Ⅱ		神谷 敏	前・後	1	1			W(FI, Tr, Tb, Tub, Sx除く)必修			○		154	
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		彦坂眞一郎	前・後	1	1			W(Tr, Tb, Tubのみ)必修					155	
	ギター・アンサンブルAⅠ・Ⅱ		佐藤 紀雄	前・後	1	1			W(Sxのみ)必修					155	
	うたA		今藤美知央	前期	1				G必修			○		156	
	邦楽アンサンブルAⅠ・Ⅱ		滝田美智子	前・後	1	1			J必修		△			156	
	伴奏法Ⅰ		揚原さとみ	後期		1			※教職受講者(J除く)必修					157	
	初見演奏(基礎)		大家 百子	前期	1				P必修					158	
	身体と表現との調和		志村 寿一	集中		2						□		158	
	第一実技Ⅰ			通年		4			●全専修必修			□		159	
	第二実技Ⅰ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)			通年		4					○	□		159	
	副科実技Ⅰ(ピアノ)			通年	2				●全専修必修	VWSGJ	○	□		159	
	副科実技Ⅰ(声楽)		PGJ							○	□		159		
	副科実技Ⅰ(管・弦・ギター・日本音楽)		GJ							○	□		159		
	伴奏A	(1) (2)	柏原 佳奈	前集 後集	1 1							□		160	
海外特別演習A		松井 康司 東井 美佳	前集	2							□		160		
特別演習A		志村 寿一 井上 由紀	通年		1			●全専修必修			□		161		
特別講座		中山 博之	後集		1			●全専修必修		○	□		161		
コラボレイト実習A	(1) (2)	松井 康司	前集 後集	1 1							□		162		

修得単位は自由選択単位として卒業要件に含むことができる  
(必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含むことができる)

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員等に授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目：2年次	音楽理論 [和声] Ⅲ	a 平井 正志 b 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修				162	
	音楽理論 [和声] Ⅳ	a 平井 正志 b 池田 哲美	後期				2	PVWSG必修				163	
	対位法Ⅰ・Ⅱ	池田 哲美	前・後			2	2					163	
	コード論Ⅰ	小林 真人	前期			2			◎		○	164	
	楽器法	大澤 健一	前集			2			◎	□	○	164	
	音楽マネジメント	楠瀬寿賀子	前期			2					○	165	
	日本音楽理論BⅠ・Ⅱ	森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎			147	
	音楽史特講A	池原 舞	前期			2			◎			165	
	音楽史特講B	大津 聡	前期			2			◎			166	
	音楽史演習A	池原 舞	後期				1		◎			166	
	音楽史演習B	大津 聡	後期				1		◎			167	
	音楽療法概論	鈴木千恵子	前期			2			◎			167	
	演奏解釈(1) ピアノ楽曲	東井 美佳	後期				2	P必修				168	
	演奏解釈(2) 声楽曲	相田 麻純	前期			2		V必修	◎		○	168	
	演奏解釈(3) 室内楽曲	寺岡有希子	前期			2		S必修			○	169	
	音楽理論 [楽式] Ⅰ・Ⅱ	① 穴戸 里佳 ② 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎			169 170	
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後			1	1	●全専修必修				170	
	オーケストラ・スタディB	野口千代光	前集			1		S必修		□		152	
	合奏B	野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修		□		152	
	声楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	松井 康司	前・後			1	1	男子(J除く)・女子(Vのみ)必修				153	
	管楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	津川美佐子	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tub, Sx除く) 必修			○	154	
	金管アンサンブルBⅠ・Ⅱ	神谷 敏	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tubのみ) 必修				155	
	指揮法Ⅰ・Ⅱ	福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修				171	
	室内楽A	a 荻野 千里 b 野口千代光 北本 秀樹	前期			1						171	
	室内楽B	a 阪本奈津子 b 蓼沼恵美子 c 吉岡 次郎 d 菊池 奏絵	後期				1				○	172	
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	彦坂眞一郎	前・後			1	1	W (Sxのみ) 必修			○	172	
	ギター・アンサンブルBⅠ・Ⅱ	佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			○	173	
	うたB	今藤美知央	前期			1		J必修			○	173	
	邦楽アンサンブルBⅠ・Ⅱ	滝田美智子	前・後			1	1	J必修	△			156	
	伴奏法Ⅱ	揚原さとみ	前期			1		※教職受講者 (J除く) 必修				157	
	第一実技Ⅱ		通年			4		●全専修必修		□		159	
	第二実技Ⅱ (ピアノ・チェンバロ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲・ミュージカル・身体と表現との調和)		通年			4		ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□		159	
	副科実技Ⅱ (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・ミュージカル・身体と表現との調和)		通年			2		ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□		159	
	第一実技卒業試験		通年			4		●全専修必修		□			
伴奏B	(1) 柏原 佳奈 (2)	前集 後集			1	1			□		160		
海外特別演習B	松井 康司 東井 美佳	前集			2				□		160		
特別演習B	志村 寿一 井上 由紀	通年			1		●全専修必修		□		161		
コラボレイト実習B	(1) 松井 康司 (2)	前集 後集			1	1			□		162		

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員等に授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期		2			J必修 ※教職受講者必修	2022	○			175
	合奏基礎 (和楽器)	花岡 操聖	前期	1				J必修	2022				175
	楽器法 (和楽器)	花岡 操聖	前期			2		J必修	2023				
	演奏解釈(4) 日本音楽	たかの舞俐	後期		2			J必修	2022				176

【備考】①P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

②「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生（1・2年次とも。専攻科生含む）が履修可能な科目。

ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でない履修できない。

<2022(令和4)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
GPA 1.0以上

【内訳】

- ①専攻科目単位数 48単位  
(教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専修の必修単位数を含む)  
②自由選択単位数 14単位  
※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと  
※桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は自由選択単位に含む

注

- ①Ⅰの修得なしにⅡの履修はできない。  
②第一実技は、専修別による必修(1年次・2年次各50分)  
③第二実技は、選択(40分)。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。  
④副科実技は、Ⅰ必修、Ⅱ選択(20分)  
Ⅰは、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。  
副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。  
⑤「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。  
ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。  
⑥選択科目「伴奏」について  
前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表(実技試験・学内演奏会・卒業演奏会)をもって各々単位認定を行う。  
「伴奏受講票」を使用のこと。  
⑦選択科目「コラボレイト実習」について  
専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会、卒業公演等あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。「コラボレイト実習受講票」を使用のこと。  
⑧学内外の演奏会及び試験について、提出曲目及び曲数と異なる場合は失格とすることがある。  
⑨専攻科目必修単位数(※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位数含む)

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	31	31	21	21	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1
	狂言Ⅱ	未定	前期	1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	概要ページ	
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期							
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2			a組必修	6				177	
		b	三浦 剛	前期	2			b組必修					177	
		c	P. ゲスナー	前期	2			c組必修					178	
		d	田中壮太郎	前期	2			d組必修				○	178	
	基礎演劇演習B	a	P. ゲスナー	前期	2			a組必修						179
		b	田中壮太郎	前期	2			b組必修				○		179
		c	越光 照文	前期	2			c組必修						180
		d	三浦 剛	前期	2			d組必修						180
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1			a組必修						181
		b	山本光二郎	前期	1			b組必修				○		
		c	山本光二郎	前期	1			c組必修						
		d	山本光二郎	前期	1			d組必修						
	ボイス・トレーニング（歌唱）	a	藍澤 幸頼	前期	1			a組必修						181
		b	藍澤 幸頼	前期	1			b組必修						
		c	信太 美奈	前期	1			c組必修						
		d	信太 美奈	前期	1			d組必修						
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2		a組必修	8				182	
		b	越光 照文	後期		2		b組必修					182	
		c	田中壮太郎	後期		2		c組必修				○	183	
		d	P. ゲスナー	後期		2		d組必修					183	
	演劇演習B	a	田中壮太郎	後期		2		a組必修					○	184
		b	P. ゲスナー	後期		2		b組必修						184
		c	三浦 剛	後期		2		c組必修						185
		d	越光 照文	後期		2		d組必修						185
	演劇演習C	a	P. ゲスナー	前期			2			a組必修				186
		b	未定	前期			2			b組必修				186
		c	三浦 剛	前期			2			c組必修				187
		d	大塚 幸太	前期			2			d組必修				187
	演劇演習D	a	三浦 剛	後期				2		a組必修				188
		b	大塚 幸太	後期				2		b組必修				188
		c	P. ゲスナー	後期				2		c組必修				189
		d	未定	後期				2		d組必修				189
ストレートプレイ	演技演習A（ダイアログ）	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイコース必修	4			○	190	
		b	大谷賢治郎	後期			2							
ミュージカル	演技演習B（アンサンブル）	a	未定	後期			2						190	
		b	未定	前期			2							
ミュージカル	ショーダンス I	①②	未定	前期			1	ミュージカルコース必修 （「ミュージカルトレーニングB」はLAの補習にも参加する）	4				191	
	ショーダンス II	①②	未定	後期			1						191	
	ミュージカルトレーニングB	①②	未定	前期			1						192	
	ミュージカル演習	①②	大塚 幸太	後期			1						192	

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期								
実技科目(共通)	演劇特別演習Ⅰ ①②③	鴻上 尚史	後期		1			LAの補習にも参加する	8			○	193		
	演劇特別演習Ⅱ ①②③	未定	前期			1							193		
	マイム ①②	江ノ上陽一	前期	1									○	194	
	アクション ①②	藤田 けん	後期		1								○	194	
	日本舞踊Ⅰ ①②	藤間 希穂	後期		1								○	195	
	日本舞踊Ⅱ ①②	未定	前期			1							○	195	
	狂言Ⅰ ①②	善竹大二郎	後期		1								○	○	196
	狂言Ⅱ ①②	未定	前期			1							○	196	
	アフレコ実技A	未定	前期			1							○	197	
	アフレコ実技B	未定	後期				1						○	197	
	クラシック唱法Ⅰ ①②	松井 康司	後期		1									198	
	クラシック唱法Ⅱ ①②	松井 康司	前期			1								198	
	ミュージカルトレーニングA ①②	藍澤 幸頼	後期		1								○	199	
	ジャズダンスA ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	前期	1									○	199 200	
	ジャズダンスB ①②③④	三村みどり 畔柳小枝子	後期		1								○	200 201	
	ジャズダンスC ①②③④	未定	前期			1							○	201・202	
	バレエ・ムーヴメント ①②	中農 美保	前期	1									○	202	
	クラシックバレエⅠ ①②	中農 美保	後期		1								○	203	
	クラシックバレエⅡ ①②	未定	前期			1							○	203	
	タップダンスⅠ ①②	中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1								○	204	
タップダンスⅡ ①②	未定	前期			1		○	205							
実技科目	歌唱(個人レッスン)A	信太 美奈 他	前期	2			自由選択単位	専攻科目単位数には含まない				206			
	歌唱(個人レッスン)B		後期		2										
	歌唱(個人レッスン)C	未定	前期			2									
	歌唱(個人レッスン)D		後期			2									
	歌唱(個人レッスン)E	信太 美奈 他	前期	1											
	歌唱(個人レッスン)F		後期		1										
	歌唱(個人レッスン)G	未定	前期			1									
	歌唱(個人レッスン)H		後期			1									

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ				
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期										
理論科目	舞台芸術概論	高橋 宏幸 後藤 絢子	前期	2				必修	12				206				
	日本演劇史A (古典)	安富 順	前期	2									207				
	日本演劇史B (近現代)	高橋 宏幸	後期		2								207				
	西洋演劇史A (古典)	高橋 宏幸	前期	2									208				
	西洋演劇史B (近現代)	森山 直人	後期		2								208				
	ミュージカル概論	橋爪 貴明	前期	2									209				
	ミュージカル論	藤原麻優子	後期		2								209				
	ソルフェージュ基礎 ①②	永井 由比	後期		2								210				
	ソルフェージュ ①②	未定	前期			2							ミュージカルコース必修	210			
	演劇批評論	高橋 宏幸	前期			2								211			
	パフォーマンスアート論	高橋 宏幸	後期				2							211			
	演劇文化論A	中山 夏織	前期			2								○	212		
	演劇文化論B	寺田 航	後期			2								○	212		
	舞台空間理論	鈴木 健介	後期			2									○	213	
	演出論	川村 毅	後集			2								○	□	○	213
	演劇論	高橋 宏幸	2022年度開講せず				2						隔年開講	○			
劇作法	瀬戸山美咲	後期			1			○		○		214					
実習科目	舞台照明実習①	石島奈津子	前集	1				※照明部以外対象	○	□	○		214				
	舞台照明実習②	兼子 慎平	前集	1				※照明部対象		□	○		215				
	舞台音響実習①	佐藤こうじ	前集	1				※音響部以外対象	○	□	○		215				
	舞台音響実習②	宮崎 淳子	前集	1				※音響部対象		□	○		216				
	舞台製作実習	鈴木 健介	前集	1						□	○		216				
	舞台監督実習	鈴木 健介	前集	1						□	○		217				
	電動工具実習	鈴木 健介	前集	1				※人数制限あり		□	○		217				
	舞台図面実習	鈴木 健介	前集	1						□	○		218				
	ヘアメイク実習	鈴木 理絵	前集	1						□			218				
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次	穴迫 信一	後集		1					□			219				
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次	宮河愛一郎	後集		1					□			219				
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次	未定	前集			1				□			219				
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次	未定	前集			1				□			219				
	ワークショップ(演大連)	1年次	P. ゲスナー 三浦 剛	集中		1				10				220			
		2年次	高橋 宏幸	集中			1		220								
	演劇合宿		三浦 剛	前集	1						□			220			
	演劇研修	1年次	P. ゲスナー 高橋 宏幸	後集		1					□			221			
		2年次	後藤 絢子	後集				1			□						
	劇上演実習A (試演会)	ストレートプレイ	未定	後集				4	4単位必修					221			
		ミュージカル	未定	後集				4		222							
劇上演実習B (卒業公演)	ストレートプレイ	未定	後集				4						222				
	ミュージカル	未定	後集				4						223				
劇上演実習C (学外出演)		三浦 剛	集中		4				□			223					
劇上演実習D (学外出演)		三浦 剛	集中		4				□			223					
劇上演実習E (学内出演)		三浦 剛	集中		1				□			224					
劇上演実習F (学内出演)		三浦 剛	集中		1				□			224					

<2022(令和4)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位  
1.実技科目 26単位  
2.理論科目 12単位  
3.実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修  
②教養科目単位数 12単位  
外国語 2単位必修  
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。  
② 基礎演劇演習AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング(歌唱)、演劇演習ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史AB、西洋演劇史AB、ミュージカル概論、ミュージカル論は全コース必修  
③ 演技演習ABはストレートプレイコース必修  
④ ショーダンスI II、ミュージカルトレーニングB、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修  
⑤ 試演会または卒業公演は、4単位必修。  
⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。  
⑦ 歌唱(個人レッスン)の修得単位数は自由選択単位数に含む。  
レッスン時間はABC40分、EFGH20分。履修料別途徴収。  
⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数に含む。  
⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数に含む。

○講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位



## 【教育課程・卒業の要件】

## 卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表及び注意事項を参照すること。

## 1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数	14単位
(専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。
- ③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。
- ④ 教養科目の「語学」より2単位1科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって1科目とみなす。(ただし声楽専修はイタリア語を含む2語学を必修とし、合計4単位)
- ⑤ 演劇専攻科目の『実技科目(共通)』の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか1単位必修とする。(ただし、「アフレコ実技A」「アフレコ実技B」「ミュージカルトレーニングA」を除く)

## 2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数	2単位
(専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

- ② 専攻科目単位数の内訳は  
実技科目 26単位      理論科目 12単位      実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修
- ③ 教養科目単位数の内訳は  
語学 2単位必修

## 【本学における中学校教諭2種免許状取得の要件】

## 1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

・下記の(1)～(5)に定める授業科目を履修し、計10単位以上修得すること

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	要件	概要 ページ	
(1) 日本国憲法	日本国憲法	西山 智之	後期	2	必修	131	
(2) 体育	音楽基礎演習ーバロック・ダンス	浜中 康子	前期	1	1 単位選択必修	145	
	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1		196	
	狂言Ⅱ	未定	前期	1		196	
	日本舞踊Ⅰ	藤間 希穂	後期	1		195	
	日本舞踊Ⅱ	未定	前期	1		195	
	マイム	江ノ上陽一	前期	1		194	
	アクション	藤田 けん	後期	1		194	
	ジャズダンスA		三村みどり	前期		1	199
			畔柳小枝子	前期		1	200
	ジャズダンスB		三村みどり	後期		1	200
			畔柳小枝子	後期		1	201
	ジャズダンスC		未定	前期		1	201
			未定	前期		1	202
	バレエ・ムーヴメント	中農 美保	前期	1		202	
	クラシックバレエⅠ	中農 美保	後期	1		203	
クラシックバレエⅡ	未定	前期	1	203			
タップダンスⅠ	中谷 諭紀	後期	1	204			
タップダンスⅡ	近藤 淳子	後期	1	204			
	未定	前期	1	205			
(3) 外国語コミュニケーション	英語AⅠ	J. ファーナー	前期	1	2 単位選択必修	136	
	英語AⅡ	J. ファーナー	後期	1		136	
	英語BⅠ	田村奈穂子	前期	1		137	
	英語BⅡ	田村奈穂子	後期	1		137	
	ドイツ語Ⅰ	D. グロス	前期	1		138	
	ドイツ語Ⅱ	D. グロス	後期	1		139	
	ドイツ語Ⅲ	D. グロス	前期	1		139	
	ドイツ語Ⅳ	D. グロス	後期	1		140	
	イタリア語Ⅰ	M. スバラグリ	前期	1		140	
	イタリア語Ⅱ	M. スバラグリ	後期	1		141	
	イタリア語Ⅲ	M. スバラグリ	前期	1		141	
	イタリア語Ⅳ	M. スバラグリ	後期	1		142	
	フランス語Ⅰ	佐藤ローラ	前期	1		142	
フランス語Ⅱ	佐藤ローラ	後期	1	143			
(4) 情報機器の操作	情報処理論	姫野 雅子	前期	2	必修	127	
(5) 介護等体験関連	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2	必修	128	

## 2. 教職に関する科目

・下記に定める授業科目を指定された年次に履修し、すべての単位を修得すること（計28単位）

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位	学年	概要 ページ
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	音楽科教育法	伊藤 誠	後期	2	1年次	267
教育の基礎的理解に関する科目	教育史概説	宮城 哲	前期	2	2年次	267
	教師論	風見 章	後期	2	1年次	268
	教育原理	木村 康彦	後期	2	1年次	268
	教育心理学	鈴木 敦子	前期	2	2年次	269
	特別支援教育入門	桑山 一也	後期	1	1年次	269
	教育課程論及び教育方法論	風見 章	前集	1	1年次	270
道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	風見 章	後集	2	1年次	270
	総合的な学習の時間の指導法	風見 章	前集	1	1年次	271
	特別活動の指導法	真野 彰	後集	1	1年次	271
	生徒指導(進路指導含む)	安富由美子	後期	2	1年次	272
	教育相談	安富由美子	前期	2	2年次	273
	ICT活用による教育の方法・技術	狩野 浩二	後期	1	1年次	272
教育実習	教育実習Ⅰ・Ⅱ	永井 由比・柏原 佳奈	通年	5	1・2年次	273・274
教職実践演習	教職実践演習(中学校)	永井 由比・柏原 佳奈	後期	2	2年次	274

### 3. 教科に関する科目

・必修の授業科目含めて24単位以上を修得すること

科目区分	授業科目	学年	単位	要件
ソルフェージュ	S. H. M. I・II	音1	2	必修
	S. H. M. III・IV	音2	2	
声乐 (合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む)	合唱 I・II	音1	2	J2単位必修
	声楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	声楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	うたA	音1	1	
	うたB	音2	1	
	狂言 I	音1	1	
	狂言 II	音2	1	
	第一実技 I (声楽)	音1	4	
	第二実技 I (声楽)	音1	4	
	副科実技 I (声楽)	音1	2	
	第一実技 II (声楽)	音2	4	
	第二実技 II (声楽)	音2	4	
	副科実技 II (声楽)	音2	2	
	オペラ実習A [演奏]	専音1	2	
	オペラ実習A [演技]	専音1	2	
	オペラ実習A [上演]	専音1	2	
	オペラ実習B [演奏]	専音2	2	
	オペラ実習B [演技]	専音2	2	
オペラ実習B [上演]	専音2	2		
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	第一実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	GJ ピアノ必修
	第二実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	4	
	副科実技 I (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音1	2	
	第一実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	第二実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	4	
	副科実技 II (ピアノ・管楽器・弦楽器・ギター・日本音楽)	音2	2	
	サクソフォン・アンサンブルA I・II	音1	2	
	サクソフォン・アンサンブルB I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブルA I・II	音1	2	
	ギター・アンサンブルB I・II	音2	2	
	ギター・アンサンブルC	専音1	2	
	ギター・アンサンブルD	専音2	2	
	室内楽A	音2	1	
	室内楽B	音2	1	
	邦楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	邦楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	邦楽アンサンブル研究A	専音1	4	
	邦楽アンサンブル研究B	専音2	4	

科目区分	授業科目	学年	単位	要件
器楽 (合奏及び伴奏並びに和楽器を含む)	オーケストラ・スタディA	音1	1	1科目必修
	オーケストラ・スタディB	音2	1	
	オーケストラ・スタディC	専音1	1	
	オーケストラ・スタディD	専音2	1	
	合奏A	音1	2	
	合奏B	音2	2	
	合奏C	専音1	2	
	合奏D	専音2	2	
	ピアノデュオ研究A	専音1	4	
	ピアノデュオ研究B	専音2	4	
	歌曲研究A	専音1	4	
	歌曲研究B	専音2	4	
	管楽アンサンブルA I・II	音1	2	
	管楽アンサンブルB I・II	音2	2	
	管楽アンサンブル研究A	専音1	4	
	管楽アンサンブル研究B	専音2	4	
	室内楽研究A	専音1	2	
	室内楽研究B	専音1	2	
	室内楽研究C	専音2	2	
	室内楽研究D	専音2	2	
伴奏法 I・II	音1・2	2		
合奏基礎 (和楽器)	音1	1		
日本音楽特講	音1	2	必修(J除く)	
指揮法	指揮法 I・II	音2	2	必修
音楽理論・作曲法 (編曲法を含む)及び音楽史 (日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	音楽理論[和声] I	音1	2	J4単位必修
	音楽理論[和声] II	音1	2	
	音楽史概説 I・II	音1	4	
	音楽理論[和声] III	音2	2	
	音楽理論[和声] IV	音2	2	
	音楽理論[楽式] I・II	音2	4	
	対位法 I・II	音2	4	
	楽器法	音2	2	
	日本音楽理論A I・II	音1	4	
	日本音楽理論B I・II	音2	4	
	日本音楽理論C	専音2	2	
	日本音楽史概説 I・II	音1	4	
	音楽史特講A	音2	2	
	音楽史特講B	音2	2	
	音楽史演習A	音2	1	
	音楽史演習B	音2	1	
	音響学	音2	2	
	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	音2	2	
演奏解釈 (2) 声楽曲	音2	2		
演奏解釈 (3) 室内楽曲	音2	2		
演奏解釈 (4) 日本音楽	音1	2		
日本音楽概論	音1	2	必修	

【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある等による授業科目	除算される	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
作曲・理論・音楽史	音楽理論〔和声〕V	平井 正志	前期	2								225	
	音楽理論〔和声〕VI	平井 正志	後期		2							225	
	楽曲分析(古典派)	池田 哲美	前期	2								225	
	楽曲分析(ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2							226	
	コード論II	小林 真人	前期	2							○	226	
	S.H.M V・VI	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後	1	1							227	
	音楽史研究	大津 聡	通年		4							227	
	日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4			J必修				228	
	音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4					○		228	
	音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2							229	
音楽教育	演奏現場論A	合田 香	前期	2						○		229	
	アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4					○		230	
実技レッスン	第一実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6			●全専修必修				230	
	第二実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)		通年		4					○		230	
	副科実技Ⅲ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)		通年		2					○		230	
実技・アンサンブル 演奏・室内楽	学内演奏Ⅰ	松井 康司 柏原 佳奈	通年		2			●全専修必修				231	
	ピアノデュオ研究A	東井 美佳	通年		4			P必修				231	
	管楽アンサンブル研究A	津川美佐子	通年		4			W(Sx除く)必修		○		232	
	室内楽研究A	a 荻野 千里 野口千代光	前期	2								232	
		b 北本 秀樹									○	233	
	室内楽研究B	a 阪本奈津子	後期			2							233
		b 蓼沼恵美子											234
		c 吉岡 次郎											234
		d 菊池 奏絵											235
	歌曲研究A	松井 康司 東井 美佳	通年		4							235	
	オペラ実習A〔演奏〕	櫻井 淳	前期	2				V選択		○		236	
	オペラ実習A〔演技〕	柴田千絵里	前期	2				[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること		○		236	
	オペラ実習A〔上演〕	布施 雅也 柴田千絵里	後期		2					○		237	
	邦楽アンサンブル研究A	滝田美智子	通年		4			J必修				237	
	オーケストラ・スタディC	野口千代光	前集	1				S必修				238	
	合奏C	野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修				238	
	ギター・アンサンブルC	佐藤 紀雄	通年		2			G必修			○	239	
	室内楽特設クラスA	柏原 佳奈	前集	1						○*		239	
	室内楽特設クラスB	柏原 佳奈	後集		1					○*		239	
伴奏C	(1) 柏原 佳奈 (2)	前集 後集	1 1								240		
伴奏研究A	柏原 佳奈	前集	1								240		
伴奏研究B	柏原 佳奈	後集		1							240		
海外特別演習C	松井 康司 東井 美佳	前集	2								241		
特別講義(音楽)	松井 康司	集中		1			●全専修必修		○		241		
特別演習C	柏原 佳奈	通年		1			●全専修必修				242		
コラボレイト実習C	(1) 松井 康司 (2)	前集 後集	1 1								242		

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験等のある教員による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
音楽史・理論・作曲	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞例	前期			2					243	
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞例	後期				2				243	
	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4	J必修				228	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期				2	J必修				
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○		228	
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2					229	
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1				244	
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○		229	
	アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○		230	
	実技レッスン	第一実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			6	●全専修必修				230
第二実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)			通年			4			○		230	
副科実技Ⅳ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)			通年			2			○		230	
実技・アンサンブル 演奏・室内楽	第一実技修了試験		通年			4	●全専修必修					
	学内演奏Ⅱ	松井 康司 柏原 佳奈	通年			2	●全専修必修				231	
	ピアノデュオ研究B	東井 美佳	通年			4					231	
	管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年			4	W(Sx除く)必修		○		232	
	室内楽研究C	a 荻野 千里	前期			2						232
		b 野口千代光										
	室内楽研究D	a 北本 秀樹	後期				2					233
		b 阪本奈津子										
		c 蓼沼恵美子										
		d 吉岡 次郎										
	歌曲研究B	松井 康司 東井 美佳	通年			4						235
		オペラ実習B〔演奏〕	櫻井 淳	前期		2	V選択	〔演奏〕〔演技〕履修者は、必ず〔上演〕を履修すること	○		236	
	オペラ実習B〔演技〕	柴田千絵里	前期		2				○		236	
	オペラ実習B〔上演〕	布施 雅也 柴田千絵里	後期			2			○		237	
	邦楽アンサンブル研究B	滝田美智子	通年			4	J必修				237	
	オーケストラ・スタディD	野口千代光	前集			1	S必修				238	
	合奏D	野口千代光 永井 由比	後集			2	S必修				238	
	ギター・アンサンブルD	佐藤 紀雄	通年			2	G必修			○	239	
	室内楽特設クラスC	柏原 佳奈	前集		1				○*		239	
	室内楽特設クラスD	柏原 佳奈	後集			1			○*		239	
伴奏D	(1) 柏原 佳奈	前集		1						240		
	(2) 柏原 佳奈	後集			1					240		
伴奏研究C	柏原 佳奈	前集		1						240		
伴奏研究D	柏原 佳奈	後集			1					240		
海外特別演習D	松井 康司 東井 美佳	前集		2						241		
特別演習D	柏原 佳奈	通年			1					242		
コラボレイト実習D	(1) 松井 康司	前集			1					242		
	(2) 松井 康司	後集			1					242		

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

【備考】 P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

<2022(令和4)年度入学生の修了要件>  
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講義(音楽) 2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

【学士取得に向けて】

<2022(令和4)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目を24単位以上修得していること

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での修得単位	62単位以上			} 2年以上
芸術科での修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での修得単位	62単位以上		
芸術科での修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

(B)

専攻科での修得単位	31単位以上		
芸術科での修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での修得単位	24単位以上		
芸術科での修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと



【教育課程・修了の要件】

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				修了要件	他専攻	実務経験のある等に授業科目	教員による	概要ページ				
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期									
理論科目	特別講義A	高橋 宏幸	前期	2				4	○		245					
	特別講義B	後藤 絢子	前期			2						245				
	演劇学研究A (日本演劇論) (1)	高橋 宏幸	前期		2							245				
	演劇学研究A (日本演劇論) (2)		後期	2			246									
	演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	安宅りさ子	前期		2							246				
	演劇学研究B (西洋演劇論) (2)		後期	2			247									
	演劇学研究C (現代演劇論)		前期	2			247									
劇作演出科目	劇作研究A (劇作論)	瀬戸山美咲	前期	2			8	○		248						
	劇作研究B (劇作演習)	瀬戸山美咲	後期	1							248					
演劇教育科目	演出研究	小山ゆうな	前期	2			8	○		249						
	演劇教育論	柏木 陽	後期	2							249					
	アーツマネジメント研究 (1)	後藤 絢子	前期	2							250					
	アーツマネジメント研究 (2)		後期	2							250					
	アウトリーチ研究 (1)	後藤 絢子	前期	2							251					
アウトリーチ研究 (2)	後期		2			251										
演技科目	演技研究A (日本演劇) (1) 1年次	三浦 剛	前期	1				16			252					
	演技研究A (日本演劇) (2) 1年次		後期		1						252					
	演技研究A (日本演劇) (1) 2年次		前期			1						252				
	演技研究A (日本演劇) (2) 2年次		後期				1					252				
	演技研究B (外国演劇) (1) 1年次	P.ゲスナー	前期	1							253					
	演技研究B (外国演劇) (2) 1年次		後期		1						253					
	演技研究B (外国演劇) (1) 2年次		前期			1						253				
	演技研究B (外国演劇) (2) 2年次		後期				1					253				
	演技研究C (現代劇) (1) 1年次	田中壮太郎	前期	1							254					
	演技研究C (現代劇) (2) 1年次		後期		1						254					
	演技研究C (現代劇) (1) 2年次		前期			1						254				
	演技研究C (現代劇) (2) 2年次		後期				1					254				
	演技研究D (フィジカルシアター) 1年次	大谷賢治郎	後期		1						255					
	演技研究D (フィジカルシアター) 2年次					1					255					
	演技研究E (ミュージカル) 1年次	大塚 幸太	前期	1							256					
	演技研究E (ミュージカル) 2年次					1					256					
	演劇特別研究 (1) ①②	真鍋 卓嗣	前期		1						○		257			
	演劇特別研究 (2) ①②		後期	1			257									
	ワークショップA (1)	生田みゆき	前集	1							○		257			
	ワークショップA (2)		後集		1									258		
	ワークショップB (1)	未定	前集			1							257			
	ワークショップB (2)		後集				1							258		
	ワークショップC (演大連)	P.ゲスナー 三浦 剛	集中	1									258			
	ワークショップD (演大連)	高橋 宏幸	集中			1										
	演劇研修 1年次	P.ゲスナー 高橋 宏幸 後藤 絢子	後集		1								259			
	演劇研修 2年次						1									
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ) (1)	中農 美保	前期		1		2	○*1		259						
	舞踊A (クラシックバレエ) (2)		後期		1						259					
	舞踊B (コンテンポラリー)	勝倉 寧子	前期		1						○	260				
	舞踊C (日舞)	藤間 希穂	後期		1						○*2	260				
	ミュージカル唱法 (1)	藍澤 幸頼	前期		1							261				
	ミュージカル唱法 (2)		後期		1							261				
	英語劇 (1)	J. サザーランド	前期		1							261				
	英語劇 (2)		後期		1							261				
	歌唱 (個人レッスン) I	信太 美奈 他	前期	2								自由選択単位		262		
	歌唱 (個人レッスン) J		後期		2											
	歌唱 (個人レッスン) K	未定	前期			2										
	歌唱 (個人レッスン) L		後期			2										
	歌唱 (個人レッスン) M	信太 美奈 他	前期	1												
	歌唱 (個人レッスン) N		後期		1											
	歌唱 (個人レッスン) O	未定	前期			1										
	歌唱 (個人レッスン) P		後期			1										
劇上演実習	劇上演実習A 1年次	P.ゲスナー	前集	4			16			262						
	劇上演実習A 2年次					4									262	
	劇上演実習B 1年次①	未定	後集		4						263					
						2年次①				後集					4	263
																1年次②
						2年次②				後集					4	
	劇上演実習C (専1最終公演)	田中壮太郎	後集		4											
	劇上演実習D (専2修了公演)	未定	後集			4					264					
	劇上演実習E (学外出演)	三浦 剛	集中		4						265					
	劇上演実習F (学外出演)	三浦 剛	集中		4						265					
劇上演実習G (学内出演)	三浦 剛	集中		1			265									
劇上演実習H (学内出演)	三浦 剛	集中		1			265									
修了論文	修了論文 (1)	高橋宏幸 他	前期		2					266						
	修了論文 (2)		後期		2						266					

\*1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエⅠ」「クラシックバレエⅡ」を修得していることを条件とする。

\*2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊Ⅰ」「日本舞踊Ⅱ」を修得していることを条件とする。

<2022(令和4)年度入学生の修了要件>  
最低修得単位数 50単位 (2学年合計)

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネージメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位 (自他専攻科科目より)

○修了要件とは別に、芸術科演劇専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可

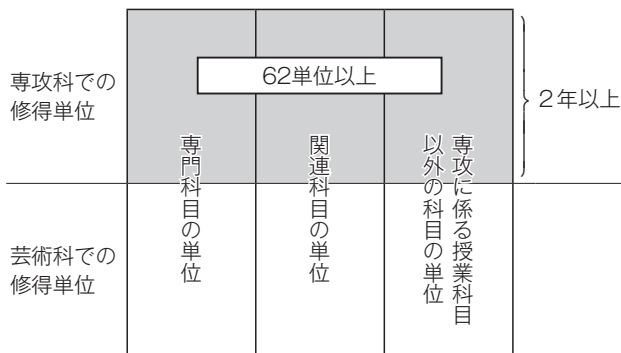
【学士取得に向けて】

<2022(令和4)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位 (2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目を24単位以上修得していること

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること



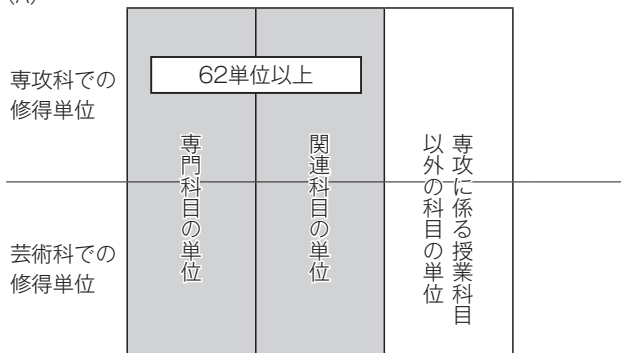
「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

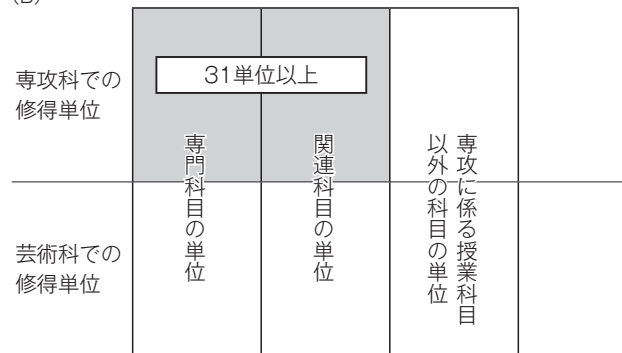
※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

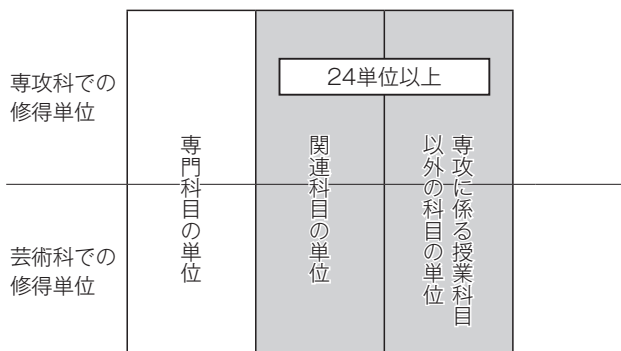
(A)



(B)



③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること



※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

## 2022(令和4)年度 カリキュラムマップ

## 【カリキュラムマップ】

カリキュラムマップは、学習成果で掲げている「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」の5つの観点の到達目標が、どの授業科目の履修によって達成されるかの相関関係を示したものである。

各科目がカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのかを確認し、学修の一助とすること。

## 教養科目カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 芸術文化を歴史・社会・自然と関連づけて理解することができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、問題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 芸術文化に幅広く関心を持ち、新たな創造的表現を実現する意欲に高めることができる。
- ④ (態度) 多様な価値観を理解し、地域社会および国際社会のニーズに応え、活力ある社会の構築に努めることができる。
- ⑤ (技能・表現) 日本語と外国語を用いて、他者の発言や文章を理解し、自らの考えを的確に表明することができる。

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
キャリア教育	前期	情報リテラシー論		○	○		
	前期	情報処理論				○	○
	前期	音楽環境論		○	○		
	前期	社会福祉学	○			○	
	後期	表現コミュニケーション論		○		○	
	前期	アーツマネジメント論		○	○		
	前期	応用演劇論	○		○		
一般教養	後期	メディア論		○	○		
	前期	現代思想論	○				○
	後期	日本国憲法	○		○		
	前期	文化政策論A	○		○		
	後期	文化政策論B	○		○		
	前期	青少年教育論		○		○	
	後期	倫理学		○		○	
	後期	ジェンダー論			○	○	
	後期	ダンス史	○		○		
	前期	映画史	○			○	
	後集	映画論	○			○	
語学	前期	英語A I				○	○
	後期	英語A II				○	○
	前期	英語B I				○	○
	後期	英語B II				○	○
	前期	演劇英語①②				○	○
	前期	ドイツ語 I				○	○
	後期	ドイツ語 II				○	○
	前期	ドイツ語 III				○	○
	後期	ドイツ語 IV				○	○
	前期	イタリア語 I				○	○
	後期	イタリア語 II				○	○
	前期	イタリア語 III				○	○
	後期	イタリア語 IV				○	○
	前期	フランス語 I				○	○
	後期	フランス語 II				○	○

## 芸術科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 専門実技、音楽理論、ソルフェージュなどの演奏表現に必要な基礎を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら課題を設定し、演奏表現の向上に向けて多面的に考察し、判断していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 自らの音楽的な知識、経験をもって社会におけるニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての基礎的な演奏技術と表現能力をもち、自分の想像した表現を実現することができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤	
専攻 教養 科目	前期	音楽理論基礎	○			○		
	前期	音楽基礎演習―バロック・ダンス				○	○	
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] I・II	○	○				
	前・後	日本音楽理論A I・II	○		○			
音楽 史	前・後	音楽史概説 I・II			○	○		
	前・後	日本音楽史概説 I・II			○	○		
	後期	日本音楽概論			○	○		
ソルフェ ージュ	前・後	S. H. M. I・II	○			○		
専門 教育 科目	後期	演奏会制作法			○	○		
	前期	アウトリーチ概説		○	○			
	後期	アウトリーチ演習			○	○		
	後集	特別講座	○	○				
	後期	日本音楽特講			○	○		
	前期	ディクショ (イタリア語)	○				○	
	前期	管楽器基礎(呼吸法)			○	○	○	
	前期	うたA			○	○	○	
	前期	初見演奏 (基礎)			○	○	○	
	集中	身体と表現との調和		○			○	
	後期	伴奏法 I	○			○		
	後期	演奏解釈 (4) 日本音楽	○	○				
	室内 楽・ アン サン ブル 科目	前・後	合唱 I・II			○	○	
		前集	オーケストラ・スタディ A			○	○	○
後集		合奏 A			○	○	○	
前・後		声楽アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		管楽アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		金管アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		サクソフォン・アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		ギター・アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		邦楽アンサンブル A I・II			○	○	○	
前・後		伴奏 A			○	○		
前期		合奏基礎 (和楽器)			○	○	○	
実技 科目	通年	第一実技 I			○	○	○	
	通年	第二実技 I			○	○	○	
	通年	副科実技 I			○	○	○	
特別 演習	前集	海外特別演習 A	○		○			
	通年	特別演習 A	○	○				
実習科目	前・後	コラボレイト実習 A		○	○			

### ■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤	
音楽 理論	前・後	音楽理論 [和声] III・IV	○	○				
	前・後	対位法 I・II		○	○			
	前期	コード論 I	○	○				
	前・後	音楽理論 [楽式] I・II	○		○			
	前・後	日本音楽理論 B I・II	○		○			
	音楽 史	前期	音楽史特講 A	○		○		
前期		音楽史特講 B	○		○			
後期		音楽史演習 A	○	○				
後期		音楽史演習 B	○	○				
ソルフェ ージュ	前・後	S. H. M. III. IV	○			○		
専門 教育 科目	前期	うた B			○	○	○	
	前期	音響学	○				○	
	前期	音楽マネジメント			○	○		
	前期	音楽療法概論	○			○		
	後期	演奏解釈 (1) ピアノ楽曲	○	○				
	前期	演奏解釈 (2) 声楽曲	○	○				
	前期	演奏解釈 (3) 室内楽曲	○	○				
	前集	楽器法	○		○			
	前期	楽器法 (和楽器)	○		○			
	前・後	指揮法 I・II			○	○		
	前期	伴奏法 II	○			○		
	室内 楽・ アン サン ブル 科目	前期	室内楽 A		○			○
		後期	室内楽 B		○			○
		前集	オーケストラ・スタディ B			○	○	○
後集		合奏 B			○	○	○	
前・後		声楽アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		管楽アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		金楽アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		サクソフォン・アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		ギター・アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		邦楽アンサンブル B I・II			○	○	○	
前・後		伴奏 B			○	○		
実技 科目	通年	第一実技 II			○	○	○	
	通年	第二実技 II			○	○	○	
	通年	副科実技 II			○	○	○	
	通年	第一実技卒業試験	○	○			○	
特別 演習	前集	海外特別演習 B	○		○			
	通年	特別演習 B	○	○				
実習科目	前・後	コラボレイト実習 B		○	○			

## 専攻科音楽専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 音楽を中心とした芸術全般の知識、音楽理論、歴史などを体系的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための音楽的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 時代に即した演奏表現を獲得するとともに、同時代から求められている最先端の演奏表現などを取り入れることができる。
- ③ (関心・意欲) 同時代における最先端の演奏表現、創造行為の動向に関心を払い、自らもそれに参入することができる。
- ④ (態度) 他者との協働に積極的にに関わり、自らの音楽経験、知識を持って教育、福祉、文化活動など、社会的なニーズに応えると同時に、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 演奏家、指導者としての確かな演奏技術と表現力を持ち、音楽による表現、創造活動の意義を社会に伝えることができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専門教育	通年	音楽療法概説A			○	○	
	通年	音楽療法演習A			○		○
	前期	演奏現場論A			○	○	
	通年	アウトリーチ研究A			○	○	
	集中	特別講義(音楽)	○	○			
	通年	特別演習C		○		○	
音楽理論	前・後	音楽理論[和声] V・VI	○	○			
	前期	楽曲分析(古典派)	○	○			
	後期	楽曲分析(ロマン派以降)	○	○			
	前期	コード論II	○	○			
音楽史	通年	音楽史研究	○		○		
	通年	日本音楽史研究A	○		○		
ソルフェージュ	前・後	S. H. M. V・VI		○		○	
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究A				○	○
	通年	管楽アンサンブル研究A				○	○
	通年	歌曲研究A				○	○
	前集	室内楽特設クラスA				○	○
	後集	室内楽特設クラスB				○	○
室内楽	前期	室内楽研究A					○
	後期	室内楽研究B					○
	前期	オペラ実習A[演奏]		○			○
	前期	オペラ実習A[演技]		○			○
	後期	オペラ実習A[上演]				○	○
	通年	邦楽アンサンブル研究A				○	○
	前集	オーケストラ・スタディC				○	○
	後集	合奏C				○	○
	通年	ギター・アンサンブルC				○	○
	通年	学内演奏I				○	○
実技	前・後	伴奏C				○	○
	前集	伴奏研究A				○	○
	後集	伴奏研究B				○	○
	前集	海外特別演習C			○		○
	前・後	コラボレイト実習C		○	○		
	通年	第一実技III				○	○
	通年	第二実技III				○	○
	通年	副科実技III				○	○

### ■ 2年次

科目区分	期	科目名	①	②	③	④	⑤
専門教育	通年	音楽療法概説B			○	○	
	通年	音楽療法演習B			○		○
	後集	音楽療法実習			○		○
	前期	演奏現場論B			○	○	
	通年	アウトリーチ研究B			○	○	
	通年	特別演習D		○		○	
音楽理論	前期	楽曲分析[編曲]			○		○
	後期	楽曲分析[創作]			○		○
	後期	日本音楽理論C	○	○			
音楽史	通年	日本音楽史研究B	○		○		
アンサンブル	通年	ピアノデュオ研究B				○	○
	通年	管楽アンサンブル研究B				○	○
	通年	歌曲研究B				○	○
	前集	室内楽特設クラスC				○	○
	後集	室内楽特設クラスD				○	○
室内楽	前期	室内楽研究C				○	○
	後期	室内楽研究D				○	○
	前期	オペラ実習B[演奏]		○			○
	前期	オペラ実習B[演技]		○			○
	後期	オペラ実習B[上演]				○	○
	通年	邦楽アンサンブル研究B				○	○
	前集	オーケストラ・スタディD				○	○
	後集	合奏D				○	○
	通年	ギター・アンサンブルD				○	○
	通年	学内演奏II				○	○
実技	前・後	伴奏D				○	○
	前集	伴奏研究C				○	○
	後集	伴奏研究D				○	○
	前集	海外特別演習D			○		○
	前・後	コラボレイト実習D		○	○		
	通年	第一実技IV				○	○
	通年	第二実技IV				○	○
	通年	副科実技IV				○	○
	通年	第一実技修了試験				○	○

## 芸術科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論と歴史を学び、知識を活用して作品の理解を深めることができる。
- ② (思考・判断) 演劇、歌唱、舞踊等の表現手段を用いて、他者とともに課題を解決することができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における自分の存在意義、自己表現の意味を自覚して、積極的に創造活動を行うことができる。
- ④ (態度) 集団の中で協働の役割をはたすことができ、演劇的な技術、知識をもって地域社会および国際社会のニーズに応えることができる。
- ⑤ (技能・表現) 俳優、表現者としての基礎的な技能をもち、自分の想像した表現を実現することができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤		
基礎実技科目	前期	基礎演劇演習A		○		○			
		基礎演劇演習B		○		○			
		身体トレーニング		○		○			
		ボイス・トレーニング(歌唱)		○			○		
実技科目(共通)	前期	マイム		○		○			
		ジャズダンスA		○		○			
		バレエ・ムーヴメント		○		○			
実技科目		歌唱(個人レッスン) A,E		○		○			
理論科目	前期	舞台芸術概論	○		○				
		日本演劇史A(古典)	○		○				
		西洋演劇史A(古典)	○		○				
		ミュージカル概論	○		○				
		演劇文化論A	○		○				
実習科目	前期	舞台照明実習①		○		○			
		舞台照明実習②		○		○			
		舞台音響実習①		○		○			
		舞台音響実習②		○		○			
		ヘアメイク実習	○		○				
		舞台監督実習		○		○			
		舞台製作実習	○		○				
		電動工具実習	○		○				
		舞台図面実習	○		○				
		ワークショップ(演大連) 1年次				○	○		
演技科目	前期	演劇合宿		○		○			
		劇上演実習C,D(学外出演)		○	○		○		
		劇上演実習E,F(学内出演)		○	○		○		
		演劇演習A	○		○				
実技科目(共通)	前期	演劇演習B		○		○			
		演劇特別演習I		○		○			
		アクション		○		○			
		日本舞踊I	○			○			
		狂言I	○			○			
		クラシック唱法I	○		○				
		ミュージカルトレーニングA		○		○			
		ジャズダンスB		○		○			
実技科目	前期	クラシックバレエI		○		○			
		タップダンスI		○		○			
		歌唱(個人レッスン) B,F		○		○			
理論科目	後期	日本演劇史B(近現代)	○		○				
		西洋演劇史B(近現代)	○		○				
		ミュージカル論	○		○				
		ソルフェージュ基礎	○		○				
		演劇文化論B	○		○				
		舞台空間理論	○		○				
		演出論	○		○				
		劇作法	○		○				
		実習科目	後期	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次				○	○
				ワークショップ(ミュージカル) 1年次				○	○
ワークショップ(演大連) 1年次						○	○		
演劇研修 1年次	○				○				
劇上演実習C,D(学外出演)				○		○	○		
劇上演実習E,F(学内出演)				○		○	○		

### ■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤		
演技科目	前期	演劇演習C		○		○			
		S実技科目	演技演習A(ダイアログ)		○		○		
M実技科目	前期	演技演習B(アンサンブル)		○		○			
		ショーダンスI		○			○		
実技科目(共通)	前期	ミュージカルトレーニングB		○			○		
		演劇特別演習II		○			○		
		日本舞踊II			○		○		
		狂言II	○				○		
		アフレコ実技A	○		○				
		クラシック唱法II	○		○				
		ジャズダンスC		○			○		
		クラシックバレエII		○			○		
		タップダンスII		○			○		
		歌唱(個人レッスン) C,G		○		○	○		
理論科目	前期	ソルフェージュ	○		○				
		演劇批評論	○		○				
実習科目	前期	演劇文化論A	○		○				
		ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次				○	○		
		ワークショップ(ミュージカル) 2年次				○	○		
		ワークショップ(演大連) 2年次				○	○		
		劇上演実習C,D(学外出演)		○	○		○		
		劇上演実習E,F(学内出演)		○	○		○		
演技科目	後期	演劇演習D		○		○			
		S実技科目	演技演習B(アンサンブル)		○		○		
M実技科目	後期	演技演習A(ダイアログ)		○		○			
		ショーダンスII		○			○		
実技科目(共通)	後期	ミュージカル演習		○			○		
		アフレコ実技B	○		○				
理論科目	後期	歌唱(個人レッスン) D,H		○			○		
		パフォーマンスアート論	○		○				
		演劇文化論B	○		○				
		舞台空間理論	○		○				
		演出論	○		○				
		演劇論	○		○				
		劇作法	○		○				
		実習科目	後期	ワークショップ(演大連) 2年次				○	○
				演劇研修 2年次	○		○		
				劇上演実習A(試演会)		○		○	○
劇上演実習B(卒業公演)				○		○	○		
劇上演実習C,D(学外出演)				○		○	○		
劇上演実習E,F(学内出演)				○		○	○		



## 専攻科演劇専攻カリキュラムマップ

- ① (知識・理解) 演劇を中心とした舞台芸術の理論、歴史などを発展的に学び、豊かな人間性と社会を支えるための演劇的経験と教養を自ら広げ、深めることができる。
- ② (思考・判断) 自ら設定した課題を、理論や歴史を元に、演技、歌唱、舞踊、パフォーマンスなどの表現手段を用いて、他者との関わりを深めながら解決していくことができる。
- ③ (関心・意欲) 社会における演劇、ひいては芸術の存在意義を考え、自らの表現活動を積極的に実践することができる。
- ④ (態度) 集団のなかで協働性をもち、進んでリーダーシップをとり、地域社会および国際社会のニーズに応じて、心豊かな社会の実現に向けた活動を実践することができる。
- ⑤ (技能・表現) 専門俳優、表現者としての確かな技能と表現力をもち、演劇を中心とした舞台芸術の意義を社会に伝えることができる。

### ■ 1年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義A	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (1)			○		○
		アウトリーチ研究 (1)			○		○
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (1) 1年次		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) 1年次		○		○	
		演劇特別研究 (1)	○			○	
		ワークショップA (1)				○	○
		ワークショップC (演大連)				○	○
		ワークショップD (演大連)				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) (1)		○		○	
		舞踊B (コンテンポラリー)		○		○	
		ミュージカル唱法 (1)		○		○	
		英語劇 (1)	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) I, M		○			○
		劇上演実習A 1年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
修了論文		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
		修了論文 (1)	○	○			○
理論科目		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究B (劇作演習)			○		○
		演劇教育論			○		○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (2)			○		○
		アウトリーチ研究 (2)			○		○
演技科目		演技研究A (日本演劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (2) 1年次		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) 1年次		○		○	
		演劇特別研究 (2)	○			○	
		ワークショップA (2)				○	○
		ワークショップC (演大連)				○	○
		演劇研修 1年次	○		○		
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) (2)		○		○	
		舞踊C (日舞)		○		○	
		ミュージカル唱法 (2)		○		○	
		英語劇 (2)	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) J, N		○			○
		劇上演実習B 1年次		○		○	○
		劇上演実習C (専1最終公演)		○		○	○
修了論文		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
修了論文		修了論文 (2)	○	○			○

### ■ 2年次

科目区分	期	授業科目	①	②	③	④	⑤
理論科目		特別講義B	○		○		
		演劇学研究A (日本演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (1)	○		○		
		演劇学研究C (現代演劇論)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究A (劇作論)			○		○
		演出研究				○	○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (1)			○		○
		アウトリーチ研究 (1)			○		○
演技科目	前期	演技研究A (日本演劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (1) 2年次		○		○	
		演技研究E (ミュージカル) 2年次		○		○	
		演劇特別研究 (1)	○			○	
		ワークショップB (1)				○	○
		ワークショップD (演大連)				○	○
		ワークショップE (演大連)				○	○
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) (1)		○		○	
		舞踊B (コンテンポラリー)		○		○	
		ミュージカル唱法 (1)		○		○	
		英語劇 (1)	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) K, O		○			○
		劇上演実習A 2年次		○		○	○
		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
修了論文		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
		修了論文 (1)	○	○			○
理論科目		演劇学研究A (日本演劇論) (2)	○		○		
		演劇学研究B (西洋演劇論) (2)	○		○		
創作・演出科目		劇作研究B (劇作演習)			○		○
		演劇教育論			○		○
演劇教育・マネジメント科目		アーツマネジメント研究 (2)			○		○
		アウトリーチ研究 (2)			○		○
演技科目		演技研究A (日本演劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究B (外国演劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究C (現代劇) (2) 2年次		○		○	
		演技研究D (フィジカルシアター) 2年次		○		○	
		演劇特別研究 (2)	○			○	
		ワークショップB (2)				○	○
		ワークショップD (演大連)				○	○
		演劇研修 2年次	○		○		
実技科目		舞踊A (クラシックバレエ) (2)		○		○	
		舞踊C (日舞)		○		○	
		ミュージカル唱法 (2)		○		○	
		英語劇 (2)	○		○		
劇上演実習		歌唱 (個人レッスン) L, P		○			○
		劇上演実習B 2年次		○		○	○
		劇上演実習D (専2修了公演)		○		○	○
修了論文		劇上演実習E, F (学外出演)		○		○	○
		劇上演実習G, H (学内出演)		○		○	○
修了論文		修了論文 (2)	○	○			○

## 2022(令和4)年度 科目ナンバリング

## 科目ナンバー

科目ナンバーは、学問分野の中で、その科目がどのような位置づけとなっているかを示す、住所のような役割を持っています。

科目ナンバーの示し方は大学により多様ですが、基本的に3文字か4文字からなる文字コード部と、3ケタから5ケタからなる数字コード部で表す方式が一般的です。

【例】 ジャズダンスA : DNC 1 3 2 0 T

↓

DNC…科目が属する学問分野を示す文字コード  
 1 …レベル  
 3 …授業の方法  
 2 …学問分野・領域の細分  
 0 …科目整理番号  
 T …所属コード

文字コードは、その科目が主としてどのような学問分野に属しているのかを示しています。

文字コードと学問分野との関係を【表1】に示します。

数字コードは、千の位にてその科目の難易度(レベル)を【表2】、百の位にて当該科目で主とする授業形態(講義主体なのか、実技主体なのかなど)を【表3】、十の位にて文字コードで示す学問分野・領域を細分した場合の位置づけを【表4】、一の位にて文字コードと数字コードの千の位・百の位・十の位とが同じ科目中での、住所での番地に相当する当該科目の固有番号(科目を整理するための番号)を示しています。

所属コードは、本学での開講を担っている教育組織などを示しています。所属コードと教育組織との関係は次の通りです。

B : 教養科目    M : 音楽専攻    T : 演劇専攻    MA : 専攻科音楽専攻    TA : 専攻科演劇専攻

[表1] 文字コード: 科目が属する学問分野

文字コード	学問分野名称<日本語>	学問分野名称<英語>
CAE	キャリア教育	Career Education
LIA	一般教養	Liberal Arts
FLS	語学	Foreign Language Studies
MUS	音楽(音楽学)	Music
THE	演劇学	Theater
DNC	舞踊学	Dance
VOM	音楽(歌唱)	Vocal Music

[表2] 千の位: レベル

1000から4000へと段階的にレベルが高くなります。

千の位	レベル
1	1000
2	2000
3	3000
4	4000

[表3] 百の位: 授業の方法

■音楽専攻 百の位: 授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(技術)
3	実技(副科、第二実技)
4	実技(主科)
5	実習(卒業試験など)

■演劇専攻 百の位: 授業形態

百の位	授業形態
0	講義
1	演習(理論)
2	演習(演技)
3	実技(グループレッスン) ※GL
4	実技(個人レッスン) ※PL
5	実習(スタッフ) ※Staff
6	実習(ワークショップ) ※WS
7	実習(上演)

[表4] 十の位：学問分野・領域の細分

文字コード	学問分野名称<日本語>	十の位	学問分野・領域の細分
CAE	キャリア教育	0	情報
		1	環境
		2	社会福祉
		3	コミュニケーション
		4	アーツマネジメント
		5	応用演劇
LIA	一般教養	0	メディア
		1	思想
		2	日本国憲法
		3	文化
		4	教育
		5	身体
FLS	語学	0	英語
		1	ドイツ語
		2	イタリア語
		3	フランス語
MUS	音楽（音楽学）	0	専門教育
		1	音楽理論
		2	音楽史・音楽学
		3	ソルフェージュ
		4	合奏・室内楽・アンサンブル
		5	専門実技
THE	演劇学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	戯曲
		2	演出
		3	演技
		4	舞台技術
		5	制作
		6	批評
DNC	舞踊学	0	クラシックバレエ
		1	ジャズダンス
		2	タップダンス
		3	日本舞踊
		4	コンテンポラリー
VOM	音楽（歌唱）	0	ソルフェージュ
		1	声楽

2022(令和4)年度 科目ナンバリング [教養科目]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
キャリア教育	情報リテラシー論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1000B
	情報処理論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1001B
	音楽環境論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1010B
	社会福祉学	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1020B
	表現コミュニケーション論	CAE	講義	2	1・2	後期	CAE2030B
	アーツマネジメント論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1040B
	応用演劇論	CAE	講義	2	1・2	前期	CAE1050B
一般教養	メディア論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2000B
	現代思想論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1010B
	日本国憲法	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2020B
	文化政策論A	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1030B
	文化政策論B	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2030B
	青少年教育論	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1040B
	倫理学	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2010B
	ジェンダー論	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2011B
	ダンス史	LIA	講義	2	1・2	後期	LIA2050B
	映画史	LIA	講義	2	1・2	前期	LIA1000B
	映画論	LIA	講義	2	1・2	後集	LIA2001B
語学	英語A I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1100B
	英語A II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2100B
	英語B I	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3100B
	英語B II	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4100B
	演劇英語	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1101B
	ドイツ語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1110B
	ドイツ語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2110B
	ドイツ語 III	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3110B
	ドイツ語 IV	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4110B
	イタリア語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1120B
	イタリア語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2120B
	イタリア語 III	FLS	演習(理論)	1	2	前期	FLS3120B
	イタリア語 IV	FLS	演習(理論)	1	2	後期	FLS4120B
	フランス語 I	FLS	演習(理論)	1	1	前期	FLS1130B
	フランス語 II	FLS	演習(理論)	1	1	後期	FLS2130B

2022(令和4)年度 科目ナンバリング [芸術科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専攻教養科目	音楽基礎演習－バロック・ダンス	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1200M
	音楽理論基礎	MUS	演習（理論）	1	1	前期	MUS1110M
音楽理論	音楽理論 [和声] I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010M
	音楽理論 [和声] II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010M
	音楽理論 [和声] III	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010M
	音楽理論 [和声] IV	MUS	講義	2	2	後期	MUS4010M
	対位法 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3011M
	対位法 II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011M
	コード論 I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3012M
	音楽理論 [楽式] I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3013M
	音楽理論 [楽式] II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4012M
	日本音楽理論 A I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011M
	日本音楽理論 A II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2011M
	日本音楽理論 B I	MUS	講義	2	2	前期	MUS3014M
日本音楽理論 B II	MUS	講義	2	2	後期	MUS4013M	
音楽史	音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1020M
	音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2020M
	音楽史特講 A	MUS	講義	2	2	前期	MUS3020M
	音楽史特講 B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3021M
	音楽史演習 A	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4120M
	音楽史演習 B	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4121M
	日本音楽史概説 I	MUS	講義	2	1	前期	MUS1021M
	日本音楽史概説 II	MUS	講義	2	1	後期	MUS2021M
日本音楽概論	MUS	講義	2	1	後期	MUS2022M	
ソルフェージュ	S.H.M. I	MUS	演習（理論）	1	1	前期	MUS1130M
	S.H.M. II	MUS	演習（理論）	1	1	後期	MUS2130M
	S.H.M. III	MUS	演習（理論）	1	2	前期	MUS3130M
	S.H.M. IV	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4130M
専門教育科目	演奏会制作法	MUS	演習（理論）	1	1	後期	MUS2100M
	アウトリーチ概説	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000M
	アウトリーチ演習	MUS	演習（技術）	1	1	後期	MUS2200M
	音響学	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000M
	特別講座	MUS	講義	1	1	後集	MUS2000M
	日本音楽特講	MUS	講義	2	1	後期	MUS2001M
	ディクシオン（イタリア語）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1201M
	管楽器基礎（呼吸法）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1202M
	うた A	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1203M
	うた B	MUS	演習（技術）	1	2	前期	MUS3200M
	初見演奏（基礎）	MUS	演習（技術）	1	1	前期	MUS1204M
	身体と表現との調和	MUS	演習（技術）	2	1	集中	MUS2201M
	音楽マネジメント	MUS	講義	2	2	前期	MUS3001M
	音楽療法概論	MUS	講義	2	2	前期	MUS3002M
	演奏解釈（1）ピアノ楽曲	MUS	講義	2	2	後期	MUS4000M
	演奏解釈（2）声楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3003M
	演奏解釈（3）室内楽曲	MUS	講義	2	2	前期	MUS3004M
	演奏解釈（4）日本音楽	MUS	講義	2	1	後期	MUS2002M
	楽器法（和楽器）	MUS	講義	2	2	前期	MUS3005M
	楽器法	MUS	講義	2	2	前集	MUS3006M
	指揮法 I	MUS	演習（理論）	1	2	前期	MUS3100M
	指揮法 II	MUS	演習（理論）	1	2	後期	MUS4100M
	伴奏法 I	MUS	演習（技術）	1	1	後期	MUS2202M
	伴奏法 II	MUS	演習（技術）	1	2	前期	MUS3201M

科目区分	授業科目	文字コード*	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・ アンサンブル科目	合唱Ⅰ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1240M
	合唱Ⅱ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2240M
	合奏A	MUS	演習(技術)	2	1	後集	MUS2241M
	合奏B	MUS	演習(技術)	2	2	後集	MUS4240M
	室内楽A	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3240M
	室内楽B	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4241M
	オーケストラ・スタディA	MUS	演習(技術)	1	1	前集	MUS1241M
	オーケストラ・スタディB	MUS	演習(技術)	1	2	前集	MUS3241M
	声楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1242M
	声楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2242M
	声楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3242M
	声楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4242M
	管楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1243M
	管楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2243M
	管楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3243M
	管楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4243M
	金管アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1244M
	金管アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2244M
	金管アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3244M
	金管アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4244M
	サクソフォン・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1245M
	サクソフォン・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3245M
	サクソフォン・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4245M
	ギター・アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1246M
	ギター・アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2246M
	ギター・アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3246M
	ギター・アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4246M
	邦楽アンサンブルAⅠ	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1247M
	邦楽アンサンブルAⅡ	MUS	演習(技術)	1	1	後期	MUS2247M
	邦楽アンサンブルBⅠ	MUS	演習(技術)	1	2	前期	MUS3247M
	邦楽アンサンブルBⅡ	MUS	演習(技術)	1	2	後期	MUS4247M
	合奏基礎(和楽器)	MUS	演習(技術)	1	1	前期	MUS1248M
	伴奏A	MUS	演習(技術)	1	1	前集・後集	MUS2248M
伴奏B	MUS	演習(技術)	1	2	前集・後集	MUS4248M	
実技科目	第一実技Ⅰ	MUS	実技(主科)	4	1	通年	MUS2450M
	第一実技Ⅱ	MUS	実技(主科)	4	2	通年	MUS4450M
	第二実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	1	通年	MUS2350M
	第二実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	4	2	通年	MUS4350M
	副科実技Ⅰ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	1	通年	MUS2351M
	副科実技Ⅱ	MUS	実技(副科、第二実技)	2	2	通年	MUS4351M
	第一実技卒業試験	MUS	実習(卒業試験など)	4	2	通年	MUS4550M
特別演習	海外特別演習A	MUS	演習(技術)	2	1	前集	MUS1249M
	海外特別演習B	MUS	演習(技術)	2	2	前集	MUS3248M
	特別演習A	MUS	演習(技術)	1	1	通年	MUS2203M
	特別演習B	MUS	演習(技術)	1	2	通年	MUS4200M
実習科目	コラボレイト実習A	MUS	実習(卒業試験など)	1	1	前集・後集	MUS2550M
	コラボレイト実習B	MUS	実習(卒業試験など)	1	2	前集・後集	MUS4551M



2022(令和4)年度 科目ナンバリング [専攻科/音楽専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
専門教育科目	音楽療法概説A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2000MA
	音楽療法演習A	MUS	演習(技術)	2	1	通年	MUS2200MA
	音楽療法概説B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4000MA
	音楽療法演習B	MUS	演習(技術)	2	2	通年	MUS4200MA
	音楽療法実習	MUS	実習(卒業試験など)	1	2	後集	MUS4500MA
	演奏現場論A	MUS	講義	2	1	前期	MUS1000MA
	演奏現場論B	MUS	講義	2	2	前期	MUS3000MA
	アウトリーチ研究A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2001MA
	アウトリーチ研究B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4001MA
	特別講義(音楽)	MUS	講義	1	1	集中	MUS2002MA
	特別演習C	MUS	演習(技術)	1	1	通年	MUS2201MA
	特別演習D	MUS	演習(技術)	1	2	通年	MUS4201MA
音楽理論	音楽理論[和声]V	MUS	講義	2	1	前期	MUS1010MA
	音楽理論[和声]VI	MUS	講義	2	1	後期	MUS2010MA
	日本音楽理論C	MUS	講義	2	2	後期	MUS4010MA
	楽曲分析(古典派)	MUS	講義	2	1	前期	MUS1011MA
	楽曲分析(ロマン派以降)	MUS	講義	2	1	後期	MUS2012MA
	楽曲分析[編曲]	MUS	講義	2	2	前期	MUS3010MA
	楽曲分析[創作]	MUS	講義	2	2	後期	MUS4011MA
コード論II	MUS	講義	2	1	前期	MUS1012MA	
音楽史	音楽史研究	MUS	講義	4	1	通年	MUS2020MA
	日本音楽史研究A	MUS	講義	4	1	通年	MUS2021MA
	日本音楽史研究B	MUS	講義	4	2	通年	MUS4020MA
ソルフェージュ	S. H. M. V	MUS	演習(理論)	1	1	前期	MUS1130MA
	S. H. M. VI	MUS	演習(理論)	1	1	後期	MUS2130MA
室内楽・アンサンブル科目	ピアノデュオ研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2240MA
	ピアノデュオ研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4240MA
	管楽アンサンブル研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2241MA
	管楽アンサンブル研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4241MA
	室内楽研究A	MUS	演習(技術)	2	1	前期	MUS1240MA
	室内楽研究B	MUS	演習(技術)	2	1	後期	MUS2242MA
	室内楽研究C	MUS	演習(技術)	2	2	前期	MUS3240MA
	室内楽研究D	MUS	演習(技術)	2	2	後期	MUS4242MA
	歌曲研究A	MUS	演習(技術)	4	1	通年	MUS2243MA
	歌曲研究B	MUS	演習(技術)	4	2	通年	MUS4243MA
	室内楽特設クラスA	MUS	演習(技術)	1	1	前集	MUS1241MA
	室内楽特設クラスB	MUS	演習(技術)	1	1	後集	MUS2244MA

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
室内楽・アンサンブル科目	室内楽特設クラスC	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3241MA
	室内楽特設クラスD	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4244MA
	オペラ実習A〔演奏〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1540MA
	オペラ実習A〔演技〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	前期	MUS1541MA
	オペラ実習A〔上演〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	1	後期	MUS2540MA
	オペラ実習B〔演奏〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3540MA
	オペラ実習B〔演技〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	前期	MUS3541MA
	オペラ実習B〔上演〕	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	後期	MUS4540MA
	邦楽アンサンブル研究A	MUS	演習（技術）	4	1	通年	MUS2245MA
	邦楽アンサンブル研究B	MUS	演習（技術）	4	2	通年	MUS4245MA
	オーケストラ・スタディC	MUS	演習（技術）	1	1	前集	MUS1242MA
	オーケストラ・スタディD	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3242MA
	合奏C	MUS	演習（技術）	2	1	後集	MUS2246MA
	合奏D	MUS	演習（技術）	2	2	後集	MUS4246MA
	ギター・アンサンブルC	MUS	演習（技術）	2	1	通年	MUS2247MA
	ギター・アンサンブルD	MUS	演習（技術）	2	2	通年	MUS4247MA
	伴奏C	MUS	演習（技術）	1	1	前集・後集	MUS2248MA
	伴奏D	MUS	演習（技術）	1	2	前集・後集	MUS4248MA
	伴奏研究A	MUS	演習（技術）	1	1	前集	MUS1243MA
	伴奏研究B	MUS	演習（技術）	1	1	後集	MUS2249MA
	伴奏研究C	MUS	演習（技術）	1	2	前集	MUS3243MA
	伴奏研究D	MUS	演習（技術）	1	2	後集	MUS4249MA
	海外特別演習C	MUS	演習（技術）	2	1	前集	MUS1244MA
海外特別演習D	MUS	演習（技術）	2	2	前集	MUS3244MA	
実技	学内演奏Ⅰ	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	通年	MUS2550MA
	学内演奏Ⅱ	MUS	実習（卒業試験など）	2	2	通年	MUS4550MA
	コラボレイト実習C	MUS	実習（卒業試験など）	1	1	前集・後集	MUS2551MA
	コラボレイト実習D	MUS	実習（卒業試験など）	1	2	前集・後集	MUS4551MA
	第一実技Ⅲ	MUS	実技（主科）	6	1	通年	MUS2450MA
	第一実技Ⅳ	MUS	実技（主科）	6	2	通年	MUS4450MA
	第二実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	1	通年	MUS2350MA
	第二実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	4	2	通年	MUS4350MA
	副科実技Ⅲ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	1	通年	MUS2351MA
	副科実技Ⅳ	MUS	実技（副科、第二実技）	2	2	通年	MUS4351MA
第一実技修了試験	MUS	実習（卒業試験など）	4	2	通年	MUS4552MA	

2022(令和4)年度 科目ナンバリング [芸術科/演劇専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
基礎実技科目	基礎演劇演習 A	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1230T
	基礎演劇演習 B	THE	演習 (演技)	2	1	前期	THE1231T
	身体トレーニング	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1330T
	ボイス・トレーニング (歌唱)	VOM	実技 (GL)	1	1	前期	VOM1310T
演技科目	演劇演習 A	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2230T
	演劇演習 B	THE	演習 (演技)	2	1	後期	THE2231T
	演劇演習 C	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3230T
	演劇演習 D	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4230T
ストレートプレイ 実技科目	演技演習 A (ダイアログ)	THE	演習 (演技)	2	2	前期	THE3231T
	演技演習 B (アンサンブル)	THE	演習 (演技)	2	2	後期	THE4231T
ミュージカル 実技科目	ショーダンス I	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3310T
	ショーダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	後期	DNC4310T
	ミュージカルトレーニング B	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3310T
	ミュージカル演習	THE	演習 (演技)	1	2	後期	THE4232T
実技科目	演劇特別演習 I	THE	演習 (演技)	1	1	後期	THE2232T
	演劇特別演習 II	THE	演習 (演技)	1	2	前期	THE3232T
	マイム	THE	実技 (GL)	1	1	前期	THE1331T
	アクション	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2330T
	狂言 I	THE	実技 (GL)	1	1	後期	THE2331T
	狂言 II	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3330T
	日本舞踊 I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2330T
	日本舞踊 II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3330T
	バレエ・ムーヴメント	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1300T
	クラシックバレエ I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2300T
	クラシックバレエ II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3300T
	クラシック唱法 I	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2310T
	クラシック唱法 II	VOM	実技 (GL)	1	2	前期	VOM3311T
	ジャズダンス A	DNC	実技 (GL)	1	1	前期	DNC1310T
	ジャズダンス B	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2310T
	ジャズダンス C	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3311T
	タップダンス I	DNC	実技 (GL)	1	1	後期	DNC2320T
	タップダンス II	DNC	実技 (GL)	1	2	前期	DNC3320T
	ミュージカルトレーニング A	VOM	実技 (GL)	1	1	後期	VOM2311T
	アフレコ実技 A	THE	実技 (GL)	1	2	前期	THE3331T
	アフレコ実技 B	THE	実技 (GL)	1	2	後期	THE4330T
	歌唱 (個人レッスン) A	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410T
	歌唱 (個人レッスン) B	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410T
	歌唱 (個人レッスン) C	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410T
	歌唱 (個人レッスン) D	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410T
	歌唱 (個人レッスン) E	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411T
	歌唱 (個人レッスン) F	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411T
	歌唱 (個人レッスン) G	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411T
	歌唱 (個人レッスン) H	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411T

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	舞台芸術概論	THE	講義	2	1	前期	THE1000T
	日本演劇史A (古典)	THE	講義	2	1	前期	THE1001T
	日本演劇史B (近現代)	THE	講義	2	1	後期	THE2000T
	西洋演劇史A (古典)	THE	講義	2	1	前期	THE1002T
	西洋演劇史B (近現代)	THE	講義	2	1	後期	THE2001T
	ミュージカル概論	THE	講義	2	1	前期	THE1003T
	ミュージカル論	THE	講義	2	1	後期	THE2002T
	ソルフェージュ基礎	VOM	演習 (理論)	2	1	後期	VOM2100T
	ソルフェージュ	VOM	実技 (GL)	2	2	前期	VOM3300T
	演劇批評論	THE	講義	2	2	前期	THE3060T
	パフォーマンスアート論	THE	講義	2	2	後期	THE4060T
	演劇文化論A	THE	講義	2	1・2	前期	THE1004T
	演劇文化論B	THE	講義	2	1・2	後期	THE2003T
	舞台空間理論	THE	講義	2	1・2	後期	THE2040T
	演劇論	THE	講義	2	2	後期	THE4000T
	演出論	THE	講義	2	1・2	後集	THE2020T
	劇作法	THE	講義	1	1・2	後期	THE2010T
実習科目	舞台照明実習①	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1540T
	舞台照明実習②	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1541T
	舞台音響実習①	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1542T
	舞台音響実習②	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1543T
	ヘアメイク実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1544T
	舞台監督実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1545T
	舞台製作実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1546T
	電動工具実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1547T
	舞台図面実習	THE	実習 (Staff)	1	1	前集	THE1548T
	ワークショップ(ストレートプレイ)1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2630T
	ワークショップ(ストレートプレイ)2年次	THE	実習 (WS)	1	2	前集	THE3630T
	ワークショップ(ミュージカル)1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2631T
	ワークショップ(ミュージカル)2年次	THE	実習 (WS)	1	2	前集	THE3631T
	ワークショップ(演大連) 1年次	THE	実習 (WS)	1	1	集中	THE2632T
	ワークショップ(演大連) 2年次	THE	実習 (WS)	1	2	集中	THE4630T
	演劇合宿	THE	実習 (WS)	1	1	前集	THE1600T
	演劇研修1年次	THE	実習 (WS)	1	1	後集	THE2600T
	演劇研修2年次	THE	実習 (WS)	1	2	後集	THE4600T
	劇上演実習A (試演会)	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4700T
	劇上演実習B (卒業公演)	THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4701T
	劇上演実習C (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2700T
	劇上演実習D (学外出演)	THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2701T
	劇上演実習E (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2702T
劇上演実習F (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2703T	

2022(令和4)年度 科目ナンバリング [専攻科/演劇専攻]

科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
理論科目	特別講義A	THE	講義	2	1	前期	THE1000TA
	特別講義B	THE	講義	2	2	前期	THE3000TA
	演劇学研究A(日本演劇論)(1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1001TA
	演劇学研究A(日本演劇論)(2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2000TA
	演劇学研究B(西洋演劇論)(1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1002TA
	演劇学研究B(西洋演劇論)(2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2001TA
	演劇学研究C(現代演劇論)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1003TA
劇作・演出科目	劇作研究A(劇作論)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1010TA
	劇作研究B(劇作演習)	THE	演習(理論)	1	1・2	後期	THE2110TA
	演出研究	THE	講義	2	1・2	前期	THE1020TA
演劇教育・マネジメント科目	演劇教育論	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2100TA
	アーツマネジメント研究(1)	THE	演習(理論)	2	1・2	前期	THE1150TA
	アーツマネジメント研究(2)	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2150TA
	アウトリーチ研究(1)	THE	演習(理論)	2	1・2	前期	THE1151TA
	アウトリーチ研究(2)	THE	演習(理論)	2	1・2	後期	THE2151TA
演技科目	演技研究A(日本演劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1230TA
	演技研究A(日本演劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2230TA
	演技研究A(日本演劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3230TA
	演技研究A(日本演劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4230TA
	演技研究B(外国演劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1231TA
	演技研究B(外国演劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2231TA
	演技研究B(外国演劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3231TA
	演技研究B(外国演劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4231TA
	演技研究C(現代劇)(1) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1232TA
	演技研究C(現代劇)(2) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2232TA
	演技研究C(現代劇)(1) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3232TA
	演技研究C(現代劇)(2) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4232TA
	演技研究D(フィジカルシアター) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	後期	THE2233TA
	演技研究D(フィジカルシアター) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	後期	THE4233TA
	演技研究E(ミュージカル) 1年次	THE	演習(演技)	1	1	前期	THE1233TA
	演技研究E(ミュージカル) 2年次	THE	演習(演技)	1	2	前期	THE3233TA
	演劇特別研究(1)	THE	演習(演技)	1	1・2	前期	THE1234TA
	演劇特別研究(2)	THE	演習(演技)	1	1・2	後期	THE2234TA
	ワークショップA(1)	THE	実習(WS)	1	1	前集	THE1630TA
	ワークショップA(2)	THE	実習(WS)	1	1	後集	THE2630TA
	ワークショップB(1)	THE	実習(WS)	1	2	前集	THE3630TA
	ワークショップB(2)	THE	実習(WS)	1	2	後集	THE4630TA
	ワークショップC(演大連)	THE	実習(WS)	1	1	集中	THE2631TA
	ワークショップD(演大連)	THE	実習(WS)	1	2	集中	THE4631TA
	演劇研修 1年次	THE	実習(WS)	1	1	後集	THE2600TA
	演劇研修 2年次	THE	実習(WS)	1	2	後集	THE4600TA

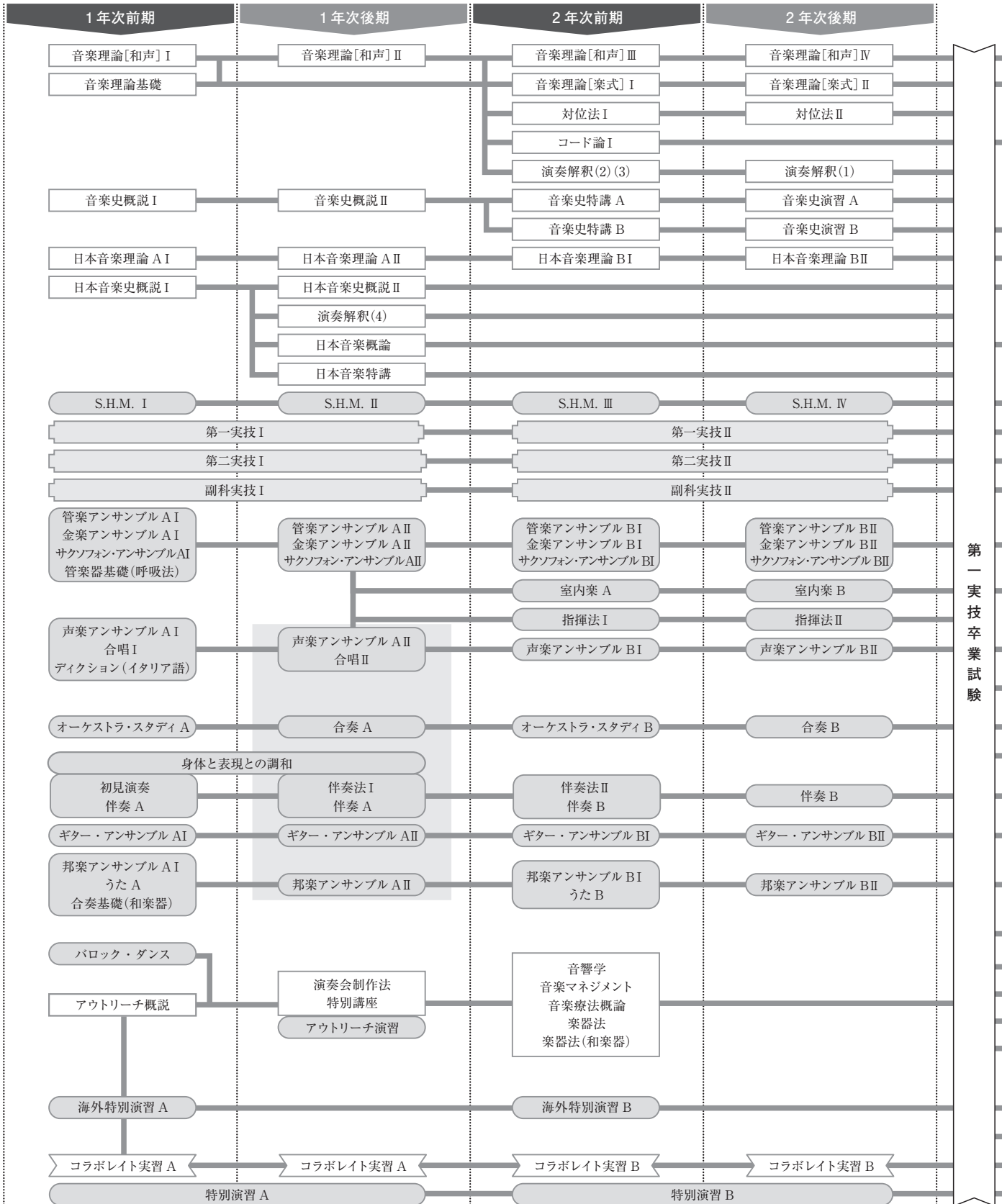
科目区分	授業科目	文字コード	授業形態	単位数	履修年次	履修期	科目No.
実技科目	舞踊A (クラシックバレエ) (1)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	前期	DNC1300TA
	舞踊A (クラシックバレエ) (2)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	後期	DNC2300TA
	舞踊B (コンテンポラリー)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	前期	DNC1340TA
	舞踊C (日舞)	DNC	実技 (GL)	1	1・2	後期	DNC2330TA
	ミュージカル唱法 (1)	VOM	実技 (GL)	1	1・2	前期	VOM1310TA
	ミュージカル唱法 (2)	VOM	実技 (GL)	1	1・2	後期	VOM2310TA
	英語劇 (1)	FLS	演習 (理論)	1	1・2	前期	FLS1100TA
	英語劇 (2)	FLS	演習 (理論)	1	1・2	後期	FLS2100TA
	歌唱 (個人レッスン) I	VOM	実技 (PL)	2	1	前期	VOM1410TA
	歌唱 (個人レッスン) J	VOM	実技 (PL)	2	1	後期	VOM2410TA
	歌唱 (個人レッスン) K	VOM	実技 (PL)	2	2	前期	VOM3410TA
	歌唱 (個人レッスン) L	VOM	実技 (PL)	2	2	後期	VOM4410TA
	歌唱 (個人レッスン) M	VOM	実技 (PL)	1	1	前期	VOM1411TA
	歌唱 (個人レッスン) N	VOM	実技 (PL)	1	1	後期	VOM2411TA
	歌唱 (個人レッスン) O	VOM	実技 (PL)	1	2	前期	VOM3411TA
	歌唱 (個人レッスン) P	VOM	実技 (PL)	1	2	後期	VOM4411TA
	劇上演実習	劇上演実習 A 1年次	THE	実習 (上演)	4	1	前集
劇上演実習 A 2年次		THE	実習 (上演)	4	2	前集	THE3700TA
劇上演実習 B 1年次		THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2700TA
劇上演実習 B 2年次		THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4700TA
劇上演実習 C (専1最終公演)		THE	実習 (上演)	4	1	後集	THE2701TA
劇上演実習 D (専2修了公演)		THE	実習 (上演)	4	2	後集	THE4701TA
劇上演実習 E (学外出演)		THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2702TA
劇上演実習 F (学外出演)		THE	実習 (上演)	4	1・2	集中	THE2703TA
劇上演実習 G (学内出演)		THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2704TA
劇上演実習 H (学内出演)	THE	実習 (上演)	1	1・2	集中	THE2705TA	
修了論文	修了論文 (1)	THE	講義	2	1・2	前期	THE1004TA
	修了論文 (2)	THE	講義	2	1・2	後期	THE2002TA



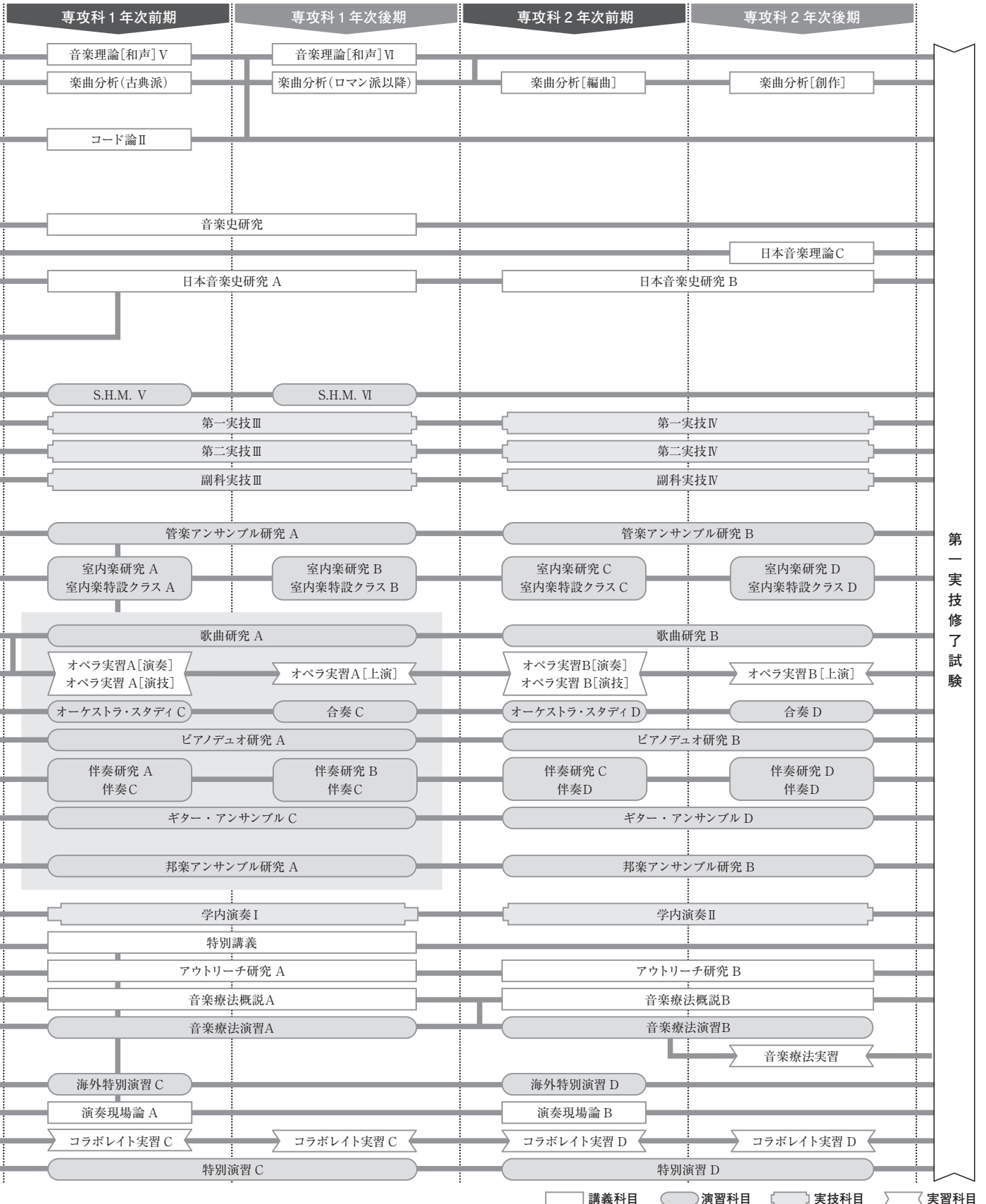
## 2022(令和4)年度 カリキュラムツリー

カリキュラムツリーは、2年間の学習の系統性と順次性を図に示したものである。各科目がカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのかを確認し、学習の一助とすること。

### 2022(令和4)年度 カリキュラムツリー [芸術科/音楽専攻]

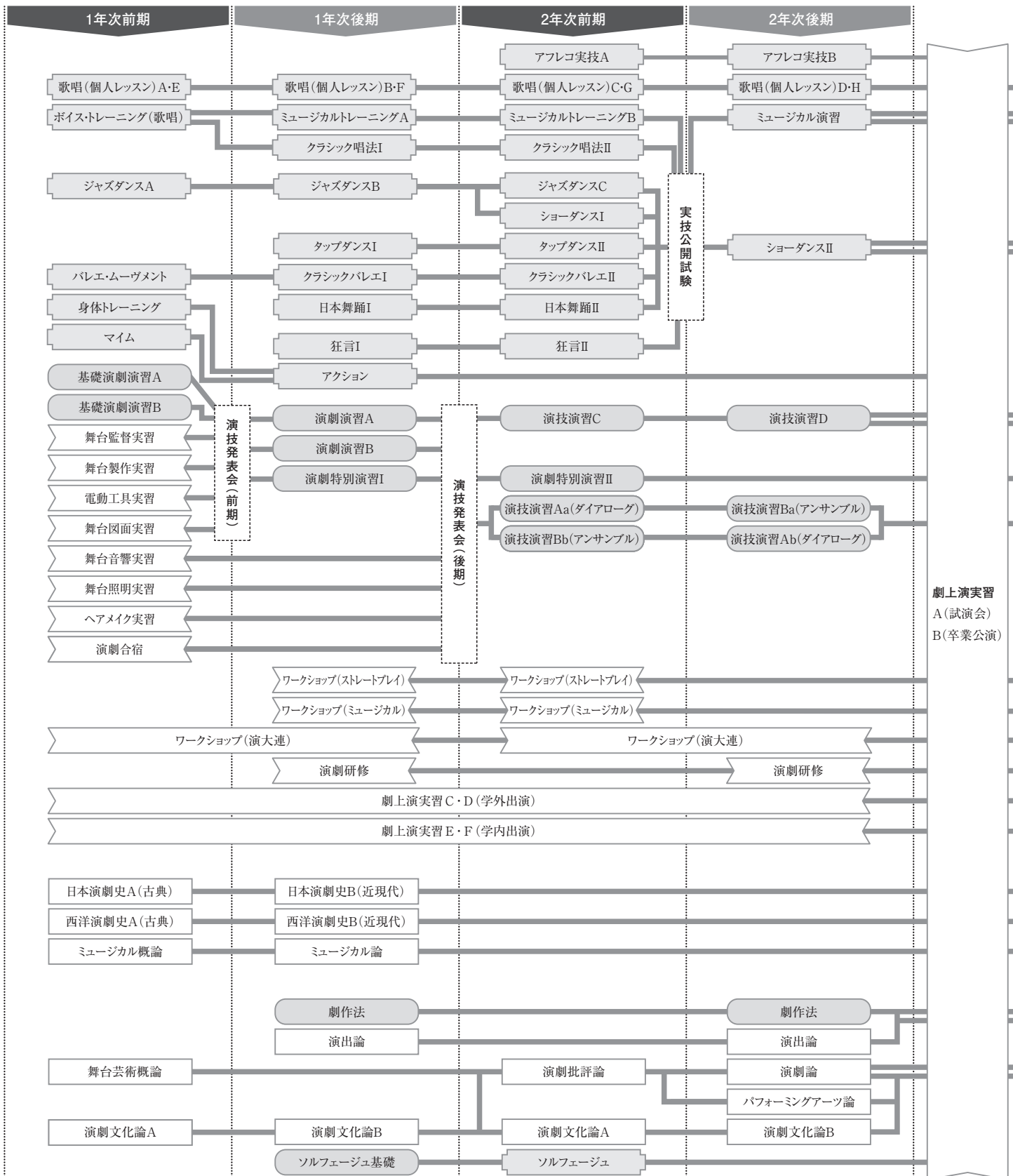


2022 (令和4) 年度カリキュラムツリー [専攻科/音楽専攻]

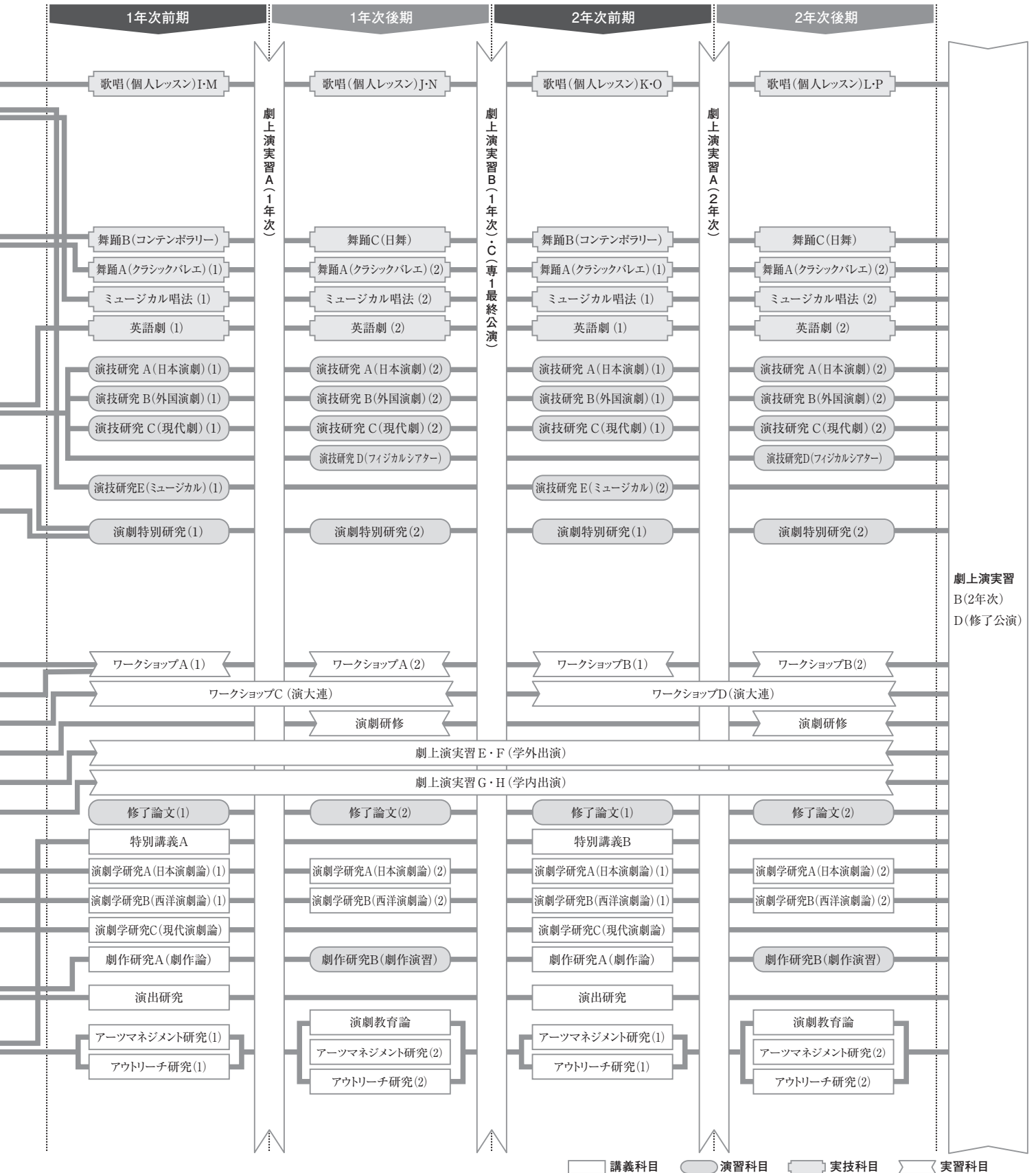


第一実技修了試験

2022 (令和4) 年度 カリキュラムツリー [芸術科/演劇専攻]



2022 (令和4) 年度カリキュラムツリー [専攻科/演劇専攻]



劇上演実習  
B(2年次)  
D(修了公演)

2021(令和3)年度入学生用 別表…1

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：1. 教養科目

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期			
キャリア教育	情報リテラシー論	竹内 聖	前期	2					○	127
	情報処理論	姫野 雅子	前期	2						127
	音楽環境論	久保田慶一	前期	2						128
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2						128
	表現コミュニケーション論	後藤 絢子	後期	2						129
	アーツマネージメント論	後藤 絢子	前期	2						129
	応用演劇論	大谷賢治郎	前期	2					○	130
一般教養	メディア論	森山 直人	後期	2						130
	現代思想論	比嘉 徹徳	前期	2						131
	日本国憲法	西山 智之	後期	2						131
	文化政策論A	後藤 絢子	前期	2						132
	文化政策論B	後藤 絢子	後期	2						132
	青少年教育論	大谷賢治郎	前期	2					○	133
	倫理学	吉川 浩満	後期	2						133
	ジェンダー論	岡 俊一郎	後期	2						134
	ダンス史	宮川麻理子	後期	2						134
	映画史	細谷 修平	前期	2						135
	映画論	行定 勲	後集	2				□	○	135
	語学	英語A I	J. ファーナー	前期	1					
英語A II		J. ファーナー	後期		1					136
英語B I		田村奈穂子	前期			1				137
英語B II		田村奈穂子	後期				1			137
演劇英語 ①②		J. サザーランド	前期	1						138
ドイツ語 I		D. グロス	前期	1						138
ドイツ語 II		D. グロス	後期		1					139
ドイツ語 III		D. グロス	前期			1				139
ドイツ語 IV		D. グロス	後期				1			140
イタリア語 I		M. スバラグリ	前期	1						140
イタリア語 II		M. スバラグリ	後期		1					141
イタリア語 III		M. スバラグリ	前期			1				141
イタリア語 IV		M. スバラグリ	後期				1			142
フランス語 I		佐藤ローラ	前期	1						142
フランス語 II		佐藤ローラ	後期		1					143

注：語学は、Iの修得なしにIIの履修はできない。

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：2. 芸術科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等による授業科目	除算される	概要ページ		
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期									
教養科目	情報処理論	姫野 雅子	前期	2				※教職受講者必修	修得単位は自由選択単位として卒業要件に含むことができる (必修科目の修得単位は専攻科目単位として卒業要件に含むことができない)					127		
	日本国憲法	西山 智之	後期		2			※教職受講者必修							131	
	社会福祉学	藤森 雄介	前期	2				※教職受講者必修							128	
	英語A I・II	J. ファーナー	前・後	1	1			●外国語(英・仏・独・伊)1科目選択必修 ※音楽専修はイタリア語を含む2外国語必修 ※同じ語学の「I・II」「III・IV」をもって、1科目とみなす							136	
	英語B I・II	田村奈穂子	前・後			1	1									137
	ドイツ語I・II	D. グロス	前・後	1	1											138・139
	ドイツ語III・IV	D. グロス	前・後			1	1									139・140
	イタリア語I・II	M. スバラグリ	前・後	1	1											140・141
	イタリア語III・IV	M. スバラグリ	前・後			1	1									141・142
フランス語I・II	佐藤ローラ	前・後	1	1										142・143		
専攻教養科目	音楽基礎演習 ーバロック・ダンス	a b 浜中 康子	前期	1					●全専修必修				○		145	
	音楽理論基礎	a b 塩崎 美幸 長谷川郁子	前期	1											145 145	
演劇専攻科目	演劇専攻「実技科目(共通)」より、他専攻履修可能な科目 ※ただし、「ドラマリーディングA・B」「アフレコ実技A・B」「ミュージカルトレーニングA」を除く							●全専修必修(いずれか1単位) ※日本音楽専修は狂言以外を選択すること ●日本音楽専修は「狂言I」「狂言II」必修								
専攻科目1年次	音楽理論[和声] I	a b 平井 正志 池田 哲美	前期	2				PVWSG必修	専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得					146 146		
	音楽理論[和声] II	a b 平井 正志 池田 哲美	後期		2			PVWSG必修						146 146		
	音楽史概説I・II	池原 舞	前・後	2	2			PVWSG必修		○				147		
	日本音楽理論A I・II	森重 行敏	前・後	2	2			J必修		○				147		
	日本音楽史概説I・II	野川美穂子	前・後	2	2			J必修		○				148		
	日本音楽特講	杵屋 巴織	後期		2			※教職受講者(J除く)必修(教職受講者のみ履修可)		△					148	
	演奏会制作法	伊藤 直樹	後期		1								○		149	
	アウトリーチ概説	永井 由比	前期	2											149	
	アウトリーチ演習	永井 由比	後期		1										150	
	音響学	2022年度開講なし	前期	2							○					
	ディクシオン(イタリア語)	井上 由紀	前期	1				V必修							150	
	S. H. M. I・II	① 塩崎 美幸 ② 池田 哲美 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾	前・後	1	1			●全専修必修							151	
	合唱I・II	福永 一博	前・後	1	1			女子のみ(J除く)必修							151	
	オーケストラ・スタディア	野口千代子	前集	1				S必修			□				152	
	合奏A	野口千代子 永井 由比	後集		2			S必修			□				152	
	管楽器基礎(呼吸法)	三塚 至	前期	1				W必修							153	
	声楽アンサンブルA I・II	松井 康司	前・後	1	1			男子のみ(J除く)必修							153	
	管楽アンサンブルA I・II	a b 永井 由比 津川美佐子	前・後	1	1			W (Flのみ)必修					○		154	
	金管アンサンブルA I・II	神谷 敏	前・後	1	1			W (Tr, Tb, Tubのみ)必修							155	
	サクソフォン・アンサンブルA I・II	彦坂眞一郎	前・後	1	1			W (Sxのみ)必修							155	
	ギター・アンサンブルA I・II	佐藤 紀雄	前・後	1	1			G必修					○		156	
	うたA	今藤美知央	前期	1				J必修			△				156	
	邦楽アンサンブルA I・II	滝田美智子	前・後	1	1			J必修							157	
	伴奏法 I	揚原さとみ	後期		1			※教職受講者(J除く)必修							157	
	初見演奏(基礎)	大家 百子	前期	1				P必修							158	
	身体と表現との調和	志村 寿一	集中		2						□				158	
	第一実技 I		通年		4			●全専修必修			□				159	
	第二実技 I (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲)		通年		4						○	□			159	
	副科実技 I (ピアノ)		通年		2			●全専修必修		VWSGJ	○	□			159	
	副科実技 I (声楽)	PGJ								○	□			159		
	副科実技 I (管・弦・ギター・日本音楽)	GJ								○	□			159		
	伴奏A (1) (2)	柏原 佳奈	前集 後集	1 1							□				160	
	海外特別演習A		不開講	2							□				160	
	特別演習A	志村 寿一 井上 由紀	通年		1			●全専修必修			□				161	
特別講座	中山 博之	後集		1			●全専修必修	○	□				161			
コラボレイト実習A (1) (2)	松井 康司	前集 後集	1 1						□				162			



科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャンパス制対象外	実務経験のある等による授業科目	登録される	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期							
専攻科目・2年次	音楽理論 [和声] Ⅲ	a b	平井 正志 池田 哲美	前期			2		PVWSG必修					162 163
	音楽理論 [和声] Ⅳ	a b	平井 正志 池田 哲美	後期			2		PVWSG必修					162 163
	対位法 I・II		池田 哲美	前・後			2	2						163
	コード論 I		小林 真人	前期			2			◎		○		164
	楽器法		大澤 健一	前集			2			◎	□	○		164
	音楽マネジメント		楠瀬寿賀子	前期			2					○		165
	日本音楽理論 B I・II		森重 行敏	前・後			2	2	J必修	◎				147
	音楽史特講 A		池原 舞	前期			2			◎				165
	音楽史特講 B		大津 聡	前期			2			◎				166
	音楽史演習 A		池原 舞	後期				1		◎				166
	音楽史演習 B		大津 聡	後期				1		◎				167
	音楽療法概論		鈴木千恵子	前期			2			◎				167
	演奏解釈(1)ピアノ楽曲		東井 美佳	後期				2	P必修					168
	演奏解釈(2)声楽曲		相田 麻純	前期			2		V必修	◎		○		168
	演奏解釈(3)室内楽曲		寺岡有希子	前期			2		S必修			○		169
	音楽理論 [楽式] I・II	① ②	宍戸 里佳 池原 舞	前・後			2	2	PVWSG必修	◎				169 170
	S. H. M. Ⅲ・Ⅳ	① ② ③ ④ ⑤	塩崎 美幸 大家 百子 加藤 千春 三瀬 俊吾 長谷川郁子	前・後			1	1	●全専修必修					170
	オーケストラ・スタディ B		野口千代光	前集			1		S必修		□			152
	合奏 B		野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修		□			152
	声楽アンサンブル B I・II		松井 康司	前・後			1	1	男子 (J除く)・女子 (Vのみ) 必修					153
	管楽アンサンブル B I・II		津川美佐子	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tub, Sx除く) 必修			○		154
	金管アンサンブル B I・II		神谷 敏	前・後			1	1	W (Tr, Tb, Tuのみ) 必修					155
	指揮法 I・II		福永 一博	前・後			1	1	※教職受講者必修					171
	室内楽 A	a b	荻野 千里 野口千代光 北本 秀樹	前期			1					○		172
	室内楽 B	a b c d	阪本奈津子 蓼沼恵美子 吉岡 次郎 菊池 奏絵	後期				1				○		172 173 173 174
	サクソフォン・アンサンブル B I・II		彦坂真一郎	前・後			1	1	W (Sxのみ) 必修					155
	ギター・アンサンブル B I・II		佐藤 紀雄	前・後			1	1	G必修			○		156
	うた B		今藤美知央	前期			1		J必修	△				156
	邦楽アンサンブル B I・II		滝田美智子	前・後			1	1	J必修					157
	伴奏法 II		揚原さとみ	前期			1		※教職受講者 (J除く) 必修					174
	第一実技 II			通年			4		●全専修必修		□			159
	第二実技 II (ピアノ・チェンバロ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・作曲・ミュージカル・身体と表現との調和)			通年			4		ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□			159
	副科実技 II (ピアノ・声楽・管・弦・ギター・日本音楽・ミュージカル・身体と表現との調和)			通年			2		ミュージカルは声楽専修のみ履修可	◎	□			159
	第一実技卒業試験			通年			4		●全専修必修		□			
	伴奏 B	(1) (2)	柏原 佳奈	前集 後集			1 1				□ □			160
	海外特別演習 B		松井 康司 東井 美佳	前集			2				□			160
	特別演習 B		志村 寿一 井上 由紀	通年			1		●全専修必修		□			161
	コラボレイト実習 B	(1) (2)	松井 康司	前集 後集			1 1				□ □			162

専攻科目は各専修の必修単位を含め、1・2年次を通じて48単位以上修得

●下記の科目については隔年開講とする。

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	開講年度	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期						
専攻科目	日本音楽概論	森重 行敏	後期				2	J必修 ※教職受講者必修	2022	○			175
	合奏基礎(和楽器)	花岡 操聖	前期			1		J必修	2022				175
	楽器法(和楽器)	花岡 操聖	前期	2				J必修	2021				
	演奏解釈(4)日本音楽	たかの舞例	後期				2	J必修	2022				176

【備考】

- ①P：ピアノ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修  
 ②「他専攻の履修」欄は、○は他専攻の学生（1・2年次とも。専攻科生含む）が履修可能な科目。  
 ただし、◎は芸術科2年生以上、△は専攻科演劇専攻でないと同履修できない。

<2021(令和3)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
 GPA 1.0以上

【内訳】

- ①専攻科目単位数 48単位  
 (教養科目・専攻教養科目・他専攻科目より各専修の必修単位数を含む)  
 ②自由選択単位数 14単位  
 ※専修別による必修単位数は、「注⑨専攻科目必修単位数」を参照のこと  
 ※桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は自由選択単位を含む

注

- ①Iの修得なしにIIの履修はできない。  
 ②第一実技は、専修別による必修（1年次・2年次各50分）  
 ③第二実技は、選択（40分）。第一実技に準じた専門レベル。履修料別途徴収。  
 ④副科実技は、I必修、II選択（20分）  
 Iは、ピアノ専修者は声楽、声楽・管楽器・弦楽器専修者はピアノを必修とする。  
 副科実技を第二実技として履修する場合は100,000円、第二実技と副科実技の両方を履修する場合は200,000円を別途徴収。  
 ⑤「日本音楽特講」は教職に関する科目の受講手続きを経た学生のみ履修可。  
 ただし、教職課程受講生の人数が少ない等の事情によっては、その他の学生の受講を認める場合がある。  
 ⑥選択科目「伴奏」について  
 前期、後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表（実技試験・学内演奏会・卒業演奏会）をもって各々単位認定を行う。  
 「伴奏受講票」を使用のこと。  
 ⑦選択科目「コラボレイト実習」について  
 専攻主任からの依頼により、他専攻の試演会、卒業公演等あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。「コラボレイト実習受講票」を使用のこと。  
 ⑧学内外の演奏会及び試験について、提出曲目及び曲数と異なる場合は失格とすることがある。  
 ⑨専攻科目必修単位数（※教養科目・専攻教養科目・他専攻科目内の必修単位含む）

	1年次		2年次		合計	
	男	女	男	女	男	女
ピアノ専修	25	25	23	21	48	46
声楽専修	27	27	23	23	50	50
管楽器専修	27	27	23	21	50	48
弦楽器専修	27	27	26	24	53	51
ギター専修	26	26	23	21	49	47
日本音楽専修	28	28	24	24	52	52

ただし、日本音楽専修者の専攻科目必修単位数は、下記科目群の単位数を含む。

科目区分	授業科目	担当氏名	期間	単位数
演劇専攻科目	狂言Ⅰ	善竹大二郎	後期	1
	狂言Ⅱ	善竹大二郎	前期	1

2021(令和3)年度入学生用 別表…3

【教育課程・卒業の要件】

教育課程：3. 芸術科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	2022年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制対象外	実務経験のある等 に 教員 による 授業科目	概要 ページ
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
基礎実技科目	基礎演劇演習A	a	越光 照文	前期	2				a組必修	6				177
		b	三浦 剛	前期	2				b組必修					177
		c	P.ゲスナー	前期	2				c組必修					178
		d	宮崎 真子	前期	2				d組必修					178
	基礎演劇演習B	a	P.ゲスナー	前期	2				a組必修					179
		b	宮崎 真子	前期	2				b組必修					179
		c	越光 照文	前期	2				c組必修					180
		d	三浦 剛	前期	2				d組必修					180
	身体トレーニング	a	山本光二郎	前期	1				a組必修				○	181
		b	山本光二郎	前期	1				b組必修					
		c	山本光二郎	前期	1				c組必修					
		d	山本光二郎	前期	1				d組必修					
	ボイス・トレーニング (歌唱)	a	藍澤 幸頼	前期	1				a組必修					181
		b	藍澤 幸頼	前期	1				b組必修					
		c	信太 美奈	前期	1				c組必修					
		d	信太 美奈	前期	1				d組必修					
実技系科目	演劇演習A	a	三浦 剛	後期		2			a組必修	8				182
		b	越光 照文	後期		2			b組必修					182
		c	宮崎 真子	後期		2			c組必修					183
		d	P.ゲスナー	後期		2			d組必修					183
	演劇演習B	a	宮崎 真子	後期		2			a組必修					184
		b	P.ゲスナー	後期		2			b組必修					184
		c	三浦 剛	後期		2			c組必修					185
		d	越光 照文	後期		2			d組必修					185
	演劇演習C	a	P.ゲスナー	前期			2		a組必修					186
		b	吉田 小夏	前期			2		b組必修					186
		c	三浦 剛	前期			2		c組必修					187
		d	大塚 幸太	前期			2		d組必修					187
	演劇演習D	a	三浦 剛	後期				2	a組必修					188
		b	大塚 幸太	後期				2	b組必修					188
		c	P.ゲスナー	後期				2	c組必修					189
		d	吉田 小夏	後期				2	d組必修					189
ストレートプレイ 実技科目	演技演習A (ダイアログ)	a	大谷賢治郎	前期			2	ストレートプレイ コース必修	4			○	190	
		b	大谷賢治郎	後期			2							
ミュージカル 実技科目	演技演習B (アンサンブル)	a	シライケイタ	後期			2		4			○	190	
		b	シライケイタ	前期			2							
ミュージカル 実技科目	ショーダンス I ①②		三村みどり	前期			1	ミュージカルコース 必修 (「ミュージカル トレーニングB」はLA の補習にも参加する)	4				191	
	ショーダンス II ①②		三村みどり	後期			1						191	
	ミュージカルトレーニングB ①②		信太 美奈	前期			1						192	
	ミュージカル演習 ①②		大塚 幸太	後期			1						192	

科目区分	授業科目・クラス	2022年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他専攻	キャリア制 対象外	実務経験 のある 等による 教員 の 授業科目	概要 ページ
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
実技科目(共通)	演劇特別演習Ⅰ ①②③		鴻上 尚史	後期		1						○	193	
	演劇特別演習Ⅱ ①②③		鴻上 尚史	前期			1					○	193	
	マイム ①②		江ノ上陽一	前期	1						○		194	
	アクション ①②		藤田 けん	後期		1					○		194	
	日本舞踊Ⅰ ①②		藤間 希穂	後期		1					○		195	
	日本舞踊Ⅱ ①②		藤間 希穂	前期			1				○		195	
	狂言Ⅰ ①②		善竹大二郎	後期		1					○		196	
	狂言Ⅱ ①②		善竹大二郎	前期			1				○		196	
	ドラマリーディングA	廃止	大谷賢治郎	2022年度 開講なし	1									
	ドラマリーディングB	廃止	大谷賢治郎	開講なし		1								
	アフレコ実技A		小金丸大和	前期			1				○		197	
	アフレコ実技B		小金丸大和	後期				1			○		197	
	クラシック唱法Ⅰ ①②		松井 康司	後期		1							198	
	クラシック唱法Ⅱ ①②		松井 康司	前期			1						198	
	ミュージカルトレーニングA ①②		藍澤 幸頼	後期		1					○		199	
	ジャズダンスA ①②③④		三村みどり 畔柳小枝子	前期	1						○		199 200	
	ジャズダンスB ①②③④		三村みどり 畔柳小枝子	後期		1					○		200 201	
	ジャズダンスC ①②③④		渡辺美津子 畔柳小枝子	前期			1		LAの補習にも参加 する		○		201 202	
	バレエ・ムーヴメント ①②		中農 美保	前期	1						○		202	
	クラシックバレエⅠ ①②		中農 美保	後期		1					○		203	
クラシックバレエⅡ ①②		中農 美保	前期			1				○		203		
タップダンスⅠ ①②		中谷 諭紀 近藤 淳子	後期		1					○		204		
タップダンスⅡ ①②		中谷 諭紀 近藤 淳子	前期			1				○		205		
実技科目	歌唱(個人レッスン) A		信太 美奈 他	前期	2			自由選択単位					206	
	歌唱(個人レッスン) B	後期			2									
	歌唱(個人レッスン) C	前期				2								
	歌唱(個人レッスン) D	後期					2							
	歌唱(個人レッスン) E	前期		1										
	歌唱(個人レッスン) F	後期			1									
	歌唱(個人レッスン) G	前期				1								
	歌唱(個人レッスン) H	後期					1							

科目区分	授業科目・クラス	2022年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				必須条件	卒業要件	他 専攻	キャ ップ 制 対象外	実務経験 のある 等に よる 授業科目	概要 ページ
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期						
理論科目	舞台芸術概論		高橋 宏幸	前期	2				必修	12				206
	日本演劇史A(古典)		安富 順	前期	2									207
	日本演劇史B(近現代)		高橋 宏幸	後期		2								207
	西洋演劇史A(古典)		安宅りさ子	前期	2									208
	西洋演劇史B(近現代)		安宅りさ子	後期		2								208
	ミュージカル概論		橋爪 貴明	前期	2									209
	ミュージカル論		藤原麻優子	後期		2								209
	ソルフェージュ基礎 ①②		永井 由比	後期		2								210
	ソルフェージュ ①②		岩崎 廉	前期			2							210
	演劇批評論		高橋 宏幸	前期			2							211
	パフォーマンスアート論		高橋 宏幸	後期				2						211
	演劇文化論A		中山 夏織	前期		2								212
	演劇文化論B		寺田 航	後期		2								212
	舞台空間理論	追加	鈴木 健介	後期				2						213
	演出論		川村 毅	後集		2								213
	演劇論	隔年開講に変更	高橋 宏幸	2022年度 開講せず		2								
	戯曲講読演習A(古典)	廃止		2022年度 開講せず	1									
戯曲講読演習B(近現代)	廃止		2022年度 開講せず		1									
劇作法		瀬戸山美咲	後期			1		214						
実習科目	舞台照明実習①		石島奈津子	前集	1			※照明部以外対象	10					214
	舞台照明実習②		兼子 慎平	前集	1			※照明部対象						215
	舞台音響実習①		佐藤こうじ	前集	1			※音響部以外対象						215
	舞台音響実習②		宮崎 淳子	前集	1			※音響部対象						216
	舞台製作実習	追加	鈴木 健介	前集			1							216
	舞台監督実習		鈴木 健介	前集	1									217
	電動工具実習	追加	鈴木 健介	前集			1	※人数制限あり						217
	舞台図面実習	追加	鈴木 健介	前集			1							218
	ヘアメイク実習		鈴木 理絵	前集	1									218
	ワークショップ(ストレートプレイ) 1年次		穴迫 信一	後集		1								219
	ワークショップ(ミュージカル) 1年次		宮河愛一郎	後集		1								219
	ワークショップ(ストレートプレイ) 2年次		未定	前集			1							219
	ワークショップ(ミュージカル) 2年次		白神ももこ	前集			1							219
	ワークショップ(演大連) 2年次		P.ゲスナー 三浦 剛 高橋 宏幸	集中			1							220
	演劇研修(八ヶ岳合宿)	演劇合宿	三浦 剛	前集	1									220
	海外研修 1年次	演劇研修 1年次	P.ゲスナー 高橋 宏幸	不開講		1								221
	海外研修 2年次	演劇研修 2年次	後藤 絢子	後集			1							221
	劇上演実習A(試演会) ストレートプレイ		大谷賢治郎	後集			4	4単位必修						221
	劇上演実習A(試演会) ミュージカル		信太 美奈	後集			4							222
	劇上演実習B(卒業公演) ストレートプレイ		大塚 幸太	後集			4							222
	劇上演実習B(卒業公演) ミュージカル		越光 照文	後集			4							223
劇上演実習C(学外出演)		三浦 剛	集中		4			223						
劇上演実習D(学外出演)		三浦 剛	集中		4			223						
劇上演実習E(学内出演)		三浦 剛	集中		1			224						
劇上演実習F(学内出演)		三浦 剛	集中		1			224						

<2021(令和3)年度入学生の卒業要件>

最低修得単位数 62単位  
GPA 1.0以上

【内訳】

①専攻科目単位数 48単位  
1.実技系科目 26単位  
2.理論科目 12単位  
3.実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修  
②教養科目単位数 12単位  
外国語 2単位必修  
③自由選択単位数 2単位

注

- ① I の修得なしに II の履修はできない。
- ② 基礎演劇演習AB、身体トレーニング、ボイス・トレーニング(歌唱)、演劇演習ABCD、舞台芸術概論、日本演劇史AB、西洋演劇史AB、ミュージカル概論、ミュージカル論は全コース必修。
- ③ 演技演習ABはストレートプレイコース必修。
- ④ ショーダンスI II、ミュージカルトレーニングB、ミュージカル演習、ソルフェージュはミュージカルコース必修。
- ⑤ 試演会または卒業公演は、4単位必修。
- ⑥ 同じ科目の複数のクラスを同時に受講することはできない。
- ⑦ 歌唱(個人レッスン)の修得単位は自由選択単位数に含む。  
レッスン時間はABCD40分、EFGH20分。履修料別途徴収。
- ⑧ 音楽専攻の科目は、自由選択単位数に含む。
- ⑨ 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目は教養科目単位数に含む。
- ⑩ 講義科目は半期2単位、実習・実技・演習科目は半期1単位、劇上演実習は4単位

## 【教育課程・卒業の要件】

## 卒業の要件

本学を卒業するには、教育課程をよく理解し、以下の条件を満たす最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない。卒業要件の詳細については、各専攻の別表及び注意事項を参照すること。

## 1. 芸術科 音楽専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
自由選択単位数 (専攻科目・専攻教養科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	14単位
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

② 専攻科目単位数には、各専攻の必修単位数を含む。

③ 専攻教養科目「音楽基礎演習—バロック・ダンス」必修。

④ 教養科目の「語学」より2単位1科目必修。同じ語学の「I・II」または「III・IV」をもって1科目とみなす。(ただし声楽専修はイタリア語を含む2語学を必修とし、合計4単位)

⑤ 演劇専攻科目の『実技科目(共通)』の他専攻履修可能な科目のうち、いずれか1単位必修とする。  
(ただし、「ドラマリーディング A」「ドラマリーディング B」「アフレコ実技 A」「アフレコ実技 B」「ミュージカルトレーニング A」を除く)

## 2. 芸術科 演劇専攻

最低修得単位数	62単位
内訳 専攻科目単位数	48単位
教養科目単位数	12単位
自由選択単位数 (専攻科目・他専攻科目・教養科目・単位互換履修科目可)	2単位
G P A	1.0以上

注① I の修得なしに II を履修することはできない。

② 専攻科目単位数の内訳は

実技科目 26単位      理論科目 12単位      実習科目 10単位  
試演会または卒業公演 4単位必修

③ 教養科目単位数の内訳は

語学 2単位必修



【教育課程・修了の要件】

1. 専攻科 音楽専攻

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある等による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
作曲・理論・音楽史	音楽理論〔和声〕V	平井 正志	前期	2							225	
	音楽理論〔和声〕VI	平井 正志	後期		2						225	
	楽曲分析(古典派)	池田 哲美	前期	2							225	
	楽曲分析(ロマン派以降)	池田 哲美	後期		2						226	
	コード論II	小林 真人	前期	2						○	226	
	S.H.M. V・VI	① 塩崎 美幸 ② 大家 百子 ③ 加藤 千春 ④ 三瀬 俊吾 ⑤ 長谷川 郁子	前・後	1	1						227	
	音楽史研究	大津 聡	通年		4						227	
	日本音楽史研究A	野川美穂子	通年		4			J必修			228	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期		2			J必修				
	音楽療法概説A	鈴木千恵子	通年		4				○		228	
	音楽療法演習A	鈴木千恵子	通年		2						229	
	演奏現場論A	合田 香	前期	2					○		229	
	アウトリーチ研究A	永井 由比	通年		4				○		230	
	実技レッスン	第一実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年		6			●全専修必修			230
第二実技Ⅲ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)			通年		4				○		230	
副科実技Ⅲ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)			通年		2				○		230	
実技・アンサンブル	学内演奏Ⅰ	松井 康司 柏原 佳奈	通年		2			●全専修必修			231	
	ピアノデュオ研究A	東井 美佳	通年		4			P必修			231	
	管楽アンサンブル研究A	津川美佐子	通年		4			W(Sx除く)必修		○	232	
	室内楽研究A	a 荻野 千里 野口千代光 b 北本 秀樹	前期	2							232	
	室内楽研究B	a 阪本奈津子 b 藤沼恵美子 c 白尾 隆 d 菊池 奏絵	後期		2					○	233	
	室内楽研究B									○	233	
	室内楽研究B									○	234	
	室内楽研究B									○	234	
	室内楽研究B									○	235	
	室内楽研究B									○	235	
	歌曲研究A	松井 康司 東井 美佳	通年		4						235	
	オペラ実習A〔演奏〕	櫻井 淳	前期	2					○		236	
	オペラ実習A〔演技〕	柴田千絵里	前期	2				V選択	○		236	
	オペラ実習A〔上演〕	布施 雅也 柴田千絵里	後期		2				○		237	
	邦楽アンサンブル研究A	滝田美智子	通年		4			J必修			237	
	オーケストラ・スタディC	野口千代光	前集	1				S必修			238	
	合奏C	野口千代光 永井 由比	後集		2			S必修			238	
	ギター・アンサンブルC	佐藤 紀雄	通年		2			G必修		○	239	
室内楽特設クラスA	柏原 佳奈	前集	1					○※		239		
室内楽特設クラスB	柏原 佳奈	後集		1				○※		239		
伴奏C	(1) 柏原 佳奈 (2) 柏原 佳奈	前集 後集	1							240		
伴奏研究A	柏原 佳奈	前集	1							240		
伴奏研究B	柏原 佳奈	後集		1						240		
海外特別演習C		不開講	2							241		
特別講義(音楽)	松井 康司	集中	1				●全専修必修	○		241		
特別演習C	柏原 佳奈	通年		1			●全専修必修			242		
コラボレイト実習C	(1) 松井 康司 (2) 松井 康司	前集 後集	1							242		

1・2年次を通じて必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

科目区分	授業科目・クラス	担当氏名	期間	単位				必須条件	修了要件	他専攻	実務経験のある教員による授業科目	概要ページ
				1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					
音楽史・作曲・理論	楽曲分析〔編曲〕	たかの舞俐	前期			2					243	
	楽曲分析〔創作〕	たかの舞俐	後期				2				243	
	日本音楽史研究B	野川美穂子	通年			4	J必修				228	
	日本音楽理論C	森重 行敏	後期				2	J必修				
	音楽療法概説B	鈴木千恵子	通年			4			○		228	
	音楽療法演習B	鈴木千恵子	通年			2					229	
	音楽療法実習	鈴木千恵子	後集				1				244	
	演奏現場論B	合田 香	前期			2			○		229	
	アウトリーチ研究B	永井 由比	通年			4			○		230	
	実技レクソン	第一実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽)		通年			6	●全専修必修				230
第二実技Ⅳ (ピアノ) (チェンバロ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (作曲) (身体と表現との調和)			通年			4			○		230	
副科実技Ⅳ (ピアノ) (声楽) (ミュージカル) (管楽器) (弦楽器) (ギター) (日本音楽) (身体と表現との調和)			通年			2			○		230	
第一実技修了試験			通年			4	●全専修必修					
実技アンサンブル	学内演奏Ⅱ	松井 康司 柏原 佳奈	通年			2	●全専修必修				231	
	ピアノデュオ研究B	東井 美佳	通年			4					231	
	管楽アンサンブル研究B	津川美佐子	通年			4	W (Sx除く) 必修		○		232	
	室内楽研究C	a	荻野 千里 野口千代光	前期			2					232
		b	北本 秀樹							○		233
	室内楽研究D	a	阪本奈津子	後期			2			○		233
		b	蓼沼恵美子					○	234			
		c	吉岡 次郎					○	234			
		d	菊池 奏絵					○	235			
	歌曲研究B	松井 康司 東井 美佳	通年			4					235	
	オペラ実習B〔演奏〕	櫻井 淳	前期			2	V選択		○		236	
	オペラ実習B〔演技〕	柴田千絵里	前期			2	[演奏][演技]履修者は、必ず[上演]を履修すること		○		236	
	オペラ実習B〔上演〕	布施 雅也 柴田千絵里	後期			2			○		237	
	邦楽アンサンブル研究B	滝田美智子	通年			4	J必修				237	
	オーケストラ・スタディD	野口千代光	前集			1	S必修				238	
	合奏D	野口千代光 永井 由比	後集				2	S必修			238	
	ギター・アンサンブルD	佐藤 紀雄	通年			2	G必修			○	239	
	室内楽特設クラスC	柏原 佳奈	前集			1			○※		239	
	室内楽特設クラスD	柏原 佳奈	後集			1			○※		239	
伴奏D	(1)	柏原 佳奈	前集			1					240	
	(2)		後集			1					240	
伴奏研究C	柏原 佳奈	前集			1					240		
伴奏研究D		後集			1					240		
海外特別演習D	松井 康司 東井 美佳	前集			2					241		
特別演習D	柏原 佳奈	通年			1					242		
コラボレイト実習D	(1)	松井 康司	前集			1					242	
	(2)		後集			1					242	

1・2年次を通して必修科目を含めて50単位以上

※ 芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする

【備考】

P：ピアノ専修 C：チェンバロ専修 V：声楽専修 W：管楽器専修 S：弦楽器専修 G：ギター専修 J：日本音楽専修

<2021(令和3)年度入学生の修了要件>  
最低修得単位数 50単位(2学年合計)

【内訳】

- ①作曲・理論・音楽史から14単位以上
- ②音楽教育科目から8単位以上
- ③演奏・室内楽科目から10単位以上
- ④特別演習C、特別講座(音楽)2単位必修
- ⑤実技レッスンから16単位以上

【学士取得に向けて】

<2021(令和3)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位(2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目を24単位以上修得していること

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	専門科目の単位	24単位以上	
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

2021(令和3)年度入学生用 別表…6

【教育課程・修了の要件】

2. 専攻科 演劇専攻

科目区分	授業科目・クラス	2022年度 授業名 【読替】	担当氏名	期間	単位				修了 要件	他 専攻	実務 経験 等に よる 科目	教員 による ページ			
					1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期							
理論科目	特別講義A		高橋 宏幸	通年	2				4	○		245			
	特別講義B		後藤 絢子	前期	2							245			
	演劇学研究A(日本演劇論)(1)		高橋 宏幸	前期	2							245			
	演劇学研究A(日本演劇論)(2)			後期	2							246			
	演劇学研究B(西洋演劇論)(1)		安宅りさ子	前期	2							246			
	演劇学研究B(西洋演劇論)(2)			後期	2							247			
	演劇学研究C(現代演劇論)		井上 理恵	前期	2							247			
科目 演出	劇作研究A(劇作論)		瀬戸山美咲	前期	2				8	○		248			
	劇作研究B(劇作演習)		瀬戸山美咲	後期	1							248			
演劇教育 科目	演出研究		小山ゆうな	前期	2				8	○		249			
	演劇教育論		柏木 陽	後期	2							249			
	アーツマネジメント研究	アーツマネジメント研究(1)	後藤 絢子	前期	2							250			
	アーツマネジメント研究(2)	追加		後期	2							250			
	アウトリーチ研究(1)	追加		前期	2							251			
	アウトリーチ研究	アウトリーチ研究(2)	後藤 絢子	後期	2							251			
												251			
演技科目	演技研究A(日本演劇)(1)	演技研究A(日本演劇)(1) 1年次	三浦 剛	前期	1				16	○		252			
		演技研究A(日本演劇)(2) 1年次		後期	1			252							
	演技研究A(日本演劇)(2)	演技研究A(日本演劇)(1) 2年次	P. ゲスナー	前期	1			252							
		演技研究A(日本演劇)(2) 2年次		後期	1			252							
	演技研究B(外国演劇)(1)	演技研究B(外国演劇)(1) 1年次	P. ゲスナー	前期	1							253			
		演技研究B(外国演劇)(2) 1年次		後期	1			253							
	演技研究B(外国演劇)(2)	演技研究B(外国演劇)(1) 2年次	P. ゲスナー	前期	1			253							
		演技研究B(外国演劇)(2) 2年次		後期	1			253							
	演技研究C(実験劇)(1)	廃止		前期	2										
	演技研究C(実験劇)(2)	廃止		後期											
	演技研究D(フィジカルシアター)(1)	演技研究D(フィジカルシアター) 1年次	大谷賢治郎	後期	1			255							
	演技研究D(フィジカルシアター)(2)	演技研究D(フィジカルシアター) 2年次			1			255							
	演技研究E(ミュージカル)(1)	演技研究E(ミュージカル) 1年次	大塚 幸太	前期	1							256			
	演技研究E(ミュージカル)(2)	演技研究E(ミュージカル) 2年次			1			256							
	演技研究F(現代劇)(1)	演技研究C(現代劇)(1) 1年次	田中壮太郎	前期	1							254			
		演技研究C(現代劇)(2) 1年次		後期	1			254							
	演技研究F(現代劇)(2)	演技研究C(現代劇)(1) 2年次	田中壮太郎	前期	1			254							
		演技研究C(現代劇)(2) 2年次		後期	1			254							
	演劇特別研究	演劇特別研究(1) ①②	眞鍋 卓嗣	前期	1							257			
		演劇特別研究(2) ①②		後期	1							257			
ワークショップA	1年次	ワークショップA(1)	日澤 雄介	前集	1				257						
ワークショップB	2年次	ワークショップB(1)	永井 愛	前集	1			257							
ワークショップC	1年次	ワークショップA(2)	古川 貴義	後集	1			258							
ワークショップD	2年次	ワークショップB(2)	鶴山 仁	後集	1			258							
ワークショップD(演大連)		追加	P. ゲスナー 三浦 剛 高橋 宏幸	集中	1			258							
海外研修	1年次 2年次	演劇研修 1年次	P. ゲスナー 高橋 宏幸 後藤 絢子	後集	1			259							
		演劇研修 2年次		後集	1										
実技科目	舞踊A(クラシックバレエ)	舞踊A(クラシックバレエ)(1)	中農 美保	前期	1				2	○*1		259			
		舞踊A(クラシックバレエ)(2)		後期	1							259			
	舞踊B(コンテンポラリー)		勝倉 寧子	前期	1							260			
	舞踊C(日舞)		藤間 希穂	後期	1							260			
	ミュージカル唱法	ミュージカル唱法(1)	藍澤 幸頼	前期	1							261			
		ミュージカル唱法(2)		後期	1							261			
	英語劇	英語劇(1)	J. サザランド	前期	1							261			
		英語劇(2)		後期	1							261			
	歌唱(個人レッスン)I		信太 美奈 他	前期	2							自由 選択 単位			262
	歌唱(個人レッスン)J			後期	2			2							
	歌唱(個人レッスン)K			前期	2										
	歌唱(個人レッスン)L			後期	2			2							
	歌唱(個人レッスン)M			前期	1										
歌唱(個人レッスン)N		後期		1			1								
歌唱(個人レッスン)O		前期		1				1							
歌唱(個人レッスン)P		後期		1			1								
									1						
										1					
劇上演実習	劇上演実習A	1年次 2年次	田中壮太郎	前集	4				16		○		262		
			P. ゲスナー 他	前集	4					262					
	劇上演実習B	1年次①	井田 邦明	後集	4					263					
		2年次①	未定	後集	4					263					
	劇上演実習C(専1最終公演)	1年次②	越光 照文	後集	4					263					
		2年次②	未定	後集	4					263					
	劇上演実習D(専2修了公演)		大谷賢治郎	後集	4					264					
	劇上演実習E(学外出演)		田中壮太郎	後集	4					264					
	劇上演実習F(学外出演)		三浦 剛	前集	4					265					
劇上演実習G(学内出演)		三浦 剛	集中	4				265							
劇上演実習H(学内出演)		三浦 剛	集中	4				265							
修了論文	修了論文	修了論文(1)	高橋宏幸 他	前期	2				2			266			
		修了論文(2)		後期	2							266			

\*1 芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエⅠ」「クラシックバレエⅡ」を修得していることを条件とする。

\*2 芸術科演劇専攻科目「日本舞踊Ⅰ」「日本舞踊Ⅱ」を修得していることを条件とする。

<2021(令和3)年度入学生の修了要件>  
最低修得単位数 50単位(2学年合計)

【内訳】

- ①特別講義は4単位必修 ※特別講義は通年15回授業
- ②理論科目、劇作・演出科目、演劇教育・マネジメント科目から8単位以上
- ③演技科目から16単位以上
- ④劇上演実習、修了論文から16単位以上
- ⑤実技科目から2単位以上
- ⑥自由選択科目として4単位(自他専攻科科目より)

○修了要件とは別に、芸術科演劇専攻および他専攻の履修可能な科目のうち、年間5科目まで履修可。

【学士取得に向けて】

<2021(令和3)年度入学生の学士取得のための修得単位の条件>

最低修得単位数 62単位(2学年合計・前述の修了要件を満たしていること)

芸術科との4学年合計で124単位以上修得し、その内、関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目を24単位以上修得していること

①専攻科に2年以上在籍し、62単位以上修得していること

専攻科での 修得単位	62単位以上			2年以上
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位	

「専攻科での修得単位」に含まれるもの

- 専攻科自専攻科目の修得単位
- 専攻科他専攻科目の修得単位
- 桐朋学園大学音楽学部の単位互換履修科目の修得単位

※教養科目および芸術科科目の修得単位数は①の要件単位数には含まれないので注意すること

②芸術科・専攻科の4年間で専門科目と関連科目の単位を合計で62単位以上修得していること

(A)

専攻科での 修得単位	62単位以上		
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

(B)

専攻科での 修得単位	31単位以上		
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

③芸術科・専攻科の4年間で関連科目・専攻に係る授業科目以外の科目の単位を24単位以上修得していること

専攻科での 修得単位		24単位以上	
	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位
芸術科での 修得単位	専門科目の単位	関連科目の単位	専攻に係る授業科目以外の科目の単位

※専攻科で修得した教養科目および芸術科科目の単位については、②(A)と③の要件単位数に含めることができる

※専門科目、関連科目、専攻に係る授業科目以外の科目の詳細は、「新しい学士への途」を参照のこと

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

教養



科目名 情報リテラシー論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 竹内 聖

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

PC実習室利用の場合は授業に関して特に用意するものはないが、授業時間外の復習や課題制作があるため、Adobe製品が動作するノートPCを用意するか大学内で利用できる環境を用意すること。授業演習素材や制作物の持ち運びのためにUSBメモリーを準備すること。

個人のパソコンで授業外で制作する場合はAdobe Creative Cloud 学生版(月額1980円1年間契約)を購入すること。詳細は初回の授業時に説明する。

対面授業を想定しているが、オンデマンド授業との併用またはオンデマンド授業のみになる場合もあるため、自宅インターネットを使える環境を整えておくこと。

### 授業の概要

演劇公演における制作実務の中でも専門技術を要する宣伝美術について、実際の制作実習を通じて学ぶ。また、スマートフォンやインターネットの普及により演劇の広報や宣伝活動も、従来のポスターやフライヤーに加えFacebookやTwitterなどのソーシャルメディア抜きでは考えられなくなってきた。そのような時代にどのようなプロモーションが効果的か?紙の媒体と比べてどのようなことに注意を払わなくてはならないのか?インターネットによりメディアが身近になり便利になった反面、今までと違った危険も多くなってきている。そんな時代の新しい演劇の宣伝活動を学んでいく。

### 授業の到達目標

- ・公演のフライヤーの制作の技術や、宣伝企画力が習得できる。
- ・社会人として、大学生として身につけておくべき「メディア情報リテラシー」を身に付けることができる。
- ・インターネット、情報機器の正しい知識、使い方やソーシャルメディア時代のコミュニケーションと宣伝企画制作の基本を学ぶことができる。
- ・メディアと宣伝美術を学び、これからの一般社会において幅広く役に立つ知識と技術を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入 演劇における宣伝美術とメディアリテラシーについて
2. フライヤーなどの制作に使うソフトウェアの説明とPhotoshopの基本操作
3. Photoshopを使った画像処理①画像の切り抜きと画像合成

4. Photoshopを使った画像処理②イメージ画像の制作と画像のレタッチ
5. Photoshopを使った画像処理③印刷用写真画像のレタッチと編集
6. Photoshopを使った画像処理④1.2.3の技法を使った作品作り
7. Illustratorの基本操作①基本操作と図形作成・ロゴマークの制作
8. Illustratorの基本操作②イラストの制作基本
9. Illustratorの基本操作③イラストの制作の応用
10. Illustratorを使ったレイアウト実習①地図の作成と写真の配置
11. Illustratorを使ったレイアウト実習②文字組の基本と文字装飾
12. 課題制作フライヤーの作成①ビジュアルイメージとレイアウトの構成
13. 課題制作フライヤーの作成②経過指導
14. 課題制作フライヤーの作成③仕上げ
15. 課題制作フライヤーの講評・指導

### 授業時間外の学習

Photoshop、Illustrator習得のための復習と課題制作。SNSなどの利用。制作ツールやWEBサービスを使ったサイト制作の自習。

公演チラシや特設サイトなどの情報収集を自分の時間を使って行う。

### 教科書・参考書等

特にないが、授業内外でPC、スマートフォンを使用する。

PC実習室を使用できない場合は特にPCは毎時間持参すること。PCを持ってなくても受講は可能だが、必ず初回授業時に相談すること。これからの社会においてパソコンは必要なツールのため、持っていない人はこの機会に購入することを勧める。ソフトウェアはAdobeのCreative Cloudを購入してもらうが、詳細については初回授業時に説明する。すでに古いバージョンのソフトを購入済みの方は新規に購入する必要はない。

### 成績評価

1. 授業への取り組み(50点)
  2. 授業態度積極性(20点)
  3. プレゼンテーション(30点)
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 情報処理論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 姫野 雅子

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

教職課程受講者は必修。

教室の定員(16名)の都合上、受講希望者多数の場合には、履修制限をおこなうこともある。

### 授業の概要

近年、オンライン化に拍車がかかり、日常生活にも情報機器の利用が必須となった。今後、芸術分野の魅力が社会に発信していくにあたり、強力なツールとなるであろう。これを実現するために、「PCの機能を使いこなそう」をこの授業の目的とする。普段使わない機能も使い、その上で主張したいことが確実に相手に伝わるように、表現力を身につけてもらう。技術的には、課題作成に欠かせないワープロ(文字入力のみでなく、画像、表、イラストを扱えるようにする)、表計算ソフト(計算式の使用方法をマスターし、報告書の形態で作成、データの並び替え、検索、集計ができるようにする)、楽譜作成(基本的操作に慣れる)、スライド作成(画像、イラスト、サウンドなどのコンテンツを扱えるようにする)のスキル向上を目指す。

### 授業の到達目標

- ・自分自身のPC環境を整え、今後の授業に積極的に利用できるようになる。
- ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションの実践的な使い方をマスターできる。
- ・もともとのPCスキルは個人差が大きい、それぞれの学生に応じて上達できる。

### 授業計画

1. PC環境の確認(文字入力とタイピング、ファイル管理、Webドライブ利用の注意)
2. ワープロ①レイアウト整え、主張したい部分の「強調」
3. ワープロ②画像の扱いと表作成
4. ワープロ③グラフの利用
5. ワープロ④図形を使つての「ちらし」を作成
6. ワープロ⑤レイアウト整え(上級編レポート形式)
7. 表計算①基本的な操作(計算式、関数、オート入力)

8. 表計算②ビジネス文章(予算書など)作成
  9. 表計算③データベース機能
  10. プレゼン①画像で表現
  11. プレゼン②アニメ風で作成
  12. プレゼン③プレゼンスライド課題作成(前半)
  13. プレゼン④プレゼンスライド課題作成(後半)
  14. 楽譜作成①基本操作の確認
  15. 楽譜作成②作品作成
- (14、15回目の内容は、受講者の希望を聞いて決めます)

### 授業時間外の学習

- ・準備しておくべき事柄があればClassroomに連絡するので、調べておくこと。
- ・授業中に終わらなかった分や、必要に応じて課す宿題をこなすこと。

### 教科書・参考書等

- ・プリント資料を使って授業を進める。また、授業中に参考サイト等を紹介する
- ・個人のPCを持ち込める場合には、持参してもらう。

### 成績評価

成績評価は、授業への取り組み60%、作成された課題の成果40%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上のもの(授業の取り組みが大変よく、課題作成に独自の工夫が随所になされている)
- A 総合点が80点以上のもの(授業の取り組みがよく、作成された課題がおおよそ満足できる)
- B 総合点が60点以上のもの(授業の取り組みがおおよそ満足でき、作成された課題の6割ほどは満足できる)
- C 総合点が50点以上のもの(授業の取り組みが消極的で、作成された課題の半分ほどは満足できる)
- D 総合点が49点以下のもの(授業の取り組みが消極的で、ほとんど課題が作成されていない)

科目名 音楽環境論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 久保田 慶一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「音楽環境論」という授業科目だが、音楽専攻以外の学生も履修可。

### 授業の概要

卒業後にフリーランスで生きていくには、どのようなことを知っていればよいのかを、学ぶ。自分と社会という環境、そして音楽や演劇との関係について考察する。

### 授業の到達目標

- ・卒業後の人生設計を自分でできる。
- ・芸術文化を取り巻く環境を幅広く考察することができる。

### 授業計画

1. 芸術を学ぶ意味とは？
2. 大学で学ぶ意味とは？
3. 人生100年時代とは？
4. キャリアとは何か？
5. 職業とは何か？
6. プロとは何か？
7. フリーランスとは何か？
8. キャリアデザインとは何か？
9. キャリアに必要な資産とリスクとは？

10. キャリアリスクのマネジメントとは？
11. 将来に希望をもつにはどうすればいいの？
12. コロナパンデミックでわかったことは？
13. ポストコロナ時代の課題とは？
14. 発表
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業で課題を出すので、次の授業で提出・発表できるようにしておくこと。

### 教科書・参考書等

授業内で紹介する。

### 成績評価

授業時の発表状況・取り組み20%、レポート課題80%によって、総合的に判断する。

- S 授業時の発表、提出レポートがともにたいへん優れている。  
 A 授業時の発表、提出レポートがともに優れている。  
 B 授業時の発表または提出レポートが優れている。  
 C 授業時の発表、提出レポートへの取り組みが不十分である。  
 D 授業時の発表、提出レポートに取組みまない。

科目名 社会福祉学

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 藤森 雄介

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

教職課程受講者は必修。

### 授業の概要

21世紀の日本における社会福祉は、「社会福祉基礎構造改革」以降、その制度施策も含めて大きな変革の渦中にある。本講義においては、上記のような現状を踏まえつつ、現代に至る戦後日本社会における社会福祉の歴史的背景や思想等を学んでいきたい。

### 授業の到達目標

1. 社会福祉全般に対して基本的理解ができる。
2. 「対人援助」の現場における、援助者の基本的な心構えを理解できる。
3. 社会福祉の学びを通じた、新たな視点を獲得できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代日本における社会福祉の定義
3. 「介護」または「介護福祉」の概念
4. ノーマライゼーションの思想
5. 「共生」の思想
6. 社会保障制度の基本的理解①社会保障制度における社会福祉の位置づけ
7. 社会保障制度の基本的理解②近代イギリス社会と救貧法
8. 社会保障制度の基本的理解③20世紀のイギリスと福祉国家について
9. 日本の社会福祉制度の成立過程①昭和20年代
10. 日本の社会福祉制度の成立過程②昭和30年代
11. 日本の社会福祉制度の成立過程③昭和40年代

12. 日本の社会福祉制度の成立過程④昭和50年代
13. 日本の社会福祉制度の成立過程⑤平成年代
14. 日本の社会福祉制度の成立過程⑥これからの方向性
15. まとめ、確認テストの実施と全体の振り返り

### 授業時間外の学習

本科目は、予習よりは復習を重視している。第2講以降の受講日前日には前回の講義内容の振り返り(90分程度)を行った上で、翌日の講義に臨んでほしい。また、いわゆる「社会福祉」は実学であり現代社会の動向とは不可分な学問である。日頃から、政治や経済の動向にも関心を持っておくことが必要である。

### 教科書・参考書等

教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。また、講義中に参考文献を適時紹介していく。

### 成績評価

原則として、期末に行う確認テストの得点をもとに評価を行う。ただし、授業内でレポート等を課した場合には、その評価も適時、加点する。

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、関連づけて説明できる)  
 A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、説明できる)  
 B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明できる)  
 C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)  
 D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 表現コミュニケーション論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし

### 授業の概要

演劇をすること・観ることは、ときに他者を理解することにつながり、実際、国内外で演劇を利用した多文化・多言語共生のための様々な試みが行われている。この授業ではこのような演劇活動の例をいくつか紹介・リサーチすると同時に、国際的・ジャンル横断的なコラボレーションや児童青少年の演劇の状況、手話サービスや字幕など、障がいの有無によらず、舞台芸術を誰でも気軽に楽しむための工夫などを広く知る機会とする。ゲストによるトークの機会も設けたい。

### 授業の到達目標

広義での国際的なコラボレーションや応用演劇、演劇の裾野を広げる工夫について知る。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 海外戯曲の上演 (1)
3. 海外戯曲の上演 (2)
4. 海外公演 (1)
5. 海外公演 (2)
6. フェスティバル・招聘・国際共同 (1)
7. フェスティバル・招聘・国際共同 (2)
8. フェスティバル・招聘・国際共同 (3)

9. コミュニケーションおよび共生のための演劇／演劇ワークショップ事例研究 (1)
10. コミュニケーションおよび共生のための演劇／演劇ワークショップ事例研究 (2)
11. コミュニケーションおよび共生のための演劇／演劇ワークショップ事例研究 (3)
12. 児童青少年と演劇を取り巻く環境 (1)
13. 児童青少年と演劇を取り巻く環境 (2)
14. 障がいと演劇 (1)
15. 障がいと演劇 (2)
16. 作文
17. 総括

### 授業時間外の学習

課題を課すことがある。

### 教科書・参考書等

適宜プリントを配布する。

### 成績評価

授業への取り組み70%、期末テスト・作文30%

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 アーツマネジメント論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし

### 授業の概要

2020年、コロナ禍で「文化的な活動は不要不急なのか」という問いが立ち、芸術家および文化・舞台芸術の役割・意義が再考された。この授業では、文化的な活動が広く意義深いものであるとされていることや、その活動がさまざまな法律、仕組みに守られていることを認識してほしい。同時に、近年表面化してきたハラスメント等、創造の現場で起きている諸問題について知り、よりよい創造の場を作るための一助となればと願っている。

### 授業の到達目標

アートやアーティストを取り巻く環境とその背景について広く知る。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. We Need Theatre/Arts -コロナ禍の舞台芸術界の動き
3. アートの役割-文化権のことなど
4. 助成金
5. 国家と芸術／芸術家 (1)
6. 国家と芸術／芸術家 (2)
7. 日本の劇場と法制度
8. 劇場のさまざまな試み

9. 創造の現場をめぐる諸問題-長時間勤務・ハラスメント・制作者の孤立など
10. 著作権・契約
11. 国際交流のさまざまな形-国際共同制作、翻訳戯曲の上演、招聘、フェスティバル
12. フェスティバル
13. 障がいと演劇
14. 小テストまたは作文
15. 総括

### 授業時間外の学習

適宜指示する。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配布する。参考書は授業内で紹介する。

### 成績評価

授業への取り組み70%、期末テスト・作文30%

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下



科目名 応用演劇論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

社会に於いて演劇ができることの可能性に関心があること。  
芸術作品の創造だけでなく、ワークショップのファシリテーター（ワークショップを進める役割の人）など演劇の手法を用いて社会に貢献したり、一般の人に関わることに関心があること。

### 授業の概要

応用演劇とは何かを学ぶ。  
演劇の手法を用いて社会に貢献のできる、そして一般の人が体験できるワークショップの可能性を学習ならびに模索する。  
芸術としての演劇と経験としての演劇を比較、演劇ができることの可能性を探求する。  
実際にワークショップの内容を作成し、実践する。

### 授業の到達目標

- ・多岐にわたる応用演劇について学習し、その現状について説明することができる。
- ・演劇を応用した具体例を学び、また自らリサーチすることができる。
- ・これらの学習を経て、自らが考案したワークショップを実施することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 応用演劇とは何か
3. 世界の応用演劇①ドラマ教育
4. 世界の応用演劇②社会との関わり
5. 世界の応用演劇③コミュニティの形成
6. 応用演劇の実践①ティーチング・アーティストとは
7. 応用演劇の実践②ファシリテーターの役割
8. 応用演劇の実践③グループワークによる実践
9. 社会的弱者のため演劇ワークショップとは何か

10. タブーワークショップとは何か
  11. タブーワークショップの実践
  12. 日本に於ける演劇ワークショップの可能性①発表
  13. 日本に於ける演劇ワークショップの可能性②講評
  14. ワークショップ・ファシリテーターの実践
  15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

授業内容の復習・予習を行う。出題された課題に取り組む。ワークショップのアイデアを作成する。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

1. 授業への取り組み、創造過程への関わり方80%
  2. 発表の内容20%の総合的評価
- S 授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高いへん高く評価できる。
- A 授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる。
- C 授業への取り組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している。
- D 授業への取り組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない。

科目名 メディア論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 森山 直人

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

現代のメディア社会とアートに関心のある人。

### 授業の概要

わたしたちは、日々、さまざまなメディアに取り囲まれて暮らしている。現代のメディア社会全体を、ひとつの大きな「劇場（の集まり）」ととらえたとき、この世界ではさまざまな「演劇的なもの・こと」が日々起こっているといえるだろう。この授業では、インターネットをはじめとして、われわれの身近にある多種多様なメディアに考察の目を向け、それらをシアトリシティ（＝劇場的または演劇的）という視点から歴史的に考察していくと、どんな「風景」が見えてくるのかについて考えていく。映画（実写からアニメまで）、演劇・ダンス（古典から現代まで）、音楽（クラシックからポップスまで）などのさまざまな映像資料を参照しながら、受講生ひとりひとりのメディア環境についての洞察を深めていく形で進行する。なお、基本的に対面授業だが、状況に応じて一部オンライン授業を併用する場合もある。

### 授業の到達目標

受講生各自が、「メディア」と現代社会、現代芸術の関係性に関する独自の問いを発見し、授業や自主的な学習に基づいて、自分なりの見解を一定の分量の論述にまとめることができる。（授業前半のどこかで1200字程度の中間レポートを提出し、それをブラッシュアップして期末レポートとして提出する、という流れになる。）

### 授業計画

1. 「劇場」のリアル—「演劇」をメディアとして考えることから
2. 「劇場」のバーチャル—「そこにはないのに、いる」ということ
3. メディアという「窓」—額縁舞台からパソコンまで
4. 写真から映画へ—映像のリアル／亡霊のリアル
5. 「動くもの」をどう再現するか—初期映画からディズニーまで
6. ダンスと映像の歴史—ミュージカル映画からMVまで
7. よい音、よい声—ポピュラー音楽とレコード文化

8. ドキュメンタリーとフィクション①「報道」と「現実」
9. ドキュメンタリーとフィクション②映画と演劇
10. ドキュメンタリーとフィクション③是枝裕和作品を見る
11. 都市は劇場である①「夢」をつくるテクノロジー
12. 都市は劇場である②テーマパークと市街劇
13. テレビとその拡張①「朝ドラ」の観客（視聴者）
14. テレビとその拡張②スペクタクル社会とネット文化
15. まとめ

### 授業時間外の学習

- ①授業で扱ったトピックについて、図書館やインターネットを使って調査すること。
- ②さまざまなメディアのなかで、自分が最も関心のある対象を選び、授業を参考にしながら、独自にリサーチを進めていくこと。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、毎回、授業のトピックに関連する参考資料を配布する。

### 成績評価

- 成績評価については、期末レポート70%、授業への取り組み（中間レポート提出を含む）30%の配分として100点満点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、特に優れた成果をあげている）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容をほぼ理解し、優れた成果をあげている）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容を一定以上理解し、成果をまとめることに成功している）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解が十分でなく、一定の成果をまとめられていない）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解せず、成果に結びついていない）

科目名 現代思想論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 比嘉 徹徳

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

この授業では、ニーチェとフロイトを起点において現代思想のアクチュアルなテーマを概観する。自己、他者、権力、セクシュアリティなどについて、哲学および精神分析がどのような議論をしてきたか理解を深めつつ、参加者の問題意識と突き合わせて考察していく。

### 授業の到達目標

現代思想の諸概念について歴史的背景をふまえて正確に理解することができる。

社会や文化のさまざまな現象、文学および芸術について、現代思想の諸概念を用いて理解し、解釈することができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ニーチェ①道徳批判/系譜学
3. ニーチェ②遠近法主義
4. フロイト①無意識/意識
5. フロイト②超自我/自我/エス
6. フロイト③文化論・宗教論
7. フロイト以後の精神分析

8. 中間まとめ
  9. ホルクハイマー/アドルノ(十ハーバーマス):啓蒙のゆくえ
  10. フーコー①「権力の系譜学」規律訓練
  11. フーコー②「権力の系譜学」生政治/統治
  12. ドゥルーズ:マゾッホとサド
  13. ベイトソン:ダブルバインド
  14. ジュディス・バトラー:ジェンダー/セクシュアリティと政治
  15. 到達度確認と授業の総括
- ※授業の進行や受講者の理解度に応じて変更の余地あり。

### 授業時間外の学習

授業内で指示した文献を積極的に読むこと。

### 教科書・参考書等

なし。レジュメの配布およびスライド。

### 成績評価

レポート60%、授業への貢献度40%で100点に換算

- A 総合点が90点以上の者  
S 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 日本国憲法

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 西山 智之

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

教職課程受講者は必修。

### 授業の概要

本講座では、日本国憲法の歴史をはじめ、国民に保障される自由や権利の他、統治機構(国会・内閣・裁判所)についての解説を、講義形式で行う。

憲法は私たちの日常生活では、馴染みの薄い存在なのかもしれない。しかし近年、憲法9条(戦争放棄)に関する議論や過激な表現活動に関する問題等、憲法上の諸問題が活発に議論されており、これらの問題は高等教育を受けた者として当然に知っておくべきものである。また憲法は、刑事法や民事法の基礎となる法であり、今後私たちが生活をする際に法律を学んでいく上で、理解しておくことが望ましいと考えられる。

そのため講義の中では、憲法の基本的知識の他、上記にあげた現代の憲法上の諸問題や憲法改正議論について等、タイムリーな話題についても解説を行いたいと考えている。また、社会問題を考える力を育成するため、授業中にディベート等発言する機会を多く設ける予定である。積極的に議論に参加して欲しい。

### 授業の到達目標

日本国憲法を通じて、現代の法で治められた国家の仕組みに関する知識・理解を深め、社会に対する関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、履修者が日本国憲法の基本的知識を習得し、人権の意義や国会・内閣・裁判所の役割を理解した上で説明することができる、ということに到達目標とする。

### 授業計画

1. 憲法とは何か、法とは何か
2. 天皇の地位と権能、平和主義
3. 基本的人権の原理、基本的人権の保障と限界
4. 包括的基本権、平等原則
5. 精神的自由①思想・良心の自由、信教の自由
6. 精神的自由②表現の自由、学問の自由
7. 経済的自由(職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権)
8. 人身の自由(適正手続きの保障、被疑者・被告人の権利)

9. 社会権(生存権、労働基本権、教育を受ける権利)
10. 国務請求権、参政権、統治の基本原則
11. 統治機構①国会の仕組みと役割
12. 統治機構②内閣の仕組みと役割
13. 統治機構③裁判所の仕組みと役割
14. 違憲審査制、地方自治、憲法改正
15. 授業の総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

事前学習: ニュース・新聞等を通じ社会問題に対して常に関心を持ち、現在日本でどういった問題が起きているのかについて調べ、ノートに列記しておく。

事後学習: 各回の授業内容を自分なりに整理し、わかりやすくノートに記述しておく。

### 教科書・参考書等

教科書: 東裕・杉山幸一 編著『Next教科書シリーズ 日本国憲法』(弘文堂、2022年)  
その他、授業で資料を配付する。

### 成績評価

成績評価は、筆記試験60%、平常点40%の配分で総合的に評価する。平常点では、教員の問いに対する発言回数や議論の際の態度等、授業に積極的に参加しているかを見る。ここでの授業への参加とは、単に授業時間に講堂へ来て座っているのではなく、授業への意欲的な態度をもって参加していることを意味する。

- S 総合点が90点以上の者  
(授業に大変積極的に参加し、憲法について優れた理解をしている)  
A 総合点が80点以上の者  
(授業に積極的に参加し、憲法について十分に理解している)  
B 総合点が60点以上の者  
(授業に参加し、憲法についてある程度理解している)  
C 総合点が50点以上の者  
(授業に参加し、憲法について最低限度理解している)  
D 総合点が49点以下の者  
(授業に参加せず、憲法についての理解度が低い)

科目名 文化政策論A

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし

### 授業の概要

世界では昨今、どのような状況・文化政策のもと、どのような舞台芸術が生まれているのか、調査と発表によって見識を深める。主に近年の状況についてリサーチする。

### 授業の到達目標

同時代の世界の演劇人が、どのような状況のもと、どのような意識を持って創作に向き合っているのか。アーティストたちを支える人や機関が、アートにどのような意義を見出しているのか。パフォーマンスアーツとその背景の多様性を知る。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. アジア・アフリカ (1)
3. アジア・アフリカ (2)
4. アジア・アフリカ (3)
5. アジア・アフリカ (4)
6. アジア・アフリカ (5)
7. 南北アメリカ・オセアニア (1)
8. 南北アメリカ・オセアニア (2)
9. 南北アメリカ・オセアニア (3)

10. 南北アメリカ・オセアニア (4)
11. 南北アメリカ・オセアニア (5)
12. ヨーロッパ (1)
13. ヨーロッパ (2)
14. 作文
15. 総括

### 授業時間外の学習

世界の国や地域の状況、舞台芸術作品について調査し、発表準備をする。

### 教科書・参考書等

国際演劇協会日本センター編「国際演劇年鑑」(文化庁・国際演劇協会日本センター) など  
\*適宜プリントを配布する。

### 成績評価

受講態度70%、作文30%

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 文化政策論B

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし(前期に文化政策論Aを受講していることが望ましいが、必須ではない)

### 授業の概要

前期に続き、同時代の世界の演劇人が、どのような状況のもと、どのような意識を持って創作に向き合っているのか。アーティストたちを支える人や機関が、アートにどのような意義を見出しているのか。パフォーマンスアーツとその背景の多様性を知る。さらに、ドラマトゥルクの仕事や海外戯曲および演劇作品を紹介することに関する楽しさ・難しさについても話し合いたい。

### 授業の到達目標

創作を取り巻く環境の一端を知る。

### 授業計画

1. オリエンテーリング 自己紹介など
2. ヨーロッパの演劇 (1) \*文化政策論Aに続く
3. ヨーロッパの演劇 (2) \*文化政策論Aに続く
4. ヨーロッパの演劇 (3) \*文化政策論Aに続く
5. 公共劇場 (1)
6. 公共劇場 (2)
7. ドラマトゥルクの仕事 (1)
8. ドラマトゥルクの仕事 (2)

9. ドラマトゥルクの仕事 (3)
10. 海外戯曲・作品を紹介する難しさ・楽しさ (1)
11. 海外戯曲・作品を紹介する難しさ・楽しさ (2)
12. 海外戯曲・作品を紹介する難しさ・楽しさ (3)
13. 海外戯曲・作品を紹介する難しさ・楽しさ (4)
14. 作文
15. 総括

### 授業時間外の学習

課題を課すことがある。

### 教科書・参考書等

適宜プリントを配布する。

### 成績評価

受講態度70%、作文30%

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下



科目名 青少年教育論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

子どもならびに若者のための舞台芸術に深い関心があること。  
児童青少年教育に於ける演劇の可能性への探求意欲があること。

### 授業の概要

世界の児童青少年の演劇事情を学ぶ。  
舞台芸術が児童青少年の発達にどのような影響を及ぼすのか学習・研究する。  
児童青少年のための舞台芸術作品の創作に挑戦する。

### 授業の到達目標

- 世界の児童青少年演劇を学習し、その現状について説明できる。
- 発達心理学の分野などで研究されている、舞台芸術が児童青少年に及ぼす影響を学習し、自らリサーチできる。
- これらの学習を経て、児童青少年のための演劇作品を創作することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. Theatre for Young Audiences (TYA) とは何か
3. 乳児のための演劇
4. 幼児のための演劇
5. 青少年のための演劇
6. 世界のTYA
7. 児童青少年のための演劇ワークショップの可能性
8. 児童青少年のための演劇ワークショップを考案・発表
9. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について①基礎
10. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について②世界の研究成果

11. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について：リサーチの発表①前半（2回に分けて行う）
  12. 発達心理学などに於ける舞台芸術の重要性について：リサーチの発表②後半
  13. 作品創造①前半（2回に分けて行う）
  14. 作品創造②後半
  15. 総評
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のためのリサーチを行う。作品の執筆に取り組む。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

1. 授業への取組み、創造過程への関わり方80%
  2. 発表の内容20% の総合的評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高いへん高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、発表の内容が評価できる。
- C 授業への取組み、創造過程への関わり方が不十分だが、各課題の発表まで達している。
- D 授業への取組み、創造過程への関わり方、各課題の発表が評価できない。

科目名 倫理学

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 吉川 浩満

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

倫理とは、人と人が関わり合う際のふさわしい振る舞いを指す。倫理学は、その倫理を理性的に検討する学問である。私たちは、日常生活においてはもちろん、芸術活動においても、様々なかたちで倫理と関わりを持つ。この授業では、日常生活や芸術活動において直面しうる倫理的諸問題について、倫理学の助けを借りて考えていく。

### 授業の到達目標

- 以下の2点を到達目標とする。
- 自己と他者の倫理的判断の根拠をある程度まで理解・説明できる。
  - 特定の状況における倫理的問題の所在をある程度まで把握できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション①倫理／倫理学とは
2. オリエンテーション②道徳と倫理の区別
3. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか①
4. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか②
5. 倫理学の三部門—規範倫理学、記述倫理学、メタ倫理学
6. 倫理学の三領域—個人、社会、身近な関係
7. 社会の倫理—正義
8. 個人の倫理—自由

9. 身近な関係の倫理—愛
10. ケアの倫理
11. 倫理学の三学説—徳倫理、義務論、功利主義
12. ケーススタディ
13. 芸術と倫理
14. 倫理学はなぜ「実は必修科目」なのか③
15. まとめ

### 授業時間外の学習

・配布資料を読むこと、ミニレポートを書くこと

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取組み50%、レポートや発表50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 ジェンダー論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岡 俊一郎

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

受講にあたってジェンダー論やセクシュアリティ論に関わる知識は求めない。  
授業で扱う内容や事例の説明について、受講者からの疑問や異なる見解の提示を歓迎する。

### 授業の概要

性のあり方は私たちの日常に深く関わっており、様々な手法で分析がなされてきた。この講義では、受講者が自らの表現や関心とジェンダーやセクシュアリティと密接に関わる問題を結びつけて考察できるようになることを目標に、ジェンダースタディーズの入門的事項を人文的視点から概観する。とりわけ、映画・演劇・パフォーマンスといった表現との関係を重視する。

学期前半の講義では、ジェンダースタディーズの基礎的な概念である、社会的に構築された性を示すジェンダーや多様な性のあり方を示すセクシュアリティ等の概念とこれらの概念が重要視されるようになった歴史的経緯について説明する。学期後半では、1945年以降の映画・演劇・パフォーマンスなどの多様な表現手段を通して、ジェンダーを巡る問題系がいかに探求されてきたのかを学ぶ。英語圏での議論の展開を中心としながら、日本における展開や、時事的な問題との接続もあわせて説明する。

### 授業の到達目標

ジェンダースタディーズの基礎的な概念や内容を理解し説明することができる。  
ジェンダーやセクシュアリティに関わる表現の歴史的展開について説明することができる。  
自らの表現活動や他者の表現活動についてジェンダースタディーズとの関わりで表現することができる。

### 授業計画

1. イントロダクション：ジェンダー論の領域、性について語ることにについて
2. ジェンダースタディーズの生まれてきた背景：フェミニズム運動の歴史1
3. ジェンダースタディーズの生まれてきた背景：フェミニズム運動の歴史2
4. ジェンダースタディーズの基礎的な概念：セックスとジェンダー
5. ジェンダースタディーズの基礎的な概念：セクシュアリティ
6. ジェンダースタディーズの基礎的な概念：インターセクショナルリティ
7. フェミニストパフォーマンスの歴史的展開：米国での展開
8. フェミニストパフォーマンスの歴史的展開：日本での展開

9. フェミニストパフォーマンスと現代の問題のつながり
  10. フェミニズム批評の展開：映画に埋め込まれた男性のまなざし
  11. ジェンダースタディーズと映画の歴史：誰が映画のスクリーンに表れるのか
  12. AIDS危機と演劇・パフォーマンス：AIDS危機について
  13. AIDS危機と演劇・パフォーマンス：米国での展開
  14. AIDS危機と演劇・パフォーマンス：日本での展開
  15. 授業の振り返りおよび学習到達度の確認
- ※授業内容は、受講者の興味・理解度や進行の都合により多少前後する可能性がある。

### 授業時間外の学習

ジェンダーやセクシュアリティに関わる芸術表現に関心を持ち各自で鑑賞などを行うこと。  
授業で説明する概念や事例と時事的な問題との関わり、芸術表現との関わりについて考えること。

### 教科書・参考書等

教科書：教科書は使用せず、スライドを用いて授業を行う。  
参考書：北村紗衣『お砂糖とスパイスと爆発的な何か―不真面目な批評家によるフェミニスト批評入門』書肆侃侃房  
映画・舞台芸術とジェンダー・セクシュアリティとの関わりについて、人文的観点からアプローチした入門書

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み(50%)、基礎的な概念の理解(30%)、自分や他者による表現活動のジェンダーやセクシュアリティの視点からの分析(20%)とする。  
S：総合点が90点以上(基礎的な内容を十分に理解した上で、自らの表現や他者による表現に対して高度な説明/分析を行うことができる)  
A：総合点が80点以上(基礎的な内容を理解した上で、自らの表現や他者による表現を説明/分析することができる)  
B：総合点が60点以上(内容をほぼ理解した上で、自らの表現や他者による表現を説明/分析することができる)  
C：総合点が50点以上(内容の説明が不十分で、表現の説明/分析があまりない)  
D：総合点が49点以下(授業への取り組みが不十分で、内容の説明および表現の分析ができない)

科目名 ダンス史

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮川 麻理子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。ダンスに関心を持つ学生の履修を歓迎する。

### 授業の概要

劇場でダンスを鑑賞する文化はいつ、どのようにして誕生し、現代まで続いてきたのだろうか。本講義では、舞台芸術としてのダンスがどのように発展し、変容したのかを講義する。バレエの誕生から20世紀に多様な展開を見せたモダンダンス、舞踏、コンテンポラリーダンスまでを概観し、それぞれのダンスに見られる特徴・時代背景・政治や社会とのつながりを考察する。

### 授業の到達目標

ダンス史を語る上で基礎となる知識を習得する。また、各作品やダンサー・振付家の持つ美学や革新的な要素を、時代や社会・政治との関わりを念頭に置きながら検討し、ダンスをより深く理解できるようになることを目指す。具体的には以下の3点を到達目標とする。  
・舞台芸術としてのダンスの歴史を語るができる。  
・一つの作品を、多角的に分析することができる。  
・ダンス史の流れの中で、現在のダンスの状況を位置付けられる。

### 授業計画

1. イントロダクション(授業で扱う「舞台芸術としてのダンス」が示す範囲やその定義について)
2. バレエの歴史①バレエの誕生からクラシック・バレエまで
3. バレエの歴史②バレエ・リュスとニジンスキーについて
4. モダンダンスの歴史①20世紀初頭に活躍したダンサーたち
5. モダンダンスの歴史②ドイツ表現主義舞踏とその周辺
6. モダンダンスの歴史③アメリカのモダンダンスの発展
7. ポストモダンダンスについて
8. ピナ・バウシュのタンツ・テアター
9. 日本における洋舞の発展
10. 舞踏について①土方巽と大野一雄の美学

11. 舞踏について②舞踏の国際的展開
12. ヌーヴェルダンス
13. コンテンポラリーダンス①ノンダンスとその周辺
14. コンテンポラリーダンス②日本のコンテンポラリーダンスの現状
15. 授業の総括および学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

履修者は各自で講義をノートにまとめ、予習と復習に努めること。授業内で紹介する参考文献に目を通し、ダンスに関する知を積極的に得ようとする。また、できる限り現在上演されているダンスの公演に足を運び、自分の目で舞台を見ること。

### 教科書・参考書等

必要に応じてレジュメや資料を配布する。また、参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業内試験の結果(60%)、授業への取り組み・コメント(40%)を総合して評価する。  
S：総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、諸事項を関連づけて自分の言葉で説明できる。毎回の授業への取り組みも特に秀でた者)  
A：総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、自分の言葉で説明できる。授業への取り組みもほぼ的確だった者)  
B：総合点が60点以上の者(授業内容をほぼ理解しているが、説明しようとする曖昧な部分もある。授業への取り組みは十分だと認められた者)  
C：総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解できていない。授業への取り組みも不十分だった者)  
D：総合点が49点以下の者(授業内容を全く理解せず、授業への取り組みにも問題がある者)

科目名 映画史

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 細谷 修平

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

遅刻、居眠りをしないよう、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

本講義では戦後の日本映画の流れを中心に、社会との関わりの中で映画作品がどのような人びとによってどのように制作・上映され、どのような影響をもたらしたのかを考える。並行して、世界の映画状況も概観するが、西洋を中心とした既存の「映画史」にとどまらず、アジア各地の映画や小規模で制作された実験映画、映画と関連する他の芸術領域などについても考察していく。また、インターネットを介したグローバルな映像表現の展開も視野に入れ、ファインアートを含めた現在進行形の映画、映像表現の動向を捉えていく。

### 授業の到達目標

- ・映画、映像作品と社会の関わりについて理解を深めることができる。
- ・映像表現と人間の関わり、カメラの前で表現することについて考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション:今日の映画状況
2. 映画の誕生と日本における生成
3. 戦争と映画—満映の時代
4. 1950年代—記録の時代
5. 1960年代①スターと映画
6. 世界情勢と映画の交差
7. 1960年代②新たなる映画の冒険
8. 映画の実験と前衛芸術
9. ビデオの登場と映像表現
10. ドキュメンタリーとフィクション
11. アジア映画—もうひとつの映画史

12. 80年代、90年代の映画、映像表現
  13. インターネット社会における映画、映像表現
  14. 映画の保存活動
  15. わたし/たちと映画、映像のこれから
- ※授業内容に関しては、進行具合により多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ・授業内で話題にした内容について図書館やインターネットを利用して理解を深めること。
- ・映画館や美術館などに出かけ、積極的に映画や芸術作品に触れること。

### 教科書・参考書等

四方田大彦『映画史への招待』岩波書店  
平沢剛『アンダーグラウンド・フィルム・アーカイブス』河出書房新社  
そのほか、授業内に適宜紹介する。

### 成績評価

- レポート50%、授業への取組み50%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる）  
A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる）  
B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる）  
C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、説明があまりできない）  
D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、説明ができない）

科目名 映画論

授業形態 講義

対象 全専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 行定 勲

実務経験 ○

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

本講義では、映画はどのように制作されていくのか題材をどこに求めるのか等について、演劇と映画の具体的な作品を参照しながら、テーマごとに掘り下げていく。具体的な作品の解説を通じて講義を進めていくため、学術的な内容よりも実践的な内容が中心となるが、映画制作にとどまらず創作活動において重要となる要素について、丁寧に取り扱っていかねばと考えている。講義を通じて、学生の皆さんと質疑応答だけでなくテーマごとにディスカッションを活発にできればと、思っている。

### 授業の到達目標

映画制作に関するいくつかの論点を通じて、映画制作にとどまらず、創作活動において基礎となる大事なポイントを理解することができる。

### 授業計画

- 以下、テーマについて、具体的な作品を参照しながら、解説、ディスカッションの流れで授業を進めていく。
1. 映画はどのように制作されているのかという概論①
  2. 映画はどのように制作されているのかという概論②
  3. 演出における自作論と発想①

4. 演出における自作論と発想②
5. 演劇作品の映画化についての考察
6. 映画における演劇的演出の意義
7. 評価されることの意義
8. 映画化企画のプレゼンテーション

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

- 授業への取組み30%とレポート課題（予定）70%で総合的に評価する。
- S 総合点 90点以上  
（授業への取り組みと課題の成果がたいへん優れている。）  
A 総合点 80点以上  
（授業への取り組みと課題の成果が優れている。）  
B 総合点 60点以上  
（授業への取り組みもしくは課題の成果が優れている。）  
C 総合点 50点以上  
（授業への取り組みもしくは課題の成果が不十分。）  
D 総合点 49点以下  
（授業への取り組みも課題の成果も不十分。）



科目名 英語A I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Barry Ferner

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

レベルを問わず、皆が楽しく参加して、実用的な英語のトレーニングを行う。

実践的なロールプレイ・スピーチ・対話などを重ね、英語を話す人々とコミュニケーションできるようになることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

### 授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 自己紹介(スピーチ)
3. 好きなこと、そうでないこと(対話・ディスカッション)
4. ご招待・天気予報(ロールプレイ)
5. 旅行の切符を買う(ロールプレイ)
6. ホテルチェックインの手続き・コンシェルジュにお願いする(ロールプレイ)
7. レストランで食事・ウェーターにお願い(ロールプレイ)
8. 買い物(ロールプレイ)
9. 人の格好(ロールプレイ・スピーチ)
10. 映画・演劇・コンサートの切符を買う(ロールプレイ・ディスカッション)

11. 見に行ったイベントの感想(スピーチ・ディスカッション)
12. 料理の話。ロールプレイ(料理TV番組)
13. 落とし物(スピーチ・説明)
14. パーティの招待(ロールプレイ)
15. 道を聞く(ゲーム)

### 授業時間外の学習

毎週、各自復習すること。

### 教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配付。

### 成績評価

成績の評価については、授業への取り組み50%、課題発表30%、宿題20%にて総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者  
(授業への取り組みがたいへんよく、英会話力がたいへん優れている)
- A 総合点80点以上の者  
(授業へ取り組みがよく、英会話力が優れている)
- B 総合点60点以上の者  
(授業への取り組みもしくは英会話力が優れている)
- C 総合点50点以上の者  
(授業への取り組みもしくは英会話力が不十分)
- D 総合点49点以下の者  
(授業への取り組みも英会話力も不十分)

科目名 英語A II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Barry Ferner

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「英語A I」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

レベルを問わず、皆が楽しく参加して、実用的な英語のトレーニングを行う。

実践的なロールプレイ・スピーチ・対話などを重ね、英語を話す人々とコミュニケーションできるようになることを目指す。また、英語の音楽用語、表現についても学ぶ。

### 授業の到達目標

基礎的な英語表現を身につけ、英語で身のまわりの事柄や音楽の話ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. お久しぶりです(ロールプレイ)
3. 食事の招待(ロールプレイ)
4. オーディション・バイトの面接(ロールプレイ・スピーチ)
5. OJT どうやって～(スピーチ・ロールプレイ)
6. 買い物・返品(ロールプレイ)
7. 商品のおすすめ TV CM(ロールプレイ)
8. 落とし物(ロールプレイ)
9. 注意・緊急(ロールプレイ)

10. 病院に行く(ロールプレイ)
11. ニュース・アナウンス(アナウンス・ロールプレイ)
12. 運動・スポーツクラブの宣伝
13. 道を聞く(ゲーム)
14. 舞台や映画、コンサートに招待(ロールプレイ・スピーチ)
15. ディスカッションロールプレイ(TVパネルディスカッション番組)

### 授業時間外の学習

毎週、各自復習すること。

### 教科書・参考書等

各回に必要なプリントを配付。

### 成績評価

成績の評価については、授業への取り組み50%、課題発表30%、宿題20%にて総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者  
(授業への取り組みがたいへんよく、英会話力がたいへん優れている)
- A 総合点80点以上の者  
(授業へ取り組みがよく、英会話力が優れている)
- B 総合点60点以上の者  
(授業への取り組みもしくは英会話力が優れている)
- C 総合点50点以上の者  
(授業への取り組みもしくは英会話力が不十分)
- D 総合点49点以下の者  
(授業への取り組みも英会話力も不十分)

科目名 英語B I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻 2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 田村 奈穂子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

本授業では、イギリスの劇作家ピーター・シェファア(Peter Shaffer 1926-2016) 作の戯曲『アマデウス』(Amadeus 1989) 第一幕を読む。本作は1979年にロンドンで初演をむかえた後、1981年にニューヨークでも上演され、1984年には映画化された。

『アマデウス』は、実在した作曲家モーツァルトとサリエリを中心人物とし、「モーツァルトの死にサリエリは関与したのか」、というテーマで構成されたフィクションである。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

### 授業の到達目標

1. 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
2. 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
3. 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、作品の概要、背景等の説明
2. 舞台装置等、冒頭のト書き
3. ウィーン市民の噂話①前半
4. ウィーン市民の噂話②後半
5. サリエリの罪の告白

6. サリエリの回想(子供時代)
7. サリエリの全盛期
8. モーツァルトの噂①前半
9. モーツァルトの噂②後半
10. モーツァルトとコンスタンツェの会話①前半
11. モーツァルトとコンスタンツェの会話②後半
12. サリエリの衝撃
13. サリエリの祈り
14. モーツァルトを迎える宮廷
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

履修者には、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物像・音楽的要素の把握、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語、文法構造等の記憶定着に努めること。

### 教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。

授業には辞書(紙/電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。ただし、携帯電話・スマートフォンを辞書として使用するの認めない。

### 成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(作品を十分に理解できている)  
A 総合点が80点以上の者(作品を概ね理解できている)  
B 総合点が60点以上の者(作品をある程度理解できている)  
C 総合点が50点以上の者(作品の理解度が半分程度である)  
D 総合点が49点以下の者(作品を理解できていない部分が多い)

科目名 英語B II

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻 2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 田村 奈穂子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「英語BI」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

基礎的英文法を確認しながらアメリカの劇作家バーナード・スレイド(Bernard Slade 1930-)の戯曲『セムタイム・ネクストイヤー』(Same Time Next Year 1975) 第一幕を読む。この戯曲は1975年にニューヨークで初演された後、1978年までに1453回のロングランを達成し、映画にもなった作品である。

本作はそれぞれ家庭のある男女が、年に一度、同じ場所で密会をするという二人芝居である。設定は単純ではあるが、その背景は1951年から1975年までの25年間に及び、各場面のセリフから、時代の影響を受けた登場人物の心理的变化と葛藤を読むことができる。

授業では担当を決め、輪番でテキスト訳を発表し理解度を確認する。また、学習内容を踏まえながら、テキストを使った発話練習を行う。担当者以外も自発的に意見を発表する等、積極的な授業への参加を期待する。

### 授業の到達目標

1. 英語の基礎文法を習得し、英語で書かれた戯曲を正確に読み取ることができる。
2. 日本語を介さず登場人物の行動およびセリフを理解し、感情が伴った発話を行うことができる。
3. 戯曲の精読を通し、歴史的・文化的知識を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、作品の概要、背景等の説明
2. 舞台装置等、冒頭のト書き
3. ドリスとジョージのぎこちない会話
4. 1951年のベストセラーとヒット曲
5. ドリスとジョージの罪悪感

6. 1951年の世界情勢
7. お互いの家族について
8. ドリスとジョージの出会い
9. 配偶者の良いところと悪いところを一つずつ①前半
10. 配偶者の良いところと悪いところを一つずつ②後半
11. 子供の写真
12. 5年後の近況報告①前半
13. 5年後の近況報告②後半
14. 子供からの電話
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

履修者は、単語・文法を踏まえた和訳準備のみならず、登場人物像の心理・時代背景等を説明できるよう十分に準備すること。また和訳準備、音読練習等、入念な予習が求められる。担当外の履修者も積極的な授業参加のためには十分な予習が必要である。授業後は、各自テキストを繰り返し音読し、単語、文法構造等の記憶定着に努めること。

### 教科書・参考書等

教材は授業時にプリントを配布する。

授業には辞書(紙/電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。ただし、携帯電話・スマートフォンを辞書として使用するの認めない。

### 成績評価

期末試験60%、授業への参加態度40%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(作品を十分に理解できている)  
A 総合点が80点以上の者(作品を概ね理解できている)  
B 総合点が60点以上の者(作品をある程度理解できている)  
C 総合点が50点以上の者(作品の理解度が半分程度である)  
D 総合点が49点以下の者(作品を理解できていない部分が多い)

科目名 演劇英語①②

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 James Sutherland

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to theatre making used in contemporary Europe and increase our knowledge English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

### 授業の概要

Students work in groups and creatively explore a variety of storytelling and narrative theatre techniques. Their challenge will be to collectively think of ways to apply all these to their final performance. Students are asked to apply all the skills they have learned to make a most original and compelling story presentation possible. Students build up confidence performing in English and learn about different ways to approach character. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games and exercises to tackling larger topics, themes and improvisations. The emphasis is always towards devising - stimulating the reflex to create, compose and devise.

①Commedia and the Street: Story Telling:  
Students stand in a circle and have to tell a quick story while keeping everyone engaged. Here the students learn the art of stillness and audience awareness.

②Stage Combat and Text:  
Students learn to tell a story only using their bodies only involving the use of mime, posture & gesture to play all roles including the Narrator.

③Figuration:  
Students work in groups to create all props and scenery and verbally narrate the story as it unfolds. Themes are based around epic film themes like Star Wars, Superman, etc

④Elemental:  
Students learn the 4 basic elements of Fire, Water, Air, Earth and create epic stories like the Big Bang using their bodies and voice only.

⑤Text Theatre:  
Students are asked to read either modern or traditional monologue to tell a story. This can be done solo.

### 授業の到達目標

1. Learning theatre vocabulary and improving communication in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity and understanding dialogue written in English.

3. Learning more about history and context of actor training in Europe in English and improve pronunciation and fluency in speaking in English.

### 授業計画

1. Games. Intro to course exercises. Commedia and the Street: Story Telling: Figuration:
2. Games. Commedia and the Street: Story Telling: Figuration:
3. Games. Commedia and the Street: Story Telling: Figuration:
4. Games. Figuration/ Final Rehearsal
5. Games. Figuration/ Presentation Stage Combat and Text/ Actor and Text 1
6. Games. Stage Combat and Text:/ Actor and Text 2
7. Games. Stage Combat and Text:/ Actor and Text 3
8. Games. Stage Combat and Text:/ Actor and Text 4
9. Games. Stage Combat and Text:/ Actor and Text 5
10. Games. Stage Combat and Text: Presentation Elemental:/ Actor and Text 6
11. Games. Elemental:/ Actor and Text 7
12. Games. Elemental/ Actor and Text 8
13. Games. Elemental Rehearsals
14. Games. Elemental Rehearsals
15. Final Performances/ Evaluate course games Conclusion/feedback  
MONOLOGUE DUE TODAY

### 授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually

### 教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

### 成績評価

- ① Commedia and the Street: Story Telling and Participation: 15%
  - ② Stage Combat and Text: 25%
  - ③ Figuration: 15%
  - ④ Elemental: 20%
  - ⑤ Text Theatre: 25%
- S +90 A+80 B+60 C+50 D below 49

科目名 ドイツ語 I

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし

### 授業の概要

このコースは、ドイツ語の基礎や知識のない学生を対象にドイツ語圏の人々と基礎的な日常会話ができるようになり、ドイツ文化や習慣、地域の見解を深めてもらうことを目標としている。授業で使用するテキストは、卒業・修了時(2年間)には、ドイツ語の公式テスト(Zertifikat Deutsch)を受ける能力を修得することができるものを使用する。また、授業では、テキストだけではなく、他のアイテムを使用し、受け身の授業ではなく、学生に自主的に参加して話をするスタイルで進め、学んだことを実用的に使えるよう、授業を進めていく。

### 授業の到達目標

- ・ドイツ語の文法の基本を学び理解することが出来る。
- ・基本的なドイツ語のボキャブラリーを構築することが出来る。
- ・発音を修得することが出来る。
- ・異文化に触れ日本との違いを感じることが出来る。

### 授業計画

1. あいさつ、自己紹介(アルファベット)
2. カウンティング(1~100まで)
3. Weekdays、Months(月)、day(日)
4. 動詞の現在人称変化
5. 定冠詞と名詞の格変化
6. 不定冠詞と名詞の格変化
7. 名詞と形容詞の使い方(一格)
8. 名詞(男性名詞、女性名詞、中性名詞) ex. 食べ物、飲み物
9. 4格

10. 名詞と形容詞の使い方(4格)
11. ein / kein (1格)
12. einen / keinen (4格)
13. 時計
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社

### 成績評価

- 受講態度65%と筆記試験35%にて総合的に評価する。
- S 筆記試験の結果が100~90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%~80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%~60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%~50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。



科目名 ドイツ語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

ボキャブラリーが少なく、基本的な文法の習得でも充分にさまざまなことを表現し伝えることが出来ることを理解し、能動的にドイツ語を学んでいてもらいたい。授業では「ドイツ語Ⅰ」で使用したテキストを使用し、更にボキャブラリーや文法の幅を広げていく。

### 授業の到達目標

- ・ドイツ語の文法の基本を学び理解することが出来る。
- ・基本的なドイツ語のボキャブラリーを構築することが出来る。
- ・発音を修得することが出来る。
- ・基本的なコミュニケーションスキルとリスニングスキルを修得出来る。
- ・授業を通し、ドイツの文化の魅力を学び広い学識を身につけることが出来る。

### 授業計画

1. 復習
2. 単語(洋服)
3. 色
4. 2～3のプラクティス(4格の使い方)
5. ロールプレイ
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス

8. コミュニケーションプラクティス
9. ロールプレイ
10. 3格と結びつく前置詞
11. 単語(3格の使い方)
12. 3格のプラクティス
13. 3格と4格
14. 復習
15. テスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻文児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社

### 成績評価

受講態度65%と筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

コース修了時にはドイツ語ボキャブラリーと文法の知識の幅を広げ、ドイツ語を自信を持って話せることを目標としている。授業では、発音や読解力の訓練をロールプレイ形式で進め、またテキストやCDを使用しながらリスニングトレーニングを行っている。その他ピクチャーワークシートなども使用していく。

### 授業の到達目標

- ・一年目で身につけた基礎から、さらに流暢な発音が出来る。
- ・小文章を作成することが出来る。
- ・リスニング能力やコミュニケーションの能力を向上させることが出来る。
- ・文法だけでなくとまらずドイツの音楽の理解を深めることが出来る。

### 授業計画

1. 復習
2. 3格、4格(だれに/何を～)
3. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用①前半
4. どこで(3格)どこへ(4格)地図を使用②後半
5. 主文と副文(何故～warum/～なので weil)
6. ロールプレイ(内容5回目のレッスン)
7. 接続詞と副文(～にもかかわらず obwohl/～なので weil)
8. 接続詞と副文(～するとき wenn)
9. esの使い方
10. dassの使い方

11. ロールプレイ
12. コミュニケーションプラクティス
13. 従属の接続詞と副文
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻文児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社(1年目と同じ)

### 成績評価

受講態度65%と筆記試験35%にて総合的に評価する。

- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 ドイツ語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Daniel Gross

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

前期同様のスタイルで進めて行く。またこれらの身に付けた能力をベースにドイツ語の文化やドイツ社会の習慣等を学生と共に話し合い、ディスカッションしながら授業を進め更に実用的なドイツ語に近づけて行く。この授業を通してドイツ語に関心を深め、その後一過性で終るのではなく、ドイツ語を身近な物としてとらえ、学び続けて行って欲しい。

### 授業の到達目標

- ・基本的な日常会話ができる。
- ・自信を持って自己表現をし、実用的に使うことができる。
- ・ドイツの文化・習慣を理解し、広い視野を身につけることができる。

### 授業計画

1. 復習
2. 話法の助動詞①前半
3. 話法の助動詞②後半
4. 分離助詞
5. zu不定詞
6. 現在完了形
7. 現在完了形のプラクティス
8. 再帰代名詞と再帰動詞
9. 楽器、音楽関係

10. 比較級、最上級
11. 関係文の作り方
12. 過去形①前半
13. 過去形②後半
14. 復習
15. ファイナルテスト、まとめ

### 授業時間外の学習

授業冒頭で前授業の復習を兼ねたロールプレイや質疑応答を行うので、前授業内容をしっかりと理解し授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

小野寿美子、中川明博、西巻丈児 著「クロイツング・ネオ」朝日出版社(1年目と同じ)

### 成績評価

- 受講態度65%と筆記試験35%にて総合的に評価する。
- S 筆記試験の結果が100～90%の者で授業中に非常に活発で、積極性があり授業参加にたいへん熱心な者。
- A 授業中に非常に活発であり、強い熱意が見られ、授業内容を十分理解している。  
筆記試験の結果が89%～80%の者。
- B 授業中に活発であり、授業内容をほぼ理解している。  
筆記試験の結果が79%～60%の者。
- C 授業中、積極的に参加しているが、授業内容をある程度理解している。  
筆記試験の結果が59%～50%の者。
- D 授業に参加せず、筆記試験の結果が49%以下の者。

科目名 イタリア語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音楽専修は必修。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 導入、イタリア語へのアプローチ
2. イタリア語の発音、挨拶や簡単な自己紹介、数え方
3. 性と数、定冠詞等を中心としたイタリア語の特徴
4. 指示代名詞、形容詞の性と数の一致
5. 動詞essereを用いた文章の構造
6. 疑問詞che及びchiを用いた疑問文の作り方、その答え方
7. c'èとci sonoを用いた文章
8. 主語人称代名詞と動詞essereの直説法現在の活用
9. 動詞avereの活用変化とその使い方
10. avere、essereを用いた文章

11. 定冠詞と不定冠詞、前置詞等を中心とした文章の構造
12. 規則動詞の現在形とその使い方①
13. 規則動詞の現在形とその使い方②
14. 規則動詞を使った文章、疑問文&答えを中心に
15. まとめ

### 授業時間外の学習

予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅱ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

声楽専修は必修。「イタリア語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 時間、曜日の表現
2. 動詞andareとvenire
3. 動詞andareとvenireの前置詞の使い方
4. 助動詞dovereを使った文章
5. 助動詞potereを使った文章
6. 助動詞volereを使った文章
7. その他の不規則動詞
8. 動詞piacereの使い方

9. 所有形容詞
10. 現在形のまとめ①
11. 現在形のまとめ②
12. 近過去の仕組み①
13. 近過去の仕組み②
14. 近過去を使った文章の作り方
15. 1年間の総復習

### 授業時間外の学習

予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅲ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 導入、既習事項の確認
2. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習①
3. 現在形を用いての基本的な作文&会話練習②
4. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習①
5. 近過去形を用いての基本的な作文&会話練習②
6. 再帰動詞の用法(現在形)
7. 再帰動詞の相互的用法(現在形)
8. 再帰動詞(近過去形)
9. avereを用いた文章

10. essereを用いた文章
11. 直接目的語代名詞の使い方
12. 近過去の文章における直接目的語代名詞の使い方
13. 半過去形の用法①
14. 半過去形の用法②
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 イタリア語Ⅳ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 Sbaragli Marco

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「イタリア語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

- ・文法：できるだけダイレクトメソッドを用いて授業を進めながら、簡単なメッセージや依頼等の文章を作ったり、それに相当するレベルの会話が聞き取れるようにする。
- ・コミュニケーション内容：簡単な自己紹介・短い会話・身の回りの物の描写等。

### 授業の到達目標

イタリア語の構成・文法・発音と書き方に触れ、イタリア語を話したり理解したりするための基礎を身に付ける。

### 授業計画

1. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習①
2. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習②
3. 近過去形と半過去形を用いた基本的な作文&会話練習③
4. 現在→近過去→半過去 総復習
5. 未来形の用法①
6. 未来形の用法②
7. 未来形と現在形を用いた基本的な作文&会話練習
8. 動詞piacere 他
9. 直接目的語代名詞

10. 間接目的語代名詞
11. 間接目的語代名詞の用法①
12. 間接目的語代名詞の用法②
13. 間接目的語代名詞と直接目的語代名詞の複合形
14. 総まとめ①
15. 総まとめ②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。予習・復習をしっかりと行うこと。

### 教科書・参考書等

「デイリー日伊英・伊日英辞典」三省堂  
遠藤礼子著「イタリア語のひとさら」(un piatto d'italiano) 白水社

### 成績評価

- ①授業態度30%②授業への取組み30%③イタリア語の理解度(試験の成績や、授業中の受け答えなどで総合的に判断)40%で100点換算
- S 総合点90点以上(他の学生に抜きん出てイタリア語の習得度が高く、積極的に授業に参加した者)
- A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 フランス語Ⅰ

授業形態 演習(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。全専攻学生が履修可。

### 授業の概要

ゼロから、ゆっくりと楽しみながらフランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

### 授業の到達目標

「聞けて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。  
様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

### 授業計画

1. Leçon 1a - 挨拶をする。自己紹介をする。名前を聞く。
2. Leçon 1b - 名前、職業、国籍を言う。数字(1~10)
3. Leçon 2a - 人について描写する。住んでいる所を詳しく言う。
4. Leçon 2b - 年齢を言う。数字(11~20)
5. Leçon 3a - 自分のことを話す。他の人について話す。職業を聞く。
6. Leçon 3b - 否定する。質問する。数字(20~30)
7. Leçon 4a - 自分の好みについて話す。他の人の好みについて聞く。

8. Leçon 4b - 意見を言う。数字(30~69)
9. Leçon 5a - 家族について話す。理由を言う、尋ねる。
10. Leçon 5b - 何かについて肯定的、否定的に話す。
11. Leçon 5c - 数字(69~99)
12. Leçon 6a - 物の位置を言う。(dans/ sur)
13. Leçon 6b - 物の位置を聞く。
14. Leçon 6c - 質問に答える(単数形)
15. Évaluation - 試験

### 授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は授業前にその準備を必ずすること。

### 教科書・参考書等

Vincent Durrenberger『フランス語の方法 - コミュニケーションと文法の基礎 - (改訂版)』(駿河台出版社)

### 成績評価

- 出席、授業への取り組みと受講態度50%、実技試験50% 100点換算
- S: 総合点が90点以上の者  
A: 総合点が80点以上の者  
B: 総合点が60点以上の者  
C: 総合点が50点以上の者  
D: 総合点が49点以下の者

科目名 フランス語Ⅱ

授業形態 演習  
(理論)

対象 全専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 ローラ

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「フランス語Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

楽しみながらフランス語の基本会話と日常会話での便利な表現を覚えていく。正しい発音の勉強もする。

### 授業の到達目標

「聞けて、読めて、書いて、話せて」の能力を身につけることを目的とする。各レッスンでは、発音の練習、聞き取り書き取りの練習、自己表現の練習も行う。

様々なテーマを通じて、前に勉強したことを復習しながらもっと深く勉強することで、楽に知識を身につけることができる。

### 授業計画

1. Leçon 7a - 物を描写する。物の位置聞く、質問に答える(複数形)
2. Leçon 7b - 物の色を聞く。
3. Leçon 8a - 物の位置関係を言う。①
4. Leçon 8b - 物の位置関係を言う。②
5. Leçon 9a - カフェで注文する。
6. Leçon 9b - 市場、パン屋などで買い物をする。数字(100～1000)
7. Leçon 10a - 食生活について話す。

8. Leçon 10b - 統計について話す。

9. Leçon 11a - 国について話す。

10. Leçon 11b - 天気を言う。

11. Leçon 12a - 誰が、どこへ、いつ、何故、どうやって行くか言う。

12. Leçon 12b - 数字(10万まで)。道を尋ねる。

13. Leçon 13 - 時刻を言う。電車の切符を買う。

14. Leçon 14 - 一日にしたことを話す。(過去形)

15. Évaluation - 試験

### 授業時間外の学習

宿題・課題がある場合は授業前にその準備を必ずすること。

### 教科書・参考書等

Vincent Durrenberger『フランス語の方法 - コミュニケーションと文法の基礎 - (改訂版)』(駿河台出版社)

### 成績評価

出席、授業への取り組みと受講態度50%、実技試験50% 100点換算

S: 総合点が90点以上の者

A: 総合点が80点以上の者

B: 総合点が60点以上の者

C: 総合点が50点以上の者

D: 総合点が49点以下の者



*Toho Gakuen College of Drama and Music*

芸術科音楽専攻



科目名 音楽基礎演習—バロック・ダンス

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 浜中 康子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

音1必修。

### 授業の概要

17世紀初めの頃から18世紀半ばにかけてフランス宮廷を中心に栄え、ヨーロッパ中に広まっていったダンスをバロック・ダンスと称する。メヌエットやガヴオット等がその代表的なものであり、日頃演奏や鑑賞を通して関わっているこれらのバロック舞曲を、実際のダンス・ステップを通して体験する。バロック・ダンスのステップや踊り方は、現存する舞踏譜やダンス教本によって300年以上経たず、再現することができる。これらの読み方についても触れ、音楽とダンスの歴史的及び運動的関連性を明らかにする。

ダンスの実習と共に、器楽で舞曲を演奏し、実際にダンスの伴奏を試みたい。

### 授業の到達目標

様々な舞曲の中でブレ、メヌエット、カヴオットを発表できるように仕上げる事ができる。

### 授業計画

1. バロックダンスについての概説/テクニックの基礎(ポジション他)
2. 歴史的背景/テクニックの基礎
3. プレの基本的ステップ(音楽と動きのアクセントの関係)
4. プレとメヌエットの基本ステップ①舞踏譜の読み方
5. プレとメヌエットの基本ステップ②舞踏譜の読み方
6. プレ①舞踏譜に記述された振付を踊る
7. プレ②舞踏譜に記述された振付を踊る
8. 発表/ブレのダンスとともに舞踏上の音楽を演奏する
9. メヌエット①基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
10. メヌエット②基本ステップの練習～舞踏の振付を踊る
11. メヌエット③宮廷舞踏のマナーを踏まえて踊る(お辞儀/エスコートの方法)
12. メヌエットのまとめ①ガヴオットのステップと練習
13. メヌエットのまとめ②ガヴオットのステップを舞踏譜の振付で踊る

14. メヌエット、ガヴオットの仕上げ/サラバンドやジグについて
15. メヌエット、ガヴオットの発表/サラバンドやジグについて  
順序や内容は、履修者の能力や進度に合わせて変更する可能性があります。

### 授業時間外の学習

- ・授業中は知的な理解に留まることも身体表現としてスムーズに行えるようにステップ名と動きを結びつけながらリピード練習すること。
- ・様々な作曲家・時代の舞曲を数多く演奏・鑑賞すること。

### 教科書・参考書等

- 書籍：浜中康子著「舞曲は踊る—バッハを弾くためのバロック・ダンス入門」音楽之友社  
DVD：浜中康子監修「フランス宮廷の華『バロック・ダンスへの招待』I・II」音楽之友社  
服装：膝の曲げ伸ばしが行いやすいパンツまたはスカート(タイトスカート不可)、ダンスシューズ使用

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み(50%)、実技発表(30%)、レポート(20%)を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未提出者、授業への取り組み・受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論基礎 a・b

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 塩崎 美幸・長谷川 郁子

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

出された宿題、テスト準備を真面目に行うこと。

### 授業の概要

音楽を学ぶにあたって必ず理解しておくべき「楽典」を初歩から講義する。専門実技はもちろん、「和声」「楽式」「対位法」「SHM」他、音楽理論に関する科目の習得に必要な不可欠な基礎となる科目である。

### 授業の到達目標

・楽典の真の習得により、音程、音階、和音、調等が有機的に関連づけて理解できるようになること。

### 授業計画

1. 本講座の概要説明及び習得度確認テスト
2. 音の不思議、楽譜の常識
3. 音程の説明
4. 音程の聴き分け、名曲における効果的音程の使いかた
5. 小テスト、音階の説明
6. 音階の続き、調号
7. 調号の確認
8. 小テスト、和音の種類、和音の位置
9. 調における和音の役割
10. Dominantの和音①属七の和音について
11. Dominantの和音②減七の和音について
12. 終止形、借用和音について
13. 調の判定
14. 和声外音とは
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

与えられた宿題の実践。

### 教科書・参考書等

参考書：「楽典 理論と実習」(音楽之友社)  
その他、適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

- 小テスト成績20%、期末試験成績70%、授業態度10%の配分で、総合100点満点に換算する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽理論[和声] I・II a

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1(日本音楽専修以外)必修

### 授業の概要

本科の2年間に、ロマン派までの西洋音楽における和声学の基礎理論を理解し、課題の実習を通して、和声機能の本質を把握し得る能力を育成する。

1年次には、三和音の基本形および転回形とドミナント諸和音(属七・属九の和音)の配置、連結に関する原則を中心に、終止形の形成、様々な終止(全終止、半終止、偽終止、変終止)に対する考察、基本的な声部進行法について学習する。

### 授業の到達目標

- ・三和音(各種転回形を含む)による和声体を扱うための基礎力を確実に習得することができる。
- ・属七の和音、属九の和音を扱うことを通じ、より厳密な声部進行の書法を身に付けることができる。

### 授業計画

(前期)

1. 和声学概論：初歩の音響学に対する知識
2. 四声体作成における楽典知識の確認 配置の規則 良好な音響状態についての考察
3. 基本形三和音の配置と連結①和声法の原則と終止形
4. 基本形三和音の配置と連結②声部進行法に関する禁則 例題の実施と確認
5. 基本形三和音の配置と連結③旋律的配慮 配置転換の可能性 例題の実施と確認
6. 基本形三和音の配置と連結④フレーズ構成と終止について 本課題の出題
7. 基本形三和音の配置と連結⑤実施課題確認
8. 三和音の第1転回形①配置法 声部進行法 例題の実施と確認
9. 三和音の第1転回形②例題の実施と確認 本課題出題
10. 三和音の第1転回形③実施課題確認
11. 三和音の第2転回形①概論 配置法 例題の実施と確認
12. 三和音の第2転回形②声部進行法 出題第1回
13. 三和音の第2転回形③実施課題確認第1回と出題第2回
14. 三和音の第2転回形④実施課題確認第2回
15. 前期課程内容の理解度確認

(後期)

1. 属七の和音①限定進行、基本形の2種類の配置
2. 属七の和音②声部進行の留意点 出題第1回

3. 属七の和音③実施課題の確認第1回 出題第2回
4. 属七の和音④実施課題確認第2回
5. 属七の和音の根音省略形①第7音の例外進行 2種類の配置
6. 属七の和音の根音省略形②声部進行法 出題第1回
7. 属七の和音の根音省略形③実施課題確認第1回 出題第2回
8. 属七の和音の根音省略形④実施課題確認第2回
9. 属九の和音①基本形 転回形の配置法 配置制限 和音形態概論
10. 属九の和音②声部進行法 出題第1回
11. 属九の和音③実施課題確認第1回 出題第2回
12. 属九の和音④実施課題確認第2回 出題第3回
13. 属九の和音⑤実施課題確認第3回
14. 後期内容の総括
15. 全教程内容の理解度確認

### 授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。  
やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容と課題を他の受講者から入手するなどして自習しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書：資料と課題を配布  
参考書：執筆責任者 島岡 譲 『和声[理論と実習]第一巻』音楽之友社

### 成績評価

前・後期末に筆記試験を行う。筆記試験の成績を元に下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実施実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

- 成績の評価基準は筆記試験答案の内容：40%、課題の実施状況：40%、授業への取り組み姿勢：20%とする。
- S 90点～100点：重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる。
- A 80点～89点：重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い。
- B 60点～79点：概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足。
- C 50点～59点：重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない。
- D 50点未満：重要な公理が理解出来ておらず、和声法を修めたと認めがたい。

科目名 音楽理論[和声] I・II b

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1(日本音楽専修以外)必修。

和声法は、継続した学習の積み上げが大切とされるので、欠席・遅刻は厳禁とする。

### 授業の概要

音楽作品を理解する上で和声の知識は必須である。論理的に楽曲を把握することは、演奏表現をする際に、より鮮明なイメージを作る手助けともなりえる。その論理的理解に必要な基礎知識の一つとして、和声法の学習があげられる。和声課題の実施とともに、具体的な作品の分析を行い、音楽における和声構造の仕組みを捉え、音楽のより深い理解を目指す。一年目は、和声法の学習に必要な予備知識の確認を導入とし、基本形・転回形・属七の和音のそれぞれの進行を理解する。

### 授業の到達目標

具体的な楽曲の音楽のより深い理解・把握と、課題実施による、基礎的な和声進行の定型の学習とその応用ができる。

### 授業計画

1. 和声学習に必要な予備知識の確認と、三和音の組み立て(密集と開離)。
2. 音域と配置
3. 調性
4. 基本形の実習①
5. 基本形の実習②
6. 基本形の実習③
7. 基本形の実習④他の調での実習①
8. 基本形の実習⑤他の調での実習②
9. 第一転回形—音域と配置①
10. 第一転回形—音域と配置②
11. 前期のまとめと確認
12. 第二転回形—音域と配置
13. 第二転回形—実習①
14. 第二転回形—実習②
15. 第二転回形—実習③

16. 第二転回形—他の調での実習①
17. 第二転回形—他の調での実習②
18. 属七の和音—機能①
19. 属七の和音—機能②
20. 属七の和音—機能③
21. 属七の和音—機能④
22. 属七の和音—音域と配置①
23. 属七の和音—音域と配置②
24. 属七の和音—実習①
25. 属七の和音—実習②
26. 楽曲の和声分析と実施①
27. 楽曲の和声分析と実施②
28. 楽曲の和声分析と実施③
29. 楽曲の和声分析と実施④
30. 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

授業で学習したこと、確認と課題の宿題。

### 教科書・参考書等

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 I』音楽之友社

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み(40%)、学期末課題(60%)の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽史概説Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

この授業では、西洋音楽の歴史を概観する。時代様式、文化制度の変遷とともに、古代から現代までクロノロジカルに音楽史を追う。単なる作曲家列伝ではなく、時代精神や美学を理解しながら、音とともに、立体的な音楽史を描く。

なお、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義（その場合には、双方向型を予定）となる場合がある。また、内容に多少の変更が生じる可能性もある。

### 授業の到達目標

- 西洋音楽の歴史において重要な事柄について、自身の言葉で説明できる。
- 西洋音楽の歴史を、机上のものとしてではなく、音と関連させて理解することができる。

### 授業計画

#### 【音楽史概説Ⅰ】

- 音楽史を学ぶ意義、古代の音楽
- グレゴリオ聖歌
- ポリフォニー音楽の発展プロセス
- アルス・ノヴァからルネサンスへ
- 盛期ルネサンスから後期ルネサンスへ
- オペラの誕生
- 調性機能の確立
- 合奏協奏曲と独奏協奏曲
- バロック期の鍵盤音楽
- バッハの芸術～バッハ像形成歴史
- 前古典派から古典派へ
- ハイドンの芸術～弦楽四重奏曲とオラトリオ
- モーツァルトの芸術～オペラとクラヴィア協奏曲
- ベートーヴェンの時代～「芸術家」の誕生
- 学習到達度の確認（テスト）

#### 【音楽史概説Ⅱ】

- ベートーヴェンの交響曲
- リート

- ロマン主義思想
- サロン文化とヴィルトゥオーゾの出現
- 標題音楽
- メンデルスゾーンとその周辺
- 絶対音楽
- ナショナリズムの台頭
- ワーグナーの楽劇
- 世紀末芸術
- 調性機能のゆらぎ
- リズムの革新
- 12音技法からトータル・セリエリズムへ
- 作品概念の変容
- 学習到達度の確認（テスト）

※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- 毎回授業後にClassroomを使用した「講義後課題」を課す。提出は1回限り、期限は1週間である。
- 授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- 世界史や西洋美術史など、音楽史以外の関連文献を積極的に読むことを推奨する。
- テストに備えて、常に授業内容を復習しておくことを推奨する。

### 教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。

### 成績評価

テストで100%評価する。ただし、出席率が2/3に満たない者はテストの受講資格を失う。

- S 総合点90点以上の者  
A 総合点80点以上の者  
B 総合点60点以上の者  
C 総合点50点以上の者  
D 総合点49点以下の者

科目名 日本音楽理論AⅠ・Ⅱ／BⅠ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 森重 行敏

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 〇/〇

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。他専攻の学生も歓迎する。ただし日本音楽について関心を持つ者とする。授業への取り組みを重視する。

### 授業の概要

日本音楽では伝統的に、理論より実践が重視されてきたため、理論的用語や概念が統一されておらず、流派や研究者においてもまちまちであることが多い。

この授業は音楽にとって理論とは何かと言う根本的な観点に立ち返って、日本音楽のさまざまな側面を観察するとともに、洋楽やアジア諸民族の音楽とも比較しながら、その理論的基礎を見つけ出して行くこととしたい。

### 授業の到達目標

- 日本の楽器や音楽についての基礎知識を身につけるとともに、その音楽的特性、理論的構造などを指摘できる。

### 授業計画

#### 【前期】

- オリエンテーション
- 日本音楽の概観
- 日本の楽器と楽譜①音高譜と奏法譜
- 日本の楽器と楽譜②箏の縦書き譜
- 日本の楽器と楽譜③箏の横書き譜
- 日本の楽器と楽譜④三味線の数字譜
- 日本の楽器と楽譜⑤三味線の奏法譜
- 日本の楽器と楽譜⑥尺八
- 日本の楽器と楽譜⑦笛
- 日本の楽器と楽譜⑧篳篥
- 日本の楽器と楽譜⑨笙
- 日本の楽器と楽譜⑩琵琶
- 日本の楽器と楽譜⑪打楽器
- 日本の楽器と楽譜⑫その他
- 前期まとめ

#### 【後期】

- 日本の音律①三分損益
- 日本の音律②自然倍音と純正律
- 日本の音律③平均律とは何か
- 移動ドと固定ド①洋楽の場合
- 移動ドと固定ド②邦楽の場合
- 日本のリズム①拍と拍子
- 日本のリズム②間とずれ
- 日本のリズム③自由リズム
- 日本音楽の構造①序破急
- 日本音楽の構造②雅楽の構造
- 日本音楽の構造③語り物音楽の構造
- 日本音楽の構造④箏曲段物の構造
- 世界の中の日本音楽①東アジアとの関連
- 世界の中の日本音楽②東南アジアとの関連
- 後期まとめ

### 授業時間外の学習

積極的に伝統芸能の鑑賞をすることを奨める。詳細については随時紹介する。

### 教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。

参考書としては月溪恒子著「日本音楽との出会い」（東京堂出版）など。

### 成績評価

授業への取り組み・態度50%、課題50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者



科目名 日本音楽史概説Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 野川 美穂子

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

縄文・弥生時代から現在に至るまで、日本人は様々な音楽に親しんできた。しかし、現在の生活では、日本の伝統的な音楽を聴く機会が少なくなっている。この授業では、日本音楽の変遷をたどりながら、楽器や音楽様式の特徴、文学・演劇・舞踊との関連などについて概説する。知識としてではなく音としての理解を深めるために、毎回、視聴覚教材を活用する。

### 授業の到達目標

時代や種目による違いをたどりながら、日本音楽の魅力を知ることができる。

### 授業計画

[前期]

1. 日本音楽の枠組みと特徴
2. 日本古来の音楽①縄文時代の出土楽器
3. 日本古来の音楽②弥生・古墳時代の出土楽器
4. 雅楽の歴史と音楽①雅楽の種類の種類、舞楽
5. 雅楽の歴史と音楽②管弦(越天楽)とその影響
6. 雅楽の歴史と音楽③国風歌舞と平安時代の歌曲
7. 声明の歴史と音楽①声の技法、鳴物
8. 声明の歴史と音楽②法要のさまざま
9. 琵琶楽の歴史と音楽①琵琶の種類、平家
10. 琵琶楽の歴史と音楽②盲僧琵琶、近代琵琶
11. 能楽の歴史と音楽①能舞台と音楽
12. 能楽の歴史と音楽②能の作品の種類
13. 能楽の歴史と音楽③能の名作
14. 能楽の歴史と音楽④式三番、狂言

15. 古代、中世の日本音楽のまとめ  
〔後期〕

1. 三味線の伝来、三曲の楽器
2. 地歌の歴史と音楽
3. 箏曲の歴史と音楽
4. 尺八楽、胡弓楽の歴史と音楽
5. 文楽と歌舞伎に使われる楽器
6. 文楽の歴史と音楽①三業一体について
7. 文楽の歴史と音楽②文楽の名作
8. 歌舞伎の歴史と音楽①歌舞伎の歴史と特徴
9. 歌舞伎の歴史と音楽②歌舞伎の名作
10. 豊後系浄瑠璃の歴史と音楽
11. 長唄の歴史と音楽①長唄の特徴
12. 長唄の歴史と音楽②長唄の多様化
13. 近代の日本音楽
14. 現代の日本音楽
15. 近世、近代、現代の日本音楽のまとめ

### 授業時間外の学習

授業でとりあげた種目や作品の特徴を整理し、より深く調べること。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、前期末・後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。S (90～100)、A (80～89)、B (60～79)、C (50～59)、D (50未満)。

科目名 日本音楽特講

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 杵屋 巳織

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 △

ー

### 履修条件

基本的には教職受講者対象。次に音楽専攻対象。専攻科演劇専攻の履修も認める。

### 授業の概要

日本音楽が学校教育に取り入れられるようになり、学校教育の現場に立つ教員にとっても、日本音楽に対する知識や経験が必要となってきた。

具体的に教育者としての立場になった時に使える知識と三味線を弾く技術とを学び、三味線を弾く事により日本音楽の音としての個性を知り、日本人として音の美しさも感じていく。日本音楽の年月を重ねた深さについても考えていく。

### 授業の到達目標

- ・カリキュラムマップに対応し音楽的教養を広げる。
- ・三味線を中心に日本の楽器についての正しい知識を持つことができる。
- ・西洋音楽とは違った音階を用いている日本の音を知ることができる。
- ・三味線について正しい扱い方・正しい姿勢を習得することができる。

### 授業計画

1. 日本音楽の簡単な説明と話。三味線の部位の名称を学ぶ。楽器にさわる。
2. 三味線の扱い方。構え方。音の出し方。
3. 長唄の説明。譜面の説明。
4. 譜面を読みつつ三味線を弾く。
5. 楽器の特性を理解しつつ弾く。その折に合わせた日本音楽の説明。
6. 長唄①松の緑の前弾を弾いてみる。

7. 長唄②松の緑の前弾を指の使い方を考えながら弾いてみる。
8. 舞台における演奏の説明、楽器の演奏。
9. 唄の簡単な説明と発声。楽器の演奏。
10. 長唄を唄ってみる。
11. 合奏の準備。
12. 合奏のコツと実践。
13. 合奏の試演。
14. 合奏。
15. 課題発表。

### 授業時間外の学習

歌舞伎の鑑賞。邦楽器を使用した演奏会の鑑賞。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず授業時にプリント配布。

### 成績評価

成績評価については、授業態度50%、レポート20%、試験30%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 演奏会制作法

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 伊藤 直樹

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

演奏会等の企画・制作に興味があり、自らの音楽活動に役立たい者。

### 授業の概要

文化ホールなどで行う演奏会は、企画から実施まで細かな行程のもとに実施されている。本授業では、演奏会実施の目的や意図を明確にしたうえで、企画から予算作成、公演実施に至るまでの基礎知識を学び、各々が企画書を作成し、発表・考察を行う。

### 授業の到達目標

演奏会を企画・実施するまでの内容や行程を理解し、演奏会の企画制作ができる。

### 授業計画

1. ガイダンス (授業内容と目的、基礎アンケート)
2. 文化ホールの役割・アウトリーチについて (事例紹介)
3. 演奏会の必要性について考察  
企画演習 企画書 (1) の作成
4. 企画演習 企画書 (1) の作成・発表・考察①
5. 企画演習 企画書 (1) の発表・考察②
6. 演奏会実施までのスケジュールと内容について
7. 演奏会実施に係る予算と内容について
8. 著作権法、楽曲使用料等について
9. 企画演習 企画書 (2) の作成
10. 企画演習 企画書 (2) の作成・発表・考察①
11. 企画演習 企画書 (2) の発表・考察②

12. 劇場の仕組み、劇場用語等について

13. 企画演習 企画書 (3) の作成

14. 企画演習 企画書 (3) の作成・発表・考察

15. 授業総括

### 授業時間外の学習

劇場公演の鑑賞、近隣文化ホールの見学。

### 教科書・参考書等

資料プリントを配布。

### 成績評価

授業の取り組み姿勢30%、企画書等の提出物70%で総合的に評価する。

- S 基本的な内容を十分把握できて、授業への取り組みが積極的である。
- A 基本的な内容を十分理解できて、授業への取り組みが積極的である。
- B 基本的な内容をほぼ理解できて、授業への取り組みが積極的である。
- C 基本的な内容をある程度理解できているが、授業への取り組みが積極的でない。
- D 基本的な内容を理解できておらず、授業への取り組みが積極的でない。

科目名 アウトリーチ概説

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で多用される。音楽でのアウトリーチというものは、演奏家が学校や施設などに出向いて、普段の生活空間(教室や音楽室)で演奏会やワークショップを行うことである。ここでは、その音楽におけるアウトリーチ活動について、音楽というソフトをどう社会に還元していくか、また、聴衆と演奏を通して感動を共有できる舞台(プログラム)や手法を模索していく。

### 授業の到達目標

以下の2点をこの授業の到達目標とする

- ・学年や対象に適したプログラム作りができる。
- ・一時間のコンサートで何を伝えたいか、また何を伝えるべきかを考え、それを生かした企画を作ることができる。

### 授業計画

1. 導入 アウトリーチとは
2. 公共ホールや自治体によるアウトリーチの評価と課題
3. 施設や場所によつそれぞれのアウトリーチの手法
4. 楽器紹介について①それぞれの楽器の分類
5. 楽器紹介について②楽器の仕組み、歴史を知る
6. 楽器紹介 発表
7. 学校訪問アウトリーチについて①小学校

8. 学校訪問アウトリーチについて②特別支援学校

9. 学校訪問アウトリーチについて③学童

10. 養護施設におけるアウトリーチについて

11. 福祉施設におけるアウトリーチについて

12. アウトリーチの社会的要請、意義について

13. アウトリーチにおけるワークショップの手法①

14. アウトリーチにおけるワークショップの手法②

15. 振り返りと総括

### 授業時間外の学習

- ・プログラミングするにあたり色々曲を調べておくこと
- ・専修楽器について構造など勉強しておくこと

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート20%、課題発表30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 アウトリーチ演習

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

前期の「アウトリーチ概説」を履修していることが望ましい。

### 授業の概要

現在、自治体や各文化会館での自主事業に置いて、学校や施設に演奏家を派遣するアウトリーチ事業が盛んに行われている。普段の生活(勉強)の場で、少人数で行われるこのコンサートは演奏者と聴衆の垣根のないバリアフリーなコンサートとして大変喜ばれる。この講座では、前期に学んだアウトリーチの手法を生かして実際にプログラミングをし、演奏発表する。

### 授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする

- ・聴衆と感動が共有できるコンサート作りができる。
- ・一時間のコンサートで何を伝えたいか、また何を伝えるべきか考えることができる
- ・聴き手に伝わる演奏、表現技術の習得

### 授業計画

1. 導入
2. 企画作り①コンサート
3. 企画作り②ワークショップ
4. プログラム構成について
5. プログラム制作
6. 楽器演奏体験について
7. 楽器体験ワークショップ
8. 楽器体験ワークショップ(実践)
9. 演奏発表①

10. 演奏発表②
11. 演奏発表③
12. 演奏発表④
13. 演奏発表⑤
14. 演奏発表⑥
15. 総括 振り返り

### 授業時間外の学習

演奏発表に向けて個々、またはグループで練習をしっかりと試してくること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・演習発表50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、課題への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ディクシオン(イタリア語)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 井上 由紀

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

声楽専修は必修。

### 授業の概要

一言葉と音楽の密接な関係一歌を学ぶ者にとって、この研究は大変重要なことである。ただ、難しく考えるのはよそう。まずは、明るく美しいイタリア語に親しみ、詩を読み表現する。そして楽譜を眺めてみる。そうすると、色々なことが発見できる。その発見をもとに皆さんと歌唱表現がさらに豊かになることを願いつつ、イタリア歌曲を中心としたディクシオンの学習を行う。声楽専修の方々だけでなく、楽器や伴奏の勉強をしている方も一緒に学ばれることを期待する。

### 授業の到達目標

作品にふさわしいイタリア語の歌詞の朗読ができ、実際に音楽の中でそれを理解し表現できる。

### 授業計画

1. イタリア語の音に慣れ、親しむ
2. 正しく明確な発音をする
3. 単語の意味を考え表現する
4. 繰り返しの表現を学ぶ
5. 音節の数、押韻を考える
6. 強調すべき音節、単語を考え表現する
7. 表現の速さや間を考える
8. レチタティーヴォの学習①

9. レチタティーヴォの学習②
10. レチタティーヴォの発表
11. 歌詞と音のつながりを考える
12. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる①
13. 伴奏者とのコミュニケーションをはかる②
14. 鑑賞
15. まとめ

☆講義内容に関しては、受講生の理解度をみて、前後することがある。

☆取り上げる曲については、受講生の声種を考慮し、その都度選ぶ(イタリア古典歌曲が中心)。

### 授業時間外の学習

事前に配布される楽譜・詩によく目を通し、どのような内容の曲なのかを考えること。また授業で学習したことの復習に努めること。

### 教科書・参考書等

授業時にその都度指示、プリントを配布する。

### 成績評価

授業に取り組む姿勢(30%)、中間発表(20%)、学期末朗読試験(50%)にて総合的に評価する。

- S 基本的な諸事項を十分に把握し、優れた発表ができる
- A 基本的な諸事項を十分に把握し、発表ができる
- B 基本的な諸事項をほぼ把握し、発表ができる
- C 基本的な諸事項の理解に欠け、適切な表現ができない
- D 基本的な諸事項を理解せず、適切な表現ができない



科目名 S・H・M・I・II

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 塩崎・池田・加藤・三瀬

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

音1必修。  
各自、能力を向上させる努力を、常に実践すること。  
遅刻をせずに、きちんと出席すること。出欠は各クラス同一条件で厳しくとる。

### 授業の概要

SHMはSolfège、Harmony、Melodyの頭文字をとったもの。  
音楽に携わる者にとって重要な基礎力となる。学ぶ内容は多彩。

弛まぬ訓練を必要とするが、大切なのは遊びの要素も内包するので楽しんで練習すること。身につけたソルフェージュ力は必ずや音楽活動に大きく役立つこと必定。  
レベル別4クラスに分けて授業を行う。

### 授業の到達目標

音楽実践に必要な基礎的能力を高め、幅広く優れた音楽性を身につけることができる。

### 授業計画

入学後最初の授業日に、クラス分けテストを一齐に実施する。  
授業は、各クラスごとに、学生それぞれの能力・状況に対応した内容及び進度をとる。より適切なクラスへの移動が可能となるように、各学期の終わりに、再びクラス分けテストを実施する。  
通年の授業計画については、漠然とした内容を記すが、前述のとおり各クラスで異なる。  
・正しい楽譜の書きかた・リズム(音価)の正しい理解

- ・多様な拍子の理解
- ・正しい音程を身につける・初見視唱の練習
- ・音楽的なフレーズを身につける・長調と短調の理解
- ・メロディーの書き取り
- ・二声、三声等同時に鳴る音の認識
- ・和音の種類の見分け
- ・四声体の書き取り、その重唱
- ・多様な調への挑戦
- ・旋法や様々な音階による音楽にふれる
- ・移調奏

### 授業時間外の学習

各々苦手とする分野を積極的に自習する。

### 教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

### 成績評価

学期末に実施する一斉テストで単位評価する。S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 合唱I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 福永 一博

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

本授業は女子の必修科目である。音楽大学で、なぜ合唱が必修であるかを考え、熱意・意欲を持って受講すること。

### 授業の概要

この授業では、合唱の「基本」を学ぶ。  
合唱とは、声楽の技術に立脚した芸術であるので、楽器となる身体の使い方を知らなければ、呼吸、発声の基礎的な訓練を行う。  
また、合唱とはアンサンブルの芸術でもあるので、「声を磨く」とこと同じかそれ以上に「耳を育てる」ことが大切である。ハーモニーやアンサンブルを磨くための基礎的な訓練も行っていく。  
課題は簡易な曲からはじめ、アカベラの作品、ピアノ付きの作品、外国語の作品なども扱う。

### 授業の到達目標

- ・声楽の基礎(呼吸法・発声法)を身につけることができる。
- ・ハーモニーとアンサンブルの基本を身につけることができる。
- ・耳を開いて、心を開いて、良く聴きながら自発的に歌うことができる。

### 授業計画

1. ガイダンス、パート分け  
以下第2～30回はウォームアップエクササイズ・プレストレーニング・発声練習・ハーモニーとアンサンブルトレーニングなどを通じて合唱の基本を身に付けながら、簡易な作品を用いて演習を行う。
- 2.～5. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング①～④日本の童謡・唱歌・民謡素材の合唱曲を用いた演習

- 6.～15. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング①～⑩日本語の合唱曲(アカベラ)を用いた演習
- 16.～24. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング①～⑨日本語の合唱曲(ピアノ付き)を用いた演習
- 25.～30. 合唱の基本を身につけるための各種トレーニング①～⑥外国語の合唱曲を用いた演習

### 授業時間外の学習

授業で配られた曲を事前に譜読みしておくこと。

### 教科書・参考書等

その都度指示する。

### 成績評価

成績評価は、授業への取り組み(40%)、受講態度(30%)、発表(30%)を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組みに問題があった者)。

科目名 オーケストラ・スタディ A/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 野口 千代光

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

弦楽器専修者は必修である。

### 授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。

- ① オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、CD等なども聴き、作品を理解して臨む。
- ② 演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人づつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

### 授業の到達目標

オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

### 授業計画

曲目は4月に発表する。

11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。

毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績の評価については、曲の下調べ10%、受講態度50%、演奏成果40%の結果を総合的に評価する。

- S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかり把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者。
- A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者。
- B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期合奏においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者。
- C 後期合奏授業においてなんとかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者。
- D 後期合奏授業についていける能力が見込まれない者。
- 試験の結果により後期合奏授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導も行う、合奏授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏 A/B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 野口 千代光・永井 由比

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」で単位認定を受けた者。弦楽器専修者は必修である。弦楽器奏者以外についてはオーディション等で選出された者。

### 授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。

個々の力が合わさると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感してほしい。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

### 授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

### 授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備などについての確認)
2. 黒岩氏とのリハーサル①
3. 黒岩氏とのリハーサル②
4. 黒岩氏とのリハーサル③
5. 黒岩氏とのリハーサル④
6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ケネプロ 本番
8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証、反省を行い、

意見交換の場とする。

毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績評価については、受講態度60%、演奏成果40%の結果を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽器基礎(呼吸法)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三塚 至

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

管楽器専修必修。他専修学生の履修も可。声楽専修学生は履修が望ましい。

### 授業の概要

私達人間が生まれたばかりの時は、小鳥達のようにその小さな体からは想像もできないほど、よく響く、大きな声で泣いていたはずである。それは、私達が成長するに従いいつしか忘れてしまった「自然な呼吸」を生まれて間もない頃は「無意識」に営んでいたからではないだろうか。

この授業では、こうした「自然な呼吸」、つまり、のどを開けて(オープンスロート)、腹筋、背筋、胸筋及び腰筋を、バランス良く使った呼吸(主に腹式呼吸)をストレッチ体操等を取り入れ、体を動かすことによって正しく理解していきたい。

またこれと併行して、実際に声を出して歌うことで、より響きのある、美しい音を目指したい。楽器を用いて演奏する人は特に、歌声が変わると、音色も変わることを実感してほしいところである。

※尚、本年度は感染症対策として、授業の内容から、オンライン授業となる場合もある。

### 授業の到達目標

演奏家として必要な体作りができる。体の使い方を体得できる。

### 授業計画

1. 導入  
※毎回、ストレッチ、呼吸筋トレーニング、発声、歌唱をおこなう。
2. 正しい姿勢と呼吸と呼吸筋の働きについて。喉を「あける」練習。
3. 呼吸筋強化①(上半身)。2段階呼吸。息を「吐ききる」事の徹底。
4. 呼吸筋強化②(下半身)。ベルカントモードをつかっ。
5. 呼吸筋強化③(深層筋)。15段階呼吸①(10段階まで)。
6. 15段階呼吸②(15段階まで)。
7. 共鳴について。

8. 横隔膜、呼吸筋を意識した発声トレーニング。
9. 頭声、胸声、地声、ファルセットについての考察。
10. 浅呼吸、深呼吸と歌唱への応用。
11. 表情筋、舌と呼吸筋の関係。
12. 呼吸を意識した子音、母音の発音。
13. これまでの復習、まとめ。
14. 歌唱テスト準備(全員が一人ずつ歌い、改善すべき点をチェックする)。
15. 歌唱テスト。

### 授業時間外の学習

正しい呼吸は音楽家としての体づくりの基本である。  
毎日必ずトレーニングする癖をつけること。

### 教科書・参考書等

必要な時は、こちらで用意する。  
マットを使うので、動きやすい服装と内履きを用意すること。

### 成績評価

平常点60%：授業に能動的参加をしているか。努力はみられるか。成果はあったか。

実技テスト(個人歌唱)30%：姿勢、呼吸が正しくおこなわれているか。呼吸筋が正しく動いているか。正しい発声を目指しているか。その他、出席状況、音楽家としての表現力、集中力10%をみる。以上を総合的にみて評価する。

- S 上記の条件を全てにおいて十分に満たし、かつ優秀と認められる者。  
A 上記の条件を全てにおいて十分に満たしていると認められる者。  
B 上記の条件を一定のレベルにおいて満たしていると認められる者。  
C 上記の条件にばらつきがあり、全体にやや不足していると認められる者。  
D 上記の条件で満たしている項目が半分以下と判断される者。

科目名 声楽アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

Aは男子のみ必修(日本音楽以外)。  
Bは男子(日本音楽以外)及び声楽専修の女子は必修である。  
他専修の学生(特に男性)の積極的な履修を希望する。  
定期演奏会、オペラ実習試演会に参加する意欲を求める。

### 授業の概要

この授業では、日本人作曲家による混声合唱曲を取り上げ、関心を深めていく。曲は未定だが、日本語の美しさとハーモニーの関係を深く探り演奏していく。曲目は、履修人数を考慮し決める。

なお、定期演奏会での発表があるため、それに向け、演奏技術、表現力を高めていく。

### 授業の到達目標

声によるハーモニー感覚を身につけ、アンサンブル能力の技能を高めることができる。

また、日本語による歌唱に関心をもち、表現能力を身につけることができる。

### 授業計画

11月の定期演奏会に向けて授業を進めていく。本番前には臨時練習を組むことがある。

1. 今年度の履修人数の確認とレベルチェック
2. 簡単な混声合唱曲に取り組む(定期演奏会演奏曲を決定)
- 3～15. 定期演奏会演奏曲の音取り練習

- 16～24. 定期演奏会演奏曲を音楽的に深めていく
- 25～30. 定期演奏会后、せんがわ劇場等での発表の場のための練習及び本番。

※コロナの状況により分散受講にすることがある。

### 授業時間外の学習

授業で言われたことを確認・復習をすると共に、次回授業で取り上げる曲の音取りをしておくこと。  
※コロナの状況により授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業態度80%、課題20%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 管楽アンサンブルA I・II a

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

フルート専修必修。

### 授業の概要

この授業はフルートアンサンブルを主体に授業を展開していくが、他の専修の学生や、演奏員の協力を得て、フルートと様々な楽器とのアンサンブルも展開していく。

学年末に受講生全員でフルートアンサンブルを中心とした演奏会を行う。

### 授業の到達目標

以下の3点をこの授業の到達目標とする

- ・アンサンブルの基礎を身につけることができる。
- ・バロック時代から近現代までの各時代の様式、形式を学ぶことができる。
- ・楽器やピアノとのアンサンブルも体験し、自分たちの力でアンサンブルを作り上げていく力を向上させることができる。

### 授業計画

(前期)

1. 学習曲目の検討と選択
2. テレマン①六つのソナタop.2よりG-dur
3. テレマン②六つのソナタop.2よりG-dur
4. テレマン③六つのソナタop.2よりE-moll
5. テレマン④六つのソナタop.2よりE-moll
6. テレマン⑤六つのソナタop.2よりD-moll
7. テレマン⑥六つのソナタop.2よりD-moll
8. ハイドン①ロンドントリオより第1番
9. ハイドン②ロンドントリオより第1番
10. ハイドン③ロンドントリオより第2番
11. ハイドン④ロンドントリオより第2番
12. ハイドン⑤ロンドントリオより第3番
13. ハイドン⑥ロンドントリオより第3番
14. ハイドン⑦ロンドントリオより第4番
15. 課題発表 総括

(後期)

1. 学習曲目の検討と選択

2. コンサートプログラム制作
3. ドブラー作品について
4. ドブラー作品について
5. クーラウ①フルートデュオ
6. クーラウ②フルートデュオ
7. クーラウ③フルートデュオ
8. クーラウ④フルートトリオ
9. クーラウ⑤フルートトリオ
10. クーラウ⑥フルートカルテット
11. クーラウ⑦フルートカルテット
12. 日本人作曲家について
13. バッハ①トリオンソナタ
14. バッハ②トリオンソナタ
15. コンサート形式にて演奏発表会

### 授業時間外の学習

自分の担当パートはもちろんのこと、他のパートのスコアリーディングを予習すること。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・レポート20%・発表演奏会30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 管楽アンサンブルA I・II b / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 津川 美佐子

実務経験 〇

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

管楽器専修(Tr、Tb、Tub、Sx専修以外)必修。  
1年生はF専修以外の学生を対象とする。

### 授業の概要

木管五重奏を中心に学習していく。各々パート譜をよく読み、お互いの音を聞き合い、受け止め、合奏の基礎を学ぶ。

### 授業の到達目標

作曲家、曲目の背景を自身で調べ、スコアも読んで勉強し、メンバーで音楽を作ることができる。

### 授業計画

[前期]

1. 授業内容説明と曲目の選択(前期は古典を中心とする)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪
13. 演奏実習⑫
14. 演奏実習⑬
15. 前期の曲の通し演奏

[後期]

16. 後期曲目説明と選択(近代作曲家の曲も取り入れる)
17. 演奏実習①
18. 演奏実習②

19. 演奏実習③
20. 演奏実習④
21. 演奏実習⑤
22. 演奏実習⑥
23. 演奏実習⑦
24. 演奏実習⑧
25. 演奏実習⑨
26. 演奏実習⑩
27. 演奏実習⑪
28. 演奏実習⑫
29. 演奏実習⑬
30. 実技試験(コンサート形式)

※学生の状況により、曲目を考え、学生の希望も取り入れていく。

### 授業時間外の学習

事前にパート譜の譜読み、練習をしておくこと。また、分奏しておくことが望ましい。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

授業への取組む姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 金管アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 神谷 敏

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

金管専修(Tr、Tb、Tub)のみ必修。

### 授業の概要

管・打・ハーブを含む中・大編成アンサンブル能力の育成をめざす。

### 授業の到達目標

様々な編成の合奏を体験し、基礎から徐々に難易度の高い曲へと進みながら、アンサンブル能力を高めることができる。

### 授業計画

- オリエンテーション
- 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける①
- 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける②
- 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける③
- 吹奏楽のベーシックな曲を使い基礎力をつける④
- 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく①
- 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく②
- 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく③
- 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく④
- 吹奏楽の一般的な名曲を使い合奏の技術力を上げていく⑤
- より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす①
- より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす②
- より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす③
- より難易度の高い曲を使い一層の技術力向上とより高い完成度をめざす④
- 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始①
- 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始②
- 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始③
- 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始④
- 今年度の吹奏楽コンクール課題曲や定期演奏会の曲の譜読み開始⑤

20. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく①
21. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく②
22. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく③
23. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく④
24. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑤
25. 定期演奏会の曲を細部にわたってアナリーゼ・練習を積んでいく⑥
26. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う①
27. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う②
28. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う③
29. 定期演奏会に向けた徹底した集中練習を行う④
30. 学外ホールにて演奏会を行なう

### 授業時間外の学習

自分の担当パートを正確に演奏できる様練習しておくことはもちろん、演奏曲のアナリーゼ、作曲家や時代の背景を知っておくこと。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

出席状況・授業への取り組み50%、演奏会出演成果50%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 サクソフォン・アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 彦坂 眞一郎

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

サクソフォン専修必修。

### 授業の概要

前期：サクソフォンにとっても一般的な演奏形態である、ソプラノ、アルト、テナー、バリトンの四種類のサクソフォンを使用したサクソフォン四重奏曲を中心に学習してゆく。また、チームの中の演奏者としてのルールの基礎も学んでゆく。後期：高い演奏技術が求められるサクソフォン四重奏曲を扱い、より高度な表現を理解する。また、演奏困難な状況に陥ったときの解決策についても習得してゆく。特に演奏する上での自身の責任を自覚することを学んでゆく。

### 授業の到達目標

- (前期)
- それぞれの楽器の奏法上の特質を理解し、実際の演奏に反映させる事ができる。
  - 他者の音楽を聴きながら四重奏の中での自身の役割を認識し、自身の音楽を他者の音楽に同期させる事ができる。
- (後期)
- より高度な表現を理解し、高い演奏技術が求められるサクソフォン四重奏曲を演奏することができる。
  - 自身の音楽を他者の音楽に同期させつつ、自分を表現することができる。

### 授業計画

- (前期)
- 音楽とは何か(変化する要素について)
  - エントロピーと音楽の関係
  - サクソフォンにおける室内楽の特徴
  - 奏法概論①アンブシュア(音を生み出す仕組み)
  - 奏法概論②タンギング(発音とは何か)
  - 奏法概論③音量のコントロール(響きと力)
  - 奏法概論④ヴィブラート(方法と用い方)
  - 奏法概論⑤ブレス
  - 奏法概論⑥運指
  - 奏法概論⑦チューニング
  - 奏法概論⑧集中力の認識とその移動について
  - 演奏に必要な道具の選び方(マウスピース、リード、ストラップ等)
  - ソプラノ・サクソフォンの奏法について

14. アルト・サクソフォンの奏法について
15. テナー・サクソフォンの奏法について(後期)
16. バリトン・サクソフォンの奏法について
17. ソプラノ・サクソフォンの奏法
18. バス・サクソフォンの奏法について
19. 音程の認識とコントロール
20. 演奏における基本的ルール①音価の違いによる音量のコントロール
21. 演奏における基本的ルール②音の高低の違いによる音量のコントロール
22. 主旋律と対旋律(一般論と例外について)
23. 演奏における自我と無我の考察(感覚の置換)
24. 演奏行為とは何か
25. バランスの認識とコントロール
26. アンサンブルの実践①音程のコントロール
27. アンサンブルの実践②パートごとの特徴について
28. ラージアンサンブルの実践③バランスのコントロール
29. コンサートのプログラミング
30. サクソフォンの室内楽指導演法

### 授業時間外の学習

授業で使用する楽譜を準備し、担当楽器を使用しての譜読みと十分な練習をしておくこと。また、楽器の状態について常に気を配り、メンテナンスの必要があれば相談すること。

### 教科書・参考書等

前期は履修学生の希望をできるだけ取り入れ、能力に見合った楽曲を選曲してゆく。後期は履修学生の希望をできるだけ取り入れるが、より難易度の高い楽曲を選曲してゆく。

### 成績評価

- 普段の授業での取り組み方(50%) 最終的に体得した能力(50%)
- S 総合点が90点以上の者(アンサンブルでの自身の役割を見事に表現できる者)
  - A 総合点が80点以上の者(アンサンブルでの自身の役割を表現できる者)
  - B 総合点が60点以上の者(自身のパートは演奏できるが役割の認識が不十分な者)
  - C 総合点が50点以上の者(作品の演奏が成り立つ者)
  - D 総合点が49点以下の者(アンサンブルでの責任が果たせない者)



科目名 ギター・アンサンブルAI・II / BI・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 紀雄

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ギター専修者必修。

### 授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

### 授業の到達目標

年二回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様式を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が重要な技術かを知ることができる。

### 授業計画

(前期)

1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴きあい理解しておく
8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
15. バンドゥークイッカン⑤①～④を踏まえて表現を実現する

(後期)

1. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
2. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて他

- を聞く
3. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
4. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
5. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. ヴィヴァルディー四季より「春」①この曲に必要な技術を準備する
12. ヴィヴァルディー四季より「春」②各パート毎に弾いて役割を理解する
13. ヴィヴァルディー四季より「春」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
14. ヴィヴァルディー四季より「春」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
15. ヴィヴァルディー四季より「春」⑤作品の中での自然の描写を豊かに再現する

### 授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

### 教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%・課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。

A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者）。

B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者）。

C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者）。

D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 うたA / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 今藤 美知央

実務経験 —

期間 前期

他専攻 △

—

### 履修条件

日本音楽専修は必修。邦楽（長唄・三味線）・歌舞伎・日本舞踊に興味がある者。  
遅刻・欠席の場合は必ず連絡すること。

### 授業の概要

日本の伝統音楽「長唄」は、江戸時代に歌舞伎とともに、庶民の音楽として大流行、その後も進化・発展し、現代に至る音楽である。

長唄をとらして日本の文化・音楽を理解し、今後自分の芸術表現にも活かせるよう技術を学ぶ。

### 授業の到達目標

情景を大切にしながら音楽的表現ができること。きれいな発音で唄うこと、話すことができる。  
心地良い「間」を表現することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 課題曲の稽古①楽器の説明、発声、間のとり方
3. 課題曲の稽古②西洋音楽との違い、長唄の特徴
4. 課題曲の稽古③三味線あれこれ
5. 課題曲の稽古④唄と語りとセリフ
6. 課題曲の稽古⑤三味線でいろいろな表現をする
7. 課題曲の稽古⑥歌舞伎について
8. 課題曲の稽古⑦唄の技術「ごろ」
9. 課題曲の稽古⑧「当てて唄う」「外して唄う」「間を遊ぶ」

10. 課題曲の稽古⑨日本人の豊かな感性
  11. 課題曲の稽古⑩学校教育における長唄
  12. 指揮者のいない合奏
  13. 決まりのない音楽・本当にあったハブニング
  14. まとめと学習到達度の確認
  15. 発表
- 上記の講義内容は前後することがある。  
課題曲の稽古とは、唄と語りの実習。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の研究、予習、復習に努めること。「邦楽演奏会」「歌舞伎」等、劇場に運んでみる。

### 教科書・参考書等

教科書はなし。資料、譜面等は授業時に配布する。配布されたものは必ず毎回持参すること。授業内での見本演奏は録音して、予習復習に活用すること。

### 成績評価

授業への取り組み60%、課題に対する成果等40%を総合して評価する。

S 総合点が90点以上の者

A 総合点が80点以上の者

B 総合点が60点以上の者

C 総合点が50点以上の者

D 総合点が49点以下の者（授業への取り組み・受講態度などに問題がある者）

科目名 邦楽アンサンブルA I・II / B I・II

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 滝田 美智子

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

邦楽器は各々楽器の特性が強く、個性的である。楽器の特性を認識しながら、様々な可能性を追求する。洋楽とのアンサンブルを積極的にすることも重要である。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴き、感じることを最大課題として、アンサンブルの醍醐味を体得できるようにする。

### 授業の到達目標

- ・邦楽アンサンブルの可能性について、各人が考え、意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを充分に得ることができる。
- ・スコア譜を深く読みとることができる。
- ・年2回の日本音楽演奏会を外部への発信として、成果を発表できる。

### 授業計画

前期

1. 受講生の習熟度の確認と前期計画
2. 楽譜を読み解く(作曲家を招いて)
3. 箏二重奏
4. 箏・尺八合奏
5. 箏・尺八合奏のまとめ
6. 箏三重奏
7. 箏三重奏のまとめ
8. 邦楽器と洋楽器合奏
9. 邦楽器と洋楽器合奏のまとめ
10. 古典曲合奏
11. 古典曲合奏のまとめ
12. 演奏会に向けた大編成曲①譜読み
13. 演奏会に向けた大編成曲②研究
14. 演奏会に向けた大編成曲③まとめ
15. 総まとめ

後期

1. 箏四重奏曲

2. 箏四重奏曲のまとめ
3. 尺八合奏曲
4. 箏・尺八合奏曲
5. 第3回目・第4回目のまとめ
6. 古典合奏曲
7. 古典合奏曲のまとめ
8. 演奏会に向けた大編成曲I①譜読み
9. 演奏会に向けた大編成曲I②研究
10. 演奏会に向けた大編成曲I③仕上げ
11. 演奏会に向けた大編成曲II①譜読み
12. 演奏会に向けた大編成曲II②研究
13. 演奏会に向けた大編成曲II③仕上げ
14. 第8回目・第11回目まとめ
15. 総まとめ

### 授業時間外の学習

授業内で演奏する場合は譜読み、練習をしっかりと行う。演奏に参加しない週は、スコア譜を予習しておく事。

### 教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

### 成績評価

成績評価については、積極的な授業への取り組み(準備予習50%、成果50%)の結果を総合的に評価する。(遅刻厳禁、評価に含む。)

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 伴奏法 I

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 揚原 さとみ

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

教職課程受講者は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

### 授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、教育現場で活かせるように研究していく。

具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に最適なピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法などを理解し、実践形式で習得していく。初見ピアノ伴奏、ピアノ弾き語り、コードネームでの即興伴奏、についてもふれたい。

教職課程必修科目のため対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

### 授業の到達目標

- ・教育の場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏が出来る。
- ・効果的なピアノ伴奏を可能とする音感を養う事が出来る。
- ・基本のコードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けが出来る。

### 授業計画

1. アンケート・授業ガイダンス・中学校の音楽授業考察(鑑賞)
2. 中学校の音楽授業考察(講義)・斉唱曲の初見練習
3. 授業指導案の作成方法について・授業考察(動画視聴)
4. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究1(1人約25分ずつ)
5. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究2(1人約25分ずつ)
6. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究3(1人約25分ずつ)
7. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究4(1人約25分ずつ)
8. ピアノ伴奏を用いた模擬授業発表と研究5(1人約25分ずつ)
9. ピアノ連弾・古典派(伴奏音量のバランス感を養う練習)

10. ピアノ連弾・ロマン派(楽曲の分析を兼ねた練習)
  11. コードネームについて(基本)
  12. 基本コードによる即興伴奏付け
  13. 課題曲レッスン①
  14. 課題曲レッスン②
  15. 課題曲発表
- \*受講生の人数や社会情勢等により内容変更の可能性がありま  
す。

### 授業時間外の学習

毎回課題が出されるので予習、復習に努めること。  
グループやペアを組んでのレッスンはお互いに協力を深めること。

### 教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参する事。  
授業時にプリントを配布します。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み60%・実技レッスンと発表40%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、発表未受験者、受講態度に問題がある者)。

科目名 初見演奏(基礎)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大家 百子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音1ピアノ専修は必修。他専修生でも、ピアノに興味と意欲があれば受講可。

### 授業の概要

バロックから現代に至るピアノ(チェンバロ)ソロ、連弾、歌曲、他楽器とのデュオなどの作品を教材とする。楽譜は毎授業開始時に配布する。

楽譜を手にしたなら、取り敢えずピアノに向かって弾き始めるということを経験し、楽譜を読むことから始めよう。まずは、大掴みに作品の様式と形式をとらえる。次に、音の動き、和音の連なりを確認していく。その際、テンポ、曲想はもちろんのこと、強弱、アーティキュレーション、フレーズ、ペダリングなどにもできる限り目を通す。調性音楽であるなら転調のうづり変わりを把握しよう。ここまでの作業は、当面、受講生皆で意見を出し合いながら進めていく。

読譜の後、初見奏に臨む。予め読み取った情報をどこまで演奏に反映させることができるかは、奏者の集中力に関わってくるであろう。さらには、初見奏での反省を生かし、二度目の演奏を充実した内容に進化させる能力も身に付けられたらと考えている。受講生の自主的、積極的な参加が望まれる。

こうした初見奏の訓練を通して培われる読譜力と集中力が、各人のピアノ演奏能力の向上につながっていくことを願っている。

### 授業の到達目標

限られた時間の中で、楽譜から作品の概要、すなわち作曲家の意図を読み取り、初見奏といえども、音を追うだけにとどまらない音楽的な演奏ができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ピアノソロの小品①ごく易しい作品
3. ピアノソロの小品②易しい作品
4. ピアノソロの小品③少し難易度を上げて

5. 連弾の小品
6. 歌曲の伴奏
7. バロックの作品①ポリフォニー
8. バロックの作品②ホモフォニー
9. 古典派の作品 ソナタ形式を把握する①
10. 古典派の作品 ソナタ形式を把握する②
11. ロマン派の作品
12. 近代の作品
13. 現代の作品①ごく易しい無調の作品
14. 現代の作品②少し難易度を上げて
15. まとめ

### 授業時間外の学習

配布テキストの復習、予習。

### 教科書・参考書等

授業時に配布。

### 成績評価

平常点50%、実技テスト50%とする。

平常点：授業に能動的参加をしているか。努力はみられるか。成果はあったか。

実技テスト(初見演奏)：与えられた予見時間内に読譜を充分に行えたか。集中力をもって初見演奏にのぞみ、音を追うのみにとどまることのない、音楽的な表現ができたか？

- S 総合点90点以上の者(上記項目の全てを満たし、優秀と認められる者。)
- A 総合点80点以上の者(上記項目をよく満たしていると認められる者。)
- B 総合点60点以上の者(上記の項目を一定レベルにおいて満たしていると認められる者。)
- C 総合点50点以上の者(上記の項目のいくつかにおいてやや不足があると認められる者。)
- D 総合点49点以下の者(上記の項目の多くに不足があると認められる者。)

科目名 身体と表現との調和 -inspired by Alexander Technique

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

○

### 履修条件

良い身体の使い方・動きについて学びたい人。またそれらと自分の出す音や声との関連性を知り、良い音(特に倍音の豊かな音)とはどんなものなのか探求したい人。パフォーマンスによる身体の痛みを持っていたり、立ち方や座り方、楽器の構え方、奏法などについて悩みを持っている人。

### 授業の概要

毎回クラス内で数人の生徒に短いパフォーマンスをしてもらい、それに対して教師がアレキサンダー・テクニクなどの知識をベースとした独自のメソッドによりアドバイスする。聴講している生徒はパフォーマンスを見て聴いて、身体の使い方と出てくる音や声との関連性について一緒に観察し学ぶ。実際にパフォーマンスをする生徒は仕上がっている曲(作品)を持って来る必要はなく、簡単なスケールや曲の一部分、あるいは開放弦などのシンプルな音を弾く(あるいは声を出す)だけでも大丈夫である。

### 授業の到達目標

自分の心と身体を含む、自己全体のより良い使い方を学び、“部分”ではなく常に“全体性”を持って動き、演奏し、表現することの重要性を理解できる。

### 授業計画

1. 導入
2. 演奏と身体との関係とは
3. 身体と音の関連性について
4. 実践①
5. 実践②
6. 実践③
7. 実践④

8. まとめ

### 授業時間外の学習

日常生活の中において普段からどのように自分の身体を使っているかがパフォーマンスの質そのものに大きな影響を及ぼすことを理解し、自分の身体の動きについて常に考えることを習慣づける。

### 教科書・参考書等

その都度必要に応じて配付する。

### 成績評価

成績評価については、出席及び授業参加への積極性50%、レポート課題50%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者。)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者。)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者。)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者。)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者。)



科目名 第一実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(主科)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

全学生の専門実技として必修科目である。

### 授業の概要

全ての授業の中で一番、関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術、表現力を身につけることを目的とする。全学生が、各自の専修実技を担当講師のもとで、本科は週1回、50分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。試験は前期、後期と2回行い、特に後期試験はレッスンを20回以上受講しないと試験を受ける権利を得ることができない(ただし、声楽については1年次のみ前期には試験をおこなわない)。1年次後期試験と2年次前期試験の成績優秀者は学内演奏会に出演することができ、2年次後期試験の成績優秀者は卒業演奏会に出演することができる。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一での授業となるため、到達目標は各自異なる。専門実技のテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標になるが、担当講師が各学生のレベルを把握し、レベルに応じてエチュード、楽曲等を与え、与えた課題をレッスンを通して演奏できるようにしていくことを到達目標とする。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討
- 2～5. 与えられたエチュード、楽曲のレッスン
6. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等
7. 試験曲の検討。または、新しい課題の検討
8. 試験曲の決定

- 9～13. エチュード及び試験曲研究。あるいは、与えられた課題のレッスン
- 14～15. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等
16. 新たな課題の検討
- 17～20. エチュード、楽曲のレッスン
21. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等
22. 試験曲の検討
23. 試験曲の決定
- 24～28. エチュード及び試験曲研究
- 29～30. 試験曲研究まとめ。伴奏合わせ等  
個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者  
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者  
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が65点以上の者  
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者  
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 副科実技Ⅰ・Ⅱ／第二実技Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実技(副科第二実技)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2/4

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻

### 履修条件

全学生の必修科目である。  
なお、他専攻の学生も履修することができる。

### 授業の概要

全学生が各自の実技担当講師のもとで、週1回、20分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンとなるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていくが、意欲を持ってレッスンに向かう姿勢が求められ、基礎的な演奏技術と表現力を身につけていく。

試験は後期に1回行い、20回以上のレッスンを受けることにより試験を受ける権利を得ることができる。なお、副科実技はレッスン時間が短い。別途徴収にはなるが、レッスン時間を40分にする「第二実技」という制度がある。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。副科実技としてのテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んで行くという形を繰り返して行く。

22. 試験曲の検討
23. 試験曲の決定
- 24～28. 試験曲のレッスン
- 29～30. 試験曲のまとめ。伴奏合わせ等  
個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者  
A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者  
B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が65点以上の者  
C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者  
D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 伴奏 A (1)(2) / B (1)(2)

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

ピアノ専修の学生のみ履修可。

### 授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)をもって各々単位認定を行う。“伴奏受講票”を使用のこと。

### 授業の到達目標

様々な楽器に関心をもち、「伴奏」という立場に責任をもち、意欲的にアンサンブルを作り上げることができる。  
そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

### 授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

### 授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に評価する。

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 海外特別演習 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 松井康司・東井美佳

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

### 授業の概要

ドイツ・デトモルト音楽大学にて、1週間のレッスン研修を行う。その後、作曲家のゆかりの地を訪れ、その業績をたどる。

### 授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。そのためには早くから個人の実技練習を十分に積んでおく。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 旅行会社による説明会①
3. 訪問都市についての勉強会①
4. 訪問都市についての勉強会②
5. 旅行会社による説明会②
6. 訪問都市についての勉強会③
7. 受講曲による試演会
8. 研修旅行

### 授業時間外の学習

訪れる街の歴史や、関係する作曲家について深く学んでおく。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

事前授業への取り組み30% 研修中の取り組み50% レポート20%で総合的に判断する

- S 事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者 総合点90点以上
- A 事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確だった者 総合点80点以上
- B 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが良好だった者 総合点65点以上
- C 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが不十分だった者 総合点50点以上
- D 事前授業の内容を理解しなかった者、レポート未提出者、レッスンへの取り組み・受講態度に問題がある者 総合点49点以下



科目名 特別演習 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 志村 寿一・井上 由紀

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

A・Bともに全専修必修。

### 授業の概要

公開講座、学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なのはもちろんのことだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことからの得るものの大きさも是非認識して欲しい。

### 授業の到達目標

様々な演奏、楽曲を聴くことにより、音楽の理解力をさらに深めることができる。

### 授業計画

公開講座、学外演奏会、学内演奏会は、それぞれのジャンルに出席義務回数が定められている。

日程、演目、出席義務回数の詳細はオリエンテーション時に発表する。

また日程は変更となる場合もあり、常に掲示を確認のこと。

### 授業時間外の学習

ゲストの音楽家や、演奏される楽曲について調べ、理解を深めること。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

出席義務回数を満たすことを前提とし、授業への取り組み・積極性100%にて評価する。

S 公演の内容を深く理解し、取り組みが的確かつ秀でた者

A 公演の内容を理解し、取り組みが的確だった者

B 公演の内容を理解し、取り組みが良好だった者

C 公演の内容を理解し、取り組みが不十分だった者

D 公演の内容を理解しなかったもの、取り組み、受講態度などに問題のある者

科目名 特別講座

授業形態 講義

対象 音楽専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 博之

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻

### 履修条件

1年生必修

### 授業の概要

編曲作品は演奏会で取り上げられることはもちろん、映画、ゲーム、アニメ、CM音楽等にも多々用いられている。この講義では編曲法について様々なスタイルを紹介しながら、想像すること、創造することの大切さを学んでいく。

### 授業の到達目標

様々なスタイルの編曲法を学ぶことにより、音楽の想像力、創造力をさらに深めることができる。

### 授業計画

1. 編曲の重要性
2. ゲーム音楽のピアノ編曲の手法
3. バラフレーズについて
4. オーケストレーションについて①
5. オーケストレーションについて②
6. メドレーの手法
7. 編曲作品の実演
8. まとめ

### 授業時間外の学習

講座後の復習に努めること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、レポートへの取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、レポートへの取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、レポートへの取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、レポートへの取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み・受講態度などに問題がある者)。

科目名 コラボレイト実習A (1) (2) / B (1) (2)

授業形態 実習 (卒業試験など)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

### 授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会、卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。コラボレイト実習受講票を使用のこと。なお、単位認定は、前期・後期、1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけて行くことが求められる。

### 授業の到達目標

演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶことができる。音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶことができる。

### 授業計画

各々の公演担当教員の稽古計画による。

1. 打ち合わせ
2. 稽古への参加①
3. 稽古への参加②
4. 稽古への参加③

### 5. 本番

稽古への参加は1回につき、授業3回分に相当。本番は授業5回分に相当。

### 授業時間外の学習

音楽専攻・演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督の要望に応えるよう練習をしていかなければならない。

### 教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

### 成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

- S 90点以上 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- A 80点以上 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演の質を高めた者
- B 60点以上 本番までの取り組みが良好で本番での演奏が良好だった者
- C 50点以上 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 49点以下 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者

科目名 音楽理論[和声]Ⅲ・Ⅳa

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2 (日本音楽専修以外) 必修。「音楽理論 [和声] I・II」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

2年次においては、借用和音 (準固有、副属和音)、サブ・ドミナント諸和音 (副七の和音、四度の付加6) と各種の変化和音 (増六、ドリアの四度、ナボリの6の和音) を扱ったバス課題の実施を通じて、より多様で高度な声部進行法の練達を目指す。さらに、それ等の和音を含み、かつ近親転調を伴うソプラノ課題の実施によって、2年間に学んだ和声法の総合的な習熟をはかる。

### 授業の到達目標

1. 借用和音や変化和音などの多彩な和音を扱ったバス課題を確実に実施できる力を養うことができる。
2. 転調を含むソプラノ課題の実施を通して、和声進行の本質が把握できる素養を身に付けることができる。

### 授業計画

(前期)

1. 準固有和音 (長調における、同主短調の和音の借用) ①借用和音の概説 半音階的半音関係
2. 準固有和音②固有和音と混交の際の注意、対斜についての注意 出題第1回
3. 準固有和音③実施課題確認第1回と出題第2回
4. 準固有和音④実施課題確認第2回
5. 借用のドミナント和音①概説 五度五度の和音の各種形態について
6. 借用のドミナント和音②限定進行と声部進行法について 出題第1回
7. 借用のドミナント和音③実施課題確認第1回と出題第2回
8. 借用のドミナント和音④実施課題確認第2回と出題第3回
9. 借用のドミナント和音⑤実施課題確認第3回
10. 五度五度の下方変位の和音①変化和音の概説 増六の和音の各種形態とその通称
11. 五度五度の下方変位の和音②連結の可能性 声部進行の注意点 出題第1回
12. 五度五度の下方変位の和音③実施課題確認第1回と出題第2回
13. 五度五度の下方変位の和音④実施課題確認第2回と出題第3回
14. 五度五度の下方変位の和音⑤実施課題確認第3回
15. 前期教程内容の理解度確認 (後期)
16. 二度の七、四度の七の和音:七の和音について総論 副7の和音に於ける第7音の予備と限定進行 第二転回形に於ける低音4度の予備について 出題第1回
17. 実施課題確認第1回と出題第2回
18. 実施課題確認第2回
19. ドリアの四度の七、ナボリの六の和音:和音進行の可能性 限定進行

出題第1回

20. 実施課題確認第1回と出題第2回
21. 実施課題確認第2回と出題第3回
22. 実施課題確認第3回 付加六、付加四六の和音:第5音の予備 長調の付加四六について 例題の実施と確認
23. 近親転調を伴うソプラノ課題:近親転調概論 和音設定概論 出題第1回と実施法解説
24. 実施課題確認第1回 出題第2回出題と実施法解説
25. 実施課題確認第2回 出題第3回出題と実施法解説
26. 実施課題確認第3回 出題第4回出題と実施法解説
27. 実施課題確認第4回 出題第5回出題と実施法解説
28. 実施課題確認第5回 後期レポート課題の出題
29. 後期レポート課題における評価判定基準の説明 実施法要諦解説
30. 後期レポートの提出に備え、教程内容の理解度確認

### 授業時間外の学習

講義の回と実施した課題内容を添削する回を交互に行う。出題された課題は必ず授業に先立って実施し、かつ鍵盤楽器によって実際に音を出し、内容を確認、点検しておくこと。  
やむを得ない事情で欠席した場合は、講義内容と課題を他の受講者から入手するなどして自習しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書:資料と課題を配布  
参考書:執筆責任者 島岡 譲 『和声「理論と実習」第一巻』『和声「理論と実習」第二巻』音楽之友社

### 成績評価

前期末に筆記試験を行い、後期末に最終実施課題をレポートとして提出する。筆記試験およびレポートの成績を元に下記の評定を行うが、単位認定の条件としては、課題の実施実績と課題の実施内容についても勘案し、総合的な判断によって可否を決定する。

- 成績の評価基準は、筆記試験答案およびレポートの内容:40%、課題の実施状況:40%、授業への取り組み姿勢:20%とする。
- S 90点~100点:重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して自在な練達を感じられる。
- A 80点~89点:重要な公理を確実に理解し、課題の実施に際して習熟度が高い。
- B 60点~79点:概ね重要な公理が理解できているが、課題の実施に際しては練達不足。
- C 50点~59点:重要な公理の理解不足が散見され、課題実施に向けた努力が足りない。
- D 50点未満:重要な公理が理解出来ておらず、和声法を修めたと認めたい。

科目名 音楽理論[和声]Ⅲ・Ⅳb

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2(日本音楽専修以外)必修。「音楽理論[和声]Ⅰ・Ⅱ」を履修し、単位を修得していること。  
和声学は途中が抜けると理解できなくなるので、欠席、遅刻をしないこと。  
知識を確実に積み上げつつ、与えられた課題を必ず実践すること。

### 授業の概要

2年次のⅢ(前期)・Ⅳ(後期)は1年次で学んだことを土台にして、さらにドッペルドミナントやナポリ等の美しいサブドミナント系の和音、同一調内から他の調への転調、非和声音による不響和な響きの加わる美しさ、などを学ぶ。後期の終わりには、2年間で学んだ和声過去の名曲の中でいかに効果的に使われているかを各自で分析する。

### 授業の到達目標

奥の深い和声学を、2年間の授業ですべて習得することは不可能に近い。しかし、これからの長い音楽活動を通じて名曲の中でいかに効果的に和声進行が図られているかを感じとる基礎力を養う。

### 授業計画

1. 前年度の復習 課題実施① dur
2. 前年度の復習 課題実施② moll
3. 前年度の復習 課題実施③総合
4. 属九の和音 形態
5. 属九の和音 配置
6. 属九の和音 最適の配置の実習①
7. 属九の和音 最適の配置の実習②
8. 属九の和音 課題実習①dur
9. 属九の和音 課題実習②moll
10. 属九の和音 総合課題①
11. 属九の和音 総合課題②
12. 属七の和音と属九の和音 実習①
13. 属七の和音と属九の和音 実習②
14. 属七の和音と属九の和音 実習③
15. 属七の和音と属九の和音の根音省略形①

16. 属七の和音と属九の和音の根音省略形②
17. V以外の七の和音①II
18. V以外の七の和音②IV
19. V以外の七の和音③VI
20. 転調を含む課題 構造
21. 転調を含む課題 方法1
22. 転調を含む課題 方法2
23. 転調を含む課題 近親転調 dur①
24. 転調を含む課題 近親転調 dur②
25. 転調を含む課題 近親転調 moll①
26. 転調を含む課題 近親転調 moll②
27. ソプラノ課題 dur
28. ソプラノ課題 moll
29. 楽曲の和声分析と実施
30. 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

授業時に与えられた課題テキストを読んで理解した上で必ず実践すること。  
出来た課題をピアノで弾いて耳を鍛えること。

### 教科書・参考書等

池内友次郎 他著『和声 理論と実習 Ⅰ』音楽之友社

### 成績評価

授業への取り組み40% 学期末試験60%を総合的に評価する。  
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 対位法Ⅰ・Ⅱ

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

和声の基本的な知識が必要。対位法及び対位法による楽曲に興味を持ち、対位法による楽曲作成・分析に意欲を持つもの。

### 授業の概要

J.S.BACHの対位法による楽曲の分析とともに、具体的な対位法の手法を、簡単な課題の実施を行うことで、その用法を学習する。インベンション、シンフォニア、平均律クラヴィーアなどの楽曲を分析する。実施では、二声の対位法を第一類(全音符)～第五類(華麗対位法)まで学び、課題を実施する。またフーガの主題の作成にも取り組む。

### 授業の到達目標

対位法の知識と具体的な創作によって、フーガその他対位法による楽曲をより身近に感じ、実際の演奏に活用できる。

### 授業計画

1. 導入
2. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 音域
3. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 方法と禁止事項①
4. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 方法と禁止事項②
5. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 実習①
6. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 実習②
7. BACH インベンションから及び二声対位法第一類 全音符 様々な調 dur①
8. BACH シンフォニアから及び二声対位法第一類 全音符 様々な調 dur②
9. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 方法と禁止事項①
10. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 方法と禁止事項②
11. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 実習①
12. BACH シンフォニアから及び二声対位法第二類 二分音符 様々な調 dur①
13. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項①
14. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 方法と禁止事項②
15. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur①
16. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur②

17. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 dur③
18. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll①
19. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 様々な調 moll②
20. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習①
21. BACH 平均律クラヴィーア第1巻及び二声対位法第三類 四分音符 実習②
22. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項①
23. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 方法と禁止事項②
24. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習①
25. BACH オルガン曲 及び二声対位法第四類 実習②
26. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項①
27. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 方法と禁止事項②
28. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習①
29. BACH ゴールドベルク変奏曲 二声対位法第五類 華麗対位法 実習②
30. 年度末のまとめ

### 授業時間外の学習

課題の実施の宿題を含めた復習と、対位法楽曲に日頃から親しむこと。

### 教科書・参考書等

J.S.BACHの対位法による楽曲と対位法の各教科書における重要部分を、進み具合に応じて、適宜配布。

### 成績評価

ほぼ毎回、小テストとして分析・課題の実施を行う。評価は授業への取り組み40% 学期末試験60%を総合的に評価する。  
S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 コード論Ⅰ

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 小林 真人

実務経験

期間 前期

他専攻

### 履修条件

特に無し。

### 授業の概要

コードとは何かを知り、それぞれのコードを覚える。メロディに対して、シンプルなコード付けを出来るようにする。

ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏する際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

コードを元に柔軟に演奏する方法を体験する。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

### 授業の到達目標

3和音と4和音のコードを覚える。メロディに対してコード付けができる。

コードの機能と連結を理解して、それを元にしたシンプルなコードの発展のさせ方を知る。

それらをピアノなどで演奏、表現できる。

### 授業計画

1. 導入
2. コード論 入門編①コードとは？
3. コード論 入門編②3和音と4和音
4. コード論 基礎編①3和音のダイアトニックコード
5. コード論 基礎編②4和音のダイアトニックコードと機能
6. コード論 基礎編③同じ機能内での代理

7. コード付けの実践①単純なコード付け
8. コード付けの実践②ボイスング
9. コード論 基礎編④ドミナントモーションとⅡm7-V7
10. コード論 基礎編⑤セカンダリドミナントセブン
11. コード論 基礎編⑥セカンダリドミナントセブンのⅡm7-V7
12. コード付けの実践③リハモナイズとリズムパターンの組み合わせ
13. コード付けの実践④循環コードと逆循環コード
14. コード付けの実践⑤様々なコード進行と発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業でやった事を復習しておく。  
コードに慣れる。

### 教科書・参考書等

特に無し。随時プリントを渡す。

### 成績評価

(1) 授業態度50% (2) 課題発表への取り組み姿勢、レポート等での総合評価50%

- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 楽器法

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大澤 健一

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

特に無し。

### 授業の概要

人が音を奏でる手段としての楽器は太古から今日にいたるまで実に多くの楽器が作られてきた。伝達、信号として登場した楽器は次第に歌や踊りの伴奏として使われ、やがて音楽を伝える主役楽器となった。授業では、現在の管弦楽などで使われる楽器について講義するが、その楽器の原点である民族楽器についてもふれる。

木管、金管、打楽器、弦楽器に分類して、その誕生と現在の役割、使用楽曲、メンテナンスなどについて講義する。

これら楽器の正確な知識は、あらゆる音楽に携わるすべての行動に必要不可欠であろう。

### 授業の到達目標

- ・ 楽器というものが、どのように分類され、どのような歴史をたどって、現在使われているかを理解する。また作編曲、器楽指導に必要な楽器の基礎知識を学習することができる。
- ・ 気鳴楽器、弦鳴楽器、膜鳴楽器、体鳴楽器、機械電気楽器の5つの楽器体系を理解し、全ての楽器がこれらに分類されることを理解できる。

### 授業計画

[進行予定]

木管楽器…フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン

金管楽器…トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ

弦楽器…ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス  
打楽器

体鳴楽器…シンバル、トライアングル、ドラ、鍵盤楽器他  
膜鳴楽器…太鼓、ティンパニー、タンバリン、ボンゴ他

[ポイント]

1. 構造…発音原理、楽器の材質
2. 音域…調性、最低音、最高音、適切音域
3. 特色…得意な奏法、不得意な奏法
4. 同属楽器…調性の異なる同属楽器
5. 歴史…楽器の誕生について
6. 楽曲…この楽器を説明するのに適した楽曲
7. メンテナンス…楽器の取り扱い上での注意点

### 授業時間外の学習

室内楽、管弦楽のコンサートを鑑賞し、使用される各楽器の特徴を調べておくこと。

### 教科書・参考書等

参考プリントを授業で配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・受講態度100%で評価する。

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽マネジメント

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 楠瀬 寿賀子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

音楽や音楽家の社会的な役割を踏まえて、コンサートやアウトリーチの企画を考察する意欲をもつ者。

### 授業の概要

芸術音楽の制作のノウハウやスキルを学ぶだけでなく、音楽が自らの生きる力を高めるため、また、それによって生まれる豊かな社会を創出する、という考え方に基づいた音楽マネジメントが重要となる。

この授業では、基本的にはマネジメントの様々なシーンで使える考え方やスキルを学んでいくが、その背景にある音楽の社会的役割の重要性を深く考察し、その考えに即した実施方法を学ぶ。

### 授業の到達目標

積極的な興味・関心をもとに豊かな知識やスキルを得て、自らが社会におけるニーズに応えられるようになること。

- ・音楽の企画制作の基礎的な能力を身につけることができる。
- ・言葉にしにくい音楽・芸術を扱う上で必要な言語化の力を身につけることができる。
- ・アウトリーチやワークショップなどの手法を理解することができる。

### 授業計画

1. オリエンテーションと自己紹介、講義全体の概説
2. 音楽マネジメントとはなにか
3. コンサートのビジネス的側面
4. 音を聴く、とはどのようなことか
5. 音楽企画の社会性
6. 社会性を作るための方法(アウトリーチやワークショップなど)
7. アウトリーチを体験する

8. アウトリーチで何ができるか、を考える
9. 広報と宣伝について
10. 企画の作り方①音楽の素材から考える
11. 企画の作り方②社会の資源・課題から考える
12. 企画の作り方③企画を提案する
13. 音楽家の才能を引き出す
14. 才能のある音楽家の活かし方
15. まとめ

### 授業時間外の学習

様々なコンセプトや構成のコンサートにできるだけ足を運び、運営者の立場での観察に努めてほしい。

マスコミやネットなどで話題になる音楽や音楽事業、文化会館の動向などに関するニュースに注意を払い、些細なことでもよいので知識や考察の引き出しを増やすことに努めてほしい。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず授業時にプリントを配付、参考書等も授業内で適宜紹介する。

### 成績評価

筆記試験は行わないが、小論文課題を提出してもらう。評価は小論文(50点)、日常のレポートや発言など(50点)として採点する。

- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 音楽史特講A

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 ○

—

### 履修条件

・授業内でしばしば発言やパフォーマンスを求める。その際に能動的な姿勢で臨む者を歓迎する。

### 授業の概要

「音楽史特講A」は、「20世紀音楽史」と題し、「音楽史概説」で扱った20世紀以降の内容をさらに掘り下げ、この時期に生まれた芸術をトピック別に学ぶ。様々な芸術グループの理念、思想、美学を、単なる知識としてではなく、実践を通じて理解する。

なお、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義となる場合がある(その場合には、双方向型を予定)。また、内容に多少の変更が生じる可能性もある。

### 授業の到達目標

- ・20世紀音楽における様々な芸術潮流を、時代精神や文化とともに理解する。
- ・感性を開いて、音楽を聴取する感覚を身につける。
- ・実践的な取り組みを通じ、20世紀音楽の奥深さを理解する。

### 授業計画

1. 調性機能崩壊の諸相
2. 表現主義芸術
3. 新ウィーン楽派の12音技法
4. サティとパリの前衛
5. 新古典主義と両大戦間の動向
6. イタリア未来派
7. ロシア・アヴァンギャルド

8. 音群作法
9. テクノロジーの発達と電子楽器
10. 引用音楽
11. 不確定性の音楽、偶然性の音楽
12. 凶形楽譜
13. アメリカ実験音楽
14. ミニマル・ミュージック
15. ミュージック・シアター

※履修者の人数や理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- ・授業時間には作品の一部しか視聴できないため、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- ・20世紀音楽のコンサートに積極的に足を運ぶことを推奨する。

### 教科書・参考書等

・授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。

### 成績評価

平常点評価100%。成績は、授業中の発言とパフォーマンスから総合的に判断する。



科目名 音楽史特講B

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 

ー

### 履修条件

特に条件はないが、授業内容への関心と受講意欲は必須である。

### 授業の概要

テーマは「シンフォニーの歴史」。シンフォニーは、私たちがクラシック音楽と呼んでいる、ヨーロッパ芸術音楽の精華の一つであり、オペラと並んで、ヨーロッパの歴史や文化に根ざした重要な文化現象である。本授業は、シンフォニーというジャンルの起源から、その主な時代の終焉までを見渡す「シンフォニー史」である。単にシンフォニー作品の歴史や形態を概観するにとどまらず、それらの音楽史、社会史上の意味、あるいは、各々の作曲家におけるシンフォニーという問題も考えていきたい。

### 授業の到達目標

主に以下3点を到達目標に掲げる。

1. 交響曲とは何か、それはどのように誕生したかについて説明出来る。
2. 交響曲の歴史に固有なトピックスと展開について説明出来る。
3. 各々の時代を代表する作曲家とその作品について説明出来る。

### 授業計画

1. 導入：シンフォニア？シンフォニー？交響曲？
2. 前古典派：シンフォニーの出自と型の形成、シンフォニストの誕生まで
3. ヴィーン盛期古典派①エステルハージ公爵邸楽長時代のJ. ハイドン
4. ヴィーン盛期古典派②J. ハイドンのロンドン滞在と《ザロモン・シンフォニー》
5. ヴィーン盛期古典派の交響曲③W. A. モーツァルトの交響曲創作

6. ベートーヴェン①転換期としてのベートーヴェン
7. ベートーヴェン②《田園シンフォニー》と「標題」
8. ベートーヴェン③《第九シンフォニー》におけるジャンルの拡大
9. ポスト・ベートーヴェンのシンフォニー
10. ベルリオーズの管弦楽作品：「標題シンフォニー」の新たな展開
11. ブラームスとブルックナー：絶対音楽としてのシンフォニーへの回帰？
12. ナショナル・シンフォニー：国民主義音楽とシンフォニーの国際化
13. マラー：最後のシンフォニストとそのジャンル意識
14. R. シュトラウスと管弦楽作品：「シンフォニー神話」の崩壊
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業では多くの作曲家やその作品について触れることになるが、授業時間内に例として鑑賞出来るのはほんの一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。各回（ガイダンスと導入、まとめの回は除く）につき最低一作品は、必ず通して鑑賞すること。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、初回に参考文献表を配布するほか、適宜紹介、指示する。

### 成績評価

受講姿勢（20%）、期末レポート（80%）による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ未満はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽史演習A

授業形態 演習  
(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 

ー

### 履修条件

授業内でしばしば発言やパフォーマンスを求める。その際に、能動的な姿勢で臨む者を歓迎する（必ずしもピアノを用いない作品もあるため、すべての専修生が受講可能である）。

### 授業の概要

「音楽史演習A」は、「20世紀以降のピアノ音楽」と題し、芸術潮流ごとに、20世紀以降のピアノ作品を約50曲学ぶ。とくに、12音技法作品の分析法、図形楽譜のリアライゼーションの仕方、プリペアド・ピアノの作り方といった、20世紀ピアノ作品に特化して必要な技術を身につける。また、そうした芸術思潮が生まれた歴史的コンテキストを学修する。最終回で全員にパフォーマンスを課す。演奏曲目は、講義内で扱った芸術潮流に関するものとする（図形楽譜の作品、音を出さない作品、内部奏法のみなどの作品など、ピアノの演奏技術がなくても参加できる）。

なお、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義（その場合には、双方向型を予定）となる場合がある。また、履修者の人数や理解度に応じて、内容に変更が生じる可能性がある。

### 授業の到達目標

- ・20世紀以降のピアノ作品を、歴史的コンテキストとともに理解する。
- ・20世紀以降のピアノ作品に特化して必要な技術を身につける。
- ・感性を開いて、音楽を聴取る感覚を身につける。

### 授業計画

- 西洋音楽史：20世紀
1. 調性機能崩壊からの脱却

2. 色彩への眼差し
3. 12音技法からトータル・セリエリズムへ
4. リズム語法の拡大
5. ナショナルリズムと音楽
6. ジャズとの融合
7. 機械と人間
8. 反復音楽
9. 引用音楽
10. ダダイズム、シュルレアリスムの周辺、そしてフルクサスへ
11. 図形楽譜
12. 不確定性の音楽、偶然性の音楽
13. 特殊奏法、プリペアド・ピアノ
14. ピアノと身体
15. 発表会

※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- ・授業時間には作品の一部しか視聴できないので、授業外に全曲聴くことを推奨する。
- ・20世紀音楽のコンサートに積極的に足を運ぶことを推奨する。

### 教科書・参考書等

授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。

### 成績評価

平常点50%、発表会におけるパフォーマンス点50%で評価する。平常点は、授業中の発言とパフォーマンスによって評価する。

科目名 音楽史演習B

授業形態 演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特に条件はないが、授業内容への関心、参加意欲は必須である。

### 授業の概要

テーマは「オペラの歴史」。オペラは400年以上の歴史を持ち、私たちが思い浮かべる西洋芸術音楽において、すぐれて代表的なジャンルである。本授業ではオペラの壮大、かつ濃密な歴史にアプローチし、その起源から20世紀初頭までを視野に入れる。多様な作品に触れることを目標とするが、原則として、一回の授業につき、各国、各時代から代表的な作品の一つを取り上げ、オペラ史を再構成していく。該当科目は演習である。各受講者に作品についての簡単な事前調査と授業中のレポートを担当してもらう。受講者数に応じて、具体的な進め方を事前に説明するので、受講予定者は初回のガイダンスに必ず出席すること。

### 授業の到達目標

以下3点を到達目標として掲げる。

1. 個々の作品に、歴史意識を持って向き合うことが出来る。
2. 音楽様式の変化と同時に、各時代や各社会の違いを感じ取ることが出来る。
3. 評論的アプローチで終わらせないため、適切な文献を操ることが出来る。

### 授業計画

音楽史の流れに沿って、以下に各回で扱うトピック及び便宜上、代表する作曲家名を示すが、可能な限り受講者の興味や要望を取り入れていく。

1. ガイダンスと導入：プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》鑑賞
2. バロック時代①オペラの起源イタリア（モンテヴェルディ）
3. バロック時代②イタリアから各国へ（パーセル、ヘンデル）
4. 古典派①近代オペラの始まり（モーツァルト1）
5. 古典派②宮廷社会から市民社会へ（モーツァルト2）
6. 古典派③オペラと革命（ベートーヴェン）の隆盛

7. ロマン派①オペラ・ブッフア（ロッシニ）
8. ロマン派②オペラ・ブッフアの黄昏（ドニゼッティ）
9. ロマン派③19世紀イタリアオペラの精華（ヴェルディ）
10. ロマン派④「総合芸術作品」としてのオペラ（ヴァグナー）
11. ロマン派⑤フランス・オペラの諸相（ビゼー）
12. ロマン派⑥「ヴェリズモ・オペラ」（プッチーニ）
13. 20世紀初頭①オペラにおける前衛（R. シュトラウス1）
14. 20世紀初頭②古典への回帰と一つの時代の終焉（R. シュトラウス2）
15. まとめ：「長い19世紀」とオペラ史

### 授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞出来るのは、大規模であるというオペラの属性から一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを積極的に活用し、理解を深めてもらいたい。また、担当回については、当然ながら、作品の把握のみならず、参考文献等を用いた下調べ、及びレジュメの作成が求められる。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介、指示する。

### 成績評価

受講姿勢（50%）〔授業内容への関心、授業への貢献、学期内担当分の準備作業〕、及び担当回の発表内容（50%）による。総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ未満はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。

科目名 音楽療法概論

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

音楽療法とは、心身に障害のある方、発達の遅れや問題を持った方々へ治療・援助の手段として音楽を役立てることであるが、最近では病氣や障害に限らず人間の健康な生活に役立てる音楽療法としてのアプローチまで幅広い考え方も広まっている。

本講義では、療法（セラピー）を考える前に、人間の生活と音楽との関わりや人間の健康とは何かを学ぶ。次に音楽療法の様々な背景を考えながら、基本的な知識を学んでいく。

### 授業の到達目標

人間の生活と音楽の関わりを理解し、さらに療法として音楽を用いる意義とその方法を理解することができる。

### 授業計画

1. 導入（授業内容と目的等）
2. 人間の生活と健康・音楽
3. 音楽療法とは何か①歴史
4. 音楽療法とは何か②楽曲研究
5. 緩和ケアの音楽療法①カナダ
6. 緩和ケアの音楽療法②日本
7. 高齢者の音楽療法①活動紹介

8. 高齢者の音楽療法②プログラム作成
9. 高齢者の音楽療法③受講生同士で実践
10. 児童の音楽療法①発達障害児
11. 児童の音楽療法②重度重複障害児
12. 音楽療法の技術
13. 音楽の治療的機能
14. まとめ①
15. まとめ②

### 授業時間外の学習

授業の中で課題に対する感想を書いたり、音楽療法のプログラムを作成したりするので、履修者は予習と復習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著 「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著 「音楽療法の実際」(牧野出版)  
以上、参考書  
教科書は使用せず、授業時にプリントを配布。

### 成績評価

- (1) 授業の取組みと態度60% (2) 期末試験の総合評価40%
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 演奏解釈(1) ピアノ楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 東井 美佳

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ピアノ専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

### 授業の概要

あらゆる楽曲の中でも、ピアノで演奏されるものは多岐に渡って豊富に作品が存在する。楽器の持つ幅広い可能性、或いは利便性から、ピアノは独奏のみならずあらゆる音楽シーンの中で必要とされる場面も多く、そこではピアニストに柔軟な能力が求められる。この授業では独奏曲はもとより、多様なジャンルの楽曲にも触れながら、楽器や楽曲の持つ特性を理解し、それぞれの状況の中でどのように楽譜を解釈し、演奏したら良いかを一緒に学んでいきたい。他専修の学生の参加も大いに歓迎する。

### 授業の到達目標

ピアノという楽器の特性やそれぞれの楽曲の時代やジャンルに応じた楽譜の読み方、解釈の仕方を理解し、相応しい演奏方法を見つけることができる。

### 授業計画

1. 導入 ピアノという楽器について
2. 16～17世紀の鍵盤楽器音楽①
3. 16～17世紀の鍵盤楽器音楽②
4. 18世紀の作曲家①
5. 18世紀の作曲家②
6. 18世紀の作曲家③
7. 19世紀の作曲家①
8. 19世紀の作曲家②
9. 19世紀の作曲家③
10. 19世紀の作曲家④
11. 19世紀の作曲家⑤

12. 20世紀の作曲家①
13. 20世紀の作曲家②
14. 20世紀の作曲家③
15. まとめ ピアニストの音楽的役割の重要性について

### 授業時間外の学習

毎回の授業の内容について自分なりに予備知識を持って臨めるようにすること。また各回の内容は積み重ねになっていくので、復習もしっかりすること。

### 教科書・参考書等

その都度必要に応じて指示、配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%、学期末課題の結果50%を総合的に判断して行う。

- S. 総合点90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A. 総合点80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B. 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C. 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D. 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 演奏解釈(2) 声楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 相田 麻純

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 ◎

ー

### 履修条件

声楽専修必修。他専修も積極的に履修してほしい。

### 授業の概要

声楽が他の演奏分野と決定的に違うのは、音楽に言葉が付属している点にある。この授業では歌詞の理解と、その歌詞に音楽をつけた作曲家の意図を探っていく。歌唱する上で声を鍛錬することは重要だが、音楽表現を追究することも同様にとっても大切なことである。ただ歌うだけの演奏ではなく、きちんと曲を理解することで、演奏する上での表現力を引き出すプロセスを一緒に学んでいく。前半は全4期に分類されている日本歌曲の作曲家の作品を取り上げ、後半はオペラの代表的作品であるモーツァルト作曲の《フィガロの結婚》を登場人物に分けて解釈していく。

### 授業の到達目標

楽譜と歌詞の両面から理解を深めることで、曲に込められた想いを読み取り、演奏する上での土台を作れるようになることを目指す。

### 授業計画

1. 導入。日本歌曲の変遷について、担当曲決め
2. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品①瀧廉太郎
3. 日本歌曲：第1期の代表的な作曲家と作品②第1期のその他の作曲家
4. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品①山田耕筰
5. 日本歌曲：第2期の代表的な作曲家と作品②第2期のその他の作曲家
6. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品①中田喜直
7. 日本歌曲：第3期の代表的な作曲家と作品②第3期のその他の作曲家
8. 日本歌曲：第4期の代表的な作曲家と作品

9. オペラ：モーツァルト作曲《フィガロの結婚》における原作と台本
10. オペラ：フィガロの人物像と音楽
11. オペラ：スザンナの人物像と音楽
12. オペラ：伯爵の人物像と音楽
13. オペラ：伯爵夫人の人物像と音楽
14. オペラ：ケルビーノの人物像と音楽
15. オペラ：その他の役柄の人物像と音楽、授業の総括

### 授業時間外の学習

日本歌曲においては、一人一曲を担当し、作曲家と作詞家の関係性や歌詞の意味などを調べておくこと。オペラにおいては《フィガロの結婚》のあらすじや登場人物について予習しておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に毎回楽譜とプリントを配布する。

### 成績評価

成績評価については、受講態度50%、課題に対する成果30%、レポート20%の結果を総合的に判断して行う。

- S. 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A. 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B. 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C. 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D. 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 演奏解釈 (3) 室内楽曲

授業形態 講義

対象 音楽専攻 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 寺岡 有希子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

弦楽器専修必修。(他専修の履修も可)。

### 授業の概要

この授業は他の専修学生にも広く開放している。古典派の弦楽による室内楽作品を中心とするが、履修者の状況により、ピアノ、管楽器等も含まれる作品も取り上げ授業を進めていく。

授業形態としては学生の演奏を基本とし、作曲家とその作品に対してより知識を深め、「演奏」という実践にどのようにしたら結び付いていくか考えていく。学生全員参加の活発な意見交換の場になるよう、望んでいる。

### 授業の到達目標

スコアから作曲家の意図するものをはじめ、様々なことを読み取ることができる。またそれらを表現につなげていくことができる。

### 授業計画

ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンの弦楽による室内楽作品を基礎課題とするが、履修者の状況を考慮しつつ様々な形態(例えば、フルート四重奏曲やピアノ五重奏曲等)の室内楽作品を取り上げていく。

1. 導入及び曲目の検討
2. 曲目とメンバーを決定
3. 各グループによる研究発表と演奏①バッハ
4. 各グループによる研究発表と演奏②ハイドン
5. 各グループによる研究発表と演奏③モーツァルト二重奏
6. 各グループによる研究発表と演奏④モーツァルト三重奏
7. 各グループによる研究発表と演奏⑤モーツァルト四重奏
8. 各グループによる研究発表と演奏⑥ベートーヴェン三重奏
9. 各グループによる研究発表と演奏⑦ベートーヴェン四重奏

10. 各グループによる研究発表と演奏⑧シューベルト
11. 各グループによる研究発表と演奏⑨メンデルスゾーン
12. 各グループによる研究発表と演奏⑩ブラームス
13. 各グループによる研究発表と演奏⑪ドヴォルザーク
14. 各グループによる研究発表と演奏⑫バルトーク
15. 全体合奏

### 授業時間外の学習

授業で演奏するメンバーは事前リハーサルしておくこと。またその曲の作曲者についてや作曲された背景、各自の楽器の詳細についても調べておくこと。

### 教科書・参考書等

課題となる曲のスコアをプリントして配布するので、必ず授業に持参すること。

### 成績評価

成績評価については、授業態度40%、課題への取り組み30%、発表・演奏への積極性30%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論[楽式] I ①・II ①

授業形態 講義

対象 音楽専攻 2年

単位数 2・2

キャップ制  
対象外

担当教員 穴戸 里佳

実務経験 —

期間 前期・後期

他専攻 ○

—

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

音楽形式の基礎。バロック・古典派の主な形式についての説明を行い、楽曲の分析を試みる。

授業は講義形式で行うが、自分の頭で考え、授業に積極的に参加することが求められる。

### 授業の到達目標

音楽形式の基本を理解し、簡単な楽曲を自分で分析できる。

### 授業計画

(前期)

1. 音楽形式とは
2. 二部形式(バッハ)
3. 三部形式(シューマン)
4. 複合三部形式①モーツァルト
5. 複合三部形式②ベートーヴェン
6. ロンド形式①ベートーヴェン(1曲目)
7. ロンド形式②ベートーヴェン(2曲目)
8. ロンド形式③モーツァルト
9. ソナタ形式①ベートーヴェン(1曲目)
10. ソナタ形式②ベートーヴェン(2曲目)
11. ソナタ形式③ベートーヴェン(3曲目)
12. ソナタ形式①モーツァルト(1曲目)
13. ソナタ形式②モーツァルト(2曲目)
14. ソナタ形式③モーツァルト(3曲目)
15. 前期まとめ

(後期)

1. 前期の復習
2. 変奏曲形式①モーツァルト(1曲目)
3. 変奏曲形式②モーツァルト(2曲目)

4. 変奏曲形式③モーツァルト(3曲目)
5. 変奏曲形式④ベートーヴェン
6. フーガ形式(バッハ) ①2声
7. フーガ形式(バッハ) ②3声
8. フーガ形式(バッハ) ③2声・3声
9. フーガ形式(バッハ) ④4声
10. 歌曲の分析①イタリア歌曲
11. 歌曲の分析②ベートーヴェン
12. 歌曲の分析③シューマン
13. 自由形式(モーツァルトなど) ①1曲目
14. 自由形式(モーツァルトなど) ②2曲目
15. 後期まとめ

### 授業時間外の学習

- ・知らない曲は事前にCDなどで聞いておくこと(=予習)
- ・次の授業までに、一度は授業内容に目を通しておくこと(=復習)

### 教科書・参考書等

プリント配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み等30%、学期末試験70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受講者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 音楽理論[楽式] I②・II②

授業形態 講義

対象 音楽専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 池原 舞

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

日本音楽専修以外は必修。

### 授業の概要

この授業では、西洋音楽作品の形式構造を分析する方法を学ぶ。具体的な作品を用いて伝統的な形式の「型」を学びながら、その一方で、主題の取り方や区分の仕方は分析者によって異なることを、実践を通して理解する。自分の力でその楽曲にふさわしい分析方法を見つけ、構造を把握する力を高める。

【音楽理論[楽式]I】では、以下の型を学ぶ。二部形式、三部形式、ロンド形式、ソナタ形式。それらに先立ち、動機、小楽節、大楽節の捉え方の感覚を身につける。

【音楽理論[楽式]II】では、「音楽理論[楽式]I」に引き続き、以下の型を学ぶ。ソナタ形式、変奏曲形式、カノン、フーガ、舞曲、組曲。また、標題音楽の分析方法や、「自由なソナタ形式」について再考し、音楽分析の目的に合わせて、必要な分析観点を抽出する方法についても議論する。

なお、コロナウィルスの感染拡大状況に応じて、オンライン講義（その場合には、双方向型を予定）となる場合がある。また、履修者の理解度に応じて復習回を設ける等、内容に変更が生じる可能性がある。

### 授業の到達目標

- ・ 楽曲分析の重要性を実感し、なぜそれが重要なのかを自分の言葉で説明できるようにする。
- ・ 楽譜から自分で楽曲構造を分析することができるようになる。

### 授業計画

【音楽理論[楽式]I】

1. 楽曲分析の目的、音楽の特徴の把握、動機
2. 音楽の区切りの感覚、小楽節、大楽節
3. 二部形式①
4. 二部形式②（調的構造の把握等）
5. 三部形式①
6. 三部形式②（「二部形式」と「三部形式」の違い等）
7. 学習到達度の確認（テスト）
8. テスト問題の解説
9. ロンド形式①
10. ソナタ形式①
11. ソナタ形式②（「主題」と「主題の確保」等）
12. ロンド形式②（リトルネロ形式、複合三部形式等）

13. ソナタ形式③（「展開部」の特徴等）
14. ソナタ形式④（「推移主題」について等）
15. 学習到達度の確認（テスト②）

【音楽理論[楽式]II】

1. テスト問題の解説
  2. 変奏曲形式
  3. カノン
  4. フーガ①
  5. フーガ②（区分について等）
  6. フーガ③（「多重フーガ」等）
  7. 舞曲、組曲
  8. 学習到達度の確認（テスト）
  9. テスト問題の解説
  10. フーガの復習
  11. ソナタ形式の復習
  12. 標題音楽の分析
  13. 分析実践（個別）
  14. 「自由なソナタ形式」再考
  15. 提出課題の返却（個別）
- ※履修者の理解度に応じて、授業の順序や内容を変更することを厭わない。

### 授業時間外の学習

- ・ 譜面を頭の中で鳴らす訓練を日々行うことを強く推奨する。上記スケジュールに含まれる楽曲について、音を聴きながら楽譜を追えないもしくは、楽譜を見てもその音楽を頭のなかで想像するのが難しい場合には、事前に楽曲を聴き込んでおくのが望ましい。
- ・ 授業で扱った（扱う）楽曲を、専攻の如何に問わず、ピアノで弾いてみることを強く推奨する。

### 教科書・参考書等

- ・ 授業で配布するレジュメの末尾に参考文献一覧を掲載する。
- ・ 授業で扱った（扱う）楽譜は入手するのが望ましい。

### 成績評価

【音楽理論[楽式]I】は、2回のテストの合計点で評価する。  
【音楽理論[楽式]II】は、1回のテストと、第14回で提出を課する課題の合計点で評価する。

科目名 S. H. M. III・IV

授業形態 演習  
(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音2必修。「S.H.M.I・II」の単位を修得していること。  
各自、能力を向上させる努力を、常に実践すること。遅刻をせずに、きちんと出席すること。

### 授業の概要

授業内容は「S.H.M.I・II」の延長上にある。  
能力に応じて、基礎力の充実から、より音楽的な応用まで、各自、力をつけていく。

### 授業の到達目標

音楽実践に必要な基礎的能力を高め、幅広く優れた音楽性を身につけることができる。

### 授業計画

前期は一年次の成績により能力別クラス編成で授業を行う。  
前期終わりに後期のためのクラス分けテストを行う。  
主な授業項目。クラスにより内容、進度は異なる。

- ・ 多様なリズムの習得・多様な拍子の理解
- ・ ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号の理解
- ・ 正しい読譜による初見視唱の練習
- ・ 正確な音程を身につける
- ・ より高度なメロディの書き取り
- ・ 2声、3声等同時に鳴る音への理解

- ・ 種類の違う和音もたらす響きの色彩を感じ取る
- ・ 和音の機能の理解と聴き分け
- ・ 四声体の書き取り、その重唱
- ・ 多様な調への挑戦
- ・ 転調を伴う課題における調の判定
- ・ 移調奏
- ・ 多様な音階による課題

### 授業時間外の学習

各クラスの教官の指示に従い自習すること。

### 教科書・参考書等

クラスの担当教員から指示される場合もある。

### 成績評価

学年末に実施する一斉テストで、単位評価する。（出席は2/3以上満たすことが必須）

S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者



科目名 指揮法Ⅰ・Ⅱ

演習(理論)

対象 音楽専攻2年

単位数 1・1

キャップ制  
対象外

担当教員 福永 一博

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

指揮、指揮することに興味を持つ者。  
教職受講者は必修。

### 授業の概要

指揮者は、音楽の体現者である。自ら音を出すことのできない指揮者が、最も的確かつ雄弁に音楽を語りうる手段が、指揮法である。本授業では、桐朋学園大学で長らく指揮法を教え、数多くの名指揮者を輩出した齊藤秀雄先生の著した「指揮法教程」の考え方をベースに、オーケストラ・吹奏楽・合唱などあらゆるジャンルに共通する基本的な指揮の技法を体得する。また、培った指揮の技法を、コンコーネや合唱曲等、実際の作品を用いて演習する。

### 授業の到達目標

自分の音楽的意図を、指揮を通じて表現できるようになること。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 指揮者の歴史、役割/指揮法の大原則/叩きの運動(脱力)
3. 叩きの運動の実習/叩きの図形/平均運動
4. 叩きの図形と平均運動の実習/平均運動の図形/しゃくいの運動/しゃくいの図形
5. 平均運動の図形、しゃくいの図形の実習/演奏を開始するために①予備運動・中間予備運動/演奏を終止するために①/デュナーミクを表現するために①アコーギクを表現するために①
6. 実習①「ふるさと」
7. 実習②「コンコーネNo.1」
8. 実習③「コンコーネNo.2」
9. 実習④「コンコーネNo.4」
10. 引掛け/デュナーミクの表現のために②
11. 実習⑤「コンコーネNo.10」
12. 実習⑥「コンコーネNo.16」
13. 演奏を開始するために②/演奏を終止するために②/瞬間運動/演奏を停止するために(3種類のフェルマータ)

14. 6拍子一短曲実習
15. 先入法一短曲実習/跳ね上げ一短曲実習
16. アコーギクの表現のために②分割
17. 円運動①一短曲実習
18. 円運動②一短曲実習
19. 様々な変拍子(5拍子、7拍子ほか)一短曲実習
- 20-29. 実習⑦~⑯曲を用いて
30. 発表一当日任意の1曲を演奏する

### 授業時間外の学習

指揮法の習得には技術的鍛錬が大切である。したがって復習を十分にすることが求められる。予習にあたっては、作品の楽曲分析を行い、自分のパートを歌えるようにしておくこと。

### 教科書・参考書等

参考書：齊藤秀雄著「指揮法教程」(音楽之友社)、  
高階正光著「指揮法入門」(音楽之友社)  
指揮棒を用意すること(1回目指示)。

### 成績評価

- 成績評価は、授業への取り組み(30%)、受講態度(30%)、発表(40%)を総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組みに問題があった者)。

科目名 室内楽A a

演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

### 授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲、ピアノ五重奏曲を中心に取り上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

### 授業の到達目標

様々な時代及び編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術の基礎を学ぶ。各々が課題を見出し、楽器通しでのコミュニケーションを取る喜びを知る。

### 授業計画

1. 導入、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に)モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に)

メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等③

9. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)①
10. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)②
11. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む)③
12. 声楽を含む室内楽①
13. 声楽を含む室内楽②
14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

### 授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。  
また、お互いの楽器の特徴なども調べておくこと。  
日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。

### 教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲、ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

### 成績評価

- 成績評価については、演奏曲目の下調べ30%、各自の練習40%、授業態度30%にて総合的に判断して行う。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽A b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 北本 秀樹

実務経験

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

弦楽器専修を中心とするが他の専修の履修も可。室内楽に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

あなた達が今演奏してみたい室内楽。  
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

### 授業の到達目標

- 作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- アンサンブル能力の向上。

### 授業計画

1. 導入
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩

12. アンサンブル実習⑪

13. アンサンブル実習⑫

14. アンサンブル実習⑬

15. 発表演奏

2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。

必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いします。

### 授業時間外の学習

各自十分な練習を行う事。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

成績評価については、出席及び授業参加への積極性80%、授業態度20%の結果を総合的に判断する。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、授業への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、授業への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、授業への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、授業への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽B a

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 阪本 奈津子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

### 授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

### 授業計画

1. 導入及び曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレーズングの注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性—弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い

弦楽器の室内楽作品

12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品

13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品

14. ドヴォルザーク②ピアノを含む室内楽作品

15. まとめと確認

※専攻楽器の種類によって、変更あり

### 授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組む姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽B b

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 蓼沼 恵美子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の学生の履修も可。

### 授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。

アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性をふまえた上での音色作りや響きのバランス、呼吸感等、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な演奏技術や表現法を実践で学ぶ。演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

### 授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。具体的には以下の点を到達目標とする。

- ・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。
- ・異なる楽器との響きの融合を考えた音作りができる。
- ・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。
- ・作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び曲目とメンバーの決定
2. パート練習(レッスン)
3. アンサンブル実習①
4. アンサンブル実習②
5. アンサンブル実習③
6. アンサンブル実習④
7. アンサンブル実習⑤
8. 楽曲のまとめ。発表演奏の曲を決定

9. パート練習(レッスン)

10. アンサンブル実習①
11. アンサンブル実習②
12. アンサンブル実習③
13. アンサンブル実習④
14. アンサンブル実習⑤
15. 発表演奏

※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

### 授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。

事前に音源を聴いたり、スコアを見るなど、他のパートにも目を向けておくこと。

### 教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に評価を行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力などに問題がある者)。

科目名 室内楽B c

授業形態 演習

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 吉岡 次郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

フルートを中心とする二重奏～複数のアンサンブルを基盤に、レパートリー修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。

並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催しそこで様々な対応力を学ぶ。

### 授業の到達目標

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性などを習得する。

初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力などを習得する。

### 授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
2. 学習曲目の検討及び組み合わせと初見演奏実習①
3. アンサンブル実習、初見実習②
4. アンサンブル実習、初見実習③
5. アンサンブル実習、初見実習④
6. アンサンブル実習、初見実習⑤
7. アンサンブル実習、初見実習⑥
8. アンサンブル実習、初見実習⑦
9. アンサンブル実習、初見実習⑧
10. アンサンブル実習、初見実習⑨

11. アンサンブル実習、初見実習⑩
12. アンサンブル実習、初見実習⑪
13. アンサンブル実習、初見実習⑫
14. アンサンブル実習、初見実習⑬
15. アンサンブル発表

### 授業時間外の学習

・個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

### 教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 室内楽Bd

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 菊池 奏絵

実務経験 ○

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

楽譜を見ただまま正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣などに興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

### 授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、実践を通して学んで行く。時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現在の実践現場から見えて来る様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えて行く可能性あり。各授業の初めに講義をし、後半はアンサンブル実践をして行く。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

### 授業の到達目標

バロック時代の音楽の演奏法を理解、習得し、どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考える事が出来る。

また、バロック時代の影響を受けているその後の作曲家への理解も深まり、あらゆる時代の音楽と関連付ける事が出来る。

### 授業計画

1. 歴史的知識に基づく演奏とは
2. 楽譜について
3. アンサンブル組み
4. バロック時代周辺の楽器について
5. バロック時代周辺の音楽について

6. アンサンブル中間発表
7. 演奏習慣について
8. 通奏低音について
9. 装飾法①フランス様式
10. 装飾法②イタリア様式
11. 舞曲、組曲について
12. 当時の文献を読む
13. 音楽修辞学について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

### 授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を図書館などを利用して、自分なりにやってくる事。

個人練習、グループでの練習を充分にする事。

### 教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介

### 成績評価

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし総合的に評価する。

- S 総合点90点以上(積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる)
- A 総合点80点以上(積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化がみられる)
- B 総合点60点以上(積極的に取り組み、演奏に生かそうとする)
- C 総合点50点以上(程よく取り組み、程よく演奏する)
- D 総合点49点以下(取り組み姿勢に欠け、演奏の変化がみられない)

科目名 伴奏法Ⅱ

授業形態 演習(技術)

対象 音楽専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 揚原 さとみ

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

教職課程受講者は必修とするが、そうでない学生もアンサンブルに関心を持つ者は歓迎する。

### 授業の概要

主として音楽教育の場に最適なピアノ伴奏法を、実技レッスン・オーディオ資料鑑賞・講義を通じて学び、教育現場で活かせるよう研究していく。

具体的には歌唱や合唱、また器楽合奏指導の教授に適したピアノ伴奏の技法・練習方法・呼吸法などを理解し、実践形式で習得していく。初見ピアノ伴奏、ピアノ弾き語り、コードネームでの即興伴奏についてもふれたい。

教職課程必修科目のため対象場面は学校教育現場としているが、様々な音楽活動においてのピアノ伴奏法を探りたい。

### 授業の到達目標

- ・教育場面において、音楽指導を伴うピアノ伴奏が出来る。
- ・効果的なピアノ伴奏が出来る音感を養う事が出来る。
- ・コードネームを把握し、即興でシンプルな伴奏付けが出来る。

### 授業計画

1. 授業の導入・初見の基礎
2. 初見の練習
3. 初見のピアノ伴奏と即興伴奏付け
4. ピアノ連弾①呼吸を合わせる練習
5. ピアノ連弾②アーティキュレーションを合わせる練習
6. コードネームについて①3和音
7. コードネームについて②4和音
8. コードにおける伴奏付け①筆記編
9. コードにおける伴奏付け②演奏編

10. 弾き語り①斉唱曲(音量バランスに注目する練習)
11. 弾き語り②合唱曲(楽曲分析を伴奏に活かす練習)
12. スコアリーディング(弦楽曲を用いた要約ピアノ演奏)
13. 課題曲レッスン①前半
14. 課題曲レッスン②後半
15. 課題曲発表とフィードバック

※受講生の人数や社会情勢等により内容変更の可能性があります。

### 授業時間外の学習

毎回課題が出されるので予習、復習に努めること。

グループやペアを組んでのレッスンはお互いに協力を深めること。

### 教科書・参考書等

五線紙を毎時間持参する事。

授業時にプリントを配布します。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み60%・実技レッスンと発表40%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、発表未受験者、受講態度に問題がある者)。

科目名 日本音楽概論

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 森重 行敏

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻者も歓迎する。授業への取組みは重視する。日本音楽専修生と教職課程受講者は必修。

### 授業の概要

日本で音楽や舞台芸術に関わるものにとって必要な、伝統芸能に関する基礎知識を身につけることを目標とする。教職をめざす者は必修としたい。将来教育の現場で活用できる知識はもとより、日本の音楽教育にとって重要な日本文化全般へのまなざしと伝統音楽との関係を気づいて行くことの重要性を認識したい。

### 授業の到達目標

日本の音楽や楽器についての基礎知識を身につけるとともに、伝統芸能に親しむことができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 古代の芸能
3. 雅楽①舞楽
4. 雅楽②管絃
5. 雅楽③国風歌舞
6. 能
7. 狂言
8. 中世芸能
9. 歌舞伎
10. 日本舞踊

11. 文楽
12. 箏曲
13. 三曲
14. 明治以降の邦楽
15. 現代の邦楽

### 授業時間外の学習

歌舞伎などの舞台上演、邦楽演奏会などに積極的に足を運ぶようにして欲しい。

### 教科書・参考書等

必要なプリントは随時配布する。推奨する参考書としては、河湊恒子著「日本音楽との出会い」(東京堂出版)。

### 成績評価

授業への取組み・態度50%、課題50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 合奏基礎(和楽器)

授業形態 演習  
(技術)

対象 音楽専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 花岡 操聖

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

日本音楽専修生必修。その他、和楽器に興味のある他専修生。

### 授業の概要

少パート(二重奏から三重奏)のアンサンブルを中心に、基礎的な合奏への取り組み方を身につけていく。楽譜の読み方はもちろん、曲の時代背景などを知ることで知識を高める。

また、日本音楽特有の口唱歌にも触れ、各楽器の特徴を掴み、合奏に活かしていきたい。

### 授業の到達目標

『他パートの音を聴きながら、かつ柔軟な発想と姿勢での合奏』ができる。

具体的には、第一回目に発表した各自の課題を授業最終日までに克服する事を目標とする。

### 授業計画

まずは、この授業に参加するにあたり、自分の課題を1つ決めてくる事(弾きたい曲や克服したい事柄etc)。

第1回は各自の課題を発表・ディスカッションし、2回目以降の授業計画を具体的に立てる。下記に授業計画例を示すが、履修者数や学生の目標により変更する可能性あり。

演奏曲例として「六段の調」「二種の三絃のためのソナタ」「二つの田園詩」、その他希望曲があれば適宜取り上げる。

#### 【授業計画例】

1. 発表・ディスカッション、授業計画について
2. 六段の調①箏(本手・替手)と三絃の合奏

3. 六段の調②箏(本手・替手)と三絃の合奏(仕上げ)
4. 二種の三絃のためのソナタ①I・II章 三絃同士の合奏
5. 二種の三絃のためのソナタ②III・IV章 三絃同士の合奏
6. 二種の三絃のためのソナタ③三絃同士の合奏(仕上げ)
7. 二つの田園詩①箏、17絃箏、尺八、合奏
8. 二つの田園詩②箏、17絃箏、尺八、合奏
9. 二つの田園詩③箏、17絃箏、尺八、合奏(仕上げ)
10. 学生の希望曲①合奏
11. 学生の希望曲②合奏
12. 学生の希望曲③合奏(仕上げ)
13. 学生の希望曲④合奏
14. 学生の希望曲⑤合奏(仕上げ)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

演奏に臨む際は個人練習と併せて、最低1回は合奏練習をして来る事。聴く側の場合は、楽譜を読んでおく事。

### 教科書・参考書等

特になし。適宜配布する。

### 成績評価

成績は、授業に臨む姿勢(80%)と、授業内の発表(20%)にて評価する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下



科目名 演奏解釈(4) 日本音楽

授業形態 講義

対象 音楽専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

日本音楽専修必修。その他の学生は、特に条件はないが、自分の専修以外の楽器や音楽に興味や意欲があること。

### 授業の概要

演奏することにおいては、譜面通りに演奏するというだけでなく、各自がその作品を通して、自分の音楽性や個性を表現できることが重要であると考えます。

この授業では、様々な邦楽器のための音楽を中心として題材に選び、それについて分析し、演奏解釈や演奏方法について模索してみるなど、積極的な意見交換を交えて進めていきたいと思っている。

最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。また、中間と最後にそれまでの講義で学んだ事をもとにした発表の場を設けたいと思っている。

### 授業の到達目標

この授業では以下の事を到達目標とする。

1. それぞれの楽曲に対して、作曲者の意図を理解し、それを自分なりに表現することを考え、実践することを試みること。
2. 邦楽以外のジャンルの音楽でも自分の音楽表現ができる演奏を考えて、実践してみること。
3. 学期の最後に、自分が今まで演奏した曲や、現在演奏している曲、また講義内で提示された曲などを演奏するコンサートを行う事によって、講義で学んだ事を発表する。

### 授業計画

1. オリエンテーション、アンケート
2. 邦楽の原点、雅楽
3. 箏曲「六段の調」分析&派による演奏相違について
4. 地歌「ままの川」その他DVD鑑賞

5. 西洋音楽における様々な新しい楽器奏法について
  6. 現代邦楽で取り上げられている様々な奏法について
  7. 受講生による中間発表、意見交換
  8. 箏のプリベアド方法についてのレクチャー。即興指導など。
  9. たかの編曲作品の演奏解釈指導
  10. 邦楽器演奏の新たな可能性①ジャンルを超えて
  11. 邦楽器演奏の新たな可能性②ジャンルを超えて
  12. 実習①(最終日のコンサートのための準備を含める)
  13. 実習②(最終日のコンサートのための準備を含める)
  14. 実習③(最終日のコンサートのための準備を含める)
  15. レクチャーコンサート
- 順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内容においては、自主練習が必要な場合がある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布

### 成績評価

授業への取り組み40%、コンサート60%

- S 総合点が90点以上の者(積極的に授業に参加しており、試験ないしレポート課題において卓越した評価を得ている。)
- A 総合点が80点以上の者(積極的に授業に参加しており、試験ないしレポート課題において高い評価を得ている。)
- B 総合点が60点以上の者(授業の欠席が少なく、まじめに授業に参加し、試験ないしレポート提出をこなしている。)
- C 総合点が50点以上の者(Bに次ぐ)
- D 総合点が49点以下の者(授業参加日数が十分でなく、試験不参加ないしレポート未提出である。)

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

芸術科演劇専攻

科目名 基礎演劇演習 A a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

a組必修。  
授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機づけと学習習慣を確立させることを目的とする。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノローグドラマ」として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ① 「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノローグドラマ」を完成し、発表することができる。
- ② 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば

7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

毎回の授業への取り組み(50%)、発表内容の質(50%)を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

- S 90点以上(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。)
- A 80～89点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。)
- B 60～79点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。)
- C 50～59点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。)
- D 49点以下(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。)

科目名 基礎演劇演習 A b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① b組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。  
上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ② 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業の取り組み ② 課題の成果 ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲 ⑤ 心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 基礎演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

c組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術①全身、宿題：人間観察全身物まね、赤色エレジー紹介
3. シアターゲーム、基本技術②手、宿題：人間観察手物まね、赤色エレジー読む
4. シアターゲーム、基本技術③足、宿題：人間観察足物まね、

赤色エレジー

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、赤色エレジー
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、赤色エレジー
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、赤色エレジー
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、赤色エレジー
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、赤色エレジー
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、赤色エレジー
11. シーンワーク赤色エレジー
12. 稽古赤色エレジー①
13. 稽古赤色エレジー②
14. 発表会赤色エレジー
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

- (1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。
- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習 A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

d組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をする。

### 授業の概要

演技を技術として学ぶ。配布された戯曲を読み解き、場面として起こし発表に至る過程で舞台づくりに必要な事を学んで行く。戯曲の読み方、俳優の作業、小道具、衣裳、音響、照明等の仕事を総合的に学んでゆく。

### 授業の到達目標

発表までの過程を通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し明確な目標を持つことができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題作品発表、シアターゲーム等
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役、読み合わせ①
6. 立ち稽古①コミュニケーション
7. 立ち稽古②人物の要求の強さを上げる/感情の放棄
8. 立ち稽古③セリフの目的化/行動としてのセリフ
9. 立ち稽古④演技時の俳優の意識の場所
10. 立ち稽古⑤セリフを身体からははずす
11. 照明や音響を入れた稽古

12. 発表①
13. 発表②
14. 発表③
15. 全チームの総評、今後の課題についてのディスカッション  
※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する

### 成績評価

- 以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。
- ①授業への取り組み ②課題の成果 ③自分の課題と向き合っているか ④授業期間中の成長、変化 ⑤座組の一員としての姿勢
- S 総合点が90点以上の者(①~⑤の項目において卓越した結果を残した者)  
A 総合点が80点以上の者(①~⑤の項目において優秀な結果を残した者)  
B 総合点が60点以上の者(①~⑤の項目において標準以上の結果を残した者)  
C 総合点が50点以上の者(①~⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残したもの)  
D 総合点が49点以下の者(授業についてこれなかった者)



科目名 基礎演劇演習B a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

#### a組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、基本技術①全身、宿題：人間観察全身物まね、赤色エレジー紹介
3. シアターゲーム、基本技術②手、宿題：人間観察手物まね、赤色エレジー読む
4. シアターゲーム、基本技術③足、宿題：人間観察足物まね、

#### 赤色エレジー

5. エチュード、小道具、大道具、RudolfPenka紹介、赤色エレジー
6. エチュード、スペース、舞台組み合わせ、赤色エレジー
7. エチュード、コスチューム、篠崎System紹介、赤色エレジー
8. インプロゼーション、ボイストレーニング、赤色エレジー
9. インプロゼーション、ステータス、KeithJohnstone紹介、赤色エレジー
10. シーンワーク、StanislawskiSystem紹介、赤色エレジー
11. シーンワーク赤色エレジー
12. 稽古赤色エレジー①
13. 稽古赤色エレジー②
14. 発表会赤色エレジー
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

- (1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。
- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 基礎演劇演習B b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

#### b組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をする。

### 授業の概要

演技を技術として学ぶ。配布された戯曲を読み解き、場面として起こし発表に至る過程で舞台づくりに必要な事を学んで行く。戯曲の読み方、俳優の作業、小道具、衣裳、音響、照明等の仕事を総合的に学んでゆく。

### 授業の到達目標

発表までの過程を通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し明確な目標を持つことができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題作品発表、シアターゲーム等
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役、読み合わせ①
6. 立ち稽古①コミュニケーション
7. 立ち稽古②人物の要求の強さを上げる/感情の放棄
8. 立ち稽古③セリフの目的化/行動としてのセリフ
9. 立ち稽古④演技時の俳優の意識の場所
10. 立ち稽古⑤セリフを身体からははずす
11. 照明や音響を入れた稽古

#### 12. 発表①

#### 13. 発表②

#### 14. 発表③

#### 15. 全チームの総評、今後の課題についてのディスカッション

※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する

### 成績評価

- 以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。
- ①授業への取り組み ②課題の成果 ③自分の課題と向き合っているか ④授業期間中の成長、変化 ⑤座組の一員としての姿勢
- S 総合点が90点以上の者(①~⑤の項目において卓越した結果を残した者)  
A 総合点が80点以上の者(①~⑤の項目において優秀な結果を残した者)  
B 総合点が60点以上の者(①~⑤の項目において標準以上の結果を残した者)  
C 総合点が50点以上の者(①~⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残したもの)  
D 総合点が49点以下の者(授業についてこれなかった者)



科目名 基礎演劇演習 B c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

c組必修。  
授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

この授業では、各自が有する資質の伸ばすべき長所と克服すべき短所とを見極め、俳優を目指すための確かな動機づけと学習習慣を確立させることを目的とする。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノローグドラマ」として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノローグドラマ」を完成し、発表することができる。
- ② 戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば

7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

毎回の授業への取り組み(50%)、発表内容の質(50%)を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。

- S 90点以上(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。)
- A 80～89点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。)
- B 60～79点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。)
- C 50～59点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。)
- D 49点以下(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。)

科目名 基礎演劇演習 B d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① d組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に基礎的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。  
上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取り組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 身体トレーニングabcd

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 山本 光二郎

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

必修。カラダを動かすことをいとわない者。

### 授業の概要

カラダで表現することに気づき、可能性を確かめる授業である。テクニックの習得もさることながら、受講者個人のカラダに対する許容範囲を広げることを目的とする。

- ・カラダの柔軟性、カラダの持っているリズムを確認する。
- ・ダンスカンパニー・コンドルズの持つ不思議な世界を紹介する、そこから舞台人として自身の見せ方、見られ方を学ぶ。
- ・楽器を使える人、声を使える人はコンテンポラリーダンスを自身のパフォーマンスと融合することを学ぶ。

### 授業の到達目標

カラダを動かすことによって気付く自身の可能性を発見、認識、利用、表現することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入。
2. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。①基本
3. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。②基本
4. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。③基本
5. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。④応用
6. ストレッチする。カラダで遊んでみる。踊るを遊ぶ。⑤応用
7. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ①基本
8. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ②基本
9. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学

習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ③応用

10. 振付けを覚えるトレーニング、音楽と共に動きのフレーズを学習する。雑誌、絵本などメディアを使って踊ることを学ぶ④応用
11. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。①稽古
12. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。②稽古
13. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。③稽古
14. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。④仕上げ
15. コンドルズのダンスを踊ってみる。演出を含めた小作品をつくる。⑤発表

### 授業時間外の学習

授業に参加するには健康であることが大前提であるので、日常的に怪我や病気に注意し、健やかな状態を維持すること。

### 教科書・参考書等

動きやすい、床に転がってもよい服装。裸足もしくは靴下。

### 成績評価

授業への取り組み重視 (90%)、レポート提出 (10%) を100点に換算

- S: 90点以上
- A: 80点以上
- B: 60点以上
- C: 50点以上
- D: 50点未満

科目名 ボイス・トレーニング(歌唱)abcd

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 a b : 藍澤 幸頼 / c d : 信太 美奈

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

必修。  
素直に何でもトライしたい意欲のある者。  
顔面が見えるヘアースタイルで参加。

### 授業の概要

芝居の為、歌の為の呼吸・筋肉・声の出し方・歌い方などを学ぶ。

「ヴォイス」声とはどんな物なのかを知る。  
声と心と筋肉の関係を知る。  
声について色々な角度から試す。

### 授業の到達目標

芝居・歌において、身体を使った声で舞台上に立つことができる。  
完全にはできなくとも、意識は持つことができる。  
筋肉と感情がコントロールできる。

### 授業計画

1. 自己紹介① (ひとりひとり歌ってもらう)
2. 自己紹介② (ひとりひとり歌ってもらう)
3. 呼吸と声
4. 声と筋肉と心①
5. 声と筋肉と心②
6. 発声と感情
7. 身体の意識
8. 発声をしながら気持ちを出す①
9. 発声をしながら気持ちを出す②
10. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する①

11. 台詞を言いながらの気持ちと筋肉について意識する②
  12. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する①
  13. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する②
  14. 台詞、歌を通しての気持ちと筋肉について意識する③
  15. 課題出して試験、まとめ
- ③予定通りに進まない場合もある。

### 授業時間外の学習

授業でやったことを必ず復習。次の授業の時にはそれが無意識でもできるようにしてくる。

たくさんの音楽を聞く。たくさんの舞台人の声を聞く。  
他の授業でも、この授業で習った事を利用して、コラボしようように。

### 教科書・参考書等

授業中にプリントあるいは楽譜を配布。

### 成績評価

授業態度・課題への取組み (予習・復習) 80%、課題の成果 20%などを元に総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上 (意欲があり、課題の予習、復習をしっかり行い成果がある人。)
- A 総合点が80点以上 (意欲はある。課題をやってまあまあ成果が見られた人。)
- B 総合点が60点以上 (課題には向き合うが、向上していない人。)
- C 総合点が50点以上 (課題に向き合う精神がみられない人。)
- D 総合点が49点以下 (授業態度、取り組みが悪い人。)

科目名 演劇演習 A a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① a組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・ 毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
- ・ 相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・ 「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

- 課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- 上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ② 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業の取組み ② 課題の成果 ③ 表現者としての真摯な姿勢 ④ 自らを研鑽する意欲 ⑤ 心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 A b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- b組必修。
- 授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機づけと学習習慣の確立、さらには良きアンサブルの取り方を学ぶ。

そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノロールドラマ」として完成させるという方法をとる。

加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材とった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。

なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ① 「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノロールドラマ」を完成し、発表することができる。
- ② 戯曲の一部を題材とった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば

7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。  
参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- 毎回の授業への取り組み(50%)、発表内容の質(50%)を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 90点以上(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。)
- A 80～89点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。)
- B 60～79点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。)
- C 50～59点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。)
- D 49点以下(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。)



科目名 演劇演習 A c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

c組必修。  
与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をする。

### 授業の概要

演技を技術として学ぶ。配布された戯曲を読み解き、場面として起こし発表に至る過程で舞台づくりに必要な事を学んで行く。戯曲の読み方、俳優の作業、小道具、衣裳、音響、照明等の仕事を総合的に学んでゆく。

### 授業の到達目標

発表までの過程を通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得する。もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し明確な目標を持つことができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題作品発表、シアターゲーム等
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役、読み合わせ①
6. 立ち稽古①コミュニケーション
7. 立ち稽古②人物の要求の強さを上げる/感情の放棄
8. 立ち稽古③セリフの目的化/行動としてのセリフ
9. 立ち稽古④演技時の俳優の意識の場所
10. 立ち稽古⑤ セリフを身体からははずす
11. 照明や音響を入れての稽古
12. 発表①

13. 発表②
14. 発表③
15. 全チームの総評、今後の課題についてのディスカッション  
※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する

### 成績評価

以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取り組み
  - ②課題の成果
  - ③自分の課題と向き合っているか
  - ④授業期間中の成長、変化
  - ⑤座組の一員としての姿勢
- S 総合点が90点以上の者(①～⑤の項目において卓越した結果を残した者)
- A 総合点が80点以上の者(①～⑤の項目において優秀な結果を残した者)
- B 総合点が60点以上の者(①～⑤の項目において標準以上の結果を残した者)
- C 総合点が50点以上の者(①～⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残した者)
- D 総合点が49点以下の者(授業についてこれなかった者)

科目名 演劇演習 A d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

d組必修。  
自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、シーンワークオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居

5. 自習練習発表会二人芝居、反省
6. シーンワーク練習二人芝居、演劇技術論
7. シーンワーク、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論
8. シーンワークコスチューム有り、ボイストレーニング
9. 新ワーク通し
10. 発表会
11. 発表会反省、二番目シーンワークオーディション、演劇技術まとめ
12. シーンワーク、宿題：自主練習
13. シーンワーク通し
14. シーンワーク稽古
15. 発表会、反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

- (1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度40%等を総合的に評価する。
- S (1)～(4)まで90%以上獲得した者
- A (1)～(4)まで80%以上獲得した者
- B (1)～(4)まで60%以上獲得した者
- C (1)～(4)まで50%以上獲得した者
- D (1)～(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習 B a

演習形態 (演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

a組必修。

与えられた課題に十分な時間をかけ自主的に稽古をする。

### 授業の概要

演技を技術として学ぶ。配布された戯曲を読み解き、場面として起こし発表に至る過程で舞台づくりに必要な事を学んで行く。戯曲の読み方、俳優の作業、小道具、衣裳、音響、照明等の仕事を総合的に学んでゆく。

### 授業の到達目標

発表までの過程を通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得する、もしくはそれらの演技と自分の演技の違いを自覚し明確な目標を持つことができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題作品発表、シアターゲーム等
3. 読み、話し合い①
4. 読み、話し合い②
5. 配役、読み合わせ①
6. 立ち稽古①コミュニケーション
7. 立ち稽古②人物の要求の強さを上げる/感情の放棄
8. 立ち稽古③セリフの目的化/行動としてのセリフ
9. 立ち稽古④演技時の俳優の意識の場所
10. 立ち稽古⑤ セリフを身体からははずす
11. 照明や音響を入れての稽古

12. 発表①

13. 発表②

14. 発表③

15. 全チームの総評、今後の課題についてのディスカッション

※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する

### 成績評価

以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取り組み ②課題の成果 ③自分の課題と向き合っているか ④授業期間中の成長、変化 ⑤座組の一員としての姿勢
- S 総合点が90点以上の者 (①～⑤の項目において卓越した結果を残した者)
- A 総合点が80点以上の者 (①～⑤の項目において優秀な結果を残した者)
- B 総合点が60点以上の者 (①～⑤の項目において標準以上の結果を残した者)
- C 総合点が50点以上の者 (①～⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残した者)
- D 総合点が49点以下の者 (授業についてこれなかった者)

科目名 演劇演習 B b

演習形態 (演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

b組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でゲームとインプロビゼーションとエチュードを行う。次にワンシーンを使って演技の基礎をさらに深める。①サブテキストをどのように創出するのか②なりゆきの重要性を理解する③ターニングポイントのきっかけを掴む④困難な状況において自分の演技を維持する。さらに、実に些細な個人的状況がより大きな世界の諸問題とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を独自の方法によって表現することを身につけてほしい。以上を通じて役になるのではなく役を演じることを学んでいく。授業はルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用い、演劇訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム
2. シアターゲーム、エチュード、シーンワークオーディション二人芝居
3. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居
4. シアターゲーム、エチュード、宿題：自主練習二人芝居

5. 自習練習発表会二人芝居、反省

6. シーンワーク練習二人芝居、演劇技術論

7. シーンワーク、稽古、小道具、大道具有り、演劇技術論

8. シーンワークコスチューム有り、ボイストレーニング

9. 新ワーク通し

10. 発表会

11. 発表会反省、二番目シーンワークオーディション、演劇技術まとめ

12. シーンワーク、宿題：自主練習

13. シーンワーク通し

14. シーンワーク稽古

15. 発表会、反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

- (1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。
- S (1)～(4)まで90%以上獲得した者
- A (1)～(4)まで80%以上獲得した者
- B (1)～(4)まで60%以上獲得した者
- C (1)～(4)まで50%以上獲得した者
- D (1)～(4)まで49%以下しか獲得できなかった者



科目名 演劇演習 B c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① c組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に実践的な演技メソッドを学習していく。
- ・相手役との「関係性」を重視し、配布された戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの基礎的な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

- 課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を知ることができる。
- 上演した成果から一人一人の新たな問題点、課題を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ②課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 B d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- d組必修。
- 授業時間外での予習、復習に積極的に取り組むこと。「個」の訓練とグループワークの二つを両立させること。補習を随時実施する予定であるので出席すること。

### 授業の概要

- この授業では、前期に開講された「基礎演劇演習」で培った力量を礎に、俳優を目指すための更なる動機づけと学習習慣の確立、さらには良きアンサブルの取り方を学ぶ。
- そのために、第一の課題として「自画像を演ずる」というテーマを基に、自分自身をできるだけ客観的に見つめ、分析し、自己の自画像を演劇的な「モノローグドラマ」として完成させるという方法をとる。
- 加えて、第二の課題として戯曲(台詞劇)の一部を題材にとった「シーンワーク」を通して、配役のオーディション、本読み稽古、立ち稽古、作品発表へと段階を追って進みながら、演技表現の基本を学ぶこととする。
- なお、履修条件にも記したように、両課題とも日課の授業時間以外に、随時補習を実施し、作品の完成度を高めることに努める。

### 授業の到達目標

- ①「自画像を演ずる」というテーマを基に「モノローグドラマ」を完成し、発表することができる。
- ②戯曲の一部を題材にとった「シーンワーク」を完成し、発表することができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 課題へむけてのウォーミングアップ
3. 「自画像」台本の作成
4. 「自画像」台本の発表
5. 「シーンワーク」の課題提示
6. 「シーンワーク」の本読み①ことば

7. 「シーンワーク」の本読み②うごき
  8. 「シーンワーク」の本読み③関係
  9. 「シーンワーク」のオーディション
  10. 「シーンワーク」の立ち稽古①台詞
  11. 「シーンワーク」の立ち稽古②行動
  12. 「シーンワーク」の立ち稽古③アンサンブル
  13. 「シーンワーク」の作品発表
  14. 自己の「自画像」を演じ発表する。
  15. 他者の「自画像」を演じ発表する。
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

「自画像」は個人、「シーンワーク」ではグループでの自主稽古を徹底しておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書・教材は授業時に発表。  
参考書・必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- 毎回の授業への取り組み(50%)、発表内容の質(50%)を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、補習も含めた授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 90点以上(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が特別に評価できる。)
- A 80～89点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が高く評価できる。)
- B 60～79点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できる。)
- C 50～59点(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が最低限の域に達した。)
- D 49点以下(授業への取り組み、自画像、シーンワークの発表が評価できない。)

科目名 演劇演習C a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

a組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

ひとつの演劇作品のワンシーンを用いて、演技の基礎をさらに深める。以下のことを学ぶ。

- ・「サブテキスト」をどのように創出するのか
- ・「なりゆき」の重要性を理解する
- ・「ターニングポイント」のきっかけを掴む
- ・困難な状況において自分の演技を維持する

さらに、実に些細な個人的状況が、より大きな「世界の諸問題」とどのように結びつくのかを考える。このような状況に対する自分自身の結論を、独自の方法によって表現することを身につけて欲しい。以上を通じて、役に「なる」のではなく、役に「演じる」ことを学んでいく。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット

6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

戯曲、戯曲のコンテキスト本

### 成績評価

(1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習C b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 吉田 小夏

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

b組必修。

- ①アーティストとして心身の健康管理が出来ること。もしくは、自分なりのその方法を見つける意欲のあるもの。
- ②遅刻欠席をせず、積極的に授業に参加する姿勢をもつこと。
- ③その都度の授業内容に見合った稽古用の服装と履物を準備すること。

### 授業の概要

前半ではワークショップ形式の授業を行い、講義、演技の実践、フィードバックを重ねて演技技術を訓練し感性を磨く。

特に、俳優の仕事、演出家の仕事、作家の仕事、それぞれの視点から、課題の現代劇のテキストを丁寧に読み解く。戯曲を出発点に創作する時、俳優と演出家は何を担ってゆくのかを知り、表現者として表現する為の方法論と選択肢を、学習してゆく。

後半では、前半の学習内容を元に、グループごとにシーンのクリエイションに取り組む。

公演の稽古を模した進行で、自主稽古した課題にディレクションやフィードバックをうけながら、小作品を完成させて発表する。

授業全体を通して、卒業後のアーティストとしての社会での活動の仕方、その選択肢の種類やビジョンの持ち方などについても紹介し、学生それぞれの進路へのアプローチ方法を共に発見してゆく。

### 授業の到達目標

1. 自分達が主に日本語で演技をしているということに自覚と誇りを持ち、言葉を味方につけたりアルな演技が実践できる。
2. 日本語で書かれた戯曲、発語される台詞、について、その言語の特徴や文化背景を理解しながら、シーンを読解できる。
3. ナチュラルな演技、ディフォルメした演技、それぞれがどんな技術で成り立ち、どんなシーンで効果的となるのか、理解しプランできる。
4. 表現者としての今の自分の強味・弱点・独創性を発見し、それを生かしながら、チームメンバーと協力して創作が出来る人材となる。

### 授業計画

1. 授業ガイダンス&ワークショップ①イントロダクションとアイスブレイク
2. ワorkshop②講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてI
3. ワorkshop③講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてII
4. ワorkshop④講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてIII
5. ワorkshop⑤講義と実践:台詞の色々についてI/近代演劇史を踏まえて
6. ワorkshop⑥講義と実践:台詞の色々についてII/集団創作のワークI
7. ワorkshop⑦講義と実践:集団創作のワークII
8. ワorkshop⑧講義と実践:キャストの秘密を知るワークショップ
9. 課題戯曲によるクリエイション①グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック

10. 課題戯曲によるクリエイション②グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
11. 課題戯曲によるクリエイション③グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
12. 課題戯曲によるクリエイション④グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
13. 課題戯曲によるクリエイション⑤グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
14. 課題発表の上演会
15. まとめと振り返り

※各ワークショップには、演技技術の基礎身体訓練としてのシアターゲームが毎回含まれる。

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを前提とする。

### 授業時間外の学習

与えられた課題に対して、授業内で行われた演出や指導を、次の授業でしっかり体現できるよう、自主稽古をすること。

発表に向けては、個人の学習・練習と、グループでの学習・練習の、いずれも同じく重視し、大切に時間を使うこと。

教科書、参考書、参考資料については、授業の前後で十分に目を通し、理解しておくこと。

常に視野を広く持ち、出来るだけ色々な舞台を観て、長い人生の中で自分が演劇にどのように関わっていくかのビジョンを探し出すこと。

### 教科書・参考書等

教科書、参考書、として、講師の作成したプリント類、及び戯曲の抜粋を使用する。

参考資料として、WEBサイトの紹介をする場合もある。

いずれも、随時授業時に紹介・配布する。

### 成績評価

以下の項目につき、1項目の評価の割合について20%を目安とし、総合的に100点換算で評価する。

- ①授業内容への理解度
- ②演技技術・技能の進歩
- ③表現者としての感受性の開花

④課題発表の出来栄

⑤授業への態度や意欲

- S 総合評価で90点以上となる者  
A 総合評価で80点以上となる者  
B 総合評価で60点以上となる者  
C 総合評価で50点以上となる者  
D 総合評価で49点以下となる者

科目名 演劇演習 C c

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① c組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・ 毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・ 相手役との「関係性」を重視し、60分程度の中編戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・ 「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの有効な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

- ・ 課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を理解することができる。
- ・ 上演した成果から一人一人の新たな可能性、追求目標を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ② 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

- 教科書：授業時に配布(戯曲)
- 参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業の取組み
  - ② 課題の成果
  - ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲
  - ⑤ 心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 C d

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- d組必修。
- 授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

- ・ 俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならぬことを明確にして演技プランを構築していく。本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じた事が反映されるセンスメモリーなどのトレーニングを用いることで新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現しオリジナリティーある創造性で作り上げていく。舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

- ・ 各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造) ①

4. 身体表現(創造) ②
5. センスメモリーワーク①
6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク(以降、分解して進行) ①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表①(衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

- ・ 授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

- ・ 授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業態度
  - ② 課題の成果
  - ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲
  - ⑤ 身体的、精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者



科目名 演劇演習 D a

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

- ① a組必修
- ② 授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。
- ③ 稽古着は基本的に自由だが、必ず足袋(地下足袋は不可)を着用すること。
- ④ 授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。
- ⑤ 遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- ・ 毎授業で舞台俳優として必要な身体、呼吸の訓練を中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・ 相手役との「関係性」を重視し、60分程度の中編戯曲を「課題」として、研究、稽古、完成させ発表する。
- ・ 「台詞」「身体表現」「小道具」「衣装」「音響」「照明」俳優にとって必要なこれらの有効な扱い方を課題の中で学習していく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、完成と発表から演技の本質を理解することができる。  
上演した成果から一人一人の新たな可能性、追求目標を発見することができる。

### 授業計画

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性

10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
  11. 上演(1班)・反省/課題
  12. 上演(2班)・反省/課題
  13. 上演(3班)・反省/課題
  14. 上演(4班)・反省/課題
  15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 与えられた課題の研究、稽古を行うなかで「台詞」と「身体表現」を鍛えること。
- ② 課題上演で自分が利用する「小道具」「衣装」「音響」「照明」を検討、作成すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業の取組み
  - ② 課題の成果
  - ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲
  - ⑤ 心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演劇演習 D b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

b組必修。  
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

俳優という表現者として与えてもらうのではなく、表現したいこと、しなければならぬことを明確にして演技プランを構築していく。本授業のメソッドでは各自がこれまでの人生で感じた事が反映されるセンスメモリーなどのトレーニングを用いることで新たな表現の発見が期待できる。シーンワークでは役の「役割」と「心理描写」を追求、探求しながら嘘のないリアリティある演技を目指し「役として生きる」。他の演者から影響されて動く感情「受け芝居」を繊細に表現しオリジナリティーある創造性で作り上げていく。舞台、映像問わず俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造)①

4. 身体表現(創造)②
5. センスメモリーワーク①
6. センスメモリーワーク②
7. インプロ①
8. インプロ②
9. シーンワーク(以降、分解して進行)①
10. シーンワーク②
11. シーンワーク③
12. シーンワーク④
13. シーンワーク発表①(衣裳・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ① 授業態度
  - ② 課題の成果
  - ③ 表現者としての真摯な姿勢
  - ④ 自らを研鑽する意欲
  - ⑤ 身体的、精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 演劇演習Dc

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

#### c組必修。

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに對する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、シアターゲーム、作品紹介
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット

6. 照明、音響、映像等セット
7. ワンシーン通し、反省
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古、ボイストレーニング
10. ワンシーン稽古
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」晩成書房  
研究旅行(キース・ジョンストン ルズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演劇演習Dd

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 吉田 小夏

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

#### d組必修。

- ①アーティストとして心身の健康管理が出来ること。もしくは、自分なりのその方法を見つける意欲のあるもの。
- ②遅刻欠席をせず、積極的に授業に参加する姿勢をもつこと。
- ③その都度の授業内容に見合った稽古用の服装と履物を準備すること。

### 授業の概要

前半ではワークショップ形式の授業を行い、講義、演技の実践、フィードバック、を重ねて演技技術を訓練し感性を磨く。

特に、俳優の仕事、演出家の仕事、作家の仕事、それぞれの視点から、課題の現代劇のテキストを丁寧に読み解く。

戯曲を出発点に創作する時、俳優と演出家は何を担ってゆくのかを知り、表現者として体現する為の方法論と選択肢を、学習してゆく。

後半では、前半の学習内容を元に、グループごとにシーンのクリエイションに取り組む。

公演の稽古を模した進行で、自主稽古した課題にディレクションやフィードバックをうけながら、小作品を完成させて発表する。

授業全体を通して、卒業後のアーティストとしての社会での活動の仕方、その選択肢の種類やビジョンの持ち方などについても紹介し、学生それぞれの進路へのアプローチ方法を共に発見してゆく。

### 授業の到達目標

1. 自分達が主に日本語で演技をしているということに自覚と誇りを持ち、言葉を味方につけたりアルな演技が実践できる。
2. 日本語で書かれた戯曲、発語される台詞、について、その言語的特徴や文化背景を理解しながら、シーンを読解できる。
3. ナチュラルな演技、ディフォルメした演技、それぞれがどんな技術で成り立ち、どんなシーンで効果的となるのか、理解しプランできる。
4. 表現者としての今の自分の強味・弱点・独創性を発見し、それを生かしながら、チームメンバーと協力して創作が出来る人材となる。

### 授業計画

1. 授業ガイダンス&ワークショップ①イントロダクションとアイスブレイク
2. ワークショップ②講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてI
3. ワークショップ③講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてII
4. ワークショップ④講義と実践:現代口語演劇の方法論を用いてIII
5. ワークショップ⑤講義と実践:台詞の色々についてI/近代演劇史を踏まえて
6. ワークショップ⑥講義と実践:台詞の色々についてII/集団創作のワークI
7. ワークショップ⑦講義と実践:集団創作のワークII
8. ワークショップ⑧講義と実践:キャストの秘密を知るワークショップ
9. 課題戯曲によるクリエイション①グループでのシーン作り+ディレクションと

- フィードバック
10. 課題戯曲によるクリエイション②グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
11. 課題戯曲によるクリエイション③グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
12. 課題戯曲によるクリエイション④グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
13. 課題戯曲によるクリエイション⑤グループでのシーン作り+ディレクションとフィードバック
14. 課題発表の上演会
15. まとめと振り返り

※各ワークショップには、演技技術の基礎身体訓練としてのシアターゲームが毎回含まれる。

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを前提とする。

### 授業時間外の学習

与えられた課題に対して、授業内で行われた演出や指導を、次の授業でしっかり体現できるよう、自主稽古をすること。

発表に向けては、個人の学習・練習と、グループでの学習・練習の、いずれも同じく重視し、大切に時間を使うこと。

教科書、参考書、参考資料については、授業の前後で十分に目を通し、理解しておくこと。

常に視野を広く持ち、出来るだけ色々な舞台を観て、長い人生の中で自分が演劇にどのように関わることのビジョンを探し出すこと。

### 教科書・参考書等

教科書、参考書、として、講師の作成したプリント類、及び戯曲の抜粋を使用する。

参考資料として、WEBサイトの紹介をする場合もある。

いずれも、随時授業時に紹介・配布する。

### 成績評価

以下の項目につき、1項目の評価の割合について20%を目安とし、総合的に100点換算で評価する。

①授業内容への理解度 ②演技技術・技能の進歩 ③表現者としての感受性の開花 ④課題発表の出来栄 ⑤授業への態度や意欲

- S 総合評価で90点以上となる者  
A 総合評価で80点以上となる者  
B 総合評価で60点以上となる者  
C 総合評価で50点以上となる者  
D 総合評価で49点以下となる者



科目名 演技演習 A (ダイアログ) a b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ストレートプレイコース必修。授業時間外での自習、自主稽古を必要とする。アーティストとしての自立、ならびに共同作業の二つを両立させること。稽古着を着用すること。

### 授業の概要

ダイアログ=対話の演劇創造を可能とするための「相手と関わる」ことの出来る俳優の心身の確立。アーティスト自身の想像力を以て、即興からグループワークでシーンを作る、ディバイジングの用法を用いて自分自身と客観的に向き合うシーンを創る。

ダイアログをメインにしたシーンを既存の戯曲から抜粋、「シーンワーク」を行なう。創造過程を学習し、最終発表を行なう。シーンの中の対話に留まらず、演劇活動に於ける全ての対話、「アーティスト同士の対話」「観客との対話」「社会との対話」にも創造過程に於いて目を向ける。

### 授業の到達目標

1. ディバイジングによるシーンの発表(グループワーク)ができる。
2. 課題で与えられたシーンの発表(二人一組)ができる。
3. 自分で見つけたシーンの発表(二人一組)ができる。
4. 創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての発見の報告(個人)ができる。

### 授業計画

1. 導入/目標設定
2. 身体訓練について/演劇的自己紹介①
3. 演劇的自己紹介②
4. サブテキストによる対話シーンの創造①1回目の発表
5. サブテキストによる対話シーンの創造②2回目の発表
6. フィジカルシアター(身体表現) ①ジェスチャー

7. フィジカルシアター(身体表現) ②テンポと空間的関係性
  8. ディバイジング(グループワークの創造) ①1回目の発表
  9. ディバイジング(グループワークの創造) ②2回目の発表
  10. 翻訳戯曲によるシーンワーク①取り組む戯曲の提案と本読み
  11. 翻訳戯曲によるシーンワーク②1回目の発表
  12. 翻訳戯曲によるシーンワーク③2回目の発表
  13. 課題戯曲によるシーンワーク①1回目の発表
  14. 課題戯曲によるシーンワーク②2回目の発表
  15. 総評/自己と他者に関する発見の報告
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

各シーンワーク発表に向けての自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：教材は授業時に発表。  
参考書：必要に応じて随時指定。

### 成績評価

- ①授業への取組み80%②発表の内容の総合的評価20%の総合評価
- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表がたいへん高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技演習 B(アンサンブル) a b

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 シライ ケイタ

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ストレートプレイコース必修。自分に興味があること。他者に興味があること。表現に興味があること。演技に興味があること。つまり、人間に興味があること。

### 授業の概要

演劇におけるアンサンブルとは、没個性を意味しない。突出した個性の集合体としてのアンサンブルを探索する。言葉にできる「感情」を起点とする演技ではなく、言葉にできない「衝動」「本能」「生理現象」を起点とする演技を学ぶ。

「衝動」が、具体的な「目的」を生み、「行動」に至るという人間の仕組み、つまり演技の仕組みを理解する。

演技における「目的」とは、自分の役柄の感情や状態の説明ではなく、常に他者を変化させるために設定するべきであることを理解する。

演技における「行動」とは、「台詞」と「動作」であることを理解し、具体的に「話す」「動く」ことを学ぶ。

グループで小作品を制作することで演劇作品の制作過程を体験し、「他者」との関わりの中での「自分」というものを自覚する。

### 授業の到達目標

演技は楽しいものだと知ることができる。  
戯曲を「感情」ではなく「目的」で読む癖をつけることができる。  
演技は抽象的なものではなく、具体的なものであることを理解できる。  
「他者」との共同作業を通じて、演劇作りの楽しさを体験できる。

### 授業計画

- 1~14回は座学と実技を並行して行っていく。
- 座学は、演劇の歴史、演技術の変遷、現代リアリズム演技の基本、日本の演劇界の現在、戯曲の読み方、などを語る。
- 実技は、既存のテキストを使う集団創作と、テキスト作りから体験する集団創作を行う。
- <授業計画>座学
1. 導入
2. 演劇とは。演技とは。
3. 課題発表に対する講評。
4. 日本における演技方法の変遷。
5. 「感情」ではなく「衝動」を大切に。
6. 課題発表に対する講評。
7. 言葉の「意味」ではなく、身体の「状態」で演技する。
8. 課題発表に対する講評。
9. 演技とは「行動」であり、「感情」を操作することでは無い。
10. テキストの読み解き方。
11. 課題発表に対する講評①
12. 課題発表に対する講評②
13. 課題発表に対する講評③
14. 課題発表に対する講評④

15. 授業の総括
- <授業計画>実技
1. 導入
2. テキストを使って二人の会話を体験する。
3. 二人の会話の課題発表
4. 「説明」する演技ではなく、「存在」する演技を体験する。
5. テキストを使って複数での会話を体験する。
6. 複数人の会話の課題発表①
7. 言葉の「意味」に頼らないコミュニケーションを体験する。
8. 複数人の会話の課題発表②
9. 「行動」の後に「感情」が生まれることを体験する。
10. テキストを読む訓練の為に、テキストを自ら作ってみる。
11. 集団創作の課題発表①
12. 集団創作の課題発表②
13. 集団創作の課題発表③
14. 集団創作の課題発表④
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

出された課題に対し、グループでよく話し合い稽古する時間を確保すること。とにかく、様々な体験をすること。日常を生き生きと、食欲に生きること。演劇を沢山見ること。同年代のプロフェッショナル達が、どんなレベルで仕事しているかを知ること。

### 教科書・参考書等

テキストは適宜、授業時に配布する。  
「俳優のためのハンドブック」(フィルムアート社)を参考書として勧める。が、これを元に授業を行うわけではないので、無理に買うことはない。しかし読めばかなり役に立つ。

### 成績評価

- 授業への取り組み40%、日々の自己研鑽30%、課題発表の成果30%を総合的に判断して評価する。なお、当然ながら、授業への出席が良好であることを前提とする。
- S 授業への取り組み、課題の発表が特別に評価できる。
- A 授業への取り組み、課題の発表が高く評価できる。
- B 授業への取り組み、課題の発表が評価できる。
- C 授業への取り組み、課題の発表が最低限の域に達した。
- D 授業への取り組み、課題の発表が評価できない。

科目名 ショーダンスⅠ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ミュージカルコース必修。

### 授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

実技公開試験に向けて、作品を踊り込むことにより、肉体、感性、表現を磨くことができる。

### 授業計画

1. 1年次の復習と確認①前半
2. 1年次の復習と確認②後半
3. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う①基礎
4. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う②応用
5. さらに表現を広げ、自分の個性が生かされるよう肉体の訓練を行う③発展
6. 振り付けを覚える①基礎

7. 振り付けを覚える②応用
8. 振り付けを覚える③発展
9. 踊り込み①基礎
10. 踊り込み②応用
11. 踊り込み③発展
12. 踊りを創り上げ、作品化する①稽古
13. 踊りを創り上げ、作品化する②落とし込み
14. 踊りを創り上げ、作品化する③仕上げ
15. まとめ

### 授業時間外の学習

実技公開試験の振付・練習を行う為、時間外の練習にも参加すること。できない振り付けは自主トレーニングして参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ショーダンスⅡ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「ショーダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。ミュージカルコース必修。

### 授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

前期で学んだこと、実技公開試験の反省点、自分に不足していることを考え、自分の目標を新たに持つことができる。踊りの技術を高め、感性、表現の幅を広げることができる。

### 授業計画

1. 今まで学んだ事を復習、確認①前半
2. 今まで学んだ事を復習、確認②後半
3. 技術を向上させ、肉体訓練を行う①入門
4. 技術を向上させ、肉体訓練を行う②基礎
5. 技術を向上させ、肉体訓練を行う③応用
6. 技術を向上させ、肉体訓練を行う④発展
7. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する①入門

8. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する②基礎
9. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する③応用
10. 得意分野だけでなく、いろんな踊りのジャンルを体現する④発展
11. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく①入門
12. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく②基礎
13. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく③応用
14. 踊りにおける、感性、表現の幅を広げていく④発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

できない振り付けは自主トレーニングして次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 ミュージカルトレーニング B ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 信太 美奈

実務経験 —

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

- ・ミュージカルコース必修。
- ・日常のクラスはなるべく身体のラインが見える練習着を着用とする。
- ・LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。  
「ミュージカルトレーニングB①」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA①」、「ミュージカルトレーニングB②」履修者は「ミュージカルトレーニングB-LA②」に参加すること。
- ・シューズはジャズシューズと女子はヒールのあるダンスシューズが必要。
- ・ナンバーに合う練習着を着用。
- ・顔面が見えるヘアスタイルで参加。

### 授業の概要

ミュージカル作品の歌を、ストーリー、セリフの中からの流れで気持ちをもどるように込めて歌うか。  
呼吸法・発声法・筋肉の使い方。  
最後に7月の高校生のためのワークショップを公開試験とする。

### 授業の到達目標

前年度より引き続き、呼吸、筋肉の意識を高めることができる。  
暗譜したミュージカルナンバーをダンスやステージングに取り入れながら表現することができる。

### 授業計画

1. 前年度の反省と今学期の目標など語りあう
2. 曲選び
3. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む①
4. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む②
5. 具体的に選曲した楽曲を歌い込む③
6. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習①
7. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習②
8. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習③
9. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習④
10. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑤
11. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑥
12. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑦

13. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑧
14. 歌の周囲のステージング、セリフなども練習⑨
15. 公開試験

③オーディションにより出演の曲目決定

### 授業時間外の学習

- 呼吸・筋肉の使い方をマスターするように日々努力する。
- 楽譜が読めるように努力する。
- 課題を必ず次の授業までに暗譜する。
- グループで歌う場合は集まって練習する。
- 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

CD、ミュージカル作品を見たり聞いたりして欲しい。  
授業中に資料配布。

### 成績評価

授業態度・課題への取り組み(予習・復習) 60%、課題の成果 40%を元に総合的に評価する。

- S 意欲があり、課題の予習、復習をしっかりと行い成果がある人。
- A 意欲はある。課題をやってままあ成果が見られた人。
- B 課題には向き合うが、向上していない人。
- C 課題に向き合う精神がみられない人。
- D 授業態度、取り組みが悪い人。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
[授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい]のではなく、[授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないと正しく理解すること。]

科目名 ミュージカル演習①②

授業形態 演習 (演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 —

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

ミュージカルコース必修。  
授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

「音」を「楽しみ」、心が動く「演技表現」と空間と空気が動かし「身体表現」を学ぶ。ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」とは何かを学ぶ。シーンワークでは(群像・ペア・ソロ)ミュージカル特有の「形だけの演技」ではない、演技をしっかりと構築し「役として生きる」ことを体感する。俳優という職業として自分の「商品価値」を見出ししていくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自がそれぞれ得手不得手を素直に理解し、自らそれを更に伸ばし、克服しようとする努力をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク①(力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク②(力量チェック) 自己分析
3. 身体表現(創造)
4. 身体表現(楽曲を使用)
5. インプロ①
6. インプロ②

7. シーンワーク①(演技・歌唱・振付を区分しながら進行)
8. シーンワーク②
9. シーンワーク③
10. シーンワーク④
11. シーンワーク⑤
12. シーンワーク⑥
13. シーンワーク発表①(衣装・大道具・小道具あり)
14. シーンワーク発表②(衣装・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者



科目名 演劇特別演習Ⅰ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鴻上 尚史

実務経験

期間 後期

他専攻 /

—

### 履修条件

やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

### 授業の概要

「正しい発声とは何か?」と「正しい身体とは何か?」を明確にします。そして、演技の基本であるスタニスラフスキー・システムをおさえます。

### 授業の到達目標

舞台上立つにふさわしい声や身体、演技の考え方、アプローチのしかたを身につけることができる。

### 授業計画

1. 正しい発声とは何か?①呼吸について
2. 正しい発声とは何か?②共鳴について
3. 正しい発声とは何か?③丹田で支える
4. 正しい発声とは何か?④ベクトル
5. 正しい発声とは何か?⑤個人の声
6. 正しい身体とは何か?①身体の外側
7. 正しい身体とは何か?②身体の内側
8. 正しい身体とは何か?③リラックスとは
9. 正しい身体とは何か?④自由な身体
10. スタニスラフスキー・システムについて①マジック・イフ
11. スタニスラフスキー・システムについて②目的

12. スタニスラフスキー・システムについて③障害
13. スタニスラフスキー・システムについて④行動
14. スタニスラフスキー・システムについて⑤演技とは
15. 上手な演技とは何か?

### 授業時間外の学習

とにかく、いろんな芝居(特に20代や同世代の)を見てほしい。20代の俳優が何をしているか、仙川から出て、見ること。

### 教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「演劇入門」(集英社新書)、「演技と演出のレッスン」[発声と身体のレッスン](白水社)である。

が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

### 成績評価

授業への取組み及び授業での参加態度100%で評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 演劇特別演習Ⅱ①②③

授業形態 演習(演技)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鴻上 尚史

実務経験

期間 前期

他専攻 /

—

### 履修条件

「演劇特別演習Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。やる気があれば、それでいい。逆にいえば、やる気がないのになんとかは受けないでほしい。それは、お互いの不幸になる。

### 授業の概要

- ・上手な演技とは何かを中心に、演技に対してさまざまな角度からアプローチします。
- ・「声の5つの要素」
- ・三つの集中の輪
- ・リアルな感情と意識した動きの共通部分としての演技の追求。
- ・舞台の演技と映像の演技の違い。

### 授業の到達目標

リアルにかつ楽しく演技ができる。  
「嘘」と「嘘くさい」と「リアル」の演技の違いが分かるようになる。

### 授業計画

1. 声の教養・身体の教養を上げるために①
2. 声の教養・身体の教養を上げるために②
3. 声の教養・身体の教養を上げるために③
4. 声の教養・身体の教養を上げるために④
5. リアルな演技とは何か?①
6. リアルな演技とは何か?②
7. リアルな演技とは何か?③
8. リアルな演技とは何か?④

9. リアルな演技とは何か?⑤
10. さまざまな演技のトライアル①
11. さまざまな演技のトライアル②
12. さまざまな演技のトライアル③
13. さまざまな演技のトライアル④
14. さまざまな演技のトライアル⑤
15. さまざまな演技のトライアル⑥

### 授業時間外の学習

とにかく、いろんな芝居(特に20代や同世代の)を見てほしい。20代の俳優が何をしているか、仙川から出て、見ること。

### 教科書・参考書等

参考書としては、「あなたの魅力を演出するちょっとしたヒント」(講談社文庫)、「俳優入門」(講談社文庫)、「演技と演出のレッスン」(白水社)である。

が、あくまで参考書であるので、無理に買うことはない。授業でちゃんと行う。

### 成績評価

授業への取組み及び授業での参加態度100%で評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価50点未満

科目名 マイム①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 江ノ上 陽一

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

表現する身体に関心を持ち、表現者となるための熱意を行動で示すことが出来る。  
意欲を持って技術の取得、想像力の具現化へ取り組むこと。稽古着、稽古履き着用のこと。無断での遅刻、欠席は厳禁。

### 授業の概要

パントマイムとは言語という具象行為を意図的に廃し言葉さえも肉体化する芸術である。それは、日常全ての言語を肉体化するということ。  
そのためには肉体の緊張と弛緩、分解、重心移動、動くスピードのコントロールなどを習得する事が必須である。また、肉体訓練を継続して行い、演技者として人前に立つ為に不可欠な、想いを表現できる身体の獲得を目指す。  
同時に、観察を基に無意識な日常行動における身体的動作の認識作業を行い、「動き」に「想い」を込め、独自の魅力的な所作を手に入れる。  
基本的なテクニックを身につけた上で、「無声」、「何もない空間」という状況の中で、想像力を駆使し身体だけの表現を体現出来るようにする。

### 授業の到達目標

正確なパントマイムテクニックの習得。自由で型破りな想像力を獲得できる。  
身体だけで言葉を使わずに、自分の「想い」を他者に伝える術を知ることが出来る。

### 授業計画

- ボディコントロールの訓練：身体のみで表現するために必要な筋力を強化する。思い描いた動きを体現するためには必要不可欠な要素なのである。
- 重心移動を学ぶ：その場で歩行（移動）を表現する方法の取得。
- 緊張と弛緩を身につける：テクニックのスキルアップは勿論、多様な感情表現を体現する。また、呼吸との関係も学ぶ。
- 観察力を養う：学生同士の発表の場において、お互いの演技の感想を述べあうことで見る目を養う。眼で覚えるという感覚を磨く。
- 間の取り方を知る：文章に「。」や「。」があるように、身体言語にも必要不可欠な「。」や「。」を知り、活用する。
- デフォルメ：ある動きを誇張し、その事で強く印象付ける術を学ぶ。
- ここまで習得したテクニックの小テストを行う：決められた時間内でのパフォーマンスをアンサンブルにて表現する。他者と一緒にパフォーマンスすることで、協力して創作する術を体験する。（状況によってはソロパフォーマンスとする）
- 既存のイメージからの脱却：発想の転換をはかり、独自の表現を生み出す。
- 仕草：様々なちょっとした動作や表情（仕草）、所作にて魅力的なキャラクタを創る。

- アンサンブル：7での小テストを踏まえ、成熟させる時間とする。無声での会話、ルール（時間）がある上での表現の完成。
- パフォーマンス① 複数人でのグループ創作作業。各々アイデアを駆使し、与えられたテーマで創作。（状況によってはソロパフォーマンスとする）
- パフォーマンス② 各グループをシャッフルし、違う仲間との創作作業で新たな体験を生み出す。（状況によってはソロパフォーマンスとする）
- パフォーマンス③ 与えられたテーマ、音楽、時間にて短い物語をつくり表現としての構想を練る。
- パフォーマンス④ 練り上げた構成をもとに作品を成熟させていく。
- パフォーマンス⑤ 完成させた作品の発表。

### 授業時間外の学習

日常生活の中で復讐、復習すること。「読む」「見る」「触れる」「食べる」…全ての経験を糧にするよう、感性を研ぎ澄ませて生活すること。  
基本的なストレッチや身体訓練を自主的に行うこと。  
中間テスト実施するので授業内容をよく復習しておくこと。

### 教科書・参考書等

講師が授業にて見せる演技は「生きた教材」である、見逃さず参考にする。  
必ず稽古着を着用すること。また、ダンスシューズ等の上履きを使用すること。なければスニーカーでも可。  
参考資料等は必要時に配布

### 成績評価

- (1) 授業参加における積極性 (50%) (2) 授業への取り組み方、他の演者とのコミュニケーション (20%) (3) 課題に対する評価 (20%)  
上記の3点を基準に下記の点 (10%) を加味し総合的に判断する
- S: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が非常に高い。②テクニックのスキルレベルが非常に高い。  
③作品創作にあたりストーリー構築にオリジナリティがある
- A: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方の理解度が高い。  
②テクニックのスキルレベルが高い。  
③独自の発想による表現ができる。
- B: ①パントマイムを演じる上での身体の使い方、考え方をある程度理解している。②テクニックのスキルレベルが高い。  
③既存のイメージではない発想にて表現ができる。
- C: Bの①②③のうち1つは身につけているもの
- D: Bの①②③が全く身につけていない者

科目名 アクション①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 藤田 けん

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

現代アクション・時代アクション（殺陣）を隔週で行なう。立ち廻りによって身体を動かすことにより、わきあがる感情を自然に表現できるよう基本を指導する。

現代アクションは、表現者として身体をつかって感情を出せるように指導する。

時代アクションは、刀など武器に感情がのるように指導する。

### 授業の到達目標

- 俳優として最小限の基本を身につけることができる。
- 人を怪我させないように立ち廻りを行うことができる。

### 授業計画

現代アクション、時代アクションとも体をあたためることから始める。

- 導入
- 現代アクションの基本練習①
- 現代アクションの基本練習②
- 殴り、蹴り、受け、よけ方など
- 1対1での基本練習
- 現代アクションの基本的な立ち廻り①

- 現代アクションの基本的な立ち廻り②
- 時代アクションの基本練習①
- 時代アクションの基本練習②
- 正眼、真っ向、袈裟、突き、体裁きなど
- 1対1での基本練習①
- 1対1での基本練習②
- 時代アクションの基本的な立ち廻り①
- 時代アクションの基本的な立ち廻り②
- まとめ 回数によってレベルを上げていく。

### 授業時間外の学習

自己の体調管理、体力の増進を行なう。

### 教科書・参考書等

適宜配布する。動きやすい格好で受講すること。

### 成績評価

やる気・授業態度40%、課題への取組み40%、課題の成果20%を元に総合的に評価する。

- S 90点以上 立ち廻りが指導でき表現もできるもの。  
A 80点以上 立ち廻りが十分に表現できるもの。  
B 60点以上 立ち廻りがほぼ表現できるもの。  
C 50点以上 立ち廻りがあまり表現できないもの。  
D 49点以下 立ち廻りが表現できないもの。



科目名 日本舞踊Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制 対象外

担当教員 藤間 希穂

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

- ①稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
- ②授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。(目安:週2～3時間程度(個人差あり))
- ③授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結ぶこと。
- ④授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
- ⑤遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

1. 表現者として唯一無二の存在になることを確認する
  2. プロフェッショナルとしての心得とマナーの体得
  3. グローバルに活躍するためにも、日本人としての価値観を見出し磨く
  4. 古典芸能を通して、現場で説得力を増すスキルを身に付ける
  5. 「人前へ出ることに必要な美意識を向上させる以上を目標に「座学」と「実技」の二部構成で行う。
- ・座学では活躍しつづける表現者として必要な「価値を生む素養～健康・品性・コミュニケーション～」について学ぶ。美意識を高めるとともに、表現者として必須の精神性を学ぶ。また「コミュニケーションシート」を毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
  - ・実技では「人前で表現する者として必要な所作」を古典芸能を通じて体得する。座学で深めた理解を実際に表現する手法を学ぶ。
- 曲 目 立方(たちかた) 長唄「松」  
女形(おんながた) 長唄「新曲娘道成寺」または「京の四季」  
(受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定)

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を人前で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言するとともに傾聴を重んじ、自ら考え行動することができる。
- ・コミュニケーションシートでは自己成長を促す「得意分野」と「改善点」を見出し表現できる。

### 授業計画

- ◆授業タイムスケジュール  
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分  
後半40分 男子「松」・女子「松+新曲娘道成寺」  
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなります
- ◆授業進行

  1. 導入ー松、新曲娘道成寺の助手による実演着付け、量み方、立ち居振る舞い
  2. 価値観3choice 自己紹介ー知恵袋①  
男子:松10C+手踊り 女子:松10C+新娘 基本動作  
着付け、量み方チェック、立ち居振る舞い、扇開閉、構え、すり足
  3. 自己分析シートー知恵袋②  
男子:松20C+手踊り 女子:松20C+新娘 基本動作  
立居振舞、帯結びテスト
  4. 価値を生むー知恵袋③

- 男子:松後ろ向き左手扇+手踊り 女子:松後ろ向き左手扇+新娘伊達者  
立居振舞、構え
  - 5. ディスプレイルールー知恵袋④  
男子:松前半最後+手踊り 女子:松前半最後+新娘 1番  
立居振舞、摺足
  - 6. 継続と行動①ー知恵袋⑤  
男子:松前半復習+手踊り 女子:松前半復習+新娘 1番復習  
立居振舞、扇開閉
  - 7. 継続と行動②ー知恵袋⑥  
男子:松ちらし荒磯松+手踊り 女子:松ちらし荒磯松+新娘 封じ文  
立居振舞、扇振り方確認
  - 8. 継続と行動③ー知恵袋⑦  
男子:松さつさつ+手踊り 女子:松さつさつ+新娘 2番最後  
立居振舞、要返し
  - 9. 継続と行動④ー知恵袋⑧  
男子:松ちらし最後+手踊り 女子:松さつさつ+新娘 3番  
立居振舞、要ほつき
  - 10. コミュニケーションワーカー知恵袋⑨  
フォーメーション練習①振り役に役立つ立居振舞技粋①
  - 11. プライオリティシーリングー知恵袋⑩  
フォーメーション練習②振り役に役立つ立居振舞技粋②
  - 12. 自己計画表作成提出ー知恵袋⑪  
フォーメーション練習③振り役に役立つ立居振舞技粋③
  - 13. コミュニケーションワーカー知恵袋⑫実技テスト用練習①
  - 14. プレテスト実技テスト用練習②
  - 15. 本テスト実技テスト(スタジオ発表)
- ※予定は進行状況により変更される場合があります。  
※ハイブリッド型授業の場合  
座学…オンライン又はオンデマンド授業  
実技…教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

### 授業時間外の学習

- ・着付け、所作が正しくできるようにお稽古する。
- ・習った曲と振りが一致するようにお稽古する。
- ・振り入れが終了したら、全員で1作品を作る意識を持ちお稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

- 出席・筆記試験・実技試験・授業態度(取組み)・コミュニケーションシートを総合して満点100点にて評価。(点数配分各20点)
- S 100点～90点 A 89点～80点  
B 79点～60点 C 59点～50点  
D 49点以下

科目名 日本舞踊Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制 対象外

担当教員 藤間 希穂

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

- ①「日舞Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。
- ②稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
- ③授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。(目安:週2～3時間程度(個人差あり))
- ④授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結ぶこと。
- ⑤授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
- ⑥遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。

### 授業の概要

- 日舞Ⅱで目標にした1～5の目標をさらに深耕し、「座学」と「実技」の二部構成で行う。
- ・座学では「日本舞踊Ⅰ」にて学んだ表現者の心得(品性・健康・コミュニケーション能力・美意識)を基にさらにパーソナルプランニングの構築を意識したプロフェッショナルとしての素養を身に付ける。また「コミュニケーションシート」を毎時間記入し、講師の助言を通して課題や解決策を見出し、自立自走を目指す。
  - ・実技では座学で学ぶボジックに加え、実技公開テストで発表する古典(全員参加)と創作(自由参加)の演目の構築を通して表現者に必要な所作を学ぶ。
- 曲 目 立方(たちかた) 長唄「青海波」  
女形(おんながた) 長唄「あやめ浴衣」または常磐津「紅売り」  
(受講人数等によりどちらか1曲を講師が選定)
- 創作 講師が企画・振付・演出する創作舞踊  
(例:「櫻姫」「かぐやの君」等)

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を舞台で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では積極的に発言するとともに行動変容も伴い、傾聴の結果共同作品に良い効果を生むこと。
- ・コミュニケーションシートでは自己課題の抽出、課題解決提案ができ、実行及び言語表現できる。

### 授業計画

- ◆授業タイムスケジュール  
男女共通前半50分…出席10分、座学25分、知恵袋5分、所作10分  
後半40分 男子「青海波」・女子「あやめ浴衣or 紅売り」or 菊の栄  
※座学がない進行の場合、知恵袋が繰り上がり、実技時間が25分長くなります
- ◆授業進行

  1. 自己価値観復習 青:松島の～なつかしき  
あ:飾り兜の～白重ね 紅:紅染めの～たしなみはの前
  2. 礼儀①・1分間スピーチ 青:梅の花貝～あかぬなる  
あ:暑さに～染浴衣 紅:たしなみは～恋の色
  3. 礼儀②・1分間スピーチ 青:花の跡～船の中  
あ:古代模様の～晴浴衣 紅:恋の色～後～京育ち
  4. 礼儀③・1分間スピーチ 青:あらめで鯛は～初めしり

- あ:髻のほつれを～好いた同士 紅:蛤の貝～浅じめり
  - 5. 礼儀④・1分間スピーチ 青:蛭子の神の～漁火の  
あ:命と腕に～糸柳 紅:情けを～賢こきな
  - 6. 礼儀⑤・1分間スピーチ 青:ちりりちらちら～様に  
あ:めぐる杯～芳村と 紅:足にも～伊達のの前
  - 7. 礼儀⑥・1分間スピーチ 青:波も静かに～栄ゆく家の寿を  
あ:栄うる～最後 紅:伊達の～最後
  - 8. 礼儀⑦・1分間スピーチ 青:なほ幾千代も～最後  
あ・紅:全体通し
  - 9. 礼儀⑧・1分間スピーチ 青:フォーメーション組み  
あ・紅 共通:フォーメーション組み
  - 10. 礼儀⑨・1分間スピーチ 青:フォーメーション練習①  
あ・紅:フォーメーション練習①
  - 11. 礼儀⑩・1分間スピーチ 青:フォーメーション練習②  
あ・紅:フォーメーション練習②
  - 12. テスト直前対策 青:フォーメーション練習③  
あ・紅:フォーメーション練習③
  - 13. プレテスト 青・あ・紅:実技公開テスト用練習①
  - 14. 本テスト 青・あ・紅:実技公開テスト用練習②(場当たり・通し稽古)
  - 15. オーディション対策 青:1分間の見栄えがする振付  
あ・紅:現場で望まれる所作の勉強
- ※菊の栄の進行は状況を見て考慮。その他の予定も進行状況により変更される場合がある  
※7月に行われる実技公開テストに参加の者のみ単位取得となる。不参加の場合単位取得とらないので注意すること  
※ハイブリッド型授業の場合  
座学…オンライン又はオンデマンド授業  
実技…教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

### 授業時間外の学習

- ・課題に沿って1分間スピーチをオーディション対策を意識して構築・行動できるようにお稽古する。
- ・実技公開試験に向けて、振りや構成はもとより、お客様を楽しませるための美意識を持てるようにお稽古する。
- ・個人のスキルアップも勿論だが、発表する演目全体のボトムアップを考慮しお稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

- 出席・筆記試験・実技試験・授業態度(取組み)・コミュニケーションシートを総合して満点100点にて評価。(点数配分各20点)
- S 100点～90点 A 89点～80点 B 79点～60点 C 59点～50点  
D 49点以下

科目名 狂言Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 善竹 大二郎

実務経験

期間 後期

他専攻

—

### 履修条件

特になし。音楽専攻日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

- ・腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- ・狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- ・狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- ・三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

### 授業の到達目標

大きな声を出すことができる。  
まっすぐ前を向いて(下、横を見ずに)摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。  
「左右」の完成。

### 授業計画

1. オリエンテーション(声の出し方)「盃」の謡①
2. 「盃」の謡② お話「声楽と謡」のちがいを
3. 「盃」の謡③ お話「すりについて」「盃」の舞①
4. 「泰山府君」謡① 「盃」謡④ 「盃」の舞②
5. 「泰山府君」謡② 「盃」謡⑤ 「盃」の舞③
6. 「土車」の謡① 「泰山府君」謡③ 「盃」の舞④

7. 「土車」の謡② 「泰山府君」謡④ 舞の試験⑤
8. 「土車」の謡③ 「泰山府君」謡⑤ 泰山府君の舞①
9. 「土車」の謡④ 泰山府君の舞②
10. 「土車」の謡⑤ 泰山府君の舞③
11. 土車の舞① 泰山府君の舞④
12. 土車の舞② 泰山府君の舞⑤
13. 土車の舞③
14. 土車の舞④
15. 「土車」試験

### 授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック(三省堂)

### 成績評価

平常点(授業への取組み・受講態度)50%と実技点50%を総合的に判断する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 狂言Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 善竹 大二郎

実務経験

期間 前期

他専攻

—

### 履修条件

「狂言Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。音楽専攻日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

- ・腹式呼吸でしっかり声を出す訓練から始める。
- ・狂言の謡を謡い、身体を動かす訓練の舞を舞う。
- ・狂言「附子」または「呼声」を実習する。
- ・三次元の空間に自分の体がどのようにあるべきか演劇の基本が感得できるだろう。

### 授業の到達目標

大きな声を出すことができる。  
まっすぐ前を向いて(下、横を見ずに)摺り足で前に進み元の位置に正しく戻ることができる。  
「左右」の完成。

### 授業計画

1. オリエンテーション  
1年後期からの復習「盃」「泰山府君」「土車」の謡
2. 「雪山」の謡 「土車」の舞の復習
3. 「雪山」の謡 「土車」の舞の復習 「雪山」の舞①
4. 「十七八」の謡 「雪山」の謡の復習 「雪山」の舞②
5. 「十七八」の謡の復習 「雪山」の舞③  
「雪山」の謡の復習
6. 「宇治の晒」の謡① 「雪山」の舞試験

7. 「宇治の晒」の謡② 「十七八」の舞①
8. 狂言「呼声」の詞① 本読み① 「十七八」の舞②
9. 狂言「呼声」の詞② 「宇治の晒」の謡③  
「十七八」の舞③
10. 狂言「呼声」の詞③ 「暁の明星」の謡①  
「十七八」の試験
11. 狂言「呼声」の立ち稽古① 「暁の明星」の謡②
12. 狂言「呼声」の立ち稽古② 「暁の明星」の舞①
13. 狂言「呼声」の立ち稽古③ 「暁の明星」の舞②
14. 狂言「呼声」の立ち稽古④ 「暁の明星」の舞③
15. 「暁の明星」試験

### 授業時間外の学習

授業内容をふまえ、自主練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

「狂言」ハンドブック(三省堂)

### 成績評価

平常点(授業への取組み・受講態度)50%と実技点50%を総合的に判断する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 アフレコ実技A

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 小金丸 大和

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。受け身の姿勢ではなく、積極的な研究心を持って講義を受講すること。受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しを良く聞き、「見取り稽古」を行う事。収録でより良い演技が出来るよう、講師の指導に基づく自主学習を行う事が望ましい。声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおく事。

### 授業の概要

声優として必要な演技術を学ぶ。  
具体的には発声・発音・アーテュレーションの見直しから始まり、基礎訓練の方法を知り、アフレコ(アフターレコーディング)における台詞術、役作り、脚本の読解、演技プランの方法について研究を進めて行く。  
また、現場での礼儀作法、マイクワーク、専門用語の理解など、実践的な技術の習得を目指す。  
[空間感覚・距離感の確立]  
[呼吸領域を意識し、身体を鳴らす事を覚える]  
[声にパーソナリティを持たせる]  
上記三点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行ない、それを視聴してみる事で、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。

### 授業の到達目標

将来、プロの声優としてアフレコ現場のマイク前で通用する演技が出来る。

### 授業計画

1. 声優演技について
2. 発声・発音・アーテュレーションの見直し
3. 声優の基礎訓練の方法
4. 呼吸領域の理解
5. 基礎能力テスト
6. マイクワークの練習
7. アフレコ脚本の読み方 特殊表記の解説
8. キャラクター表現について

9. 声優に必要な専門知識のまとめ
10. アフレコ実習①短編アニメーションモノローグ
11. アフレコ実習②短編アニメーションダイアローグ
12. アフレコ実習③長編アニメーションモノローグ
13. アフレコ実習④長編アニメーションダイアローグ
14. アフレコ実習⑤長編アニメーション通し
15. 前期のまとめ

### 授業時間外の学習

配布された資料、台本をしっかりと読み込む事  
声優に必要な肉体的訓練、呼吸の訓練を行う事

### 教科書・参考書等

教科書 教材プリント、台本は授業時に配布。  
参考資料 小金丸大和著「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおく事。  
小金丸大和作・演出「さんになのかい」DVD「新選組」「孫悟空」を視聴しておく事。(VAPより発売)

### 成績評価

受講態度、及び実技試験における技術の習得状況において評価する。  
追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。

成績は、以下の項目につき、1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての魅力、個性
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: 総合点が90点以上の者 (講義内容をほぼ完璧に理解し、声優演技技術の基礎を応用出来ている)
- A: 総合点が80点以上の者 (講義内容を理解し、かつ実践出来るレベルに達している)
- B: 総合点が60点以上の者 (講義内容を理解する事が出来ている)
- C: 総合点が50点以上の者 (講義内容を理解するに至ってはいるが、努力と研究が見られる)
- D: 総合点が49点以下の者 (講義内容を理解していない、出席状況にも問題がある)

科目名 アフレコ実技B

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 小金丸 大和

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

健康管理に十分留意し、遅刻・欠席のないようにすること。前期に「アフレコ実技A」を履修している事が望ましい。  
受講人数によっては実技指導を受けられない回も有り得るが、その際は他者に対する指導・ダメ出しを良く聞き、「見取り稽古」を行う事。  
収録でより良い演技が出来るよう、自主学習を行う事が望ましい。  
声優演技を題材にした講師の著書「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおく事。

### 授業の概要

声優として必要な演技術を学ぶ。  
[アフレコ実技A]で習得した技術論を分析し、応用し、より具体的にしていく。  
[空間感覚・距離感の確立]  
[呼吸領域を意識し、身体を鳴らす事を覚える]  
[声にパーソナリティを持たせる]  
上記三点を柱とし、実際にアニメーション映像にアフレコを行ない、それを視聴してみる事で、アフレコにはどのような技術・能力が必要かを考える。  
ボイスサンプルを実際に作成し、収録、配布する。  
自分の声の持っている特質、長所、弱点を知る。

### 授業の到達目標

将来、プロの声優として活動する事が出来る。  
プロの現場オーディション、所属オーディションで合格出来る。

### 授業計画

1. 声優演技について(復習)
2. 神経の多量化について(座学)
3. アフレコ実習①基本理論
4. アフレコ実習②状況の表現
5. アフレコ実習③感情の表現
6. オーディオドラマ演技①マイクワークの実践
7. オーディオドラマ演技②状況の表現
8. オーディオドラマ演技③感情の表現
9. アフレコ実習④キャラクター表現理論

10. アフレコ実習⑤洋画吹き替え
11. アフレコ実習⑥洋画コメディ吹き替え
12. プロダクションマネージャーによる質疑応答
13. ボイスサンプル原稿作成
14. ボイスサンプルリハーサル、収録
15. ボイスサンプル視聴と講評

### 授業時間外の学習

目標とするプロの声優・俳優の出演しているアニメーション作品を複数視聴する。  
各プロダクション・養成所・研究所の情報を集め、どの事務所がどの方面の仕事に強いかを研究しておく、卒業後の進路を決定する時の指針とする。

### 教科書・参考書等

教科書 教材プリント、台本は随時授業時に配布  
参考資料 小金丸大和著「VOICE CUSSION」(小学館クリエイティブ刊・現在は電子書籍でも発行)を読んでおく事。  
小金丸大和作・演出「さんになのかい」DVD「新選組」「孫悟空」を視聴しておく事。(VAPより発売)

### 成績評価

受講態度及び実技試験における技術の習得状況において評価する。  
追加試験、補習授業は原則的に行わないものとする。

成績は、以下の項目につき、1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業への取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての魅力、個性
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: 総合点が90点以上の者 (講義内容をほぼ完璧に理解し、覚えた声優演技技術を応用出来ている)
- A: 総合点が80点以上の者 (プロの声優として作品に出演出来るレベル)
- B: 総合点が60点以上の者 (プロダクション所属オーディション等に合格出来るレベル)
- C: 総合点が50点以上の者 (講義内容を理解し、理論としての声優演技基本を理解出来た者)
- D: 総合点が49点以下の者 (講義内容を理解出来ない、実践する事が出来ない者)



科目名 クラシック唱法Ⅰ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

なし。

### 授業の概要

クラシックの発声の基本は「響き」にある。大オーケストラの伴奏であっても、マイクも使わずに声を通るのは全身が響いているからである。いかに声を響かせ遠くに飛ばすか、それは芝居のセリフにおいても同じである。

この授業では、発声について知識の理解を深めた上で、響きを意識することに重点を置いて発声を学んでいく。なお、独唱曲ばかりでなく、ハーモニー感覚を身につけるため、合唱曲も取り上げ、歌うことへの関心を高めていく。

### 授業の到達目標

- ・日本語による歌唱のハーモニー感覚を身につけることができる。
- ・響きと意識した発声法を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ヴォイス・トレーニング①歌うための呼吸について
3. ヴォイス・トレーニング②声と響きについて
4. ヴォイス・トレーニング③発音(母音)について
5. ヴォイス・トレーニング④発音(子音)について
6. ヴォイス・トレーニング⑤言葉について
7. ヴォイス・トレーニング⑥声&言葉&表現
8. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング①
9. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング②
10. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング③
11. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング④
12. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑤

13. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑥
14. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑦
15. 全員でのヴォイストレーニング及び個々のヴォイストレーニング⑧  
各回、合唱曲を教材とし、ハーモニー感覚を身につける。  
※コロナの状況により個々のヴォイストレーニング中心とし、動画を視聴のレポート課題を重視する。

### 授業時間外の学習

各授業のテーマについて、次の授業までに、各自実践的に復習しておくこと。

また、個人ヴォイストレーニングで与えられた課題は日々の訓練として活用していくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業態度50%、課題50%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 クラシック唱法Ⅱ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

「クラシック唱法Ⅰ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

「クラシック唱法Ⅰ」で学んだことを基礎に、発声することから表現することへレベルアップしていく。日本語の歌を取り上げ、いかに良い発声で日本語を美しく歌えるようにしていくかを理解しながら演奏できるようにする。実技公開試験に向けては、2~3人で1曲を割り振るので、与えられた曲を協力して演出し、歌と演技によるパフォーマンスを創造し自己表現する。

### 授業の到達目標

- ・ひとりひとりが歌うことに自信を持つことができる。
- ・言葉と旋律との関連性を理解し、歌唱表現の幅を深めることができる。

### 授業計画

1. 導入、試聴会
2. 試聴会
3. 合唱曲の練習
4. 実技公開試験の選曲決定、公開レッスン形式の個別指導
5. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習①
6. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習②
7. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習③
8. 公開レッスン形式の個別指導及び合唱練習④
9. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習①
10. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習②

11. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習③
12. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習④
13. 演技パフォーマンスを加えた歌唱指導及び合唱練習⑤
14. 通し稽古
15. G.P

※コロナの状況により授業計画を柔軟に変更していく必要がある。

### 授業時間外の学習

与えられた曲に対し、各グループごとに予習復習を必ず行うこと。また、その曲に対するイメージをしっかりと持ち、演出を考えていくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に楽譜を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業態度50%、課題40%、テスト10%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱表現力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱表現力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、歌唱表現力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ミュージカルトレーニングA①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 藍澤 幸頼

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

- LAによる補習に参加できる者。
- ミュージカルトレーニングA①の履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA①」をミュージカルトレーニングA②の履修者は「ミュージカルトレーニングA-LA②」をそれぞれ必ず履修すること。(それぞれ内容が異なる場合がある。)
- 遅刻・欠席なく参加できる者(ステージングを行う為、共演者・指導者に迷惑がかかる。)
- 体のラインがはっきりわかる練習着・ジャズシューズを用意すること。  
女子は、稽古用スカート(ゴムなどで着脱が簡単なもの)とヒールのあるダンスシューズも用意すること。

### 授業の概要

ミュージカルのプロダクションに参加しているシミュレーションを通して、稽古場のマナーや共演者とのコミュニケーションと共に、役で、歌う、踊る、語ることと作品への向かい方の基本を学習する。

### 授業の到達目標

- トリプルスレット(歌、舞踊、セリフ、全てが高い水準にある俳優)を目指して、個々の弱点を知り、今後の努力の方向を知ることができる。
- 試験は公開になる場合もある。

### 授業計画

- 自己紹介
- ナンバーの解説、役作りのグループワーク
- 歌唱・ステージング①
- 歌唱・ステージング②
- 歌唱・ステージング③
- ナンバー中のオーディション・歌唱・ステージング
- 歌唱・舞踊・ステージング①

- 歌唱・舞踊・ステージング②
- 歌唱・舞踊・ステージング③
- 歌唱・舞踊・ステージング④
- 稽古を振り返り、ディスカッション
- 歌唱・舞踊・ステージング⑤
- 歌唱・舞踊・ステージング⑥
- 試験を兼ねた発表
- まとめ

### 授業時間外の学習

- それぞれの弱点を克服する為に必須である。
- できない事は、次回までに自主練をして次に参加すること。

### 教科書・参考書等

- ネット上で、作品のプロの舞台版・映画版を研究すること。

### 成績評価

授業態度20%、授業への取り組み(弱点の克服)40%、協調性20%、実技試験20%を元に総合的に評価する。

S 総合評価90点以上

A 総合評価80点以上

B 総合評価60点以上

C 総合評価50点以上

D 総合評価49点以下

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。

LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。

「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスA①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

LA(レッスンアシスタント)による補習に毎週参加すること。(「ジャズダンスA①」履修者は「ジャズダンスA-LA①」、「ジャズダンスA③」履修者は「ジャズダンスA-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

- 肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていく為の授業である。
- 身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う。
- 部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う。
- ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ。
- 振り覚えて、表現、感性を磨く。

### 授業の到達目標

それぞれが目標を作り、その目標に向かって肉体訓練、踊りの感性表現を習得できる。

### 授業計画

- 自分の肉体の長所、短所を知る①基礎
- 自分の肉体の長所、短所を知る②応用
- 全身または部分でリズムをとる①基礎
- 全身または部分でリズムをとる②応用
- 全身または部分でリズムをとる③発展
- 床を踏む、身体を引き上げるとい事を学ぶ①基礎
- 床を踏む、身体を引き上げるとい事を学ぶ②応用
- 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る①基礎
- 身体の軸を覚え、身体をコントロールして動くことを知る②応用
- 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる①基礎
- 筋肉を張ったり、緩めたり、表現の幅を広げる②応用
- 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる①基礎

- 基本的なステップを覚え、全身を使って動けるようになる②応用
- 振り付けを覚えて、音、振り付けで感じた感性をプラスし、踊りで自分や作品を表現していく
- まとめ

### 授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。

※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

S 総合評価90点以上

A 総合評価80点以上

B 総合評価60点以上

C 総合評価50点以上

D 総合評価50点未満



科目名 ジャズダンスA②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。 (「ジャズダンスA②」履修者は「ジャズダンスA-LA②」、「ジャズダンスA④」履修者は「ジャズダンスA-LA④」に参加すること)

### 授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、殆んどの人々が経験をしたことがある得意であるという状況になっている。その為、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとて大変になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を行う。授業で使用する曲等で、ジャズダンスの特長であるリズム感を養い、コンビネーションで振付を覚えて、音楽に合った表現を踊り、どう見せるか? 見せたいか? 見えたか? を考えながら、身体表現の演習を行う。

### 授業の到達目標

到達目標は各自のスキルアップが目標であるが、基礎知識・基礎訓練が中心であるため、自分自身の身体を知り、自信をつける反面欠点を認識し、トレーニング方法を見つける事も重視したい。数回、小テストを行う事により、本人の得意・不得意を知り、自分自身の成長に気付くことができる。

### 授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ中心 (正しいストレッチの仕方)。音のとり方・のり方。コンビネーション1: 導入
2. ストレッチ・エクササイズ中心。音のとり方・のり方。コンビネーション1: 基礎
3. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとり方。コンビネーション1: 応用
4. アイソレーション・クロスフロアー重視。ストレッチ・エクササイズ。軸のとり方。コンビネーション1: 発展
5. コンビネーション1: 重視
6. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 導入
7. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 基礎
8. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 応用
9. ステップ、ジャンプ、ターン重視。ストレッチ・エクササイズ。コンビネーション2: 発展
10. コンビネーション2: 重視
11. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。

12. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 基礎
  13. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 応用
  14. 基礎トレーニング。ステップ、ジャンプ、ターンの組み合わせ。コンビネーション3: 発展
  15. まとめ
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングは行うこと。小テストを行うので各自練習しておくこと。  
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。  
ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

### 成績評価

「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。  
S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者。  
A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。  
B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。  
C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。  
D 49点以下、振付を覚えて練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。  
※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。  
LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていなければならない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスB①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三村 みどり

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。 (「ジャズダンスB①」履修者は「ジャズダンスB-LA①」、「ジャズダンスB③」履修者は「ジャズダンスB-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

- ・肉体表現者として、自分の身体を知り、鍛え、表現の幅を広げていくための授業である。
- ・身体の軸、コントロール、柔軟性を身につける為に、ストレッチや筋肉トレーニングを行う
- ・部分、または全身で音楽に乗って動かすアイソレーションを行う
- ・ステップを覚えて、身体の流れ方、空間の使い方、動かし方を学ぶ
- ・振りを覚えて、表現、感性を磨く

### 授業の到達目標

前期で取得した技術をより高め、踊りの質を高めることができる。

### 授業計画

1. 前期の授業の確認①基礎
2. 前期の授業の確認②応用
3. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる①入門
4. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる②基礎
5. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる③応用
6. より軸を強くし動きが大きく、安定した踊りができるようになる④発展
7. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく①入門
8. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく②基礎
9. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく③応用

10. 曲調や動きの流れ等を感じ取り、表現の幅を広げていく④発展
11. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる①入門
12. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる②基礎
13. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる③応用
14. 同じ振りを踊り込む事により、作品と向かい合い自分の感性をプラスした表現ができるようになる④発展
15. まとめ

### 授業時間外の学習

できない振りは自主トレーニングして、次の授業に参加すること。欠席した場合も事前に習っておくこと。  
毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用すること。

### 成績評価

授業参加における積極性・取り組み・授業態度40%、実技試験60%にて評価する。  
S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価50点未満

科目名 ジャズダンスB②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。  
 (「ジャズダンスB②」履修者は「ジャズダンスB-LA②」、「ジャズダンスB④」履修者は「ジャズダンスB-LA④」に参加すること)

### 授業の概要

最近、ダンスは身近なものになり、殆んどの人々が経験したことがある・得意であるという状況になっている。その為、要求されるレベルも上がり、ダンスの技術や基本がとても大切になる。この授業では、ダンスの基礎を理解し、動きに対応できる柔軟性・筋力のトレーニング・身体の使い方の実技を通して、表現方法を見つけていく。ストレッチエクササイズ・アイソレーション・クロスフロアー・コンビネーションで実技を行う。

### 授業の到達目標

各自のスキルアップができる。柔軟・筋力トレーニングを通して、各自のトレーニング方法を見つけ、動きの範囲を広げることで、表現方法に生かし、更にテクニックをつける事ができる。  
 小テストを行うことにより、自分自身の成長に気付くことができる。

### 授業計画

1. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 導入
2. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 基礎
3. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 応用
4. ストレッチエクササイズ等、基礎トレーニング中心。コンビネーション1: 発展
5. コンビネーション1中心。
6. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 導入
7. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 基礎
8. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 応用
9. クロスフロアー中心 (ステップ・ターン・ジャンプ)。基礎トレーニング。コンビネーション2: 発展
10. コンビネーション2中心。
11. 動きの見せ方について考えて踊る①基礎

12. 動きの見え方について考えて踊る②応用
  13. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を考える。
  14. 音楽の音色・アクセントも合わせて表現方法を表わす。
  15. まとめ
- ※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

各自、柔軟、筋力トレーニングは行うこと。小テストを行うので各自練習しておくこと。  
 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。  
 (LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。  
 ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

### 成績評価

「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。  
 S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で踊ることができた者。  
 A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。  
 B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。  
 C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。  
 D 49点以下、振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。  
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。  
 LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。  
 「授業出席とLA補習参加の合計回数が、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていなければならない」と正しく理解すること。

科目名 ジャズダンスC①③

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 渡辺 美津子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。  
 (「ジャズダンスC①」履修者は「ジャズダンスC-LA①」、「ジャズダンスC③」履修者は「ジャズダンスC-LA③」に参加すること)

### 授業の概要

ストレッチ、筋肉トレーニング、アイソレーションで基本的な動きをマスターしたら、重心の移し方、体の引き上げ方、ハイレベルなバランス感覚を身につけ、質のよいターン (回転)、より確実なビルエットを目指していく。クラシックバレエ、ジャズダンス、タップダンス、HIPHOP等の基本的なステップを使って、個人のレベルに合わせた振付を覚えてもらうが、最終的にはテクニックのみならず、表現力も身につけていきたい。表現力の幅を広げる意味でも、HIPHOPジャズ、シアタージャズ、モダンジャズなどいろいろなジャンルに挑戦していきたい。

### 授業の到達目標

振付を正確に踊ることができる。ニュアンスを感じることができる。自己表現ができる。

### 授業計画

1. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー①
2. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー②
3. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー③
4. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー④
5. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ー⑤
6. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション1ーまとめ
7. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー①
8. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コン

ビネーション2ー②

9. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー③
10. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー④
11. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ー⑤
12. ストレッチ、筋トレ、アイソレーション、バレエ基礎、ターン、コンビネーション2ーまとめ
13. 復習、レベルアップ、コンビネーション1、2
14. 復習、レベルアップ、コンビネーション1、2
15. 実技試験、コンビネーション1、2

### 授業時間外の学習

毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。サルエル、ワイドパンツ不可。バレエ基礎、コンビネーションは裸足で行うこともあるのでフータータイツ不可。ジャズダンスシューズ、ジャズスニーカー着用。バレエシューズは不可。

### 成績評価

①授業への取組み・授業態度20% ②課題に対する成果30%  
 ③期末試験50% を総合的に評価する。  
 S 総合点90点以上 (優れた表現力のある者)  
 A 総合点80点以上 (表現力のある者)  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下  
 ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。  
 授業及び、LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。

科目名 ジャズダンスC②④

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 畔柳 小枝子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

LA (レッスンアシスタント) による補習に毎週参加すること。([「ジャズダンスC②」履修者は「ジャズダンスC-LA②」、[「ジャズダンスC④」履修者は「ジャズダンスC-LA④」に参加すること])

### 授業の概要

- ・欧米で一般的に実施しているレッスン方法を採用し、実技を行う。
- ・ダンスに必要な柔軟性・筋力トレーニング・基本的な身体の使い方・リズムのとり方・乗り方を学び、色々な種類の音楽を用いて、その音色・リズム・アクセントを身体を使って表現することを演習する。ダンスを通して、身のこなしと感受性豊かな表現力を身につける。

### 授業の到達目標

- ・肉体・精神共にコントロールすることを身につけることができる。
- ・踊ることを通じて表現豊かなパフォーマンスを実践することができる。

### 授業計画

1. ストレッチ・エクササイズ (正しいストレッチの仕方)・コンビネーション1:導入
2. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー (リズムのとり方・乗り方)・コンビネーション1:基礎
3. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー (正しい姿勢・軸のとり方)・コンビネーション1:応用
4. ストレッチ・エクササイズ・クロスフロアー (軸、バランスのとり方)・コンビネーション1:発展
5. コンビネーション1重視
6. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:導入
7. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:基礎
8. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:応用
9. ステップ・ジャンプ・ターン・コンビネーション2:発展
10. コンビネーション2重視
11. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:導入
12. 音の音色・アクセントのつけ方、見せ方。コンビネーション3:基礎
13. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:応用
14. 更に踊りの表現方法を考える。コンビネーション3:発展

### 15. コンビネーション3重視

※スケジュールは、授業進行状況等により変更されることがあります。

### 授業時間外の学習

- 各自、柔軟、筋力トレーニングは行なうこと。
- 小テストを行うので振付の練習をし、その音やイメージの表現を研究しておくこと。
- 毎回、授業と並行して「LA補習」に参加し、授業で出された課題・振り付けの復習・再確認・確実な習得を行ってから翌週の授業に出席すること。(LA補習はLAが指導・監督するのでその指示に従うこと)

### 教科書・参考書等

- 稽古着を着用。
- ダンスシューズ (ジャズシューズ等) を使用。

### 成績評価

- 「授業への取組み・授業態度」30%、「小テスト・期末テスト」70%の状況で評価する。
- S 90点以上、身体と精神のコントロールができ、振付の意図を考え、優れた技術・表現力で躍ることができた者。
- A 80点以上、音楽に合った動き、ポーズ等を上手く表現でき、研究・訓練した者。
- B 60点以上、音や動きに対して、表現する者として研究成果の見えた者。
- C 50点以上、振付を覚えて踊れる。又は成果がでた者。
- D 49点以下、振付を覚えず練習もしなかった者。出席日数が足りず受験資格がなかった者。
- ※LA補習への参加状況・受講態度も評価の材料となる。
- LA補習への参加が3分の2に満たない学生は、実技試験等の受験資格が与えられない。
- 「授業出席とLA補習参加の合計回数、二つの総合計回数の3分の2以上であればよい」のではなく、「授業の3分の2以上の出席、LA補習の3分の2以上参加、両方きちんとそろっていないといけない」と正しく理解すること。

科目名 バレエ・ムーヴメント①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

- クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して
1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイスメント
  2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
  3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
  4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚
- 等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができる。

### 授業計画

- 毎回、床の上のフロアストレッチから始める。
1. 姿勢とプレイスメント、5つの足のポジション、ボール・ド・ブラ第2回以降「バーの基本レッスン」  
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン
  2. 導入・入門
  3. 基礎①体の使い方
  4. 基礎②綺麗に魅せる
  5. 基本レッスンの復習  
上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロッパ
  6. 応用①体の使い方
  7. 応用②綺麗に魅せる

### 8. 2～7回のまとめ

- 第9回以降「バーレッスンとセンターレッスン。センターでは9回以降、以下の基本ステップを加えていく」  
アダージョ、バットマン・タンジュ、シャンジュマン・エシャツペ、グリッサード、アッサンブレ、シソニス、ピリエット等
9. ステップの導入・入門
  10. ステップの基礎
  11. 発展①バーとセンターの組み合わせ
  12. 発展②音楽に合わせてみる
  13. 2～12回のまとめ
  14. 試験のアンシェヌマン
  15. まとめ
- 順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着 (レオタード・タイツ) を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取組み・授業の状況40%②課題に対する成果30%③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者



科目名 クラシックバレエⅠ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して

1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイズメント
2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚

等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

初歩のバーレッスン、センターでの簡単なアンシェヌマンができるようになる。

### 授業計画

1限 初心者クラス、2限 経験者クラスとしてレベルに応じたレッスンをを行う。

1. 姿勢とプレイズメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ 第2回以降「バーの基本レッスン」  
ブリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン、ルルベ
  2. 導入・入門
  3. 基礎 体の使い方
  4. 基本レッスンの復習  
上記に加えて、バットマン・フラッペ、バットマンフォンジュ、デヴロップ、ロン・ド・ジャンプ・アン・レール
  5. 応用①体の使い方
  6. 応用②綺麗に魅せる
  7. 2～6回のまとめ
- 第8回以降「バーレッスンとセンターレッスン」

センターでは第8回以降、以下の基本ステップを加えていく  
アダージョ、バットマン・タンジュ、バランセ（ワルツステップ）、ビルエット、小さいジャンプ、グリッサード等

8. ステップの導入・入門
9. ステップの基礎 体の使い方
10. 8・9回のまとめ  
センターでは第11回以降、以下の基本ステップを加えていく  
アッサンブレ、ジュッテ、シソヌヌ、ジュッテアントラセ、移動する回転等
11. ステップの応用①体の使い方
12. ステップの応用②綺麗に魅せる
13. 8～12回のまとめ
14. 試験のアンシェヌマン
15. 総括

順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取り組み・授業の状況40%
  - ②課題に対する成果30%
  - ③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 クラシックバレエⅡ①②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

「クラシックバレエⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して

1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイズメント
2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方
3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス
4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通ず感覚

等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。

バレエのアカデミックなムーブメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

### 授業計画

1限経験者クラス、2限初心者クラスとしてレベルに応じたレッスンをを行う。

1. クラス分け
- |                                   |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| 初心者クラス                            | 中・上級クラス            |
| 2. Iの復習①基本                        | 2. Iの復習、クラスレッスン①導入 |
| 3. Iの復習②応用                        | 3. クラスレッスン②基本      |
| 4. 発展的な体の使い方                      | 4. クラスレッスン③応用      |
| 5. 綺麗に魅せる                         | 5. クラスレッスン③発展      |
| 6. 姿勢とプレイズメント、足の5つのポジション、ポール・ド・ブラ |                    |
- 第6回以降「バーレッスン、センターレッスン、実技公開試験のアンシェヌマン」

6～9回ではアダージョ、バットマン・タンジュ、ビルエット、グラン・バットマン等

6. 体の使い方①応用
7. 体の使い方②発展
8. 綺麗に魅せる
9. 6～8回のまとめ
- 10～13回ではアレグロ、ワルツ、グラン・アレグロ、コーダ等
10. 体の使い方①応用
11. 体の使い方②発展
12. 綺麗に魅せる
13. 10～13回のまとめ
14. クラスレッスンと実技公開試験のアンシェヌマンのまとめ
15. 実技公開試験

順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性がある

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着（レオタード・タイツ）を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取り組み・授業の状況40%
  - ②課題に対する成果30%
  - ③期末試験30%の3つを総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 タップダンスⅠ①

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中谷 諭紀

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

リズム感はダンスの基本としてはもとより、芝居や歌を唄う事に於いても大変重要な事である。基礎～テクニックのステップを学び、より表現力を豊かにするため、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。

### 授業の到達目標

基礎～テクニックのステップを学び、数曲の振り付けを覚え幅広い表現力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. タップシューズと床の感触をつかんではっきりした音を出す
2. 正確に基礎ステップを覚える①導入
3. 正確に基礎ステップを覚える②基礎
4. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む①導入
5. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む②基礎
6. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
7. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確に踏む
8. 基礎ステップを練習しながらスタンダードな曲に合わせてステップを踏む⑤まとめ

9. テクニカルの練習をしながら、完結した曲の練習。
10. テクニカルの練習をしながら、曲に合わせてステップを踏む①導入
11. テクニカルを練習しながら、曲に合わせてステップを踏む②基礎
12. テクニカルを練習しながら、曲に合わせてステップを踏む③体の使い方
13. テクニカルを練習しながら、曲に合わせてステップを踏む④リズムに合わせて正確に踏む
14. テクニカルを練習しながら、曲に合わせてステップを踏む⑤強弱やアクセントの工夫
15. まとめ・試験

### 授業時間外の学習

復習・自主練習に努める事。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取り組み・授業態度30%②課題の成果30%③試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価50点未満

科目名 タップダンスⅠ②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 近藤 淳子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

タップダンスの楽しさからプロになるための本格的なテクニックまでを基礎からしっかりと学ぶ。リズム感(音の強弱・音色・アクセント)ダンスの基本としてはもとより芝居や歌を唄うことにも大変重要なことである。タップダンスのレッスンを通じて身体全体で感じることや表現することを体得してもらったらと思う。

### 授業の到達目標

基本のスキルアップを覚え、数曲の振付を仕上げていく過程で各自のスキルアップと幅広い表現力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. 音の出し方、タップシューズとチップの床の感触のつかみ、重心移動について
2. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション①導入
3. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション②基本
4. ウォーミングアップ、基礎ステップのパターン、リズムバリエーション③まとめ、復習
5. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲1
6. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカペラ①序盤
7. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカペラ②中盤
8. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、課題曲、アカペラ③終盤
9. 前回の復習、課題曲2、アカペラ①②③
10. ウォーミングアップ、基礎ステップ、リズムバリエーション、

#### 課題曲2

11. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカペラ①②③グループでの演習
12. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカペラ①②③創意工夫を試みる
13. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカペラ①②③グループ内で息を合わせる
14. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題曲1、復習、課題曲2+アカペラ④11～14回のまとめ演習
15. 学習到達度の確認

※順序及び内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取り組み30%②課題の成果30%③試験40%の3つを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者…意欲的に課題に取り組み、研究し優れた表現力がある。  
A 総合点80点以上の者…音の強弱など、音楽に的確に合わせたステップができ表現力がある。  
B 総合点60点以上の者…曲に合わせてステップを覚えて踊ることができる。積み重ねの成果がある(音の強弱など)。  
C 総合点50点以上の者…ステップを覚えて踊ることができる。  
D 総合点49点以下の者…課題のステップを覚えていない。練習の成果が見えない。



科目名 タップダンスⅡ①

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 中谷 諭紀

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「タップダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

基礎～テクニックのステップを用い、より表現力を豊かにする為、様々なジャンルの曲に合わせて振り付けをしていく。また、発表の場を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学ぶ。

### 授業の到達目標

リズム感・テクニックとより幅広い表現力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習①基礎
2. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習②応用
3. 基礎ステップ・テクニカルステップの練習③まとめ
4. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える①導入
5. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える②基礎
6. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える③細かな体の使い方
7. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える④応用
8. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える⑤発展
9. 自分が出す音を聞いて色々なリズムのバリエーションを覚える

### ⑥まとめ

10. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける①曲序盤
11. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける②曲中盤
12. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける③曲終盤
13. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける④強弱やアクセントの工夫
14. 様々なジャンルの曲に合わせて、より多くの表現力を身に付ける⑤落とし込む
15. 試験・まとめ

### 授業時間外の学習

復習・自主練習に努める事。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取組み・授業態度30%②課題の成果30%③試験40%の3つを総合評価する。

- S 総合評価90点以上  
A 総合評価80点以上  
B 総合評価60点以上  
C 総合評価50点以上  
D 総合評価50点未満

科目名 タップダンスⅡ②

授業形態 実技 (GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 近藤 淳子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

ー

### 履修条件

「タップダンスⅠ」を履修し、単位を修得していること。

### 授業の概要

より表現力を豊かにするための様々な曲に合わせてジャズ、ヒップホップ等のステップを使って振り付けしていく。音の強弱、アクセント、リズムを身体を使って踊りこみタップダンスの奥深さを学んでほしい。また、発表会を体験し、舞台創りの楽しさと厳しさを学びの技術のみならず表現者としての骨格を骨太にしていきたい。

### 授業の到達目標

幅広い表現方法を身に付け、作品ごとに求められる表現方法を自ら思考・工夫できる。真摯に探求心を持って体全体を使って表現できる。

### 授業計画

1. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション①体の使い方
2. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション②リズムに合わせる
3. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション③リズムに合わせて正確なタップを試みる
4. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲1、アカペラ、レベルアップコンビネーション④1～4回の復習、まとめ
5. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2①体の使い方
6. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2②リズムに合わせて正確なタップを試みる
7. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2③強弱やアクセントの工夫
8. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲2④5～7回の復習、まとめ

9. ウォーミングアップ、基礎ステップ、課題曲3
  10. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカペラ①グループで息を合わせる
  11. ウォーミングアップ、基礎ステップ、各自+グループ課題、復習、課題曲1・2・3、アカペラ②強弱やアクセントの工夫
  12. 復習、通し稽古①各々の課題発見
  13. 復習、通し稽古②「魅せる」を意識する
  14. 復習、通し稽古③実技公開試験に向けて
  15. 実技公開試験、学習到達度の確認
- ※順序及び内容は、履修者数や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

前回の授業内容を復習し練習すること。欠席した場合のステップ課題を授業前に学んでおくこと。

### 教科書・参考書等

稽古着、タップシューズを使用。

### 成績評価

①授業への取り組み30%②課題の成果30%③試験40%の3つをを総合して評価する。

- S 総合点90点以上の者…意欲的に課題に取り組み、研究し優れた表現力がある。  
A 総合点80点以上の者…音の強弱など、音楽に的確に合わせたステップができ表現力がある。  
B 総合点60点以上の者…曲に合わせてステップを覚えて踊ることができる。積み重ねの成果がある(音の強弱など)。  
C 総合点50点以上の者…ステップを覚えて踊ることができる。  
D 総合点49点以下の者…課題のステップを覚えていない。練習の成果が見えない。

科目名 歌唱（個人レッスン）A～H

授業形態 実技 (PL)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2/1

キャップ制  
対象外

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

○

### 履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

### 授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

### 授業の到達目標

- ・音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- ・表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる。

### 授業計画

各講師に委ねられるが声や歌に関することを学ぶ。身体の使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法などを学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

### 授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。

### 教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

### 成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上
- A 講師の平均が80点以上
- B 講師の平均が60点以上
- C 講師の平均が50点以上
- D 講師の平均が49点以下

科目名 舞台芸術概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸・後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

ー

### 履修条件

必修。遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

日本の近代の演劇史をベースにしながら、演劇というものを考える。我々が現在考えている、「演劇」の概念は、いかに日本において作られたのか、また何のために近代演劇は西洋社会から導入されたのか。それら社会と演劇の位置を始点として考える。そして、演劇というものが娯楽的な要素をこえて、社会とどのように関わり、人々は翻弄されながらも、その社会に介入しようとしたのか。戦前、戦間期という激動の日本の歴史を通して考える。そのため、19世紀末から20世紀にかけての、世界史と日本史の高校教科書程度の知識は再度準備しておくこと。

### 授業の到達目標

単に演劇史をなぞるのではなく、当時の人々が社会とどのように接点を持ち、何を考えて行動していたのか、その可能性と限界を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 演劇の概念とは何か
3. 「明治」と演劇
4. 「明治」と近代演劇
5. 労働演劇
6. 築地小劇場の時代
7. 戯曲の時代① 岸田国土など
8. 戯曲の時代② そのほか
9. プロレタリア演劇① 村山知義など

10. プロレタリア演劇② そのほか
11. 戦中の演劇
12. 戦後の演劇
13. 1950年代の演劇
14. 自立演劇
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ①授業中に話したことを図書館でチェックすること。
- ②授業中に話したことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：日本史の教科書と世界史の教科書。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
  - A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
  - B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
  - C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
  - D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 日本演劇史A (古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 順

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

## 履修条件

必修

## 授業の概要

この授業では俳優として最低限備えておきたいと考えられる、日本演劇史に関する知見より、いわゆる《古典分野》を学ぶものである。具体的には日本三大古典演劇と称される能楽(能・狂言)・歌舞伎・人形浄瑠璃(文楽)の史的発生とその展開、さらに演劇的性格・本質等について解説を行う。演劇史である以上、歴史研究分野の一部であることは、言うを俟たない。通常、歴史の記述は遠い過去より現在に近い地平へと降りるものである。が、当該授業ではそれとは正反対に、より現代に近い過去から出発し歴史の流れを遡ることで、三大古典演劇それぞれの発生と展開を探ってみたいと考える。したがって、授業進行に違和感を覚える学生も出ると考えられるので、担当教員は各受講生の負担にならぬよう丁寧な説明を心がける。上の古典演劇に触れた経験を持たない受講生もいるであろうから、ビデオを適宜利用し理解の一助としたい。授業において受講生には今まで耳にしたことがない人物名、作品名、学術用語が頻出するが、基本的事項の把握は全体像の理解するための階梯であると、理解いただきたい。なお、COVID-19の状況によっては、全回「オンライン」講義となる可能性もある。その際は、授業計画・成績評価に変更が生じる場合もある。この点は了解を願いたい。

## 授業の到達目標

講義を通じ、日本古典芸能史および演劇史に関する基本的必須知識、教養を習得し、それらを説明することができる。

## 授業計画

1. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか①唐十郎と寺山修司
2. 現代演劇は歌舞伎をどう見たか②小林一三と宝塚
3. 寡黙の人—河竹黙阿弥③三深(親)切

4. 寡黙の人—河竹黙阿弥②明治への眼差し
5. 七代目市川団十郎—『安宅』から『勸進帳』
6. 強かな人生—鶴屋南北①『桜姫東文章』
7. 強かな人生—鶴屋南北②現代演劇と南北
8. 人生の真実—近松門左衛門①元禄時代の恋愛
9. 人生の真実—近松門左衛門②近松心中劇
10. 異端、前衛、そして正統—出雲のお国登場
11. 舞と踊り
12. 世阿弥の人生
13. 世阿弥『花鳥風月』を読む
14. 祈りの芸能
15. 総括

## 授業時間外の学習

指定文献を事前に読むこと。

## 教科書・参考書等

プリントを配布する。参考となる書籍等については適宜紹介する。

## 成績評価

授業への取り組み15%。持ち込み不可の筆記試験85%。

- S 総合点90点以上  
(講義内容の理解度が極めて優れていると認められる者)
- A 総合点80点以上  
(講義内容の理解度が優れていると認められる者)
- B 総合点60点以上  
(講義内容の理解度が一定以上には達したと認められる者)
- C 総合点50点以上  
(講義内容の理解度にやや不安を覚えるが最低限の段階には一応達したと認められる者)
- D 総合点49点以下  
(講義内容の理解度が極めて不十分と判断せざるを得ない者)

科目名 日本演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

## 履修条件

必修。遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

## 授業の概要

日本の現代演劇史を概括して講義する。半期のため、学生は授業時間外で、戯曲や演劇論、そして時代背景についての読書をするのが求められる。我々が現在考えている、「演劇」の概念は、いかに日本において作られたのか。それら社会の制度と演劇の位置を見る。そして、演劇というものが娯楽的な要素をこえて、社会とどのように関わり、どのように人々が翻弄されながらも、社会に介入しようとしたのか、戦後日本の歴史を通して考える。そのため、世界史と日本史の高校教科書程度の知識は再度準備しておくこと。

## 授業の到達目標

単に演劇史の授業ではなく、作品と人々が社会とどのように接点を持ち、何について考えて行動していたのか、その可能性と限界を問う。自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

## 授業計画

1. イントロダクション
2. 戦後の動向
3. 1950年代の演劇
4. 1960年、安保と演劇
5. アンダーグラウンド演劇①唐十郎など
6. アンダーグラウンド演劇②鈴木忠志など
7. アンダーグラウンド演劇③寺山修司など
8. 1970年代の演劇
9. 1980年代の演劇

10. 1990年代の演劇①ダムタイプなど
11. 1990年代の演劇②永井愛など
12. 2000年代演劇の動向
13. 最近の演劇の動向
14. ポストドラマ演劇
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

## 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

## 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。

参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

## 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)



科目名 西洋演劇史A (古典)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。  
予習・復習に努め、演劇の基礎知識を習得する意志のある者。

### 授業の概要

紀元前5世紀の古代ギリシャ劇から17世紀のフランス古典劇に至るまでの西洋演劇史を概観し、時代背景、文化状況をふまえながら、劇場構造、上演形態、作品等について講義する。各時代の演劇が後世の演劇にどのような影響を与え、どのような要素が継承されたのかを、それぞれの事象を関連づけながら探っていく。また、古代ギリシャ劇、シェイクスピア劇、フランス古典劇等の現代における上演を、視聴覚資料を用いて考察する。この授業では、演劇人に求められる基礎的な知識を確実に身に着ける。

### 授業の到達目標

芸術科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、演劇史に関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の3点をこの授業の到達目標にする。  
○代表的な劇作家とその作品について、説明することができる。  
○劇場構造や上演形態について、その特色を説明することができる。  
○紀元前5世紀から17世紀までの西洋演劇史の流れを説明することができる。

### 授業計画

1. ギリシャ神話と演劇
2. 古代ギリシャの劇場
3. ギリシャ悲劇①アイスキュロス
4. ギリシャ悲劇②ソポクレス
5. ギリシャ悲劇③エウリピデス
6. ギリシャ喜劇/ローマ演劇
7. 中世の宗教劇
8. コメディア・デラルテ
9. フランス古典悲劇

10. フランス古典喜劇
11. エリザベス朝演劇
12. シェイクスピア①悲劇
13. シェイクスピア②史劇
14. シェイクスピア③喜劇
15. 総括と学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容と宿題に関する小テストを行うので、履修者は各自でノートをもとめ、予習と復習に努めること。第3回までに「アガメムノン」(アイスキュロス)、第4回までに「オイディプス王」(ソポクレス)、第5回までに「メディア」(エウリピデス)、第12回までにシェイクスピアの四大悲劇、第14回までに「夏の夜の夢」「十二夜」「テンペスト(あらし)」を読むしておくこと。

### 教科書・参考書等

教科書は使用せず、授業時にプリントを配付。参考書は、適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

授業内テストの成績を100点に換算(小テスト成績50%、学習到達度の確認50%)

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、関連づけて説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 西洋演劇史B (近現代)

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 森山 直人

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

芸術科演劇専攻1年必修。  
予習・復習に努め、演劇の基礎知識を習得する意志のある者。

### 授業の概要

近現代の西洋演劇史の基本的な流れを概観し、主要な戯曲作品、上演作品等について多角的に考察していく。この時期の西洋演劇は、たんに西洋世界のみならず、現代日本の演劇状況に直接つながる様々な要素も持っている。そのことを踏まえ、講義では、私たちの暮らしている「今」との関係性に重点を置きながら考察していく。個別の作品だけでなく、そうした作品を生み出す母体となった社会や劇場文化の変遷についてもできるだけ注意を向けていくので、受講生は各自、自分らの現代演劇についての問題意識を整理しながら授業にのぞんでほしい。原則として毎回の感想カードの提出を必須とする。なお、基本的に対面授業だが、状況に応じて一部オンライン授業を併用する場合もある。

### 授業の到達目標

- ①近現代の西洋演劇史に関する基礎的な知識と見方を身につけ、作品の理解を深めることができる。
- ②近現代の西洋演劇史におけるさまざまな作品や思考が、現代のわたしたちの存在や創造活動とどのように結びついているかについて、自分なりの考えをまとめた論述(期末レポート)として表現することができる。

### 授業計画

1. イントロダクション—「近現代劇」の前提
2. 市民劇—なぜ「市民」のための演劇なのか
3. メロドラマ—「革命」は演劇をどう変えたのか
4. ロマン主義からリアリズムへ
5. 自然主義と象徴主義
6. イブセンの方法—「個人」と「社会」
7. チェーホフの方法—「主人公」は必要か?
8. 「演出家」の誕生—「演技」の多様化
9. 20世紀前衛演劇の展開
10. プレヒトの方法—「音楽劇」とは?
11. ベケットの方法—「不条理劇」とは?

12. 1960年代
13. アメリカ合衆国と演劇
14. ポストドラマ演劇の展開
15. まとめ

### 授業時間外の学習

- ①授業で扱った作家や作品、トピックについて、図書館やインターネットを使って調査すること。
- ②そのなかでも自分が関心のある作家や作品を選び、それらが現代の舞台創造とどのように結びついているかについて、独自にリサーチを進めていくこと。

### 教科書・参考書等

以下3点を教科書とする。なお、作品が同一なら他の訳者・出版社のものでも可。  
①神西清訳 チェーホフ『桜の園/三人姉妹』(新潮文庫)  
②谷川道子訳 プレヒト『三文オペラ』(光文社古典新訳文庫)  
③高橋康也・安堂信也訳 ベケット『ゴドーを待ちながら』(白水社Uブックス)

以下1点を参考書とする。  
・川島健『演出家の誕生 演劇の近代とその変遷』(彩流社)

### 成績評価

成績評価については、期末レポート70%、授業への取り組み(毎回の感想レポート提出を含む)30%の配分として100点満点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、特に優れた成果をあげている)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容をほぼ理解し、優れた成果をあげている)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を一定以上理解し、成果をまとめることに成功している)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解が十分でなく、一定の成果をまとめられていない)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解せず、成果に結びついていない)

科目名 ミュージカル概論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 橋爪 貴明

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。遅刻、欠席をしない。プロの表現者になる熱意があり、学ぶ欲求があること。

### 授業の概要

比較的新しい表現形式であるミュージカルの歴史を研鑽し、他の演劇形式との違い、共通点を学び、ミュージカルの可能性を探っていく。理論と実技、そして映像。それぞれの角度からミュージカルという表現形式の理解を深めていく。

ミュージカルの原点は何処にあるのか？どんなルートを通ってこの芸術、文化が日本に入って来たのか？オペラからミュージカルが派生したのはどの時点か？

フランス～ニューオリンズ～ブロードウェイへと至る変遷、またウエストエンドの状況も同時に学んでいく。また、日本のミュージカルの派生、発展も見えていく。

### 授業の到達目標

ミュージカルの作品分類ができ、歴史を理解し、作品の時代背景、社会的な力関係を把握できる。

### 授業計画

1. 導入、自己受容、自己表現
2. 歌の原点を知る。歴史を学ぶ。
3. 芝居の原点を知り、歴史を学ぶ。
4. 身体表現の原点を知り、歴史を学ぶ。ミュージカル作品の分類の仕方。
5. 新・旧ミュージカル映画作品の比較研究。
6. オペラ～ミュージカル、派生の場所と時期。
7. ボードビルショー、 minstrel、ニューオリンズで花開くものは…。日本のミュージカルの歴史。浅草オペラ～商業演劇

への変遷。

8. DVD鑑賞
9. 作品の分析
10. レ・ミゼラブル、サウンドオブミュージック、ウエストサイドストーリー これらの作品の分析と解説及び時代背景、作品が社会に与えたものは？
11. ミュージカルにおける作詞、その作品ごとの研鑽。
12. 日本のミュージカルの創成→宝塚、東宝ミュージカルズ等。
13. DVD鑑賞
14. 作品の分析
15. まとめ

### 授業時間外の学習

与えられた課題の準備を授業前に行うこと。授業中に学んだことを検討し、改善・研究に努めること。

授業の最初に小テストを適時実施するので、前回の授業内容をよく復習しておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

### 成績評価

レポート50%、授業への取り組み50%で100点に換算。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を元にミュージカルの歴史、作品の時代背景を把握、理解し、的確に自論を展開できた者。）
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を元に的確に自論を展開できた者。）
- B 総合点が60点以上の者（講義内容を元に自論を展開できた者。）
- C 総合点が50点以上の者（講義内容を把握できているが、自論を展開できなかった者。）
- D 総合点が49点以下の者（レポート未提出、授業への取り組みが不足の者。）

科目名 ミュージカル論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 藤原 麻優子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

演劇専攻1年必修。

### 授業の概要

ミュージカルは、日本を含め現在世界各地で最も人気のある音楽劇のひとつと呼ぶことができる。では、様々な音楽劇の中で、ミュージカルの音楽劇としての特徴とは一体何なのだろうか。語り、歌い、踊るという演技は、どのように作品に組み込まれているのだろうか。わたしたちが思い浮かべる「ミュージカル」は、どのように現在の広がりをもつにいたったのだろうか。

この授業では、ブロードウェイ・ミュージカルを中心に、ミュージカルというジャンルの歴史と展開について概観し、ミュージカルを理解するための基礎的な知識を学ぶ。また、さまざまなサブジャンルについて、作品分析を通して考察していく。適宜映像・音声資料を利用する。

### 授業の到達目標

- ・ミュージカルの歴史について、各年代の特色と大まかな流れを説明することができる。
- ・ミュージカルのさまざまなサブ・ジャンルについて、その特色を説明することができる。
- ・ミュージカルに対する自分の考えを説明することができる。

### 授業計画

1. 導入
2. ミュージカルを分析する①ミュージカル・ナンバーの機能
3. ミュージカルを分析する②ミュージカルと「不自然」
4. ミュージカルの歴史①ミュージカルのルーツ
5. ミュージカルの歴史②ミュージカルの「黄金時代」
6. ミュージカルの歴史③ミュージカルの展開

7. ミュージカルの現在
8. ミュージカル・プレイ①作品鑑賞（前半）
9. ミュージカル・プレイ②作品鑑賞（後半）
10. ミュージカル・プレイ③作品分析
11. コンセプト・ミュージカル①作品鑑賞（前半）
12. コンセプト・ミュージカル②作品鑑賞（後半）
13. コンセプト・ミュージカル③作品分析
14. ミュージカルを分析する③ミュージカルとは何か
15. まとめ（試験を含む）

### 授業時間外の学習

予習・復習として、授業で取りあげる作品の映像を見てもらう。

授業後に簡単な感想や小レポートの提出を求める場合がある。

### 教科書・参考書等

教科書は指定しない。授業時にプリントを配布。参考書は適宜授業時に紹介する

### 成績評価

平常点（授業への取り組み、授業態度および感想提出等）60%、期末試験40%で100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項をよく理解し、優れた説明ができる）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項を理解し、説明ができる）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項をほぼ理解し、説明ができる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、説明が不足する）
- D 総合点が49点以下の者（極端に出席が少ないため、講義内容を理解しておらず説明ができない）



科目名 ソルフェージュ基礎①②

授業形態 演習(理論)

対象 演劇専攻1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

音楽(楽譜を正確に読む等)、歌うことに興味のあるもの。  
五線ノート、筆記用具を持参。

### 授業の概要

音楽の基礎力をつけることを目的とする。  
楽典基礎を学び正確な譜面の読み方、リズム感、音感などソルフェージュ力を養うことで、音楽への理解を深め各々のパフォーマンスの向上につなげる。

### 授業の到達目標

以下の2点をこの授業の到達目標とする

- ・譜面を読んで歌うことができる。
- ・フレーズ感、リズム感、音感を育てることができる。

### 授業計画

1. 楽典基礎①音符の読み方(音名)
2. 楽典基礎②音符の読み方(リズム)
3. 楽典基礎③音楽用語について
4. 楽典基礎④リズムを読む
5. 楽典基礎⑤譜面を読む
6. 視唱①
7. 視唱②(3度～)
8. 新曲視唱
9. 聴音①
10. 聴音②
11. 新曲視唱 ハーモニー ①

12. 新曲視唱 ハーモニー ②
13. 学習到達度確認 譜面の読み方
14. 学習到達度確認 新曲視唱
15. 総括

### 授業時間外の学習

授業中課題があれば、予習、復習に努めること。  
楽譜を通して歌う訓練をする。

### 教科書・参考書等

授業中に資料配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・プリント課題30%・学期末課題20%の配分で総合的に評価する。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、プリント課題・学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ソルフェージュ①②

授業形態 実技(GL)

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 岩崎 廉

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

ミュージカルコース必修。

### 授業の概要

「ソルフェージュ基礎」で学習した知識を更に深める。

### 授業の到達目標

音楽の基礎知識、音を聞き取り譜面にする事や、視唱のトレーニング、楽典等を更に深めることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. リズムに強くなるトレーニング
3. 楽典、知識を深める
4. 聴音トレーニング
5. 視唱トレーニング
6. 小テスト
7. リズムトレーニング②
8. 楽典②
9. 聴音トレーニング(コード)

10. 視唱トレーニング(メロディーとリズム)
11. 楽典③
12. 楽語ガイダンス
13. ダイナミックスや表現を学ぶ
14. ミュージカルオーディションの為の基礎
15. 総括

### 授業時間外の学習

視唱の課題あり。

### 教科書・参考書等

五線紙(ノート)

### 成績評価

提出物評価…30点満点、実技試験…30点満点、筆記試験…40点満点  
3つの点数の総合で評価される。

S 総合評価90点以上

A 総合評価80点以上

B 総合評価60点以上

C 総合評価50点以上

D 総合評価49点以下

科目名 演劇批評論

授業形態 講義

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものをゆるがすこともあるだろう。その双方向的な視点をもって、舞台について考える。

### 授業の到達目標

単に舞台をみる授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何を見つけるべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 批評理論とは何か
3. 批評理論の解説
4. 作品と社会性 1960年代を例に
5. 作品と時代性 1960年代を例に
6. 作品を取りまく環境
7. 記憶の装置としての劇場
8. 実際に書く①前半
9. 実際に書く②後半

10. ディスカッション
11. 舞台を見る①前半
12. 舞台を見る②後半
13. 批評の講評①前半
14. 批評の講評②後半
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 パフォーミングアーツ論

授業形態 講義

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

ー

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

私たちが「演劇」というものを考えた際に、どのようなものをイメージするだろうか。いわゆる舞台のみにとどまらない、「演劇」的な要素とはなにか。演劇を幅広いコンテクストで捉え直してみようというのが、この授業の目標である。そのために、パフォーマンス・スタディーズ、ポストドラマ演劇、文化人類学などのいくつかのコンセプトを駆使して幅広い要素によって、演劇的なものを再考する。

### 授業の到達目標

私たちの既成概念としての「演劇」というものはどのように基底されたか。自明なるものを疑うという問題意識を持つことができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. パフォーマンス・スタディーズとはなにか
3. リチャード・シェクナーについて
4. ゴッフマンについて
5. ターナーについて①前半
6. ターナーについて②後半
7. ローズリー・ゴールドバーグ①「パフォーマンス」
8. ローズリー・ゴールドバーグ②60年代以後のパフォーマンス
9. ピーター・ブルックについて
10. 日本のパフォーマンス①60年代

11. 日本のパフォーマンス②80年代
12. 他の国のパフォーマンス①60年代
13. 他の国のパフォーマンス②80年代
14. まとめ
15. レポート総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること。
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：同様に授業時に指示する。

### 成績評価

発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇文化論A

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 中山 夏織

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

遅刻・欠席をしない。

### 授業の概要

本科目は次の2つの柱を追求することにより、グローバル(グローバルかつローカル)な時代における次代の創造者・表現者、アートマネージャーの役割を探っていく。

1. 翻訳と言う作業と異文化の受容の課題を検証するとともに、日本の現代演劇の国際化を考える。
2. 演劇が社会のあり方をいかに変えうるかを、英国とフランス演劇の事例から検証し、演劇の社会における役割を探る。

### 授業の到達目標

- 創造者・表現者・アートマネージャーとして異文化の翻訳、翻訳劇の上演の意味を理解できる。
- 演劇人たちが担ってきた演劇の社会的役割を理解できる。

### 授業計画

1. 翻訳劇の展開とインターカルチュラルイズム
2. 翻訳が作る日本語
3. 「異文化」の翻訳と翻案ージャポニズムをめぐって
4. スタニスラフスキーの移入をめぐって
5. 翻訳劇と国際共同制作の現場
6. 演劇が社会を変える?①オールドヴィックシアターと生涯学習
7. 演劇が社会を変える?②ナショナルシアター運動とシェクスピア
8. 演劇が社会を変える?③演劇の地方分散ージャック・コポーとジャンヌ・ローラン

9. 演劇が社会を変える?④国立民衆劇場とジャン・ピラール
10. 演劇が社会を変える?⑤アンドレ・マルローとジャック・ラング
11. 演劇が社会を変える?⑥ロイヤル・コートシアターとシアターワークショップ
12. 演劇が社会を変える?⑦「なんて素敵な戦争」
13. 演劇が社会を変える?⑧TIEとエデュケーション・プログラム
14. 演劇が社会を変える?⑨「ハンナとハンナ」「グラスゴー・ガール」
15. 総括ー演劇とグローバルな社会

### 授業時間外の学習

翻訳劇を積極的に鑑賞する。戯曲の描く世界について下調べを行う。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布(戯曲の日本語版についても)。参考書は適宜授業内で紹介する。

### 成績評価

成績評価は①授業態度30% ②授業への貢献度40% ③課題の成果30%を総合的に評価する。

- S 総合点90点以上の者
- A 総合点80点以上の者
- B 総合点60点以上の者
- C 総合点50点以上の者
- D 総合点49点以下の者

科目名 演劇文化論B

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 寺田 航

実務経験 〇

期間 後期

他専攻 〇

ー

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

この講義では「演劇の芸術性」や「演劇の歴史」を考察する文化論ではなく、「演劇と経済」をテーマに、「文化産業としての演劇」「労働としての演劇」から考察した文化論を軸とする。

現代を生きる受講生が、WITHコロナ時代を生きなければいけない受講生が、架空の公演主催者になり、架空の演劇公演を企画制作し、自分で企画書や予算案を作り、それを実際にプレゼンしていく事で、卒業後、表方・裏方・一般職問わず職につき、生涯に渡り経済的に持続可能な生計を立てていくのに必要な知識やスキルの習得を目的とする。

### 授業の到達目標

替えの効かない「人材」だからこそ、オーディションに受かるわけだし、継続して出演依頼を頂くことができる。一般社会でも重要なポジションや仕事を任せてもらう事ができるようになる。

俳優・制作・スタッフ・会社員問わずどのような職業に就こうとも、どんな社会情勢になろうとも、生き抜く力を持った、替えの効かない「人材」になる事を目標とする。

その為に、単に座学としての「文化論」を修めるのではなく「生き抜く武器としての演劇経済文化論」を習得することで、自分の意志で物事を考え、判断し、実行していく能力と癖が付き、替えの効く「人材」から、替えの効かない「人材」になる事ができる。

### 授業計画

1. ～はじめに～ 講義概要
2. ～実践1～ まずは作ろう 演劇公演の企画書作成
3. ～実践2～ まずは作ろう 企画書に基づいた予算書の作成
4. ～実践3～ 作成した企画書・予算書の対講師プレゼンとディスカッション
5. ～儲けがなければ続かない～ 「収入」「支出」「利益」の3要素
6. ～産業構造～ 文化芸術・ライブエンタメ業界の産業構造と政治行政
7. ～文化産業政策～ 国家・地方自治体における文化産業政策
8. ～守るべき権利～ 演劇公演に必要な関係法令とそのコスト
9. ～守るべき安全～ 演劇公演に必要な安全衛生対策とそのコスト
10. ～深掘り～ 深化した企画書・予算書にする為に、運営上のトラブルを未然に防ぐ為の論点整理
11. ～実践4～ 自由に想像し企画した演劇公演の企画書の作成

12. ～実践5～ 作成した企画書に基づいた予算書の作成
13. ～実践6～ 作成した企画書・予算書の全体プレゼンとディスカッション
14. ～実践7～ 作成した企画書・予算書の全体プレゼンとディスカッション
15. ～まとめ～ 替えの効かない人材となるために  
※講義内容に関しては、進捗状況に応じて前後することがある。

### 授業時間外の学習

- ①積極的に演劇やコンサートなどの実演芸術や、ライブ要素の強い展示会等に足を運ぶ。
- ②その際、自分的につまらない作品だった場合、どうすれば面白くなるか想像をしてみる。
- ③例えば自分の好みの作品でなくても、人気のある公演に月に1回は足を運び、人気な理由を想像してみる。と同時に、客入りの今一公演にも行き、その違いが何処にあるのか考えてみる。
- ④ニュース番組やネット記事を見る際に、芸能だけでなく政治経済にも少し目をむけてみる。
- ⑤一日1回は、卒業後の進路や将来像について想像し、その為にすべき事を簡単に洗い出してみる。

### 教科書・参考書等

講義時にプリントを配布する。参考書は授業内で紹介する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目25点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②授業への積極性 ③作成物に対する成果 ④プレゼンに対する成果
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、作成物とプレゼンが良くなる)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、作成物とプレゼンができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容をほぼ理解し、作成物とプレゼンができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容はほぼ理解したが、作成物とプレゼンが十分でない)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解できず、作成物とプレゼンも十分でない)

科目名 舞台空間理論

授業形態 講義

対象 演劇専攻2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 後期

他専攻

### 履修条件

舞台空間の歴史に興味があること。

### 授業の概要

舞台空間の歴史を舞台美術家の視点で解説する。ギリシア悲劇、聖史劇、ルネサンス演劇、近代演劇などを舞台空間という視点で捉え直していく。

前半では西洋と日本の舞台空間の歴史を大まかに説明していく。後半では各テーマに添いながら舞台空間に起こった出来事とその変化を探っていく。

過去の出来事とつなげながら、現代から未来への舞台空間の考察へとつなげる。

### 授業の到達目標

古代ギリシアから現代までの舞台空間の大まかな流れを理解できる。

舞台空間と戯曲、演技、演出などがどのような関わりを持っていたかを理解できる。

未来の舞台空間がどのように変化していくかの想像力を持つ事ができる。

### 授業計画

1. イントロダクション・・・なぜ私は舞台美術家を目指したのか？
2. 舞台空間の流れを掴む①古代ギリシア～ルネサンス
3. 舞台空間の流れを掴む②バロック～近代
4. 舞台空間の流れを掴む③日本編（猿楽～能楽）

5. 舞台空間の流れを掴む④日本編（歌舞伎～新劇）
6. 舞台空間の流れを掴む⑤現代の舞台空間
7. 舞台の額縁はなぜ生まれたのか？
8. 客席はなぜ暗くなったのか？
9. リアルな舞台装置はなぜ登場したのか？
10. 何もない空間とは何か？
11. 舞台美術と映画美術は何が違うのか？
12. 2.5次元舞台は何を変えたのか？
13. パフォーミングスペースとは何か？
14. 未来の舞台空間は何が変わるのか？
15. フィードバック

### 授業時間外の学習

中学程度の日本史、世界史をおさらいしておくこと。

### 教科書・参考書等

授業時に毎回プリントを配布。

### 成績評価

授業への取り組み50%、レポート50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 演出論

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 川村 毅

実務経験

期間 後期集中

他専攻

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

戯曲のリーディングのシミュレーションを行ない、演技と演出の知識と技術の幅を広げる。

### 授業の到達目標

リーディングという表現行為の理解とそれを応用しての将来の展望を獲得できる。

更に、それを通じて演出とはなにかを理解する事ができる。

### 授業計画

1. 川村毅「戯曲1」リーディングの実践
2. フィードバック①
3. 川村毅「戯曲2」リーディングの実践
4. フィードバック②
5. まとめ

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び復習をすること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

授業態度60%、課題への積極性20%、課題の理解度20%にて総合的に評価する。

- S: 90点以上
- A: 80点以上
- B: 60点以上
- C: 50点以上
- D: 50点未満



科目名 劇作法

授業形態 講義

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 後期

他専攻

—

### 履修条件

戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。

### 授業の概要

ドラマ演劇の戯曲の基本的な書き方を順を追って学ぶ。物語の骨格となるログラインをつくり、シノプシス(あらすじ)を書き、戯曲を執筆していく。授業内でお互いの戯曲をリーディングし、講評し合って、ブラッシュアップしていく。

### 授業の到達目標

- ・短編戯曲(30分程度)を書き上げることができる。
- ・戯曲の仕組みを理解し、分析できる。

### 授業計画

1. 戯曲とは何か。映像の脚本との違いについて
2. ログライン発表①物語の種類について
3. ログライン発表②登場人物について
4. ログライン発表③構成について
5. シノプシス発表①
6. シノプシス発表②
7. シノプシス発表③
8. 第一稿発表①

9. 第一稿発表②
10. 第一稿発表③
11. 第二稿発表①
12. 第二稿発表②
13. 第二稿発表③
14. 第二稿発表④
15. まとめ

### 授業時間外の学習

さまざまな演劇や映画を見て、構造を分析する。  
各自、リサーチ・取材をしてログライン、シノプシス、戯曲を執筆する。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。

- S 総合点が90点以上(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)
- A 総合点が80点以上(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)
- B 総合点が60点以上(ディスカッションに参加。戯曲を提出)
- C 総合点が50点以上(授業に出席。戯曲を提出)
- D 総合点が49点以下(出席日数が足りないなど授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)

科目名 舞台照明実習①

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 石島 奈津子

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

照明部以外の学生を対象とする。

### 授業の概要

- ・舞台照明の変遷
  - ・舞台照明の基本的な設備と配置
  - ・仕込みから撤去まで、照明の基本的な作業内容
  - ・照明デザインと表現者の関わり方
  - ・舞台上で作業する上での安全確保
- 以上のことを、実際に小劇場の機構を使用して実習する。

### 授業の到達目標

- ・舞台の基本的な照明機構や機材を理解できる。
- ・舞台における照明の効果を理解して、それを表現手段の一つとして、利用することができる。
- ・舞台の設営作業の安全基準の現状を知ることによって、安全に対して意識を持ち怪我や事故などから身を守ることができる。

### 授業計画

小劇場を実際の舞台に見立て、照明器材を通常よく使われている位置に簡易に設置して、実物を前に説明したり、スポットに実際に接してその効果を体感・理解してもらう。

### 授業時間外の学習

劇上演実習等の際、照明の存在を意識して、表現を深めるための効果を、照明を利用して得られる方法を検討してみる。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

以下の項目につき1項目25点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②課題への取り組み ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解していなかった者、課題への取り組み・授業態度などに問題がある者)



科目名 舞台照明実習②

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 兼子 慎平

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

実習が主になるので、稽古着・稽古履など動きやすい服装で受講すること。また(舞台)照明に興味がある事。舞台照明作業に一度でも触れている事が望ましい。

### 授業の概要

参加者全体で取り組む舞台照明の作業を通して、各々の協調性・自立性、またそのバランスのとおり方を体で認識すること。そしてその認識を頭と体で昇華し、それぞれの段階で作業に『実践』してみる所までこの実習では求めることとする。作業の中で上記過程を繰り返すことにより、基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を学ぶことを目標とする。照明と演者の関係を考察してみる機会も提供する。

### 授業の到達目標

基本的かつ実践的な舞台照明の基礎を身につけることができる。

### 授業計画

1. 照明の仕込み作業を学ぶ①(午前)
2. 演者と照明(スタッフワーク)の関わりについて(ディスカッションを含めた考察)
3. 照明の仕込み作業を学ぶ②(午後)
4. 特殊機材を扱う
5. 舞台照明(シーン)を作る
6. 質疑応答

### 授業時間外の学習

舞台照明に触れる機会があれば積極的に参加してほしい。また、『良い演技』あるいは『良いスタッフワーク』とは何か、機会があれば考察してほしい。

### 教科書・参考書等

教科書は特に無し。実習で使用する図面等は講義時に配布。また参考図書についても講義時にいくつか紹介する。

### 成績評価

授業への取り組みと積極性60%、講義内容・作業への理解度40%にて総合的に評価する。

- S 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められ、特にリーダーシップも発揮できる者
- A 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性の両方が認められた者
- B 講義・作業に積極的に関わり、協調性・自立性どちらか一方でも認められた者
- C 積極性にはやや欠けるが、講義内容を努めて真面目に理解しようと認められた者
- D 積極性に欠け、講義内容も理解しようと認められなかった者

科目名 舞台音響実習①

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 佐藤 こうじ

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

音響部以外の学生を対象とする。

### 授業の概要

舞台における俳優が知っておくことよい音響の知識を学ぶ。音響的なことではなく、俳優視点の授業である。授業の最後に、実習を行う。

### 授業の到達目標

- ・音響の仕事、機器の扱いを理解することにより、スタッフの意図を汲み、よりクオリティの高い作品づくりを目指すことができる。
- ・「伝える」ことの難しさを理解できる。

### 授業計画

1. 搬入、仕込み、サウンドチェックの見学
2. ライブハウスPA、舞台音響、ミュージカル音響の違い
3. スピーカーの向きの検証(モニターの必要性)
4. カラオケボックスでキーンとなるのは何故か(ハウリングの検証)
5. 有線マイク、ワイヤレスマイク(ハンドマイク、ピンマイク)の取り扱い

6. 実際に音を出して音響の仕事を紹介、その効果
7. サンプラーの紹介(刀の音、殴る、蹴るなどの音を動きと合わせる音響効果)
8. 実習(チームごとにわかれ、テキストを上演する)
9. 撤去

### 授業時間外の学習

実習で使用するプリントを事前配布するので、目を通し理解しておくこと。

### 教科書・参考書等

プリントを配布する。筆記用具、舞台で動けるようなシャツ、ズボン着用のこと。小劇場で作業をするために必要な上履き、運動靴着用のこと。

### 成績評価

授業への取組み50%、実習への取組みと態度50%を100点換算して評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 舞台音響実習②

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 宮崎 淳子

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

音響部の学生を対象とする。

6. 信号の流れに沿った結線をする。
7. 音が正常に出ない時の原因究明の方法。
8. 仕込図（配線図）を読めるようにする。

### 授業の概要

基本的な音響機材の使用法、効果を知り、学内イベントや稽古でのセッティング、オペレートに役立てる。

### 授業時間外の学習

適宜指示する。

### 授業の到達目標

- ・音響機材の信号の流れを理解し、基本的な結線がスピーディーに行うことができる。
- ・簡単なトラブルシューティングができる。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布。

### 授業計画

1. 機材の用途、機能を知る。
2. ミキサー
3. エフェクター
4. 他、学生から前もって要望があれば応じる。
5. ケーブルの名称を再確認、統一する。

### 成績評価

実技試験70%、筆記試験30%で100点に換算。

- S 90点以上の者
- A 80点以上の者
- B 60点以上の者
- C 50点以上の者
- D 49点以下の者

科目名 舞台製作実習

授業形態 実習  
(Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

9. 実習③木足を作る
10. 実習④木足を作る
11. 実習⑤舞台を組む
12. 実習⑥舞台を組む
13. 実習⑦舞台を組む
14. 実習⑧バラシ、解体作業
15. 振り返り

### 授業の概要

大道具を作成することから、工具、材料、尺貫法、舞台の組み方を学ぶ。工具<なぐり、ノコギリ、パールなど>の使い方。材料<ベニヤ、コンパネ、タルキ、コワリなど>の識別と使い方。尺貫法<1分、1尺、1間>の理解と使い方。箱馬と木足で舞台を高くする方法を学ぶ。

### 授業時間外の学習

学んだ事を演技発表会や試演会などで実践し復習すること。

### 授業の到達目標

舞台で使う基本の工具、材料を知る事ができる。  
工具、材料、尺貫法を使いながら木足を作成できる。  
箱馬、木足を使い舞台を組む事ができる。

### 教科書・参考書等

必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用すること。

### 授業計画

1. 講義①舞台製作の基本
2. 講義②工具を知る
3. 講義③材料を知る
4. 講義④尺貫法を知る
5. 講義⑤木足の作成方法を知る
6. 講義⑥舞台の組み方を知る
7. 実習①工具を使う
8. 実習②木足を作る

### 成績評価

授業への取り組み50%、実習での貢献度30%、作業マナー20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上
- A 総合点が80点以上
- B 総合点が60点以上
- C 総合点が50点以上
- D 総合点が49点以下

科目名 舞台監督実習

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

### 授業の概要

小劇場の舞台、客席を設営する事で劇場の仕込みバラシ作業を学ぶ。各部署（舞台監督、客席、幕、パンチなど）のそれぞれの仕事をしっかり把握する。

それぞれの部署がチームワークを持って、安全に的確に時間を守って作業ができるようにしていく。特に舞台監督はその要としての役割をしっかりと担えるようこの実習で学習する。

### 授業の到達目標

小劇場の舞台、客席を自分たちで設営できる能力を身につけることができる。

劇場でのマナー、チームワーク、スケジュール管理なども身につけることができる。

### 授業計画

1. 講義①劇場空間の基本
2. 講義②桐朋の小劇場を把握
3. 実習①仕込みの準備
4. 実習②仕込み作業<基本舞台>
5. 実習③仕込み作業<基本舞台>
6. 実習④仕込み作業<客席>
7. 実習⑤仕込み作業<客席>
8. 実習⑥仕込み作業<幕>

9. 実習⑦仕込み作業<幕>
10. 実習⑧仕込み作業<パンチ>
11. 実習⑨バラシ作業<パンチ>
12. 実習⑩バラシ作業<幕>
13. 実習⑪バラシ作業<客席>
14. 実習⑫バラシ作業<基本舞台>
15. 振り回り

### 授業時間外の学習

各部署、事前に先輩からの引き継ぎをしっかりと行う。  
学んだ事を演技発表会や試演会などで実践し復習すること。

### 教科書・参考書等

必ず作業着を着用し、釘袋その他の作業道具を各自用意し、内履きシューズを使用すること。

### 成績評価

授業への取り組み50%、実習での貢献度30%、劇場でのマナー20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 電動工具実習

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

電動工具を使いたい人。電動工具を使う部署に所属している人。

舞台監督は必ず履修すること。

### 授業の概要

仕込み大道具製作で使用する電動工具を学ぶ。  
電動工具<インパクトドライバー、押し切り、丸ノコ、サンダーなど>

使い方から安全管理、メンテナンスなどを学ぶ。

### 授業の到達目標

舞台上で使う電動工具の特性を知り、それを安全に使う事ができる。

またそれを仕込み大道具製作へと応用する事ができる。

### 授業計画

1. 講義①電動工具の基本と安全管理
2. 講義②工具の特性を知る
3. 講義③インパクトドライバー解説
4. 講義④押し切り、丸ノコ解説
5. 講義⑤その他工具（サンダー、トリマーなど）解説
6. 実習①インパクトドライバーを使う

7. 実習②インパクトドライバーを使う
8. 実習③押し切り、丸ノコを使う
9. 実習④押し切り、丸ノコを使う
10. 実習⑤電動工具で箱を作る
11. 実習⑥電動工具で箱を作る
12. 実習⑦電動工具で箱を作る
13. 実習⑧電動工具で箱を作る
14. 実習⑨電動工具で箱を作る
15. 振り回り

### 授業時間外の学習

学んだ事を演技発表会や試演会などで実践し復習すること。

### 教科書・参考書等

必ず作業着を着用すること。

### 成績評価

授業への取り組み50%、実習での理解度30%、安全管理20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 舞台図面実習

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 健介

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

舞台図面に興味がある人。舞台図面を使う部署に所属している人。  
舞台監督は必ず履修すること。

### 授業の概要

舞台上で使う図面を理解し、またそれを活用できるようにする。主に舞台平面図、断面図、道具帖の理解と応用。応用として舞台平面図を解読し、実際の舞台にバミリを取る方法を学ぶ。  
さらには稽古が終わった後の状態を図面に記録する方法なども学ぶ。

### 授業の到達目標

舞台図面を読むことができる。  
図面から舞台のバミリを取ることができる。  
稽古後の状態を図面に記録することができる。

### 授業計画

1. 講義①図面の基本を知る。
2. 講義②図面の種類を知る。
3. 講義③縮尺を知る。
4. 講義④三角スケールを知る。
5. 講義⑤バミリの取り方を知る。
6. 実習①図形を描いてみる。
7. 実習②縮尺を変えて描いてみる。

8. 実習③三角スケールを使ってみる。
9. 実習④劇場図面を読み込んでみる。
10. 実習⑤図面からバミリを出してみる。
11. 実習⑥実際の舞台にバミリを貼ってみる。
12. 実習⑦置き道具を配置してみる。
13. 実習⑧置き道具の位置を図面に記録してみる。
14. 実習⑨稽古後の状態を図面に記録してみる。
15. 振り返り

### 授業時間外の学習

学んだ事を演技発表会や試演会などで実践し復習すること。

### 教科書・参考書等

シャーペン(鉛筆でも可)、消しゴム、定規(20cm以上)、メジャーを持参すること。

### 成績評価

授業への取り組み50%、実習での理解度50%、の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 ヘアメイク実習

授業形態 実習 (Staff)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 理絵

実務経験

期間 前期集中

他専攻

### 履修条件

特になし

### 授業の概要

- ・舞台におけるメイクアップの基礎理論、基本技術を学ぶ。
- ・主に演劇の上で必要となるステージメイクを劇場や照明、演出、役柄等に応じて理解し、舞台での効果的なメイクの基本を実践的に技術習得する。
- ・メイク講義、デモンストレーションの後、テーマに合わせた舞台メイクの実習を行う

### 授業の到達目標

舞台メイクアップの基礎理論を理解し、基本技術が習得できる。

### 授業計画

- 舞台メイクアップの基礎理論・基本実技
1. 舞台メイク基本概論
    - ・ステージメイクの種類、劇場、照明、演出とメイクの関連性。
    - ・顔の骨格と筋肉、顔の修正方法、舞台メイクで使用する化粧品説明及び使用方法。
  2. 男女別舞台メイク基礎デモンストレーション
  3. 舞台メイクアップ実習(基礎)
  4. 役柄に合わせた顔づくり、デモンストレーション

5. 舞台メイクアップ実習(応用)

### 授業時間外の学習

授業前の予習として、様々な舞台のメイクアップを意識して注目しておくこと。  
授業後は、授業中に理解した技術をより深める為に、反復練習すること。

### 教科書・参考書等

教材…ファンデーション、パウダー、スポンジ、パフ、アイライナーペンシル等。  
その他各自で用意するもの…鏡、ティッシュ、綿棒、タオル、基礎化粧品、その他お手持ちのメイク道具。

### 成績評価

- ①授業態度：30%②講義内容への理解：30%③メイク技術：20%④向上心：20%以上の観点から総合的に評価する。
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下

科目名 ワークショップ 1年次

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 S:穴迫 信一/M:宮河 愛一郎

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

ストレートプレイ系、ミュージカル系のどちらのワークショップを受講するか、希望をききとる面接あるいは調査を前期末頃、あるいは夏期休暇中に行うので、その日程を発表する掲示を見落とさないこと。面接あるいは調査で希望の意思表示のない学生は受講できない。

### 授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。

授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

### 授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時までに発表する。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップ 2年次

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 S:未定/M:白神 ももこ

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

ストレートプレイ系、ミュージカル系のワークショップを各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただく。

授業計画の準備上、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに臨むこと。

### 授業の到達目標

演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現・声による表現に関する理解を体験的に深めることができる。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画はワークショップ開始時までに発表する。

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者



科目名 ワークショップ（演大連）

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー・三浦 剛・高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

○

### 履修条件

演劇専攻本科1, 2年生、専攻科1, 2年生を対象とする。しかし、履修希望者多数の場合は、五つの大学からの選抜メンバーによってワークショップが開催されるという授業の趣旨もあって、優先的に本科2年生、専攻科1, 2年生のなかから選抜をする。また、五大学の総合での授業ということもあって、そもそも履修できる人数は少数になる。

### 授業の概要

演劇大学連盟が主催（桐朋学園芸術短期大学、桜美林大学、日本大学、多摩美術大学、玉川大学）する、共同のサマースクールとしてのワークショップである。8月上旬の集中講義として行う予定である。ワークショップの内容は、演技・身体系のワークショップと美術・衣装系のワークショップのふたつを予定している。

### 授業の到達目標

自分と同世代の他大学の学生がどのようなレベルでどのような志向をもって学生生活、もしくは演劇活動を行っているのか、ワークショップで切磋琢磨をして、今後の自身の社会生活、もしくは卒業後の進路など、目標をもった活動ができるようにする。

### 授業計画

1. イントロダクション（桐朋学園において）
2. ワークショップのレクチャー（桐朋学園において）
3. ワークショップ 午前、1日目
4. ワークショップ 午後、1日目
5. ワークショップ 午後、1日目
6. ワークショップ 夕方、1日目
7. ワークショップ 午前、2日目

8. ワークショップ 午後、2日目
9. ワークショップ 午後、2日目
10. ワークショップ 夕方、2日目
11. ワークショップ 午前、3日目
12. ワークショップ 午後、3日目
13. ワークショップ 午後、3日目
14. ワークショップ 夕方、発表 3日目
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

60時間程度の時間外学習をすること。

### 教科書・参考書等

追って指示する。

### 成績評価

最終発表50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者（基本的な諸事項を十分に把握し、発表においても十分にプレゼンスができた）
- A 総合点が80点以上の者（基本的な諸事項をほぼ把握し、発表などの成果においてもプレゼンスを保てた）
- B 総合点が60点以上の者（基本的な諸事項の理解に欠け、プレゼンスがあいまいになる）
- C 総合点が50点以上の者（基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスがあまりできない）
- D 総合点が49点以下の者（基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスが発揮できない）

科目名 演劇合宿

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

原則として演劇専攻1年生は全員参加。

### 授業の概要

演劇専攻の教育課程の基本は次の三つである。

- 1 戯曲が読めること。
  - 2 からだを鍛えること。
  - 3 集団行動が取れること。
- この授業では、特に3の「集団行動が取れること」が課題となる。個人だけではできない演劇創造の実践を短期間のうちに、しかも限られた状況の中での集中作業で修得する実演発表形式をとる。
- なお、この授業は基本的に、本学施設「ハヶ岳高原寮」を利用した三泊四日の合宿形式による集中講義である。コロナ禍の状況により合宿形式が実施できない場合、同等の代替授業になることを理解しておくこと。※詳細はガイダンス、全体集会等で周知するので要確認。

### 授業の到達目標

演劇合宿の全過程を通じて、アンサンブルの重要性を学び、協調性をもって芝居を作ることができる。

### 授業計画

1. 授業ガイダンス・オリエンテーション
2. 第一日目：課題の提示
3. 第一日目：課題作品を読み取り、理解する
4. 第一日目：レクリエーション①アンサンブルの前提となるコミュニケーション能力を発揮する
5. 第一日目：課題稽古①課題作品の中からなにを表現の主題とするか、検討し、いったん台本としてまとめる
6. 第二日目：レクリエーション②アンサンブルの前提となる共同作業、共同の体験を積み、体験的に協力する意味を獲得する
7. 第二日目：課題稽古②台本の再検討、部分的に立体化を試みる
8. 第二日目：課題稽古③立体化したシーンを検討することによって、さらに台本の再検討に進む
9. 第二日目：課題稽古④さらに台本をまとめ、完成させる
10. 第三日目：課題稽古⑤台本をもとにして完全なる上演を作る。スタッフワークも検討する。

11. 第三日目：舞台稽古—実際の発表会場をつかってスタッフワークと合わせてリハーサルを行う
  12. 第四日目：発表（劇上演）—参加者相互で創作した作品を鑑賞しあう。
  13. 第四日目：講評—教員から演技、構想、集団作業のすべての面についての講評を受け、自己分析をする
  14. 第四日目：反省会—お互いの苦勞と共同作業の成果を確認し、アンサンブルの意義を再確認する
  15. 第四日目：創作の会場に感謝を込めて原状復帰し、創作の全プロセスを締めくくる。
- ※合宿実施場所により、授業計画を変更する場合がある。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを確認し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書きとめ、その内容を復習するように努めること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案の時間帯のミーティングで発言できるように事前準備をすること。毎回合意された内容について作業を行い、着実に完成に向けて進めていくこと。稽古時間外のそうした思索が、発表する作品成果を左右するので、合宿生活を通して緊張感を維持すること。

### 教科書・参考書等

参考資料等：必要に応じて授業時に配布。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、チームリーダーとして作品の質を高められる）
- A 総合点が80点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、演技、その他のスタッフワークで貢献ができる）
- B 総合点が60点以上の者（合宿の内容を十分に把握し、演技、で貢献ができる）
- C 総合点が50点以上の者（合宿の内容を十分に把握しておらず、チームに貢献できてない）
- D 総合点が49点以下の者（合宿の内容を理解しておらず、チームに貢献できてない）

科目名 演劇研修

授業形態 実習 (WS)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制 対象外

担当教員 ペーター・ゲスナー・高橋 宏幸・後藤 絢子

実務経験 —

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

良好な体調で海外での研修を受けることができる者。また、事前に複数回の説明会を課すが、必ず受講できる者。

### 授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、俳優訓練などを勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を見たり、美術館、博物館をまわり、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外のさまざまな演劇人と実際にふれあう機会があるので、臆することなく積極的に参加すること。昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリのルーズムーズシアターなどで研修している。今年度も海外での研修を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見て、実施の可否を判断する。

### 授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見をもって視野を広めることができる。また、様々な人とふれあうことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修としてさまざまなものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。またそのためのテキストなどは用意される。

### 授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②
5. 事前学習会①

6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①
9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

### 授業時間外の学習

訪問する国の文化、環境、演劇などを必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家、演劇などを知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また帰国後のレポートを書く際に、体験したことをふまえて、さらに調べること。

### 教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲やさまざまな資料をそのつど配布するので、読んでおくこと。

### 成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み
- ②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合（および33%ずつ）にて総合的に評価する。
- S 上記の1・2・3の総合点が90点以上のもの。
- A 上記の1・2・3の総合点が80点以上のもの。
- B 上記の1・2・3の総合点が60点以上のもの。
- C 上記の1・2・3の総合点が50点以上のもの。
- D 上記の1・2・3の総合点が49点以下のもの。

科目名 劇上演実習A(試演会)(ストレートプレイコース)

授業形態 実習 (上演)

対象 演劇専攻2年 (ストレートプレイコース)

単位数 4

キャップ制 対象外

担当教員 大谷 賢次郎

実務経験 ○

期間 後期集中

他専攻 /

—

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②

8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
  - A 総合点が80点以上の者
  - B 総合点が60点以上の者
  - C 総合点が50点以上の者
  - D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習A(試演会)(ミュージカルコース)

実習(上演)

対象 演劇専攻2年  
(ミュージカルコース)

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 信太 美奈

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

ー

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品・企画および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル①

7. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル②
8. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル③
9. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにかが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習B(卒業公演)(ストレートプレイコース)

実習(上演)

対象 演劇専攻2年  
(ストレートプレイコース)

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

ー

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

この実習では、卒業後演劇活動に従事することを想定し、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. パフォーマンスの稽古①
7. パフォーマンスの稽古②
8. パフォーマンスの稽古③
9. パフォーマンスの稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにかが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者



科目名 劇上演実習B(卒業公演)(ミュージカルコース)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻2年  
(ミュージカルコース)

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 越光 照文

実務経験

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。  
卒業に必要な単位修得の見込みのある者のみ参加できる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品・企画および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演・パフォーマンスのために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル①

7. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル②
8. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル③
9. 立ち稽古あるいはパフォーマンスのためのリハーサル④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習C/D(学外出演)

授業形態 実習(上演)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 4

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験

期間 集中

他専攻 /

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合のみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任をもって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生とは例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないで、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

### 授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。さまざまな現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③

4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
  5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
  6. 立ち稽古①
  7. 立ち稽古②
  8. 立ち稽古③
  9. 立ち稽古④
  10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
  11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
  12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
  13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
  14. 本番 あるいは撮影
  15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する
- 作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習E／F（学内出演）

授業形態 実習  
(上演)

対象 演劇専攻1・2年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

○

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物（チラシ等）、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

学内の実習（他専攻の実習・演習を含む）への出演者としての参加。ただし出演依頼を授業担当教員から受けた場合に限る。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任もって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

さまざまな実習、演習に出演者として参加し、さまざまな関係者、出演者、スタッフと協調し、協力する態度を可能にする表現力を養う。本番の出演者としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

学内の実習（他専攻の実習・演習を含む）に出演者として参加し、協調し、協力するプロセスを通じて表現力を養う。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者



*Toho Gakuen College of Drama and Music*

専攻科音楽専攻

科目名 音楽理論[和声]V・VI

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2・2

担当教員 平井 正志

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

「和声I・II・III・IV」の教程内容に習熟した上で、さらに高度な内容を求めていること。

### 授業の概要

音楽における旋律的要素―拍節、律動、非和声音とそれに伴う不協和音程が和声法にあってどのように考慮されるべきかを詳察する。その上で、半音階的転調を伴う歌謡形式のソプラノ課題を実施し、実践的な和声法の能力を培う。

また、上記の内容がロマン派の小品にあってどのように現れているかを観察、分析し、さらに以上の教程を通じて修得された素養をもとに、最後に自作の旋律による簡単な歌謡形式の和声的小品を試作する。

### 授業の到達目標

前期：非和声音を含むソプラノ和声課題の実施を通して、和声法を実践する技術の習熟をはかることができる。

後期：実際の音楽作品総体における和声的側面を音楽的発想の一部として感得するための力を養うことができる。

### 授業計画

(前期)

●内部変換：非和声音とリズムの変化を伴う和声課題の実施に先立ち、同一和音内での配置の変更の際の諸作法に通暁する。(※必要に応じて、初歩ソプラノ課題の補充課題を実施する。)

1. 同一和音で配置を変換する際の各種形態 和音交替と内部変換 間接連続進行
2. 限定進行音の置換 許容される連続進行 出題第1回
3. 実施課題確認第1回 拍点と拍点外 出題第2回
4. 実施課題確認第2回

●構成音の転位：

・非和声音を含む旋律の和声の状態を把握する際の音響的条件とその変化の可能性(和音進行、終止形の形成)を解析するための素地を養う。

・非和声音を含むソプラノ課題を実施し、旋律が規定する条件下で同時に旋律自体が内在的に含有する和声感を直感的に把握する能力を開発する。

5. 非和声音とその解決進行 それを踏まえた和音設定法
6. リズム相補の配慮 非和声音に対する他声部の和音配置法 出題第1回
7. 実施課題確認第1回と出題第2回
8. 実施課題確認第2回 反復進行について 出題第3回
9. 実施課題確認第3回 偶成和音について 出題第4回
10. 実施課題確認第4回

●遠隔転調を含むソプラノ課題の実施

11. 調関係について概説 準関係調と副次関係調 転調前後における和音機能の転換 出題第1回と和音設定の演習
12. 実施課題確認第1回 出題第2回出題と解説
13. 実施課題確認第2回 出題第3回出題と解説

14. 実施課題確認第3回

15. 最終課題の内容検討(後期)

●ロマン派のピアノ小品において、いかに上記の要件が実践されているかを詳細に分析する。

16. 楽式の概説 和声分析と転調の考察・第1回

17. 和声分析と転調の考察・第2回

●ここまで培った能力と素養を反映したロマン派的な和声様式による小品を試作する。

18. テーマ創作実践：旋律構成法、和声法、伴奏法の相互関連を鑑みたテーマを発想する。

19. 自作テーマの内容検討

20～29. 自作曲の内容検討  
作曲の進捗に合わせ、楽曲構成法、和声法、声部進行法、伴奏法、転調法の指導を順次構築。

30. 完成曲の最終内容確認。

### 授業時間外の学習

後期の授業内容に備えて、ロマン派の和声様式によって作曲された小品に親しんでおくこと。

### 教科書・参考書等

教科書：資料と課題及び参考曲のプリントを配布

参考書：執筆責任者 島岡 譲 『和声「理論と実習」第三巻』音楽之友社

### 成績評価

前期末、最終実施課題をレポートとして提出。後期末、自作の小品を完成し、譜面を提出する。

単位認定の可否については、提出課題内容の優劣のみならず、課題実施を通じて総合音楽力を伸長できた度合いを重視して勘案しつつ、可否を決定する。

成績の評価基準はレポートの内容：40%、課題の実施状況：40%、授業への取り組み姿勢：20%とする。

S 90点～100点：前期の和声課題実施において独自の審美眼を反映でき、書法面の習熟度が高い。後期の自作曲において美的感覚と発想にすぐれ、独創性の認められるレベルに到達している。

A 80点～89点：前期の和声課題において、原則に対する理解、和声法に対する洞察が確かである。後期の自作曲において、前期を通して身につけた和声的感覚を十分に発揮できている。

B 60点～79点：上記の条件において、まだ追求の余地が残されていた。

C 50点～59点：和声法に対する習熟度が不十分で、自作曲の内容に関する追求が十分でない。

D 50点未満：和声法への理解が不十分で、自作品を満足な状態で完成できない。

科目名 楽曲分析(古典派)

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

基礎的な和声、および楽式に関する知識を有するもの。後期を含めて通年履修が望ましい。

### 授業の概要

和声の歴史の変遷、及び楽式の変化・発展を考究する。

古典派の音楽を中心に楽曲分析を行う。和声の発展、ソナタ形式の拡大・複雑化とその完成の過程をハイドンからベートーヴェンの楽曲分析を通して学習する。そしてベートーヴェン後期の作品にも触れて、その独自性を検討する。

### 授業の到達目標

古典派のそれぞれの楽曲の和声・楽曲形式を、音楽史の歴史的観点から鑑みつつ、その特徴と位置を観取できる。

### 授業計画

1. ソナタ形式の原型と発生史を検討。及び古典派初期の形態を知る。
2. ソナタ形式 名称
3. ソナタ形式 構造
4. ソナタ形式 簡単な楽曲①
5. ソナタ形式 簡単な楽曲②
6. 古典派中期のモーツァルト及びベートーヴェン初期の作品を検討①
7. 古典派中期のモーツァルト及びベートーヴェン初期の作品を検討②
8. ベートーヴェン中期の作品①

9. ベートーヴェン中期の作品②

10. ベートーヴェンと初期ロマン派①

11. ベートーヴェンと初期ロマン派②

12. ベートーヴェン後期①

13. ベートーヴェン後期②

14. 学生による作品分析の発表①

15. 学生による作品分析の発表②

### 授業時間外の学習

特にベートーヴェンの作品において、自分の楽器専攻以外の楽曲に親しむことが望まれる。

### 教科書・参考書等

毎回の授業開始時などに、プリント類の配布を行う。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み 40%、学期末試験(発表) 60%の結果を総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末試験(発表)を行わなかった者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 楽曲分析（ロマン派以降）

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 池田 哲美

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

古典派までの楽式、及び和声の知識を有すること。また後半では印象派の作品を取り扱うため、教会旋法の知識も必要となってくるので、あらかじめ学習しておくことが望まれる。

### 授業の概要

ロマン派初期の作品から、中期～後期にいたる変遷を具体的な楽曲を分析しながら学習し、さらにドビュッシー・ラヴェルといった印象派の作品、そして近・現代にいたる移り変わりを楽曲分析を通じて検討する。調性の複雑化と崩壊、楽曲創作における各作曲家の時代性を伴う意識の変化を追う、といった広い観点を含め考究したい。

### 授業の到達目標

特に、印象派以後の作品に親しみ、古典派・ロマン派の作品との関連性と差異性を具体的に知ることができる。

### 授業計画

1. 初期ロマン派のソナタ形式①形態
2. 初期ロマン派のソナタ形式②構造
3. 初期ロマン派のソナタ形式③楽曲分析
4. 初期ロマン派のソナタ形式④楽曲分析
5. 中期ロマン派のソナタ形式⑤形態
6. 中期ロマン派のソナタ形式⑥構造
7. 中期ロマン派のソナタ形式⑦楽曲分析
8. 中期ロマン派のソナタ形式⑧楽曲分析
9. 中期ロマン派①歌曲

10. 中期ロマン派②歌曲
11. 近代の作品①ドビュッシー 器楽
12. 近代の作品②ドビュッシー 歌曲
13. 近代の作品③ラヴェル
14. 学生による作品分析の発表①
15. 学生による作品分析の発表②

### 授業時間外の学習

自分の専攻楽器以外の作品、特にオーケストラ作品などに日頃から親しんでおくこと。

### 教科書・参考書等

毎回の授業開始時などに、プリント類の配布を行う。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、学期末試験（発表）60%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、学期末試験（発表）を行わなかった者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 コード論Ⅱ

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 2

担当教員 小林 真人

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

コード論Ⅰを履修していることが望ましい。

### 授業の概要

より多くのコードを覚え、ハーモニーについて考え、理解を深めることで、各々が演奏や作編曲をする際のアイデアを増やし、音楽表現を豊かにするための一助にする。

譜面通りに演奏することだけでなく、コードを元にその場に応じて、どのように演奏（作編曲も含め）したらよいか、自分自身で柔軟に創出出来るようにする。

コードの説明、実践はピアノを使用して進め、読み方はドイツ音名ではなく英語読みとする。

### 授業の到達目標

コードを覚え、その構成音を把握し、自由に転回できる。メロディに対してコード付けできる。

コードの機能と連結を理解して、それを元にコードの発展、応用出来るようにする。

それらをピアノなどで演奏、表現できる。

### 授業計画

1. 導入
2. コード論 基礎編①コードの仕組み／3和音と4和音
3. コード論 基礎編②ダイアトニックコード／TSDの機能
4. コード論 基礎編③ドミナントモーション／II<sup>m</sup>7-V7 / SD7
5. コード論 基礎編④同じ機能内の代理／V7とII<sup>b</sup>7

6. コード論 基礎編⑤TとSの代理コード
7. コードパターンとコード付け①様々なコード進行（クリシェなど）
8. コードパターンとコード付け②様々なコード進行（カノン進行など）
9. コード論 応用編①代理コードの活用とリハモナイズ
10. コード論 応用編②テンション
11. コード論 応用編③コードとリズムの関係
12. コード論 応用編④コードと旋律（旋法）の関係
13. コードパターンとコード付け③ブルース
14. コードパターンとコード付け④作編曲への活用
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業でやった事を復習しておく。  
コードに慣れる。

### 教科書・参考書等

特になし。随時プリントを渡す。

### 成績評価

(1) 授業態度50% (2) 課題発表への取り組み姿勢、レポート等での総合評価50%

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下

科目名 S. H. M. V・VI

授業形態 演習  
(理論)

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 1・1

担当教員 塩崎・大家・加藤・三瀬・長谷川

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

S. H. M. I・II・III・IVの単位を修得し、更なる音楽能力の向上を望むもの。

### 授業の概要

今までに学んできたことを活かし、より一層高度な能力を身に付ける。音楽における実践的な技術—アンサンブル、初見視奏、和声付けなど—の様々なより柔軟な音楽能力を習得する。特にすでに学んできた楽典知識などを具体的な形で応用し、楽曲の理解を深めるための重要な手段としてのソルフェージュを学ぶ。

### 授業の到達目標

より高度で実践的な音楽能力を習得できる。総合的な力を具体的な題材を用い、訓練する。

### 授業計画

通年の授業計画については漠然とした内容を記すが、各クラスで異なる。

- ・変拍子を含む多様なリズムの学習
- ・ハ音記号などのクレ読みの実践
- ・楽典的知識の応用
- ・旋律の和声付け
- ・対位法的楽曲の聞き取り

- ・即興演奏
- ・移調能力の促進
- ・弾き歌い
- ・読譜力の強化
- ・暗譜力の促進
- ・既存の楽曲の聴音
- ・聴き取り
- ・室内楽、及び管弦楽曲の読譜と聴音

### 授業時間外の学習

常に読譜力の向上をめざし、日頃から楽譜を読むことを習慣付ける。

### 教科書・参考書等

プリントの配布。

### 成績評価

学年末に実施する一斉テストで単位評価する。  
S・H・M各100点の合計300点満点を100点に換算する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 音楽史研究

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 4

担当教員 大津 聡

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

条件は特になが、授業内容への関心は必須である。また、これまで学んできた音楽史の知識を総括しつつ、広く音楽文化や音楽史の諸問題について考察する受講姿勢を期待する。

### 授業の概要

統一テーマは「19世紀音楽の諸相」。19世紀音楽の諸相について、ピアノコンチェルトとオペラから考察する。本授業は、個々の作品の理解にとどまることなく、音楽史の基礎概念や各々の時代精神との関連から19世紀音楽を考察することを目的としている。各ジャンル共、時系列に従って進めるものの、便宜上の時代区分を設けていないのはそのためである。そういう意味で、歴史の再構成よりも、各ジャンル史の諸問題へのアプローチに重きを置いている。以下に、授業イメージを助けるため、各回で主に扱う予定の作曲者名、あるいは作品名等を付すが、進捗状況により変更される場合もある。前期は講読演習形式、後期は講義形式とする。

### 授業の到達目標

- 以下3点を到達目標として掲げる。
1. 個々の作品(作曲家)の音楽史上の意味を説明することが出来る。
  2. 音楽史の基礎概念と作品内容との関連について説明することが出来る。
  3. 音楽史固有の問題を、現代にも通用する普遍的問題として理解することが出来る。

### 授業計画

(前期) [講読演習] (以下、主に講読テキストの章立てに基づく)

1. ガイダンス
2. [予備的考察]:協奏曲の成立について
3. 「小さなアンサンブルの魅力」:モーツァルト
4. 「チェンバロ文化のなかで」:ベートーヴェン
5. 「ショパンの規範となった音楽」:フンメル
6. 「バラードとしての音楽」:モシュレス
7. 「19世紀の演奏会とごたまぜのプログラム」:ヴェーバー
8. 「アンサンブル音楽の輝き」:ショパン
9. 「エンタテインメントか芸術か」:メンデルスゾーン
10. 「2つのイ短調が切り拓いた世界」:シューマン夫妻
11. 「近代のピアノに向かって」:リトルフ
12. 「ピアノ協奏曲の誕生」:リスト
13. 「鳴り響く音の博物館」:ブラームス、サン=サーンス

14. 「拡散するピアノ協奏曲」:チャイコフスキー、ラフマニノフ
15. 前期の総括

(後期) [講義]

1. ガイダンス
2. オペラ・プッファと共同体精神:モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》
3. 受容史と作用史1:モーツァルト《魔笛》
4. 受容史と作用史2:モーツァルト《魔笛》
5. オペラと成立史:ベートーヴェン《フィデリオ》
6. 「ドイツ・ロマン主義オペラ」:ヴェーバー《魔弾の射手》
7. 「回想動機」:ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ》
8. オペラ・プッファの終焉:ヴェルディ《ファルスタッフ》
9. 「総合芸術作品」:ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》
10. 出来事史とオペラ:ワーグナー《マイスタージンガー》
11. 「舞台神聖祝祭劇」:ワーグナー《パルジファル》
12. 「メルヒェン・オペラ」:フンパーディンク《ハンゼルとグレーテル》
13. オペラ・コミック?:ピゼー《カルメン》
14. 「ヴェリスモ」:マスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》
15. 後期の総括

### 授業時間外の学習

授業時間内に鑑賞出来るのは、両ジャンル共一部に過ぎない。図書館等に所蔵されたメディアを使って積極的に作品に触れ、理解を深めてもらいたい。とりわけ前期の講読演習については、事前(授業時間外)の準備が必須である。

### 教科書・参考書等

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。参考書については、参考文献表を配布する他、授業中に適宜紹介、指示する。前期の講読演習は、小宮信治「ピアノ協奏曲の誕生」(春秋社)を基本テキストとする。

### 成績評価

発表内容、期末レポート試験による。前期、後期の合算で総合評価100%中、90%以上をS評価、80%以上をA評価、60%以上をB評価、50%以上をC評価、それ以下はD評価とする。尚、3分の2以上の出席をしていない場合、成績評価の対象としない。また、受講態度が両学期を通じて一定の水準に達していないと判断される場合、評価は無条件でC以下とする。



科目名 日本音楽史研究 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 野川 美穂子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

日本音楽専修は必修。今年度と来年度では、授業の内容が異なる。

### 授業の概要

日本音楽にはさまざまな種目があり、使われる楽器の種類、音楽的特徴などに違いがある。いっぽうで、異なる種目でありながら、共通する特徴もある。また、舞踊や演劇と結びついているものが多い。この授業では、江戸時代より前に成立した種目を中心に、その歴史と特徴を理解しながら、音楽以外の分野とどのように結びついてきたのか、社会や文化の変遷の中で音楽がどのように伝えられてきたのかなどを考える。毎回、視聴覚教材を活用しながら、授業を進める。

### 授業の到達目標

日本音楽の歴史と特徴を多面的に理解できる。

### 授業計画

(前期)

1. 日本音楽史の特徴、日本音楽を知るための資料
2. 正倉院の楽器
3. 雅楽の歴史と特徴
4. 雅楽の代表曲を楽しむ①番舞
5. 雅楽の代表曲を楽しむ②装束、面
6. 雅楽の代表曲を楽しむ③国風歌舞
7. 雅楽の伝承方法
8. 雅楽の現在
9. 雅楽から生まれた新しい日本音楽
10. 声明の歴史と特徴—宗派による違い①真言宗、天台宗
11. 声明の歴史と特徴—宗派による違い②華厳宗
12. 声明の歴史と特徴—宗派による違い③禅宗(曹洞宗、黄檗宗)
13. 声明の歴史と特徴—宗派による違い④浄土宗、浄土真宗、ご詠歌

14. 声明の現在
15. 雅楽と声明のまとめ(後期)
16. 琵琶楽の歴史と特徴—琵琶楽の代表曲を楽しむ①平家
17. 琵琶楽の歴史と特徴—琵琶楽の代表曲を楽しむ②盲僧琵琶
18. 琵琶楽の歴史と特徴—琵琶楽の代表曲を楽しむ③薩摩琵琶、筑前琵琶
19. 琵琶楽の伝承と発展
20. 能楽の魅力
21. 能楽の歴史
22. 能楽の音楽的特徴
23. 能楽の代表曲を楽しむ①夢幻能と現在能
24. 能楽の代表曲を楽しむ②狂言
25. 能楽が後世の音楽に与えた影響①《道成寺》とその影響
26. 能楽が後世の音楽に与えた影響②《黒塚》とその影響
27. 能楽が後世の音楽に与えた影響③《紅葉狩》とその影響
28. 能楽の伝承方法
29. 能楽の現在
30. 琵琶楽と能楽のまとめ

### 授業時間外の学習

授業でとりあげた種目や作品の特徴を整理し、より深く調べること。

### 教科書・参考書等

授業時にプリントを配布する。参考書については、その都度指示する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、前期末・後期末の筆記試験の成績50%の配分で評価する。S(90～100)、A(80～89)、B(60～79)、C(50～59)、D(50未満)。

科目名 音楽療法概説 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 ○

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

本講義では、音楽の様々な働きがどのように治療や援助に生かされるのかを理解し、さらに音楽が人間や社会に働きかける可能性を探っていく。

音楽という芸術を治療という科学の領域に入れること自体に難しさはあるが、この領域は20世紀に入り大きく発展してきた。音楽・患者(対象者)・治療者の三者から構築される治療技法の音楽療法は、医療、福祉、教育、保健領域で生かされ、また新しい学問としても現代社会において注目を浴びている。

前期では理論を中心に基本的概念を学ぶ。後期では音楽療法に必要な治療技法について学ぶ。

現場実習としては音楽療法視点の訪問コンサートへの参加を必修とし、社会状況をみながら現場との調整を図りガイダンスで説明する。

### 授業の到達目標

音楽療法の定義を理解し、音楽の治療的機能を把握できる。基本的なプログラム作成ができる。

### 授業計画

[前期]

1. オリエンテーション、現場実習について
2. 音楽療法概略
3. 音楽療法視点の訪問コンサートとは
4. 音楽療法の対象と目標①高齢者・認知症
5. 音楽療法の対象と目標②児童・発達障害
6. 実習準備①プログラム
7. 実習準備②役割分担
8. 実習リハーサル・練習
9. 実習リハーサル・ディスカッション
10. 実習①児童
11. 実習②高齢者
12. フィードバック
13. 音楽療法の技術①音楽技術
14. 音楽療法の技術②コミュニケーション技術

15. まとめ[後期]
1. 後期実習について
2. 音楽療法事例①高齢者
3. 音楽療法事例②児童
4. 基本的プログラム作成①集団
5. 基本的プログラム作成②個人
6. 実習準備①治療構造
7. 実習準備②評価
8. 実習リハーサル
9. 実習①児童
10. 実習②高齢者
11. フィードバック
12. 他領域の臨床活動
13. 難病と音楽療法
14. 世界の音楽療法動向
15. まとめ

### 授業時間外の学習

理論と実習を行なうので、2つの柱が結びつくように授業の復習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)  
以上、2冊教科書。  
参考書 鈴木千恵子 編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

### 成績評価

- (1) 授業の取り組みと態度50% (2) 期末試験50%
- S 総合点90点以上  
A 総合点80点以上  
B 総合点60点以上  
C 総合点50点以上  
D 総合点49点以下



科目名 音楽療法演習A/B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

「音楽療法概説」を履修していること。

### 授業の概要

この授業は音楽療法の実習を中心とし、実践に関する技術等も学ぶ。

実習現場は高齢者と児童を予定しているが、社会状況をみながら現場との調整を図りガイダンスで説明する。

この授業での実習は、一般社会で行われている少人数対象の音楽療法セッションをイメージし、対象者とコミュニケーションを図りながら様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。

### 授業の到達目標

音楽療法の実践に必要な臨床的音楽技術を身につけることができる。

基本的なプログラム作成ができる。

### 授業計画

[前期]

1. 導入
2. 音楽療法活動の紹介
3. 音楽療法活動と技術①高齢者のセッション
4. 音楽療法活動と技術②児童のセッション
5. 模擬セッション①扱曲
6. 模擬セッション②プログラム作成
7. 実習準備①受講生同士で実践
8. 実習準備②グループごとに発表
9. 実習
10. フィードバック
11. 様々なジャンルの楽器活動
12. 音楽療法における即興演奏と技術
13. まとめ①
14. まとめ②
15. まとめ③

[後期]

1. 臨床現場についての理解
2. 音楽療法における楽曲研究①鑑賞
3. 音楽療法における楽曲研究②歌唱
4. 音楽療法における楽曲研究③身体運動と表現
5. セッションの計画と準備①プログラム作成
6. セッションの計画と準備②プログラム発表
7. リハーサル①受講生同士で実践
8. リハーサル②ディスカッション
9. リハーサル③グループごとに発表
10. 実習(高齢者又は児童)
11. 実習
12. フィードバック
13. まとめ①
14. まとめ②
15. まとめ③

### 授業時間外の学習

音楽療法の実習に関しては、プログラム作成が最も大切である。選曲等は深く調べ、練習もしっかり行うよう努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
 松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)  
 以上、2冊教科書。  
 参考書 鈴木千恵子 編著「松井紀和のスーパービジョン」(音楽之友社)

### 成績評価

(1) 授業の取組みと態度50% (2) 期末試験50%

- S 総合点90点以上  
 A 総合点80点以上  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下

科目名 演奏現場論A/B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 合田 香

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 ○

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

この20年大小の音楽専門ホールが続々とオープンし、都内では乱立気味。一方、オーケストラの世界ではホールとのフランチャイズ提携が増えてきて、本番と同じ場所で練習ができるオーケストラが増えてきている。これは、とりも直さず、日本の音楽界において「響き」(音響)の意識が向上して、それに呼応して周りの環境も整ってきたものであろう。

演奏者も、教育者も、聴衆も、音楽をプロデュースする立場の者も、そして当ホール関係者もホールでの音響、楽器同士の関係等に鈍感ではいられない。

演奏者は(声楽を含んで)自分の楽器の特性、別の楽器の特性をよく理解し、違ったホールにおいても即座に色々な状況を感じ取って対応していかなければならない。プロデュースする者やスタッフも演目合ったホールの選択が当然の時代になってきている。

この授業では個別の楽器の音響的個性の理解に始まり、ホールの響きとの関係、問題点の解消方法を学ぶ。

また一方、「演奏」という進路の他に「音楽業界」を視野に入れたい人にはこの授業内で行う、色々なケーススタディーや会場(現場)での体験の機会が自分の進路選択に役立つと思う。

### 授業の到達目標

- ・実技やアンサンブルの学習の段階において、また実際の演奏現場等で活用することのできる「響きや配置の「考え方」」を習得できる。
- ・クラシック音楽業界の理解と体験。

### 授業計画

受講学生の専攻や将来展望によって、系統1、系統2を織り交ぜながら授業を構成する。

系統1 楽器の特性、配置や楽器とホールなどの音環境についての考察

1. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性①ピアノ

2. 個別の楽器の特性、音の指向性、伝搬特性②その他の楽器、受講者の専門楽器を中心に
3. 楽器間の音の影響、特性と範囲①ピアノと他の楽器
4. 楽器間の音の影響、特性と範囲②3人以上の奏者の場合
5. 響きや音の干渉の判断とアドヴァイスの仕方、タイミング
6. 楽曲演奏の中での具体的な検証①受講者の専門楽器による、Duo
7. 楽曲演奏の中での具体的な検証②Trio
8. 楽曲演奏の中での具体的な検証③さまざまな編成
9. ステージ上の位置による差異、客席の場所による差異について
10. ホールや会場の音特性と対処方法について

系統2 コンサートビジネス、演奏会の運営について

11. コンサート業界について、働く人々とその業種
12. コンサートの運用に必要な考え方、知識
13. 自分たちでコンサートを作るときの考え方
14. コンサートの企画立案(目的や条件の整理)
15. まとめと学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

この授業で理解した内容を、アンサンブル、オーケストラ、実技レッスン、他の授業などで試してみて、その経験をまた授業にフィードバックできることが望ましい。

### 教科書・参考書等

なし

### 成績評価

受講態度80%、期末レポート20%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点90点以上  
 A 総合点80点以上  
 B 総合点60点以上  
 C 総合点50点以上  
 D 総合点49点以下

科目名 アウトリーチ研究 A / B

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻 1・2年

単位数 4

担当教員 永井 由比

実務経験 ー

期間 通年

他専攻

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

アウトリーチとは、英語で手を伸ばすことを意味する言葉である。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動、公共機関の現場出張サービスなどの意味で対応される。

本講義では主に、小学校、学童、福祉施設等での現場実習を通して芸術分野のアウトリーチが具体的にどのような社会貢献ができるか、またその社会的ニーズを模索していく。

また、福祉施設、学校などを一年間通して定期的に訪問してアウトリーチによって利用者がどのように変わって行くか考察していく。

### 授業の到達目標

学校、福祉施設などそれぞれに適したアウトリーチコンサートの企画作りとのワークショップを企画し芸術アウトリーチの社会的意義を確認できる。

### 授業計画

前期

1. 導入
2. ワークショップについて
3. ワークショップ企画作り①小学校
4. ワークショップ企画作り②福祉施設
5. ワークショップ発表①小学校①
6. ワークショップ発表②小学校②
7. ワークショップ発表③福祉施設①
8. ワークショップ発表④福祉施設②
9. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作①
10. 学校訪問アウトリーチについてプログラム制作②
11. 学校訪問アウトリーチ 模擬発表
12. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ①
13. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ②
14. 学校訪問アウトリーチ発表(実習) ③
15. まとめ

後期

1. 導入
2. 福祉施設アウトリーチ企画作り①
3. 福祉施設アウトリーチ企画作り②
4. 福祉施設アウトリーチ企画作り③
5. 福祉施設プログラム制作①
6. 福祉施設アウトリーチ模擬発表
7. 福祉施設アウトリーチ実習①
8. 福祉施設アウトリーチ実習②
9. 福祉施設アウトリーチ実習③
10. 福祉施設アウトリーチ実習④
11. 福祉施設アウトリーチ実習⑤
12. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動についての考察
13. 公共ホールにおけるアウトリーチ活動について
14. フィードバック
15. 総括

### 授業時間外の学習

演奏、ワークショップ発表に向けて個々、またはグループで練習をしっかりとすること。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習不参加の者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 第一実技Ⅲ・Ⅳ/副科実技Ⅲ・Ⅳ/第二実技Ⅲ・Ⅳ

授業形態 実技

対象 専攻科音楽専攻 1・2年

単位数 6/2/4

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 x/0/0

### 履修条件

第一実技は全学生の専門実技として必修科目である。別途徴収になるが、副科実技・第二実技として専門実技以外の実技を履修することができる。

### 授業の概要

全ての授業の中で一番、関心・意欲を持って取り組むべき授業であり、演奏技術、表現力を身につけることを目的とする。第一実技は、全学生が各自の専修実技の担当講師のもとで、週1回、60分のレッスンを受ける。内容については、個人レッスンになるため、個々のレベルに合わせた課題を与え指導を行っていく。試験は前期、後期と2回行い、また、後期には学内演奏会に出演する。尚、2年次後期の成績優秀者は修了演奏会に出演することができる。

第二実技は、週1回、40分のレッスンを受けることができ、後期に試験を行う。副科実技は、レッスン時間が20分となる。

### 授業の到達目標

担当講師との一対一の授業となるため、到達目標は各自異なる。副科実技としてのテクニックのレベルアップと表現力の向上という点が全学生に対して言える目標である。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び課題の検討
- 2～21. 与えられた課題のレッスンを数回受け、まとめあげ、次の課題へと進んで行くという形を繰り返して行く。
22. 試験曲の検討

23. 試験曲の決定
- 24～28. 試験曲のレッスン
- 29～30. 試験曲のまとめ。伴奏合わせ等

個人レッスンのため、これは授業計画の例である。

### 授業時間外の学習

レッスンごとに与えられる課題に対し、しっかりと予習をして次のレッスンに臨むこと。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、エチュード、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏試験を受けることができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏試験において、審査員の評価の平均点が90点以上の者
- A 演奏試験において、審査員の評価の平均点が80点以上の者
- B 演奏試験において、審査員の評価の平均点が65点以上の者
- C 演奏試験において、審査員の評価の平均点が50点以上の者
- D 演奏試験において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 学内演奏Ⅰ・Ⅱ

授業形態 実習  
(卒業試験科目)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2・2

担当教員 松井 康司・柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

全学生の専門実技、第一実技に伴う授業である。

### 授業の概要

第一実技のまとめは実技試験で行うが、実技を学ぶ本来の目的は聴衆の前で演奏することにある。この授業では、コンサートの場を設け、たくさんの聴衆の前で演奏する機会を作る。また、舞台衣装を着用することにより、舞台上のマナーも学ぶ。

### 授業の到達目標

たくさんの聴衆を前に、緊張しながらも実力を発揮できるようにすることを目標とする。

### 授業計画

第一実技の授業計画と共に進めて行く。

1. オリエンテーション及び課題の検討
- 2～5. 与えられたエチュード、楽曲のレッスン
6. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等
7. 試験曲の検討。または、新しい課題の検討
8. 試験曲の決定
- 9～13. エチュード及び試験曲研究。あるいは、与えられた課題のレッスン
- 14～15. 試験曲研究まとめ、伴奏合わせ等
16. 新たな課題の検討
- 17～20. エチュード、楽曲のレッスン

21. 楽曲のまとめ。伴奏合わせ等
22. 試験曲・学内演奏会の演奏曲の検討
23. 試験曲・学内演奏会の演奏曲の決定
- 24～28. エチュード及び演奏曲研究
- 29～30. 演奏曲研究のまとめ。伴奏合わせ等

### 授業時間外の学習

演奏会で演奏する楽曲についての解釈の研究、予習、復習を怠らないようにする。

### 教科書・参考書等

個々のレベルに応じて、楽曲を指定する。

### 成績評価

20回以上のレッスンを受けた者が演奏会に出演することができる。

成績評価は試験100%にて評価する。

- S 演奏において、審査員の評価の平均点が90点以上の者  
 A 演奏において、審査員の評価の平均点が80点以上の者  
 B 演奏において、審査員の評価の平均点が65点以上の者  
 C 演奏において、審査員の評価の平均点が50点以上の者  
 D 演奏において、審査員の評価の平均点が49点以下の者

科目名 ピアノデュオ研究 A / B

授業形態 演習  
(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 東井 美佳

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

専1ピアノ専修必修。他専修の学生も履修可能。

### 授業の概要

自由に組んだペアで曲を準備し、毎回の授業で数組が演奏し、レッスン形式で進めていく。  
履修者全員で楽譜を共有し、積極的に意見を出し合いながら、アンサンブルの一員としてパートナーと協力して仕上げていくことを実践的に学ぶ。

### 授業の到達目標

自分の出している音、相手の音もよく聴きながら、呼吸を合わせて演奏できる。その上でお互いの音をよく鳴らし合わせ、曲の構成もしっかり理解しながら仕上げることができる。

### 授業計画

1. 導入・選曲及び組み合わせ決定
2. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ①
3. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ②
4. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ③
5. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ④
6. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑤
7. 共通の課題を用いてアンサンブルの基礎を学ぶ⑥
8. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備①
9. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備②
10. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備③
11. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備④
12. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑤
13. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑥
14. 各ペア自由に選んだ曲による発表、研究、定期演奏会オーディションの準備⑦
15. 前期成果発表・前期の反省、後期自由課題の選択への準備

16. 自由選択曲による研究、発表①
17. 自由選択曲による研究、発表②
18. 自由選択曲による研究、発表③
19. 自由選択曲による研究、発表④
20. 自由選択曲による研究、発表⑤
21. 自由選択曲による研究、発表⑥
22. 自由選択曲による研究、発表⑦
23. 自由選択曲による研究、発表⑧
24. 自由選択曲による研究、発表⑨
25. 自由選択曲による研究、発表⑩
26. 自由選択曲による研究、発表⑪
27. 自由選択曲による研究、発表⑫
28. 自由選択曲による研究、発表⑬
29. 自由選択曲による研究、発表
30. 授業の総括、成果発表

### 授業時間外の学習

事前の予習、授業後の復習において、自らの練習はもちろん、パートナーとの合わせを充分にしておくこと。  
それぞれの曲の作曲家や時代背景についても充分に調べておくこと。

### 教科書・参考書等

その都度指示、配布。必要に応じて各自準備する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み40%、演奏能力20%、学期末課題の結果40%を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
 A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
 B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
 C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
 D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、演奏能力、受講態度などに問題がある者)。



科目名 管楽アンサンブル研究 A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 津川 美佐子

実務経験 ○

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

管楽器専修(Sx専修以外)必修。

### 授業の概要

木管五重奏、四重奏、ピアノ六重奏など学習していく。1・2年で学んだ事をさらに深め、お互いによく聞き合い、受け止め、さらにはメンバーでディスカッションしながら音楽を作っていく。

### 授業の到達目標

より一層楽譜を読み込み、スコアを見て勉強し、メンバーで音楽を作り、合奏の楽しみを見出していくことができる。

### 授業計画

[前期]

1. 授業内容説明と曲目の選択(前期はバロック・古典中心の曲目)
2. 演奏実習①
3. 演奏実習②
4. 演奏実習③
5. 演奏実習④
6. 演奏実習⑤
7. 演奏実習⑥
8. 演奏実習⑦
9. 演奏実習⑧
10. 演奏実習⑨
11. 演奏実習⑩
12. 演奏実習⑪
13. 演奏実習⑫
14. 演奏実習⑬
15. 前期の曲の通し演奏

[後期]

16. 後期曲目説明と選択(後期は近代作曲家の曲目を中心とする)

17. 演奏実習①
18. 演奏実習②
19. 演奏実習③
20. 演奏実習④
21. 演奏実習⑤
22. 演奏実習⑥
23. 演奏実習⑦
24. 演奏実習⑧
25. 演奏実習⑨
26. 演奏実習⑩
27. 演奏実習⑪
28. 演奏実習⑫
29. 演奏実習⑬
30. 実技試験(コンサート形式)

※専攻科の学生については、希望する曲目を取り入れていきたい。

### 授業時間外の学習

パート譜の譜読みと練習をしておくこと。できれば、スコアも見ておくこと。事前に分奏しておくことが望ましい。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

授業への取組む姿勢、授業中の演奏を重視。実習に対する姿勢50%、実技試験50%にて総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 室内楽研究 A / C a

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 荻野 千里・野口 千代光

実務経験 一

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

積極的にアンサンブルに参加する意欲のある学生、また他のグループの演奏に興味を持って聴ける学生。

### 授業の概要

ピアノ三重奏曲・ピアノ四重奏曲、ピアノ五重奏曲を中心に引き上げ、弦楽器とピアノ、各々の楽器の特徴や奏法等も学びながらアンサンブル能力の向上を目指す。

授業はマスタークラス形式で進める。事前に曲目を発表するので、演奏する学生は勿論、聴講する学生も各自楽譜を準備し、アンサンブルを作り上げるプロセスに立ち会って、楽曲への理解を深め、その作品の意図を実現するために必要な技術やアンサンブルの心構えを学んでいく。

### 授業の到達目標

様々な時代及び編成の室内楽作品を知り、それぞれの楽曲の様式観とアンサンブル技術を習得する。日頃はひとりで練習することが多いが、パートナーと意見交換をし、様々な場面で適切な判断をもって柔軟な対応・表現ができるようにする。

### 授業計画

1. オリエンテーション、学習曲目の検討
2. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等①
3. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等②
4. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等③
5. 古典派の室内楽(ピアノ・弦楽器を中心に) モーツァルト・ハイドン・ベートーヴェン等④
6. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等①
7. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メンデルスゾーン・ブラームス・シューマン等②
8. ロマン派の室内楽(ピアノ・弦楽器・管楽器を中心に) メン

- デルスゾーン・ブラームス・シューマン等③
9. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ①
  10. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ②
  11. 近現代の室内楽(様々な楽器を含む) ③
  12. 声楽を含む室内楽①
  13. 声楽を含む室内楽②
  14. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて①
  15. 7月に行われる定期演奏会オーディションに向けて②

### 授業時間外の学習

授業に向けて各自十分に練習し、必ず複数回の合わせをしておくこと。

また、お互いの楽器の特徴なども調べておくこと。日頃から多くの室内楽作品のCD等を聴いて、知識を増やしておくように。

### 教科書・参考書等

シューマン、ドヴォルザーク、ショスタコーヴィチ、ブラームスのピアノ五重奏曲、ベートーヴェン、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲。モーツァルトのピアノ四重奏曲等。

### 成績評価

成績評価については、演奏曲目の下調べ30%、各自の練習40%、授業態度30%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究A / C b

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 北本 秀樹

実務経験

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

弦楽器専修を中心とするが他の専修の履修も可。室内楽に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

あなたが今演奏してみたい室内楽。  
将来演奏してみたい室内楽を授業で行っていく。

### 授業の到達目標

- ・作曲家の意図を読み取ること、それを演奏能力の向上につなげることができる。
- ・アンサンブル能力の向上。

### 授業計画

1. 導入
2. アンサンブル実習①
3. アンサンブル実習②
4. アンサンブル実習③
5. アンサンブル実習④
6. アンサンブル実習⑤
7. アンサンブル実習⑥
8. アンサンブル実習⑦
9. アンサンブル実習⑧
10. アンサンブル実習⑨
11. アンサンブル実習⑩
12. アンサンブル実習⑪

13. アンサンブル実習⑫

14. アンサンブル実習⑬

15. 発表演奏

2回目以降は室内楽を学生同士で演奏する。  
必要な楽器のメンバーがいない時は、演奏要員の方をお願いします。

### 授業時間外の学習

各自十分な練習を行う事。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

成績評価については、出席及び授業参加への積極性80%、授業態度20%の結果を総合的に判断する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D a

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 阪本 奈津子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

学生と室内楽要員によるアンサンブルを通して、基本的な合奏能力の向上、各作曲家のスタイルの理解を深める。

### 授業の到達目標

互いに尊重し、楽しみながら音楽作りをしていく中でアンサンブルの基本を習得することができる。

### 授業計画

1. 導入及び曲目の検討
2. 古典派の室内楽作品 モーツァルト①ピアノと弦楽器 二重奏
3. モーツァルト②三重奏以上の編成
4. モーツァルト③管楽器を含む室内楽作品、楽器の相違によるフレージングの注意点
5. ハイドンの室内楽作品① モーツァルトとの関連性ー弦楽四重奏曲
6. 音程について 純正律と平均律 ハイドン② ピアノを含む室内楽作品
7. ベートーヴェン① ベートーヴェンにおける強弱記号の捉え方
8. ベートーヴェン② 二重奏から五重奏
9. シューベルト① シューベルトの音色の選び方
10. シューベルト② ピアノとの室内楽
11. シューマン① 古典派、ロマン派によるヴィブラートの違い 弦楽器の室内楽作品

12. シューマン② ピアノを含む室内楽作品

13. ドヴォルザーク① 国民楽派 関連する作曲家について 弦楽器の室内楽作品

14. ドヴォルザーク② ピアノを含む室内楽作品

15. まとめと確認

※専攻楽器の種類によって、変更あり

### 授業時間外の学習

課題になった作品を、各自、各グループで事前に練習を行うこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

成績評価については、受講態度40%、課題に取り組む姿勢40%、演奏成果20%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 室内楽研究B / D b

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 蓼沼 恵美子

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

ピアノ専修の学生を対象とするが、ピアノを含む室内楽曲を体得したい他の器楽専修の学生も履修可。

### 授業の概要

ピアノを含む室内楽作品を取り上げ、アンサンブルにおける奏法や音楽作りを学んでいく。  
アンサンブルにおいては、ソロ以上に音に対する意識や音楽の柔軟性が求められる場合がある。共演する楽器の特性をふまえた上での音色作りや響きのバランス、呼吸感等、ピアノパートの役割を果たすために必要な具体的な演奏技術や表現法を実践で学ぶ。  
演奏員の協力も得て、マスタークラスの形式で授業を進める。

### 授業の到達目標

アンサンブルにおける奏法を修得し、共に音楽をつくり上げる室内楽の楽しさを実感できることを目標に、曲を仕上げる。  
具体的には以下の点を到達目標とする。  
・相手の音をよく聴き、呼吸を合わせることができる。  
・異なる楽器との響きの融合を考えた音作りができる。  
・表現のためのそれぞれの楽器のアプローチの仕方を知ることによって、音楽的視野を広げることができる。  
・作曲家の意図を踏まえた、より幅広い表現ができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション及び曲目とメンバーの決定
2. パート練習(レッスン)
3. アンサンブル実習①
4. アンサンブル実習②
5. アンサンブル実習③
6. アンサンブル実習④
7. アンサンブル実習⑤
8. 楽曲のまとめ。発表演奏の曲を決定
9. パート練習(レッスン)
10. アンサンブル実習①
11. アンサンブル実習②
12. アンサンブル実習③

13. アンサンブル実習④
  14. アンサンブル実習⑤
  15. 発表演奏
- ※授業の進行は履修者の人数によって変更することがある。

### 授業時間外の学習

自分のパートをよく練習して授業に臨むこと。準備不足では、アンサンブルを楽しむことはできない。  
事前に音源を聴いたり、スコアを見るなど、他のパートにも目を向けておくこと。

### 教科書・参考書等

授業で演奏するグループが、演奏曲の楽譜をその都度配布する。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み・意欲70%、発表演奏の成果30%にて総合的に評価を行う。
- S 総合点が90点以上の者  
(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者  
(授業内容を十分に理解し、授業への取り組み・意欲、演奏能力が的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者  
(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者  
(授業内容の理解、授業への取り組み・意欲、演奏能力が不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者  
(授業内容を理解しなかった者、授業への取り組み・意欲、演奏能力などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D c

授業形態 演習

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 吉岡 次郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

管楽器専修を中心とするが、他専修の受講も可。アンサンブル(管楽器+弦楽器、ピアノ等)に興味と意欲のある学生。

### 授業の概要

フルートを中心とする二重奏～複数のアンサンブルを基盤に、レパートリー修得と室内楽での演奏法や基礎を学ぶ。  
並びに、授業当日指定で初見のアンサンブル実習も催しそこで様々な対応力を学ぶ。

### 授業の到達目標

個々の技術の更なる向上と、室内楽における他者との合わせ方、リードの仕方、協調性などを習得する。  
初見練習においてはリズムや調性を瞬時に感じる力や、難しいパッセージに対応する力などを習得する。

### 授業計画

1. 受講生の習熟度の確認と初見演奏について
2. 学習曲目の検討及び組み合わせと初見演奏実習①
3. アンサンブル実習、初見実習②
4. アンサンブル実習、初見実習③
5. アンサンブル実習、初見実習④
6. アンサンブル実習、初見実習⑤
7. アンサンブル実習、初見実習⑥
8. アンサンブル実習、初見実習⑦
9. アンサンブル実習、初見実習⑧
10. アンサンブル実習、初見実習⑨

11. アンサンブル実習、初見実習⑩
12. アンサンブル実習、初見実習⑪
13. アンサンブル実習、初見実習⑫
14. アンサンブル実習、初見実習⑬
15. アンサンブル発表

### 授業時間外の学習

・個々の練習と合わせを授業前に的確に行って準備しておくこと。

### 教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

### 成績評価

- 成績評価については、授業への取り組み70%、課題発表(発表演奏会)30%の配分で総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽研究B / D d

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 菊池 奏絵

実務経験 ○

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

楽譜を見ただまま正確に演奏するだけでなく、作品にふさわしい様式感、演奏習慣などに興味を持ち、様々な角度から視野を広げたい者。

### 授業の概要

本授業では、バロック時代の音楽を題材とし、実践を通して学んで行く。時代の様式感とは何か。バロックの演奏習慣を音楽と結びつけて、音楽学的見知から、また現在の実践現場から見えて来る様々な方面からのアプローチを知り、アンサンブルを試みる。自分の専修以外の楽器や声楽との関わり、表現と演奏方法についても考える。

各回の内容は全てリンクしており、履修生の理解度、興味により授業内容の順序を変えて行く可能性あり。各授業の初めに講義をし、後半はアンサンブル実践をして行く。アンサンブルを組み、授業内でのレッスンを重ね、最後に発表を行う。

### 授業の到達目標

バロック時代の音楽の演奏法を理解、習得し、どのように演奏したらその作品が生きるかを自分で考える事が出来る。

また、バロック時代の影響を受けているその後の作曲家への理解も深まり、あらゆる時代の音楽と関連付ける事が出来る。

### 授業計画

1. 歴史的知識に基づく演奏とは
2. 楽譜について
3. アンサンブル組み
4. バロック時代周辺の楽器について
5. バロック時代周辺の音楽について
6. アンサンブル中間発表

7. 演奏習慣について
8. 通奏低音について
9. 装飾法①フランス様式
10. 装飾法②イタリア様式
11. 舞曲、組曲について
12. 当時の文献を読む
13. 音楽修辞学について
14. アンサンブル仕上げ
15. 発表

### 授業時間外の学習

アンサンブル曲の情報収集を図書館などを利用して、自分なりにやってくる事。

個人練習、グループでの練習を充分にする事。

### 教科書・参考書等

プリントを配布。授業内で参考書を紹介。

### 成績評価

授業への取り組み50%、理解度25%、演奏の成果25%とし総合的に評価する。

- S 総合点90点以上(積極的に取り組み、知識を自分のものにし、演奏に成果が表れる)
- A 総合点80点以上(積極的に取り組み、理解を深めようとし、演奏に変化がみられる)
- B 総合点60点以上(積極的に取り組み、演奏に生かそうとする)
- C 総合点50点以上(程よく取り組み、程よく演奏する)
- D 総合点49点以下(取り組み姿勢に欠け、演奏の変化がみられない)

科目名 歌曲研究A / B

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 松井 康司・東井 美佳

実務経験 一

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

詩人の思いが言葉を通して詩となり、さらに作曲家がその詩に共感して音にする。そしてその詩と音楽を演奏家が感じ、表現して、聴衆の心に訴える。歌曲が聴衆の耳に届くまでにはこれだけ様々な人の心を通っていくのである。歌曲の奥深さはここにある。

この授業ではドイツ歌曲・日本歌曲を題材に、歌曲をどのように解釈し、演奏したら良いかを研究する。楽譜に込められた詩人や作曲家の思いを正しく受け止め自分自身の表現に結びつけること、またアンサンブルをする上で大切なこと等、受講者自身による演奏を通じて実践的に研究を進めて技能、表現を高めていく。

また歌とピアノの組み合わせにとどまらず、本学の専修を生かし他の弦・管楽器、あるいは和楽器とのコラボレーションも随時取り上げる。

### 授業の到達目標

- ・ 歌曲の歴史と変遷を学び、その時代の芸術・音楽文化と関連付けてより楽曲についての理解を深めることができる。
- ・ 歌曲の解釈、分析を深め楽曲に込められた詩人、作曲家の思いを正しく理解し、自身の表現に結びつけることができる。

### 授業計画

履修者の専修楽器が決まらなると取り上げる曲を決めることはできない。

曲を決定してからの授業の流れは下記の通りである。

(前期)

1. 導入 日本歌曲について
2. 日本歌曲の歴史と変遷①
3. 日本歌曲の歴史と変遷②
4. 日本歌曲課題曲検討
- 5～10. 日本歌曲の分析及び実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

(後期)

1. 導入 ドイツ歌曲について
2. ドイツ歌曲の歴史と変遷①
3. ドイツ歌曲の歴史と変遷②
4. ドイツ歌曲課題曲検討
- 5～10. ドイツ歌曲の分析及び実習
- 11～14. 課題曲発表
15. まとめ

※コロナの状況により授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

### 授業時間外の学習

習得取り上げる曲を必ず各自譜読みをし、曲の内容を理解してから授業に臨むこと。

### 教科書・参考書等

ヴィオーラ「ドイツ・リート」の歴史と美学(音楽之友社)  
フィッシャー・ディースカウ「シューベルトの歌曲をたどって」(白水社)  
塚田佳男選曲・構成「日本歌曲百選 詩の分析及び解釈」(音楽之友社)

### 成績評価

成績評価については、授業態度40%、課題50%、テスト10%にて総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、歌唱能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、歌唱能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、歌唱能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 オペラ実習A/B [演奏]

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2(演技と併せて4)

担当教員 櫻井 淳

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレペティウアの養成としてピアノ専攻の学生を受け入れる。その他の専修、他専攻の希望者は要相談。

### 授業の概要

オペラとは演劇のセリフを歌にした舞台芸術である。セリフが歌になるので、まず自分の与えられた役をしっかりと歌えるようにする必要がある。

そして他の役とのアンサンブル、劇場で歌うということ、オーケストラ伴奏(授業ではピアノになる)での歌唱を意識していくことを学ぶ。

### 授業の到達目標

身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。

### 授業計画

オペラの歌唱様式の一つであるレチタティーヴォの基本とアンサンブルを音楽的アプローチを通して学んでいく。また音楽作品の成立した時代背景や歌唱の作法も併せて学ぶ。

コロナ禍であることからマスクを着用しながらの歌唱を行う場合がある。

最終授業時に前期試験として簡易な演技をつけたアンサンブルの発表会を行う。

1. オリエンテーション・演目決め
2. ソロ①音楽稽古1
3. ソロ②音楽稽古2
4. レチタティーヴォ①音楽稽古1
5. レチタティーヴォ②音楽稽古2

6. アンサンブル①音楽稽古1
  7. アンサンブル②音楽稽古2
  8. アンサンブル③通し稽古1
  9. アンサンブル④通し稽古2
  10. 暗譜で軽い演技をつける①立ち稽古1
  11. 暗譜で軽い演技をつける②立ち稽古2
  12. 発表会に向けて①通し稽古1
  13. 発表会に向けて②通し稽古2
  14. 発表会に向けて③ケネプロ
  15. 発表会・総括
- ※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後がある。

### 授業時間外の学習

自身が取り組む作品を色々調べておくこと。  
他の学生が取り組む作品についても同様に調べておくこと。  
グループごとに課題を自主稽古しておくこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

授業への取り組み・受講態度50%・実技試験50%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 オペラ実習A/B [演技]

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2(演技と併せて4)

担当教員 柴田 千絵里

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

声楽を履修していることを条件とする。コレペティウアの養成としてピアノ専攻の学生を若干名受け入れる。その他の専修、他専攻の希望者は要相談。

### 授業の概要

オペラの上演では、多くの人が関わり1つの作品を創り上げていく。1人1人の責任感、協調性が必要である。それは歌い、演じることと同じく大切なことである。この授業では、作品を上演するに当たり、何が必要で、どのように創られてゆくのかを実体験を通して学ぶ。全授業に出席する覚悟をもって履修してもらいたい。

### 授業の到達目標

- ・身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。
- ・課題を自身で研究し、指示された通りだけではなく、自ら考え動くことができる。
- ・作品を深く理解し、歌唱に活かすことができる。

### 授業計画

前期は、台詞のある課題や、舞台に立つための基本を学んでいく。

1. 前に出て立つ(空間を把握する)
2. 身体表現・課題(1)配布(読む)
3. 課題(1)を授業内で発表①前半
4. 課題(1)を授業内で発表②後半
5. 身体表現・課題(2)配布(読む)

6. 課題(2)を授業内で発表①前半
  7. 課題(2)を授業内で発表②後半
  8. 身体表現・課題(3)配布(読む)
  9. 課題(3)を授業内で発表①前半
  10. 課題(3)を授業内で発表②後半
  11. 身体表現・前期試験課題配布(読む)
  12. 授業内で稽古①立ち位置の確認など
  13. 授業内で稽古②落とし込み
  14. 授業内で稽古③仕上げ
  15. 授業内で発表
- ※授業内容に関しては、進行具合により多少前後することがある。

### 授業時間外の学習

- ・必要と感じたら自分の小道具や衣装は自ら準備すること。
- ・与えられた課題の研究。

### 教科書・参考書等

授業時に台詞の課題を配布する。

### 成績評価

授業への取り組み30%、課題の成果40%、表現者としての真摯な姿勢30%にて総合評価する。

- S 総合評価90点以上
- A 総合評価80点以上
- B 総合評価60点以上
- C 総合評価50点以上
- D 総合評価49点以下



科目名 オペラ実習A/B [上演]

授業形態 実習 (卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 布施 雅也・柴田 千絵里

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 〇

### 履修条件

前期の「オペラ実習A/B [演奏] [演技]」を履修し、単位を取得していることを条件とする。音楽以外の専修、コレパティオーアの養成としてピアノ専修の学生を含め、他専攻の希望者は要相談。

### 授業の概要

オペラの舞台は、舞台上で演奏する人以外にも多くの人が関わり、ひとつの作品を創り上げていく。そこでは一人一人の責任感、協調性が必要であり、それは歌い演じることと同じ位に大切なことである。この授業では、オペラの上演がどのようにして創り上げられていくのか、何が必要かを体験を通して学んでいく。全授業に出席する意志をもって履修して頂きたい。欠席が多い場合は、途中で失格とすることもある。

前期から学んでいる[演奏]及び[演技]がオペラにおいてどのような役割を担うかを、実際に自身が舞台製作に関わっていく中で学んでいく。

- 具体的には、
- ①演技・芝居をしながら自然に歌唱を行えるようにする。
- ②演奏と演技・芝居の両側面において、どちらかに偏ることなく舞台上で表現できるようにする。
- ③観客に自身のパフォーマンスを最も良い形で観せるために必要なものを舞台上で学ぶ。以上の3点の習得を目指す。

### 授業の到達目標

身体表現を伴う歌唱表現を身につけることができる。  
 作品を深く理解し、歌唱に活かすことができる。  
 古典芸能としてのオペラの舞台における基本的な所作を身につけることができる。  
 実際に上演することで、舞台を作る上で必要なことを身につけることができる。  
 試演会として、1つのプロダクション制作に関わることで社会に必要な人間関係の構築を学ぶことができる。

### 授業計画

前期の「オペラ実習A/B [演奏] [演技]」で学んだことを基本に、オペラ作品を創り上げていくことを学ぶ。歌い演じることにとどまらず、制作を含めた舞台創りを学ぶことが、この授業の特徴である。後期の試演会は学生主体で舞台を作っていくことになる。

試演会に向けては、追加稽古を行う。合計の授業回数は15回を越える。なお、4回目の「芝居」が始まる授業までに、自身の演目をおおむね暗誦することが望ましい。

1. 試演会に向けての役割決め、作品の解釈
2. 稽古①歌 (音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)
3. 稽古②歌 (音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)

4. 稽古③歌 (音楽稽古・作品解釈・舞台語発音。自分の歌について理解した状態で臨む)  
以下、歌と芝居も稽古に加わる。小道具・衣装がある場合は使用して稽古する。
  5. シーン稽古①序盤 (芝居の台詞の読み合わせ・荒立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  6. シーン稽古②序盤 (芝居の台詞の読み合わせ・荒立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  7. シーン稽古③序盤 (芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  8. シーン稽古④中盤 (芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  9. シーン稽古⑤中盤 (芝居の台詞の定着・芝居の立ち稽古・演技をしながらの音楽稽古)
  10. シーン稽古⑥中盤 (芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  11. シーン稽古⑦終盤 (芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  12. シーン稽古⑧終盤 (芝居と音楽の自然な融合を目指す)
  13. シーン稽古⑨ホールでの演技・演奏を意識する (観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
  14. 通し稽古①ホールでの演技・演奏を意識する (通し稽古・観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
  15. 通し稽古②芝居と音楽の密な融合を (通し稽古・観客に魅せる意識を持ちながら、芝居と音楽の密な融合を目指す)
- ※稽古内容は、進行具合により変更する場合がある。

### 授業時間外の学習

試演会で使用する衣裳や小道具、舞台装置などの準備をすること。授業外でも自主的に課題に取り組み、稽古すること。また、自身が取り組んでいる作品に関する予学習が必要不可欠であるため、作品について自分の考え・意見・疑問を持ち授業に臨むことが望ましい。

### 教科書・参考書等

授業時に配付する。

### 成績評価

授業への取り組み・受講態度20%、実技試験80%を総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者
- A 総合点が80点以上の者
- B 総合点が60点以上の者
- C 総合点が50点以上の者
- D 総合点が49点以下の者

科目名 邦楽アンサンブル研究A/B

授業形態 演習 (技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 4

担当教員 滝田 美智子

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

日本音楽専修は必修。

### 授業の概要

邦楽器は各々楽器の特性が強く、個性的である。楽器の特性を認識しながら、様々な可能性を追求する。洋楽とのアンサンブルを積極的にすることも重要である。合奏訓練を積み重ねる中で、他のパートを聴き、感じることを最大課題として、アンサンブルの醍醐味を体得できるようにする。

### 授業の到達目標

- ・邦楽アンサンブルの可能性について、各人が考え、意見を持ち、真のアンサンブルの楽しさを十分に得ることができる。
- ・スコア譜を深く読みとることができる。
- ・年2回の日本音楽演奏会を外部への発信として、成果を発表できる。

### 授業計画

前期

1. 受講生の習熟度の確認と前期計画
2. 楽譜を読み解く (作曲家を招いて)
3. 箏三重奏
4. 箏・尺八合奏
5. 箏・尺八合奏のまとめ
6. 箏三重奏
7. 箏三重奏のまとめ
8. 邦楽器と洋楽器合奏
9. 邦楽器と洋楽器合奏のまとめ
10. 古典曲合奏
11. 古典曲合奏のまとめ
12. 演奏会に向けた大編成曲①譜読み
13. 演奏会に向けた大編成曲②研究
14. 演奏会に向けた大編成曲③まとめ
15. 総まとめ

後期

1. 箏四重奏曲

2. 箏四重奏曲のまとめ
3. 尺八合奏曲
4. 箏・尺八合奏曲
5. 第3回目・第4回目のまとめ
6. 古典合奏曲
7. 古典合奏曲のまとめ
8. 演奏会に向けた大編成曲I①譜読み
9. 演奏会に向けた大編成曲I②研究
10. 演奏会に向けた大編成曲I③仕上げ
11. 演奏会に向けた大編成曲II①譜読み
12. 演奏会に向けた大編成曲II②研究
13. 演奏会に向けた大編成曲II①仕上げ
14. 第8回目・第11回目まとめ
15. 総まとめ

### 授業時間外の学習

授業内で演奏する場合は譜読み、練習をしっかりと行う。演奏に参加しない週は、スコア譜を予習しておく事。

### 教科書・参考書等

必要に応じて教員より指示する。

### 成績評価

成績評価については、積極的な授業への取り組み (準備予習50%・成果50%) の結果を総合的に評価する。(遅刻厳禁、評価に含む。)

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者 (授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者 (授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者 (授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。



科目名 オーケストラ・スタディC/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1

担当教員 野口 千代光

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

弦楽器専修者は必修である。

### 授業の概要

後期「合奏」授業への準備段階とする。

- ①オーケストラプレイヤーとしての心がまえ、事前準備の重要性の認識。各自の練習、スコアの用意、CDなども聴き、作品を理解して臨む。
- ②演奏するためのテクニックやアンサンブル能力を習得する。パートごと、時に一人づつの演奏を課しながら、個人、セクションの責任を高める。それぞれのパートを把握し、ひとりひとりがオーケストラ全体を捉えられるようにする。

### 授業の到達目標

オーケストラを通して、個人の、そしてアンサンブルの技術の向上。全員で1つの作品を作り上げる喜びを知ることができる。

### 授業計画

曲目は4月に発表する。

11月定期演奏会(オーケストラ)の演奏曲目を課題とする。

毎回の練習スケジュールを作り、進める。しかし、進行状況により、適宜スケジュールを調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であれば、コンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績評価については、曲の下調べ10%、受講態度50%、演奏成果40%の結果を総合的に判断する。

- S 授業内容をよく理解して自らのパートのみならず、他のパートをしっかりと把握してアンサンブル奏者としての力を発揮できる者。
- A 自らのパートは把握できているものの、他のパートを把握することにおいて一層の努力が求められ、その能力向上が見込まれる者。
- B ところどころに技術向上、改善努力が必要に思われるが、後期合奏においてアンサンブル能力と技術向上が見込まれる者。
- C 後期合奏授業においてなんとかついていけるレベル、もしくは相当の個人的努力を求められる者。
- D 後期合奏授業についていける能力が見込まれない者。

試験の結果により後期合奏授業へのレベルが達していないと思われる者には追試験を行い、場合によっては個人的指導もを行い、合奏授業に向けて能力を引き上げる機会を持つ。

科目名 合奏C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 野口 千代光・永井 由比

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

前期授業「オーケストラ・スタディ」で単位認定を受けた者。弦楽器専修者は必修である。弦楽器奏者以外についてはオーディション等で選出された者。

### 授業の概要

黒岩英臣氏を指揮者にお迎えして、11月の定期演奏会本番に向けて、約6日間の集中リハーサルが行われる。

個々の力が合わさると、素晴らしい響き、音楽が生まれることを体感してほしい。演奏会当日まで、各自、練習・準備をすること。

### 授業の到達目標

オーケストラのリハーサルを通して、全員で演奏会に向けて、それぞれの曲の完成度を高めることができる。

### 授業計画

1. オーケストラガイダンス(オーケストラ授業に対する心がまえ、様々な準備などについての確認)
2. 黒岩氏とのリハーサル①
3. 黒岩氏とのリハーサル②
4. 黒岩氏とのリハーサル③
5. 黒岩氏とのリハーサル④
6. 黒岩氏とのリハーサル⑤
7. 黒岩氏とのリハーサル⑥定期演奏会当日 ゲネプロ 本番
8. 演奏会録画を鑑賞しながら、演奏について検証、反省を行い、意見交換の場とする。

毎回のリハーサルスケジュールは、進行状況により、指揮者の判断で適宜調整するものとする。

### 授業時間外の学習

課題曲の作曲者について調べ、そして他の作品も聴いてみる。可能であればコンサート会場に足を運び、生のオーケストラの演奏を聴いてみる。

### 教科書・参考書等

楽譜を配布する。演奏曲目のスコア、CDを準備すること。

### 成績評価

成績評価については、授業態度60%、演奏成果40%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏への取り組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏への取り組みが良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 ギター・アンサンブルC / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 佐藤 紀雄

実務経験 ○

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

ギター専修者必修

### 授業の概要

古典から現代までのギターアンサンブル作品、編集作品に加え学生自身の作品、編曲による作品等を取り上げる。独奏楽器であるギターの修得課程でアンサンブルの経験や技術を磨く機会を得ることは特に重要であり、将来様々な楽器とのアンサンブルに役立ててもらいたい。その経験を活かし各自の音楽活動の幅を広げてもらいたい。

### 授業の到達目標

年二回の自主的発表会に向けて、課題曲の演奏を完成させる。その練習の課程で様々な時代の様子を同時に学ぶことができる。アンサンブルを行う上で何が必要か技術かを知ることができる。

### 授業計画

- (前期)
1. カルメン組曲①必要な技術を確認し、習得へ向けた計画づくり
  2. カルメン組曲②各パート毎の達成状況を見る
  3. カルメン組曲③アンサンブルの難所を集中して練習する
  4. カルメン組曲④各曲がオペラのどのような場面で使われているかを調べる
  5. カルメン組曲⑤①～④を踏まえて表現方法を追究していく
  6. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲①いくつかの独特の奏法の演奏法を確認する
  7. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲②各パートずつ互いに聴きあい理解しておく
  8. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲③アンサンブルの中で各パートの役割を確かめ合う
  9. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲④オペラについて調べ、各エピソードが出てくる場面を理解する
  10. ロッシーニ「泥棒かささぎ」序曲⑤息の長いフレーズ起伏の激しさを表現する
  11. バンドゥークイッカン①各パートの難所の練習課題を見つける
  12. バンドゥークイッカン②各パート同士の役割を理解する
  13. バンドゥークイッカン③ラテンアメリカ独特のリズムについて調べ、リズムの練習をする
  14. バンドゥークイッカン④ラテンアメリカのリズムが作品の中でどのように応用されているかを試す
  15. バンドゥークイッカン⑤11～14を踏まえて表現を実現する
- (後期)
1. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」①各パートを練習
  2. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」②二組みずつで合わせて聴く

3. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」③現代の作曲様式の影響を理解する
4. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」④特殊なアンサンブルを理解する
5. レオ・ブローウェル「雨のあるキューバの風景」⑤様々な演奏形態を試す
6. ラヴェル「ラ・ヴァルス」①多くあるパートの難所を練習する
7. ラヴェル「ラ・ヴァルス」②複雑に絡み合った所を理解する
8. ラヴェル「ラ・ヴァルス」③全体を通して流れをつかむ
9. ラヴェル「ラ・ヴァルス」④この作品の成立の課程を調べ、このワルツの特性を理解する
10. ラヴェル「ラ・ヴァルス」⑤めまぐるしく変化するテンポを表現できるようにする
11. ヴィヴァルディ「四季より「春」」①この曲に必要な技術を準備する
12. ヴィヴァルディ「四季より「春」」②各パート毎に弾いて役割を理解する
13. ヴィヴァルディ「四季より「春」」③テンポの激しい変化を皆で理解し練習する
14. ヴィヴァルディ「四季より「春」」④バロック音楽の特徴を調べ、合わせた表現
15. ヴィヴァルディ「四季より「春」」⑤作品の中で自然の描写を豊かに再現する

### 授業時間外の学習

あらかじめ課題についての知識を得、また技術的に足りない箇所を準備しておく。

### 教科書・参考書等

課題曲の楽譜と参考資料

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%、課題への取り組み30%、期末試験40%にて総合的に判断して行う。

S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。

A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。

B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。

C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。

D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 室内楽特設クラス A / B / C / D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 柏原 佳奈

実務経験 一

期間 前期集中・後期集中

他専攻 ○※

### 履修条件

室内楽作品を深く掘り下げて研究したい、アンサンブルに意欲的な学生。

※芸術科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを修得、もしくは専攻科音楽専攻科目「第二実技」「副科実技」のどちらかを履修していることを条件とする。

### 授業の概要

弦楽器・管楽器・ピアノを含む室内楽曲(デュオ・ピアノトリオ・ピアノカルテット等)を中心に取り上げ、演奏助手の協力のもと、アンサンブル能力の向上を目指す。非常に柔軟性のある形態をもち、半期につき、5回程度個人レッスンの形で授業を行う。他の室内楽クラスを履修しつつ受講することも可能で、同じ曲目を別の観点から学ぶことも、良い勉強になるだろう。経験の有無や量を問わずに履修できるという利点があり、半期の間は同じメンバーで、お互いを理解し共演者と共に音楽を作り上げていく。主として担当教員が指導に当たるが、必要に応じてアンサンブル指導員(弦楽器・管楽器等)のレッスンを受講することもある。

受講希望者は、メンバー確定後履修登録をし、受講曲が決まり次第早目に担当教員に申し出ること。具体的な日程等については、演奏員とも相談の上、後日掲示する。前期受講希望者多数の場合は、後期に履修変更となることもあり得る。

### 授業の到達目標

共演者としてお互いを信頼し合い、ひとりひとりが積極的に音楽作りに参加できる。

### 授業計画

基本的には、各グループの希望曲(複数可)を取り上げる。レッスンの進め方については、臨機応変に対応したい。例えば、経験の少ないグループの場合は各楽器の特徴の理解や、基本的な合わせ方等から入り、選曲のアドバイス等も行う。

定期演奏会のオーディション参加を希望するグループは、より深く音楽を掘り下げ、説得力のある演奏を目指す。

### 授業時間外の学習

レッスンに向けて、お互い迷惑にならないように、各自充分に練習を積んでおくこと。受講曲目についても、深く調べておくように。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

各自事前準備60%、受講態度40%にて総合的に判断する。

S 事前準備が十分で学習意欲が強く認められ、各種コンサートに出演した者

A 事前準備が十分で学習意欲が強く認められた者

B 事前準備、学習意欲が中程度の者

C 事前準備、学習意欲が不十分と思われる者

D 授業(レッスン)への取り組み、受講態度に問題のある者

科目名 伴奏C (1) (2) / D (1) (2)

授業形態 演習  
(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

ピアノ専修の学生のみ履修可。

### 授業の概要

前期・後期とも同一学生との5回以上の第一実技レッスン時の伴奏及び演奏発表(実技試験・学内演奏会・修了演奏会)をもって各々単位認定を行う。“伴奏受講票”を使用のこと。

### 授業の到達目標

様々な楽器に関心を持ち、「伴奏」という立場に責任を持ち、意欲的にアンサンブルを作り上げる。そこで得た経験を試験、演奏会という場につなげることができる。

### 授業計画

各々の実技担当教員のレッスン計画による。

### 授業時間外の学習

「伴奏」はパートナーとしての重要な役割を持つので、初回のレッスンまでに十分な練習を積んでおくこと。

### 教科書・参考書等

特になし。

### 成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に判断する。

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 伴奏研究A / B / C / D

授業形態 演習  
(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

学内試験、学内演奏会等でピアノ(伴奏)を担当する学生。

### 授業の概要

主としてピアノと弦楽器または管楽器のデュオ作品を扱う。学内試験の伴奏を担当するピアノの学生が、パートナーの実技担当教員のレッスンだけでなく、ピアノ専任教員からもレッスンを受け、助言を得ることで、伴奏にとどまらない「共演ピアニスト」としての自覚を持って、より積極的にふたりで音楽を創り上げていけるようなデュオを目指す。

授業はレッスン形式で行い、5回程度のレッスン受講とパートナーの学内試験や学内演奏会での演奏を以って単位を認定する。受講希望者は、予め履修登録をした後、パートナーと受講曲が決まり次第届け出ること。

具体的な日程については、後日掲示発表する。

### 授業の到達目標

共演者としての役割をしっかりと認識し、責任を持ってパートナーと共に学び、音楽を作り上げることができる。

### 授業計画

前期は、5月中旬を目途にパートナー、受講曲を決定し、5月末～7月にレッスンを受ける。

後期は、11月中旬を目途にパートナー、受講曲を決定し、11月

末～2月にレッスンを受ける。

授業時間は、他の授業と重ならないよう、6限目(17:30以降)や土曜日等に設定する。

必要に応じて、ピアノパートのみのレッスンも行うが、原則として、パートナーと一緒に出席すること。

### 授業時間外の学習

大事な試験や学内演奏会に向けての科目となるので、個人練習を充分に行なっておくこと。また、演奏曲目の内容についても深く理解しておくように。

### 教科書・参考書等

各自用意。教員用の楽譜(コピー可)も準備すること。

### 成績評価

事前準備60%、本番演奏40%にて総合的に評価する。

- S 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- A 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演及び実技試験の質を高めた者
- B 本番までの取り組みが良好で、本番での演奏が良好だった者
- C 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者
- D 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題がある者

科目名 海外特別演習C/D

授業形態 演習(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 2

担当教員 松井 康司・東井 美佳

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

研修旅行に参加して学ぶ意欲の高い者。

### 授業の概要

ドイツ・デトモルト音楽大学にて、1週間のレッスン研修を行う。後半は、ライブツィヒ、ドレースデン、プラハなどを訪れ、バッハ、シューマン、メンデルスゾーン、ドボルザーク等の音楽家の業績をたどる。

### 授業の到達目標

内容の濃い充実した旅行とする。そのためには早くから個人の実技練習を十分に積んでおく。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 旅行会社による説明会①
3. 訪問都市についての勉強会①
4. 訪問都市についての勉強会②
5. 旅行会社による説明会②
6. 訪問都市についての勉強会③
7. 受講曲による試演会
8. 研修旅行

### 授業時間外の学習

訪れる街の歴史や、関係する作曲家について深く学んでおく。

### 教科書・参考書等

必要に応じて指示する。

### 成績評価

授業への取り組み、態度、レポートで総合的に判断する

- S 事前授業の内容を深く理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確かつ秀でた者
- A 事前授業の内容を理解し、研修旅行に積極的に参加し、レッスンへの取り組みが的確だった者
- B 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが良好だった者
- C 事前授業の理解、レッスンへの取り組みが不十分だった者
- D 事前授業の内容を理解しなかったもの、レポート未提出者、レッスンへの取り組み、受講態度に問題がある者

科目名 特別講義(音楽)

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻1年

単位数 1

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 集中

他専攻

### 履修条件

必修(専2も選択授業として履修可能)。

### 授業の概要

音楽を通しての仕事という観点から、音楽マネジメントについて、また、コンサートホールの舞台機構、ホールスタッフの仕事について、前期・後期お一人ずつゲストをお招きし4コマずつ講義を頂く。この授業を通して、自らの音楽経験と教養を深め、いかに時代に即した現代社会に還元していけるかを考察していく。

### 授業の到達目標

コンサート制作に必要な知識や舞台機構、ホールスタッフの仕事についての知識を得て、自分の専門と結びつけていけるような思考を身につけることができる。

### 授業計画

前期集中講義期間

1～4 コンサートホールの舞台機構とホールスタッフの仕事について

後期集中講義期間

5～8 音楽マネジメントの仕事について

※コロナの状況により授業計画は柔軟性を持って変更していく必要がある。

### 授業時間外の学習

授業内で指示。

### 教科書・参考書等

その都度配付。

### 成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下



科目名 特別演習C / D

授業形態 演習  
(技術)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1

担当教員 柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

### 履修条件

Cは全専修必修。

### 授業の概要

公開講座、学内演奏会、定期演奏会、卒業演奏会の4つが特別演習の内容である。公開講座はプロの演奏家、および研究生による演奏会を中心とする。定期演奏会は2夜で構成され、オーディションにより出演者を決める。学内演奏会は本科生は成績優秀者の出演、専攻科生は必須で全員出演する。卒業演奏会も成績優秀者による演奏会である。

これらの演奏会を聴講することで単位認定を行う。

### 授業の到達目標

音楽の勉強は自分自身の毎日の練習、訓練の積み重ねが大切なのはもちろんなことだが、現役で活動している音楽家や、一緒に学んでいる学生の演奏を聴くことから得るもの大きさも是非認識してほしい。

### 授業計画

公開講座、学外演奏会、学内演奏会は、それぞれのジャンルに出席義務回数が定められている。

日程、演目、出席義務回数の詳細はオリエンテーション時に発表する。

また日程は変更となる場合もあり、常に掲示を確認のこと。

### 授業時間外の学習

ゲストの音楽家や、演奏される楽曲について調べ、理解を深める。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

出席義務回数を満たすことを前提とし、授業への取り組み・積極性100%にて評価する。

S 公演の内容を深く理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者

A 公演の内容を理解し、課題への取り組みが的確だった者

B 公演の内容を理解し、課題への取り組みが良好だった者

C 公演の内容を理解し、課題への取り組みが不十分だった者

D 公演の内容を理解しなかったもの、課題への取り組み、受講態度などに問題のある者

科目名 コラボレイト実習C(1)(2) / D(1)(2)

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 松井 康司

実務経験 ー

期間 前期集中・後期集中

他専攻 /

### 履修条件

専攻主任からの指名により履修できる。

### 授業の概要

専攻主任からの依頼により、演劇専攻の試演会、卒業公演あるいは、音楽専攻の催し等に演奏者として参加する場合、5回以上の稽古への参加と発表をもって単位認定を行う。コラボレイト実習受講票を使用のこと。なお、単位認定は、前期・後期、1回ずつを限度とする。自らが与えられた場に対して関心を持ち、存在意義を考察し演奏表現に結びつけて行くことが求められる。

### 授業の到達目標

演劇公演等に演奏者として参加する場合は、演劇における音楽の在り方を考え、学ぶことができる。音楽専攻の催しの場合には、与えられた場で、自分の専門をどう活かすかを考え、学ぶことができる。

### 授業計画

1. 打ち合わせ
2. 音楽のみの練習①
3. 音楽のみの練習②
- 4~8. 舞台稽古への参加(1回が2コマ分)
9. 通し稽古
10. 本番

### 授業時間外の学習

音楽専攻・演劇専攻の公演に参加する重要な役割であるため、自ずと演出家や音楽監督に要望に応えるよう練習をしていかなければならない。

### 教科書・参考書等

公演台本等、各公演により異なる。

### 成績評価

授業態度50%、課題50%にて総合的に評価する。

S 90点以上 本番までの取り組みが的確かつ秀でたもので本番での演奏が公演の質を高めた者

A 80点以上 本番までの取り組みが的確なもので本番での演奏が公演の質を高めた者

B 70点以上 本番までの取り組みが良好で本番での演奏が良好だった者

C 50点以上 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分だった者

D 49点以下 本番までの取り組み、本番での演奏が不十分かつ受講態度に問題のある者

科目名 楽曲分析[編曲]

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 2

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

特になが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。  
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

### 授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、編曲を学んでいく。今まで学んできたことの復習や確認をしながら、まずメロディーに合うコードをつけ、伴奏付けをしていくことを学ぶ。その後、ピアノ以外の楽器を含む編曲も試みる。編曲した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

### 授業の到達目標

和声法やソルフェージュの基礎を必要に応じてもう一度確認しながら、卒業後の音楽活動に直接役立つような伴奏付けや編曲などを学んで実践的な力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション、ポップスとクラシックのコード進行の違い
2. 様々な曲のメロディーにコード付けを試みる(実習例 ポップス作品や童謡や歌曲など)
3. 様々な曲のメロディーに対旋律を書く事を試みる(実習例 ポップス作品や童謡や歌曲など)
4. 様々な伴奏パターン①実習1回目
5. 様々な伴奏パターン②実習2回目
6. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲①実習1回目
7. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲②実習2回目

8. 簡単なピアノ曲を弦楽四重奏に編曲③実習3回目
9. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲①実習1回目
10. 簡単なピアノ曲を木管五重奏に編曲②実習2回目
11. ジャズのコード進行/ジャズコードを用いた編曲
12. 編曲実習①各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
13. 編曲実習②各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
14. 編曲実習③各自、選んだ楽曲を自分の望む編成に編曲する
15. 編曲作品発表、演奏(コンサート形式)  
順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

### 成績評価

成績評価については、受講態度30%、学期内作品提出30%、作品発表40%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、作品未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 楽曲分析[創作]

授業形態 講義

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 2

担当教員 たかの 舞俐

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特になが、音楽について実習的な知識を実習を通して習得したいという、興味や意欲があること。  
可能であれば、前期、後期とも履修することが望ましい。

### 授業の概要

この授業では、様々なジャンルの音楽を参考にしながら、創作(作曲の基礎)を学んでいく。作曲と聞くと、難しいものに見えるかもしれないが、最初はふっと思いついた鼻歌のようなものでも立派に作曲の始まりであると私は考えている。それぞれの学生の個性を大事にしながら、まずは歌詞にあわせて歌を書いていくことから徐々に作品を完成していくことを学んでいく。また、今まで学んできたコードの知識を実践的に使ってジャズ風の短い作品を作曲してみることも試みていきたいと思っている。様々な作曲手法を実習を通して学んでいき、その後、各自の意向による自由作曲を個人指導していく。創作した作品は可能な限り、授業で実際に音出しをして体験的に学習していく。

初心者から、さらに知識を広げていきたい方まで受講可能。また、最初にアンケートをとり、可能な限り受講者の希望するテーマも取り上げていきたいと考えている。

### 授業の到達目標

創作の授業では、メロディー、リズム、ハーモニーという3つの要素をどのように展開していくかということと学び、各人の音楽創作能力を引き出し、伸ばすことができる。

### 授業計画

1. 歌曲、ないし童謡の作曲①メロディーの作曲
2. 歌曲、ないし童謡の作曲②ハーモニーをつける
3. 歌曲、ないし童謡の作曲③伴奏付けをする
4. 歌曲、ないし童謡の作曲④伴奏付けの形をさらに発展させる
5. 歌曲、ないし童謡の作品発表。

6. 簡単な室内楽作品の試作①
7. 簡単な室内楽作品の試作②
8. 簡単な室内楽作品の試作の発表
9. 簡単なジャズ風スタイルによる作曲講義
10. 12音技法について講義①
11. 12音技法について講義②
12. 自由創作実習①
13. 自由創作実習②
14. 自由創作実習③
15. 作品発表、演奏(コンサート形式)  
順序、及び内容は、履修者の希望や能力に合わせて変更する可能性がある。

### 授業時間外の学習

授業内で課題が終わらなかった場合、宿題にすることもある。

### 教科書・参考書等

授業で毎回プリントを配布。

### 成績評価

成績評価については、受講態度30%、学期内作品提出30%、作品発表40%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、作品未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)

科目名 音楽療法実習

授業形態 実習  
(卒業試験など)

対象 専攻科音楽専攻2年

単位数 1

担当教員 鈴木 千恵子

実務経験

—

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

「音楽療法演習A/B」を履修していることが望ましい。

### 授業の概要

対象者とコミュニケーションを図りながら、様々な音楽活動のアプローチを学んでいく。

### 授業の到達目標

音楽療法概説、演習で学んだ音楽療法の現場に必要な臨床的技術(伴奏、楽器、身体、編曲、即興)を身につけることができる。

### 授業計画

1. 導入
2. 臨床現場についての理解～対象者に向けてのセッション計画
3. 実習に向けてのオリエンテーション
4. 現場実習①
5. 現場実習②
6. 現場実習③
7. 現場実習④
8. 現場実習⑤

### 授業時間外の学習

現場実習に向けて、セッションの流れの確認、及び実技の練習に努めること。

### 教科書・参考書等

松井紀和著「音楽療法の手引き」(牧野出版)  
松井紀和、鈴木千恵子他著「音楽療法の実際」(牧野出版)

### 成績評価

授業の取り組みと態度50%・実習報告書の提出と内容50%

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、演奏能力、課題への取り組みが的確だった者)。  
B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが良好だった者)。  
C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、演奏能力、課題への取り組みが不十分だった者)。  
D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、実習報告書未提出者、演奏能力、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

専攻科演劇専攻



科目名 特別講義A/B

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸・後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 

### 履修条件

専攻科演劇専攻の必修授業。ゲスト講師をおよびして、貴重な講義を受講する機会なので、必ず質問ができるように準備すること。

### 授業の概要

ゲストをお呼びして、テーマに沿った講義をしていただく。現在演劇界で活躍している方々をお呼びする。それぞれのゲストがどのような視線で演劇界を見て、どのような作品をつくり、プロデュースしたりしているのか。それぞれのトークから、受講者は自分なりに演劇界をして、どのような傾向があるのかを考えること。

### 授業の到達目標

- 様々な講師の講義を通して、舞台芸術から社会の問題や自身のもっている価値観、芸術観を相対化して、考えることを試みる。また、現代演劇や現代の舞台芸術の最前線で今なに行われているのかを理解し、自分の芸術活動の指標とすることを旨とする。
- レポートを書き、質問なども授業中にすることで、自分の理解の客観性や理解度を深め、自分の知識や意見を他者に伝えることができる。

### 授業計画

1. イントロ：今回のテーマとゲスト紹介
2. ゲストトーク①
3. ゲストトーク②
4. ゲストトーク③
5. ゲストトーク④
6. ゲストトーク⑤
7. ゲストトーク⑥
8. ゲストトーク⑦

9. ゲストトーク⑧
10. ゲストトーク⑨
11. ゲストトーク⑩
12. ゲストトーク⑪
13. ゲストトーク⑫
14. ゲストトーク⑬
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

それぞれのゲスト講師の作品、活動などを調べておき、講演後には必ず質疑応答ができるように準備すること。授業態度がとにかく重要である。

### 教科書・参考書等

特になし

### 成績評価

- 授業態度(40%)、質疑応答における積極性(30%)、レポート(30%)を総合評価。
- S 総合点が90点以上の者(卓越した授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- A 総合点が80点以上の者(優れた授業態度、質疑応答、レポートができ、授業で積極的な役割を果たすことができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業態度、質疑応答、レポートをし、授業で一定の役割を果たすことができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業態度、質疑応答、レポートの内容が不十分で、授業での役割を十分に果たすことができない)
- D 総合点が49点以下の者(授業態度、質疑応答、レポートが出せず、授業に必要な役割を果たすことができない)

科目名 演劇学研究A(日本演劇論)(1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇を観るために、もしくは実践的に活動するために、必要な理論について考える。理論を学びながら、それをベースに実際に舞台を観に行く。舞台が理論によって鮮やかに見える場合もあれば、理論そのものをゆるがすこともあるだろう。その双方向的な視点をもって、舞台について考える。

### 授業の到達目標

単に舞台をみる授業ではなく、演劇が社会とどのように接点を持ち、作品から何を見つけるべきなのか、その可能性を問う。そこから自分自身で、ある事柄について考える力を身につけることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ポストコロナル理論と演劇①
3. ポストコロナル理論と演劇②
4. クィア・スタディーズと演劇①
5. クィア・スタディーズと演劇②
6. 舞台の報告①
7. 舞台の報告②
8. 実際に書く①
9. 実際に書く②

10. ディスカッション①
11. ディスカッション②
12. ディスカッション③
13. 批評の講評①
14. 批評の講評②
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇学研究 A (日本演劇論) (2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

特になし。  
遅刻、居眠りをせずに、積極的に授業に参加すること。

### 授業の概要

演劇というアートは、社会の中でどのように成り立っているか。そこには様々な関係がある。例えば劇場について考えると、経済的なことはもちろん、都市における劇場、地域の劇場、街の中の劇場など、そこからは様々な関係を見ることができる。それは経済的な土台を反映したものというだけではない。演劇が公共圏を形作ることを始めとして、そこについてまわる観客の位置、批評の役割など、演劇の制度について包括的に考える。もちろん、実際の舞台作品も具体例として関係するので、毎回、劇場で上演される作品なども検証して、授業を行う。

### 授業の到達目標

社会がどのように成り立っているのか。それを、演劇を始めとした舞台芸術を通して考えることができる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 公共圏とはなにか①アーレントを参照として
3. 公共圏とはなにか②ハーバーマスを参照として
4. 日本の都市と演劇①公共劇場について
5. 日本の都市と演劇②民間劇場について
6. 街と演劇—都市計画と演劇の位置
7. 地域の演劇①関西圏を参照として
8. 地域の演劇②関西圏を参照として

9. 助成金と演劇
10. 文化団体の役割
11. 批評の役割
12. 観客の位置
13. 各国の劇場
14. 各国の劇場システム
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

- ① 授業中に話をしたことを図書館でチェックすること
- ② 授業中に話をしたことをインターネットでチェックすること

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 発表レポート50%、授業への貢献度50%で100点に換算
- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

科目名 演劇学研究 B (西洋演劇論) (1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

演技論に関心を持つもの。

### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムは、ロシアの演出家・俳優コンスタンチン・スタニスラフスキーが俳優教育法を体系的にまとめ上げたものである。このスタニスラフスキー・システムは演技の文法として世界中に普及し、各国で独自の発展を遂げている。本講義では、スタニスラフスキーの著書『俳優の仕事』をもとに、システムの神髄を探っていく。「俳優の仕事」は〈大部で難解な著作〉と敬遠されがちであるが、演劇学校の生徒の日記という形式で書かれており、演劇を学ぶ学生にとっては身近な話題が取り上げられている。受講生自身の体験と重ねつつ読み込み、演技に関する考察を深めていきたい。また、映像資料も使用しながら、スタニスラフスキー・システムに基づく演技を分析していきたい。対面での授業を予定しているが、状況に応じてオンライン授業を行うこともある。

### 授業の到達目標

- 専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、スタニスラフスキー・システムに関する知識・理解を深め、関心・意欲を高めることを目指す。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。
- スタニスラフスキー・システムの基本的な考え方を説明することができる。
  - 創造の現場で、スタニスラフスキー・システムを応用することができる。

### 授業計画

1. コンスタンチン・スタニスラフスキーとモスクワ芸術座
2. 『俳優の仕事』①〈くもしも〉と〈与えられた状況〉
3. 『俳優の仕事』②舞台における注意
4. 『俳優の仕事』③筋肉の開放
5. 『俳優の仕事』④断片と課題
6. 『俳優の仕事』⑤真実の感情と確信
7. 『俳優の仕事』⑥情緒的記憶

8. 『俳優の仕事』⑦究極課題と一貫した行動
9. 『俳優の仕事』⑧テンポ・リズム
10. 『俳優の仕事』⑨論理と一貫性
11. 『俳優の仕事』⑩システムの利用法
12. 練習とエチュード
13. スタニスラフスキーの『オセロ』演出ノート
14. スタニスラフスキー・システムの影響
15. 今日におけるスタニスラフスキー・システムの意義

### 授業時間外の学習

授業で扱う章を必ず事前に読んでおくこと。

### 教科書・参考書等

スタニスラフスキー著 堀江新二他訳『俳優の仕事—俳優教育システム 第一部』『俳優の仕事—俳優教育システム 第二部』(未来社)  
参考書：  
スタニスラフスキー著 蔵原惟人・江川卓訳『芸術におけるわが生涯』(上)(下)(岩波書店)  
ジーン・ベネディティ著 高山岡南雄・高橋英子訳『演技—創造の実際—スタニスラフスキーと俳優』(晩成書房)

### 成績評価

- レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)を総合評価
- S 総合点が90点以上の者(授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる)
- A 総合点が80点以上の者(授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解せず、レポート、発表の内容が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容をまったく理解せず、レポート、発表ができない)

科目名 演劇学研究B (西洋演劇論) (2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 安宅 りさ子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

演技論に関心を持つもの。

### 授業の概要

ロシア・ソビエト演劇を牽引した演出家フセヴォロド・メイエルホリドの活動を追いながら、社会の変革と芸術運動の関係を概観するとともに、メイエルホリドの演劇が及ぼした影響について考察する。帝政ロシアの崩壊とそれに続く社会主義革命…激動の時代に、ロシアでは前衛的な芸術文化が生まれた。この講義では、映像資料等を使用し時代背景をとらえながら、メイエルホリドの論文を読み進め、演出作品を紹介していきたい。また、スターリン体制が確立する中で、メイエルホリドが粛清されたため、その業績の継承が途絶えていたが、1955年の名誉回復後は再評価が進み、現在ではピオメハニカを俳優訓練に取り入れる演劇学校も少なくない。スタニスラフスキー・システムに対するメイエルホリドの考えについても触れ、両者の共通性と相違点を明確にしていきたい。対面での授業を予定しているが、状況に応じてオンライン授業を行うこともある。

### 授業の到達目標

専攻科演劇専攻のカリキュラムマップに対応し、ロシア・ソビエト演劇に関する知識・理解を深め、演劇と社会の関りについて関心・意欲を高めることをめざす。具体的には、以下の2点をこの授業の到達目標とする。

- メイエルホリドの演劇観について説明ができる。
- ロシア・アバンギャルドの芸術について説明ができる。

### 授業計画

1. モスクワ芸術座とチェイホフ～「かもめ」を中心に～
2. 象徴主義演劇～メーテルリンクの静劇理論～
3. 演劇の約束事～ブローク作「芝居小屋」を中心に～
4. 帝室アレクサンドリンスキー劇場時代の演出作品 (オペラ)
5. 帝室アレクサンドリンスキー劇場時代の演出作品 (演劇)

6. 十月革命と芸術
7. メイエルホリドとマヤコフスキー～「ミステリヤ・ブッフ」を中心に～
8. アジプロ演劇の隆盛
9. ピオメハニカ～新時代の俳優訓練法としての意義～
10. 構成主義演劇～「堂々たるコキユ」を中心に～
11. 古典の現代化～「検察官」を中心に～
12. 風刺劇～「南京虫」「風呂」を中心に～
13. 社会主義リアリズムとメイエルホリド批判
14. 日本の近代演劇運動とメイエルホリド
15. メイエルホリドの再評価

### 授業時間外の学習

授業で扱う章を事前に読んでおくこと。また、同時代の文学・美術・音楽・舞踊・映画等についても調べておくこと。

### 教科書・参考書等

エドワード・ブローン著 浦雅春・伊藤愉訳「メイエルホリド演劇の革命」(水声社)

### 成績評価

レポート(30%)、発表(30%)、授業態度(40%)を総合評価

- S 総合点が90点以上の者(授業に積極的に臨み、優れたレポートをまとめ、自らの考えを発表することができる)
- A 総合点が80点以上の者(授業に積極的に臨み、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容を理解し、レポートをまとめ、発表をすることができる)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容をあまり理解せず、レポート、発表の内容が不十分)
- D 総合点が49点以下の者(授業内容をまったく理解せず、レポート、発表ができない)

科目名 演劇学研究C (現代演劇論)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 井上 理恵

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

職業としての〈演劇〉を選択する予定の意欲ある者。  
現代演劇の過去と現在を考察し未来の演劇を創りだそうと考えている者。

### 授業の概要

現代演劇とは、広義には今ある演劇全てを指す。狭義には第二次世界大戦後に登場し現在も人々を魅了する演劇である。本講義ではこれを検討する。とはいえ、歴史は常に過去の累積の上に存在してきた。過去を否定して新しいものを生み出すのは容易なことではない。先人たちは何を捨て何を残したのか、彼らが切り開いた状況を把握し、現代の演劇状況を分析する。

同様に未来の演劇を創りだすためには選択と否定が欠かせない。何を捨て、何を取るかに掛かっている。それには社会状況の把握と人々の意識の在りようが重要になる。

演劇は、社会の中で育つが社会を変えることも可能な芸術である。共に現在と未来の演劇を切り開く努力をしたいと思う。

今年度は、コロナ禍の状況を鑑みて『清水邦夫の華麗なる劇世界』を教科書に指定する。

### 授業の到達目標

- ・社会の中の現代演劇とは何かを確実に把握することができる。
- ・常に〈何故なのかな〉を抱えて考えることができる。
- ・新たな演劇の可能性の一つでも見つけ出すことができる。

### 授業計画

1. この授業に向かう姿勢とガイドライン
2. 第二次大戦後、世界の演劇界に起こった衝撃について (「ゴドーを待ちながら」を読んでおくこと)
3. 日本におけるリアリズム演劇と「ゴドー」の衝撃の受け止め方
4. 清水邦夫と福田善之の比較検討「署名人」と「長い墓標の列」

(教科書「はじめに」「第三部第一章」を読んでおくこと。以下、授業時に指示)。

5. 構成舞台と演出家の存在—清水邦夫と蜷川幸雄①
6. 構成舞台と演出家の存在—清水邦夫と蜷川幸雄②(レポート提出)
7. 構成舞台と演出家の存在—別役実と鈴木忠志
8. 構成舞台と演出家の存在—鈴木忠志とつかこうへい
9. 商業演劇とミュージカルと宝塚①
10. 商業演劇とミュージカルと宝塚②
11. 清水邦夫とチェイホフとイブセン①(レポート提出)
12. 清水邦夫とチェイホフとイブセン②
13. 野田秀樹と平田オリザと永井愛
14. 清水邦夫と野田・平田・永井の違いは何か
15. これまでの学習の総括と未来への可能性(レポート提出)

### 授業時間外の学習

事前に指定された戯曲を読むこと。授業時に教科書の予習及びレポートの論題について指示する。

### 教科書・参考書等

教科書: 井上理恵著『清水邦夫の華麗なる劇世界』(社会評論社 2200円)

参考書: 『現代日本戯曲大系』(白水社)及び各劇作家の戯曲集、『20世紀の戯曲 全3巻』(社会評論社)

### 成績評価

①レポート(70%) ②授業時の発表(30%)

- S 総合点90点以上
- A 総合点80点以上
- B 総合点60点以上
- C 総合点50点以上
- D 総合点49点以下



科目名 劇作研究A (劇作論)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

ドラマ演劇の構造を理解し、シノプシス(あらすじ)を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Bと併せて履修することが望ましい。

### 授業の概要

ドラマ演劇の基本構造を理解し、物語の骨格となるログラインをつくり、シノプシス(あらすじ)を書き上げる。お互いのシノプシスを分析し、講評し合う。

### 授業の到達目標

- ・戯曲の仕組みを理解し、分析できる。
- ・長編戯曲のシノプシス(あらすじ)を書き上げることができる。

### 授業計画

1. 戯曲とは何か。映像の脚本との違いについて
2. ログライン発表①物語の種類について
3. ログライン発表②登場人物について
4. ログライン発表③構成について
5. 戯曲分析①既存の作品からシノプシスを書き起こす
6. 戯曲分析②既存の作品からシノプシスを書き起こす
7. シノプシス第一稿発表①
8. シノプシス第一稿発表②

9. シノプシス第一稿発表③
10. シノプシス第一稿発表④
11. シノプシス第二稿発表①
12. シノプシス第二稿発表②
13. シノプシス第二稿発表③
14. シノプシス第二稿発表④
15. まとめ

### 授業時間外の学習

- ・さまざまな演劇や映画を見て、構造を分析する。
- ・執筆のためのリサーチや取材をする。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。

- S 総合点が90点以上(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)
- A 総合点が80点以上(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)
- B 総合点が60点以上(ディスカッションに参加。戯曲を提出)
- C 総合点が50点以上(授業に出席。戯曲を提出)
- D 総合点が49点以下(出席日数が足りないなど授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)

科目名 劇作研究B (劇作演習)

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 瀬戸山 美咲

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

長編戯曲を書き上げる意志のある人。ディスカッションに積極的に参加できる人。劇作研究Aと併せて履修することが望ましい。

### 授業の概要

シノプシスをもとに戯曲を書き上げる。お互いの戯曲を分析し、講評し合う。

### 授業の到達目標

- 1時間半以上の長編戯曲を書き上げることができる。

### 授業計画

1. ログラインとシノプシスについて振り返り
2. セリフとト書きについて
3. 第一稿発表①
4. 第一稿発表②
5. 第一稿発表③
6. 第一稿発表④
7. 第二稿発表①
8. 第二稿発表②
9. 第二稿発表③

10. 第二稿発表④
11. 第三稿発表①
12. 第三稿発表②
13. 第三稿発表③
14. 第三稿発表④
15. まとめ

### 授業時間外の学習

- ・さまざまな演劇や映画を見て、構造を分析する。
- ・執筆のためのリサーチや取材をする。

### 教科書・参考書等

授業時に指示もしくは配布する。

### 成績評価

授業への取り組み50%、戯曲の完成度50%で評価する。

- S 総合点が90点以上(ディスカッションに積極的に参加。特に優れた戯曲を提出)
- A 総合点が80点以上(ディスカッションに積極的に参加。優れた戯曲を提出)
- B 総合点が60点以上(ディスカッションに参加。戯曲を提出)
- C 総合点が50点以上(授業に出席。戯曲を提出)
- D 総合点が49点以下(出席日数が足りないなど授業の取り組みに欠ける、もしくは戯曲を未提出)



科目名 演出研究

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 小山 ゆうな

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

特になし。

### 授業の概要

演出の要となる2点、1) 戯曲解釈 2) 多様なキャスト・スタッフの持ち味をいかに活かすかを中心に、戯曲を使用し実践的に様々な台本のシーンを分析し、立体的に仕上げていく。シェイクスピア、近代演劇の土台を作っているチェーホフやイプセンの戯曲を中心に扱い、シーンスタディを行う。戯曲解釈から始め、最終的にはシーンを他受講生の前で演じる。また、観客としては、シーンへの意見を述べる。講師からの講評あり。

### 授業の到達目標

- ・戯曲解釈の基本を習得できる。
- ・シーンを立ち上げて上演に向かうプロセスを合理的に進める力を養うことができる。
- ・演劇シーンへの意見の伝え方を学び、同時に他者の意見を自己の表現に活かす能力を養うことができる。

### 授業計画

1. 講師・受講生の自己紹介
2. 授業の進め方、最終的な作品完成・発表形式説明
3. 発想力・解釈力シアターゲーム実践
4. ディスカッション：演劇史の中での現在の演劇の意義・テーマの傾向
5. 戯曲解釈①シェイクスピア「ロミオとジュリエット」のシーンを読む
6. 戯曲解釈②チェーホフ「かもめ」のシーンを読む
7. 戯曲解釈③ニール・サイモン、シャンリイ等近現代作家の短編戯曲を読む

8. 各々がシーンを選び発表する
9. 戯曲の中のブロック・シーンの見つけ方確認
10. シーンスタディのやり方を確認
11. 各々が持ち込んだシーンで読み稽古
12. 各々が持ち込んだシーンを立ち上げる。立ち稽古
13. チーム分け 発表に向けての準備
14. 各々が持ち込んだシーン 再稽古・改善し立ち稽古
15. 成果発表と講評

### 授業時間外の学習

授業では複数の作品の一部を取り上げて実践的に創作していく為、受講生が事前に作品を読み全容を把握しておく事が望ましい。

### 教科書・参考書等

教科書：なし

参考書：小田島雄志訳 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（白水Uブックス） 神西清訳 チェーホフ『かもめ』（新潮文庫）

### 成績評価

①授業への取り組み20% ②テキストへの理解10% ③自らを研鑽する意欲10% ④事前準備の度合い10% ⑤成果発表への評価50% にて総合的に評価する。

S：総合点90点以上の者

A：総合点80点以上の者

B：総合点60点以上の者

C：総合点50点以上の者

D：総合点49点以下の者

科目名 演劇教育論

授業形態 演習(理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 柏木 陽

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

演劇と教育の二つのジャンルを往復しながら社会の中での教育環境や学習の有り様を考えたいと思っている人。社会の中に偏する演劇的環境や演劇的に読み解いていくことに興味のある人。

### 授業の概要

この授業は参加する学生の興味の方向によって大きく変わってくる。

主には教育や学習について、現状あるものと、今後必要になっていきそうだと考えられるものを、色々に検討していくことを中心にして授業を行なっていくつもりである。

### 授業の到達目標

教育行為の中で演劇の果たせる役割はどんなことかを具体的に考えていく。また、それらのアイデアを具体的な活動の形に落とし込んで考えて実践していくにはどのようにしたら良いかのヒントを掴むことができる。

### 授業計画

1. 教育について少し考える①今ある教育環境とはどのようなものだろう
2. 教育について少し考える②教育と学習の違いについて考えてみる
3. 教育について少し考える③現状の教育環境で演劇はどのように働くだろうか
4. 演劇を考えてみる①先行事例を知って考える
5. 演劇を考えてみる②演劇にどのような可能性があるのかを先行事例から考えてみる
6. 演劇を考えてみる③教育演劇とはどのようなものかを想像してみる
7. 演劇と教育の接点を考える①演劇は教育行為のどのような場面で必要になるかを考える
8. 演劇と教育の接点を考える②教育の中での演劇の優位性を

考えてみる

9. 演劇と教育の接点を考える③教育環境の中で演劇には難しいことは何なのかを考える
10. 具体的に考える①これまでの中でどのようなことが可能なのかを具体的に考える
11. 具体的に考える②参加メンバーに対してプレゼンテーションしてみる
12. 具体的に考える③フィードバックを貰いながら対話をしていく
13. 再び教育について考える①日本の中での様々な教育環境の中での実践を考える
14. 再び教育について考える②現状の教育環境の何を変えていきたいのかを考える
15. まとめ：自分にとってまた自分たちにとってこの授業はどのようなものだったか

### 授業時間外の学習

普段接する環境の中にどれくらい演劇的に読み解ける状況があるかなど授業の進捗とともに考察していくこと。

### 教科書・参考書等

資料配布などは授業内で行う。

### 成績評価

主として授業への参加と理解(50%)・授業時間内の実習状況(30%)・提出物などの成果(20%)にて総合的に評価を行う。評価テストは行わない。

S 総合点90点以上

A 総合点80点以上

B 総合点60点以上

C 総合点50点以上

D 総合点49点以下

科目名 アーツマネジメント研究(1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

なし

### 授業の概要

表現の自由、著作権、人権。創作の現場で起きている諸問題について調べ、何が守られるべきか、どのように守ることができるかを考える。なお、アートマネジメントに関して注目すべきトピックが出てきた場合は、計画を一部変更して、リサーチやディスカッションを行うものとする。

### 授業の到達目標

働きやすい創造の現場を作ることとアーティストの自由について考えることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 海外の舞台芸術界における#MeToo運動
3. 日本の舞台芸術界におけるハラスメント問題(1)
4. 日本の舞台芸術界におけるハラスメント問題(2)
5. ディスカッションー働きやすい創造の現場を作るには?
6. 著作権(1)
7. 著作権(2)
8. 著作権(3)

9. 表現の自由について(1) 文化権
10. 表現の自由について(2) ー国内編ー
11. 表現の自由について(3) ー国内編ー
12. 表現の自由について(4) ー国内編ー
13. 表現の自由について(5) ー国内編ー
14. 小テストまたは作文
15. 総括

### 授業時間外の学習

調べ物の課題を課すことがある。

### 教科書・参考書等

適宜プリントを配布する。

### 成績評価

受講態度70%、作文30%

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 アーツマネジメント研究(2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

なし(前期のアーツマネジメント研究(1)を受講していることが望ましいが、必須ではない)

### 授業の概要

海外の演劇事情とそれを取り巻く環境の一端を知る。前期に取り上げる予定の「表現／芸術の自由」についても、海外における検閲の事例などを知りながら、引き続き考える。なお、国内外のアートマネジメントに関する注目すべきトピックが出てきた場合は、予定を一部変更して、リサーチやディスカッションを行うものとする。

### 授業の到達目標

海外の演劇事情とそれを取り巻く環境の一端を知る。前期に取り上げる予定の「表現／芸術の自由」についても、海外における検閲の事例などを知りながら、引き続き考える。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 表現の自由についてー海外編ー(1)
3. 表現の自由についてー海外編ー(2)
4. 表現の自由についてー海外編ー(3)
5. 表現の自由についてー海外編ー(4)

6. 表現の自由についてー海外編ー(5)
7. 表現の自由についてー海外編ー(6)
8. アジア・アフリカ(1)
9. アジア・アフリカ(2)
10. アジア・アフリカ(3)
11. 南北アメリカ・オセアニア(1)
12. 南北アメリカ・オセアニア(2)
13. ヨーロッパ(1)
14. ヨーロッパ(2)
15. 総括

### 授業時間外の学習

課題や発表を課すことがある。

### 教科書・参考書等

適宜指示、またはプリントを配布する。

### 成績評価

受講態度80%、発表の内容20%

- S 総合点が90点以上  
A 総合点が80点以上  
B 総合点が60点以上  
C 総合点が50点以上  
D 総合点が49点以下

科目名 アウトリーチ研究(1)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻

### 履修条件

なし

### 授業の概要

国内外の舞台芸術をめぐる状況や、各地で生まれているパフォーマンスアートとそれを取り巻く環境について見識を深める。

### 授業の到達目標

パフォーマンス・アートについてグローバルな視点を持ち、調査し、考えることができる。

### 授業計画

1. 講師・受講生の自己紹介
- 2～4. 2020年～2021年、コロナ禍の日本の舞台芸術を取り巻く状況(1)～(3)
- 5～6. コロナ禍で生まれたアメリカの演劇(1)(2)
- 6～7. 2020～2021年 香港の演劇事情(1)(2)
- 8～10. イスマエル・サイディの戯曲『ジハード』を読んでみるベルギーにおける演劇のアウトリーチの一例として(1)～(3)
- 11～13. アフガニスタン人権民主主義連盟作の戯曲『修復不能』を読んでみるアフガニスタンにおける社会変革のための演劇の例(1)～(3)

- 14～15. 国内ないし海外の戯曲を読む(内容は時節を見て判断)(1)(2)  
※カリキュラムは国内外の情勢や参加者を見て前後・変更する可能性があります

### 授業時間外の学習

関連する国や地域についての調査・発表準備。

### 教科書・参考書等

国際演劇協会日本センター刊『国際演劇年鑑2021』『国際演劇年鑑2022』  
伊藤裕夫・藤井慎太郎編『芸術と環境 劇場制度・国際交流・文化政策』(2012)など  
※プリントを配布します。

### 成績評価

- 授業への取り組み(80%)と発表の内容(20%)を総合的に評価する
- S 総合点が90点以上
  - A 総合点が80点以上
  - B 総合点が60点以上
  - C 総合点が50点以上
  - D 総合点が49点以下

科目名 アウトリーチ研究(2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2

担当教員 後藤 絢子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻

### 履修条件

アートと社会の関わりや、社会におけるアートの役割について積極的に考える意思のある方。

### 授業の概要

アーティストが学校や福祉施設等に出向き、ワークショップや公演を行うなどして、日頃劇場等の文化施設へ行く機会・習慣がない人たちにもアートとの出会いの機会をつくる「アウトリーチ」(手を伸ばすという意味)と呼ばれる活動がある。このような活動は、分け隔てなく文化的な生活を届けるだけではなく、潜在的な観客や作り手の発掘につながり、時には新しい価値を生み共有することをかなえることもある。この授業は、アウトリーチのあらましを知り、昨今どのようなアウトリーチが行われていて、それぞれがどのような文脈で現れたのかを探る。後半は参加者の関心・知識・経験に応じて研究・発表や、企画書を書くことを前提とした「企画の言語化」の実践を行うことを予定している。

なお、授業ではいわゆる「出張公演」とどまらず、市民自らが劇場に足を運ぶ「市民参加型」や「鑑賞教室」も扱うものとし、社会包摂などのテーマも扱いたい。

### 授業の到達目標

アウトリーチの基本を理解し、多様なアウトリーチ活動の存在を知り、演劇活動を通して社会や人とつながる方法を考えることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. アウトリーチ概説(1)(国内)
3. アウトリーチ概説(2)(国内)

4. アウトリーチ概説(3)(海外の例)
5. 国内での事例(1)
6. 国内での事例(2)
7. 国内での事例(3)
8. 国内での事例(4)
9. 公共劇場の取り組み(1)
10. 公共劇場の取り組み(2)
11. 観客を創る取り組み(公共・民間を問わない)(1)
12. 観客を創る取り組み(公共・民間を問わない)(2)
13. 参加者の興味に応じたトピックス(1)
14. 参加者の興味に応じたトピックス(2)
15. 総括

### 授業時間外の学習

課題を課すことがある。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時にその都度指示する。  
参考書：授業時にその都度指示、またはプリントを配布。

### 成績評価

- 授業への取り組み(80%)と発表の内容(20%)を総合的に評価する。
- S 総合点が90点以上
  - A 総合点が80点以上
  - B 総合点が60点以上
  - C 総合点が50点以上
  - D 総合点が49点以下



科目名 演技研究A(日本演劇)(1)/(2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1・1

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

### 授業の概要

- ・舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲1」「課題戯曲2」を研究、稽古し、最終的に上演する。
- ・日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代にありありと上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現代演劇における多角的な表現方法を実践できる。  
上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表①
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題1上演(1班)・反省/課題
12. 課題1上演(2班)・反省/課題
13. 課題1上演(3班)・反省/課題
14. 課題1上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

【(2)後期】

16. トレーニング①呼吸
17. トレーニング②身体表現・課題発表②
18. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
19. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
20. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
21. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
22. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
23. 立ち稽古①戯曲解釈
24. 立ち稽古②関係性
25. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
26. 課題2上演(1班)・反省/課題
27. 課題2上演(2班)・反省/課題
28. 課題2上演(3班)・反省/課題
29. 課題2上演(4班)・反省/課題
30. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

### 授業時間外の学習

課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)

参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)

科目名 演技研究A(日本演劇)(1)/(2) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1・1

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

演技を通して「日本の演劇」への理解を深めたい者。

### 授業の概要

- ・舞台俳優として必要な身体、呼吸と集中力のトレーニングを中心に「台詞」に囚われないダイナミックでグローバルな演技メソッドを学習していく。
- ・少人数で数チーム編成し、それぞれの「課題戯曲3」「課題戯曲4」を研究、稽古し、最終的に上演する。
- ・日本の現・近代戯曲を利用することで見えてくる、古典戯曲とは違った今日性の高いテーマを現代にありありと上演することを学ぶ。また、お互いのチームを参考に切磋琢磨の中でこそ創造されるグレードの高い芝居を完成させ、俳優として「演じる」だけでなく「観る」力も同時に学習する。
- ・最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供する事により、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

課題戯曲の研究、解釈と、稽古を通しての上演作品の完成と上演を通し、現代演劇における多角的な方法を実践できる。  
上演した成果から一人一人の新たなステップアップに必要な技術面、知識面を発見し、更なる研鑽に役立てることができる。  
現代日本演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. トレーニング①呼吸
2. トレーニング②身体表現・課題発表①
3. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
4. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
5. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
6. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
7. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
8. 立ち稽古①戯曲解釈
9. 立ち稽古②関係性
10. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
11. 課題3上演(1班)・反省/課題
12. 課題3上演(2班)・反省/課題
13. 課題3上演(3班)・反省/課題

14. 課題3上演(4班)・反省/課題
15. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

【(2)後期】

16. トレーニング①呼吸
17. トレーニング②身体表現・課題発表②
18. トレーニング③呼吸と身体・読み稽古(前半)
19. トレーニング④集中・読み稽古(後半)
20. トレーニング⑤呼吸と台詞・キャストイング
21. トレーニング⑥身体と台詞・立ち稽古(前半)
22. トレーニング⑦集中と関係性・立ち稽古(後半)
23. 立ち稽古①戯曲解釈
24. 立ち稽古②関係性
25. 小道具、衣装、音響、照明のプランニング発表
26. 課題4上演(1班)・反省/課題
27. 課題4上演(2班)・反省/課題
28. 課題4上演(3班)・反省/課題
29. 課題4上演(4班)・反省/課題
30. 全チームの総評、今後の課題とディスカッション

### 授業時間外の学習

課題戯曲を研究し、自主稽古を行う。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(課題日本戯曲)

参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢 ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技の質を高められる)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な演技メソッドを十分に把握し、演技ができる)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な演技メソッドをほぼ把握し、演技ができる)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な演技メソッドの理解に欠け、演技に利用できていない)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な演技メソッドを理解せず、演技になっていない)



科目名 演技研究B(外国演劇)(1)/(2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1・1

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

### 授業の到達目標

演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに対する理解を深めることができる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古①
10. ワンシーン稽古②
11. ワンシーン通し、反省
12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省

15. まとめ

【(2)後期】

1. ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション、エチュード
3. ボイストレーニング、エチュード
4. 読む稽古
5. 学生レポート、シーン準備
6. ワンシーン稽古
7. ワンシーン通し、反省
8. ワンシーン稽古
9. ワンシーン発表会
10. 反省、個人反省
11. ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
12. ワンシーン稽古①
13. ワンシーン稽古②
14. ワンシーン発表会
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」  
研究旅行(キース・ジョンストン ルーズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究B(外国演劇)(1)/(2) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1・1

担当教員 ペーター・ゲスナー

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

自己を自分の身体全てを用いて表現することに熱意があり、プロフェッショナルな役者となるためのテクニックを学ぶ強い欲求があること。

### 授業の概要

役者の舞台の上で必要な「思い」を創造し、深め、高めるために、この授業でエチュードとインプロビゼーションを行う。

まず、学生は、与えられた課題にアドリブで、パートナーと演劇のシーンを作らなければならない。

次に、与えられた課題ではなく、自らが課題を見つけ舞台の上でパートナーと表現する。この演習はお互いに相手を認め、尊重することを学び、さらに自分ひとりでは舞台の進行を決められない、つまりこの経験は社会での自己の位置づけを想像させるものである。

授業は、ルドルフ・ベンカ(ベルリン「エルンスト・ブッシュ」俳優学校教師)とキース・ジョンストン(カルガリー「ルーズムースシアター」)によるメソッドを用いた演技訓練の基本を復習することから始める。

最高学年として、専攻科1年生の稽古へのアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

- ・演劇の技術、特に相手との関係や状況を理解することの基本から演じることに対する理解を深めることができる。
- ・外国演劇上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. 導入、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション(二人一五人)、作品準備:劇作家、時代など
3. 学生レポート:作品コンテキスト、キャラクターアナライズ
4. 読む稽古、エチュード
5. 衣装準備、小道具、舞台大道具等セット、エチュード
6. 照明、音響、映像等セット、エチュード
7. ワンシーン通し、反省、ボイストレーニング
8. シーン直し、個人反省
9. ワンシーン稽古①
10. ワンシーン稽古②
11. ワンシーン通し、反省

12. ワンシーン直し
13. ワンシーン発表会
14. 個人反省
15. まとめ

【(2)後期】

1. ワンシーン繰り返し、シアターゲーム
2. ワンシーンオーディション、エチュード
3. ボイストレーニング、エチュード
4. 読む稽古
5. 学生レポート、シーン準備
6. ワンシーン稽古
7. ワンシーン通し、反省
8. ワンシーン稽古
9. ワンシーン発表会
10. 反省、個人反省
11. ワンシーンオーディション、読む稽古、シーン準備
12. ワンシーン稽古①
13. ワンシーン稽古②
14. ワンシーン発表会
15. 反省、まとめ

### 授業時間外の学習

授業の中で出された、課題やショートシーンなどは、繰り返し考え、自分の意見を加えて、授業前に自主練習等を行い専門的な準備をすること。

### 教科書・参考書等

絹川友梨著「インプロ・ゲーム」  
研究旅行(キース・ジョンストン ルーズムースシアター)で集めた書類  
キース・ジョンストン著「シアタースポーツ」(英語版)

### 成績評価

(1)課題に対する成果10%、(2)授業に取り組もうとする姿勢、態度、協調性の成否20%、(3)役者としてどのくらい能力が培われたか30%、(4)課題に対する到達度等40%を総合的に評価する。

- S (1)~(4)まで90%以上獲得した者  
A (1)~(4)まで80%以上獲得した者  
B (1)~(4)まで60%以上獲得した者  
C (1)~(4)まで50%以上獲得した者  
D (1)~(4)まで49%以下しか獲得できなかった者

科目名 演技研究C(現代劇)(1)/(2) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1・1

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

積極的に取り組む事。

### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現は出来ない。ステージの上でも再現ではなく再構築を目指す。役ではなく「自分」を通してそれらを行う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得できる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. 授業の導入
  2. 前期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
  3. 読み、話し合い①
  4. 読み、話し合い②
  5. 配役、読み合わせ
  6. 読み合わせ①
  7. 読み合わせ②
  8. 立ち稽古1①コミュニケーション
  9. 立ち稽古1②コミュニケーション
  10. 立ち稽古1③セリフの目的化
  11. 立ち稽古1④セリフの目的化
  12. 立ち稽古1⑤自分の言葉にする
  13. 立ち稽古1⑥自分の言葉にする
  14. 立ち稽古1⑦形にする
  15. 前半発表
- 【(2)後期】
16. 後期ワークシーンの作品発表、配役、読み合わせ
  17. 読み合わせ①
  18. 読み合わせ②

19. 読み合わせ③
  20. 読み合わせ④
  21. 立ち稽古2①コミュニケーション
  22. 立ち稽古2②行動としてのセリフ
  23. 立ち稽古2③セリフの目的を使役動詞に置き換えてみる
  24. 立ち稽古2④他者を動かす
  25. 立ち稽古2⑤より負荷の大きい状況を選択するという事
  26. 立ち稽古2⑥形にする
  27. 立ち稽古2⑦落とし込み
  28. 立ち稽古2⑧通し稽古
  29. 立ち稽古2⑨通し稽古
  30. 後期発表
- ※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する。

### 成績評価

以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。

- ① 授業への取り組み
  - ② 課題の成果
  - ③ 障壁や課題に対する姿勢
  - ④ 授業期間中の成長、変化
  - ⑤ センス
- S 総合点が90点以上の者(①～⑤の項目において卓越した結果を残した者)
- A 総合点が80点以上の者(①～⑤の項目において優秀な結果を残した者)
- B 総合点が60点以上の者(①～⑤の項目において標準以上の結果を残した者)
- C 総合点が50点以上の者(①～⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残した者)
- D 総合点が49点以下の者(授業についてこれなかった者)

科目名 演技研究C(現代劇)(1)/(2) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1・1

担当教員 田中 壮太郎

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

積極的に取り組む事。

### 授業の概要

スタニスラフスキー・システムをベースに演技を習得してゆく。演技とはリアクションであり、行動、行為である。授業では登場人物の基本行動を洗い出し、それを更に小さな行動へと分解してゆく。その行動の一つ一つが更に小さな「適応」を生み出す。適応というのは相手とのコミュニケーションであり、毎瞬間生まれるものだから再現は出来ない。ステージの上でも再現ではなく再構築を目指す。役ではなく「自分」を通してそれらを行う。シーンワークを通してドラマを動かす演技を習得してゆく。

### 授業の到達目標

シーンワークを通して、実際の舞台や映像で共通して求められる演技力を獲得できる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. 授業の導入
  2. 前期シーンワークの作品発表、ウォーミングアップ
  3. 読み、話し合い①
  4. 読み、話し合い②
  5. 配役、読み合わせ
  6. 読み合わせ①
  7. 読み合わせ②
  8. 立ち稽古1①コミュニケーション
  9. 立ち稽古1②コミュニケーション
  10. 立ち稽古1③セリフの目的化
  11. 立ち稽古1④セリフの目的化
  12. 立ち稽古1⑤自分の言葉にする
  13. 立ち稽古1⑥自分の言葉にする
  14. 立ち稽古1⑦形にする
  15. 前半発表
- 【(2)後期】
16. 後期ワークシーンの作品発表、配役、読み合わせ
  17. 読み合わせ①
  18. 読み合わせ②

19. 読み合わせ③
  20. 読み合わせ④
  21. 立ち稽古2①コミュニケーション
  22. 立ち稽古2②行動としてのセリフ
  23. 立ち稽古2③セリフの目的を使役動詞に置き換えてみる
  24. 立ち稽古2④他者を動かす
  25. 立ち稽古2⑤より負荷の大きい状況を選択するという事
  26. 立ち稽古2⑥形にする
  27. 立ち稽古2⑦落とし込み
  28. 立ち稽古2⑧通し稽古
  29. 立ち稽古2⑨通し稽古
  30. 後期発表
- ※授業内容に関しては、その進行具合によって多少の前後がある事を承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

作品に対するあらゆる方面からの理解のためのリサーチ。「セリフを自分に落とす」という段階までのセリフの記憶する。

### 教科書・参考書等

必要に応じて授業時に配布する。

### 成績評価

以下の項目につき一項目20点とし、総合的に評価する。

- ① 授業への取り組み
  - ② 課題の成果
  - ③ 障壁や課題に対する姿勢
  - ④ 授業期間中の成長、変化
  - ⑤ センス
- S 総合点が90点以上の者(①～⑤の項目において卓越した結果を残した者)
- A 総合点が80点以上の者(①～⑤の項目において優秀な結果を残した者)
- B 総合点が60点以上の者(①～⑤の項目において標準以上の結果を残した者)
- C 総合点が50点以上の者(①～⑤の項目において標準よりやや劣る結果を残した者)
- D 総合点が49点以下の者(授業についてこれなかった者)

科目名 演技研究D(フィジカルシアター) 1年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。

### 授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。

台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。

「演技演習A」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。

身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。

### 授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介
3. テンポ：スローモーションなど
4. 身体記憶
5. 模倣と観察
6. 日常的ジェスチャー

7. 表現的ジェスチャー
8. 音楽的表現
9. キャラクターの創造①基礎
10. キャラクターの創造②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価

- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。

科目名 演技研究D(フィジカルシアター) 2年次

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1

担当教員 大谷 賢治郎

実務経験

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

授業時間外での自習・自主稽古に積極的に取り組むこと。アーティストとしての自立、アンサンブルとしての共同作業を両立させること。稽古着を着用すること。演技研究D(フィジカルシアター)(1)を履修していること。

### 授業の概要

俳優としての身体性を習得することを目標とする。身体表現の可能性を模索し、身体表現による語彙を増やして行く。

台詞だけに頼らない、観客の想像力に働きかける伝達方法を獲得する。

「演技研究D(1)」で行った、俳優自身が作品創造を行うディバイジングを更に掘り下げて行く。

身体表現による身体行動、テキストによる言語行動の両立を図る。

最高学年として、専攻科1年生への稽古のアドバイスや、技術面でのアドバイスを率先して提供することにより、「演じる」だけでなく「創作」する力も養っていく。

### 授業の到達目標

- ・ソロパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・グループワークによるパフォーマンスの確立と発表ができる。
- ・ディバイジングによる作品づくりと発表ができる。
- ・創造過程に於ける自分自身について、そして他者についての観察とフィードバックができる。
- ・創造過程を記録し報告ができる。
- ・フィジカルシアター上演において、必要な稽古への取り組みや、表現上のアドバイスを他人に言語として伝えられる力を獲得できる。

### 授業計画

1. 授業の導入
2. 身体表現による演劇的自己紹介

3. テンポ：スローモーションなど
4. 仮面①
5. 仮面②
6. 仮面③日常的ジェスチャー
7. 身体表現：感情
8. 身体表現：年齢
9. 身体表現：キャラクター形成①基礎
10. 身体表現：キャラクター形成②応用
11. ディバイジング①基礎
12. ディバイジング②応用
13. 作品創造①1回目の発表
14. 作品創造②2回目の発表
15. 総評

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

課題発表のための自習ならびに自主稽古。

### 教科書・参考書等

教科書：必要に応じて授業時に配布  
参考書：必要に応じて授業時に配布

### 成績評価

①授業への取組み80%②発表の内容20%の総合的評価

- S 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が大変高く評価できる。
- A 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が高く評価できる。
- B 授業への取組み、創造過程への関わり方、シーンワークの発表が評価できる。
- C 各課題の発表まで達している。
- D 各課題の発表が評価できない。



科目名 演技研究 E (ミュージカル) 1 年次

授業形態 演習 (演技)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 1

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。シーンワークでは群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。メインとアンサンブノレの両方を経験し、双方に必要なモノを体感する。「役として生きる」ことを怠らず、俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすることができる。

### 授業計画

1. シアターゲーム・シーンワーク① (力量チェック)  
※アップとしてシアターゲームは以降もあり。
2. シーンワーク② (力量チェック) 自己分析
3. 身体表現①創造
4. 身体表現②楽曲を使用

5. インプロ①
6. インプロ②
7. シーンワーク① (演技・歌唱・振付を区分しながら進行)
8. シーンワーク②
9. シーンワーク③
10. シーンワーク④
11. シーンワーク⑤
12. シーンワーク⑥
13. シーンワーク発表 (衣裳・大道具・小道具あり) ①
14. シーンワーク発表 (衣裳・大道具・小道具あり) ②
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: 総合点が90点以上の者  
A: 総合点が80点以上の者  
B: 総合点が60点以上の者  
C: 総合点が50点以上の者  
D: 総合点が49点以下の者

科目名 演技研究 E (ミュージカル) 2 年次

授業形態 演習 (演技)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 1

担当教員 大塚 幸太

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

授業・課題に積極的に取り組み、芸の道を歩む者として自分としっかり向き合いチャレンジする気持ちを持つこと。稽古着・稽古靴着用。

### 授業の概要

ミュージカルという枠組み関係なく「表現者」として表現したいこと、しなければならないことを明確にして演技プランを構築していく。(2)のシーンワークは(1)よりも本格化した「作品ワーク」となる。(1)と同様に群像、ペア、ソロパートでの演技・歌唱・振付からミュージカル特有の形だけの演技ではなく、心が動く演技表現と空間と空気を動かす身体表現を学ぶ。作品ワーク中心の授業で、細部に渡る表現を研究し、心身共に「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得する。また、生徒による「クリエイティブ・チーム」を編成し、振付又は演出の立場を経験することで創造力や創作意図を伝える指導力を身につける機会を設ける場合がある。(1)と同様に俳優という職業として自分の「商品価値」を見出していくと共に、協調性やコミュニケーション能力の向上を授業目的の一環とする。そして、卒業後すぐに「現場」に適應できる人材育成を目指す。

### 授業の到達目標

各自が新たな発見をすること。「プロフェッショナル」としての在り方の第一歩を修得することができる。

### 授業計画

1. 身体表現①創造  
※アップとしてシアターゲームとクロスフロアー。
2. 身体表現②楽曲を使用
3. 作品ワーク① (演技・歌唱・振付を区分しながら進行)

4. 作品ワーク②
5. 作品ワーク③
6. 作品ワーク④
7. 作品ワーク⑤
8. 作品ワーク⑥
9. 作品ワーク⑦
10. 作品ワーク⑧
11. 作品ワーク⑨
12. 作品ワーク⑩
13. 作品ワーク発表① (衣裳・大道具・小道具あり)
14. 作品ワーク発表② (衣裳・大道具・小道具あり)
15. まとめ

### 授業時間外の学習

授業に向けての予習・復習。

### 教科書・参考書等

授業で配布されるプリント。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業態度 ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤身体的、精神的健康の維持
- S: 総合点が90点以上の者  
A: 総合点が80点以上の者  
B: 総合点が60点以上の者  
C: 総合点が50点以上の者  
D: 総合点が49点以下の者



科目名 演劇特別研究(1)/(2) ①②

授業形態 演習(演技)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 眞鍋 卓嗣

実務経験 ○

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

授業時間外も課題の稽古に積極的に取り組むこと。稽古着、運動靴を必ず着用すること。授業時間内は必ず時計、アクセサリ等を外すこと。遅刻、欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出すること。

### 授業の概要

【(1)前期】

演技基礎を他者との交流の視点から学ぶ。様々なトレーニングを施し、それがどのように実演技に結びついているかを戯曲の一場面を使って検証する。

【(2)後期】

演技基礎を他者との交流の視点から学ぶ。それがどのように実演技に結びついているかを戯曲の一場面を使って検証する。前期で学んだことを生かし、より実践的な内容とする。

### 授業の到達目標

【(1)前期】

- ・専門俳優、表現者に必要な他者との交流の本質を探索し向上を目指す。
- ・他者との交流の重要性を知ること、集団における協働性の向上を目指す。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。

【(2)後期】

- ・専門俳優、表現者に必要な他者との交流の本質を探索し向上を目指す。
- ・他者との交流の重要性を知ること、集団における協働性の向上を目指す。
- ・戯曲の解釈と登場人物の役割を学んだ上で、他者との交流をどのように演技に生かすかを学び、実際に実演することができる。
- ・プロの現場で行われているアプローチの仕方を学び専門俳優、表現者としての向上を目指す。

### 授業計画

【(1)前期】

1. トレーニング：交流①
2. トレーニング：交流②
3. トレーニング：交流③
4. トレーニング：与えられた状況の中の自分①
5. トレーニング：与えられた状況の中の自分②
6. トレーニング：与えられた状況の中の自分③
7. 戯曲読解
8. 役へのアプローチの仕方、読み合わせ
9. 読み合わせ
10. セリフの覚え方
11. 実演①
12. 実演②

13. 実演③
  14. 実演④
  15. 前期の総括、ディスカッション
- 【(2)後期】
1. 戯曲読解・読み合わせ①
  2. 戯曲読解・読み合わせ②
  3. 戯曲読解・読み合わせ③
  4. 戯曲読解・読み合わせ④
  5. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ①
  6. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ②
  7. 立ち稽古の前準備・セリフ合わせ③
  8. 立ち稽古①
  9. 立ち稽古②
  10. 立ち稽古③
  11. 立ち稽古④
  12. 立ち稽古⑤
  13. 発表①
  14. 発表②
  15. 後期の総括、ディスカッション

### 授業時間外の学習

- ・授業内容をノートに書き、疑問点や理解したことなどをまとめる。半ばに一回、最後に一回提出すること。
- ・与えられた宿題をやってくる。
- ・実演する場合の道具や衣装などを用意すること。

### 教科書・参考書等

教科書：授業時に配布(戯曲)  
参考書：随時授業時に配布

### 成績評価

- ①授業の取組み50% ②課題の成果30% ③レポートの内容20%
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題の成果が特によく見られ、授業への取組みが的確かつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題の成果がよく見られ、授業への取組みが的確だった者)。
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解や課題の成果が良好であった者、または取組みが的確だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解や課題の成果が不十分だった者、または取組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、取組みに問題があった者)。

科目名 ワークショップA(1)/B(1)

授業形態 実習(WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 A：生田 みゆき/B：永井 愛

実務経験 ○○

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。

授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

### 授業の到達目標

- ・演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- ・修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる(専攻科2年)。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②

7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
  - S 総合点が90点以上の者
  - A 総合点が80点以上の者
  - B 総合点が60点以上の者
  - C 総合点が50点以上の者
  - D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップA(2)/B(2)

授業形態 実習(WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 A:日澤 雄介/B:鷗山 仁

実務経験 ○—

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

ワークショップ全日程に参加すること。欠席、遅刻、早退は一切認めない。

### 授業の概要

各ジャンルの第一線で活躍されている演劇人・アーティストにご指導いただき、前期・後期に各一回ずつワークショップを行う。授業計画の準備、履修登録後の登録・取消は一切認めないので注意すること。また事前に課題が提示されることもあるので、その場合は十分に準備してワークショップに挑むこと。

### 授業の到達目標

- 演技・表現のメソッドを集中的に訓練し、演劇・舞台表現に関する理解を体験的に深めることができる。
- 修了年次であることを意識し、今後の演劇活動における社会貢献に直結する技術や思考を獲得することができる(専攻科2年)。

### 授業計画

ワークショップ担当者は各学期の開講時に、授業計画を発表するが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. キャスト発表
5. 立ち稽古①
6. 立ち稽古②

7. 立ち稽古③
8. 立ち稽古④
9. 立ち稽古⑤
10. 立ち稽古⑥
11. 立ち稽古⑦
12. 立ち稽古⑧
13. 立ち稽古⑨
14. 課題発表
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

与えられた課題の予習及び、復習をすること。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 ワークショップC/D(演大連)

授業形態 実習(WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 ペーター・ゲスナー・三浦 剛・高橋 宏幸

実務経験 —

期間 集中

他専攻 /

### 履修条件

演劇専攻本科、1、2年生、専攻科1、2年生を対象とする。しかし、履修希望者多数の場合は、五つの大学からの選抜メンバーによってワークショップが開催されるという授業の趣旨もあって、優先的に本科2年生、専攻科1、2年生のなかから選抜をする。また、五大学の総合での授業ということもあって、そもそも履修できる人数は少数になる。

### 授業の概要

演劇大学連盟が主催(桐朋学園芸術短期大学、桜美林大学、日本大学、多摩美術大学、玉川大学)する、共同のサマースクールとしてのワークショップである。8月上旬の集中講義として行う予定である。ワークショップの内容は、演技・身体系のワークショップと美術・衣装系のワークショップのふたつを予定している。

### 授業の到達目標

自分と同世代の他大学の学生がどのようなレベルでどのような志向をもって学生生活、もしくは演劇活動を行っているのか、ワークショップで切磋琢磨をして、今後の自身の社会生活、もしくは卒業後の進路など、目標をもった活動ができるようにする。

### 授業計画

1. イントロダクション (桐朋学園において)
2. ワークショップのレクチャー (桐朋学園において)
3. ワークショップ 午前、1日目
4. ワークショップ 午後、1日目
5. ワークショップ 午後、1日目
6. ワークショップ 夕方、1日目
7. ワークショップ 午前、2日目
8. ワークショップ 午後、2日目

9. ワークショップ 午後、2日目
10. ワークショップ 夕方、2日目
11. ワークショップ 午前、3日目
12. ワークショップ 午後、3日目
13. ワークショップ 午後、3日目
14. ワークショップ 夕方、発表 3日目
15. まとめ

※授業内容に関しては、その進行具合により、多少の前後があることを承知しておくこと。

### 授業時間外の学習

60時間程度の時間外学習をすること。

### 教科書・参考書等

追って指示する。

### 成績評価

最終発表50%、授業への貢献度50%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に把握し、発表においても十全にプレゼンスができた)  
A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項をほぼ把握し、発表などの成果においてもプレゼンスを保てた)  
B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項の理解に欠け、プレゼンスがあまりにならない)  
C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスがあまりできない)  
D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項を理解せず、プレゼンスが発揮できない)

科目名 演劇研修

授業形態 演習 (WS)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 ペーター・ゲスナー・高橋 宏幸・後藤 絢子

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

良好な体調で海外での研修を受けることができる者。また、事前に複数回の説明会を課すが、必ず受講できる者。

### 授業の概要

海外の演劇教育機関でワークショップを受けて、俳優訓練などを勉強する。世界的なレベルで現在の自分のレベルを知り、足りないところを認識し、今後の発展の礎にする。また、それぞれの国の演劇を見たり、美術館、博物館をまわり、演劇はもちろん、異文化を理解する。また、海外のさまざまな演劇人と実際にふれあう機会があるので、臆することなく積極的に参加すること。昨今では、イタリアのテアトロ・アルセナーレ、オーストラリアの国立演劇学校であるNIDA、スイスのチューリッヒ芸術大学、カナダのカルガリのルーズムズシアターなどで研修している。今年度も海外での研修を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見て、実施の可否を判断する。

### 授業の到達目標

海外での演劇研修を通じて、国際的な知見をもって視野を広めることができる。また、様々な人とふれあうことにより、文化の多様性を知ることができる。そして、自分のいる国や民族、文化を翻って見つめ直すことができる。単なる旅行ではなく、あくまで研修としてさまざまなものを学ぶ機会としてこの授業はある。そのためには事前の学習として、下調べが必要である。またそのためのテキストなどは用意される。

### 授業計画

1. 準備説明会①
2. 準備説明会②
3. 説明会①
4. 説明会②

5. 事前学習会①
6. 事前学習会②
7. 結団式
8. ワークショップ①
9. ワークショップ②
10. ワークショップ③
11. ワークショップ④
12. ワークショップ⑤
13. ワークショップ⑥
14. 鑑賞会①
15. 鑑賞会②

### 授業時間外の学習

訪問する国の文化、環境、演劇などを必ず調べておくこと。それぞれの国の劇作家、演劇などを知り、ワークショップにスムーズに参加できるように準備しておくこと。また帰国後のレポートを書く際に、体験したことをふまえて、さらに調べること。

### 教科書・参考書等

訪問国の舞台に関する戯曲やさまざまな資料をそのつど配布するので、読んでおくこと。

### 成績評価

- ①研修の予備調べ、および事前説明会や学習会への取組み②研修中の態度③帰国後のレポートをそれぞれ同じ割合（および33%ずつ）にて総合的に評価する。
- S 上記の1・2・3の総合点が90点以上のもの。  
 A 上記の1・2・3の総合点が80点以上のもの。  
 B 上記の1・2・3の総合点が60点以上のもの。  
 C 上記の1・2・3の総合点が50点以上のもの。  
 D 上記の1・2・3の総合点が49点以下のもの。

科目名 舞踊A(1)／(2)(クラシックバレエ)

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 中農 美保

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 ○※

### 履修条件

特になし。  
※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「クラシックバレエI」「クラシックバレエII」を修得していること。

### 授業の概要

クラシックバレエのアカデミックなレッスンを通して  
1. 舞台人としての体づくり、姿勢、柔軟性、プレイズメント  
2. あらゆる踊りの基礎となるバレエの体の使い方  
3. 西洋の作法でもあるバレエの様式美、エレガンス  
4. 音楽性、リズム感、ピアノの伴奏により生の音楽を体に通す感覚等を身につけられるように、基本的なレッスンを行う。

### 授業の到達目標

・それぞれが自分の体と向き合い、豊かな表現ができる体を作ることができる。  
・バレエのアカデミックなムーブメント、テクニックを学び、音楽的に踊れるように感性を磨くことができる。

### 授業計画

- 【(1)前期】
1. 姿勢とプレイズメント、足の5つのポジション、ボール・ド・ブラ
  - 第2～5回「バーレッスン」プリエ、バットマン・タンジュ、バットマンデガジェ、ロンドジャンプ・ア・テール、グランバットマン「センターレッスン」アダージュ、バットマン・タンジュ、小さいジャンプ、シソヌ
  2. 体の使い方①応用
  3. 体の使い方②発展
  4. 体の使い方③綺麗に魅せる
  5. 2～4回のまとめ
  - 第6～10回「バーレッスン」加えてバットマン・フラッペ、バットマン・フォンジュ、デヴロップ「センターレッスン」加えてグランバットマン、アッサンブレ、ビルエット、ピケアンデタン
  6. 難易度を上げた体の使い方①基本
  7. 難易度を上げた体の使い方①応用
  8. 難易度を上げた体の使い方②発展
  9. 難易度を上げた体の使い方③綺麗に魅せる
  10. 6～9回のまとめ
  11. ジャンプや回転のコンビネーション①基本
  12. ジャンプや回転のコンビネーション②応用
  13. ジャンプや回転のコンビネーション③発展

14. 試験のアンシェヌマン
  15. 試験、総括
  - 【(2)後期】
  - 第1～15回(前期)に加えてアレグロ・グランワルツ
  16. アレグロ・グランワルツ①基本
  17. アレグロ・グランワルツ②体の使い方
  18. アレグロ・グランワルツ③応用
  19. アレグロ・グランワルツ④綺麗に魅せる
  - 第20回以降フルレッション、バリエーション、上級者はトウ・シューズ
  20. 体の使い方①基本
  21. 体の使い方②応用
  22. 体の使い方③発展
  23. 体の使い方④綺麗に魅せる
  24. 体の使い方⑤音楽に合わせて
  - 第25回以降フルレッション、簡単なパド・ドゥ
  25. 体の使い方①基本
  26. 体の使い方②相手への気遣い
  27. 体の使い方③応用
  28. 体の使い方④音楽に合わせて
  29. 試験のアンシェヌマン
  30. 試験、総括
- 順序及び内容は、履修者の能力に合わせて変更する可能性があります

### 授業時間外の学習

毎回授業の最後に、次の授業までに習得する課題を出すので練習に努めること。

### 教科書・参考書等

必ず稽古着(レオタード・タイツ)を着用し、バレエシューズを使用。女性は髪をまとめるように。

### 成績評価

- ①授業への取組み・授業の状況40%②課題に対する成果30%③期末試験30%を総合的に100点満点で評価する。
- S 総合点が90点以上の者  
 A 総合点が80点以上の者  
 B 総合点が60点以上の者  
 C 総合点が50点以上の者  
 D 総合点が49点以下の者



科目名 舞踊B(コンテンポラリー)

授業形態 実技(GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 勝倉 寧子

実務経験 ○

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

経験の有無に関わらずコンテンポラリー・ダンスに興味があり、身体表現の習得に意欲的であること。

### 授業の概要

同時代のダンスという意味のコンテンポラリー・ダンスは、バレエにはない動きで表現の幅を大きく広げたモダンダンスよりもさらに新しい、最先端を行くダンスである。スキルフルで洗練され、アクロバティックで重力を利用した美しい脱力が特徴的。舞台芸術の中でも心からだの密接な関係を深く実感できる実に魅力的な身体表現である。

コンテンポラリー・ダンスの中でも、バレエ、ジャズ、ストリート、舞踏等あらゆるダンスを理解した上に成り立つ技法は、音楽、演劇における身体表現に結びつく可能性を非常に多く含んでおり、舞台表現の質の向上にも大いに有効である。

この授業では、まずコンテンポラリー・ダンスのトレーニングを積むことだからだを意思どおりにコントロールできる能力を養う。この後段階を踏みながら更なる技術のスキルアップを図りつつ身体表現に最も重要かつ必要な要素を取り上げそのテーマごとに実践を積み、表現者として確かな技能と表現力の確立を目指す。

### 授業の到達目標

- ・コンテンポラリー・ダンスの理解を深め、その技術を習得できる。
- ・プロの俳優として通用するからだをつくることができる。
- ・演じる上で、身体を使った感情表現がスムーズに行うことができる。
- ・プロの演出家、振付家の要求に対応し得る基礎技術、応用力を身に付けることができる。
- ・豊かな発想を生み出す創造力を養い、説得力のある身体表現を可能にすることができる。
- ・自作自演を可能にする創作力、演出力を身に付けることができる。

### 授業計画

#### 基礎トレーニング

1. ストレッチ&リリース、呼吸法と筋力強化(インナー、アウター、体幹)
2. フロアワーク…スウィング&リリーステクニック
3. アライメント…姿勢の矯正、正確なポジショニング
4. 重力のコントロール①…フォール&リバウンド、リカバリー、サスペンション
5. 重力のコントロール②動きのリーダー…ポイントの設定と使い方
6. 重心移動①ステップバリエーション、スウィング(スタンディング) テ

#### クニックを用いた移動

7. 重心移動②フロアテクニック+ジャンプ&ターン
8. 様々なテクニックの組み合わせによる3次元的空間使い

応用、基礎トレーニングに加えて、下記の内容を単独、または他のテーマとクロスフェードしながら取り上げ習得していく

9. フレーズを踊る①身体表現の実践…振付を覚える
10. フレーズを踊る②舞台空間の使い方、緩急の配分、他者との関わり
11. フレーズを踊る③感情を伴う表現…音楽、シチュエーション設定による実践、内面(こころ)と動き(からだ)の演出上有効な距離選択法
12. プロップ(小道具)を踊りのパートナーとして用いるダンスの実践
13. インプロビゼーション…即興力、新しい動きの開発、手がかりとなる手法
14. 創作…振付力の向上、個性、独創性の発見、課題に対する創作の実践
15. 総括、学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

毎回授業で学んだテクニックは、次のステップアップに繋がるよう最大限の復習に努めること。日頃から創作の素材となり得る音楽やテーマの情報収集に積極的であること。

### 教科書・参考書等

稽古着を着用。授業は基本的にシューズを履かずに行う。布製の履物等可。

### 成績評価

受講態度50%、課題に対する評価50%を総合的に評価

- S 総合点が90点以上の者(基本的な諸事項を十分に理解し、それらを的確に使い優れた身体表現を実現することが出来る)
- A 総合点が80点以上の者(基本的な諸事項を十分に理解し、それらを明確に表現し応用できる身体能力を持っている)
- B 総合点が60点以上の者(基本的な諸事項をほぼ理解し、それらを表現し応用できる身体能力を持っている)
- C 総合点が50点以上の者(基本的な諸事項をある程度理解し、身体表現能力に向上が見られる)
- D 総合点が49点以下の者(基本的な諸事項の理解に欠け、身体表現能力に向上が見られない)

科目名 舞踊C(日舞)

授業形態 実技(GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 藤間 希穂

実務経験 一

期間 後期

他専攻 ○※

### 履修条件

- ①日舞I・IIを履修済み、同等のスキルがある、授業進行を遂行できるのいずれかに該当する方。
  - ②稽古着は浴衣を含む和服、足袋着用、舞踊扇子持参の上参加。
  - ③授業時間外も課題の稽古に取り組むこと。(目安:週2~3時間程度(個人差あり))
  - ④授業時間内は必ず時計・アクセサリーを外し、肩まで届く髪の長さがあれば必ず結ぶこと。
  - ⑤授業内に座学と実技があるが必ず両方参加のこと。
  - ⑥遅刻・欠席の場合は理由書を作成し必ず直接提出しにくること。
- ※他専攻学生が履修する場合は、芸術科演劇専攻科目「日本舞踊I」「日本舞踊II」を修得していること。

### 授業の概要

・古典芸能日本舞踊(藤間流)の実技・知識の習得及び創作の作成・発表。本科で学んだ古典舞踊の基本を元に、歌舞伎所作舞踊として広く知られている「汐汲」「越後獅子」全段学習する。難解な歌詞とハイレベルな振りに加え、三段傘や手桶、一本歯の下駄、晒、竹などの多彩な小道具を使いこなし情景描写・心理描写を描く。一方創作舞踊はテーマを決定し構想、音源作成、振付等学生自らが発表する専攻科オリジナルメニュー。本科で古典の基礎を学び古典の実力のある方対象のチャレンジメニューでもある。座学はより現場に則した舞台行儀や日本舞踊をより深耕する知識を学ぶ。

#### 曲目

- 立方(たちかた) 長唄「越後獅子」  
 女形(おんながた) 長唄「汐汲」  
 創作 テーマを決定し構想、音源作成、振付等学生自らが発表する

### 授業の到達目標

- ・座学を元にした筆記試験にて8割以上得点できる。
- ・実技では課題曲を舞台で発表できるスキルを身に付けることを目標とする。
- ・授業態度では「成果を生む」ことを前提とした行動ができる。
- ・コミュニケーションシートでは全体課題の抽出、課題解決提案を示すことができ、それを実行及び言語表現できる。

### 授業計画

1. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作テーマ設定
  2. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作テーマに基づく構成①
  3. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作テーマに基づく構成②
  4. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作テーマに基づく構成③
  5. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作音源選定
  6. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作音源編集
  7. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作振付①
  8. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作振付②
  9. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作振付③
  10. 座学/長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作振付④
  11. 長唄「汐汲」 「越後獅子」 振り写し/創作振付⑤
  12. 長唄「汐汲」 「越後獅子」 フォーメーション/創作フォーメーション①
  13. 長唄「汐汲」 「越後獅子」 フォーメーション/創作フォーメーション②
  14. 座学/プレテスト/長唄「汐汲」 「越後獅子」 リハーサル/創作リハーサル
  15. 座学テスト/長唄「汐汲」 「越後獅子」 本番/創作本番
- ※ハイブリッド型授業の場合  
 座学…オンライン又はオンデマンド授業  
 実技…教室の人数制限に合わせて人数を分割して進行

### 授業時間外の学習

- ・古典では決まった曲と振りの中でも産み字を工夫するなど稽古ashiデンティティーを確立する。
- ・創作ではテーマや振りや構成はもとより、お客様を楽しませるためエンターテイメント性を持てるように稽古する。
- ・個々の能力が集まることにより、一体感と説得力のある演目になるように稽古する。

### 教科書・参考書等

どちらも授業時間内に配布。

### 成績評価

出席・実技試験・授業態度(取組み)を総合して満点100点にて評価。(点数配分 出席:30点 実技試験40点 授業態度30点)

- S 100点~90点 A 89点~80点 B 79点~60点  
 C 59点~50点 D 49点以下



科目名 ミュージカル唱法(1)/(2)

授業形態 実技 (GL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 藍澤 幸頼

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

暗譜して授業に出席する。課題の練習に積極的に取り組む。最終段階において、衣装髪型なども含め、工夫をいとわない。遅刻厳禁(芝居の稽古同様)。

### 授業の概要

- ・オーディションや人々の前で、歌を披露することを前提にミュージカルナンバーを学ぶ。
- ・多数のミュージカルナンバーを聞いて、役で歌うことを意識し、解釈まで掘り下げる。
- ・自分自身のキャラクター・音域を意識し、役別オーディションにおいて適切な役を選定する知識を身に付ける。
- ・唱う基礎的な力(体の使い方・呼吸法・発声)を確認する。
- ・期末に発表会を実施し、実技試験とする。

### 授業の到達目標

自分にあった、ミュージカルのスタンダードナンバーを創り、いつでもオーディションなどに対応することができる。

### 授業計画

【(1)前期】

1. 自分で用意した、短い台詞/歌をひとりずつ披露する。
2. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する①
3. 台詞を言うことと唱うことの違いについて考え、批評する②
4. 体の使い方・呼吸法・発声を確認する
5. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する①
6. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する②
7. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する③
8. 各自が選んだ新曲を歌い、考え、批評する④
9. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する①
10. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する②
11. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する③
12. 各自が選んだ新曲を演技しながら唱い、考え、批評する④
13. 前期まとめと共にオーディション用紙の記入について学ぶ
14. 公開試験 ケネプロ
15. 公開試験

【(2)後期】

1. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する①
2. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する②

3. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する③
4. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する④
5. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する⑤
6. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する⑥
7. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する⑦
8. 各自が選んだ新曲(デュエット、グループを含む)を演技しながら唱い、考え、批評する⑧
9. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ①
10. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ②
11. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ③
12. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ④
13. 各自の歌をつなげてひとつのショーを創りあげることが目標に、ステージングを含めた表現を学ぶ⑤
14. 公開試験 ケネプロ
15. 公開試験

※講義内容に関しては、学生個々に応じた教材を与えるため、学習速度は必ずしも授業計画に沿った学習速度とは限らず、また内容を変更する可能性もある。

### 授業時間外の学習

暗譜 映画・舞台・CD・DVDなどできるだけ音楽に触れる。

### 教科書・参考書等

- ・譜面は自分で用意(応相談)
- ・Richard Walters「THE SINGER'S MUSICAL THEATRE ANTHOLOGY」(HAL・LEONARD)

### 成績評価

授業への取り組み・態度(積極性、事前準備など)50%、実技試験50%を元に総合的に評価する。

- S 90点以上 A 80点以上 B 60点以上  
C 50点以上 D 49点以下

科目名 英語劇(1)/(2)

授業形態 演習 (理論)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1・1

担当教員 James Sutherland

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

Welcome to the English Theatre course. Here we look at techniques and approaches to theatre making used in contemporary Europe and increase our knowledge English language ability. Punctuality is important, please arrive before class starts, black loose fitting clothing is recommended, we will also be working with no shoes and socks.

### 授業の概要

This workshop proposes a journey through major styles of European theatre and the discovery of their specific dynamic and richness. At the heart of the process is the pleasure of play and the freedom of the actor to discover his or her own beauty.

前期:ギリシャ悲劇

Students will be working both individually and in groups to explore movement analysis, the language of movement and the work of the Neutral mask, a tool that helps to serve as a point of departure into any character and helps to make actors authors of space. Actors will also be working with Tragic texts and performing them in small groups. We will also take a brief look at comedy, through clowning. Every session we will start working with the physical training. There will be a moment every session for the participants to work on their own and there will be a presentation of the result of their work.

後期:シェイクスピア

We will explore the Biomechanical work of Russian Theatre director Vsevolod Meyerhold alongside Shakespeare, stage combat and fight scenes. We will look at the 20 movements of Jacques Lecoq and modern film and theatre scenes studies. The course is designed to stimulate curiosity and pose questions. It aims to show how to achieve the progression from small improvisations, games, and exercises to tackling larger topics, themes and improvisations.

### 授業の到達目標

1. Learning theatre vocabulary in English
2. Learning how to use the voice and body to increase expressivity
3. Learning more about history and context of actor training in Europe in English

### 授業計画

(前期)

1. Games Intro exercises
2. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. / Actor and Text 1
3. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. / Actor and Text 2
4. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. / Actor and Text 3
5. Games Scene work, movement qualities, text work. / Actor and Text 4
6. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. / Actor and Text 5
7. Games Neutral Mask, movement qualities, text work. / Actor and Text 6
8. Performance/presentation The Journey
9. Clown exercises intro
10. Clown Scene work words, rhythm and architecture/ Actor and Text 7

11. Clown Scene work Time: literal time and sensual time/ Actor and Text 8
12. Clown Scene work Exercises to reveal literal time.
13. Clown Scene work Understanding characters and references
14. Clown Scene work Seeming and being/Tension
15. Clown Scene work: Tension Performance/presentation MONOLOGUE DUE (後期)

1. Intro exercises: Imagination and collective investigation.
2. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
3. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
4. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
5. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
6. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
7. SCENE WORK/ STAGE COMBAT. BIOMECHANICS.
8. Scene work/ Stage Combat Presentation
9. Biomechanics, 20 movements
10. Biomechanics, 20 movements
11. Biomechanics, 20 movements
12. BIOMECHANICS PRESENTATION
13. 20 movements
14. 20 movements
15. 20 movements Performance/Presentation. MONOLOGUE DUE

### 授業時間外の学習

Students practice in groups outside of class and memorize own work individually

### 教科書・参考書等

The teacher provides all the material.

### 成績評価

(前期)

- Participation 30%  
Journey Presentation 20%  
Clown work 20%  
Monologue 30%  
(後期)  
Participation 25%  
Stage Combat 30%  
Biomechanics and 20 Movements 20%  
Monologue 25%

- S +90 A +80 B +60 C +50 D below 49

科目名 歌唱（個人レッスン）I～P

授業形態 実技 (PL)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2/1

担当教員 各担当教員

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

講師と1対1の個人レッスン。声や歌に対して興味のある者、成長したいという意欲のある者。

### 授業の概要

個人レッスンのためその担当の講師により細かい内容は異なるが、声や歌の向上に繋がるレッスンを重ねる。

### 授業の到達目標

- ・音程や発音を正しく、身体を使って発声できる。
- ・表現者として感動を与える表現を伴った歌を歌うことができる

### 授業計画

各講師に委ねられるが声や歌に関することを学ぶ。身体の使い方から声の出し方、声のケアの仕方、歌の表現法などを学びながら最後の個人歌唱の試験を迎える。

### 授業時間外の学習

毎日の練習。曲への理解。他の音源を聴いて学ぶ。沢山の情報を得てその曲を深めていく。

### 教科書・参考書等

担当学生に合うと思われる各講師の用意した曲、あるいは学生が用意した曲を講師と相談して使用。

### 成績評価

学期末に個人レッスン担当の講師が揃った中、一人で披露し、講師全員で得点をつけた後、その平均で評価する。

- S 講師の平均が90点以上
- A 講師の平均が80点以上
- B 講師の平均が60点以上
- C 講師の平均が50点以上
- D 講師の平均が49点以下

科目名 劇上演実習A

授業形態 実習 (上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年  
(ただし、自主上演は2年のみ)

単位数 4

担当教員 ペーター・ゲスナー／三浦 剛・田中 壮太郎

実務経験 ー/一・〇

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。  
自主上演の場合、劇作、演出、キャスト、スタッフとして、一本の作品を完全上演し、演劇制作の能力を向上させていく。  
授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。  
スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

- 以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。
- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者
  - A 総合点が80点以上の者
  - B 総合点が60点以上の者
  - C 総合点が50点以上の者
  - D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習 B ①

授業形態 実習  
(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 未定

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②

8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習 B ②

授業形態 実習  
(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 未定

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②
6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②

8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み ②課題の成果 ③表現者としての真摯な姿勢  
④自らを研鑽する意欲 ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者



科目名 劇上演実習 C(専1最終公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1年

単位数 4

担当教員 田中 壮太郎

実務経験

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

なおこの公演は、調布市せんがわ劇場において調布市の指定事業として行われるものである。そのことを十分に理解し、さまざまな事情にも十分配慮した進捗に貢献することが求められる。学内での劇上演よりも尚一層の努力と意識の向上を目指す。

この実習では、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

公開にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術の方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術の方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習 D(修了公演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻2年

単位数 4

担当教員 田中 壮太郎

実務経験

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

40日間にわたる稽古・本番の全日程に参加すること。欠席・遅刻・早退は一切認めない。スタッフワークを含め、集団のチームワークを重んじること。専攻科修了に必要な単位数を確保した学生のみ受講することができる。

### 授業の概要

プロの演出家の指導の下、一本の作品を完全上演し、演技者としての能力を向上させていく。

授業計画の準備上、履修登録の時期以前に出演するかどうか、学生の意思を確認することがある。その意思が確認されたあとで出演を取り下げることは学生、スタッフ、演出家を含む座組み全体に重大な迷惑をかけることになるので、できない。さらに、履修登録後の登録や取り消しは認められないので注意すること。

なおこの公演は、調布市せんがわ劇場において調布市の指定事業として行われるものである。そのことを十分に理解し、さまざまな事情にも十分配慮した進捗に貢献することが求められる。学内での劇上演よりも尚一層の努力と意識の向上を目指す。

この実習では、修了後演劇活動に従事することを想定し、チケット販売等を通じて、観客を集めることの大切さも学んでいく。

スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を負担し、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

### 授業の到達目標

修了公演にふさわしい完成度の高い上演作品を上演することができる。

### 授業計画

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行する。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術の方針の共有①
5. 上演のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術の方針の共有②
6. 立ち稽古①

7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み
11. 舞台稽古①
12. 舞台稽古②
13. 舞台稽古③
14. 本番
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する  
作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにか合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に出された批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

稽古開始までに台本配布。必要に応じて指示する。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ①授業の取組み
  - ②課題の成果
  - ③表現者としての真摯な姿勢
  - ④自らを研鑽する意欲
  - ⑤心身の健康管理
- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者



科目名 劇上演実習E / F (学外出演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 4

担当教員 三浦 剛 他

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合にのみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任をもって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生とは例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないの、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

### 授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。さまざまな現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①

5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
14. 本番 あるいは撮影
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に与えられた批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ① 授業の取組み
- ② 課題の成果
- ③ 表現者としての真摯な姿勢
- ④ 自らを研鑽する意欲
- ⑤ 心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 劇上演実習G / H (学内出演)

授業形態 実習(上演)

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 1

担当教員 三浦 剛

実務経験 ー

期間 集中

他専攻 /

### 履修条件

履修登録時に企画書・印刷物(チラシ等)、企画の内容が十分伝わる資料を提示すること。専攻会議の審議を経て履修を認める。

### 授業の概要

プロの公演、映画等への主役・準主役での出演。ただし、学内の劇上演実習での40日間の稽古時間と同等の学習の意義の認められる上演内容であり、同等の稽古環境であり、同等の学習成果が認められる場合にのみ単位認定は可能。スタッフのみの参加でも例外的に単位を認定することがあるので、事前に専攻主任に確認すること。スタッフとして単位認定するにふさわしい時間と質を担い、パフォーマンスの完成度をあげることに貢献した場合のみ、単位が認められる。

稽古日程が他の学校行事、授業や試験の準備と重なると負担が重くなる。要求にこたえることができなくなる場合は、どちらの集団、座組みにも迷惑をかけてしまうことになるので、自己のスケジュールは責任をもって管理すること。安易な参加はむしろ控えること。

学業を進めることが損なわれるような現場の日程、要求がされることがないか、事前に十分確認すること。学外出演する学生の単位認定や扱いを、他の学生とは例外扱いしたり、特別優遇するようなことはないの、重々どのような条件の参加になるのか事前に確認して臨むこと。

### 授業の到達目標

プロの公演、映画等に通用する実践力を養う。さまざまな現場のスタッフ、共演者、関係者との共同作業を通して、協調し、協力する態度を可能にする表現力や日常的な心構え、表現者としての高い意識を獲得する。座組の一員としての強いプレッシャーに耐える中で、必要な技能、心構え、現場での対応力を獲得することができる。

### 授業計画

一流の演出家・俳優等との仕事を通じ、プロとしての意識を養い、現場に通用する演技力を身につける。担当教員に研修状況を定期的に報告し、最終的な研修成果を提示する。

実習のプロセスは作品および演出家の方針によるが、おおむね以下の流れに沿って進行するであろう。

1. 本読み①
2. 本読み②
3. 本読み③
4. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有①

5. 上演・撮影のために必要なスタッフワークの役割分担、芸術的方針の共有②

6. 立ち稽古①
7. 立ち稽古②
8. 立ち稽古③
9. 立ち稽古④
10. 舞台の仮組み あるいは撮影セット内でのリハーサル
11. 舞台稽古① あるいはリハーサル①
12. 舞台稽古② あるいはリハーサル②
13. 舞台稽古③ あるいはリハーサル③
14. 本番 あるいは撮影
15. 創作プロセスを振り返って、次の目標を獲得する

作品の理解、演出意図の把握に努め、主体的な姿勢で稽古に臨むことが求められる。

### 授業時間外の学習

様々なミーティングを行うたびに、次の準備の動きを指示し、あるいは話し合うので、毎回、ミーティングでなにが合意されたか、記録を書き、内容を復習すること。また、ミーティングでは合意に達せず話し合いが継続される項目もあるので、その内容について自ら案を次回のミーティングで発表できるように事前準備をすること。毎回指示された内容について稽古や作業を行い、指導者にその成果を提示すること。実習中に与えられた批評、指導された具体的なだめだしを毎回、事後に検討し、意味を理解し、改善すること。稽古や準備の段階が進むにつれ着実に完成度を高めるように自覚的に臨むこと。

### 教科書・参考書等

なし。

### 成績評価

以下の項目につき1項目20点満点とし、総合的に評価する。

- ① 授業の取組み
- ② 課題の成果
- ③ 表現者としての真摯な姿勢
- ④ 自らを研鑽する意欲
- ⑤ 心身の健康管理

- S 総合点が90点以上の者  
A 総合点が80点以上の者  
B 総合点が60点以上の者  
C 総合点が50点以上の者  
D 総合点が49点以下の者

科目名 修了論文(1)/(2)

授業形態 講義

対象 専攻科演劇専攻1・2年

単位数 2・2

担当教員 高橋 宏幸

実務経験 ー

期間 前期・後期

他専攻 /

### 履修条件

専攻科1年次より修了論文を書きたいものは受講、ないし相談すること。

### 授業の概要

修了論文を提出するための授業となるので、毎週一度、話し合っ  
てテーマなどを決めて、2年間の指導を受けながら論文を書き、  
提出するものである。平常の授業ではないので、週に一度各自の  
時間を決めて、個別に相談をして提出する。修了論文要綱は、  
後日掲示されるものに沿って書くこと。

修了論文の提出締切は12月末、口答試問は翌年2月上旬を予  
定している。なお、修了論文にて学位申請を考えている学生は別  
途、提出締切、口答試問の日程を担当教員に確認すること。

### 授業の到達目標

4年間の成果として、一つの論文によって深く洞察された研究  
テーマを基とした論文を書くことができる。今後の社会生活にお  
ける内省や活動をする際の礎となるものとして、または演劇活動  
をするための試金石となるものを期待する。

### 授業計画

1. テーマについて
2. テーマとは何か
3. 批評的視点としてのテーマ
4. 書き出してみる
5. 第一章①
6. 第一章②

7. 第一章③
8. 第二章
9. 第三章①
10. 第三章②
11. 第三章③
12. 参考文献
13. 注のつけ方
14. まとめ①
15. まとめ②

### 授業時間外の学習

毎週、少しずつ必ず書いていくことが求められる。

### 教科書・参考書等

とくにない。それぞれのテーマにあわせて適時推薦する文献を  
読む。

### 成績評価

卒業論文の評価100%で100点に換算

- S 総合点が90点以上の者  
(基本的な諸事項を十分に把握し、説明ができる)
- A 総合点が80点以上の者  
(基本的な諸事項をほぼ把握し、説明ができる)
- B 総合点が60点以上の者  
(基本的な諸事項の理解に欠け、説明があいまいになる)
- C 総合点が50点以上の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明をあまりしていない)
- D 総合点が49点以下の者  
(基本的な諸事項を理解せず、説明ができない)

*Toho Gakuen College of Drama and Music*

## 教職科目

科目名 音楽科教育法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 伊藤 誠

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

教材研究を通して、音楽科教師になるための指導力・実践力を養うとともに、「表現」と「鑑賞」の両領域の関連性と、指導に生かす評価を充実させることの重要性について、いろいろな角度から学ぶ。

### 授業の到達目標

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業のあり方について理解できる。
- 2 音楽科における「音楽的な見方・考え方」について自分自身の考えをもつことができる。
- 3 自らの音楽的知識・経験をベースに、教育者にとって必要な実践力やコミュニケーション力を身に付けることができる。

### 授業計画

1. 中等教育における音楽科が担うべき役割
2. [共通事項] を生かした教材研究
3. 学習指導計画①中学校教科書の分析を通して
4. 学習指導計画②学習指導案について
5. 歌唱指導における教材研究
6. 器楽教育の実践と指導<リコーダーについて>
7. 鑑賞指導の留意点～教材研究(その1)
8. 鑑賞指導の留意点～教材研究(その2)
9. 創作指導の実際<コード進行を踏まえて>
10. 弦楽器を体験しよう①音の出る仕組み
11. 弦楽器を体験しよう②ヴァイオリンの歴史
12. 弦楽器を体験しよう③アンサンブルの楽しみ
13. わが国の音楽教育史～学習指導要領の歴史的変遷を辿る
14. 日本の伝統音楽の特徴～西洋音楽との相違点から考える

15. まとめと振り返り<自己評価により学習到達度を確認する>

### 授業時間外の学習

- 1 与えられた課題の予習を行うこと。
- 2 毎回、前時の振り返りをもとに本時の見通しをもつ授業を行うため、復習を心がけること。

### 教科書・参考書等

- 以下の7冊を必ず購入すること。
- ・中等科音楽教育研究会編『改訂版 最新中等科音楽教育法』音楽之友社
  - ・中学校音楽の教科書(以下3冊ずつ=計6冊)  
中学生の音楽(1/2・3上/2・3下)教育芸術社  
音楽のおくりもの(1/2・3上/2・3下)教育出版

### 成績評価

授業への積極的姿勢40%、模擬授業30%、レポート30%、それぞれの配分から評価する。

- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分理解し、課題への取り組みも的確かつ秀でた者)
- A 総合点が80点以上の者(授業内容を理解し、課題への取り組みも的確だった者)
- B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、及び課題の取り組みが良好だった者)
- C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、及び課題の取り組みが不十分だった者)
- D 総合点が49点以下の者(受講態度に問題がある者、かつレポートが未提出だった者)

科目名 教育史概説

授業形態 講義

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 宮城 哲

実務経験 一

期間 前期

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

広義には、人類の歴史とともに古いともいえる「教育」という営為について、その理念や制度などの歴史的な変化を概観し、教育について歴史的に考える上で必要な基礎的知識を得ることをめざす。

具体的には西洋と日本の近代以降の教育の流れを中心に(近代以前の教育も簡単に確認する【授業計画】2)、それらの理念や制度の変化を歴史的に概観し(【授業計画】3～9)、また、現代的な課題についても、その歴史的な経緯をふまえながら考えてもらう(【授業計画】10～14)。視聴覚資料をはじめさまざまな史・資料などにふれ、教育を具体的に考える基礎的な知識を身につける。

### 授業の到達目標

授業で扱った史・資料などを理解し、教育史についての基礎的知識・教育の基本的概念を習得し、その知識を活かして現代の教育の課題を考えるうえで役立てることができるようになること。

### 授業計画

1. はじめに：教師(教職)の社会史から
2. 近代以前の教育：西洋と日本
3. 近代の教育の理念：子どもの発見(ルソー『エミール』など)
4. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ①西洋(産業革命から子どもの世紀へ)
5. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ②日本①(福澤諭吉『西洋事情』と学制)
6. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ③日本②(教育勅語体制の成立と展開)
7. 近代学校の成立と義務教育の普及・拡大へ④日本③(大正デモクラシー～戦時下の学校・教育)
8. 戦後の教育改革の理念と制度
9. 経済成長と教育～現代の教育へ
10. 現代の教育とその課題①不登校
11. 現代の教育とその課題②学力
12. 現代の教育とその課題③いじめ

13. 現代の教育とその課題④体罰
14. 現代の教育とその課題⑤共生(シティズンシップ教育)
15. まとめ：卒業式ソングの今・昔から

### 授業時間外の学習

授業で資料などを配布し、あわせて参考文献等も提示するので、それらを参考にそれぞれのテーマに関する文献を授業後に読むことを期待する。私たちは過去のことを知るためだけでなく、現代の教育の課題について深く考えるためにも教育史を学ぶ。そのため授業外の時間にも、常に教育にかかわることに関心をもってもらいたい。ニュースや新聞など時事的な話題や映画や文学作品などのなかにあられる「教育」にも普段から関心を向けること。

### 教科書・参考書等

- [教科書] 特になし(授業でレジュメ、資料などを配布する)。
- [参考書]
- ・森川輝紀・小玉重夫編『教育史入門』放送大学教育振興会、2012年
  - ・斉藤利彦・佐藤学編『新版 近現代教育史』学文社、2016年
  - ・片桐芳雄・木村元編『教育から見る日本の社会と歴史(第2版)』八千代出版、2017年
  - ・岩下誠ほか『問いからはじめる教育史』有斐閣、2020年

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み(40%)・学期末課題(60%)の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが優れかつ秀でた者)。
- A 総合点が80点以上の者(講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが優れた者)。
- B 総合点が60点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みがほぼ良好だった者)。
- C 総合点が50点以上の者(講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。
- D 総合点が49点以下の者(講義内容を理解しなかった者、学期末課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)



科目名 教師論

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 風見 章

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

- ・学校で日常的に行われている具体的な職務活動を、教育関連法規の視点で見ることを通して、どのような課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
- ・学校現場における今日の課題への対応についてはグループワークにおける協働的な学びを行う。また、そこから得られた対話的な学びを通して学習効果の伸長を図る。
- ・教育者としての資質をどのように高めるか職務内容を学び、理想とする教師像に迫るために、教えることの意味と実務について事例をもとに学習する。

### 授業の到達目標

1. 教師の意義……我が国における現在の学校教育や教師の社会的意義を理解することができる。
2. 教師の役割……教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。
3. 教員の職務内容……教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解することができる。
4. チーム学校への対応……学校が担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家や関係機関と連携・役割分担を行う必要性について理解することができる。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 公教育の目標と教員の存在意義（教育に対する使命感と豊かな人間性）
3. 教師の資格と教員養成について理解する
4. 学校と教職の歴史 学校教育と教職の歴史を理解する。
5. 教員に求められる資質能力について①今日の教員に求められる基礎的な資質能力について理解する。
6. 教師の教育活動①授業とは。教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。
7. 教師の教育活動②学級担任として 学級担任と学級経営。学級集団作りについての理解。

8. 学校組織と教師の種類 学校に必要な教員の役職と職務についての理解。学校運営と校務分掌。
9. 教師に求められる資質能力について②教師としての資質向上と研修。教員研修の意義と研修体制。
10. 教師に求められる資質能力について③近代学校の誕生と教員養成制度の変遷とその特徴を理解する。
11. 教師の服務義務について①公立学校教員の服務義務を理解する。
12. 教師の服務義務について②地方公務員法等に定められる「職務上の義務」を理解する。
13. 教師の服務義務について③地方公務員法等に定められる「身分上の義務」を理解する。
14. ○チーム学校への対応 ○教育実習までに身に付けておくべきこと
15. 教師への進路 教員採用制度の理解。まとめと振り返り

### 授業時間外の学習

毎時の授業の予習・復習を行うことによって授業内容の理解を深める。

### 教科書・参考書等

【テキスト】東京都教職課程学生ハンドブック（東京都教育委員会編）第1回授業で配布する。  
【参考書】適宜資料を配布する。

### 成績評価

レポート70%、授業中の発表20%、授業後のリフレクションペーパー

- 10%
- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）

科目名 教育原理

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 木村 康彦

実務経験 一

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

本授業は、公教育の理念、原理、歴史及び現行制度の枠組みを軸として踏まえながら、現代社会で教育が果たしている役割を考察するために必要な基礎的な理解を得ることを目的とするものである。「公教育や学校とは何か」という根源的な問いに始まり、現在も進められている様々な教育改革、不登校やいじめなどの深刻な教育課題、学校教育以外の幅広い教育機会の方向性、地域社会などとの連携・協働や学校安全対応について、社会的・制度的側面から取り上げながら、考察を深めていく。特に、現代の社会変動がもたらしている複雑な教育課題については、具体的な政策や取り組み事例を参照しながら検討する。

なお、授業は基本的に講義形式で進めていくが、コメントシートを毎回配付して小レポートを課し、授業の理解度を確認するとともに、受講者と担当教員との間で双方向的にやり取りをしながら、授業を作り上げていく。また、授業中に数回程度、映像資料を活用する。

### 授業の到達目標

学校教育の専門家として必要な知識と教養を総合的に身につけ、教育と関わる事象を客観的に自らの力で判断することができるようになること。また、地域社会との連携や学校安全対応を含めた公教育をめぐる様々な教育課題を理解して、社会的・制度的側面から自分なりの答えを理論的に導き出せること。

### 授業計画

1. オリエンテーション 公教育の原理と思想背景
2. 学校の歴史①近代の学校とその理念
3. 学校の歴史②近代公教育制度の成立と意義
4. 学校の歴史③学校教育制度の確立と戦後教育改革
5. 教育法規と教育行財政 教育法体系と中央・地方教育行政の仕組み
6. 教育課程と教育評価 学習指導要領の変遷/成績評価と学

校評価

7. 諸外国の教育制度と教育改革 各国の教育制度と国際学力試験
8. 現代社会の教育課題 不登校/いじめ/校内暴力
9. 社会変動と教育 選抜と競争/子どもたちの貧困
10. 生徒理解と教育支援 特別支援教育/発達障害/性的マイノリティーへの対応
11. 学校外の教育活動 フリースクール/生涯学習/社会教育/家庭学習など
12. 教育ガバナンスの動態 地域社会やNPO法人などとの連携・協働と開かれた学校づくり
13. 学校運営と学級経営 校務分掌と校則/懲戒/体罰
14. 学校安全と危機管理 学校事故と災害対策に向けた安全教育
15. これからの教育 まとめ

### 授業時間外の学習

普段から、「教育」や「学校」に関する新聞記事やニュースに触れておくこと。授業内に、関心のある最新の教育動向を話題として取り上げてもらう場合もある。また、参考書や授業内で配布したプリントを見返して、復習に努めること。

### 教科書・参考書等

教科書：特に指定しない。必要に応じて、資料をプリントで配布する。

参考書：汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治（編著）『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。  
島田和幸・高宮正貴（編著）『教育原理』ミネルヴァ書房、2018年。

### 成績評価

授業中の取り組み(20点)、小レポート(30点)、期末レポート(50点)で点数化し、S(90点以上)、A(80～89点)、B(60～79点)、C(50～59点)、D(50点未満)の5段階で評価する。ただし、正当な理由なく出席日数が授業時数の3分の2に満たない場合は、評価の対象としない。

科目名 教育心理学

授業形態 講義

対象 教職 2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 鈴木 敦子

実務経験 ー

期間 前期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

子ども、生徒に何かを教える際、教える側は「教えた」のだからそれが正しく相手に伝わっているはずだと思いがちになる。相手が教えたことをできないのは相手がちゃんと聞いていなかったか、理解する努力が足りなかったためだと主張したくなる。しかし、実は教える側と教えられる側の間にはそれぞれの常識では考えられないような理解がなされている。「教える」ことは教える内容が充実してさえすればいいわけではなく、相手の理解プロセスも考慮する必要がある。本授業ではこの点を踏まえ、心理学的に探究する。

### 授業の到達目標

中等教育まで受けてきた授業で、自分が理解しやすかったもの、あるいは理解しにくかったもの、それがなぜなのか説明する手がかりがつかむことができる。

いくらかでもその「謎」が分かれば教える立場に立つとき自信が持てると考える。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 発達①生得性と学習 赤ちゃんDVD
2. 発達②生得性と学習
3. 発達③ピアジェの発達課題
4. 発達④誤信念課題
5. 教授①何が学習か

6. 教授②計算のバグ
8. 教授③文章問題のバグ
9. 教授④見ればわかるか
10. 教授⑤見ればできるか
11. 教授⑥情報処理アプローチ 地球は丸い？
12. 発達障害①読字障害
13. 発達障害②自閉症スペクトラム児の学習
14. 発達障害③自閉症スペクトラムの世界
15. 授業の総括

### 授業時間外の学習

新聞等で「授業」「学習」「心理」などの項目を注意深く読むこと。

### 教科書・参考書等

授業時にその都度プリント等を配布する。

### 成績評価

授業への取組み・受講態度50%、試験・レポート50%。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、試験未受験者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 特別支援教育入門

授業形態 講義

対象 教職 1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 桑山 一也

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

本授業では、特別支援教育の基礎を習得し、教育現場において特別なニーズを有する生徒に遭遇した時に、適切に対応できるようになることを目標とし、講義を実施する。具体的には、特別支援教育の意義と歴史等（第1.2回）、対象者別の教育の理解と支援（第3～13回）、通常の教育場面での配慮と支援（第14.15回）について学んでいく。

### 授業の到達目標

障害等の理由により特別の支援を必要とする生徒の学習上又は生活上の困難を理解できる。

個別の教育的ニーズに応じて、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に支援する方法が理解できる。

上記の理解を踏まえ、教育者として自らの在り方を考察できる。

### 授業計画

1. ガイダンス 特別支援教育の意義
2. 特別支援教育の歴史 インクルーシブ教育システム
3. 視覚障害教育の理解と支援
4. 社会との接点（全国盲学校弁論大会）
5. 聴覚障害教育の理解と支援
6. 知的障害教育の理解と支援
7. 肢体不自由教育の理解と支援
8. 病弱教育の理解と支援
9. 重複障害教育の理解と支援
10. 言語障害教育の理解と支援
11. 自閉症・情緒障害教育の理解と支援
12. 学習障害・注意欠陥多動性障害の理解と支援

13. 発達障害教育のまとめ 社会との接点
14. 通常の学級における特別支援教育 障害はないが配慮が必要な教育
15. 学習到達度の確認

### 授業時間外の学習

教科書及び参考図書等の該当箇所について予習をしておくこと。

### 教科書・参考書等

- ・教科書 宮崎英憲 監修 全国特別支援学校長会 編著 「特別支援教育のすべてがわかる『教員を目指すあなたへ』」（ジアース教育新社）
- ・参考書 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 「障害のある子供の教育支援の手引き—子供達一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて—」（ホームページ参照）

### 成績評価

受講態度（20%）と授業内試験の結果（80%）を合わせて総合点を算出する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、教育者としての自らの在り方を的確に考察できている者）
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- B 総合点が60点以上の者（授業内容を一定以上理解し、教育者としての自らの在り方を検討できている者）
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、考察が不十分である者）
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を十分に理解、考察が著しく不十分である者）

科目名 教育課程論及び教育方法論

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 風見 章

実務経験 ー

期間 前期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

- 学校教育の目的・目標・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、「教育課程」の役割・機能・意義について学ぶ。
- 学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や受容性について学ぶ。
- 学習指導要領に示された内容について理解を深め、実践的指導能力を身につけることを主題とする。

### 授業の到達目標

1. 教育課程の基本概念・意義や教育課程編成に関する法制度などについて説明できる。
2. 戦後の学習指導要領の改訂を時代の変化と照らし合わせて説明できる。
3. 教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
4. 求められる資質・能力をはぐくむための教育の方法、技術、情報メディアと教材の活用ができる。
5. 教育の目的・目標、学力観の形成など、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

### 授業計画

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 教育課程に関する法律について
3. 学習指導要領①学習指導要領の変遷と教育課程について
4. 学習指導要領②改訂の基本方針と教育課程編成上の一般方針について
5. 学習指導要領③内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6. 教育課程の編成①教育委員会と教育課程編成について
7. 教育課程の編成②学校教育目標と教育課程全体計画
8. 教育課程の編成③年間指導計画と学校行事計画について

9. 教育課程の実施と改善①学習指導と指導法の工夫(生きる力、主体的対話的で深い学びの視点から)
10. 教育課程の実施と改善②学習評価と指導要録
11. 教育課程の実施と改善③教育課程の評価と様々な学校評価
12. 教育課程実施上の諸課題①生徒指導上の課題とその対応
13. 教育課程実施上の諸課題②特別な配慮が必要な生徒の対応と保護者との連携
14. 教育課程実施上の諸課題③学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15. 教育課程と教育方法及び教育技術並びに情報機器の活用や教材についてのまとめと定期試験

### 授業時間外の学習

毎時の授業の復習・予習を行うことによって授業内容の理解を深める。

### 教科書・参考書等

【テキスト】 中学校学習指導要領解説 総別編(平成30年文部科学省)  
 【参考書】 適宜資料を配布する。

### 成績評価

- 授業内テスト70%、プレゼンテーション10%、小テスト10%、リフレクシオンペーパー 10%
- S 総合点が90点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者)。  
 A 総合点が80点以上の者(授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者)。  
 B 総合点が60点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者)。  
 C 総合点が50点以上の者(授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者)。  
 D 総合点が49点以下の者(授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受講者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者)。

科目名 道徳教育の理論と方法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 風見 章

実務経験 ー

期間 後期集中

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程履修者必修。

### 授業の概要

現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題(いじめ・情報モラル)解決に向けて、講義形式の理論的な授業のみならず、グループワークや指導資料の作成という演習的など具体的な活動を取り入れた実践的な授業を実施する。また、「特別の教科道徳」の授業力育成をめざし、学習指導案の作成、模擬授業を行う。

### 授業の到達目標

- 「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
- 生徒の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
- 道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が実施できる。

### 授業計画

1. 講義の概要と進め方。教育関連法規(教育基本法、学校教育法、学習指導要領等)と道徳の関連について
2. 学習指導要領「特別の教科道徳」編による道徳教育の意義と重要性
3. 現在の道徳教育の現状と課題を考える(公立中学校の実態と課題)
4. 「特別の教科道徳」の役割と年間指導計画および指導の基本方針と学習指導過程について
5. ○「特別の教科道徳」における効果的な教材の活用と役割について  
○学習指導案の内容と多様な指導法について(主体的対話

- 的で深い学びの視点)
6. 「特別の教科道徳」の学習指導案(生徒の実態と指導の方向性および学習指導過程)の作成
  7. 模擬授業実践における視点と授業評価について
  8. 「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育について、授業のまとめ

### 授業時間外の学習

「道徳性」は日常生活におけるすべての場面で心がけていなくてはならない。そこで社会で起こる事実や発生する事象に対する視野・視点をもち常に「道徳的な考え」を保持する。また道徳教材として活用できるか、という視点をもって身のまわりの情報を見るようにする。

### 教科書・参考書等

文部科学省『中学校学習指導要領解説―特別の教科道徳編一』(平成29年告示)  
 その他の資料は授業で配布するものを使用する。

### 成績評価

- 各回の講義への取り組み100%にて評価する。
- S 以下のAの観点全てにおいて際だった成果を見せる。  
 A 講義内容に対する自己の考えを積極的かつ意欲的に表現できる姿勢が見られる。各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している。  
 B 授業への理解を示す姿勢が見られるとともに、講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している。  
 C 各回の講義への取り組みが充実し、その内容を正確に理解している。  
 D 上記の条件を満たしていない。



科目名 総合的な学習の時間の指導法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 風見 章

実務経験 一

期間 前期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

1. 総合的な学習の時間の目標や年間指導計画作成の考え方、単元計画の作成等について、グループで検討しながら理解を深めていく。
2. グループごとに単元計画を作成し、主体的・対話的で深い学びが実現できる探求的な学習の指導と評価の在り方を身に付けるようにする。

### 授業の到達目標

1. 当該科目の目標及び内容
  - (1) 総合的な学習の時間の意義や各学校において目標を定める際の考え方を理解することができる。
  - (2) 総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けることができる。
  - (3) 総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。
2. 当該科目の指導方法と授業設計
  - (1) 総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割、育成する資質能力等をテキストや具体的事例を基にして理解できるようにする。
  - (2) 他教科等との関連を図った年間指導計画作成の考え方や主体的・対話的で深い学びの実現を図る探求的な学習の進め方について、具体的な事例を通して検討し、理解できるようにする。
  - (3) グループごとの単元計画の作成・考察を通して、指導と評価の考え方を身に付けるようにする。

### 授業計画

1. ガイダンス（本講座の目標や内容、授業の進め方や評価の仕方などについて）
2. 総合的な学習の時間の意義や目標設定の考え方を理解する。
3. 各学校で目標及び内容を定める際の留意点を理解する。
4. 各教科等との関連を図った年間指導計画の具体的事例を検討する。
5. 各教科等との関連を図った年間指導計画の作成の考え方を理解する。
6. 主体的・対話的で深い学びを実現するような、単元計画の事例を検討する。

7. 単元計画作成の考え方や配慮事項を理解する。
  8. 主体的・対話的で深い学びを実現する探求的な学習過程を検討する。
  9. 具体例を基にして探求的な学習の指導のポイントを理解する。
  10. 総合的な学習の時間の指導と評価の基本的な考え方を検討する。
  11. 評価規準の設定と評価方法の工夫を検討する。
  12. グループごとに単元計画を検討し作成する。
  13. グループが作成した単元計画の発表と考察①
  14. グループが作成した単元計画の発表と考察②
  15. 本講座のまとめと振り返り
- 定期試験

### 授業時間外の学習

毎時の授業内容を復習・予習することによって、内容の理解を深める。グループで作成する単元指導計画について主体的・対話的に協議し、内容の理解を深め、深い学びができるようにする。

### 教科書・参考書等

【テキスト】 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成30年3月 文部科学省）

【参考書】 授業中に適宜資料を配布する。

### 成績評価

定期試験（70%）、単元計画の作成・発表（30%）

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、学期末試験未受験者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 特別活動の指導法

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 真野 彰

実務経験 一

期間 後期集中

他専攻 /

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

中学・高校のカリキュラムは、教科活動と教科外活動とから構成されている。ここで言う特別活動とは、主として教科外活動を指している。具体的には、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の3つで、部活動についても触れる。

教師は、多分に自分が学生時代どのような経験を積んできたか、ということがベースとなって生徒に接している。つまり特別活動を指導するに当たっては、自分が中高時代にいかに真剣に上記のような活動に取り組んだかが重要である。

43年間、中高の現場で教鞭をとってきた私の、つたない経験をもとに、みなさんとともに特別活動の重要性について考えてみたいと思う。

### 授業の到達目標

中高生たちが「生きる力」を身につけていくために特別活動がいかに重要であるかを、これから教師を目指すにあたり認識できる。

### 授業計画

1. 特別活動とは、学習指導要領の変遷
2. ホームルーム活動の進め方、クレーム対応
3. 生徒会活動と校則、部活動への関わり方（体罰についても扱う）、学校行事の考え方
4. 特別活動の評価
5. 教師論、特別活動の位置づけ

### 授業時間外の学習

受講までに、教育に関する新書や新聞記事に積極的に触れて、自分の考える視点を養っておいてほしい。

### 教科書・参考書等

授業時にプリント資料を配付。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み30%、レポート70%の結果を総合的に判断して行う。

- S 総合点が90点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（講義内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（講義内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（講義内容を理解しなかった者、課題未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。



科目名 ICT活用による教育の方法・技術

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 1

キャップ制  
対象外

担当教員 狩野 浩二

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

- 教育に関する方法や技術について、実際の授業を想定しながら考察する。特に、ICTの活用を通して、ひとりひとりの生徒にとって最も必要となる学習活動の成立とともに、協働的に学び合う学習形態の工夫に関する指導場面を具体的に考察する。
- 教育は、社会全体形成に関わる領域である。この講義では、情報通信技術の開発と向上を含んだ社会の変化を幅広くとらえつつ、学校教育における教育活動の成立に迫る。
- 将来教師として、学校に勤務することを想定しながら、実際の生徒との関係を考察する。特にこれからの時代において必要となる情報モラルの指導とともに教師としてICTを活用した教育活動及び、校務分掌の実務が展開できる力を養う。

### 授業の到達目標

- 教師として、生徒たちの学習を組織することについての理解を深める。その際、生徒が個として最も適切な学習をすることと同時に、仲間とともに協力し合いながら集団として学ぶことの意義を理解する。
- 学校教育における授業において、生徒の思考活動をつくることについて理解する。考えるためには、認識と表現の円環的な関係づくりが必要であることを理解し、ICTの活用を通して児童生徒の学習活動を成立させる手法を理解する。
- 教師として教材を解釈したり、教科を横断的に学習指導する力が必要である。デジタル教材の活用、ICT機器・システムの活用を含めて、教材と教師、生徒の関係を理解する。

### 授業計画

- 【第1回】 ガイダンス、教育方法論の課題—DXと教育改革（ICTによる校務分掌の工夫と改善）—
- 【第2回】 授業づくりとは—GIGAスクールとこれからの授業づくり—
- 【第3回】 教育の方法・技術とは—チーム学校とDX—
- 【第4回】 子どもに求められる資質・能力—情報活用能力の形成—
- 【第5回】 子どもへの学びと授業—ICTの活用による個別最適化の実現—
- 【第6回】 授業の構想・計画と教材研究—教科・領域の架け橋—
- 【第7回】 授業の展開と探究型学習—協働的学習の成立—
- 【第8回】 学習評価の意味と方法—パフォーマンス課題の創造とルーブリックの活用—
- 【第9回】 授業研究と授業づくり—授業カンファレンスにおけるデジタル機器の活用—
- 【第10回】 教材づくり・教材研究と授業づくり—ICTの活用

- 【第11回】 学習指導案と授業実践—デジタル教材の活用と指導過程の創造—
- 【第12回】 ICTを活用した授業づくり—ユニバーサルデザインとICT、特別な教育ニーズに応じた授業の創造—
- 【第13回】 授業づくりを通じた教師教育の可能性—双方向通信の特性を活かす—
- 【第14回】 これからの時代の授業づくり—デジタルポートフォリオによる指導と評価の一体化—
- 【第15回】 まとめ：講義全体を省察し、学修内容を整理する—教師の働き方改革とDX（校務分掌におけるICTの活用）—  
※新型コロナウイルス感染症の拡大等に備え、すべてリモート形式、ライブ配信に対応させたハイブリット型の講義展開である。  
※各回は、グループ発表を基盤とし、リモート形式で受講する受講生と対面受講する学生が協働的に学修できるようノートPC・タブレット端末を用意すること。

### 授業時間外の学習

- 【授業前学修】 テキスト（大学教科書）の該当箇所（講義回数とテキストの章が対応している）を読み、疑問点を整理し、ノートづくりを行う（90分）。グループ発表は、ライブ配信、リモート形式などを活用し、双方向通信による発表に対応すること。
- 【授業後学修】 講義内容を振り返り、予めたてた疑問点をさらに追究し、学修内容を深める（90分）。

### 教科書・参考書等

- 【教科書】 狩野浩二『教育の方法・技術 新しい時代の授業づくりに向けて』ジタイ社。その他プリント等は教室で配付する。
- 【参考書】 斎藤喜博『授業』国土社、横須賀薫『授業研究用語辞典』教育出版

### 成績評価

- 成績評価については、提出課題・口頭発表等80%、受講姿勢20%の配分で総合的に評価する。
- S 総点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、課題未提出・未発表、受講姿勢に課題があるもの）。

科目名 生徒指導（進路指導含む）

授業形態 講義

対象 教職1年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 由美子

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

生徒指導に必要となる、適性や偏差値の基礎知識を基に、教師としての取り組み姿勢を検討する。また、学級運営や生活指導、保護者との関わりについても検討する。

### 授業の到達目標

指導のあり方について、教職課程で学んだことを基礎として、自分なりの取り組み姿勢を構築する意志を持つことができる。

### 授業計画

- オリエンテーション：授業計画・受講で求められる姿勢について説明する。非対面授業になった場合の説明も行う。
- 人間関係と問題解決①交流分析によるコミュニケーション・スタイル：教師・生徒それぞれの人間関係のあり方について考える視点を養う。
- 人間関係と問題解決②円滑なコミュニケーション：意志のすれ違いが発生した際の取り組みについて考える。
- 人間関係と問題解決③発達に応じた指導と学級運営について、心理学の知識を参考に検討する。
- 進路指導と偏差値：偏差値の意味を理解し、生徒の志望を尊重した指導について考える。
- 職業選択と適性①適性検査として利用される内田クレバリン検査を体験し、進路適性や行動特性をいかに進路選択に生かすか、検討する基礎力を養う。
- 職業選択と適性②就職希望・進学希望の双方に重要な、適性と本人の希望をいかに捉え、指導するかについて考える。
- 保護者との関係①事例から保護者との信頼関係の構築をはじめとした教師の課題について考える。
- 保護者との関係②ロールプレイ：教師役、保護者役を演じながら、現場での対応の基礎力を養う。
- アサーション・トレーニング①アサーション権と非合理的思い込み：精神衛生の観点から教師自身、また生徒のアサーションについて考える。

- アサーション・トレーニング②DESC法：アサーティブな態度について理解を深め、生徒指導に生かすことを検討する。
- 集団の意志決定：個々の価値観による判断の食い違いを、いかに集団の決定として統合するか、演習体験を通して検討する。
- 体罰問題と部活：①生活指導や部活でしばしば問題視される体罰と暴力について考察する。②部活の顧問や指導について考察する。
- 安全管理：学習環境における生徒の安全確保について、多動への対応も絡めて考察する。
- 自由討論と補足：受講生が意見交換をしたいトピックスや、学習を深めるうちに出てきた疑問点について討論する。

### 授業時間外の学習

自分の目標とする教師像や人間像を実現することを念頭に、授業で扱ったテーマについて、自分の考えを可能な限り具体的にノートなどに記してみよう。実践には多少の補習が必要になるかもしれない。ただ頭の中で考えるだけでなく、文章に表わすことにより、追究のあいまいな部分が明らかになるので、更に具体的に考える習慣を身につける助けとなるであろう。

### 教科書・参考書等

- 江川政成編著「教育相談—その理論と方法—」学芸図書
- 平木典子著「アサーション・トレーニング」日本・精神技術研究所

### 成績評価

- 期末の論述試験と受講態度による。論述試験の評価をS：100点、A：90点、B：80点、C：70点、D：50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。
- S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識をもって実践的に考察できる。
- A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。
- B 授業で扱ったテーマについて充分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。
- C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。
- D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 教育相談

授業形態 講義

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 安富 由美子

実務経験 一

期間 前期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

生徒と関わる上で重要な要件である教育相談の役割を理解する。事例を通して教育相談に必要な知識と技術を身につける。講義とともに演習が加わるため、積極的に参加する意志が求められる。

### 授業の到達目標

自身の人間観を深めるとともに、教育相談の実践力につながる基礎力を身につけることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション：授業計画・求められる学習姿勢について説明する。非対面授業になった場合の説明も行う。
2. 来談者中心療法と聴く技術について理解する。
3. 発達過程と様々な適応問題との関係について考察する。
4. ロールプレイ：教師役、生徒役を演じて教育相談での即応性を養う。
5. ノンバーバル・コミュニケーション①コミュニケーションにおける役割：ノンバーバル行動の影響について理解しコミュニケーションへの生かし方について考える。
6. ノンバーバル・コミュニケーション②演習：事例における問題点と解決策の検討。
7. 心因による障害：心理・社会的な原因による適応問題の構造・指導の見通しのつけかたについて理解する。
8. 器質因、内因による障害：専門性の高い適応上の問題について理解し、指導上の適切な判断のしかたについて理解する。
9. 情緒障害の子供と教師：ビデオ利用により、情緒障害の具体的な行動特徴をつかみ、対応のヒントを得る。
10. 教師の精神衛生：自身の精神衛生管理と同僚への配慮について考察する。
11. インターネットの影響およびいじめ：一例一例が異なる現場での対応力を養うために、先ずは事例を挙げながら生徒支援について検討する。
12. イギリスの学校改革に学ぶ：ビデオ利用：劣悪ともいえる学校環

境が改革された過程について視聴し、自分の現場でどのように応用できるかについて考える。

13. 実習での課題：実習を済ませた受講生の報告から、更に改善するためにできることについて検討し合う。
14. 課外活動の意義と留意点：普段と異なる環境で学習する際の特徴を多角的に捉え、環境を生かした安全な学習計画が立てられる検討力を養う。
15. 補足と自由討論

### 授業時間外の学習

心理学概論や精神医学も理解の助けになる。

また、普段から学校関連のニュースに注目し、自分が当事者や関係者だったら、どんな対応ができるか考察する習慣をつけると、実践力を鍛えることになろう。

### 教科書・参考書等

江川政成編著「教育相談—その理論と方法—」学芸図書  
春木豊編著「心理臨床のノンバーバル・コミュニケーション」川島書店  
山下格著「精神医学ハンドブック」日本評論社  
レニエ他著「インタープリテーション入門」小学館

### 成績評価

期末の論述試験と受講態度による。

論述試験の評価をS：100点、A：90点、B：80点、C：70点、D：50点として、出席率をパーセンテージ換算した数値との平均を総合評価とする。試験の評価基準は以下の通り。

- S 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、課題意識をもって実践的に考察できる。
- A 授業で扱ったテーマについて十分に理解し、自分の考えを明確に伝えることができる。
- B 授業で扱ったテーマについて充分理解しているか、または自分の考えを明確に伝えることができる。
- C 授業で扱ったテーマについて概ね理解しており、自分の考えを伝える努力が認められる。
- D 授業で扱ったテーマについて理解が不十分であるか、または自分の考えを示していない。

科目名 教育実習Ⅰ

授業形態 実習

対象 教職1年

単位数 Ⅱと併せて5

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

実務経験 一

期間 通年

他専攻 /

○

### 履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志をもつ者。  
「教育実習Ⅱ」必修。

### 授業の概要

〈教育実習〉とは、文字どおり、指導教員の指導のもと中学校で行う実習（3週間から4週間）そのものをいい、この授業はその実習をより有意義に行うための事前指導が中心となる。教職課程履修にあたっての心構え、実習までに身につけておくべきこと、実習までに必要な諸手続きなど、より具体的な内容および課題を取り上げる。

### 授業の到達目標

- ・教育実習の意義を理解できる。
- ・教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備することができる。

### 授業計画

1. 教職課程履修の心構え
2. 実習校について①
3. 実習校について②
4. 介護等体験オリエンテーション
5. 教育実習の実際①
6. 教育実習の実際②
7. 教育実習の実際③
8. 教育実習の実際④

9. 教育実習の実際⑤
10. 教育実習報告①
11. 教育実習報告②
12. 介護等体験の実際①
13. 介護等体験の実際②
14. 介護等体験報告①
15. 介護等体験報告②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

資料配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習校評価50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教育実習Ⅱ

授業形態 実習

対象 教職2年

単位数 1と併せて5

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 通年

他専攻 /

○

### 履修条件

将来、音楽教員を目指す強い希望と意志をもつ者。  
「教育実習Ⅰ」必修。

### 授業の概要

〈教育実習〉とは、文字どおり、指導教員の指導のもと中学校で行う実習（3週間から4週間）そのものをいい、この授業は実習直前の具体的な準備と、さらに実習後、卒業までの具体的な課題を意識し、将来に備えるための事前および事後指導が中心となる。

### 授業の到達目標

- (1) 教育実習の意義を理解できる。
- (2) 教育実習に必要なそれぞれの課題を意識し、十分に準備ができる。
- (3) 教育実習後の課題を認識し、必要な知識および技術を身につけることができる。

### 授業計画

1. 諸手続きについて①
2. 教育実習の実際①
3. 教育実習の実際②
4. 教育実習の実際③
5. 教育実習の実際④
6. 教育実習の実際⑤
7. 教育実習の実際⑥
8. 教育実習の実際⑦

9. 教育実習の実際⑧
10. 教育実習の実際⑨
11. 教育実習の実際⑩
12. 教育実習報告①
13. 教育実習報告②
14. 教育実習報告③
15. 諸手続きについて②

### 授業時間外の学習

授業時に適宜指示する。

### 教科書・参考書等

資料配布。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・実習校評価50%の配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、実習への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、実習への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、実習への取り組み、受講態度などに問題がある者）。

科目名 教職実践演習（中学校）

授業形態 実習

対象 教職2年

単位数 2

キャップ制  
対象外

担当教員 永井 由比・柏原 佳奈

実務経験 ー

期間 後期

他専攻 /

○

### 履修条件

教職課程受講者必修。

### 授業の概要

2年間で学んだ学問としての教育に関する知識と、教育実習や介護等体験において学んだ実践力の更なる統合を目指し、これまでの学習成果をもとに、教員としての資質の構築をより深く具体化するための授業である。

授業の形態としては、講義や事例研究、ロールプレイング、現職教員をゲストスピーカーとしたフィールドワーク等を行うものとする。

### 授業の到達目標

- 教員として求められる基本的な資質として以下の4つのテーマを定め、到達目標とする。
- ・教育に対しての使命感や責任感及び児童・生徒への教育的愛情を持つことができる。
  - ・社会性及び人とのコミュニケーション能力を身につけることができる。
  - ・児童・生徒との間に信頼関係を築き、規律ある学級経営を行うことができる。
  - ・教科内容を理解し、児童・生徒の反応や学習状況に応じた指導ができる。

### 授業計画

1. 導入（本演習の目的と概要の説明、授業担当者紹介）
2. 教育実習における実体験をもとに、事例研究・集団討議
3. 講義「教職の意義・教師の職務や役割について」
4. 他教職員・生徒・保護者・社会と教師との繋がりについて事例研究・ロールプレイング
5. 自校教育について
6. 言語技術教育について
7. 高大接続について

8. 郊外活動・学習について
9. 教育現場で起こりうる様々な問題（家庭内の問題、学級内いじめ、不登校等）への対応について事例研究・ロールプレイング
10. 連携先の学校の授業見学、模擬授業、現職教員と意見交換等
11. 多文化社会における学校教育
12. クラブ活動の指導体験
13. ティーチングとコーチングについて
14. 特別支援学級の運営や課題について事例研究・集団討議
15. 総括

### 授業時間外の学習

授業で取り上げる課題・事例について理解を深めておくこと。

### 教科書・参考書等

テキスト：各回で必要なプリント等を配布する。  
参考書：必要に応じて紹介する。

### 成績評価

成績評価については、授業への取り組み50%・レポート50%配分で総合的に評価する。

- S 総合点が90点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確かつ秀でた者）。
- A 総合点が80点以上の者（授業内容を十分に理解し、課題への取り組みが的確だった者）。
- B 総合点が60点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが良好だった者）。
- C 総合点が50点以上の者（授業内容の理解、課題への取り組みが不十分だった者）。
- D 総合点が49点以下の者（授業内容を理解しなかった者、レポート未提出者、授業への取り組み、受講態度などに問題がある者）。



課・係 名		開設時間	取扱業務（主なもの）
女子部門事務局	総合受付	8:15～16:30 土曜日は、 8:15～12:40	1. 学園全体の受付・案内等のインフォメーション 2. 学園案内・募集要項・桐朋教育等の頒布
	経理窓口	8:15～15:00 (11:30～13:00を除く) 土曜日は、 8:15～12:00	1. 授業料等に関すること 2. 学生会・自治会の出納・経理に関すること
	総務課	8:15～16:30 土曜日は、 8:15～12:40	1. 学内備品の使用に関すること 2. 火気使用等の保安に関すること
*事務局で行う以外の事務は、短大教学課及び各専攻研究室で行う。			
短大教学課	窓口	8:30～16:20 土曜日は、 8:30～12:30	1. 学生証、学割等の発行に関すること 2. 証明書等の交付に関すること 3. 一般教室等の使用に関すること
	教務		1. 授業（試験を含む）・履修・成績・卒業等に関すること 2. 学籍に関すること 3. 教育職員免許状に関すること
	学生		1. 入学式・卒業式・桐朋祭等諸行事に関すること 2. 学生生活、学生生活、奨学金に関すること 3. 保安に関すること
進路相談室		火曜日・木曜日 13:00～17:00 (原則予約制)	1. 就職や進学に関する支援
本学には、音楽専攻・演劇専攻それぞれに研究室がある。			
研究室	各専攻共通の業務		1. 学生と教員間の諸連絡 2. 授業の準備、教材・教具の保管管理 3. 学生ロッカーの管理
	音楽専攻	8:30～16:30 土曜日は、 8:30～12:30	1. レッスン室使用に関すること 2. 演奏会等に関すること
	演劇専攻		1. 小劇場・実習室の使用に関すること
短大図書館		10:00～18:30 土曜日は、 10:00～15:00	P.36参照
保健室		8:15～16:30 土曜日は、 8:15～12:40 ただし、 不在の場合もある。	1. 定期健康診断 2. 健康相談 3. 救急処置 4. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険の手続に関すること 5. スクールカウンセラーの面談の申込み
桐朋教育研究所		9:00～16:30	P.36参照



<4月>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

<5月>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

<6月>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

<7月>

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

<8月>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

<9月>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

<10月>

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

<11月>

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

<12月>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

<1月>

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

<2月>

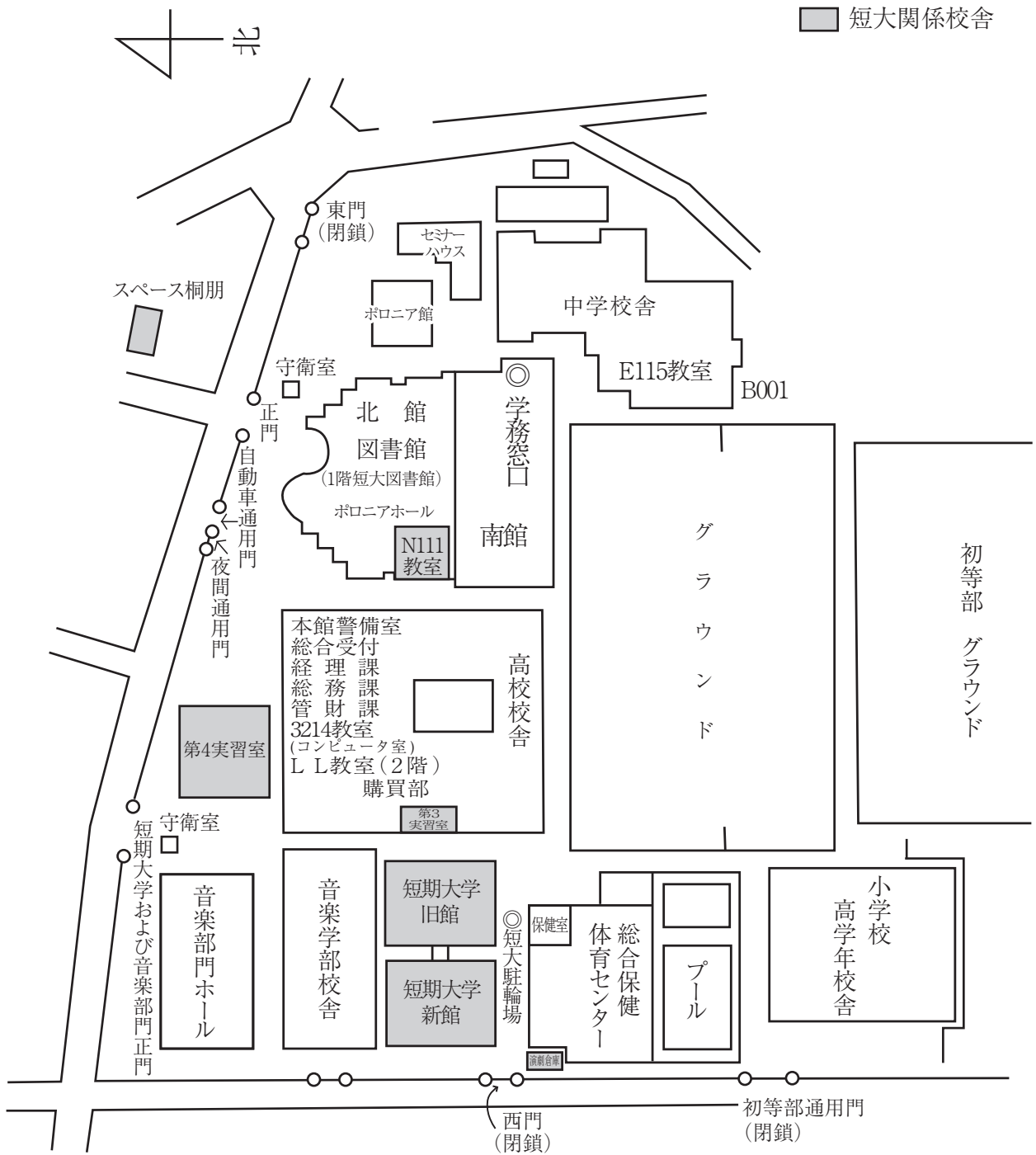
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

<3月>

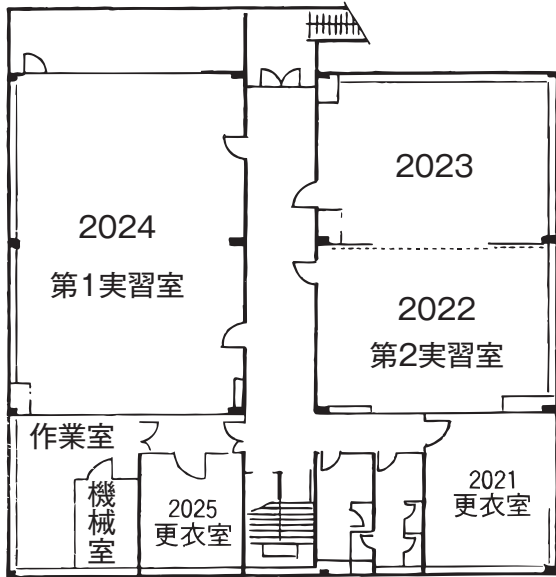
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

通常開館 10:00~18:30 月~金  
 通常開館 10:00~15:00 土  
 休館

短縮開館 10:00~16:00  
 短縮開館 10:00~17:00  
 8月オープンキャンパス 時間未定



地下2階



(新館)

教室番号の読み方

4桁……建物番号を示す

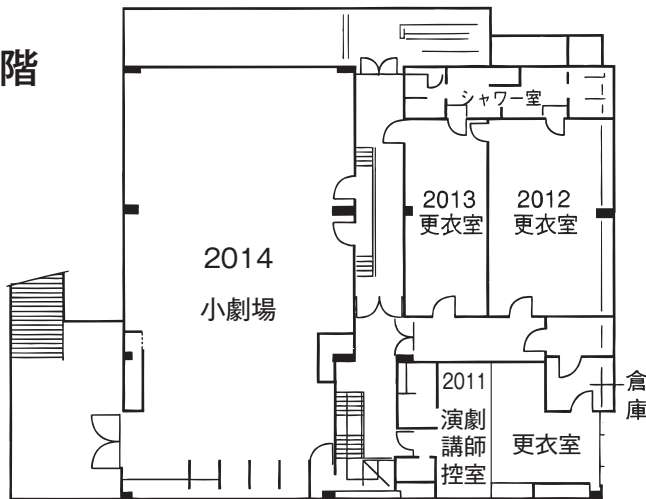
3桁……階数を示す (0は地下を示す)

1桁・2桁……教室番号を示す

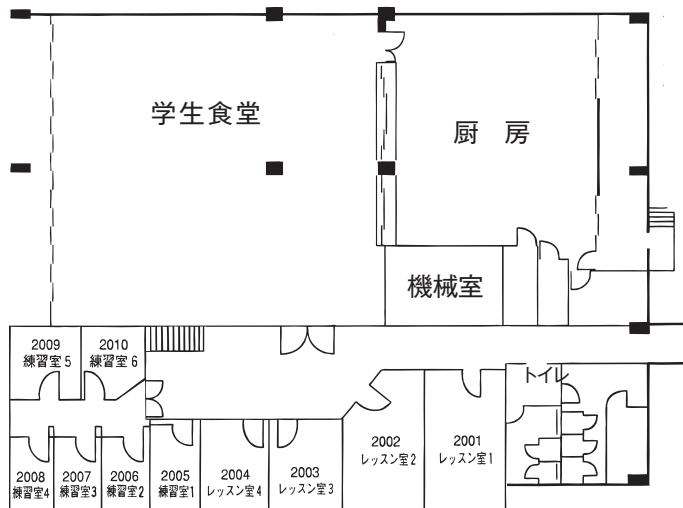
(例) 2014

2号館, 地下, 14番教室 (小劇場)

地下1階

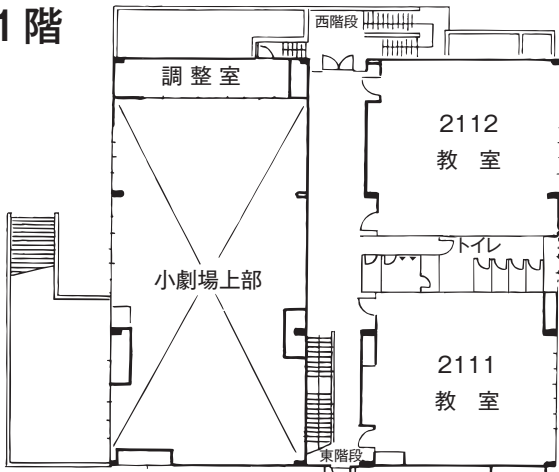


(新館)

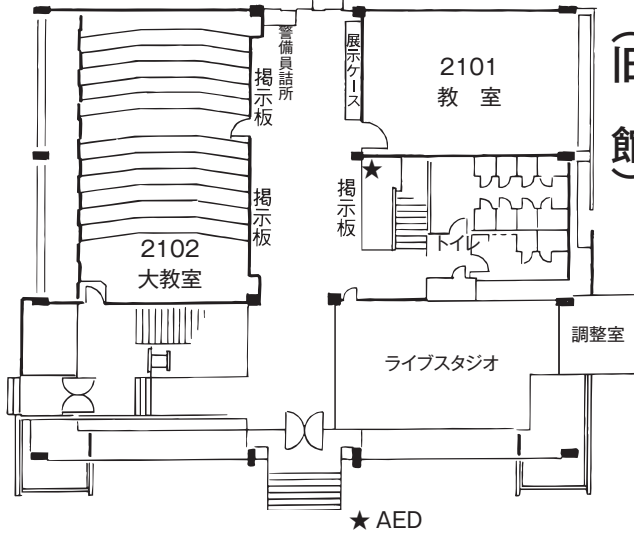


(旧館)

1階

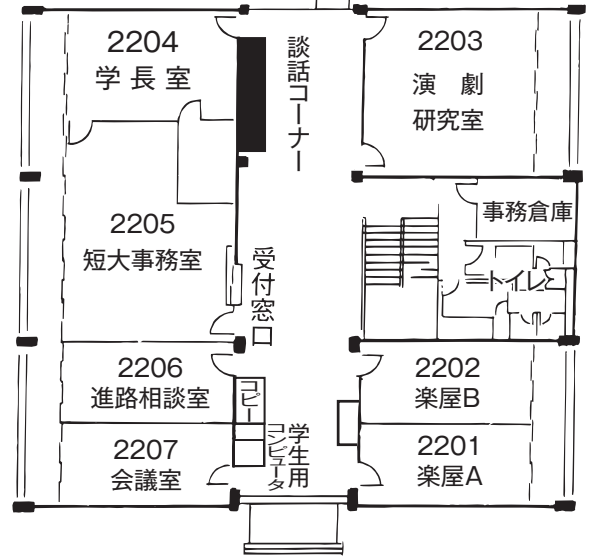
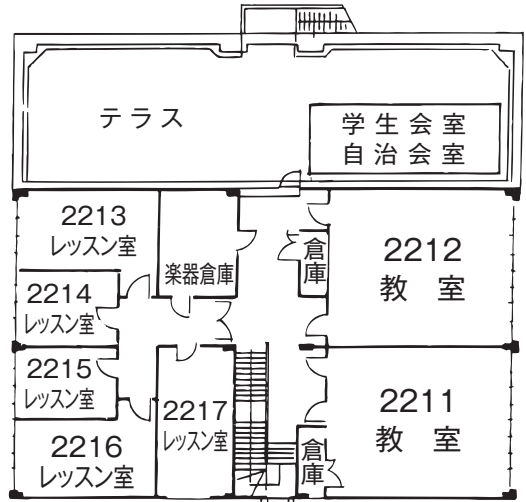


(新館)

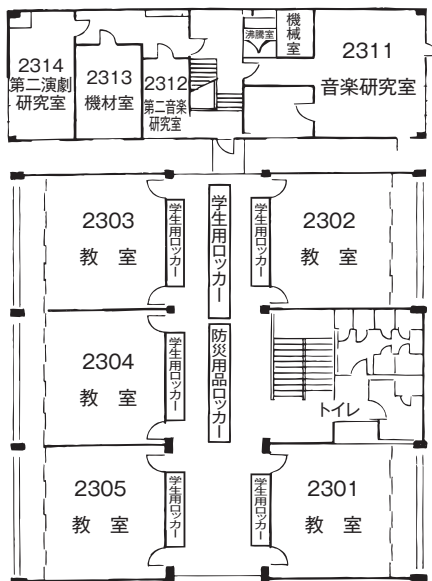


(旧館)

2階



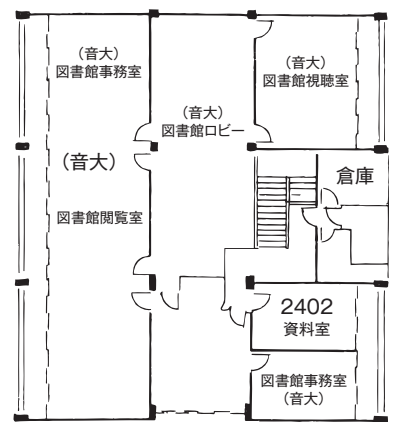
3階



(新館)

(旧館)

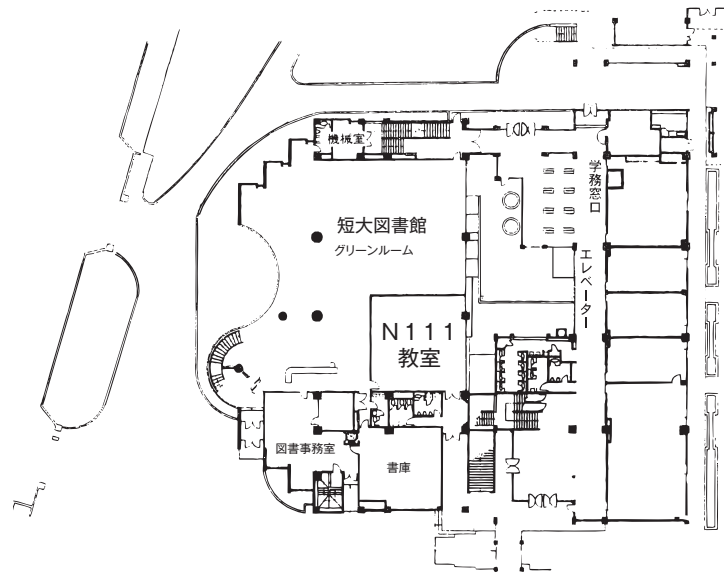
4階



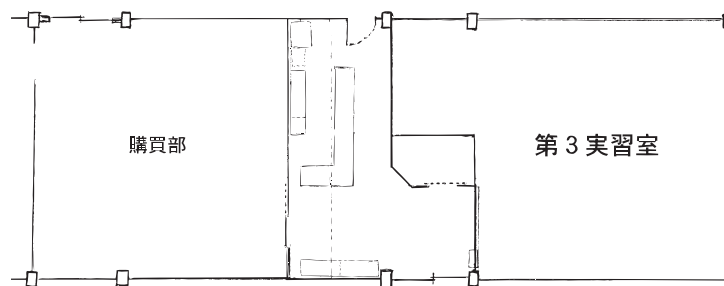
(旧館)



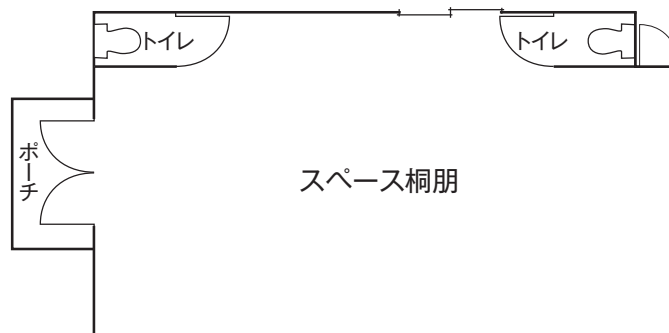
### 北館 1階



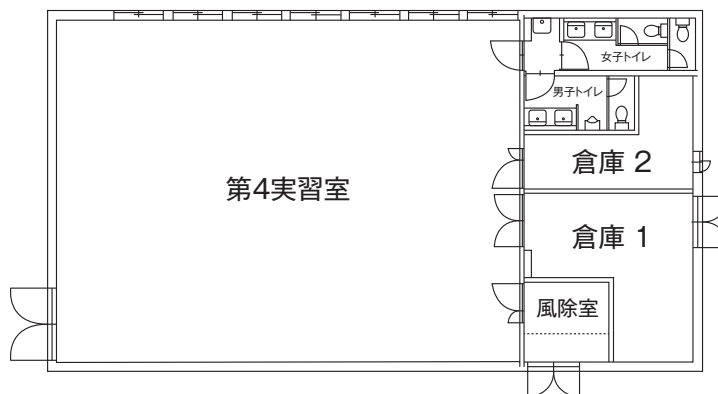
### 本館 1階



### 別棟



### 別棟



## 1 非常事態発見の時

キャンパス内で、火災、急病者等の非常事態に遭遇したり、発見した学生は、速やかに近くにいる教職員に通報し指示を受けること。また、教職員のいない夜間や休業中の時は、短大夜間警備員または本館警備員に連絡し、指示を受けること。

- (1) 急病者、けが人、不審者等を発見した時
  - ・すぐに教職員、警備員に通報し指示を受けること。
  - ・急病者の搬送等の要請にはできるだけ協力すること。
  - ・AED（自動体外式除細動器）が、短大旧館1階ロビー（2101教室前）に備え付けてあります。
- (2) 火災を発見した時
  - ・すぐに教職員、警備員に通報し、初期消火にできるだけ協力をすること。
  - ・避難は、教職員等の指示に従って行動すること。なお、巡回、救出作業等、危険の及ばない限り協力すること。
- (3) 地震発生時
  - ・地震が起きた時、すぐに外に飛び出すことは危険である。机の下などに身を伏せ、しばらく様子を見ること。
  - ・ドアや窓を開放し、非常脱出口を確保すること。
  - ・火の始末をすること。もし、火が出たら、教職員、警備員に通報し、初期消火にできるだけ協力すること。
  - ・緊急放送や教職員等の指示に従い、建物から離れた避難場所（グラウンド等）に集合すること。
  - ・巡回、救出作業等、危険の及ばない限り協力すること。
  - ・帰宅は学園の指示に従うこと。

## 台風・大雪等の悪天候による交通機関の乱れ、また大地震における対応

**1** 原則として前日の17時00分までに、翌日の対応等について安否確認システム、ホームページより連絡する。

**2** 大地震時における対応・連絡については状況に応じて判断し、安否確認システム、ホームページより対応を連絡する。

**3** 安否確認システムには、右記QRコードまたは本学ホームページからもアクセス可能。ログイン・登録方法等の詳細については、ガイダンス配付資料を参照すること。



Tempo di Marcia

石 森 延 男 作 詞  
入 野 義 朗 作 曲



1. こ ころ の し る し こ む ら - さ - き ゆ た か に  
2. と う と き い の ち ま も り - つ - つ し ん り の  
3. つ ゆ く さ し げ る む さ し - の - の ひ か り に



に お う き り の - は な き ぼ う は は る - か お お - ら か  
せ か い あ こ が - る る わ れ ら は わ か - し す が - す が  
ま な こ あ ら わ - れ て は る か に あ お - ぐ ふ じ - さ ん



に は ば た く つ ば さ た く - ま し く -  
し う た わ ん い ざ や よ ろ - こ び を - } く も よ  
は し た し く よ べ り こ の - あ さ も - }



な が れ よ わ - が と も よ - も の み な こ こ に ひ び - き あ -



い と う ほう が く えん さ ち - あ ふ - る

学 園 歌

第 一 章

心しるしの象徴こむらさき、  
ゆたかに匂ふ桐の花、  
希望ははるかおほらかに、  
はばたく翼たくましく。

(くり返し)

雲よ、流れよ、わが友よ、  
ものみなここに響きあひ、  
桐朋学園幸あふる。

第 二 章

尊いのちき生命守りつつ、  
真理の世界あこがるる、  
われらは若しすがすがし、  
歌わんいざや飲びを。

第 三 章

露草茂るむさしのの、  
光まなこに眼洗はれて、  
はるかに仰ぐ富士山は  
親しく呼べり、この朝も。

2022年（令和4年）4月1日 印刷  
2022年（令和4年）4月1日 発行

発 行 者

桐朋学園芸術短期大学

東京都調布市若葉町1-41-1  
tel. (3300) 2111（代表）  
fax. (3300) 4253  
<https://college.toho.ac.jp/>



